

函館市

# 中野 B 遺跡 (II)

— 函館空港拡張整備工事用地内埋蔵文化財発掘調査報告書 —

## 第 1 分冊

- I 遺跡の概要
- II 遺跡の位置と環境
- III 遺構と遺構出土の遺物  
(平成 5 年度北調査区)

平成 5 ・ 6 年度

財団法人 北海道埋蔵文化財センター

頁	行	誤	正
報告書抄録	主な遺構	堅穴住居跡	堅穴住居跡
報告書抄録	特記事項	たたき	たたき石
例言	31	奈良国立埋蔵文化財研究所	奈良国立文化財研究所
例言	12	国立歴史民族学博物館	国立歴史民俗博物館
13	32	(長:幅が1:3未満)	(長:幅が1:3以上)
17	表Ⅰ-2	TP-T	Tピット
18、19	表Ⅰ-3.5	堅穴住居跡	堅穴住居跡
61	20	焼土12カ所	焼土11カ所
61	22	銭亀宮の川左段丘上	銭亀宮の川左岸段丘上
82	図Ⅲ-16 1	床面	床直上
〃	〃 5	床直上	床面
〃	〃 12	床直上	覆土3層
〃	〃 13	覆土3層	床面
123	7	先行して綾部は	先行して綾部は
132	図Ⅲ-67 4	床直上	床面
144	5	4.27m/4.40m×	4.40m/4.27m× ※20頁表Ⅰ-7 H-185も同じ
164	6	綾部に見られる(宗像)。	綾部に見られる(宗像)。
187	図Ⅲ-126	H-214	H-219
188	18~19	I群D2類土器1点、同E類土器1点、	I群D2類土器2点、
205	6	34-35	39-35
207	図Ⅲ-150	H-16	H-161
210	5	H-231の北西壁面	H-231の北東壁面、
215	図Ⅲ-158	H-226	H-225
231	6	(4.00m)/2.90m×2.55m	(4.00m)/(3.90m)×2.90m /2.55m※21頁表Ⅰ-7 H-248も同じ
234	15、23	H-244・266・、H-260と	H-244・261・、H-261と
247	21	綾部・	綾部・
254	18	綾部の	綾部の
269	8	H-264・267・269・257・	H-264・267・269・278
276	図Ⅲ-224	(土層図の) H-251	H-241
295	5	H-159・285・	H-159・219・285・
303	6	HP-17・19	HP-18・20
306	6	これらより古い	H-305より古い
327	6	これらより古い	H-295より新しく、他より古い
339	5	H-310	H-301
343	17	H-329・332・	H-330・332・
345	9	H-310	H-301
346	4	H-310	H-332
354	2	56-65 57-66	56-66 57-66
361	図Ⅲ-306 2	覆土3層	Ⅲ層
363	図Ⅲ-308	床直上	墳底直上
374	34	Ⅳ層上面で	Ⅴ層上面で
378	図Ⅲ-327 1	覆土1層	墳底直下
379	1	土壇を	土壇を

頁	行	誤	正
379	16	N-5	N-S
380	3	H-86と…、これより新しい。	H-186と…、これより古い。
〃	13	11-30'-W	N-30'-W
413	表Ⅲ-1	下-5	F-5
挿図目次	図Ⅳ-137	P-77出土遺物	P-94出土遺物
挿図目次	図Ⅳ-141	P-94出土遺物	P-77出土遺物
470	14	×(3.00m)/(32.30m)×	×(3.00m)/(2.30m)×
479	図Ⅳ-57	H-382	H-384
486	図Ⅳ-64	(土器拓影図の) 1 覆土2層	覆土1層
490	10~11	H-391、P-94・168より古く、 H-391より	これらより
493	13	P-61	T-61
496	図Ⅳ-74	(土器拓影図の) 1 覆土1層	I層
〃	〃	〃 2 覆土1層	Ⅲ層
498	30	I群D1類土器が	I群D2類土器が
502	16	N-70'-E	N-70'-W ※25頁表Ⅰ-8 H-392も同じ
508	2	61-50・51 61-50・51	61-50・51 62-50・51
517	8	H-309	H-390
〃	15	土器78点	土器87点
522	図Ⅳ-99	(土器拓影図の) 1 覆土2層	覆土1層
〃	〃	(石器実測図の) 1 床面下	床面
537	図Ⅳ-112 1	覆土1層	覆土下層
542	15	H-420より	H-442より
554	12	10個は窓際から	10個は壁際から
564	11、14	(図Ⅳ-137	(図Ⅳ-141
〃	図Ⅳ-137	P-77出土遺物	P-94出土遺物
〃	図Ⅳ-137	(土器拓影図の) 1	2
〃	〃	〃 2	1
568	8、12	(図Ⅳ-141	(図Ⅳ-137
〃	図Ⅳ-141	P-94出土遺物	P-77出土遺物
571	11	×3.36m/2.08m×	×2.36m/2.08m×
584	22	0.86m/10.66m×	0.86m/0.66m×
589	12	1~3	1~11
642	13	N-48'-W	N-48'-E ※25頁表Ⅰ-8 H-407も同じ
〃	19	北東壁が13cm~	北西壁が13cm~
646	3~4	P-20の北西、…確認した。	※削除する。
660	19	(1)B地区の	(1)B'地区の
675	23	断面的な	断片的な
778	4	行っている1・2・3)。	行っている。1・2・3)
785	16	これち軟玉と	これら軟玉と



報告書抄録

ふ り が な		なかのびーいせき						
書 名		中野B遺跡						
副 書 名		函館空港拡張整備工事用地内埋蔵文化財発掘調査報告書						
巻 次								
シ リ ー ズ 名		北海道埋蔵文化財センター調査報告書						
シ リ ー ズ 番号		第108集						
編 著 者 名		高橋和樹・和泉田毅・遠藤香澄・佐川俊一・花岡正光・谷島由貴・熊谷仁志・森秀之・山原敏朗・村田大・倉橋直孝・宗像公司						
編 集 機 関		財団法人 北海道埋蔵文化財センター						
所 在 地		〒064 北海道札幌市中央区南26条西11丁目 TEL011-561-3131						
発 行 年 月 日		西暦 1996年10月31日						
ふりがな 所収遺跡名	ふ り が な 所 在 地	コ ー ド		北緯	東経	調査期間	調査面積 ㎡	調査原因
		市町村	遺跡番号					
なかのびーいせき 中野B遺跡	はこだてしなかのちょう 函館市中野町 98-1ほか	01202	B-01-39	41° 45′ 55″	140° 50′ 39″	19930420～ 19940325  19940420～ 19950325	7,530  28,400	函館空港拡張整備工事に伴う事前調査
所収遺跡名	種 別	主な時代	主 な 遺 構		主 な 遺 物		特 記 事 項	
中野B遺跡	集落跡	縄文時代 早期中葉	堅穴住居跡 273軒 土 墳 170基 焼 土 11ヵ所		縄文土器 物見台式 住吉町下層式 根崎式 ムシリI式 石器 石鏃、石槍、石錐、 石匙、石皿、すり石、 たたき石、石斧、砥石、石錘 土・石製品 土器片錘		縄文時代早期中葉(物見台式、住吉町下層式、根崎式、ムシリI式土器を伴う時期)の集落跡で、多数の住居跡が重複している。またフラスコ状ピットも多く発見されている。石皿、すり石、たたき、石錘などの礫石器、特に石錘が多量に出土している。	
		縄文時代	Tピット 125基					

函館市

# 中野 B 遺跡 (II)

— 函館空港拡張整備工事用地内埋蔵文化財発掘調査報告書 —

## 第 1 分冊

- I 遺跡の概要
- II 遺跡の位置と環境
- III 遺構と遺構出土の遺物  
(平成 5 年度北調査区)

平成 5 ・ 6 年度

財団法人 北海道埋蔵文化財センター





遺跡全景(平成5年度北 E→W)





竪穴住居跡群(平成5年度北)





作業風景(平成5年度北 E→W)



縄文時代早期Ⅰ群D1類の土器(平成5年度北)





石器(平成 5 年度北) (上H-170・下H-180)

## 例 言

1. 本書は、平成5年度北・平成6年度に函館空港拡張整備工事用地において、財団法人北海道埋蔵文化財センターが発掘調査を実施した函館市中野B遺跡の埋蔵文化財発掘調査報告書である。
2. 調査および報告書の作成は、調査部調査4課が行った。中野B遺跡の発掘調査は平成4年度からの継続事業であり、竪穴住居跡や土壌、Tピット、焼土などの遺構番号は基本的に平成4年度からの連番である。
3. 遺構のうち竪穴住居跡、土壌の原稿執筆は、調査を担当した調査員がそれぞれ事実記載を執筆し、各遺構の文末に文責者名を記している。Tピット、焼土については和泉田毅が、遺構・包含層出土の土器については森秀之が、石器については宗像会社が分担、執筆した。そのほかの各章・節の担当は以下のとおりである。  
I：1～4(1)・(2)、5(1)、6(1)・(2)、II：1、VI～和泉田毅 I：4(3)i)、5(2)i)、V：1、VI～森秀之 I：4(3)ii)、5(2)ii)、V：2、VI～宗像公司 II：2・3～花岡正光。
4. 遺構図は、調査を担当した調査員がそれぞれ整理、第2原図作成したものを、山下かず子・渡部久美子・岡崎ゆかり・細田美佳子・柳谷りさ・佐々木由紀子・平村葉子・和泉田毅がトレースなどを行い、佐川俊一・和泉田毅が遺構図版の取りまとめを行った。
5. 土器の接合、復元、拓本には、主に手嶋敦子・田川幸子・澤田直美・山木良子・高橋慶子・種市伊津子・鳴海ゆり子・前川紀子が従事し、土器の実測・トレースは、主に山下かず子・佐々木由紀子・種市幸紀が行い、これらの作業を熊谷仁志・森秀之が統括した。
6. 石器の接合、計測、集計等には、主に服部たえ子・千田照子・波多野にな子が従事し、石器の実測・トレースは渡部久美子・岡崎ゆかり・細田美佳子・柳谷りさが行い、これらの作業を山原敏朗・宗像会社が統括した。
7. 遺物分布接合図、遺物・遺構図版、集計表等の整理、作成には、貝田和子・大坂篤美・尾美里子・石澤一恵・田中美佐が従事し、谷島由貴・倉橋直孝・和泉田毅が統括した。
8. 現地の写真撮影は調査を担当した調査員が行い、遺物の写真撮影は村田大・愛場和人・柳瀬由佳が行った。写真台帳・アルバム整理、写真図版の作成は、主に尾美里子が従事した。
9. フローテーション試料の大まかな選別作業には、石澤一恵・田中美佐が従事した。
10. VII章の各種分析・同定については、次の方々に執筆を依頼した。  
山田 治(京都産業大学理学部)、薬科 哲男(京都大学原子炉実験所)、近藤 鍊三(帯広畜産大学土地資源利用学講座)、中野 益男(帯広畜産大学生物資源化学科)。
11. 石材鑑定は、花岡正光が行った。
12. 調査にあたっては、下記の機関および人々の指導ならびに協力を得た(順不同、敬称略)。

文化庁、奈良国立埋蔵文化財研究所、北海道教育委員会、函館市教育委員会 田原良信・中村公宣・佐藤智雄・落合治彦・野辺地初雄、市立函館博物館 野村祐一、函館市北方民族資料館 長谷部一弘、七飯町教育委員会 石本省三、上磯町教育委員会 森 靖裕、戸井町教育委員会 古屋敷則雄、南茅部町教育委員会 阿部千春・福田裕二・山口 敦・小林 貢、木古内町教育委員会 鈴木正語・菅野文二・三上英則・大矢内愛史、森町教育委員会 藤田 登、八雲町教育委員会 三浦孝一・柴田信一、知内町教育委員会 高橋豊彦、松前町教育委員会 久保 泰・前田正憲、上ノ国町教育委員会 松崎水穂・斎藤邦典・佐藤一志・柳沼弥生、乙部町教育委員会 森 広樹・仙庭晋一、江差

町教育委員会 藤島一巳、今金町教育委員会 寺崎康史、倶知安町教育委員会 矢吹俊男、余市町教育委員会 宮 宏明、小樽市教育委員会 石川直章、札幌市教育委員会 加藤邦雄・上野秀一・羽賀憲二・仙庭伸久、千歳市教育委員会 大谷敏三・田村俊之・高橋 理・豊田宏良、恵庭市教育委員会 上屋真一・松谷純一、江別市教育委員会 高橋正勝・直井孝一・園部真幸・野中一宏・稲垣和幸、石狩町教育委員会 石橋孝夫・工藤義衛、苫小牧市教育委員会 佐藤一夫・宮夫靖夫・工藤 肇・渡辺俊一・二階堂啓也・鈴木耕栄・赤石慎三、平取町教育委員会 森岡健治、旭川市教育委員会 斎藤 傑・瀬川拓郎・友田哲弘、富良野市教育委員会 杉浦重信、名寄市教育委員会 氏江敏文・鈴木邦輝、稚内市教育委員会 内山真澄、枝幸町教育委員会 佐藤隆広、紋別市教育委員会 佐藤和利、常呂町教育委員会 武田 修、斜里町教育委員会 金盛典夫、羅臼町教育委員会 涌坂周一、美幌博物館 小林 敬・荒生健志、浦幌町教育委員会 後藤秀彦、帯広百年記念館 北沢実・山原敏朗、釧路市立郷土博物館 西 幸隆・松田 猛・石川 朗、北海道開拓記念館 野村 崇・平川善祥・山田悟郎・右代啓視・水島未記、国立歴史民族学博物館 西本豊弘、東京大学常呂研究室 宇田川洋、新美倫子、早稲田大学 金子浩昌、北海道教育大学函館分校 千代 肇、札幌大学 木村英明、札幌医科大学 百々幸雄・大島直行・石田 肇、北海道大学 吉崎昌一・椿坂恭代・大井晴男・菊池俊彦・林 謙作・天野哲也、青森県立郷土館 福田友之、青森県埋蔵文化財調査センター 成田滋彦・三浦圭介・鈴木克彦、三沢市歴史民俗博物館 長尾正義、八戸市教育委員会 小笠原善範、古原敏弘、竹田輝雄、横山英介

(所属は調査時点)

## 凡 例

1. 遺構は、以下の記号によって表記し、原則として発掘調査順に番号を付した。  
H：竪穴住居跡 P：土壇 T：Tピット F：焼土 HF：住居に伴う焼土および炉跡  
HP：住居に伴う小ピットおよび柱穴
2. 遺構図中の方位は真北を示し、レベルは標高(単位m)である。
3. 掲載した実測図等の縮尺は、原則的には以下のとおりであるが、必要に応じてそれぞれにスケールバーを明示してある。  
遺構図：1／40 遺構図中の遺物出土状況図：1／10 土器実測図：1／4 土器拓影図：1／3  
石器実測図～剥片石器・石斧：1／2 礫石器：1／3 土・石製品：1／1
4. 遺構の規模は、以下のように計測値を表示した。  
検出面での長軸長／床(墳底)面での長軸長×検出面での短軸長／床(墳底)面での短軸長×検出面からの最大深(単位m)。また一部壊されているものは現在長および復元推定値を( )で示し、不明の場合は――の記号で表示した。
5. 遺構覆土等における土層の混合状態を表現するため、以下のように表記している場合がある。  
A＋B(A≒B)：AとBがほぼ同量にまじる。A＞B：AにBが少量まじる。  
A＞B：AにBが微量まじる。
6. 出土遺物分布・接合図等では、床面出土の土器は●、剥片石器は▲、礫石器は■、磨製石器は★で、覆土出土の土器は○、剥片石器は△、礫石器は□、磨製石器は☆でそれぞれ表示し、必要に応じて適宜シンボルマークを図示している。また遺構図中のPは土器、Sは石器、Fは剥片石器を示している。



# 分 冊 目 次

## 第1分冊

口絵 1～4 (カラー)

例言・凡例

分冊目次

第1分冊目次

挿図目次・表目次

I 調査の概要	1
1 調査要項	1
2 調査体制	1
3 調査の経緯	1
4 調査の方法	9
5 遺構・遺物の分類	12
6 遺跡の概要	17
II 遺跡の位置と環境	35
1 位置と周辺の遺跡	35
2 地形・地質	38
3 土層	38
III 遺構と遺構出土の遺物 (平成5年度北調査区)	61
1 住居跡	62
2 土壌	361
3 Tピット	399
4 焼土	413

## 第2分冊

口絵 5～8 (カラー)

第2分冊目次

挿図目次・表目次

IV 遺構と遺構出土の遺物 (平成6年度調査区)	415
1 A地区	416
2 B地区	631
3 C地区	636
4 B'地区	660
V 包含層出土の遺物 (平成5年度北・6年度)	675
1 土器	675
2 石器	702

VI まとめ .....729

VII 自然科学的分析 .....777

あとがき .....815

引用・参考文献 .....816

一覧表 .....818

第3分冊  
写真図版

# 第1分冊目次

口絵 1～4 (カラー)

分冊目次

第1分冊目次

挿図目次・表目次

I 調査の概要	1
1 調査要項	1
2 調査体制	1
3 調査の経緯	1
4 調査の方法	9
(1) 調査区の設定	9
(2) 発掘調査の方法	9
(3) 整理の方法	11
i) 土器	11
ii) 石器	11
5 遺構・遺物の分類	12
(1) 遺構	12
(2) 遺物	12
i) 土器	12
ii) 石器	13
6 遺跡の概要	17
(1) 平成5年度北調査区	18
(2) 平成6年度調査区	19
II 遺跡の位置と環境	35
1 位置と周辺の遺跡	35
2 地形・地質	38
3 土層	38
III 遺構と遺構出土の遺物 (平成5年度北調査区)	61
1 住居跡	62
2 土壇	361
3 Tピット	399
4 焼土	413

# 挿 図 目 次

図 I - 1	遺跡の位置…………… 2	図III - 3	遺構位置図(2) 土壌・Tピット・ 焼土 ……………65・66
図 I - 2	函館空港用地内の遺跡の位置………… 4	図III - 4	H - 158出土遺物 ……………67
図 I - 3	函館空港用地内の遺構の分布 …………… 5・6	図III - 5	H - 158出土遺物分布・接合図…………68
図 I - 4	平成 5・6 年度の調査区呼称図… 7	図III - 6	H - 159実測図 ……………69
図 I - 5	平成 5・6 年度中野 B 遺跡 発掘調査区設定図……………10	図III - 7	H - 160実測図 ……………71
図 I - 6	石器の計測方法の模式図……………16	図III - 8	H - 160出土遺物 ……………72
図 I - 7	平成 5 年度北・平成 6 年度の最終 面地形図と遺構位置図(1) 住居跡 ……………31・32	図III - 9	H - 161実測図……………73・74
図 I - 8	平成 5 年度北・平成 6 年度の最終 面地形図と遺構位置(2) 土壌・T ピット・焼土 ……………33・34	図III - 10	H - 161出土遺物分布・接合図…………75
図 II - 1	周辺の遺跡……………36	図III - 11	H - 161出土土器 ……………76
図 II - 2	発掘調査区の位置と周辺の地形…39	図III - 12	H - 161出土石器 ……………77
図 II - 3	基本土層模式図……………41	図III - 13	H - 162実測図 ……………79
図 II - 4	遺跡周辺の地形分類図……………42	図III - 14	H - 162出土遺物 ……………80
図 II - 5	地形断面と地質柱状図……………43	図III - 15	H - 162出土遺物分布・接合図…………80
図 II - 6	土層断面図(1) 平成 5 年度北 ……………45・46	図III - 16	H - 163出土土器 ……………82
図 II - 7	土層断面図(2) 平成 6 年度 A 地区 ……………47・48	図III - 17	H - 163出土石器 ……………82
図 II - 8	土層断面図(3) 平成 6 年度 B 地区 - 1 ……………49・50	図III - 18	H - 163実測図……………83・84
図 II - 9	土層断面図(4) 平成 6 年度 B 地区 - 2 ……………51・52	図III - 19	H - 163出土遺物分布・接合図 (上図は床面、下図は覆土) ……85
図 II - 10	土層断面図(5) 平成 6 年度 B 地区 - 3 ……………53・54	図III - 20	H - 164実測図……………87・88
図 II - 11	土層断面図(6) 平成 6 年度 C 地区 - 1 ……………55・56	図III - 21	H - 164出土土器 ……………89
図 II - 12	土層断面図(7) 平成 6 年度 C 地区 - 2 ……………57・58	図III - 22	H - 164出土石器 ……………89
図 II - 13	土層断面図(8) 平成 6 年度 C 地区 - 3 ……………59・60	図III - 23	H - 164出土遺物分布・接合図…………90
図III - 1	H - 158実測図 ……………62	図III - 24	H - 165実測図……………91・92
図III - 2	遺構位置図(1) 住居跡 ……………63・64	図III - 25	H - 165出土土器 ……………93
		図III - 26	H - 166実測図 ……………94
		図III - 27	H - 167実測図……………95・96
		図III - 28	H - 166出土土器 ……………97
		図III - 29	H - 167出土土器 ……………97
		図III - 30	H - 168出土土器 ……………98
		図III - 31	H - 168実測図 ……………99
		図III - 32	H - 169実測図……………100
		図III - 33	H - 169出土土器……………101
		図III - 34	H - 169出土石器……………101
		図III - 35	H - 169出土遺物分布・接合図 ……102
		図III - 36	H - 170実測図……………104
		図III - 37	H - 170出土土器……………105

図III-38	H-170出土石器……………105	図III-77	H-183出土土器……………141
図III-39	H-170出土遺物分布図……………106	図III-78	H-184実測図……………142
図III-40	H-171出土土器……………106	図III-79	H-184出土遺物……………143
図III-41	H-171実測図……………107	図III-80	H-184出土遺物分布・接合図 ……143
図III-42	H-172実測図……………109	図III-81	H-185出土土器……………144
図III-43	H-172出土遺物……………110	図III-82	H-185実測図……………145
図III-44	H-172出土遺物分布・接合図 ……110	図III-83	H-186実測図……………146
図III-45	H-173出土土器……………111	図III-84	H-186出土土器……………147
図III-46	H-173実測図……………112	図III-85	H-186出土石器……………148
図III-47	H-173出土遺物分布・接合図 ……113	図III-86	H-186出土遺物分布・接合図 ……149
図III-48	H-174実測図……………114	図III-87	H-187実測図……………150
図III-49	H-174出土遺物……………115	図III-88	H-187出土遺物……………151
図III-50	H-174出土遺物分布図……………115	図III-89	H-187出土遺物分布・接合図 ……152
図III-51	H-175実測図……………116	図III-90	H-188出土土器……………152
図III-52	H-175出土遺物……………117	図III-91	H-188実測図……………153
図III-53	H-176出土土器……………118	図III-92	H-189実測図……………155
図III-54	H-176実測図……………119	図III-93	H-190実測図……………156
図III-55	H-177実測図……………120	図III-94	H-190出土土器……………157
図III-56	H-178実測図……………122	図III-95	H-195実測図……………157
図III-57	H-178出土土器……………123	図III-96	H-206実測図……………159
図III-58	H-178出土遺物分布図……………123	図III-97	H-207実測図……………160
図III-59	H-178出土石器……………124	図III-98	H-208実測図……………161・162
図III-60	H-179実測図……………125	図III-99	H-207出土土器……………163
図III-61	H-179出土土器……………127	図III-100	H-208出土遺物 ……164
図III-62	H-179出土石器……………127	図III-101	H-209実測図 ……164
図III-63	H-179出土遺物分布・接合図 ……128	図III-102	H-209出土土器 ……165
図III-64	H-180実測図……………129	図III-103	H-210実測図 ……166
図III-65	H-180出土土器……………130	図III-104	H-211実測図 ……167
図III-66	H-181実測図……………131	図III-105	H-211出土遺物 ……169
図III-67	H-181出土土器……………132	図III-106	H-212実測図 ……170
図III-68	H-181出土石器(1)……………133	図III-107	H-212出土土器 ……171
図III-69	H-181出土石器(2)……………134	図III-108	H-212出土石器 ……171
図III-70	H-181出土石器(3)……………135	図III-109	H-212出土遺物分布・接合図…172
図III-71	H-181出土土器分布図(床面)…136	図III-110	H-213実測図 ……174
図III-72	H-181出土石器分布図(床面)…136	図III-111	H-214実測図 ……175
図III-73	H-181出土遺物分布・接合図 (覆土) ……137	図III-112	H-214出土土器 ……176
図III-74	H-182出土石器……………138	図III-113	H-217出土土器 ……176
図III-75	H-182実測図……………139	図III-114	H-217実測図 ……177
図III-76	H-183実測図……………140	図III-115	H-218実測図 ……178
		図III-116	H-218出土遺物 ……179

図III-117	H-218出土遺物分布図	179	図III-157	H-239実測図	214
図III-118	H-219出土土器	180	図III-158	H-240実測図	215
図III-119	H-219実測図	181	図III-159	H-241出土土器	216
図III-120	H-220実測図	182	図III-160	H-241実測図	217
図III-121	H-220出土土器	183	図III-161	H-241出土土器分布・接合図	218
図III-122	H-221実測図	184	図III-162	H-242実測図	219
図III-123	H-221出土遺物	185	図III-163	H-242出土石器	220
図III-124	H-222実測図	186	図III-164	H-242出土土器	221
図III-125	H-222出土遺物	187	図III-165	H-242出土遺物分布・接合図	221
図III-126	H-223実測図	187	図III-166	H-243出土土器	222
図III-127	H-224出土土器	188	図III-167	H-243実測図	223
図III-128	H-225出土土器	188	図III-168	H-244実測図	224
図III-129	H-224実測図	189	図III-169	H-244出土土器	225
図III-130	H-225実測図	190	図III-170	H-245出土遺物	225
図III-131	H-226出土遺物	191	図III-171	H-245実測図	226
図III-132	H-226実測図	192	図III-172	H-246実測図	227
図III-133	H-226出土遺物分布図	193	図III-173	H-247実測図	228
図III-134	H-227実測図	194	図III-174	H-247出土土器	229
図III-135	H-227出土遺物	195	図III-175	H-247出土石器	229
図III-136	H-227出土遺物分布・接合図	195	図III-176	H-247出土遺物分布・接合図	230
図III-137	H-228実測図	196	図III-177	H-248出土遺物	231
図III-138	H-228出土遺物	197	図III-178	H-248実測図	232
図III-139	H-228出土遺物分布・接合図	197	図III-179	H-249実測図	233
図III-140	H-229実測図	199	図III-180	H-250出土土器	234
図III-141	H-229出土土器	200	図III-181	H-250実測図	235
図III-142	H-229出土石器	200	図III-182	H-251実測図	236
図III-143	H-229出土遺物分布図	200	図III-183	H-251出土遺物	237
図III-144	H-230実測図	201	図III-184	H-251出土遺物分布・接合図	238
図III-145	H-230出土土器	202	図III-185	H-252実測図	239
図III-146	H-231実測図	203	図III-186	H-252出土土器	240
図III-147	H-231出土土器	204	図III-187	H-253実測図	241
図III-148	H-232実測図	204	図III-188	H-253出土土器	242
図III-149	H-233実測図	206	図III-189	H-253出土石器	242
図III-150	H-234実測図	207	図III-190	H-254出土土器	242
図III-151	H-235出土土器	208	図III-191	H-254実測図	243
図III-152	H-235実測図	209	図III-192	H-255実測図	244
図III-153	H-236実測図	210	図III-193	H-256出土遺物	245
図III-154	H-237実測図	211	図III-194	H-256実測図	246
図III-155	H-238出土土器	212	図III-195	H-257出土石器	247
図III-156	H-238実測図	213	図III-196	H-257実測図	248

図III-197	H-258実測図	249	図III-237	H-289出土土器	288
図III-198	H-258出土土器	250	図III-238	H-287実測図	289
図III-199	H-259実測図	251	図III-239	H-288実測図	290
図III-200	H-260実測図	252	図III-240	H-289実測図	291
図III-201	H-260出土遺物	252	図III-241	H-290実測図	292
図III-202	H-261実測図	253	図III-242	H-291実測図	293
図III-203	H-261出土遺物	254	図III-243	H-292実測図	294
図III-204	H-262実測図	255	図III-244	H-293実測図	296
図III-205	H-264出土土器	256	図III-245	H-294実測図	297
図III-206	H-263実測図	257	図III-246	H-295実測図	298
図III-207	H-264実測図	258	図III-247	H-296実測図	299
図III-208	H-265実測図	259	図III-248	H-297実測図	300
図III-209	H-266実測図	261	図III-249	H-298実測図	301
図III-210	H-267実測図	262	図III-250	H-299実測図	302
図III-211	H-268実測図	263	図III-251	H-300実測図	303
図III-212	H-269実測図	265	図III-252	H-301実測図	304
図III-213	H-270実測図	266	図III-253	H-302実測図	305
図III-214	H-271実測図	267	図III-254	H-303実測図	307
図III-215	H-273実測図	268	図III-255	H-304実測図	308
図III-216	H-274実測図	269	図III-256	H-305実測図	309
図III-217	H-272・275実測図	270	図III-257	H-306実測図	310
図III-218	H-276実測図	271	図III-258	H-307・311実測図	312
図III-219	H-276出土土器	272	図III-259	H-308出土土器	313
図III-220	H-278実測図	272	図III-260	H-308実測図	314
図III-221	H-277・279実測図	273	図III-261	H-309実測図	315
図III-222	H-280実測図	275	図III-262	H-309出土土器	316
図III-223	H-281出土土器	275	図III-263	H-310出土土器	316
図III-224	H-281実測図	276	図III-264	H-310実測図	317
図III-225	H-282実測図	277	図III-265	H-313実測図	318
図III-226	H-283実測図	279	図III-266	H-312実測図	319
図III-227	H-283出土土器	280	図III-267	H-314実測図	321
図III-228	H-283出土石器	280	図III-268	H-315実測図	322
図III-229	H-283出土遺物分布・接合図	281	図III-269	H-316実測図	323
図III-230	H-284実測図	282	図III-270	H-317実測図	324
図III-231	H-284出土土器	283	図III-271	H-318実測図	325
図III-232	H-284出土石器	283	図III-272	H-319実測図	326
図III-233	H-284出土遺物分布・接合図	284	図III-273	H-320実測図	328
図III-234	H-285実測図	285	図III-274	H-321実測図	329
図III-235	H-286出土遺物	286	図III-275	H-321出土土器	329
図III-236	H-286実測図	287	図III-276	H-322実測図	330

図III-277	H-322出土土器	331	図III-317	P-105出土石器	370
図III-278	H-323実測図	331	図III-318	P-109出土土器	371
図III-279	H-324実測図	332	図III-319	P-112出土土器	372
図III-280	H-325実測図	333	図III-320	P-113出土土器	372
図III-281	H-326実測図	334	図III-321	P-119出土遺物	374
図III-282	H-327実測図	336	図III-322	P-122出土遺物	375
図III-283	H-328実測図	337	図III-323	P-125出土土器	377
図III-284	H-329実測図	338	図III-324	P-126出土土器	377
図III-285	H-330実測図	339	図III-325	P-127出土土器	378
図III-286	H-331実測図	340	図III-326	P-128出土土器	378
図III-287	H-333実測図	341	図III-327	P-129出土土器	378
図III-288	H-332実測図	342	図III-328	P-133出土土器	380
図III-289	H-334実測図	344	図III-329	P-142出土土器	381
図III-290	H-335実測図	345	図III-330	P-143出土土器	382
図III-291	H-336実測図	346	図III-331	P-154出土土器	382
図III-292	H-337実測図	347	図III-332	土墳実測図(1)	384
図III-293	H-338実測図	347	図III-333	土墳実測図(2)	385
図III-294	H-339実測図	348	図III-334	土墳実測図(3)	386
図III-295	H-341実測図	349	図III-335	土墳実測図(4)	387
図III-296	H-340実測図	350	図III-336	土墳実測図(5)	388
図III-297	H-342実測図	351	図III-337	土墳実測図(6)	389
図III-298	H-343実測図	352	図III-338	土墳実測図(7)	390
図III-299	H-344実測図	353	図III-339	土墳実測図(8)	391
図III-300	H-345実測図	354	図III-340	土墳実測図(9)	392
図III-301	H-346実測図	355	図III-341	土墳実測図(10)	393
図III-302	H-347実測図	356	図III-342	土墳実測図(11)	394
図III-303	H-348実測図	358	図III-343	土墳実測図(12)	395
図III-304	H-349実測図	359	図III-344	土墳実測図(13)	396
図III-305	H-350実測図	360	図III-345	土墳実測図(14)	397
図III-306	P-81出土土器	361	図III-346	土墳実測図(15)	398
図III-307	P-82出土遺物	362	図III-347	土墳実測図(16)	399
図III-308	P-85出土遺物	363	図III-348	Tピット実測図(1)	400
図III-309	P-86出土遺物	364	図III-349	Tピット実測図(2)	401
図III-310	P-89出土土器	364	図III-350	Tピット実測図(3)	402
図III-311	P-99出土土器	365	図III-351	Tピット実測図(4)	403
図III-312	P-101出土土器	367	図III-352	Tピット実測図(5)	404
図III-313	P-101出土石器	367	図III-353	Tピット実測図(6)	405
図III-314	P-102出土遺物	368	図III-354	Tピット実測図(7)	406
図III-315	P-103出土遺物	369	図III-355	T-14出土土器	407
図III-316	P-104出土土器	369	図III-356	T-16出土土器	407



図Ⅲ－357	T－17出土遺物	407	図Ⅲ－367	T－31出土土器	411
図Ⅲ－358	T－19出土土器	408	図Ⅲ－368	T－32出土土器	411
図Ⅲ－359	T－20出土遺物	408	図Ⅲ－369	T－34出土土器	411
図Ⅲ－360	T－21出土土器	408	図Ⅲ－370	T－36出土遺物	411
図Ⅲ－361	T－22出土土器	409	図Ⅲ－371	T－37出土土器	412
図Ⅲ－362	T－22出土石器	409	図Ⅲ－372	T－38出土遺物	412
図Ⅲ－363	T－26出土遺物	409	図Ⅲ－373	T－41出土石器	412
図Ⅲ－364	T－27出土土器	410	図Ⅲ－374	焼土実測図	413
図Ⅲ－365	T－29出土土器	410	図Ⅲ－375	F－14出土土器	414
図Ⅲ－366	T－30出土土器	410	図Ⅲ－376	F－14出土石器	414

## 表 目 次

表Ⅰ－1	函館空港拡張整備工事に伴う年次別発掘調査結果概要一覧	3
表Ⅰ－2	年度別遺構一覧	17
表Ⅰ－3	平成5年度北の遺構一覧	18
表Ⅰ－4	平成5年度北の出土遺物一覧	18
表Ⅰ－5	平成6年度の遺構一覧	19
表Ⅰ－6	平成6年度の出土遺物一覧	19
表Ⅰ－7	平成5年度北調査区遺構一覧	20～24
表Ⅰ－8	平成6年度調査区遺構一覧	25～29
表Ⅱ－1	周辺の遺跡一覧	37
表Ⅲ－1	焼土の規模等一覧	413

# I 調査の概要

## 1 調査要項

事業名	函館空港拡張整備工事用地内埋蔵文化財発掘調査
委託者	函館開発建設部
受託者	財団法人 北海道埋蔵文化財センター
遺跡名	中野B遺跡（北海道教育委員会登録番号：B-01-39）
所在地	函館市中野町98-1ほか
調査面積	平成5年度 7,530㎡ 平成6年度 28,400㎡
調査期間	平成5年4月20日～平成6年3月25日（現地調査 5月6日～10月28日） 平成6年4月20日～平成7年3月25日（現地調査 5月6日～10月26日）

## 2 調査体制

平成5年度		平成6年度	
理事長	阿部 茂	理事長	阿部 茂（5月31日退任）
専務理事	永田 春男		伊藤 一夫（6月1日就任）
常務理事	中村 福彦	専務理事	永田 春男（5月31日退任）
業務部長	中野 眞吾		佐藤 哲人（6月1日就任）
調査部長	森田 知忠	常務理事	中村 福彦
調査第4課長	高橋 和樹（発掘担当者）	業務部長	中野 眞吾
主任	和泉田 毅（発掘担当者）	調査部長	森田 知忠
主任	遠藤 香澄（発掘担当者）	調査第4課長	高橋 和樹（発掘担当者）
主任	花岡 正光	主任	和泉田 毅（発掘担当者）
主任	谷島 由貴	主任	佐川 俊一（発掘担当者）
主任	熊谷 仁志	主任	谷島 由貴
文化財保護主事	山原 敏朗	主任	熊谷 仁志
嘱託	村田 大	主任	森 秀之
嘱託	倉橋 直孝	文化財保護主事	村田 大
		文化財保護主事	倉橋 直孝
		文化財保護主事	宗像 公司

## 3 調査の経緯

函館空港の拡張整備工事に伴う発掘調査の始まりは、第一次空港整備5カ年計画が打ち出された昭和42(1967)年に遡る。以後昭和51(1976)年に開始された第三次空港整備5カ年計画の終了まで、函館空港1・2・3・4・5・6・8・9遺跡、中野A・B遺跡などで発掘調査が行われたが、その経緯については、平成3年度の発掘調査報告書(北理調報 79)でやや詳しく触れている。中野B遺跡については、函館市教育委員会によって、昭和50(1975)年度に、進入灯工事区域1,920㎡の発掘調査が実施されており、主に貝殻文尖底土器を伴う竪穴住居跡21軒、土壇15基、Tピット22基などの遺構が発見



図 I - 1 遺跡の位置 (この地図は、国土地理院発行5万分の1地  
形図「五稜郭」を利用したものである。)

表 I - 1 函館空港拡張整備工事に伴う年次別発掘調査結果概要一覧

調査年度	調査主体	遺 跡 名	時 期	主要な遺構
昭和42年度	市立函館博物館	函館空港第 I 遺跡	縄文時代早期末葉 縄文時代 擦文時代初期	堅穴住居跡 1 Tピット 54
昭和43年度	市立函館博物館	函館空港遺跡群 第 2 地点		
		第 3 地点		
		第 4 地点	縄文時代前期中葉	堅穴住居跡 60 貯蔵穴 20 Tピット 56
		第 5 地点		
		第 6 地点	縄文時代早期前半	
		第 8 地点		
		第 9 地点		
昭和49年度 昭和50年度	市立函館博物館	函館空港第 4 地点	縄文時代前期中葉  縄文時代	堅穴住居跡 55 土壌 35 Tピット 108
昭和50年度 昭和51年度	市立函館博物館	中野 A 遺跡	縄文時代早期中葉  縄文時代早期末葉  縄文時代	堅穴住居跡 6 土壌 12 堅穴住居跡 8 石組炉 1 Tピット 75
		中野 B 遺跡	縄文時代早期中葉  縄文時代	堅穴住居跡 21 土壌 15 Tピット 22
		中野 A 遺跡	縄文時代	Tピット 7
		中野 A 遺跡	縄文時代早期前葉 縄文時代早期中葉  縄文時代	堅穴住居跡 1 堅穴住居跡 13 土壌 10 Tピット 11
		中野 A 遺跡	縄文時代早期中葉  縄文時代前期前葉 縄文時代	堅穴住居跡 40 土壌 16 堅穴住居跡 2 Tピット 40
		中野 B 遺跡	縄文時代早期中葉  縄文時代	堅穴住居跡 142 土壌 67 Tピット 12
平成 4 年度	北海道埋蔵文化財センター	中野 B 遺跡	縄文時代早期中葉  縄文時代	堅穴住居跡 205 土壌 85 Tピット 29
平成 5 年度	北海道埋蔵文化財センター	中野 B 遺跡	縄文時代早期中葉  縄文時代	堅穴住居跡 96 土壌 95 Tピット 97

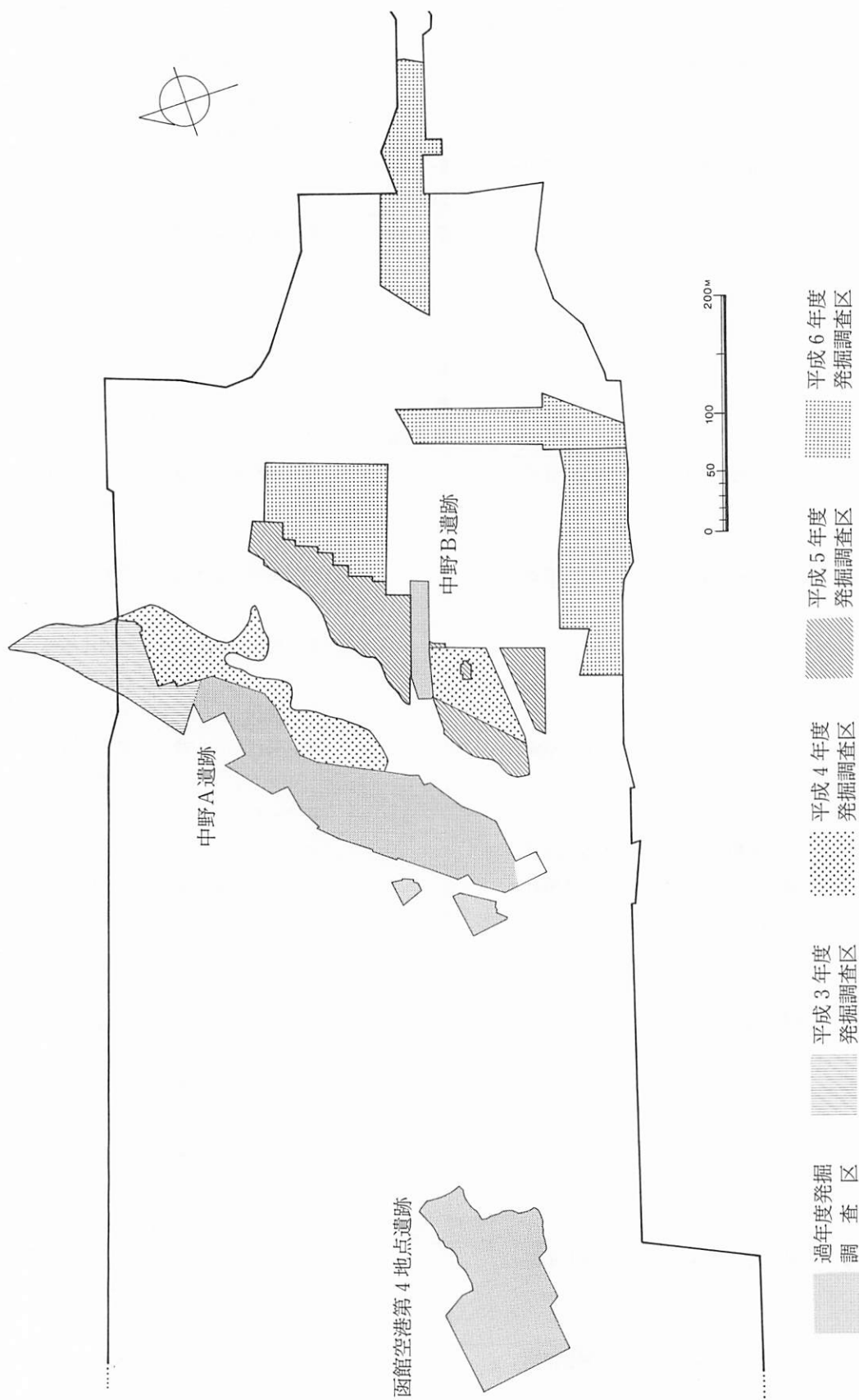


図 I - 2 函館空港用地内の遺跡の位置

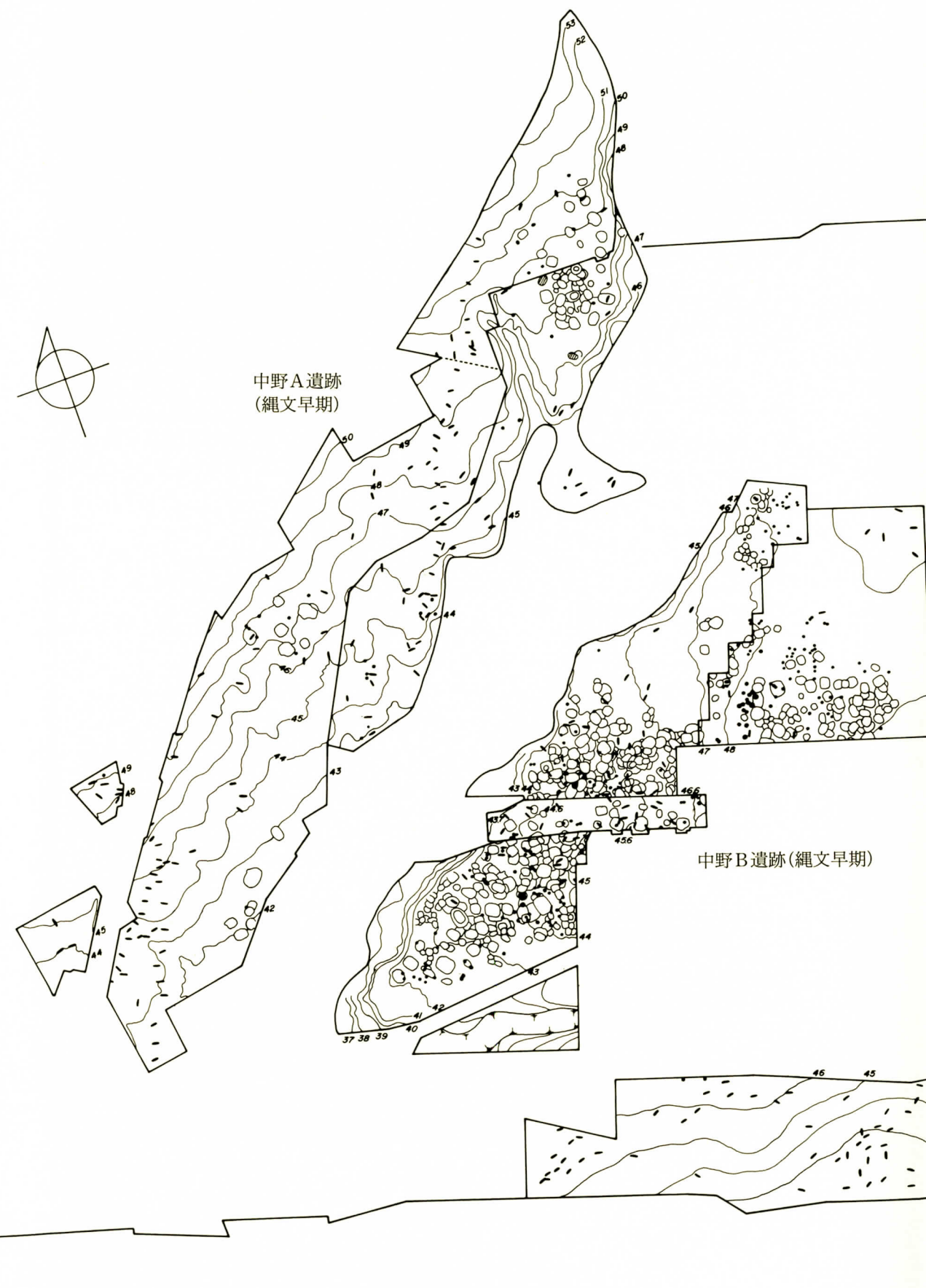
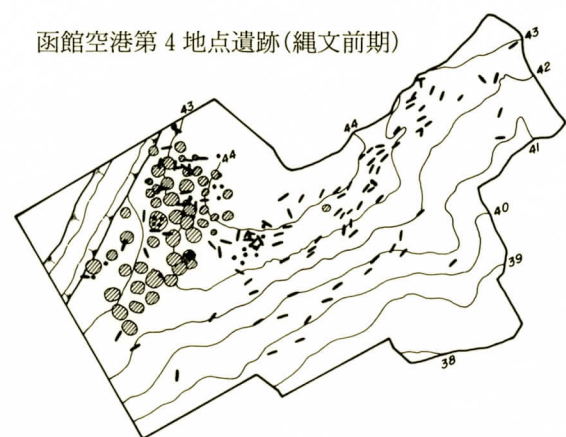


図 I - 3 函館空港用地内の遺構の分布

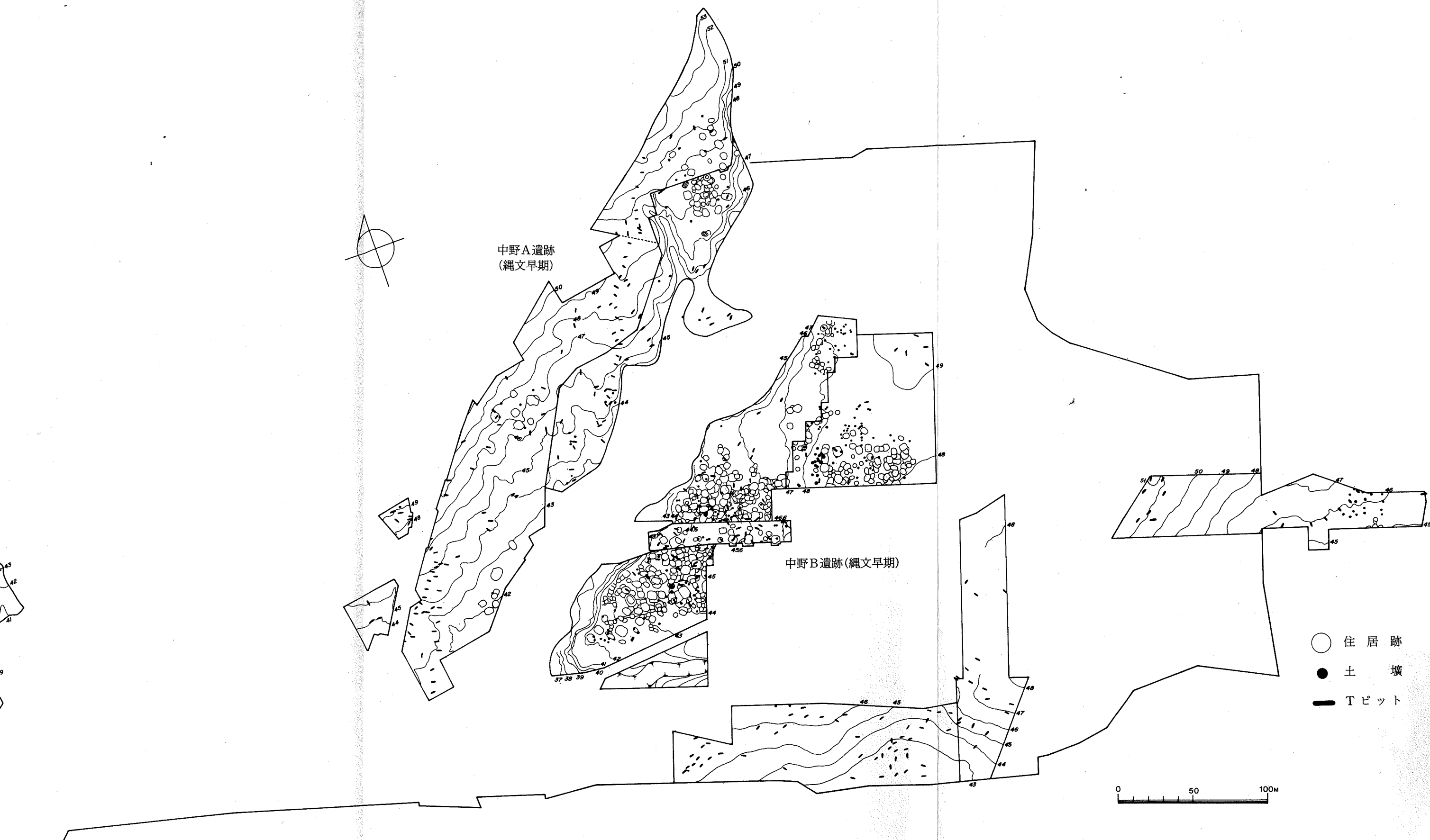


図 I - 3 函館空港用地内の遺構の分布

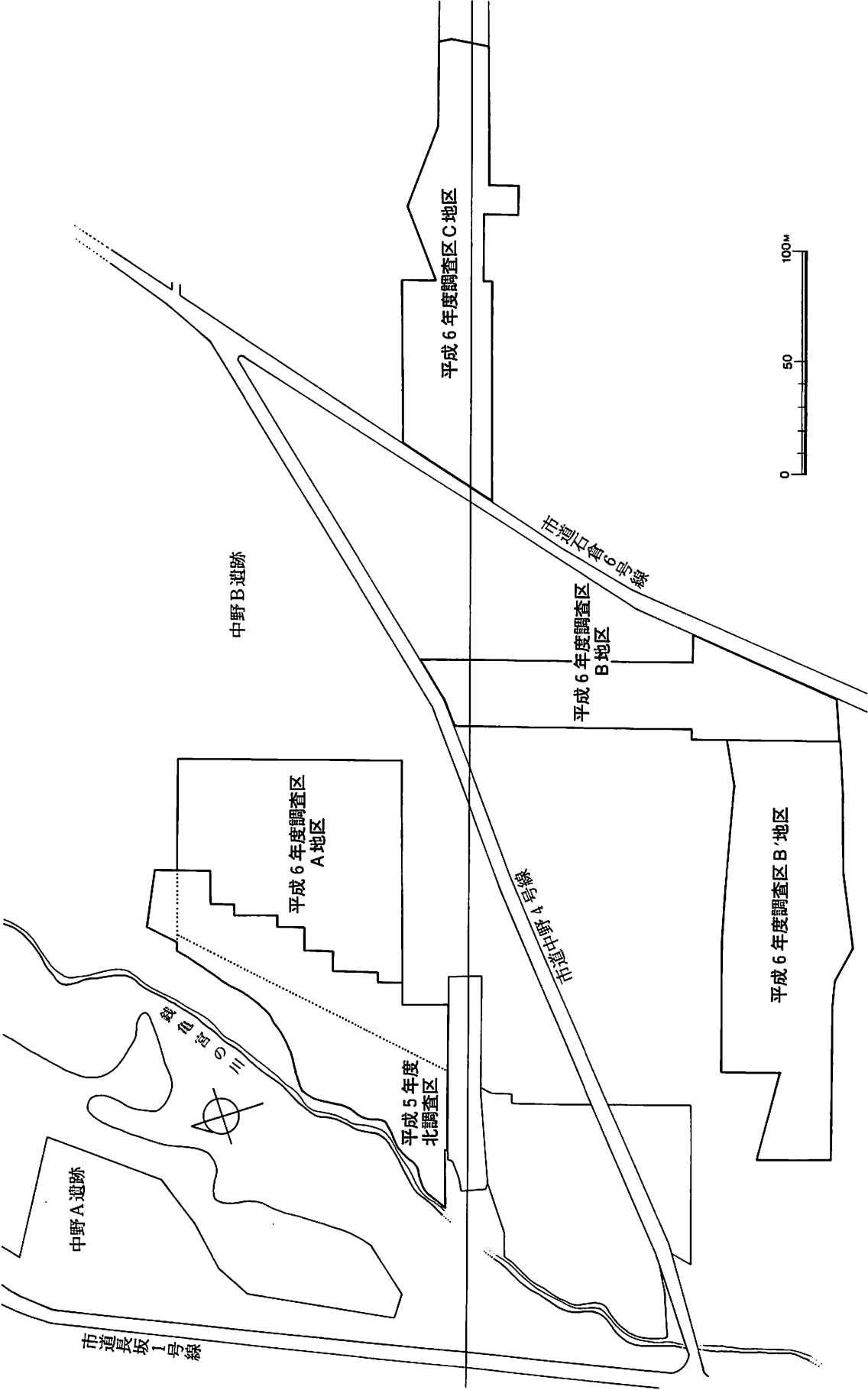


図 I - 4 平成 5・6 年度の調査区呼称図



され、また多数の遺物が出土していることが報告されている(函館市教育委員会、1977)。その成果から、中野B遺跡が貝殻文尖底土器を伴う縄文時代早期中葉を主体とする大規模な集落遺跡であることが予想されていた。

ところで、函館空港の現滑走路を500m延長して3,000mに拡張整備するという第五次空港整備5年計画は、昭和61(1986)年11月に閣議決定された。この拡張整備工事に伴う埋蔵文化財のための事前協議は、昭和63(1988)年5月に函館開発建設部から提出された。これを受けて北海道教育庁生涯学習部文化課は、平成2(1990)年8月と平成3(1991)年8月の二度にわたって遺跡所在確認調査を行い、平成2年10月から平成4(1992)年10月まで、都合8回の遺跡範囲確認調査を実施した。その結果、函館空港拡張整備工事用地内には、発掘調査を必要とする三つの遺跡が所在し、その総面積が112,980㎡(遺構確認調査区63,770㎡を含む)に達することが、平成5(1993)年3月に公表された。その内訳は、中野A遺跡14,000㎡(遺構確認調査区5,300㎡を含む)、中野B遺跡80,920㎡(遺構確認調査区55,670㎡)、石倉貝塚遺跡18,060㎡(遺構確認調査区2,800㎡を含む)である。このうち中野A遺跡は、滑走路の下に造成される市道長坂1号線の切替工事に伴うもので、当センターが平成3・4年度の二カ年にわたって調査を実施し、完了している(北理調報 79・84)。すでに工事は進捗し、遺跡は消滅している。

中野B遺跡は、中野A遺跡の調査がほぼ終了した平成4年7月から引き続き当センターが調査を開始した。

平成4年度調査区は、滑走路下に潜る銭亀宮の川の河川切替用地のうち滑走路センターラインより南側を主体とする3,700㎡を対象とした。ここは昭和50年度調査区の南西に隣接するところであり、当初から遺構、遺物の良好な遺存が予想された。最終的に予想をはるかに超えた遺構が発見され、多量の遺物が出土した。そのため一部(150㎡)が遺構調査未了となり、平成4年度の調査面積が3,550㎡に変更された。

平成5年度調査区は、河川切替に関連する工事区画部分に当たる6,550㎡である。即ち、滑走路センターラインより北は(1)河川切替の東の境界線までの銭亀宮の川左岸一帯3,900㎡、滑走路センターラインより南側は(2)平成4年度遺構調査未了地区150㎡、(3)平成4年度調査区の西に隣接する段丘縁辺部2,000㎡、(4)平成4年度調査区北東隅の三角形部分50㎡、(5)市道中野4号線より南の遺構確認調査区450㎡、である。このうち本報告書で扱っている調査(1)については、多くの遺構が発見されたけれども、遺物の出土量は全般的に少なく、計画以上に調査が進んだ。そのため調査を順次東へ拡大し、3,270㎡の調査区を追加した。さらに同調査区の北端部では、遺構群が包蔵地の線引きの範囲外にまで広がることがわかり、関係諸機関と協議の上、新たに360㎡を追加した。これらによって最終的な調査面積は7,530㎡になった。

平成6(1994)年度調査区は、滑走路本体部や進入灯工事区域および工事用道路部分に当たる20,000㎡である。即ち、A地区：平成5年度調査区(1)の東に隣する滑走路センターラインの北20mより北側部分7,800㎡(遺構確認調査1,470㎡を含む)、B地区：工事用道路部分5,500㎡、C地区：進入灯工事計画区域6,700㎡である。B・C地区は遺構確認調査区である。なお調査途中でB地区の西側の包蔵地外とされていた工事用道路造成地区から、多数のTピットが発見されたため、関係諸機関と協議の上、急遽この地区の8,400㎡を追加調査することとなった(これをB'地区とした)。この結果、最終的な調査面積は28,400㎡となった。また平成6年度から市道石倉1号線の道路造成工事地区について、函館市教育委員会による石倉貝塚遺跡の調査も開始された。C地区最東端部分は、函館市教委による調査区と交差しており、調査の都合上、函館市教委が調査を担当することになった。

## 4 調査の方法

### (1) 調査区の設定

中野B遺跡の発掘調査区は、トータルステーション・システムを利用した遺物の取り上げと遺構測量を実施することを前提に、函館空港滑走跡のセンターラインを基軸とし、工事区画の全体をカバーできるように、5m×5mメッシュを設定した(図I-5)。

センターラインは、真北から東へN-107°35' 55.51"-E傾いている。

滑走路センターラインを基軸とするX軸方向は、センターラインに付されている工事用の測点SP=2700を0とし、SP=2800が20、SP=2900が40、SP=3000が60、……となるように5m毎に1、2、3、……とアラビア数字を付している。センターラインに直交するY軸方向は、センターラインを40とし、5m毎に、南側ほど小さく、北側ほど大きくなるように、X軸同様にアラビア数字を付した(図I-5)。それぞれの5m×5mグリッドの呼称は、このメッシュの南西側の交点の数字をX軸(東西)、Y軸(南北)の順に連結して表示することにした(図I-5)。

なお、遺構・遺物の平面実測、および竪穴住居跡床面や土壌底面などの土壌試料採取に際しては、必要に応じて、さらに小さな区画を設定した。

### (2) 発掘調査の方法

中野B遺跡の発掘調査区は、北海道教育庁生涯学習部文化課による遺跡範囲確認調査の結果によって、通常の発掘調査を必要とする地区(竪穴住居跡などの遺構や遺物が濃密に分布していることが予想される地区)と遺構確認調査地区(Tピット以外には遺構や遺物が稀薄であると判断された地区)とに、あらかじめ大別、線引きされている。本報告書で掲載している平成5年度北と平成6年度の調査区では、以下のように大別、線引きされており、それに沿ってそれぞれ調査を実施した。平成5年度北調査区は、滑走路センターラインより北側の全域7,530㎡(追加、拡張部分を含む)が通常の発掘調査区である。平成6年度では、B地区5,500㎡、C地区6,700㎡、B'地区8,400㎡、およびA地区の北東側2,500㎡が遺構確認調査区である。A地区では平成5年度北に隣接する5,300㎡が通常の発掘調査区である。

通常の発掘調査区については、土層観察のためメインセクションベルト(平成5年度北では、40ラインを南北メインセクション、48ラインを東西メインセクション、平成6年度A地区では、48ラインを東西メインセクション)を設定した(図II-6・7)。調査は人手によることを基本とするが、I・IIおよびP.D.3上面までは重機でこれを除去し、遺物の包含が見られるP.D.3から下層のIII・IV層は土層を確認しながら順次掘り下げ、遺構検出・遺構調査を行い、最終的には無遺物層まで掘り下げた。主要な遺物包含層はIII層であり、III層以下の出土遺物と遺構の出土遺物はトータルステーション・システムによって、層位毎に全点の出土位置、レベルを測定して取り上げた。遺構調査は随時、写真撮影、プラン実測をし記録した。遺構調査終了後トータルステーション・システムにより遺構の概略の輪郭線を計測した。

遺構確認調査区は、遺構や遺物の有無を立会によって確かめつつ、III層下部まで重機で掘り下げ、そのあと人手によって清掃、遺構検出作業を行い、検出された土壌、Tピットの調査を行った。B地区は西壁面、C地区は北壁面を土層観察用メインセクションとし、実測、写真撮影をした。

調査終了後、通常の発掘調査区・遺構確認調査区ともに写真撮影、地形測量を行った。

昨年同様、住居跡や土壌などの床(塙底)面付近の土壌、焼土はできるだけ採取し、フローテーション作業を実施した。また炭化種子や微細な遺物についても小区画で土ごとに取り上げ、篩分けや水洗選別を行った。

平成5・6年度も雨などによって泥水が直接海へ流れこまないよう、調査区の外縁沿い、とくに銭

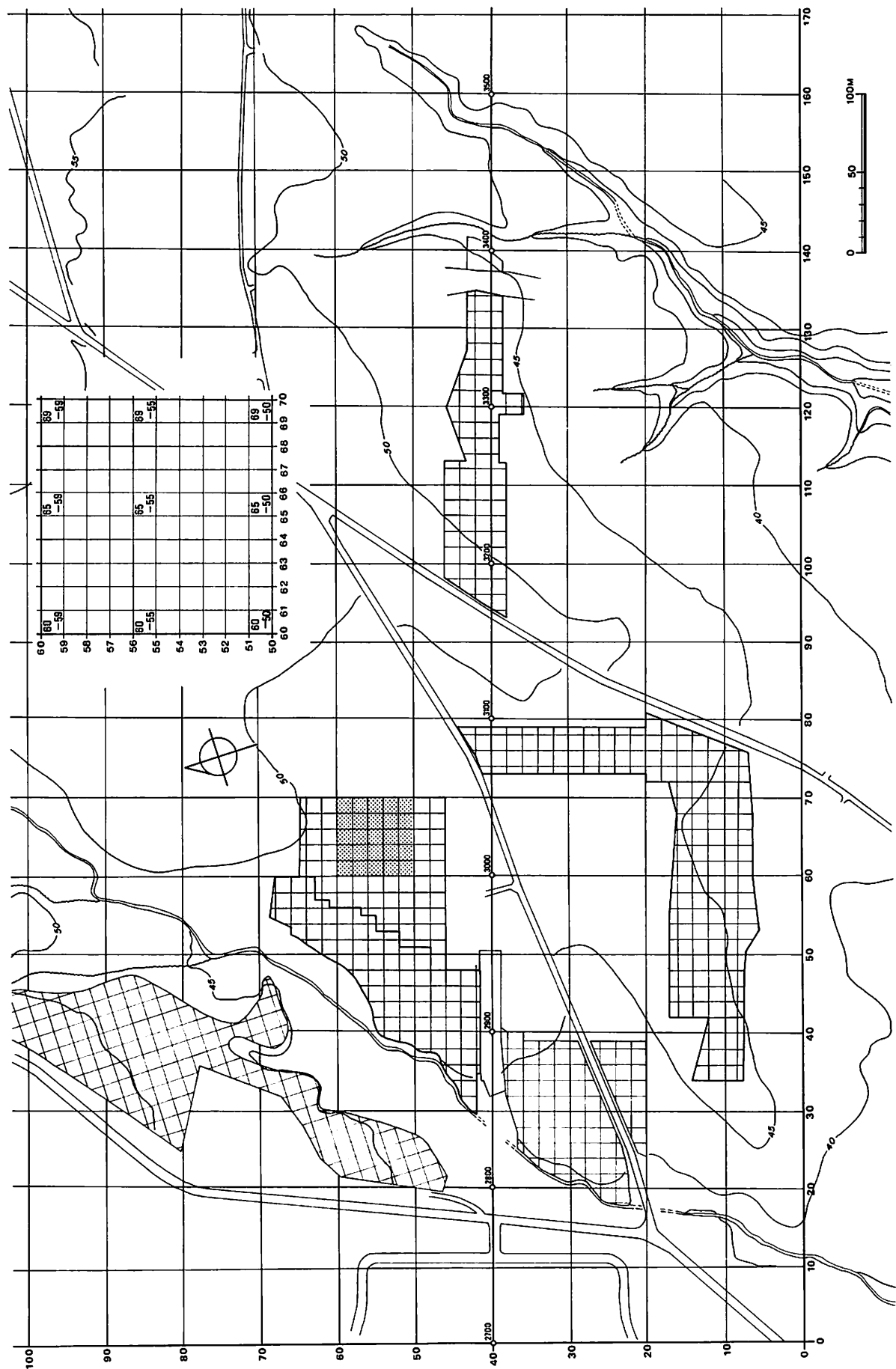


図 I - 5 平成5・6年度中野B遺跡発掘調査区設定図

亀宮の川寄りに、排土を詰めた土<sup>ど</sup>嚢袋を積み並べた。

### (3) 整理の方法

#### i) 土器

現地では、水洗後トータルステーションへの大分類入力を行い、遺物台帳・カードを作成し、注記作業までを終了した。注記は遺跡名の中野B遺跡をナBと略記し、グリッド名、遺構名、遺物番号、出土層位の順で、それぞれ簡略に記入した。現地での整理を終えた遺物は、グリッド毎、遺構毎に仮収納し、現場終了後札幌へ搬送して、随時本格的な整理作業を開始した。

接合・復元作業では、遺構内、遺構間、遺構と包含層間との接合関係の把握に努め、接合資料については、接合作業の段階で展開図とカードの作成、また同一個体の破片(未接合資料も含む)の識別に努めた。さらにこれらは遺構毎、包含層毎に表化した。復元個体については実測図を作成した。断片的な資料については口縁部の文様をもとに個体識別に努め、文様構成が想定できるものを中心に拓影図、断面図を作成した。実測図では文様構成が復元可能な部分は欠損部についても細い実線で文様を表現した。断面図は最も器形の特徴を表している部分を実測するために、90度あるいは180度回転させたものもある。また実測図には断面と輪郭のみを実測し、文様は拓影によって表現しているものも含まれている。実測、拓影ののち復元土器は一個体ずつ、拓影土器は遺構毎、包含層出土のものは分類毎に写真撮影を行った。これらの作業と並行して集計および記録類の整理も行った。

なお分類は、中野A遺跡および前年度のものを基本的に踏襲している。

復元・拓影作業、写真撮影終了後、資料は報告書掲載資料、遺構、グリッド別に収納した。

#### ii) 石器

現地では、水洗・分類およびトータルステーションへの分類入力を行い、遺物台帳を作成し、注記作業を行った。一次整理作業終了後、順次札幌へ搬送した。札幌のセンターではまず報告書掲載の石器を選び出し、実測を行った。また並行して接合作業、分類の再検討、細分類、計測、集計作業を行った。遺構出土の石器は、平成5年度北については床面・床直上付近出土のものを優先して実測し、細分類、計測、集計は覆土を含め全点について実施した。平成6年度については、覆土を含めて実測の対象とし、細分類、計測、集計もすべて実施した。包含層出土の石器は、平成5年度北・平成6年度ともに、基本的にIII層出土のものについて接合作業、細分類、注記、計測、集計作業、選び出しと実測を行った。分類は基本的に前年度のものを踏襲している。計測は原則として完形品について行い、最大長・最大幅・最大厚・重さを計測した。石質の同定は主に花岡の肉眼鑑定によるが、それをもとに一部を山原・宗像が行った。

写真撮影は、一部撮影できなかったものもあるが、基本的には実測・掲載分についてはすべて撮影し、掲載している。

図版作成、写真撮影、集計作業終了後、報告書掲載資料、遺構、グリッド別に収納した。

なお、これらの遺物類は、報告書作成後遺物収納台帳とともに、函館市教育委員会に於て保管される。

## 5 遺構・遺物の分類

### (1) 遺構

遺構は、住居跡、土壌、焼土に大きく分けている。土壌はさらに土壌とTピットに分けた。住居跡はH、土壌はP、TピットはT、焼土はF、と記号を付した。

住居跡としたものは、床面に炉(火を焚いた痕跡が認められるものを含む)を有するものは上屋構造を想定しうる柱穴状小ピットが検出されたもの、またそこで生活あるいは日常的作業が可能な空間がある遺構である。平成5年度北・平成6年度の調査で発見された住居跡はすべて地面を掘りくぼめて作られた、所謂竪穴住居跡である。

土壌としたものは、人為的に地面を掘りくぼめた遺構である。土壌には、平面形、断面形に特に規則性は見られず、規模や構造も不定で、機能や性格などが不明なものと平面形がほぼ円形状で、断面形がフラスコ状をしている、所謂フラスコ状ピットと言われているものがある。また調査過程で、平面形、断面形、覆土の堆積状態、遺物の出土状況などから墓の可能性が考えられる、いわゆる土壌墓の類いも土壌に含まれている。

Tピットとしたものは、細長く、深い溝状の土壌で、小判型に近い小型のものも含めている。Tピットの覆土は自然堆積で、塙底直上に黒色あるいは黒褐色の腐植土が薄く堆積しているという特色がある。また塙底に杭状の小ピットが見られるものもあった。

焼土としたものは、住居跡に伴わず、単独に検出されたものであり、屋外炉の可能性もある。

また、竪穴住居跡に伴うものと考えられる小ピットと焼土はHP、HFとして区別している。一括出土の遺物は、特に項をもうけて説明はせず、それぞれの遺構、包含層のところで随時取り扱っている。なお覆土上の包含層出土の遺物について、出土遺物の集計では一部遺構出土遺物の項で扱っているものもあるが、基本的には包含層出土の遺物として集計している。

### (2) 遺物

#### i) 土器

土器の分類については函館中野A遺跡・中野A遺跡(Ⅱ)・中野B遺跡のものを基本的に踏襲している。なお必要に応じて、一部細分しているものもある。

#### I 群 縄文時代早期の土器群

A類：胎土に繊維が混入する。縄文を地文とし、平行沈線が施されるものである。小波状口縁である。日計式押型文土器に伴うと思われるものである。平成5年度北・6年度の調査では60-47のⅢ層から1点出土しただけである。

B類：貝殻腹縁圧痕文・沈線文・刺突文等で文様が構成されるもので、物見台式に相当するものである。底部は尖底のものが主であるが、平底のものもある。

C類：物見台式と住吉町式の間で位置づけられるもの。

D類：貝殻腹縁圧痕文・沈線文・刺突文等で文様が構成されるもので、住吉町式に相当するもの。前年度報告(北理調報 97)ではD2類とした函館市根崎遺跡出土の資料については、本年度もI群D類の中で扱っているが、資料も増加したことから、これらをI群D2類と呼称し、他の住吉町式に相当するものをI群D1類として区別している。

E類：沈線文・刺突文・隆起帯文等で文様が構成され、平底のもので、ムシリⅠ式に相当するもの。

F類：胎土に繊維が混入する。縄文を地文とし、縄線文・刺突文・捺糸文等の文様で構成され、松前町高野遺跡のⅣ群土器、青森県表館(Ⅰ)遺跡の表館Ⅵ群土器に相当するもの。

G類：胎土に繊維が混入する。結束羽状縄文・撚り戻し・組紐圧痕文等の節の大きい縄文で構成さ

れるもので、東釧路III式の頃に比定されそうな土器群である。

H類：結束羽状縄文・貼付帯で構成されるもので、コッタロ式に相当するもの。

I類：羽状縄文・貼付帯・短縄文・綾絡文等で構成されるもので、中茶路式に相当するもの。

J類：自縄自巻的な原体による撚糸文で羽状縄文が構成され、東釧路IV式に相当するもので、すべて平底である。

## II群 縄文時代前期の土器群

胎土に繊維を含み、縄文のみのものである。

## III群 縄文時代中期の土器群

## IV群 縄文時代後期の土器群

## V群 縄文時代晩期の土器群

縦行縄文が施されるもの。

## ii) 石器

石器の分類については、平成7年度報告の中野B遺跡の石器分類を踏襲した。製作体系の異なる剥片石器群・磨製石器群・礫石器群に大別し、さらに器種の分類を行った。細分類については、過年度の基準を再検討し新たな基準を設定した。

### I 剥片石器群

石鏃 細分は形態による。

- 1類 無茎三角形
- 2類 無茎長身
- 3類 菱形
- 4類 柳葉形
- 5類 円基
- 6類 有茎のもの
- 7類 その他・未製品

石槍 細分は形態による。

- 1類 形態上、身と茎部の区別がつかないもの。
  - a 木葉形(長：幅が1：3未満)
  - b 柳葉形(長：幅が1：3以上)
- 2類 茎部の区別があり、かえしが不明瞭のもの。側縁が曲線的な方を尖頭部、直線的な方を茎部とした。
  - a 木葉形(長：幅が1：3未満)
  - b 柳葉形(長：幅が1：3未満)
- 3類 明瞭なかえしのあるもの。該当するものはない。
- 4類 三角形または五角形で、基部が内湾するもの。
- 5類 その他

石錐 細分は形態・製作技術による。

- 1類 剥片の一部に先端部を作出したもの。

- 2類 折れ面を多少加工して先端部として利用しているもの。
- 3類 柄と機能部の区別が明瞭なもの。
- 4類 柄と機能部の区別が不明瞭なもの。
- 5類 柄と機能部の区別が不明瞭なもののうち、棒状のもの。
- 6類 他石器からの転用品

## 筥状石器

両面調製石器 細分は形態による。

- 1類 円形・楕円形
- 2類 半月型・左右非対称形

石匙 1～5類は縦型。

- 1類 両面加工
- 2類 片面(半両面)加工
  - a 稜線がほぼ中央にあるもの。
  - b 背面に先行して腹面右側縁に調整が加えられるもの。
- 3類 周辺加工
- 4類 加工がほとんど見られないもの。
- 5類 大型のもので身は殆ど加工されないもの。つまみ部は棒状に加工される。
- 6類 横型

彫器様石器 平成4年度の調査において出土例がみられたが、今回報告分の調査区においては該当するものはない。

## スクレイパー

- 1類 素材の短軸に刃部を有するもの。搔器(円形搔器を含む)。
- 2類 素材の長軸に刃部を有するもの。
  - a 一側縁に刃部をもつもので、刃部が直線的なもの。直刃削器。
  - b 一側縁に刃部をもつもので、刃部が外湾するもの。外湾刃削器。
  - c 一側縁に刃部をもつもので刃部が内湾するもの。内湾刃削器。刃部が波状のものも含む。
  - c' 抉り状の刃部をもつもの。抉入削器。
  - d 複刃削器。複数の刃部をもつもの。
  - d' 複数の刃部をもつもののうち、細身で先細りするもの。複刃尖頭削器。
  - e 鋸歯状の刃部を有するもの。鋸刃状削器。

楔形石器 上下両端(もしくは一端)が潰れ、側面に槌状の剝離面を有するもの。

## Rフレイク

## Uフレイク

## 石核

## 剝片

## II 磨製石器群

磨製石器群は磨製石斧およびその製作残片、研磨石材、前3者への分類不明破片からなる。

**石斧** すべて磨製である。

- 1 類 擦り切り技法による成形されるもの。
- 2 類 粗割・敲打により成形されるもの。

## 擦り切り残片

## 研磨石材

**磨製破片** 破片のため、上記の分類に含まれないもの

## 環状石斧

## III 礫石器群

礫石器は使用痕が複合しているものが多く見られる。複合例については、ここに示した器種の順番の後者の分類に含めた。例えば、一個体にすり面とたたき痕が見られる場合はすり石に分類する。

**たたき石** 使用痕には、つぶれ状・班状(あばた状)・くぼみ状の3種が見られる。くぼみ状の使用痕は班状の使用痕が1カ所に集中した結果と思われる。

- 1 類 円形・楕円形のもの
- 2 類 棒状のもの
- 3 類 球状のもの
- 4 類 その他

**すり石** すり面が平坦～凸状になるもの。

- 1 類 断面形が三角形でその稜部にすり面を有するもの
- 2 類 円形・楕円形のもの
- 3 類 その他

## 砥石

- 1 類 角礫・板状礫・円礫を素材とし平坦～U字状のすり面を有するもの。
- 2 類 溝状すり面を有するもの。素材については1類と同じ。



石鋸

石錘

石皿 概ね直径20cm以上の扁平礫にすり面・たたき痕を有するもの。

加工痕ある礫

礫・礫片

#### IV 石製品

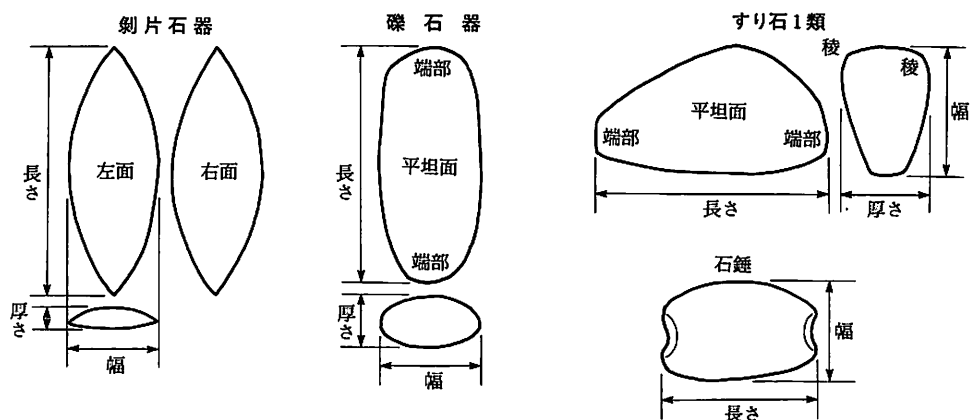
機能部の特定し難い加工・整形加工が施された遺物については石製品として扱い、下記の分類を設定した。

軽石製石製品 人為的と思われる湾曲・平坦面・抉りを有するもの。

円盤状石製品 規格は円盤状土製品と同じ。

両端抉入石製品 剝片製で、両端に小型の抉入部が作出されている。利器の可能性もある。

計測については過年度の中野A遺跡の報告と同様に、図I-6のように行なった。磨製石器については剝片石器と同様である。礫石器は機能部にこだわらず、長軸を長さ、短軸を幅としている。部位の名称は、本文中で便宜上使用したものにつき下図中に記した。なお、遺物実測図中ではたたき痕は＝＝、すり痕は←→で範囲を表した。また、剝片石器のうち、縁部に使用痕・摩耗痕が見られる場合は←→で、器体に摩耗痕、光沢が見られる場合はスクリーントーンで範囲を表した。



図I-6 石器の計測方法の模式図

6 遺 跡 の 概 要

中野B遺跡は、函館市街の東方約8kmのところにあり、函館空港現滑走路の東端部に隣接している。地形的には、津軽海峡へ注ぐ小河川、銭亀宮の川河口から700m～800mほど遡った標高40m～50mの左岸段丘上に立地している。川を挟んだ対岸には中野A遺跡があり、中野B遺跡の北東から東側に隣接して石倉貝塚遺跡が位置している。

中野B遺跡は、昭和50年度に進入灯工事区域が函館市教育委員会によって調査されており、貝殻文尖底土器を伴う時期の竪穴住居跡21軒、土壇15基からなる集落跡と、22基のTピットが発見されており、また平成4年・5年度には空港拡張工事に伴い当センターが調査を実施し、同時期の竪穴住居跡347軒、土壇171基の集落跡、41基のTピットが発見されている。銭亀宮の川周辺に営まれた縄文時代早期の集落が、下北半島に広がる文化との密接な関係とともに明らかにされてきている。

表 I - 2 年度別遺構一覧

平成4年度		平成5年度		平成6年度				
	143軒	205軒		96軒				
		南 28軒	北 177軒	A地区 91軒	B地区	C地区5軒	B'地区	
竪 穴 住 居 跡	H-1～5	H-6、16、73、74	H-158～190	H-39、147、153		H-401、		
	H-7～15	H-149～152	H-195	H-351～400		H-403、404		
	H-17～38	H-154～157	H-206～214	H-411～418		H-407		
	H-40～72	H-191～194	H-217～350	H-420～449		H-409		
	H-75～146	H-196～205						
	H-148	H-215、216						
171軒			273軒					
土 壇	70基	85基		95基				
	P-1～70	南 10基	北 75基	A地区 73基	B地区	C地区20基	B'地区2基	
		P-71～74	P-75	P-77、80		P-201～220	P-196、197	
		P-76	P-81、82	P-92～98				
		P-83、84、87	P-85、86	P-167～195				
		P-90、91	P-88、89	P-198～200				
	P-99～166	P-225～256						
80基			170基					
焼 土	4ヵ所	12ヵ所						
	F-1～4	南 1ヵ所	北 11ヵ所					
		F-9	F-5～8					
			F-10～16					
集 石	5ヵ所							
	2ヵ所	1ヵ所						
	S-1～2	南 1ヵ所	北 ——					
		S-3						
3ヵ所								
T P   T	12基	29基		97基				
	T-1～12	南 1基	北 28基	A地区 10基	B地区18基	C地区15基	B'地区54基	
		T-28	T-13～27	T-60～66	T-42～59	T-71～80	T-81～120	
			T-29～41	T-121～123		T-138～142	T-124～137	
13基			125基					

(1) 平成5年度北調査区

平成5年度北調査区は、現進入灯区域の北側に隣接し、銭亀宮の川寄りの地区7,530㎡である。調査区は、標高44m～48m、北東から南西へゆるやかに傾斜している。ほぼ55ライン(東西)の北側は、農地改良のための大がかりな心土破碎が加えられ、V層中まで攪乱、削平され、Ⅲ、Ⅳ層は残存していなかった。ただ調査区北端部の農道や心土破碎のおよんでいない処では、一部にⅢ層が残存していて遺構が検出されている。遺構の大半は調査区の南西側で集中的に重なり合った状態で検出された。検出された遺構、遺物の概要は表Ⅰ－3・4に示すとおりである。住居跡、土壇、焼土は住吉町式土器の段階のものである。ただ平成4年・5年度南で発見されたムシリⅠ式土器を伴う住居跡は2軒(H-165・172)検出されている。住吉町式の中でもより新しい時期に位置付けられる土器(ID2=根崎式土器)を伴う住居跡が発見されている。なお調査区北端部で検出された遺構(竪穴住居跡26軒、土壇29基)は、P-113覆土中で縄文前期の土器が1点出土しただけのため、時期は不明である。ただ住居跡の平面形や構造的なものに南西側のものと明瞭な差異は認められないことなどから考えると、ほぼ縄文時代早期中葉の時期のものとして良いように思われる。

竪穴住居跡は、前年度までと同じようにほぼ環状にまとまっている様子がうかがわれる。著しい重複のため全体は把握し難いが、平面形は隅丸長方形や長円形状のものが多く、方形や円形状のものも見られる。住居内に炉をもつものは少なく、明確に炉跡と判断出来たのはH-175など4軒に過ぎない。規模は長径がほぼ3m～7mの範囲におさまり、5m前後のものが多いようである。支柱穴は1～6個程度で、2本柱ないし4本柱のものが多く、H-164のように10～12個の支柱穴が規則的に配列している例も見られる。平面形や規模に関わりなく壁沿いに支柱穴がめぐっており、支柱穴の外側にジグザグ状に配置された、土止め状の小ピットが並んだ住居跡もあった。

土壇は円形もしくは楕円形状のものが多く、全体に浅い。ただフラスコ状ピット(P-99)や覆土の堆積状態などから土壇墓と考えられるものもある。また復元可能な一括土器や石皿、すり石などを伴う土壇もあった。Tピットは規則的な配列は見られないが、他遺構を壊して構築されていた。

出土遺物は前年度までに比べてやや少ないようである。特に遺構内からの出土量は少なかった。

土器では物見台式、住吉町式、ムシリⅠ式などの土器が多く出土しており、他に表館Ⅵ群、東釧路Ⅲ式、中茶路式、東釧路Ⅳ式、および縄文前期の土器が少量出土している。また縄文晩期の土器が1点出土した。このうち住吉町式土器が圧倒的に多く、全体の80%(住吉町式76%、根崎式4%)にものぼっている。

石器では石鏃、石槍、石匙、筥状石器、スクレイパー、石斧、たたき石、すり石、石皿、砥石、石錘などが出土しており、スクレイパー、石匙、たたき石、すり石、石錘などが比較的多いようである。

表Ⅰ－3 平成5年度北の遺構一覧

竪穴住居跡(軒)	土壇(基)	Tピット(基)	焼土(ヵ所)	合計
177	75	28	11	291

表Ⅰ－4 平成5年度北の出土遺物一覧

土器	I	ⅠA	ⅠB	ⅠD1	ⅠD2	ⅠE	ⅠF	ⅠG	ⅠH	ⅠI	ⅠJ	Ⅱ	V	合計
遺構	17		17	3,416	629	312	3	5		16	4	6	1	4,426
包含層	9		4	12,888	279	1,497	62	572	16	713	778	236		17,054
合計	26		21	16,304	908	1,809	65	577	16	729	782	242	1	21,480

石器	剥片石器群	磨製石器群	礫石器群	その他	合計
遺構	779	10	1,006	11	1,806
包含層	9,578	45	3,935	66	13,624
合計	10,357	55	4,941	77	15,430

(2) 平成 6 年度調査区

平成 6 年度調査区は、A 地区、B 地区、C 地区および B' 地区の 4 カ所で、検出された遺構、出土遺物数の概要は表 I - 5・6 のとおりである。

A 地区は、平成 5 年度北調査区の東側に隣接し、調査面積は 7,800㎡である。調査区は、標高 47.00 m～49.70m で、北北東から南南西方向に若干傾斜している。ただ平成 5 年度北調査区付近ではやや急に傾斜している。ほぼ 55 ライン(東西)の北側は前年度同様、心土破碎により III、IV 層は残存せず、遺物も出土していない。僅かに T ピットが検出されただけである。遺構は前年度に続く南西から南側の部分に集中しており、標高がやや低くなる東側へは広がらないようである。検出された遺構(T ピットを除く)は物見台式、住吉町式土器を伴う時期のもので、住吉町式の中でも新しい時期に位置づけられる根崎式を伴う住居跡も発見されている。

竪穴住居跡は、前年度までと同様環状のまとまりをもっており、大きく東西二つのまとまり地区がうかがえる。著しい切り合いのため全体は把握し難いが、平面形は隅丸長形状、隋円形状のものが多くようである。規模は長径 8 m をこすもの(H-39)もあるが、5 m 以下の浅い皿状に掘り込まれたものが多い。炉跡を伴う住居跡は稀れで、柱穴も 1～数本の主柱と壁沿いをめぐる小ピットからなるが、整然とした配列がうかがえる例は多くない。床面や覆土からの遺物の出土量は少なめである。

土壌には、フラスコ状ピット、土壌墓と思われるもの(P-98)、石皿、すり石、石錘の集中を伴うもの(P-180 など)、すり石などが入った柱穴状の小ピット(P-254)、などがある。フラスコ状ピットは 53 ライン(南北)付近に 17 基まとまっている。これらは径、深さともに 2 m 前後の大型であるのが特徴的である。T ピットは規則的な配列などは認められず、また他遺構を壊して構築されている。

出土土器は、物見台式、住吉町式、ムシリ I 式などの土器が多く出土しており、他に中茶路式、東釧路 IV 式の土器も少量出土している。このうち住吉町式土器が圧倒的に多く、全体の 83% (住吉町式 40%、根崎式 43%) を占めている。

石器では、石錘やすり石、たたき石などの礫石器が多く、他に石鏃、石槍、石匙、筥状石器、スクレイパーなどが出土し、特に石錘、スクレイパーの出土量が多い。

B、C、B' 地区は、遺構確認調査区で、調査面積は 20,600㎡である。遺構、遺物の概要は表 I - 5・6 のとおりである。C 地区の住居跡、土壌の時期は、遺物が 8 点(石器)出土しただけであり、決定し難い。B' 地区は工事中に T ピットが発見されたため、調査区に組み込まれたもので小型のフラスコ状

表 I - 5 平成 6 年度の遺構一覧

	竪穴住居跡(軒)	土壌(基)	T ピット(基)	合 計
A 地区	91	73	10	174
B 地区			18	18
C 地区	5	20	15	40
B' 地区		2	54	56
合 計	96	95	97	288

表 I - 6 平成 6 年度の出土遺物一覧

土 器		I	IA	IB	ID1	ID2	IE	IF	IG	IH	II	IJ	II	V	合 計
遺 構	A 地区	70		94	327	1,009	7								1,507
包 含 層	A 地区	450	1	471	2,245	1,821	10				4	3	1		5,005
合 計		520	1	565	2,572	2,830	17				4	3	1		6,512

石 器		剥片石器群	磨製石器群	礫石器群	その他	合 計
遺 構	A 地区	9,811	1	716		10,528
包 含 層	A 地区	2,555	9	886	17	3,467
	C 地区	4	1	3		8
合 計		12,370	11	1,605	17	14,003

ピット2基とTピットが検出された。B、C、B'地区は縄文時代早期中葉の集落の周縁部に当り、Tピットが多く発見されていることなどから、狩猟場的な空間であったと考えられる。

表Ⅰー7 平成5年度北調査区遺構一覧

住居跡

単位：m

遺構番号	平面形	長軸 (上場 / 下場) × 短軸 (上場 / 下場) × 深さ m	床面積 ㎡	長軸方向	備考
H-158	隅丸長方形	5.94 / 5.70 × 4.25 / 4.00 × 0.22	18.22	N-10°-W	
159	長円形	6.10 / 5.90 × 3.90 / 3.55 × 0.33	17.40	N-80°-W	
160	隅丸長方形	(4.20) / (3.80) × 3.27 / 2.90 × 0.36	9.92	N-17°-E	
161	ほぼ隅丸長方形	6.10 / 5.70 × 5.56 / 5.16 × 0.30	24.94	N-10°-W	
162	隅丸長方形	4.50 / 4.13 × 3.80 / 3.40 × 0.24	11.47	N-51°-E	
163	楕円形	5.40 / 5.00 × (4.90) / (4.50) × 0.35	(18.40)	N-7°-W	
164	隅丸長方形	7.25 / 6.90 × 5.13 / 4.80 × 0.32	28.72	N-60°-E	
165	楕円形	6.50 / 6.20 × 5.06 / 4.70 × 0.28	21.72	N-70°-E	
166	〃	4.30 / 4.03 × 4.22 / 3.84 × 0.24	12.62	N-5°-E	
167	隅丸長方形	6.14 / 5.77 × 4.33 / 4.00 × 0.28	19.23	W-E	
168	〃	(3.90) / (3.70) × 3.90 / 3.75 × 0.25	(10.42)	――	
169	楕円形	5.87 / 5.40 × (4.53) / (3.90) × 0.37	(17.73)	N-50°-E	
170	〃	5.90 / 4.56 × 4.52 / 4.00 × 0.32	18.11	N-71°-E	
171	隅丸方形	3.93 / 3.32 × 3.74 / 3.40 × 0.28	10.12	――	
172	〃	3.00 / 2.80 × 2.56 / 2.34 × 0.31	5.41	N-20°-W	
173	楕円形	6.20 / 5.84 × 5.07 / 4.78 × 0.30	20.53	N-19°-W	
174	隅丸長方形	―― / ―― × 4.50 / 4.12 × 0.25	(24.40)	N-47°-E	
175	楕円形	5.40 / 5.04 × 4.30 / 3.90 × 0.24	14.61	N-12°-E	焼土あり
176	――	―― / ―― × ―― / ―― × (0.29)	――	――	
177	――	―― / ―― × ―― / ―― × (0.25)	――	――	
178	長円形	5.90 / 5.74 × (4.80) / (4.47) × 0.22	(19.79)	N-35°-E	
179	台形	5.16 / 4.90 × 5.00 / 4.72 × 0.30	18.64	N-25°-E	
180	隅丸長方形	(4.70) / (4.20) × 3.14 / 2.80 × 0.30	(11.08)	N-10°-W	
181	隅丸方形	5.16 / 4.37 × 4.64 / 3.94 × 0.48	14.47	N-32°-E	炭化物あり
182	長円形	5.15 / 4.51 × 3.80 / 3.32 × 0.30	12.66	N-50°-E	
183	円形	4.56 / 4.20 × 4.20 / 3.56 × 0.26	11.53	N-27°-E	
184	楕円形	6.22 / 5.75 × 4.95 / 4.25 × 0.32	16.42	N-35°-W	
185	円形	4.27 / 4.40 × (3.05) / (2.88) × 0.22	(13.19)	N-25°-E	
186	長円形	4.40 / 4.10 × 3.64 / 3.44 × 0.40	10.95	N-18°-W	
187	隅丸長方形	5.46 / 5.18 × 5.15 / 4.90 × 0.23	21.09	N-13°-W	
188	〃	5.70 / 5.26 × (5.10) / (4.70) × 0.22	19.44	N-72°-W	
189	〃	(5.60) / (5.20) × 4.36 / (4.10) × 0.26	20.24	N-56°-E	
190	〃	6.45 / 6.00 × (5.54) / (5.20) × 0.20	25.47	N-35°-W	
195	――	―― / ―― × ―― / ―― × (0.25)	――	――	
206	――	―― / ―― × 3.33 / 3.06 × 0.15	――	N-70°-E	
207	(隅丸長方形?)	―― / ―― × ―― / ―― × ――	――	――	
208	隅丸長方形	6.84 / 6.50 × 5.76 / 5.52 × 0.30	29.41	N-57°-E	
209	〃	(3.80) / (2.74) × (2.36) / (2.00) × 0.14	( 5.11)	N-25°-E	
210	〃	5.12 / 5.00 × (4.60) / (4.20) × 0.30	(21.45)	N-13°-E	
211	――	―― / ―― × ―― / ―― × ――	――	――	焼土?
212	隅丸長方形?	―― / ―― × 4.30 / 4.05 × 0.21	(17.80)	N-40°-E	
213	――	―― / ―― × ―― / ―― × ――	――	――	
214	隅丸方形	2.90 / 2.60 × 2.66 / 2.50 × 0.30	5.37	N-67°-W	
217	隅丸長方形?	―― / ―― × 3.54 / 3.20 × 0.30	(11.09)	――	
218	長円形	―― / ―― × 3.60 / 3.25 × 0.40	(10.89)	N-75°-E	
219	長円形	(4.00) / (3.65) × 3.50 / 3.14 × 0.32	( 8.72)	N-50°-W	
220	隅丸方形	(4.68) / (4.40) × 4.40 / 4.03 × 0.22	(16.33)	N-60°-W	
221	――	6.80 / 6.50 × ―― / ―― × 0.19	(27.30)	――	
222	――	―― / ―― × ―― / ―― × ――	――	――	
223	――	―― / ―― × ―― / ―― × ――	――	――	
224	楕円形?	―― / ―― × ―― / ―― × ――	(23.87)	――	
225	楕円形	4.55 / 3.95 × 3.80 / 3.30 × 0.18	10.49	N-41°-W	
226	不整円形	4.45 / 4.10 × 3.61 / 3.35 × 0.32	10.43	N-75°-W	
227	円形	4.31 / 3.88 × 3.65 / 3.25 × 0.45	9.91	N-87°-W	

遺構番号	平面形	長軸 (上場 / 下場) × 短軸 (上場 / 下場) × 深さ m	床面積 m <sup>2</sup>	長軸方向	備考
H-228	————	—— / —— × —— / —— × ——	——	————	
229	————	—— / —— × —— / —— × ——	——	————	
230	隅丸長方形	(3.68) / (3.50) × 2.96 / 2.70 × 0.24	( 7.68)	N-24°-E	
231	〃	(4.00) / (3.70) × 3.50 / 3.20 × 0.24	( 9.53)	N-20°-E	
232	————	—— / —— × —— / —— × ——	——	————	
233	隅丸長方形	5.00 / 4.80 × (4.30) / —— × 0.16	(15.20)	N-71°-E	
234	————	—— / —— × —— / —— × ——	——	————	
235	————	—— / —— × —— / —— × ——	——	————	
236	————	—— / —— × —— / —— × ——	——	————	
237	隅丸長方形	5.60 / 5.30 × —— / —— × 0.26	(15.34)	N-42°-W	
238	長円形状	(4.64) / (4.40) × 3.51 / 3.29 × 0.24	(11.42)	N-24°-W	
239	————	—— / —— × —— / —— × ——	——	————	
240	楕円形状	—— / —— × 3.12 / 2.80 × 0.16	( 9.82)	————	
241	長円形	4.60 / 4.30 × 3.35 / 3.05 × 0.25	11.87	N-50°-W	
242	隅丸方形	3.55 / 3.15 × 3.50 / 3.10 × 0.40	10.24	N-58°-W	
243	円形状	3.60 / 3.15 × 3.40 / 3.00 × 0.25	9.58	N-55°-E	
244	長円形状	4.15 / 3.80 × (3.20) / (2.90) × 0.20	(10.87)	N-60°-W	
245	円形状	—— / —— × 3.75 / 2.90 × 0.20	( 9.30)	N-55°-W	
246	長円形状	3.90 / 3.70 × 2.75 / 2.50 × 0.20	9.93	N-60°-E	
247	円形状	2.67 / 2.45 × 2.55 / 2.37 × 0.15	7.32	N-75°-E	
248	長円形状	(4.00) / —— × 2.90 / 2.55 × 0.25	(10.09)	N-60°-E	
249	隅丸長方形	3.30 / 3.05 × 2.80 / 2.55 × 0.30	9.28	N-35°-W	
250	隅丸長方形	(5.50) / —— × 5.20 / 4.80 × 0.20	(15.85)	N-15°-E	
251	卵形	5.00 / 4.70 × 4.70 / 4.30 × 0.40	14.89	N-52°-E	
252	長円形	—— / —— × 3.30 / 3.00 × 0.20	(10.89)	N-60°-E	
253	〃	4.90 / 4.65 × 2.75 / 2.55 × 0.25	10.03	N-45°-E	
254	〃	3.95 / 3.70 × 2.80 / 2.55 × 0.25	7.75	N-45°-W	
255	長円形状	4.50 / 4.10 × —— / —— × 0.25	(10.41)	N-85°-E	
256	長円形状 ?	—— / —— × —— / 3.50 × 0.35	(13.19)	N-40°-W	
257	円形状	3.65 / 3.35 × 3.40 / 3.10 × 0.25	9.71	N- 5°-W	
258	隅丸長方形	—— / —— × 4.15 / 3.75 × 0.25	(14.30)	N-20°-W	
259	隅丸方形	4.45 / 4.07 × 4.05 / 3.80 × 0.30	13.05	N-20°-W	
260	長円形状	—— / —— × 3.05 / 2.75 × 0.30	(10.97)	N-15°-E	
261	楕円形状	6.40 / 6.04 × 5.60 / 5.30 × 0.30	14.57	N-77°-W	
262	不整五角形状	6.28 / 5.74 × 5.40 / 4.96 × 0.26	13.53	N-65°-E	
263	隅丸長方形	6.60 / 6.40 × (4.50) / (4.30) × 0.30	(16.07)	N-55°-W	
264	〃	5.35 / 4.88 × 4.20 / 3.83 × 0.29	12.97	N-72°-W	
265	————	—— / —— × —— / —— × (0.30)	——	————	
266	不整円形	3.57 / 3.24 × 3.10 / 2.86 × 0.12	7.25	N-78°-E	
267	長円形	(5.10) / (4.73) × (4.10) / (3.74) × 0.26	(13.77)	N-44°-W	
268	————	—— / —— × —— / —— × ——	——	————	
269	————	—— / —— × —— / —— × (0.26)	——	————	
270	————	7.40 / 7.20 × —— / —— × 0.30	(24.86)	N-71°-W	
271	不整五角形	6.32 / 5.84 × (5.38) / (4.87) × 0.32	(17.83)	N-20°-E	
272	————	—— / —— × —— / —— × (0.24)	——	————	
273	————	—— / —— × —— / —— × (0.22)	——	————	
274	————	—— / —— × 3.86 / 3.35 × 0.23	——	N-11°-W	
275	————	—— / —— × —— / —— × ——	——	————	
276	長円形状	(5.72) / (5.24) × 4.98 / 4.70 × 0.25	(14.44)	N-82°-E	
277	円形状	4.20 / 3.92 × 4.13 / 3.80 × 0.22	9.41	————	
278	不整円形状	(2.82) / (2.60) × (2.70) / (2.60) × 0.18	( 5.60)	N-69°-W	
279	楕円形状	3.32 / 3.10 × (2.76) / (2.40) × 0.20	——	N-S	
280	円形状	3.45 / 3.07 × —— / —— × 0.15	( 7.81)	————	
281	長円形 ?	(4.90) / (4.55) × (3.20) / (2.90) × 0.28	(11.94)	————	
282	————	—— / —— × —— / —— × (0.35)	——	N-30°-E	
283	————	—— / —— × 6.90 / 6.30 × (0.35)	——	N- 8°-W	
284	隅丸長方形	5.40 / 5.10 × 3.45 / 3.05 × 0.20	13.82	N-25°-W	
285	————	—— / —— × —— / —— × ——	——	————	
286	————	—— / —— × 2.85 / 2.55 × 0.27	——	N-15°-W	
287	長円形	5.35 / 5.10 × 4.35 / 4.00 × 0.25	15.35	N-80°-E	
288	————	—— / —— × 4.80 / 4.45 × 0.30	——	N-20°-E	

遺構番号	平 面 形	長 軸 (上場 / 下場) × 短 軸 (上場 / 下場) × 深さ m	床面積 ㎡	長 軸 方 向	備 考
H-289	————	—— / —— × 3.55 / 3.20 × 0.23	——	N-45°-E	
290	————	2.68 / 2.45 × —— / —— × 0.23	——	————	
291	————	—— / —— × —— / —— × (0.15)	——	————	
292	————	—— / —— × 3.50 / 3.12 × 0.14	( 8.25)	N-13°-W	
293	————	—— / —— × 3.45 / 3.10 × 0.30	——	————	/
294	————	—— / —— × 4.00 / 3.75 × 0.30	——	————	
295	————	—— / —— × —— / —— × ——	——	————	
296	————	—— / —— × —— / —— × ——	——	————	
297	————	—— / —— × —— / —— × ——	——	————	
298	————	—— / —— × —— / —— × ——	——	————	
299	————	—— / —— × —— / —— × ——	——	————	
300	————	—— / —— × —— / —— × ——	——	————	
301	隅丸長方形形状	3.20 / 3.00 × 2.80 / 2.70 × 0.16	6.25	N-30°-W	
302	隅丸長方形形状？	—— / —— × 3.50 / 3.30 × 0.18	(10.75)	N-85°-W	
303	————	—— / —— × —— / —— × ——	——	————	
304	————	—— / —— × —— / —— × ——	——	————	
305	隅丸長方形形状	4.35 / 4.08 × —— / —— × 0.30	(10.68)	N-46°-E	焼土痕？
306	————	—— / —— × —— / —— × ——	——	————	
307	————	—— / —— × —— / —— × ——	——	————	
308	————	—— / —— × —— / —— × ——	——	————	
309	隅丸長方形形状	(5.00) / —— × 3.45 / 3.20 × 0.22	(13.93)	N-75°-E	
310	円 形 状	4.00 / 3.60 × 3.90 / 3.67 × 0.25	(10.39)	————	
311	————	—— / —— × —— / —— × ——	——	————	
312	————	—— / —— × —— / —— × ——	——	————	
313	————	—— / —— × —— / —— × ——	——	————	
314	楕 円 形 状	(4.20) / —— × 3.60 / 3.27 × 0.32	(10.00)	N- 8°-W	
315	————	—— / —— × —— / —— × ——	——	————	
316	隅丸長方形形状？	7.30 / 6.80 × (4.05) / —— × 0.22	(21.21)	N-40°-E	
317	————	—— / —— × —— / —— × ——	——	————	
318	————	—— / —— × —— / —— × ——	——	————	
319	————	—— / —— × —— / —— × ——	——	————	
320	————	—— / —— × —— / —— × ——	——	————	
321	————	—— / —— × —— / —— × ——	——	————	
322	————	—— / —— × —— / —— × ——	——	————	
323	————	—— / —— × —— / —— × ——	——	————	
324	————	—— / —— × —— / —— × ——	——	————	
325	————	—— / —— × —— / —— × ——	——	————	
326	————	—— / —— × —— / —— × ——	——	————	
327	————	—— / —— × —— / —— × ——	——	————	
328	隅丸長方形形状	4.12 / 3.90 × 3.60 / 3.23 × 0.24	10.48	N-14°-E	
329	円 形 ？	3.00 / 2.70 × —— / —— × 0.20	——	N- 5°-W	
330	円 形 状	2.65 / 2.47 × 2.45 / 2.20 × 0.20	4.15	N-30°-W	
331	円 形 状	—— / —— × 3.50 / 3.25 × 0.18	(10.60)	N-60°-E	地床炉？
332	隅 丸 方 形 状	3.20 / 2.95 × —— / —— × 0.23	( 6.75)	N-80°-W	
333	円 形 ？	—— / —— × —— / —— × (0.12)	——	N-35°-W	
334	円 形 ？	3.65 / 3.45 × —— / —— × 0.17	——	————	地床炉？
335	————	—— / —— × —— / —— × ——	——	————	
336	長 円 形	3.15 / 2.80 × 2.60 / 2.20 × 0.19	5.19	N-15°-E	
337	————	—— / —— × —— / —— × (0.12)	——	————	
338	————	—— / —— × —— / —— × ——	——	————	
339	————	—— / —— × —— / —— × ——	——	————	
340	————	—— / —— × —— / —— × ——	——	————	
341	————	—— / —— × —— / —— × ——	——	————	
342	————	—— / —— × —— / —— × ——	——	————	
343	————	—— / —— × —— / —— × ——	——	————	
344	————	—— / —— × —— / —— × ——	——	————	
345	隅 丸 方 形 状	2.16 / 1.90 × 2.16 / 1.88 × 0.22	3.20	————	
346	隅丸長方形形状	2.60 / 2.40 × 2.00 / 1.80 × 0.18	3.64	N-50°-W	
347	隅 丸 方 形 ？	3.30 / 3.10 × —— / —— × 0.10	( 7.73)	N-70°-W	
348	長 円 形	4.20 / 4.10 × 3.25 / 3.15 × 0.10	10.79	N-30°-E	
349	円 形 ？	3.80 / 3.65 × —— / —— × 0.12	——	N-65°-E	

遺構番号	平面形	長軸 (上場 / 下場) × 短軸 (上場 / 下場) × 深さ m	床面積 ㎡	長軸方向	備考
H-350	楕円形状	(4.88)/(4.40) × (3.40)/(3.20) × 0.20	(12.14)	N-S	

## 土 壌

単位：m

遺構番号	発掘区	平面形	長軸 (上場 / 下場) × 短軸 (上場 / 下場) × 深さ m	長軸方向	備考
P-75	37-44	隅丸長方形形状	1.00 / 0.78 × 0.84 / 0.74 × 0.37	N-70°-E	土壌墓?
81	39-42	〃	1.20 / 0.99 × 1.07 / 0.88 × 0.40	N-63°-E	
82	<sup>38-42・43</sup> 39-42・43	長円形状	2.33 / 1.96 × (2.04)/(1.75) × 0.32	N-70°-E	
85	41-45	隅丸長方形形状?	1.51 / 1.28 × — / — × 0.23	—	墳底面で石鍾1点出土
86	42-43	楕円形状	— / — × 1.04 / 0.70 × 0.32	—	
88	40-42	—	(2.13)/(1.60) × (1.66)/(1.20) × 0.32	—	
89	41-54	円形状	1.93 / 1.30 × (1.90)/1.30 × 0.32	—	
99	39-47	長円形状	1.17 / 0.83 × 1.12 / 0.68 × 0.58	N-50°-W	フラスコ状ビット (小)
100	<sup>42-42</sup> 43-42	—	— / — × — / — × —	—	
101	37-42	長円形状	(2.50)/(2.10) × 2.10 / 1.68 × 0.30	N-23°-W	土器184点、石鍾9点出土
102	40-41・42	楕円形状	1.57 / 0.92 × 1.24 / 0.78 × 0.46	N-30°-W	土壌墓?
103	46-43・44	長円形	1.95 / 1.73 × 1.40 / 1.15 × 0.23	N-50°-E	
104	<sup>40-49</sup> 41-49	円形	1.26 / 0.94 × 1.13 / 0.82 × 0.24	N-65°-E	
105	37-42	隅丸長方形形状?	(1.00)/(0.68) × (0.96)/(0.60) × 0.32	N-71°-W	
106	39-43	長円形状?	1.33 / 1.14 × — / — × 0.23	—	
107	38-43	—	— / — × (1.40)/(1.23) × 0.23	—	
108	<sup>37-43</sup> 38-43	—	— / — × 1.92 / 1.60 × 0.22	—	
109	38-42・43	長円形	1.74 / 1.52 × 1.63 / 1.36 × 0.23	N-25°-W	
110	37-41・42	隅丸長方形形状	(1.20)/(1.00) × 0.96 / 0.78 × 0.24	N-58°-E	
111	38-43・44	楕円形状	2.34 / 2.08 × (2.15)/(1.85) × 0.24	N-48°-E	
112	39-43・44	〃	(1.92)/(1.70) × 1.74 / 1.27 × 0.29	N-49°-E	
113	55-65・66	隅丸長方形形状	1.95 / 1.63 × 1.53 / 1.19 × 0.25	N-40°-E	P.D.4の堆積あり、縄文前期の土器出土
114	54-63・66	楕円形状	1.10 / 0.98 × (0.87)/(0.70) × 0.18	N-45°-E	
115	45-45	〃	1.28 / 1.08 × (1.04)/(0.96) × 0.22	N-57°-E	
116	<sup>42-49・50</sup> 43-49・50	〃	— / — × 1.66 / 1.33 × 0.22	N-67°-W	
117	48-47	—	— / — × — / — × —	—	
118	47-47	—	— / — × — / — × —	—	
119	38-50・51	楕円形状	1.00 / 0.92 × (0.76)/(0.74) × 0.26	N-2°-E	フラスコ状ビット? (小)
120	57-67	不整楕円形	1.70 / 1.29 × 0.86 / 0.66 × 0.22	N-9°-E	
121	56-67	隅丸長方形形状	(1.70)/(1.40) × 1.54 / 1.28 × 0.26	N-23°-E	
122	39-52	円形	0.51 / 0.32 × 0.36 / 0.28 × 0.34	N-63°-W	覆土中で研磨石材1点出土
123	<sup>56-67</sup> 57-67	楕円形状	1.14 / 1.02 × (0.66)/(0.52) × 0.08	N-23°-E	
124	55-67	卵形?	(1.82)/(1.74) × 1.84 / 1.45 × 0.25	N-27°-W	
125	<sup>40-41</sup> 41-41	隅丸長方形形状	— / — × 1.10 / 0.83 × 0.14	N-18°-W	
126	38-44	隅丸方形形状	0.86 / 0.64 × 0.83 / 0.62 × 0.17	N-17°-W	石皿あり土壌墓?
127	40-43	長円形状	— / — × 0.97 / 0.68 × 0.15	N-18°-W	P-126と酷似石皿あり
128	38-46	隅丸長方形形状	1.83 / 1.60 × 1.51 / 1.23 × 0.40	N-21°-E	
129	42-42	円形状	0.47 / 0.15 × 0.46 / 0.15 × 0.30	—	
130	39-43	円形状?	(1.66)/(1.22) × (1.60)/(1.28) × 0.25	—	
131	42-42	長円形状	(1.06)/0.84 × 0.92 / 0.70 × 0.22	N-S	
132	41-42・43	楕円形状	(1.29)/(0.98) × 1.00 / 0.72 × 0.28	N-15°-E	
133	38-47	隅丸方形形状	1.00 / 0.76 × (1.00)/0.68 × 0.18	—	
134	42-45	隅丸長方形	(1.60)/(1.24) × 1.16 / 0.76 × 0.23	N-30°-W	
135	<sup>46-47</sup> 47-47	楕円形状	— / — × — / — × —	—	
136	42-45	〃	1.25 / 1.08 × 0.85 / 0.64 × 0.13	N-S	
137	<sup>39-43</sup> 40-43	—	— / — × — / — × —	—	
138	56-61	長円形	1.34 / 1.10 × 1.20 / 0.80 × 0.20	N-85°-E	
139	54-62	〃	1.40 / 1.00 × 1.15 / 0.82 × 0.18	N-85°-E	
140	40-41・42	円形状	0.49 / 0.10 × 0.44 / 0.11 × 0.19	—	
141	35-44	〃	0.56 / 0.22 × 0.56 / 0.25 × 0.19	—	
142	35-44	〃	0.94 / 0.49 × 0.97 / 0.53 × 0.32	—	
143	35-42	楕円形状	1.18 / 0.87 × 0.90 / 0.63 × 0.21	N-74°-E	
144	<sup>56-63</sup> 57-63	不整楕円形	1.60 / 0.58 × 0.94 / 0.65 × 0.31	N-60°-E	
145	56-64	楕円形	1.79 / 0.67 × 0.92 / 0.68 × 0.23	N-55°-E	
146	57-65・66	不整隅丸長方形	1.43 / 0.80 × 0.92 / 0.32 × 0.34	N-17°-E	
147	58-66	隅丸長方形形状	1.54 / 0.47 × 0.94 / 0.50 × 0.30	N-55°-E	



遺構番号	発掘区	平面形	長軸 (上場 / 下場) × 短軸 (上場 / 下場) × 深さ m	長軸方向	備考
P-148	58-66	不整隅丸長方形	1.66 / 1.13 × 1.00 / 0.59 × 0.30	N-25°-W	
149	58-66	楕円形?	— / — × 0.92 / 0.40 × 0.22	N-65°-W	
150	<del>57-66</del> 58-66	円形状	0.96 / 0.68 × 0.92 / 0.58 × 0.30	—	
151	<del>57-67</del> 58-67	隅丸長方形	1.08 / 0.56 × 0.84 / 0.46 × 0.27	N-50°-W	
152	57-66・67	楕円形状	1.38 / 0.85 × 1.18 / 0.54 × 0.20	N-80°-E	
153	<del>54-66</del> 55-66	—	1.32 / 0.50 × 0.62 / 0.37 × 0.18	N-52°-E	
154	54-56	円形状	0.62 / 0.46 × 0.51 / 0.36 × 0.18	N-63°-W	土壇基? 一掃土器 すり石・石皿出土
155	54-56	—	0.74 / 0.41 × 0.72 / 0.47 × 0.20	N-30°-W	P-154と酷似
156	36-44	楕円形	0.60 / 0.33 × 0.50 / 0.30 × 0.20	N-S	すり石2点出土
157	59-63	円形	0.68 / 0.46 × 0.68 / 0.48 × 0.14	—	
158	59-63	長円形	1.44 / 0.35 × (0.80) / 0.30 × 0.32	N-60°-E	
159	57-64	楕円形	0.94 / 0.40 × 0.50 / 0.32 × 0.20	N-52°-E	
160	58-64・65	隅丸長方形	0.90 / 0.31 × 0.52 / 0.36 × 0.18	N-62°-E	
161	58-67	円形状	0.58 / 0.30 × 0.52 / 0.28 × 0.16	—	
162	58-67・68	楕円形	0.80 / 0.39 × 0.64 / 0.30 × 0.12	N-8°-E	
163	57-66	隅丸形状	0.48 / 0.28 × 0.42 / 0.23 × 0.12	N-30°-E	
164	59-67	長円形状	0.96 / 0.72 × 0.55 / 0.40 × 0.12	N-53°-E	
165	59-66・67	楕円形状	0.88 / 0.45 × 0.71 / 0.37 × 0.22	N-38°-E	
166	56-62	楕円形	1.10 / 0.75 × 0.83 / 0.59 × 0.20	W-E	

Tピット

単位: m

遺構番号	発掘区	平面形	長軸 (上場 / 下場) × 短軸 (上場 / 下場) × 深さ m	長軸方向	備考
T-13	42-45	溝状	3.24 / 3.35 × 1.00 / 0.14 × 1.26	N-28°-E	
14	<del>41-50</del> 42-49・50	—	4.00 / 3.86 × 1.10 / 0.26 × 1.36	N-20°-W	
15	<del>43-51</del> 44-51・52	—	4.54 / 4.02 × 0.82 / 0.27 × 1.06	N-53°-E	
16	<del>36-43</del> 37-43・44	—	3.22 / 3.70 × 0.84 / 0.20 × 1.23	N-29°-W	
17	<del>40-47</del> 41-47	—	4.30 / 3.76 × 0.71 / 0.19 × 0.92	N-9°-E	
18	41-41	溝状?	— / — × 0.78 / 0.20 × 1.26	N-11°-W	
19	<del>41-41</del> 42-41	溝状	3.60 / 3.00 × 0.80 / 0.26 × 1.35	N-86°-W	
20	<del>45-51</del> 46-52	—	3.50 / 3.18 × 0.80 / 0.31 × 0.83	N-18°-E	
21	41-51	不整溝状	2.60 / 2.26 × 0.92 / 0.20 × 0.88	N-56°-E	
22	<del>42-42</del> 43-42	溝状	3.14 / 3.19 × 0.78 / 0.23 × 1.20	N-31°-W	
23	43-46	—	3.10 / 3.10 × 0.73 / 0.16 × 1.16	N-9°-E	
24	<del>49-57</del> 50-57・58	—	3.38 / 2.54 × 0.35 / 0.26 × 0.60	N-40°-W	
25	<del>46-56</del> 47-56	—	2.87 / 2.80 × 0.60 / 0.08 × 0.83	N-80°-E	
26	<del>38-48</del> 39-48	—	3.12 / 2.90 × 0.75 / 0.12 × 1.22	N-80°-E	
27	<del>39-47</del> 40-47	—	3.62 / 4.00 × 0.78 / 0.24 × 1.24	N-50°-W	
29	42-43・44	—	2.71 / 2.80 × 0.52 / 0.16 × 1.15	N-7°-E	
30	<del>43-45</del> 44-45・46	—	3.54 / 3.75 × 0.82 / 0.18 × 1.26	N-15°-E	
31	43-43	—	3.60 / 3.40 × 0.60 / 0.18 × 0.80	N-10°-E	
32	<del>43-41</del> 44-41・42	—	3.20 / 3.40 × 0.70 / 0.22 × 1.12	N-35°-E	
33	<del>45-46</del> 45-47	—	3.17 / 3.30 × 0.35 / 0.24 × 1.06	N-9°-E	
34	<del>45-41</del> 46-41・42	—	3.50 / 3.60 × 0.60 / 0.27 × 0.90	N-75°-E	
35	45-41	—	— / — × 0.54 / 0.24 × 0.98	N-65°-E	
36	<del>44-41</del> 45-41	—	3.70 / 3.90 × 0.64 / 0.18 × 1.09	N-75°-W	
37	38-44・45	—	3.64 / 3.68 × 0.76 / 0.16 × 1.22	N-8°-E	
38	38-48	—	3.66 / 3.70 × 0.88 / 0.40 × 1.09	N-57°-W	
39	<del>46-43</del> 47-43・44	—	3.10 / 2.74 × 0.95 / 0.24 × 1.05	N-15°-W	
40	36-45・46	—	— / — × (1.00) / (0.17) × 1.12	N-36°-W	
41	45-50	—	3.26 / 2.94 × 0.50 / 0.37 × 0.84	N-48°-E	

表 I-8 平成6年度調査区遺構一覧

住居跡

単位：m

遺構番号	平面形	長軸 (上場 / 下場) × 短軸 (上場 / 下場) × 深さ m	床面積 ㎡	長軸方向	備考
H-39	楕円形	8.20 / 6.80 × 6.68 / 5.68 × 0.72	20.17	N-60°-W	地床炉
147	長円形	5.47 / 5.16 × 3.07 / 2.87 × 0.30	11.58	N-14°-E	
153	隅丸長方形	5.10 / 4.80 × 4.15 / 3.80 × 0.30	15.53	N-38°-E	
351	隅丸長方形	4.95 / 4.65 × 4.30 / 4.05 × 0.35	17.79	N-10°-W	灰炉跡?
352	不整円形	6.20 / 5.78 × 5.78 / 5.15 × 0.32	16.15	N-31°-W	
353	隅丸方形	(3.95) / (3.72) × 3.56 / 3.32 × 0.31	(10.57)	N-17°-W	
354	———	—— / —— × 2.64 / 2.00 × 0.37	( 3.68)	———	
355	隅丸長方形	—— / —— × 3.53 / 3.15 × 0.35	(10.15)	N-27°-E	2本柱
356	円形状	5.18 / 4.67 × 4.80 / 4.32 × 0.46	16.30	N-45°-W	
357	隅丸長方形	5.83 / 5.45 × 3.95 / 3.60 × 0.30	17.60	N-55°-E	
358	長円形状	6.20 / 5.85 × 4.00 / 3.60 × 0.28	17.48	N-45°-E	
359	隅丸方形	2.60 / 2.30 × 2.30 / 1.88 × 0.28	2.73	N-45°-E	
360	円形状	3.20 / 3.12 × 3.30 / 3.12 × 0.20	7.77	———	4本柱?
361	隅丸長方形	(4.20) / (3.80) × (3.60) / (3.20) × 0.44	(12.00)	N-20°-E	4本柱?
362	———	—— / —— × —— / —— × ——	——	———	
363	隅丸長方形	(3.92) / (3.76) × (2.24) / (2.08) × 0.22	——	N-53°-W	
364	〃	3.97 / 3.73 × (2.52) / (2.40) × 0.20	( 9.40)	N-69°-E	
365	長円形状	6.70 / 6.55 × 4.65 / 4.20 × 0.30	17.21	N-50°-E	
366	隅丸方形	5.85 / 5.55 × 4.00 / 3.65 × 0.30	21.78	N-60°-W	
367	円形状	3.90 / 3.55 × 3.65 / 3.35 × 0.30	9.01	N- 5°-E	
368	隅丸方形	3.22 / 2.85 × 3.35 / 3.02 × 0.43	7.34	———	
369	隅丸長方形	(4.88) / (4.72) × 4.44 / 4.31 × 0.20	(22.71)	N-52°-E	
370	長円形状	3.42 / 2.84 × (3.00) / (2.30) × 0.38	5.49	N-34°-W	
371	隅丸長方形	4.72 / 4.20 × 3.85 / 3.40 × 0.35	11.20	W-E	
372	〃	3.72 / 3.16 × 3.21 / 2.64 × 0.40	6.59	N-18°-E	
373	———	—— / —— × —— / —— × ——	——	———	
374	———	—— / —— × —— / —— × ——	——	———	
375	隅丸長方形	3.35 / 2.80 × 2.64 / 2.30 × 0.22	5.45	N-53°-W	
376	不整楕円形	5.90 / 5.30 × 5.02 / 4.96 × 0.20	19.84	N-30°-E	
377	隅丸方形	4.90 / 4.40 × 4.65 / 4.25 × 0.35	16.22	N-20°-E	
378	———	—— / —— × —— / —— × ——	——	———	
379	———	—— / —— × —— / —— × ——	——	———	
380	台形状	(3.40) / (2.70) × (2.90) / 2.40 × 0.40	( 5.36)	N-68°-W	
381	円形状	4.70 / 4.01 × 4.64 / 4.00 × 0.28	12.97	N-25°-W	
382	楕円形	5.18 / 4.73 × 4.28 / 3.87 × 0.24	13.48	N- 4°-W	
383	不整楕円形	5.78 / 5.36 × 4.68 / 4.38 × 0.24	18.57	N-25°-W	
384	楕円形	—— / —— × 4.00 / 3.50 × 0.20	(17.18)	N-22°-E	
385	隅丸長方形	(4.20) / (3.98) × 2.55 / 2.17 × 0.22	( 7.60)	N-51°-W	
386	〃	5.45 / 5.15 × 3.64 / 3.35 × 0.20	15.31	N-28°-W	
387	台形状?	3.47 / 3.14 × 2.90 / 2.64 × 0.21	6.20	N-78°-E	
388	長円形状	5.10 / 4.70 × 4.60 / 4.20 × 0.35	16.00	N- 3°-E	
389	長円形	6.45 / 6.00 × 5.20 / 4.80 × 0.32	16.84	N-80°-E	
390	円形状	4.07 / 3.41 × —— / 3.15 × 0.34	(10.18)	N-12°-W	
391	隅丸長方形	4.70 / 4.46 × —— / —— × 0.15	(14.82)	W-E	
392	長円形状	5.25 / 4.95 × 3.50 / 3.15 × 0.25	13.33	N-70°-E	
393	隅丸長方形	4.60 / 4.25 × —— / —— × 0.27	(12.53)	N-75°-W	
394	長円形状	4.70 / 4.40 × 3.70 / 3.30 × 0.30	12.42	N-65°-W	
395	円形状	5.35 / 4.94 × —— / —— × 0.20	(16.03)	N- 9°-E	
396	不整楕円形	4.74 / 4.24 × —— / —— × 0.18	(12.21)	N-35°-E	
397	隅丸長方形	4.35 / 4.15 × 2.66 / 2.36 × 0.12	11.29	N-31°-W	
398	〃	5.70 / 5.32 × 3.75 / 3.46 × 0.10	12.95	N-55°-E	
399	隅丸方形	(2.95) / 2.60 × 2.92 / 2.47 × 0.08	( 8.63)	N-29°-E	
400	———	—— / —— × —— / —— × (0.15)	(15.29)	———	
401	———	—— / —— × —— / —— × ——	——	———	C地区
403	———	—— / —— × —— / —— × ——	——	———	C地区
404	隅丸長方形	2.62 / 2.46 × 1.90 / 1.68 × 0.27	3.66	N-35°-W	C地区
407	〃	4.24 / 3.98 × 3.02 / 2.82 × 0.20	( 9.11)	N-48°-W	C地区
409	———	—— / —— × —— / —— × ——	——	———	C地区

遺構番号	平面形	長 軸 (上場 / 下場) × 短 軸 (上場 / 下場) × 深さ m	床面積 ㎡	長軸方向	備 考
H-411	隅 丸 方 形	4.25 / 3.90 × — / — × 0.28	(13.04)	N-80°-W	
412	円 形 状	— / 3.18 × 3.12 / 2.76 × 0.26	( 6.58)	N-S	
413	〃	— / — × 5.34 / 5.02 × 0.34	(20.14)	N-74°-E	
414	〃	4.60 / 4.02 × 4.05 / 3.48 × 0.23	10.52	N-63°-E	
415	〃	— / — × 4.35 / 3.80 × 0.42	(13.05)	—	
416	長 円 形 状	— / — × 3.65 / 3.35 × 0.30	(16.04)	N-25°-W	
417	円 形 状 ?	3.70 / 3.35 × — / — × 0.32	(10.61)	—	
418	長 円 形 状	4.15 / 3.75 × 3.40 / 3.10 × 0.30	9.18	N-35°-W	
420	隅丸長方形状	4.30 / 4.00 × — / — × 0.20	(11.17)	W-E	
421	—	— / — × — / — × —	—	—	
422	長 円 形 状	— / — × 3.45 / 3.15 × 0.25	(14.33)	N-40°-E	
423	隅 丸 方 形 状	5.40 / 5.10 × — / — × 0.20	(21.00)	N-5°-E	
424	長 円 形 状	6.15 / 5.80 × — / — × 0.25	(15.67)	N-65°-E	
425	〃	— / — × 5.25 / 4.95 × 0.25	(18.91)	N-15°-W	
426	円 形 ?	4.65 / 4.47 × 4.30 / 4.00 × 0.24	13.36	N-55°-E	
427	長 円 形	5.20 / 4.95 × 3.75 / 3.40 × 0.23	13.54	N-25°-W	
428	〃	4.95 / 4.70 × 4.00 / 3.75 × 0.25	12.47	N-5°-E	炭化物集中あり
429	隅 丸 長 方 形	2.83 / 2.68 × 2.26 / 2.15 × 0.11	4.78	N-53°-E	
430	楕 円 形	3.48 / 3.23 × 2.80 / 2.50 × 0.20	9.29	N-66°-E	
431	卵 形	(3.94) / — × 3.41 / 3.17 × 0.16	—	N-87°-E	
432	円 形 状	4.60 / 4.38 × — / — × 0.13	—	N-17°-E	
433	—	— / — × — / — × (0.20)	—	—	
434	隅丸長方形状	6.35 / 6.10 × — / — × 0.25	(17.88)	N-65°-E	
435	長 円 形 状	— / — × 4.05 / 3.70 × 0.25	(17.29)	N-75°-W	
436	円 形 状	3.62 / 3.18 × 3.28 / 2.54 × 0.34	6.02	N-26°-E	
437	長 円 形	5.30 / 4.95 × 3.75 / 3.45 × 0.18	13.96	N-15°-W	
438	円 形 状	3.60 / 3.20 × 3.40 / 3.20 × 0.25	7.67	N-10°-W	
439	楕 円 形	3.43 / 3.13 × 2.86 / 2.56 × 0.14	6.31	N-58°-W	
440	長 円 形 状	— / — × 3.65 / 3.40 × 0.18	(14.83)	N-75°-E	
441	卵 形 ?	(3.78) / (3.50) × (3.50) / (3.40) × 0.09	8.92	N-50°-E	
442	楕 円 形 状	(2.67) / (2.56) × 2.45 / 2.10 × 0.09	—	N-33°-W	
443	—	— / — × — / — × (0.30)	—	—	
444	長 円 形 状	4.00 / 3.80 × 2.55 / 2.15 × 0.10	( 6.64)	N-35°-W	
445	長 円 形 ?	— / — × 3.05 / 2.80 × 0.17	—	N-75°-W	
446	〃	— / — × 4.00 / 3.80 × 0.19	—	N-45°-W	
447	—	— / — × — / — × (0.13)	—	—	
448	—	2.52 / 2.35 × — / — × 0.28	—	—	
449	—	3.45 / 3.08 × — / — × 0.30	—	—	

## 土 壌

単位: m

遺構番号	発掘区	平面形	長 軸 (上場 / 下場) × 短 軸 (上場 / 下場) × 深さ m	長軸方向	備 考
P-77	56-51	楕 円 形	— / — × — / — × —	—	
80	55-56	円 形	— / 0.30 × 0.60 / 0.35 × 0.22	—	
92	53-54	楕 円 形 状	1.20 / 0.82 × 1.08 / — × 0.30	N-50°-E	
93	53-54	楕 円 形	0.87 / 0.64 × 0.72 / 0.50 × 0.20	N-24°-E	
94	55-49・50	—	2.10 / 1.30 × — / — × 1.00	—	フラスコ状ピット
95	56-56	—	— / — × — / — × —	—	
96	54-56 55-56	楕 円 形	(0.93) / 0.52 × (0.78) / 0.66 × 0.42	N-60°-E	P-155と酷似
97	59-48	隅 丸 長 方 形	1.80 / — × 1.50 / — × 0.40	N-45°-E	土壌墓?
98	62-49	不 整 円 形	1.50 / 1.15 × 1.35 / 1.05 × 0.60	N-60°-W	土壌墓?
167	54-49	—	1.90 / 1.30 × — / — × 0.80	—	フラスコ状ピット
168	54-49 55-49	円 形	2.66 / 2.10 × 2.36 / 2.08 × 1.86	—	フラスコ状ピット
169	56-51	—	— / — × — / — × —	—	
170	56-51	円 形	1.52 / 1.49 × 1.38 / 1.34 × 1.04	—	フラスコ状ピット
171	57-50	〃	1.52 / 1.52 × 1.52 / 1.52 × 1.20	—	フラスコ状ピット
172	54-49・50	円 形 状	— / 1.34 × — / 1.32 × 1.50	—	フラスコ状ピット
173	53-47	〃	1.94 / 1.85 × 1.90 / 1.65 × 1.94	—	フラスコ状ピット
174	54-47	〃	2.00 / 1.73 × 1.90 / 1.60 × 1.83	—	フラスコ状ピット
175	54-53・54	隅 丸 方 形 状	0.70 / 0.48 × 0.68 / 0.45 × 0.25	—	
176	54-53	長 円 形 状	0.78 / 0.50 × 0.70 / 0.46 × 0.29	N-67°-E	

遺構番号	発掘区	平面形	長軸 (上場 / 下場) × 短軸 (上場 / 下場) × 深さ m	長軸方向	備 考
P-177	56-49	円 形 状	1.78 / 1.58 × 1.80 / 1.61 × 1.60	————	フラスコ状ビット
178	52-51	楕 円 形 状	0.75 / 0.63 × 0.70 / 0.58 × 0.26	N-S	
179	52-51	楕 円 形	0.77 / 0.58 × 0.57 / 0.42 × 0.25	N-S	
180	52-51	卵 形	0.75 / 0.48 × 0.61 / 0.39 × 0.26	N-49°-W	
181	54-51	隅丸長方形状	(1.83)/(1.12) × (1.61)/(1.04) × 0.50	N-50°-E	
182	<del>53-50</del> <del>54-50</del>	円 形 状	1.74 / 1.40 × 1.72 / 1.32 × 1.63	————	フラスコ状ビット
183	55-53・54	〃	1.75 / 1.50 × 1.72 / 1.60 × 0.24	————	
184	59-47	隅 丸 方 形	1.85 / — × 1.85 / — × 0.18	————	
185	52-51	長 円 形 状	0.86 / 0.66 × (0.70)/0.50 × 0.27	N-26°-E	
186	<del>53-48</del> <del>54-48</del>	円 形 状	— / 2.10 × 2.36 / 2.08 × 2.20	————	フラスコ状ビット
187	59-53	楕 円 形	0.62 / 0.50 × — / — × 0.16	N-65°-W	
188	54-48	円 形 状	1.30 / 1.00 × 1.30 / 1.08 × 0.64	————	フラスコ状ビット
189	<del>53-48・49</del> <del>54-48・49</del>	〃	— / — × 1.80 / 1.70 × 2.22	————	フラスコ状ビット
190	53-49	〃	2.20 / 2.10 × — / 1.86 × 2.00	————	フラスコ状ビット
191	<del>53-49</del> <del>54-49</del>	〃	1.64 / 1.50 × — / — × 1.00	————	フラスコ状ビット
192	<del>56-50</del> <del>57-50</del>	〃	— / — × — / — × 0.46	————	
193	<del>53-46</del> <del>54-46</del>	不 整 円 形	2.22 / 1.82 × 1.82 / 1.50 × 0.20	N-58°-E	
194	63-53	—	— / — × — / — × (0.36)	————	
195	62-65	円 形	1.12 / — × 1.12 / — × 0.20	————	
196	49-16	円 形 状	— / — × — / — × (0.78)	————	B'地区 フラスコ状ビット(小)
197	47-16	〃	0.98 / 0.87 × 0.90 / 0.78 × 0.64	————	B'地区 フラスコ状ビット(小)
198	57-52	円 形	0.84 / 0.36 × 0.80 / 0.42 × 0.31	————	
199	61-49	〃	0.60 / 0.46 × 0.60 / 0.45 × 0.17	————	
200	58-51	不 整 円 形	1.14 / 0.58 × 1.02 / 0.80 × 0.40	N-6°-W	
201	129-40	楕 円 形	1.77 / 1.44 × 1.38 / 0.83 × 0.34	N-52°-W	C地区
202	129-39・40	〃	1.98 / 1.40 × 1.44 / 0.86 × 0.32	N-29°-E	C地区
203	129-42	〃	1.73 / 1.32 × 1.10 / 0.78 × 0.24	N-11°-E	C地区
204	129-41	溝 状	2.45 / 2.13 × 0.80 / 0.56 × 0.20	N-13°-W	C地区
205	129-41	隅丸長方形状	(1.20)/(0.90) × 0.95 / 0.74 × 0.22	N-56°-E	C地区
206	127-42	溝 状	2.71 / 2.20 × 0.72 / 0.38 × 0.39	N-16°-W	C地区
207	127-42	隅丸長方形状	1.74 / 1.30 × (1.48)/(0.90) × 0.38	N-51°-E	C地区
208	129-41	溝 状	2.38 / 2.15 × — / — × 0.18	N-87°-E	C地区
209	126-39・40	隅丸長方形状	1.79 / 1.62 × 1.29 / 1.05 × 0.20	N-27°-W	C地区
210	<del>126-40</del> <del>127-40</del>	溝 状	2.00 / 1.66 × 0.70 / 0.44 × 0.17	N-15°-W	C地区
211	<del>126-41・42</del> <del>127-41・42</del>	〃	2.74 / 2.60 × 0.70 / 0.45 × 0.19	N-15°-W	C地区
212	126-42・43	楕 円 形	0.97 / 0.72 × 0.74 / 0.59 × 0.17	N-81°-E	C地区
213	125-39・40	隅丸長方形状	2.14 / 1.98 × 1.66 / 1.43 × 0.15	N-48°-W	C地区
214	125-40	〃	1.92 / 1.56 × 1.22 / 0.96 × 0.20	N-29°-W	C地区
215	<del>124-39</del> <del>125-39</del>	不 整 楕 円 形	1.54 / 1.32 × 0.92 / 0.70 × 0.15	W-E	C地区
216	<del>124-42</del> <del>125-42</del>	隅丸長方形状	1.82 / 1.24 × 1.52 / 1.20 × 0.20	N-63°-E	C地区
217	<del>125-43</del> <del>126-43</del>	—	— / — × — / — × (0.28)	————	C地区
218	125-41	溝 状	— / — × 1.16 / 0.80 × 0.17	N-10°-E	C地区
219	125-40	〃	2.70 / 2.12 × 0.68 / 0.42 × 0.18	N-63°-E	C地区
220	<del>123-39・40</del> <del>124-39・40</del>	隅丸長方形状	2.08 / 1.84 × 1.46 / 1.20 × 0.21	N-65°-E	C地区
225	66-51・52	円 形 状	1.65 / 1.03 × 1.45 / 0.95 × 0.35	N-85°-W	
226	61-56	楕 円 形	0.68 / 0.48 × 0.56 / 0.38 × 0.18	N-26°-E	
227	61-56	円 形 状	0.56 / 0.33 × 0.56 / 0.36 × 0.12	N-25°-E	
228	60-56	〃	0.70 / 0.26 × 0.66 / 0.38 × 0.20	N-22°-W	
229	60-56	〃	0.58 / 0.40 × 0.64 / 0.42 × 0.18	N-20°-W	
230	59-56	〃	0.60 / 0.31 × 0.61 / 0.34 × 0.19	N-12°-W	
231	59-55	不 整 形	0.62 / 0.36 × 0.60 / 0.34 × 0.20	N-63°-W	
232	59-54	円 形 状	0.48 / 0.30 × 0.42 / 0.20 × 0.10	N-5°-W	
233	60-54	〃	0.50 / 0.28 × 0.46 / 0.38 × 0.22	N-34°-W	
234	<del>59-53</del> <del>60-53</del>	楕 円 形	0.66 / 0.48 × 0.50 / 0.36 × 0.18	N-30°-W	
235	60-54	円 形 状	0.44 / 0.28 × 0.56 / 0.28 × 0.12	N-60°-E	
236	<del>51-46</del> <del>52-46</del>	楕 円 形	1.24 / 1.12 × 0.98 / 0.95 × 0.81	N-40°-W	フラスコ状ビット(小)
237	<del>53-53</del> <del>54-53</del>	〃	1.43 / 1.34 × 1.18 / 1.00 × 0.33	W-E	フク土上層で石皿出土
238	64-52	円 形 状	0.52 / 0.46 × 0.54 / 0.40 × 0.20	N-35°-W	
239	58-54	〃	0.80 / 0.64 × 0.70 / 0.61 × 0.20	N-60°-E	
240	53-53・54	〃	0.58 / 0.46 × 0.58 / 0.41 × 0.50	————	
241	<del>57-54</del> <del>58-54</del>	〃	0.64 / 0.50 × 0.60 / 0.48 × 0.60	N-9°-W	

遺構番号	発掘区	平面形	長軸 (上場 / 下場) × 短軸 (上場 / 下場) × 深さ m	長軸方向	備考
P-242	57-53	円形状	0.40 / 0.21 × 0.38 / 0.22 × 0.48	N-23'-W	
243	57-53	楕円形	0.68 / 0.50 × 0.42 / 0.38 × 0.20	N-26'-W	
244	59-52	円形状	0.65 / 0.43 × 0.62 / 0.42 × 0.18	N-16'-W	
245	60-52	〃	0.46 / 0.38 × 0.45 / 0.32 × 0.04	W-E	
246	58-53	〃	0.30 / 0.16 × 0.28 / 0.16 × 0.60	W-E	
247	60-52	〃	0.64 / 0.40 × 0.45 / 0.28 × 0.16	N-43'-W	
248	61-52	楕円形	0.52 / 0.22 × 0.41 / 0.12 × 0.16	N-59'-E	
249	54-50	長円形状	2.03 / 1.16 × 1.72 / 1.18 × 0.76	N-80'-E	フラスコ状ビット？
250	65-46	円形状	0.80 / 0.52 × 0.76 / 0.55 × 0.15	N-65'-E	
251	<sup>51-46</sup> 52-46	楕円形	1.25 / 0.80 × (1.00) / (0.65) × (0.26)	W-E	
252	60-49	卵形	0.75 / — × 0.50 / — × 0.14	N-S	
253	60-49	円形	0.60 / — × 0.60 / — × 0.12	—	
254	60-51	円形状	0.22 / 0.03 × 0.20 / 0.03 × 0.10	N-25'-W	
255	61-48	楕円形	1.17 / 0.72 × 0.94 / 0.63 × 0.38	N-20'-W	
256	61-48	〃	0.60 / 0.35 × 0.54 / 0.33 × 0.18	N-57'-E	

Tピット

単位：m

遺構番号	発掘区	平面形	長軸 (上場 / 下場) × 短軸 (上場 / 下場) × 深さ m	長軸方向	備考
T-42	<sup>73-10</sup> 74-10	溝状	3.65 / 4.02 × 0.49 / 0.20 × 1.00	N-73'-E	B地区
43	<sup>75-12</sup> 76-12	〃	2.87 / 2.93 × 0.70 / 0.32 × 0.94	N-54'-E	B地区
44	<sup>73-13</sup> 74-13	〃	3.35 / 3.27 × 0.80 / 0.20 × 1.29	N-44'-E	B地区
45	<sup>71-13・14</sup> 72-13・14	〃	3.60 / 3.83 × 0.84 / 0.20 × 1.14	N-85'-E	B地区
46	<sup>71-14</sup> 72-14	〃	2.96 / 3.04 × 0.75 / 0.21 × 1.38	N-86'-E	B地区
47	78-14・15	〃	2.68 / 2.38 × 0.95 / 0.10 × 1.04	N-49'-W	B地区
48	<sup>78-16</sup> 79-15・16	溝状？	— / — × 0.76 / 0.38 × (0.88)	N-48'-W	B地区
49	<sup>75-16</sup> 76-16・17	楕円形状	2.64 / 2.50 × 1.12 / 0.22 × 1.23	N-70'-W	B地区
50	<sup>75-18</sup> 76-18	溝状	2.99 / 3.30 × 0.60 / 0.10 × 1.28	N-50'-W	B地区
51	73-19	〃	3.07 / 3.22 × 0.51 / 0.22 × 0.90	N-45'-W	B地区
52	73-20・21	〃	2.65 / 3.05 × 0.72 / 0.20 × 0.98	N-30'-W	B地区
53	<sup>74-22</sup> 75-22	〃	3.38 / 3.60 × 0.60 / 0.18 × 1.08	N-42'-W	B地区
54	78-31	〃	3.47 / 3.60 × 0.52 / 0.18 × 0.88	N-39'-W	B地区
55	<sup>74-30・31</sup> 75-30・31	〃	3.43 / 3.74 × 0.54 / 0.18 × 0.89	N-48'-W	B地区
56	73-32・33	〃	2.98 / 3.32 × 0.48 / 0.18 × 0.89	N-52'-E	B地区
57	<sup>71-77</sup> 72-77	〃	3.08 / 3.30 × 0.32 / 0.18 × 0.84	N-53'-W	B地区
58	<sup>71-19・20</sup> 72-19	〃	3.03 / 3.06 × 0.36 / 0.14 × 0.72	N-44'-W	B地区
59	<sup>71-19・20</sup> 72-19・20	〃	3.18 / 3.56 × 0.60 / 0.26 × 1.10	N-57'-W	B地区
60	53-50	溝状	2.50 / 2.80 × 0.40 / 0.20 × 0.80	N-17'-E	A地区
61	58-46	〃	3.38 / 3.12 × 0.74 / 0.18 × 1.16	N-15'-E	A地区
62	<sup>64-63・64</sup> 65-63・64	〃	3.15 / 3.00 × 0.60 / 0.10 × 0.70	N-55'-E	A地区
63	66-63・64	〃	3.50 / 4.00 × 0.65 / 0.17 × 0.87	N-10'-E	A地区
64	<sup>67-65・66</sup> 68-65・66	〃	3.25 / 3.50 × 0.45 / 0.18 × 0.80	N-60'-W	A地区
65	<sup>68-64</sup> 69-64	〃	2.73 / 3.05 × 0.50 / 0.12 × 0.92	N-75'-W	A地区
66	<sup>54-46・47</sup> 55-46・47	〃	2.45 / 2.60 × 0.60 / 0.23 × 1.12	N-26'-E	A地区
71	126-43	小型の溝状	1.49 / 1.90 × 0.50 / 0.18 × 0.75	N-21'-W	C地区
72	125-42	〃	1.56 / 1.86 × 0.42 / 0.22 × 0.70	N-10'-W	C地区
73	123-40	〃	1.60 / 1.84 × 0.52 / 0.20 × 0.78	N-14'-W	C地区
74	121-39	〃	1.76 / 1.90 × 0.52 / 0.20 × 0.90	N-23'-W	C地区
75	119-38	〃	1.65 / 1.83 × 0.30 / 0.20 × 0.60	N-S	C地区
76	115-38・39	溝状	— / — × 0.64 / 0.29 × 0.98	N-33'-E	C地区
77	114-40	〃	2.58 / 2.73 × 0.32 / 0.20 × 0.71	N-15'-W	C地区
78	<sup>135-42</sup> 136-42	〃	3.66 / 3.31 × 0.64 / 0.18 × 1.02	N-70'-W	C地区
79	<sup>95-39・40</sup> 96-39・40	〃	3.17 / 3.68 × 0.48 / 0.23 × 0.86	N-67'-E	C地区
80	<sup>96-40・41</sup> 97-40・41	溝状	3.26 / 3.64 × 0.53 / 0.16 × 0.95	N-62'-E	C地区
81	<sup>70-15</sup> 71-15	溝状	3.34 / 3.88 × 0.56 / 0.17 × 0.92	N-64'-W	B'地区
82	<sup>70-13</sup> 71-13	〃	3.98 / 3.47 × 0.65 / 0.30 × 0.96	N-80'-W	B'地区
83	69-15	〃	3.38 / 3.60 × 0.60 / 0.30 × 1.00	N-77'-W	B'地区
84	<sup>67-15</sup> 68-15	〃	3.30 / 3.42 × 0.60 / 0.28 × 0.84	N-64'-W	B'地区

遺構番号	発掘区	平面形	長軸 (上場 / 下場) × 短軸 (上場 / 下場) × 深さ m	長軸方向	備考
T-85	<del>67-14</del> <del>68-14</del>	溝 状	3.58 / 3.42 × 0.80 / 0.24 × 0.97	N-54°-E	B'地区
86	<del>66-13</del> <del>67-13</del>	〃	2.98 / 3.24 × 0.50 / 0.20 × 0.84	N-62°-W	B'地区
87	65-13	〃	3.65 / 3.57 × 0.40 / 0.24 × 0.52	N-51°-E	B'地区
88	61-14・15	〃	3.15 / 3.85 × 0.61 / 0.31 × 1.12	N-61°-E	B'地区
89	56-15	〃	3.06 / 3.64 × 0.64 / 0.24 × 1.16	N-66°-W	B'地区
90	<del>55-16</del> <del>56-16・17</del>	〃	3.10 / 3.57 × 0.62 / 0.14 × 1.42	N-86°-E	B'地区
91	55-14	〃	3.22 / 3.40 × 0.50 / 0.20 × 1.10	N-34°-W	B'地区
92	53-15	〃	3.14 / 3.35 × 0.68 / 0.16 × 1.06	W-E	B'地区
93	51-15	〃	(3.00) / (3.08) × 0.41 / 0.16 × 1.13	N-82°-E	B'地区
94	<del>50-16</del> <del>51-16</del>	〃	3.30 / 3.50 × 0.52 / 0.20 × 1.04	N-75°-W	B'地区
95	58-12	〃	3.34 / 3.98 × 0.66 / 0.12 × 1.08	N-68°-W	B'地区
96	62-11・12	〃	3.17 / 3.16 × 0.24 / 0.12 × 0.68	N-10°-E	B'地区
97	63-11	〃	3.17 / 3.76 × 0.45 / 0.16 × 0.87	N-80°-E	B'地区
98	64-12	〃	3.33 / 3.54 × 1.00 / 0.48 × 1.40	N-84°-W	B'地区
99	65-11・12	〃	3.16 / 3.32 × 0.42 / 0.10 × 0.79	W-E	B'地区
100	51-15	〃	3.20 / 2.96 × (0.30) / (0.10) × 0.96	W-E	B'地区
101	49-15	〃	3.68 / 3.88 × 0.46 / 0.15 × 0.95	W-E	B'地区
102	48-13・14	不 整 溝 状	2.68 / 2.58 × 0.47 / 0.10 × 0.89	N-80°-E	B'地区
103	47-13	溝 状	2.82 / 3.46 × 0.62 / 0.12 × 1.13	W-E	B'地区
104	<del>44-13</del> <del>45-13・14</del>	〃	3.70 / 4.80 × 0.56 / 0.11 × 1.04	N-75°-E	B'地区
105	<del>64-10</del> <del>65-10</del>	〃	3.24 / 4.08 × 0.60 / 0.20 × 1.25	W-E	B'地区
106	64-9・10	〃	3.14 / 4.03 × 0.40 / 0.08 × 1.05	N-22°-E	B'地区
107	63-10	〃	3.16 / 3.04 × 0.54 / 0.14 × 0.92	N-74°-E	B'地区
108	63-9	〃	2.93 / 3.75 × 0.48 / 0.12 × 0.94	N-22°-E	B'地区
109	62-10・11	〃	2.90 / 3.72 × 0.52 / 0.20 × 1.22	N-61°-E	B'地区
110	61-9・10	〃	3.30 / 3.48 × 0.62 / 0.22 × 0.83	N-11°-E	B'地区
111	60-9	〃	3.24 / 3.28 × 0.60 / 0.20 × 1.03	N-60°-E	B'地区
112	58-9・10	〃	3.90 / 4.47 × 0.60 / 0.13 × 1.08	N-71°-E	B'地区
113	67-8	〃	3.20 / 3.88 × 0.43 / 0.17 × 1.20	N-45°-W	B'地区
114	64-7	〃	2.84 / 3.10 × 0.40 / 0.18 × 0.90	N-76°-E	B'地区
115	63-7	〃	2.58 / 2.72 × 0.36 / 0.12 × 0.90	N-50°-E	B'地区
116	62-8	〃	3.45 / 3.76 × 0.47 / 0.12 × 0.96	N-26°-E	B'地区
117	<del>60-7</del> <del>61-7</del>	〃	3.40 / 3.44 × 0.50 / 0.13 × 0.86	N-72°-W	B'地区
118	57-6・7	〃	3.26 / 3.82 × 0.39 / 0.18 × 0.70	N-63°-W	B'地区
119	<del>66-7</del> <del>67-7</del>	〃	3.23 / 3.96 × 0.48 / 0.17 × 0.88	N-80°-W	B'地区
120	<del>66-8</del> <del>67-8</del>	〃	(2.74) / (2.52) × (0.53) / 0.12 × 0.92	N-45°-W	B'地区
121	<del>68-62</del> <del>69-61・62</del>	溝 状	2.85 / 3.34 × 0.52 / 0.22 × 0.76	N-20°-W	A地区
122	<del>61-59・60</del> <del>62-59</del>	〃	2.50 / 2.54 × 0.33 / 0.19 × 0.68	N-14°-E	A地区
123	<del>60-57</del> <del>61-57</del>	〃	2.80 / 2.70 × 0.57 / 0.20 × 0.85	N-77°-W	A地区
124	48-8	溝 状	3.37 / 3.55 × 0.28 / 0.12 × 0.62	N-42°-W	B'地区
125	42-10	〃	3.07 / 3.88 × 0.54 / 0.20 × 0.94	N-73°-W	B'地区
126	40-10	〃	2.88 / 3.20 × 0.50 / 0.16 × 0.94	W-E	B'地区
127	<del>38-9・10</del> <del>39-9・10</del>	〃	3.04 / 3.40 × 0.50 / 0.14 × 1.04	N-75°-E	B'地区
128	<del>37-8・9</del> <del>38-9</del>	〃	2.36 / 2.62 × 0.38 / 0.20 × 0.67	N-62°-E	B'地区
129	37-10	〃	3.22 / 3.50 × 0.42 / 0.16 × 0.80	N-68°-E	B'地区
130	<del>36-10</del> <del>37-10</del>	〃	3.40 / 3.80 × 0.56 / 0.24 × 0.84	W-E	B'地区
131	<del>36-9</del> <del>37-9</del>	〃	3.32 / 3.42 × 0.50 / 0.17 × 1.08	W-E	B'地区
132	<del>35-8・9</del> <del>36-8・9</del>	不 整 溝 状	3.67 / 3.52 × 0.62 / 0.20 × 1.40	N-76°E	B'地区
133	35-8	溝 状	3.06 / 3.54 × 0.60 / 0.16 × 1.04	W-E	B'地区
134	<del>35-8</del> <del>36-8</del>	〃	(4.26) / (3.72) × 0.70 / 0.18 × 1.00	N-85°-W	B'地区
135	<del>36-12</del> <del>37-12</del>	〃	2.95 / 3.70 × 0.28 / 0.22 × 0.56	W-E	B'地区
136	<del>37-11</del> <del>38-11</del>	〃	3.24 / 4.10 × 0.41 / 0.23 × 1.13	N-72°-E	B'地区
137	<del>38-11・12</del> <del>39-12</del>	〃	3.40 / 3.80 × 0.54 / 0.22 × 0.78	N-74°-W	B'地区
138	97-43・44	溝 状	3.00 / 2.96 × 0.52 / 0.24 × 0.90	N-64°-E	C地区
139	98-45	〃	3.40 / 3.30 × 0.70 / 0.15 × 1.00	N-40°-E	C地区
140	<del>99-43</del> <del>100-43</del>	〃	2.70 / 3.40 × 0.56 / 0.20 × 0.96	N-64°-E	C地区
141	<del>99-45</del> <del>100-45</del>	〃	2.92 / 3.23 × 0.67 / 0.20 × 1.10	N-53°-E	C地区
142	<del>97-40</del> <del>98-40</del>	〃	3.37 / 3.14 × 1.02 / 0.75 × 1.00	N-73°-W	C地区

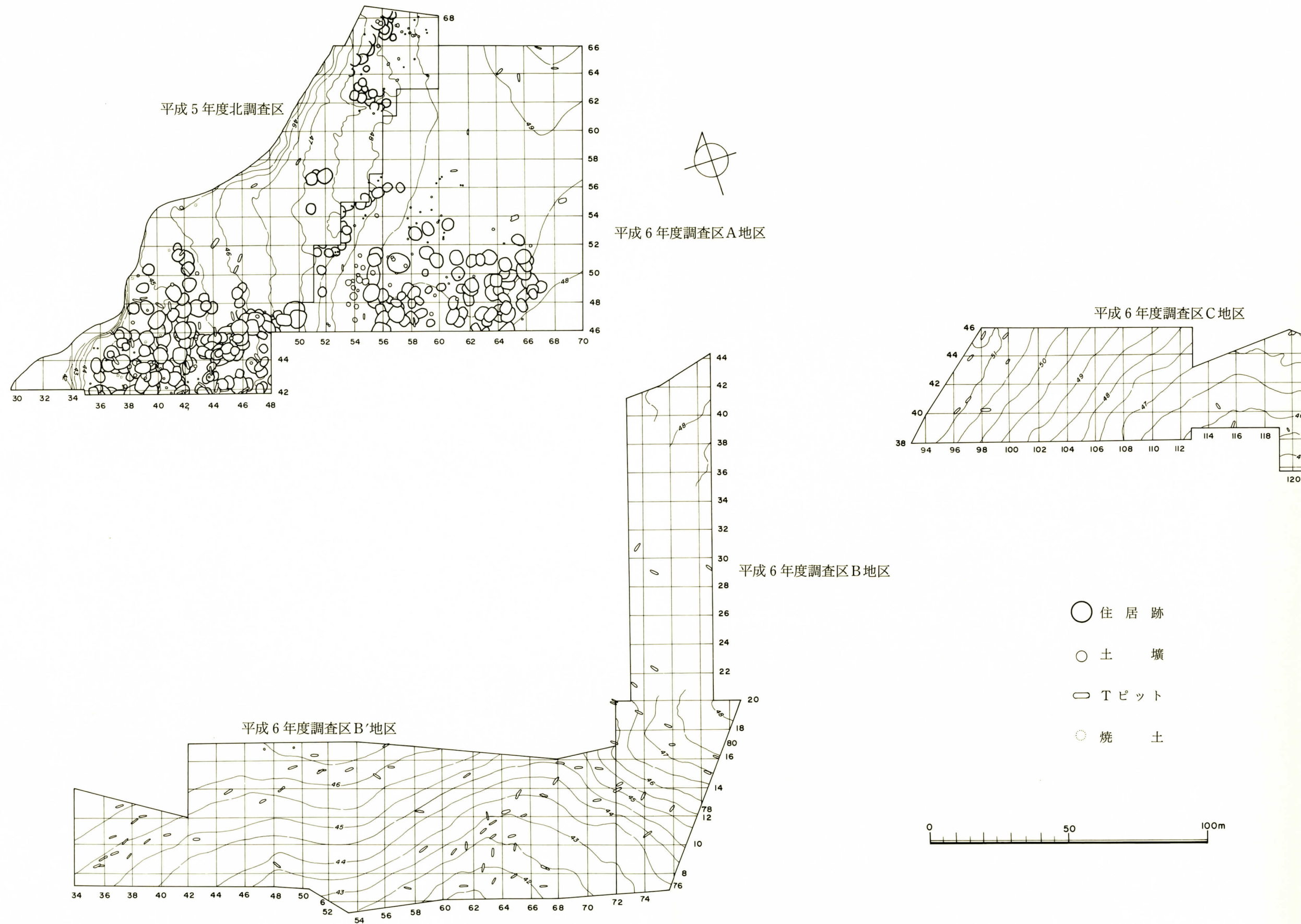
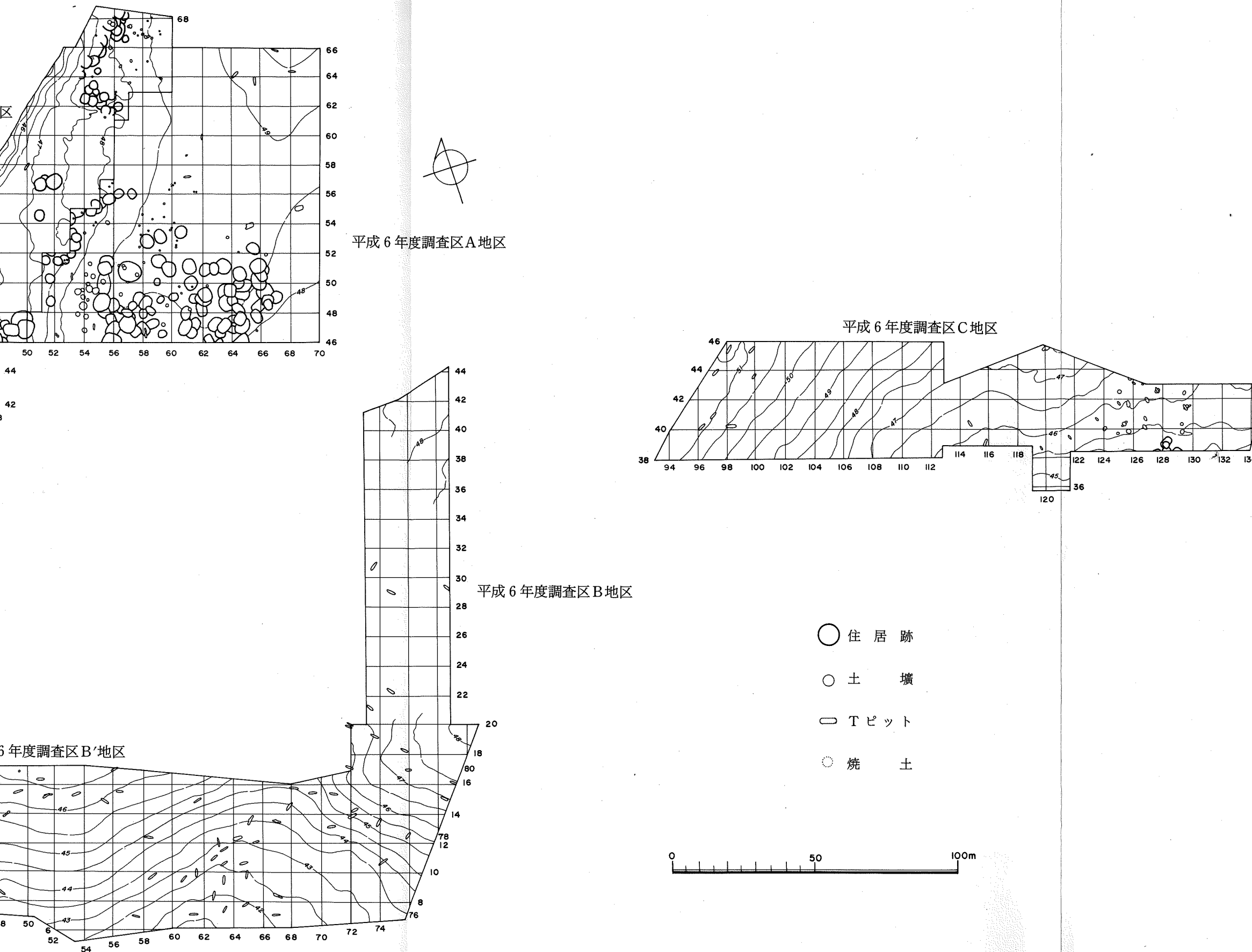
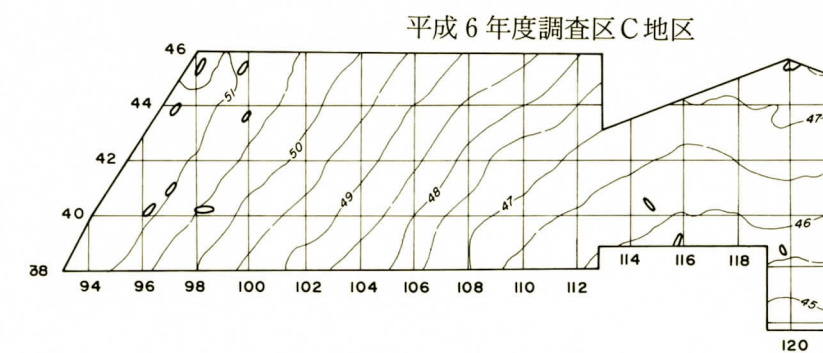
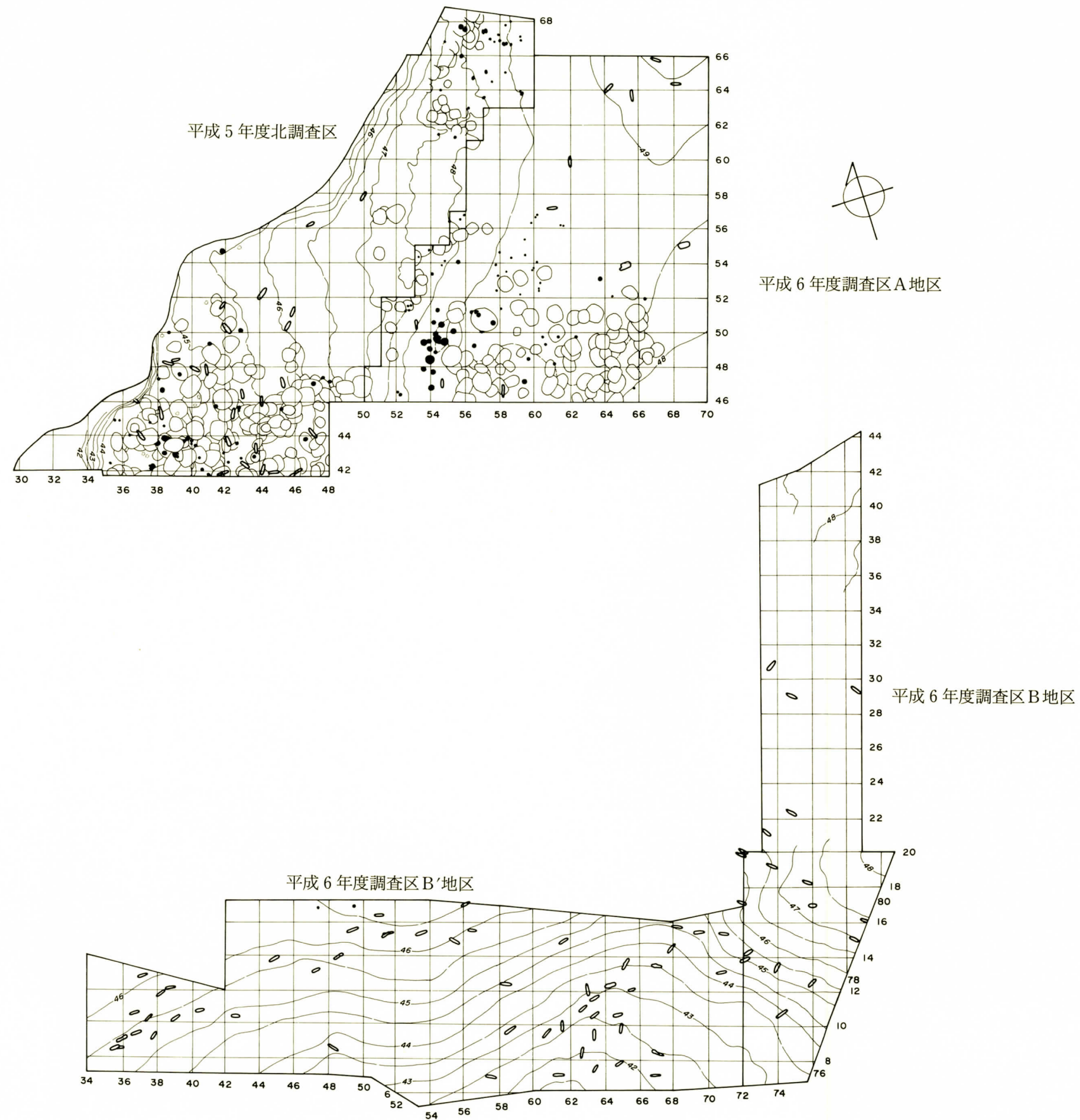


図 I - 7 平成 5 年度北・平成 6 年度の最終面地形図と遺構位置図(1) 住居跡



図I-7 平成5年度北・平成6年度の最終面地形図と遺構位置図(1) 住居跡





- 住 居 跡
- 土 壙
- T ピ ッ ト
- 焼 土

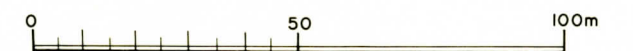


図 I - 8 平成5年度北・平成6年度の最終面地形図と遺構位置(2) 土壙・Tピット・焼土

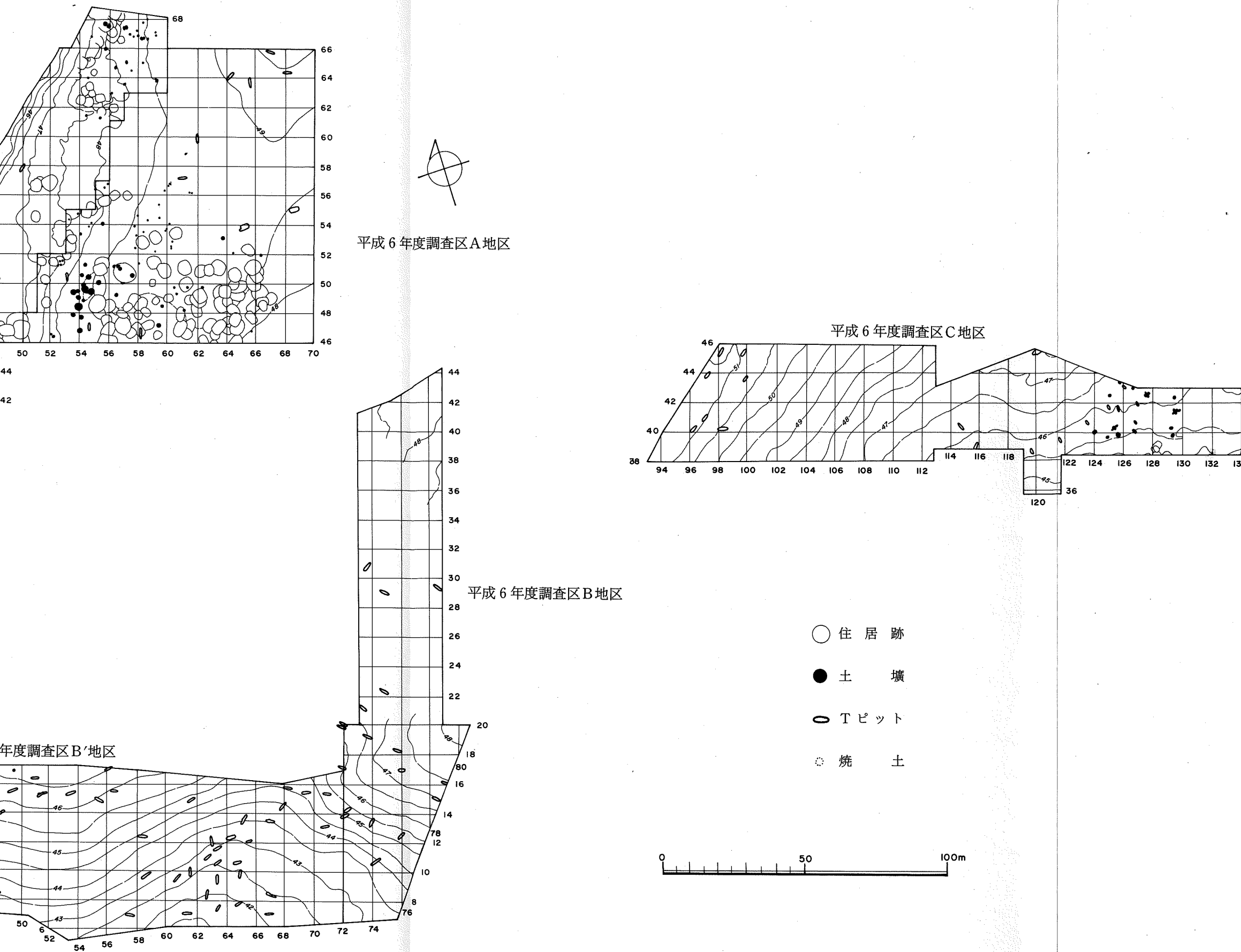


図 I - 8 平成 5 年度北・平成 6 年度の最終面地形図と遺構位置(2) 土 墳・Tピット・焼土

## II 遺跡の位置と環境

### 1 位置と周辺の遺跡

中野B遺跡(B-01-39)は、函館市街地の東方約8km、津軽海峡に注ぐ小川、銭亀宮ノ川の河口から700m～800m遡った、標高40m～50m程の左岸段丘に立地しており、右岸には中野A遺跡(B-01-40)が位置する。中野A遺跡では、昭和50・51年度、昭和53年度、そして平成3・4年度と発掘調査が実施され、物見台式土器の時期の竪穴住居跡が合計59軒検出された。この縄文早期中葉の集落跡のほか、早期前葉の日計式土器併行期の竪穴住居跡が1軒、早期末葉の梁川町式期の竪穴住居跡が8軒、前期前葉の春日町式期の竪穴住居跡が2軒検出されており、土壇や屋外の炉跡、133基を数えるTピットなども発見されている(函館市教育委員会、1977・1979、北埋調報 79・84)。

函館空港の周辺地域には、次節で説明するように、数段の段丘地形が発達しており、これらの段丘を開析して、ほぼ北北東―南南西の方向に流下する大小の河川が、1km内外の間隔で並列している。それらの河川流域の段丘縁辺部では、縄文時代早期以降、数多くの遺跡が営まれており、津軽海峡を隔てた下北半島とも、古くから密接な文化的交流があった。函館市内の遺跡の様相については、中野A遺跡の報告に際してやや詳しく触れたところであり(北埋調報 84)、ここでは函館空港の周辺地域に限って、簡単に説明を繰り返すに留めたい。

縄文時代早期の最も古い頃の遺跡としては、函館空港6遺跡(B-01-34)が知られており、図II-1からは外れるが、汐泊川を直線距離で11km遡った内陸部の西股遺跡(B-01-28)も著名である。

物見台式から住吉町下層式など、貝殻文尖底土器を出土する遺跡には、中野A、中野B遺跡のほか、根崎遺跡(B-01-24)や仮称・石崎町第9地点遺跡(未登載、小笠原、1974)がある。

梁川町式土器などに代表される縄文早期末葉から、トドホッケ・春日町式土器などを伴う縄文前期前葉にかけての集落跡としては、中野A遺跡のほか、函館空港1遺跡(B-01-29)や豊原1遺跡(B-01-41)、豊原2遺跡(B-01-46)などが挙げられる。

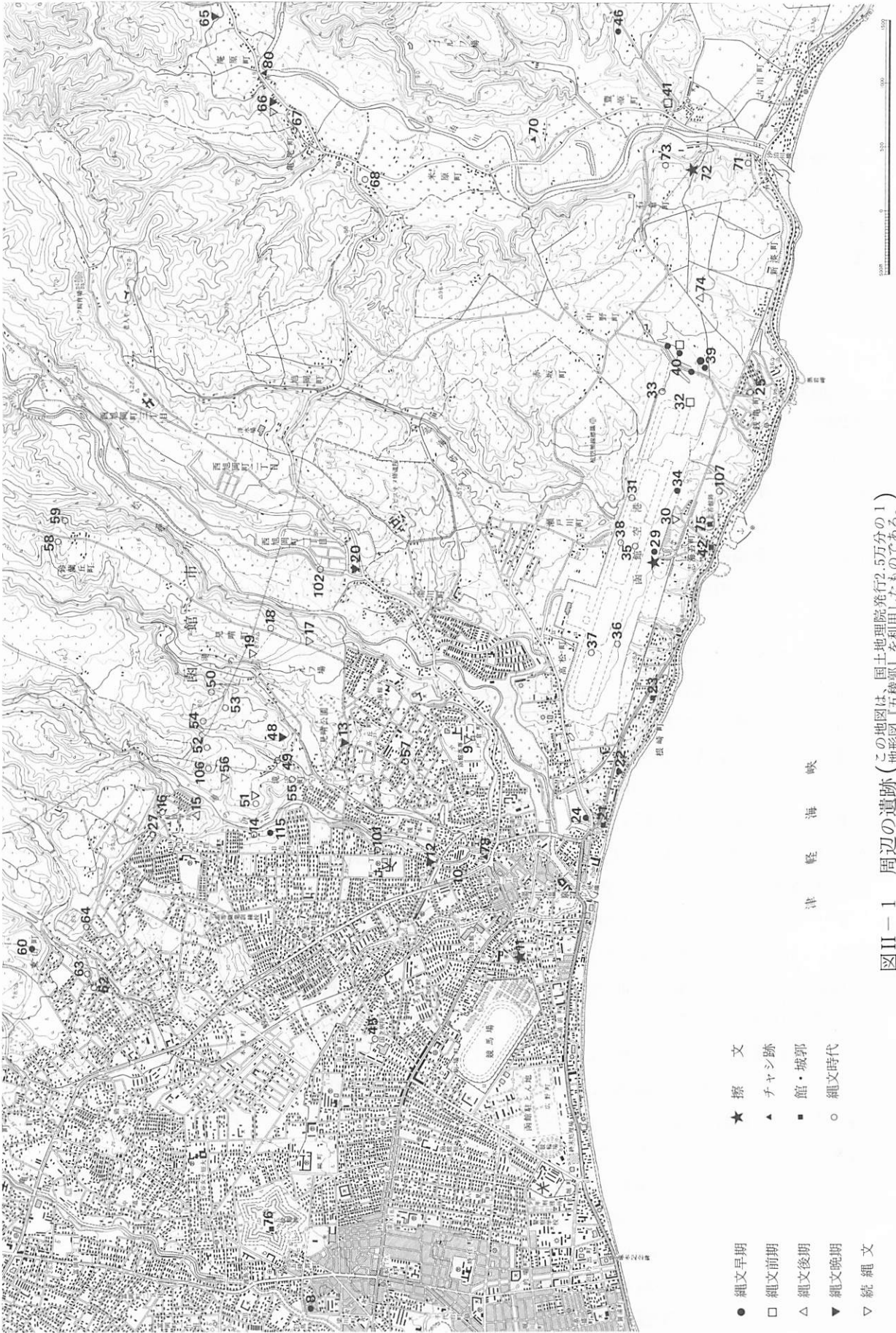
縄文前期中葉の円筒下層a、b式土器などの段階では、大集落跡が見出された函館空港4遺跡(B-01-32)が代表的な遺跡といえよう。円筒下層式後半期や円筒上層式期と時代が新しくなると、空港周辺での遺跡の存在は、余り顕著ではないようだ。

縄文後期初頭になると、道南の各地に大きな貝塚が残される。空港周辺でも石倉貝塚(B-01-74)の形成がみられ、空港拡張工事に関連して、平成6年度から函館市教育委員会が調査を開始した。

後期中葉以降から縄文晩期を通して、空港周辺での遺跡の分布は稀薄である。続縄文時代に至っても、やはり空港周辺では、恵山式や、後北式といった文化の痕跡は乏しいようだ。

ところが擦文時代に入る頃には、空港の西には湯川土師遺跡(B-01-11)が、用地内には函館空港1遺跡が、そして東には銭亀沢遺跡(未登載、千代、1980)や汐泊遺跡(B-01-72)が隣接し、そのさらに東方にも鶴野2遺跡(B-01-108)が残されるなど、東海岸に沿ってずらりと集落跡が並び、本州方面との往来がにわかに活発化したものと推定される。

中世の遺跡には、志苔館跡(B-01-75)をはじめ、弥右衛門川館跡(B-01-22)、与倉前館跡(B-01-23)など、本州からの渡来者の定着を反映する居館跡が幾つかあり、その経済的繁栄を窺わせるように、志海苔中世遺構(B-01-42)からは、大甕3個に詰められた37万枚余の古銭が発見されている。一方、アイヌ文化期の所産と考えられる汐泊チャシ(B-01-70)など、道南では数少ないチャシ跡の存在も知られており、重要視される。



図Ⅱ-1 周辺の遺跡（この地図は、国土地理院発行2.5万分の1）



表II-1 周辺の遺跡一覧

台帳番号	遺跡名	時期	内容(類別)	立地	所在地	文献
B-01-8	桑川町遺跡	縄文	縄文	低位海岸段丘	桑川町25	大嶋利夫他 1955
B-01-9	戸倉町遺跡	縄文	縄文	海岸段丘	戸倉町226	
B-01-10	堀川貝塚	縄文	貝塚	低位段丘先端	堀川町2丁目29・6ほか	千代蔵 1953
B-01-11	堀川土師遺跡	土師	土師	海岸段丘	堀川町1丁目24・1ほか	前野英一 1960
B-01-12	堀本町遺跡	縄文	縄文	河岸段丘	堀本町72-1	
B-01-13	高丘町遺跡	縄文	縄文	海岸段丘	高丘町125	
B-01-14	日吉町百花園遺跡	縄文	縄文	舌状海岸段丘	日吉町2丁目55・4ほか	高橋正勝 1961
B-01-15	日吉町A遺跡	縄文	縄文	住居跡	日吉町64-1・2	千代蔵 1971
B-01-16	日吉町B遺跡	縄文	縄文	海岸段丘	日吉町4丁目8日吉公園	
B-01-17	見晴町C遺跡	縄文	縄文	海岸段丘	見晴町67-2ほか	千代蔵 1953
B-01-18	見晴町B遺跡	縄文	縄文	海岸段丘	見晴町51-3ほか	柴田幸生 田原良信他 1981
B-01-19	見晴町A遺跡	縄文	縄文	中位海岸段丘	見晴町36-2ほか	
B-01-20	上海川遺跡	縄文	縄文	河岸段丘	上海川町334-1ほか	
B-01-21	根崎台場跡	近代	台場	海岸段丘	根崎町	河野常吉 1924
B-01-22	弥右衛門川跡	中世	跡	海岸段丘	根崎町	"
B-01-23	与倉前跡	中世	跡	海岸段丘	根崎町4312	"
B-01-24	根崎遺跡	縄文	縄文	舌状台地	根崎町23ほか	
B-01-25	赤坂1遺跡	縄文	縄文	海岸段丘	根崎町298ほか	
B-01-27	日吉町C遺跡	縄文	縄文	丘陵南麓	日吉町4丁目16	
B-01-29	西船空港1遺跡	縄文	縄文	海岸段丘	瀬戸川町12	
B-01-30	西船空港2遺跡	縄文	縄文	海岸段丘	赤坂町	
B-01-31	西船空港3遺跡	縄文	縄文	海岸段丘	赤坂町	
B-01-32	西船空港4遺跡	縄文	縄文	河岸段丘	中野町	千代蔵 1977
B-01-33	西船空港5遺跡	縄文	縄文	海岸段丘	中野町	
B-01-34	西船空港6遺跡	縄文	縄文	海岸段丘	赤坂町	森田知忠 1965
B-01-35	西船空港7遺跡	縄文	縄文	海岸段丘	瀬戸川町	
B-01-36	西船空港8遺跡	縄文	縄文	海岸段丘	高松町	
B-01-37	西船空港9遺跡	縄文	縄文	海岸段丘	高松町	
B-01-38	西船空港10遺跡	縄文	縄文	海岸段丘	瀬戸川町	
B-01-39	中野B遺跡	縄文	縄文	海岸段丘	中野町97・98	千代蔵 1977
B-01-40	中野A遺跡	縄文	縄文	集落址	中野町22・25・27・29・30	"
B-01-41	豊原1遺跡	縄文	縄文	集落址	豊原町140-38~41	田原良信 1987
B-01-42	志海若中世遺跡	室町	古銭出土地	海岸段丘低位	志海若町247	古崎一他 1971
B-01-45	深堀町遺跡	縄文	縄文	海岸段丘	深堀町	
B-01-46	豊原2遺跡	縄文	縄文	河岸段丘	豊原町147-1ほか	函館市教育委員会 1972
台帳番号	遺跡名	時期	内容(類別)	立地	所在地	文献
B-01-48	滝ノ沢A遺跡	縄文	縄文	海岸段丘	滝ノ沢町36-1, 42-1	函館市教育委員会 1972
B-01-49	滝ノ沢B遺跡	縄文	縄文	海岸段丘	滝ノ沢町26-7, 30-32	"
B-01-50	滝ノ沢C遺跡	縄文	縄文	海岸段丘	滝ノ沢町74-3	"
B-01-51	滝ノ沢D遺跡	縄文	縄文	海岸段丘	滝ノ沢町47-2・3・5・6	"
B-01-52	滝ノ沢E遺跡	縄文	縄文	海岸段丘	滝ノ沢町69	"
B-01-53	滝ノ沢F遺跡	縄文	縄文	海岸段丘	滝ノ沢町72	"
B-01-54	滝ノ沢G遺跡	縄文	縄文	海岸段丘	滝ノ沢町73-2	"
B-01-55	滝ノ沢H遺跡	縄文	縄文	海岸段丘	滝ノ沢町26-4	"
B-01-56	滝ノ沢I遺跡	縄文	縄文	海岸段丘	滝ノ沢町46-1	"
B-01-57	上野町遺跡	縄文	縄文	河岸段丘	上野町	
B-01-58	鈴瀬丘町A遺跡	縄文	縄文	海岸段丘	鈴瀬丘町21-1ほか	
B-01-59	鈴瀬丘町B遺跡	縄文	縄文	海岸段丘	鈴瀬丘町27-1ほか	
B-01-60	東山A遺跡	縄文	縄文	丘陵南麓	東山町121-10ほか	
B-01-62	東山C遺跡	縄文	縄文	河岸段丘	東山町27-1ほか	
B-01-63	東山D遺跡	縄文	縄文	河岸段丘	東山町25-1	
B-01-64	東山E遺跡	縄文	縄文	丘陵南麓	東山町20-4ほか	
B-01-65	女名沢遺跡	縄文	縄文	舌状海岸段丘	女名沢町203-1ほか	
B-01-66	亀尾A遺跡	縄文	縄文	海岸段丘	亀尾町97・98-1・2	
B-01-67	亀尾B遺跡	縄文	縄文	海岸段丘	亀尾町113-1・4	
B-01-68	亀尾C遺跡	縄文	縄文	海岸段丘	米原町88-1ほか	
B-01-70	汐泊チャシ	アイヌ	チャシ跡	河岸段丘	豊原町75ほか	
B-01-71	新湊町遺跡	縄文	縄文	海岸段丘	石倉町37-1ほか	
B-01-72	汐泊遺跡	縄文	縄文	海岸段丘	石倉町84-2ほか	
B-01-73	石倉遺跡	縄文	縄文	海岸段丘	石倉町83-1ほか	
B-01-74	石倉遺跡	縄文	縄文	海岸段丘	石倉町1-1ほか	
B-01-75	志賀前跡	室町	室町	海岸段丘	志賀町143 赤坂町6-1	
B-01-76	五稜郭跡	近世	城郭	郭跡	五稜郭町1-4	田原良信他 1990
B-01-78	湯合神社チャシ跡	アイヌ	チャシ跡	海岸段丘	湯川町2丁目28-1	
B-01-80	亀尾神社チャシ跡	アイヌ	チャシ跡	孤立	亀尾町78-1	
B-01-101	日吉町1遺跡	縄文	縄文	低位段丘	日吉町1丁目53-1・154・155 156-3・43-93-6	峰山巖他 1975
B-01-102	銅山遺跡	縄文	縄文	海岸段丘	銅山町113・118-2~4	
B-01-106	滝ノ沢J遺跡	縄文	縄文	海岸段丘	滝沢町65-1	
B-01-107	赤坂2遺跡	縄文	縄文	海岸段丘	赤坂町13-1	
B-01-115	日吉町2遺跡	縄文	縄文	河岸段丘	日吉町2丁目28-1ほか	



## 2 地 形・地 質

図Ⅱ-2に遺跡周辺の等高線図を、図Ⅱ-4に地形分類図を示す。遺跡周辺には数段の段丘地形、段丘開析する河川、沖積低地、谷底平野が発達している。

段丘は少なくとも三段認められる。段丘Ⅰは標高60～100mに分布し、円礫から構成される。扁平な礫が多い。地点4では砂と礫の水平互層が観察される。この面は、長谷川・鈴木(1964)の第2段丘、瀬川(1974)の中野町面に相当する。段丘Ⅰの下位に標高30～60mの平坦面が分布する。この面は、松倉川右岸地域では地点13で観察されるように円礫層から構成され、段丘とみなされる。一方、松倉川から海岸沿いに汐泊川へかけて分布するこの平坦面は、水成礫をほとんど観察し得ず火砕流堆積物から成っている。地点12では火砕流堆積物に円礫が含まれ、火砕流堆積物の水成二次堆積物と考えられる。標高30～60mに分布し、一連の平坦面のようにみえるこの面は、段丘面としての平坦面のほか、火砕流堆積物の堆積面、火砕流堆積物の侵蝕面といった成因の異なる平坦面が含まれていると考えられる。地形分類図には、標高30～60mの平坦面を一括して段丘Ⅱ・火砕流台地として示している。この面は、長谷川・鈴木(1964)の第3段丘、瀬川(1974)の日吉町段丘に相当する。火砕流堆積物は、長谷川・鈴木(1964)の銭亀沢火山灰層、山縣ほか(1989)の銭亀一女那川火砕流堆積物に対比される。段丘Ⅲは標高40mで、現河川沿いに認められる。

段丘面、とくに段丘Ⅰの段丘面は波状の起伏をなすことが多い。これは段丘面が浅くて広い谷に開析されているためである。また、段丘Ⅰの周縁部では段丘崖が不明瞭で、下位の平坦面との間に緩傾斜面をなすことが多い。

山地斜面は標高50m以上で谷密度が大きく、段丘堆積物や火砕流堆積物の基盤である新第三紀の汐泊川層(長谷川・鈴木、1964)の分布と一致している。

沖積低地が湯の川、松倉川、汐泊川沿いに認められる。狭長で侵蝕性の谷底平野は、志海苔川沿いや段丘Ⅱ・火砕流台地を刻む小谷に発達している。遺跡周辺の河川は、概ね北東―南西の方向性がある。海岸部には、砂礫から成る海浜と安山岩から成る波蝕棚が認められる。

中野B遺跡は段丘Ⅰの周縁部の緩傾斜面上に立地している。西端には銭亀宮の川の流水があり、この河川を隔てて西方に中野A遺跡が位置している。

遺跡で出土する石器の石材は、主に、流紋岩、硬質(珪質)頁岩、砂岩、閃緑岩、蛇紋岩である。石器石材と遺跡周辺地質との関係を見るために、現河床・現河口で礫の岩種を調べた。松倉川では、安山岩、頁岩、硬質(珪質)頁岩、緑色凝灰岩、閃緑岩等が認められる。汐泊川では、硬質(珪質)頁岩、粘板岩、閃緑岩等が認められる。河口では安山岩と流紋岩が多く、まれに硬質(珪質)頁岩が認められる。蛇紋岩を除くと、石器石材の大部分は遺跡周辺から得られそうであるが、石器として使用されている質の良い材質のものまでも周辺で入手可能かはさらに調査する必要があるだろう。

## 3 土 層

本遺跡の土層断面は、上位から下位へ、黒色土、黒褐色ないし暗褐色土、未風化層に区分される。これらは土層層位のA層、B層ないしB/C層、C層に相当する。黒色土中には数枚の降下火山灰、遺物が認められ、黒色土が累積成土層であることを示している。発掘調査上、土層や火山灰を便宜的にⅠ層、Ⅱ層、Ⅲ層、Ⅳ層、Ⅴ層、P.D.1、P.D.2、P.D.3、P.D.4、砂質火山灰、更新世砂質火山灰に区分した。P.D.1～P.D.4の名称は函館市教育委員会(1977)による名称を踏襲している。本年度の発掘範囲ではP.D.3以上の土層の保存は悪い。図Ⅱ-3に基本土層を、図Ⅱ-5にS地区の埋積谷の地質断面を示す。

Ⅰ層:P.D.2より上位の腐植土層を一括してⅠ層とする。Ⅰ層のうち耕作により作土となっている層



図II-2 発掘調査区の位置と周辺の地形

をⅠa層、耕作から免れた腐植土層をⅠb層とする。Ⅰa層は層厚10～30cmで発掘範囲のほとんど全域を覆っている。Ⅰb層は黒色(5YR1.7/1)の粘土質腐植土である。

P.D. 1：灰白色(10YR 8/1、10YR 8/2)のシルト質降下火山灰。Ⅰb層中に径1cm以下で斑点状に断片的に産出する。火山ガラスに頗る富み、その形態は網目模様を呈するものが多い。函館市教育委員会(1977)は駒ヶ岳統d火山灰(Ko-d)に対比されるものと考えている。Ko-dの年代はA.D.1640である(北海道火山灰命名委員会、1982；佐々木ほか、1970)。

砂質火山灰：にぶい黄褐色(10YR 4/3)の軽石混じり砂質降下火山灰。Ⅰb層中でP.D. 1とP.D. 2の間の層準に産出する。層厚1cm以下。主に、斜長石、角閃石、火山ガラスから成る。輝石類を少量含み、単斜輝石量が斜方輝石量を上回る。火山ガラスはバブルウォール型が多い。

P.D. 2：にぶい黄褐色、黄褐色、褐色(10YR 5/4、10YR 5/6、10YR 4/4、10YR 4/6)のシルト質降下火山灰。層厚1cm±。火山ガラスに頗る富み、僅量のアルカリ長石を含む。従来から駒ヶ岳統e火山灰(Ko-e)とされてきた(函館市教育委員会、1977)が、本火山灰は町田ほか(1981)・町田ほか(1984)の白頭山-苫小牧火山灰(B-Tm)に対比される。その年代は800～900年前である(町田・新井1992)。

Ⅱ層：P.D. 1とP.D. 3との間の層準の腐植土層をⅡ層とする。本層は黒色(5YR1.7/1、10YR1.7/1)を呈し粘土質である。P.D. 3を欠く土壤断面では本層とⅢ層との区別は難しい。層厚10～20cm。

P.D. 3：赤褐色、明赤褐色(2.5YR 4/8、5YR 5/8)の粘土質土壌で含水量が非常に多い。保存の良い地点で層厚10～20cm。層状ないしレンズ状に産出する。平成3年度の調査では、本層中から縄文時代前期前葉の春日町式、トドホッケ式土器や剝片が出土している(北海道埋蔵文化財センター、1992)。プラントオパールを頗る多く含み、少量の石英、斜長石、角閃石、火山ガラス等を含む。佐々木ほか(1970)以後、本層は銭亀沢層の名称で火山灰とされてきたが、上述のように火山灰とするには不自然な点が多く、プラントオパールの含有や色調から焼土と考えるのが妥当である(近藤、1993；北海道埋蔵文化財センター、1993)。この色調を呈する土壌は一地点の土壤断面において二つの層準に産出することがある。この場合、単純に上位のものをP.D. 3Ⅰ、下位のものをP.D. 3Ⅱとした。

Ⅲ層：P.D. 3とⅣ層との間の腐植土層をⅢ層とする。本層は遺物包含層の主体で、縄文時代前期・早期の遺物が出土する。本層をP.D. 4の挟在によって上下に二分する。P.D. 4より上位をⅢa層、下位をⅢb層とする。Ⅲa層は黒色(10YR1.7/1)の粘土質腐植土で層厚10～20cmである。Ⅲbは赤黒色(2.5YR1.7/1)の粘土質腐植土で層厚10～15cmである。Ⅲb層はⅢa層より赤色味が強いが、P.D. 4が挟在しない場合には両層の区別は難しく、この場合には一括してⅢ層として示す。

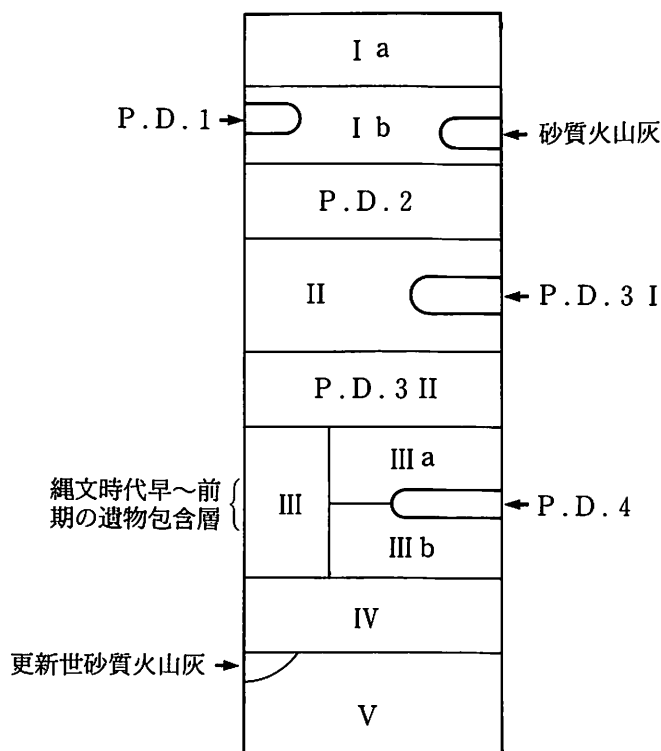
P.D. 4：明黄褐色(10YR 6/8)のシルト質降下火山灰。層厚2～4cm。縄文時代早期の住居跡の覆土中に産出することが多い。火山ガラスに富み、斜長石、斜方輝石、不透明鉱物を含む。火山ガラスの形態は網目模様を呈する。その気泡径はP.D. 1の気泡径よりも小さい。函館市教育委員会(1977)は不明火山灰としたが、斜方輝石と火山ガラスの屈折率から、駒ヶ岳起源のKo-gに対比される。

更新世砂質火山灰：灰色(5Y 6/1)の砂質降下火山灰。本年度新たに確認された火山灰である。グリッド57-63付近で、成因未詳のピットのほぼ基底に産出する。主に、斜長石、角閃石、火山ガラスから成り、軽石を含んでいる。層厚3cm。角閃石と火山ガラスの屈折率から、濁川カル

デラ起源のNg-a(fall)またはNg-b(fall)に対比される。

IV層：V層を母材とする腐植土層で、III層との間のいわゆる漸移層。黒褐色、暗褐色(5 YR 3 / 1、7.5 YR 3 / 2、7.5 YR 3 / 4)の砂質粘土～粘土質腐植土。層厚10～20cm。

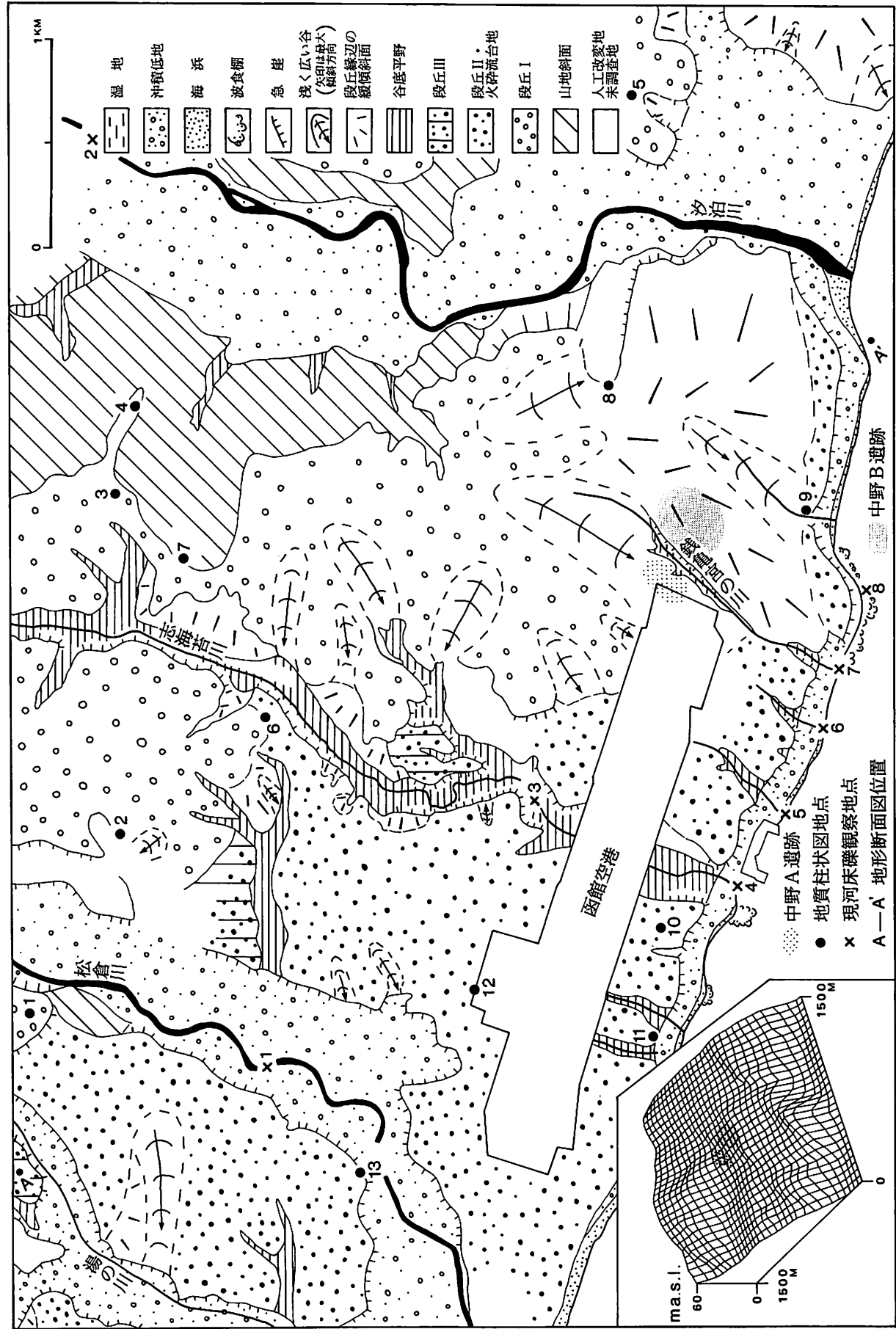
V層：火砕流堆積物。明黄褐色(7.5 YR 5 / 6)を呈し、軽石と石質岩片を多量に含む火山灰から成る。石英と角閃石を多く含む。長谷川・鈴木(1964)の銭亀沢火山灰層、山縣ほか(1989)の銭亀一女那川テフラに対比される。層厚10m<。



図II-3 基本土層模式図

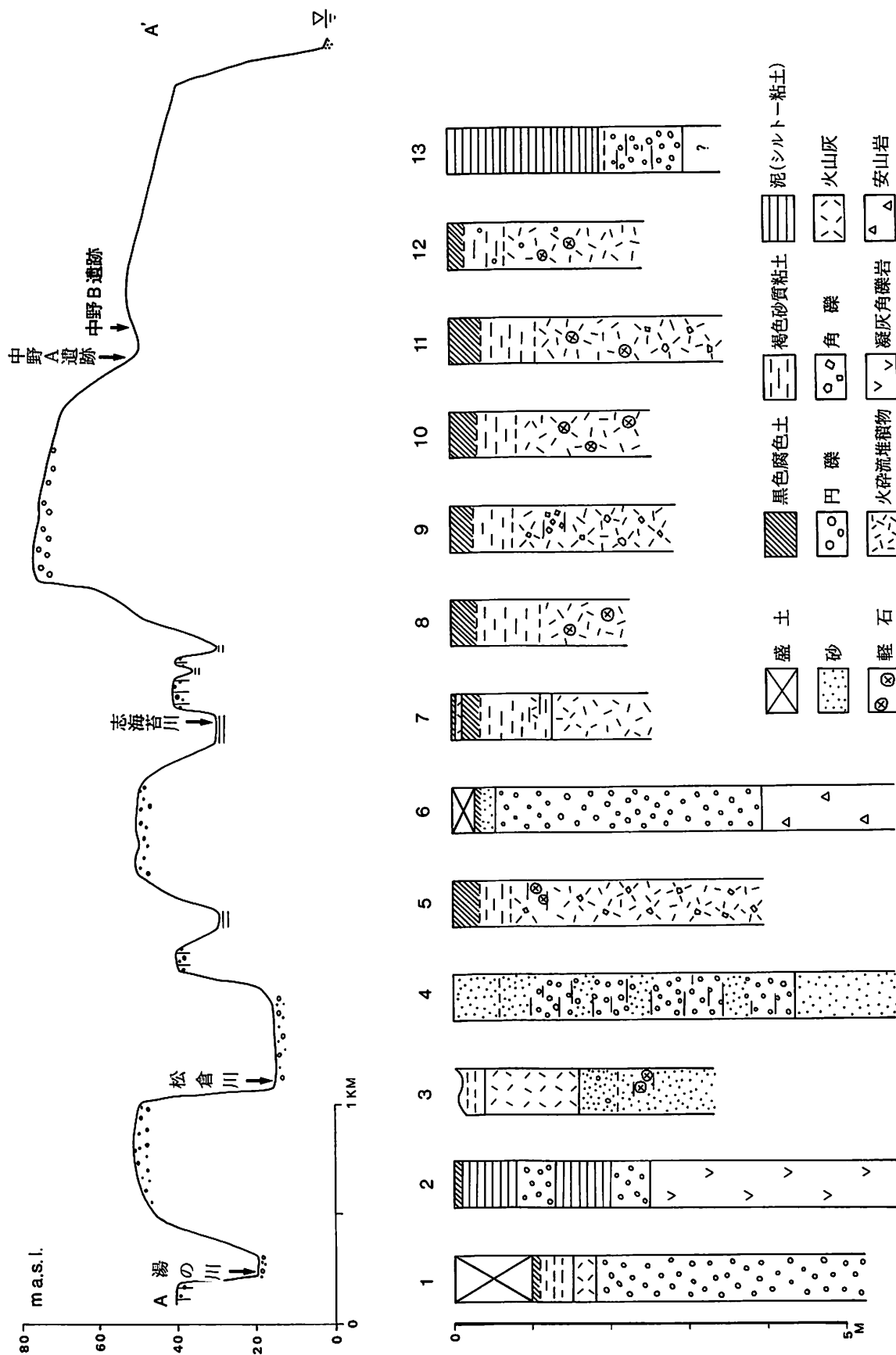
#### 引用文献

- 近藤鍊三 (1993)：函館市中野A遺跡土壌および焼土(?)の植物珪酸体分析。北海道埋蔵文化財センター「函館市中野A遺跡(II)本文編」、424pp.：388-393。
- 佐々木竜男・片山雅弘・音羽道三・天野洋司 (1970)：渡島半島の火山灰について。北海道農業試験場土性調査報告、No20、255-281。
- 瀬川秀良 (1974)：「日本地形誌北海道地方」。303pp.、朝倉書店。
- 函館市教育委員会 (1977)：「函館空港第4地点。中野遺跡」。1289pp.
- 長谷川 潔・鈴木 守 (1964)：5万分の1地質図幅「五稜郭」および同説明書。北海道立地下資源調査所。
- 北海道火山灰命名委員会 (1982)：「北海道の火山灰」。23pp.
- 北海道埋蔵文化財センター (1992)：「函館市中野A遺跡」、408pp.
- 北海道埋蔵文化財センター (1993)：「函館市中野A遺跡(II)本文編」。424pp.
- 町田 洋・新井房夫・森脇 広 (1981)：日本海を渡ってきたテフラ、科学。Vol. 51、562-569。
- 町田 洋・新井房夫・小田静夫・遠藤邦彦・杉原重夫 (1984)：テフラと日本考古学—考古学研究と関係するテフラのカタログ。古文化財編纂委員会編「古文化財の自然科学的研究」、984pp.、同朋舎：865-928。
- 町田 洋・新井房夫 (1992)：「火山灰アトラス [日本列島とその周辺]」。276pp.、東京大学出版会。
- 山縣耕太郎・町田 洋・新井房夫 (1989)：銭亀一女那川テフラ：津軽海峡函館沖から噴出した後期更新世のテフラ。地理学評論、Vol. 62、195-207。

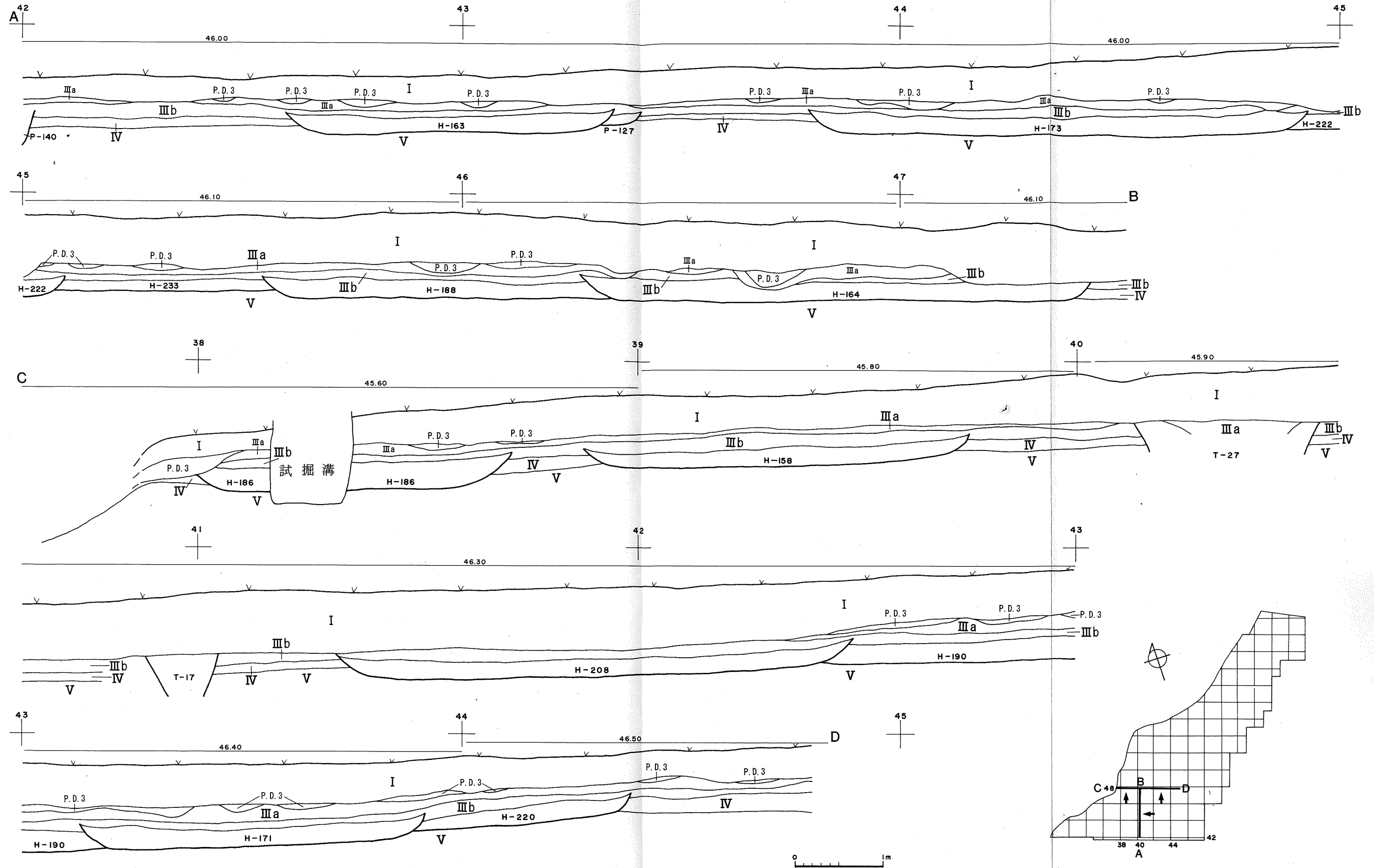


図Ⅱ-4 遺跡周辺の地形分類図 (左下図は南西方向から俯瞰したコンピュータグラフィックによるワイヤフレーム図。範囲は図Ⅱ-2にほぼ同じ。)

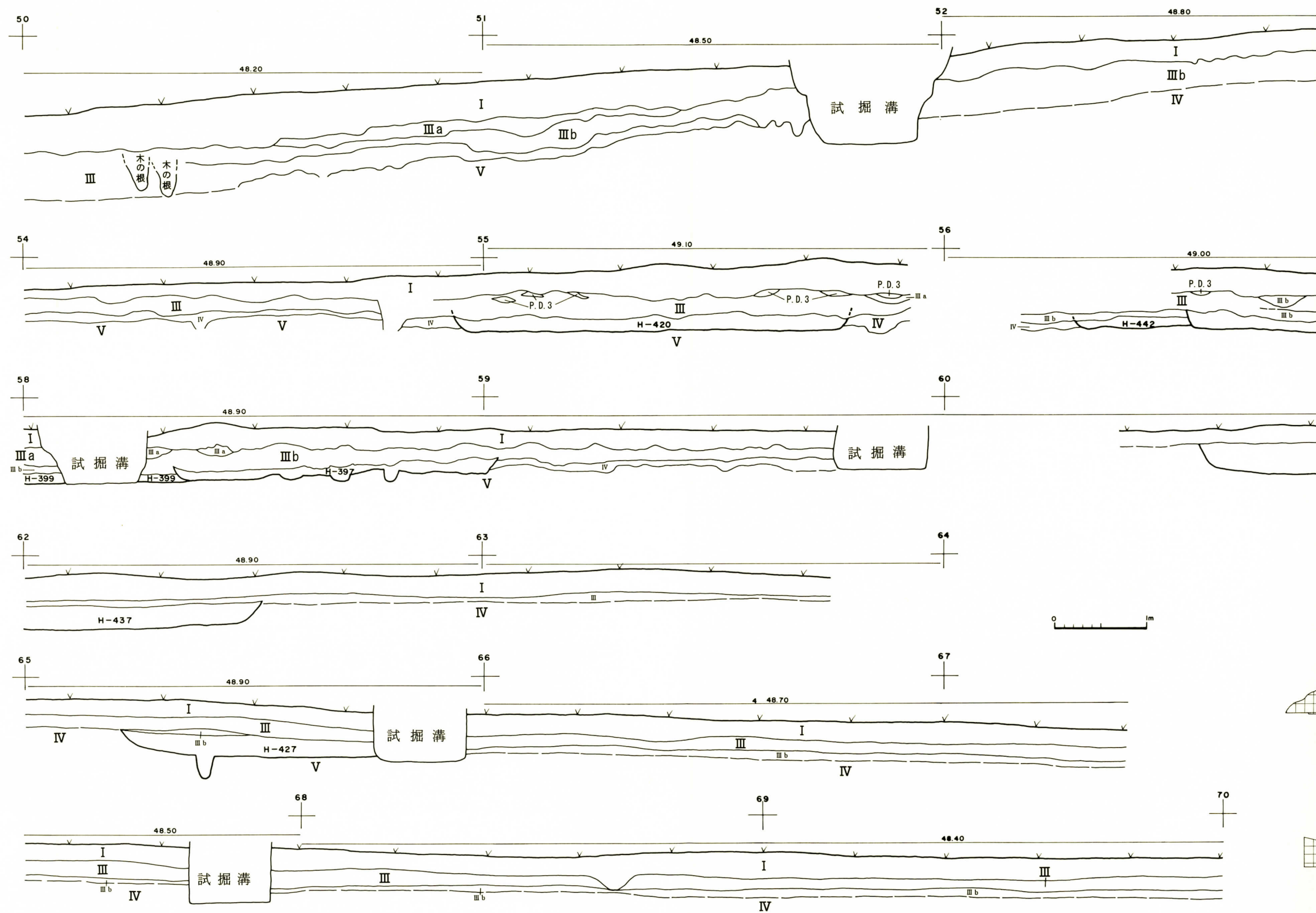




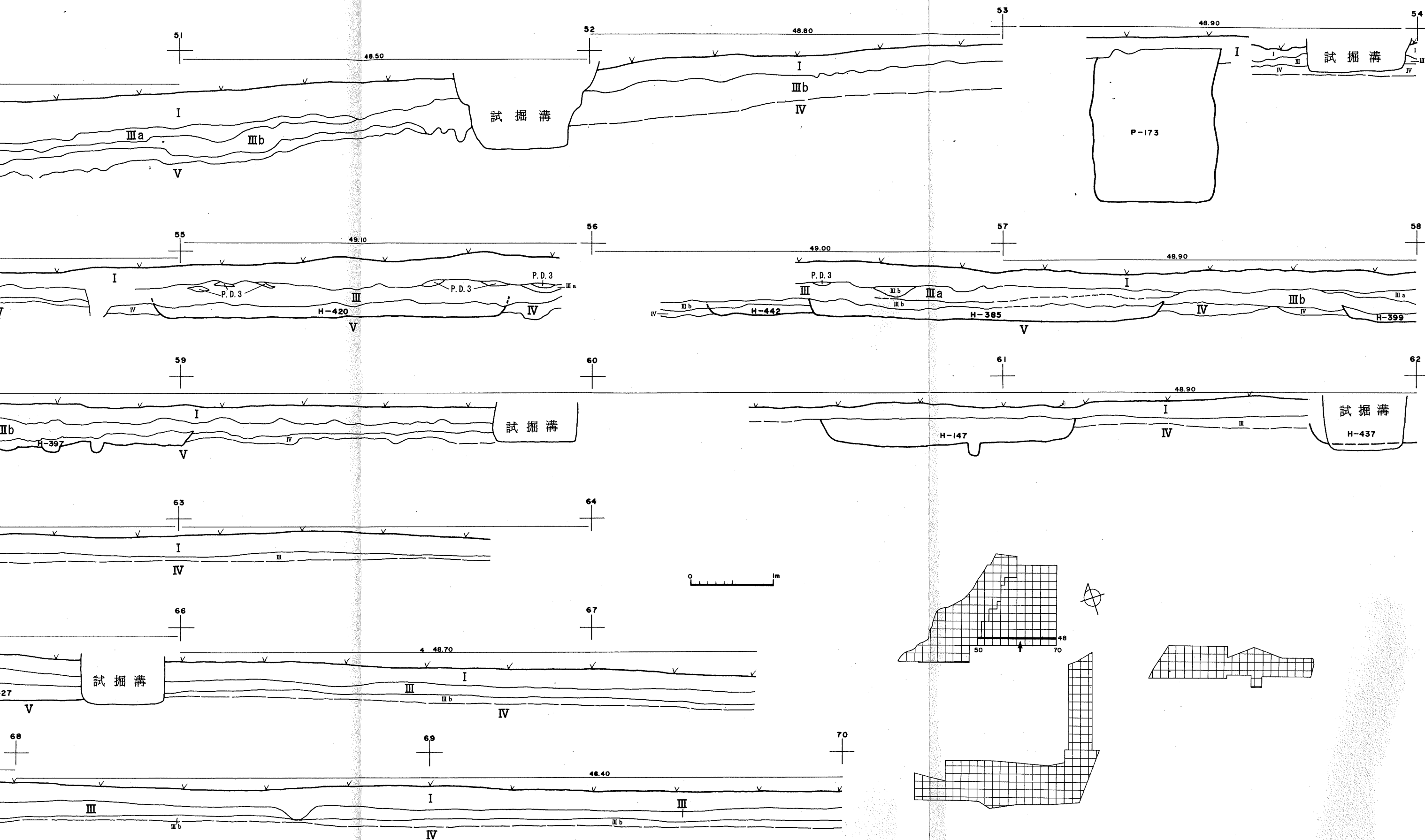
図II-5 地形断面と地質柱状図



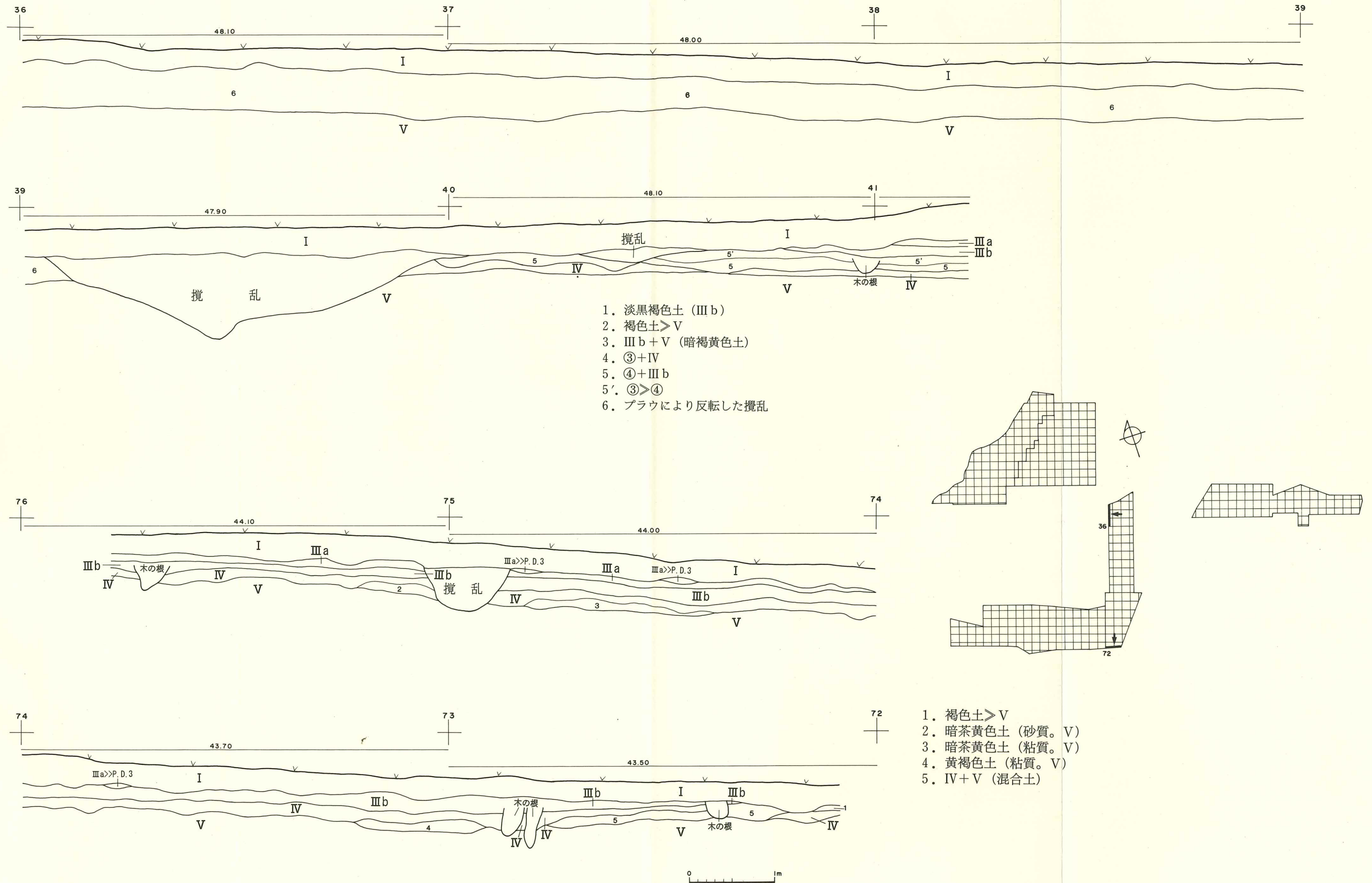
図II-6 土層断面図(1) 平成5年度北



図II-7 土層断面図(2) 平成6年度A地区

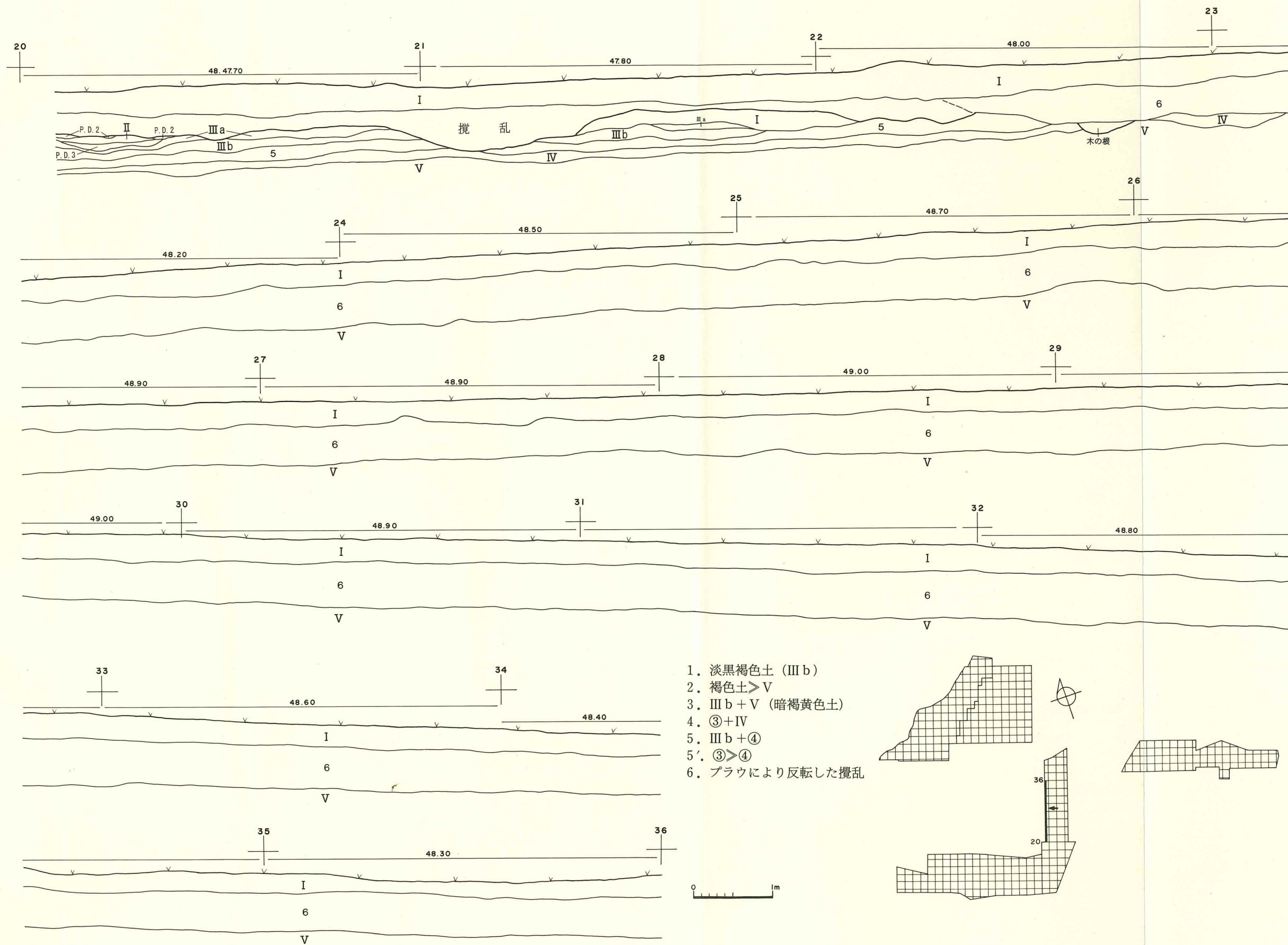


図II-7 土層断面図(2) 平成6年度A地区



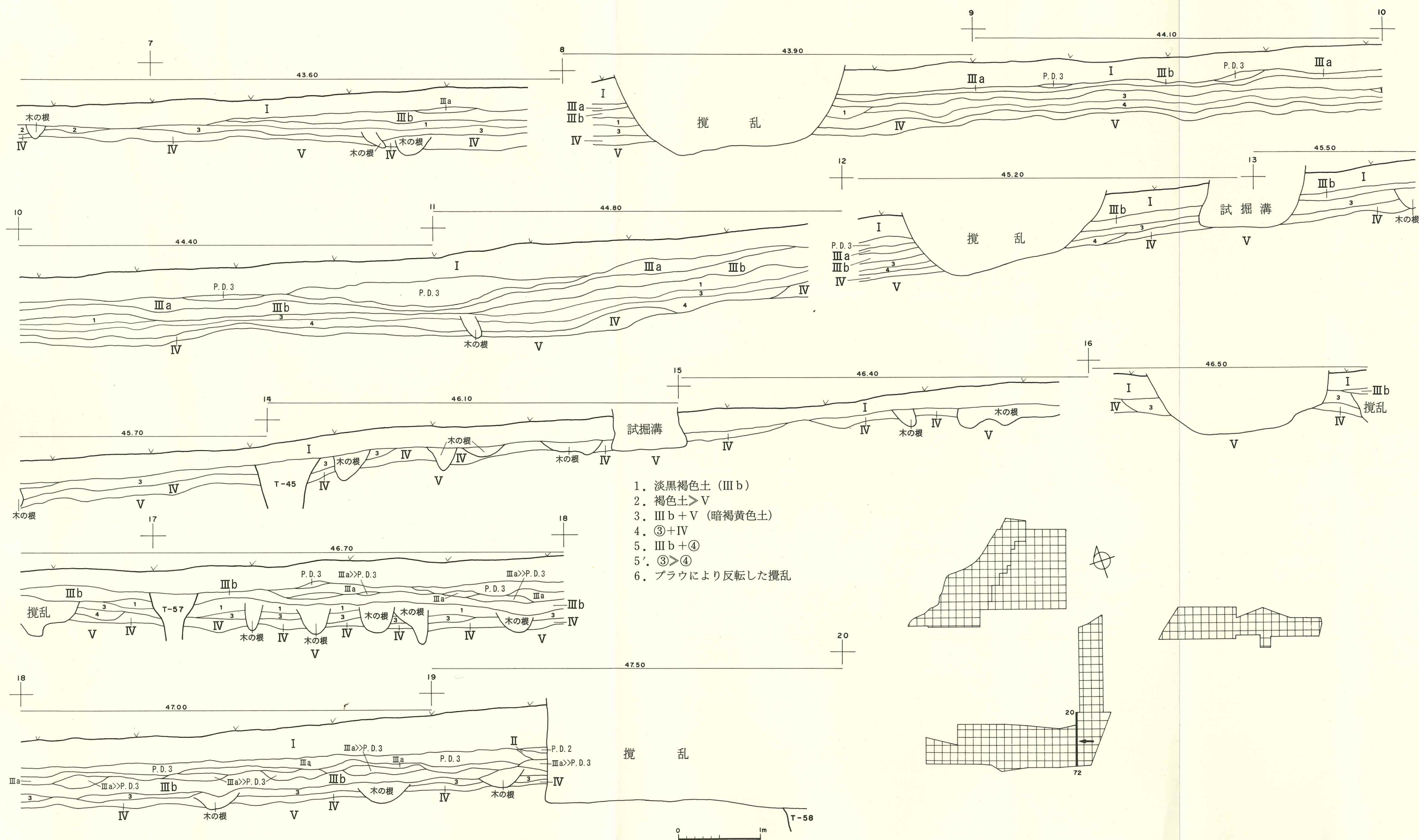
図II-8 土層断面図(3) 平成6年度B地区-1





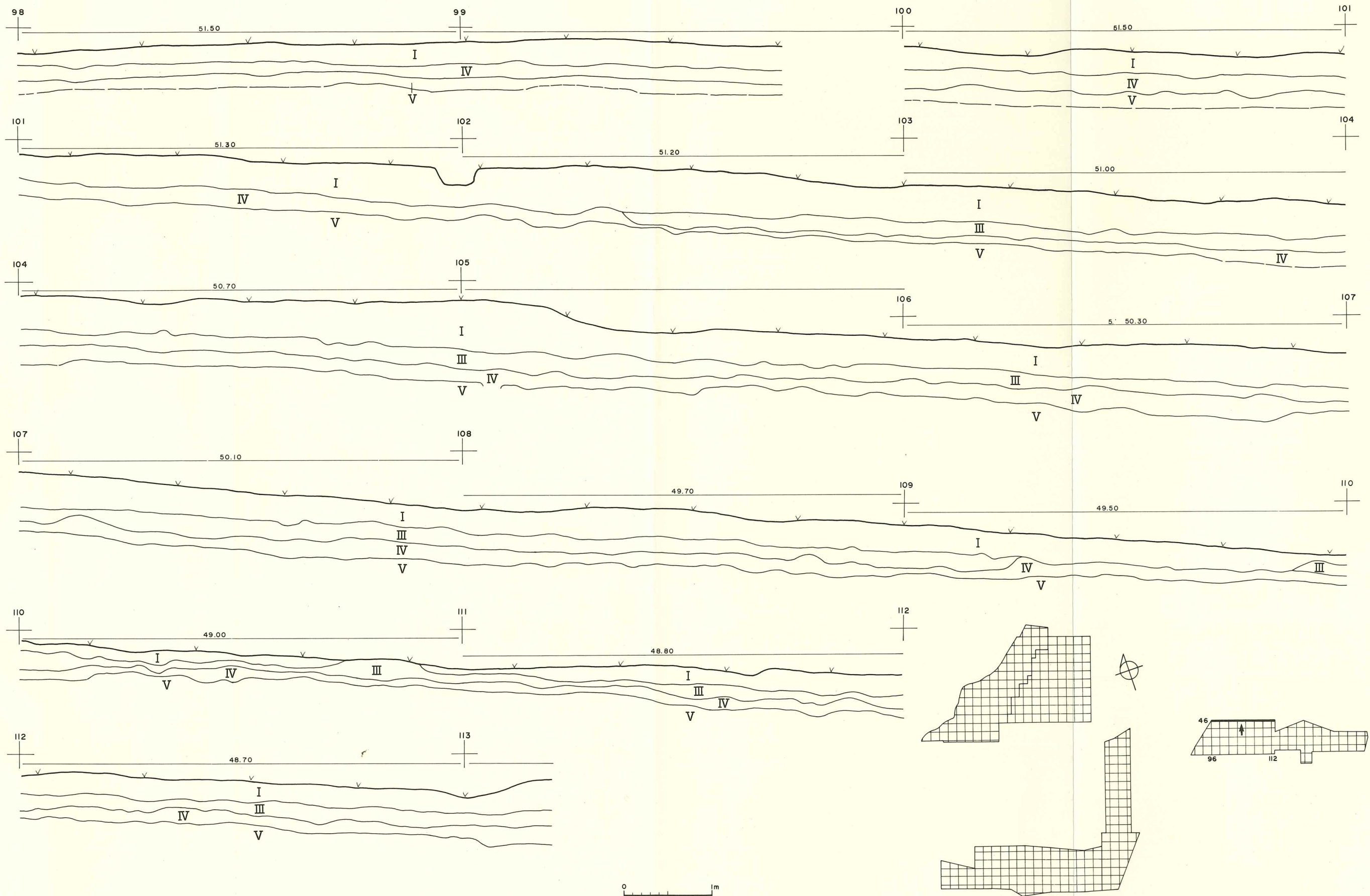
図II-9 土層断面図(4) 平成6年度B地区-2



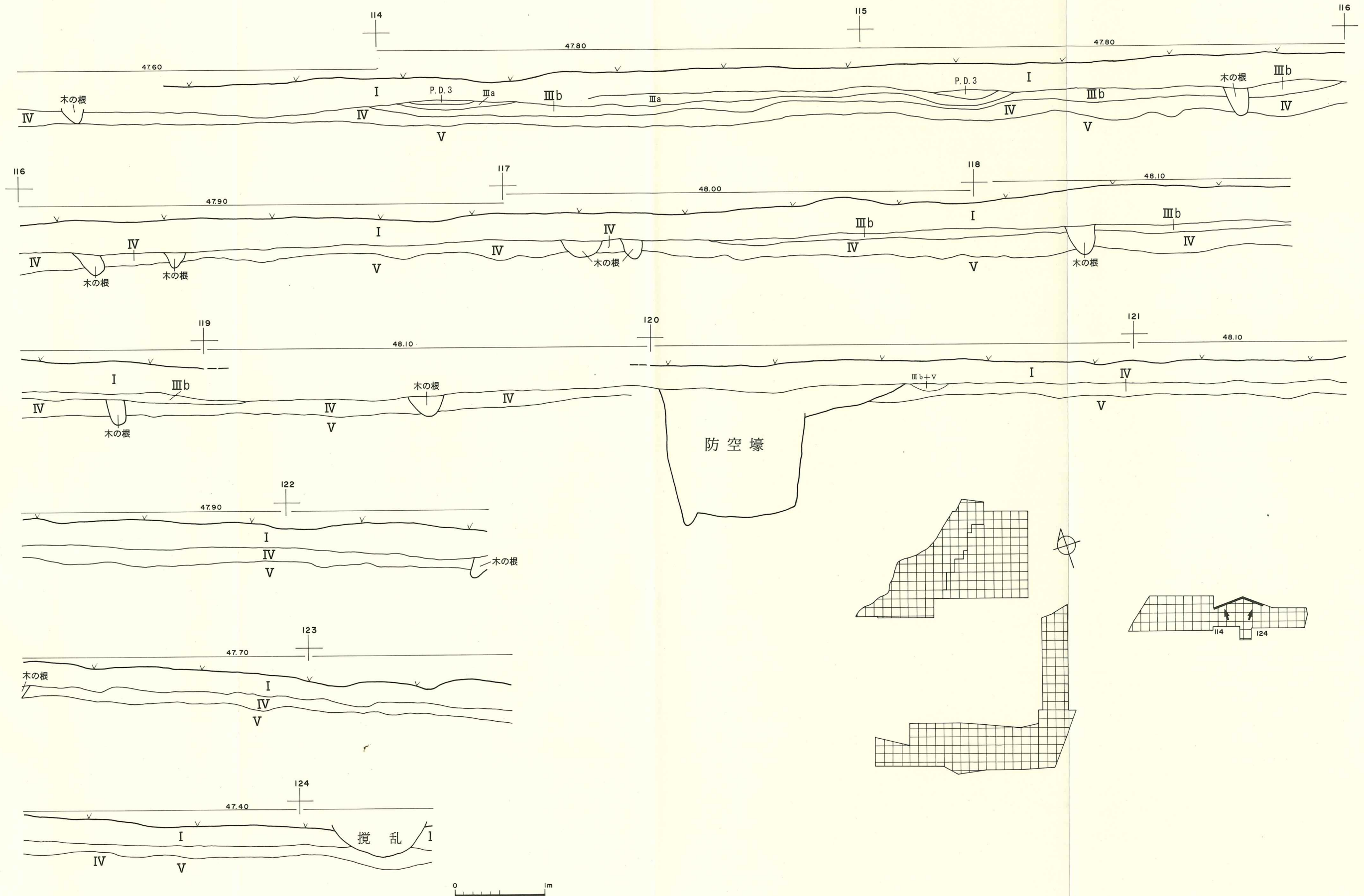


図II-10 土層断面図(5) 平成6年度B地区-3





図II-11 土層断面図(6) 平成6年度C地区-1



図II-12 土層断面図(7) 平成6年度C地区-2





### III 遺構と遺構出土の遺物(平成5年度北調査区)

III章では平成5年度北調査区の遺構、遺物を掲載し、説明している。遺構は住居跡、土壇、Tピット、焼土の順で記載している。実測図、遺構・遺物説明ともに基本的には遺構番号順に掲載し、説明しているが、遺構実測図の大小によって一部前後しているものもある。遺構番号は発見、調査順に付したが、調査後の検討によって変更が生じた場合もあり、それについては欠番とし、次年度の調査においてそれらを優先し、順次使用することとした。

住居跡は、位置、規模、床面積、平面形、長軸方向、検出・掘り込み面、重複関係、時期、床面、壁、炉跡、付属ピット、遺物出土状況、土器、石器の順で説明している。柱穴状小ピット、遺構に付設するピット、張り出し状のものは「付属ピット」の項で説明し、出土遺物の接合関係などについては「遺物出土状況」の項で、また土層の堆積状況、住居跡の特徴などについてのコメント的なものは「遺物出土状況」の項のあとに記述している。住居跡に伴うピットや柱穴状小ピットはHP、焼土などはHF、遺物出土状況図での土器はP、石器はS、剥片はFという記号を付している。ピットや柱穴状小ピットの深さは基本的に数字の前にマイナス(－)を付けて表示している。

土壇は、位置、規模、平面形、長軸方向、検出面、重複関係、墳底、遺物出土状況、性格、時期、土器、石器の順で説明し、実測図はまとめて掲載している。

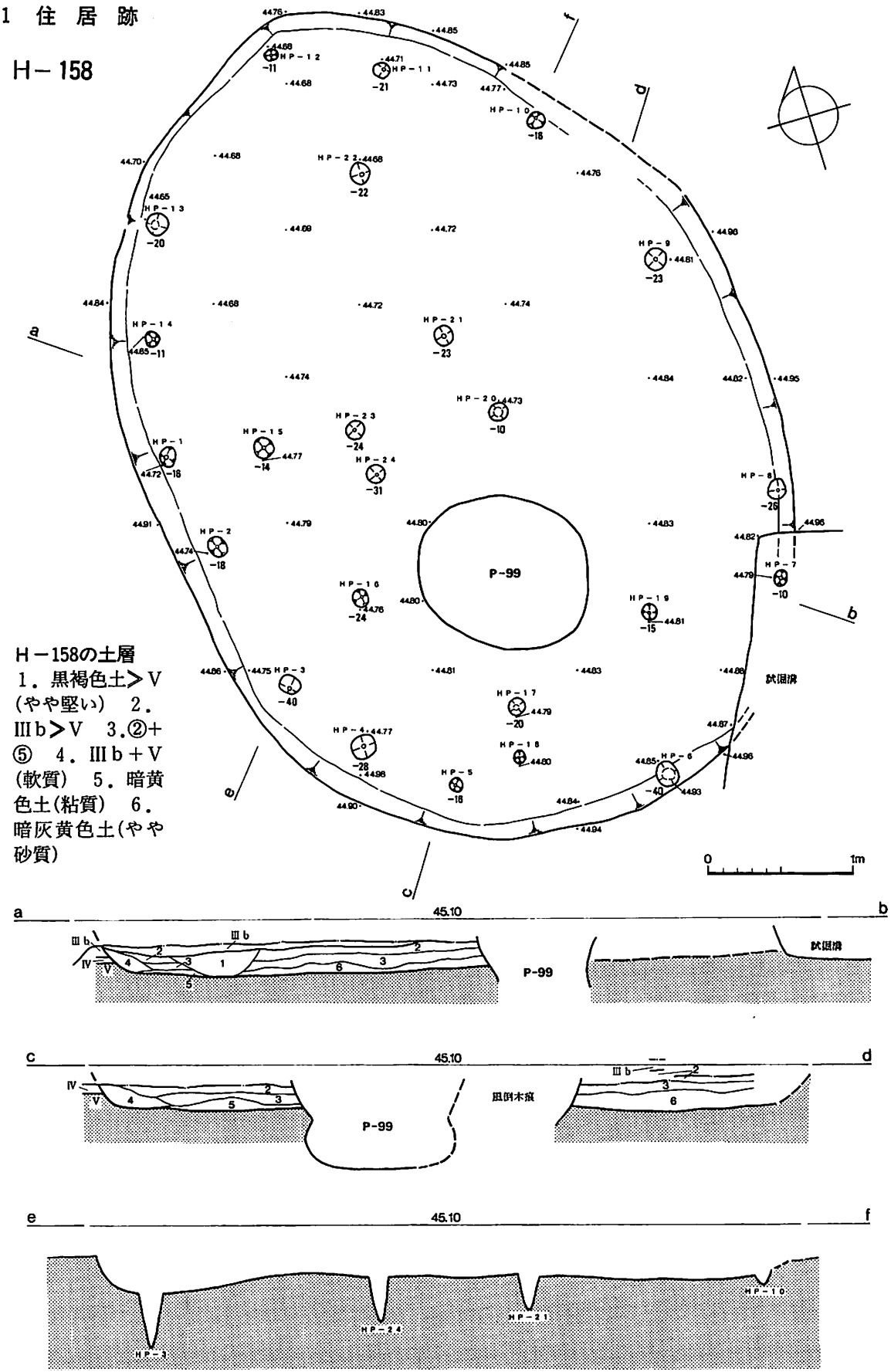
Tピット、焼土の規模については表化し、概要等については一括して簡潔に説明している。土壇同様に実測図はまとめて掲載している。

なお、遺構出土の遺物は、土器実測図、拓影図、石器実測図の順に掲載している。遺構の規模はII章「遺跡の概要」の項に一覧表として掲載している。また遺構別と遺構の出土層位別出土遺物、遺構および包含層の掲載遺物は一覧表にして第2分冊の巻末に一括して掲載している。

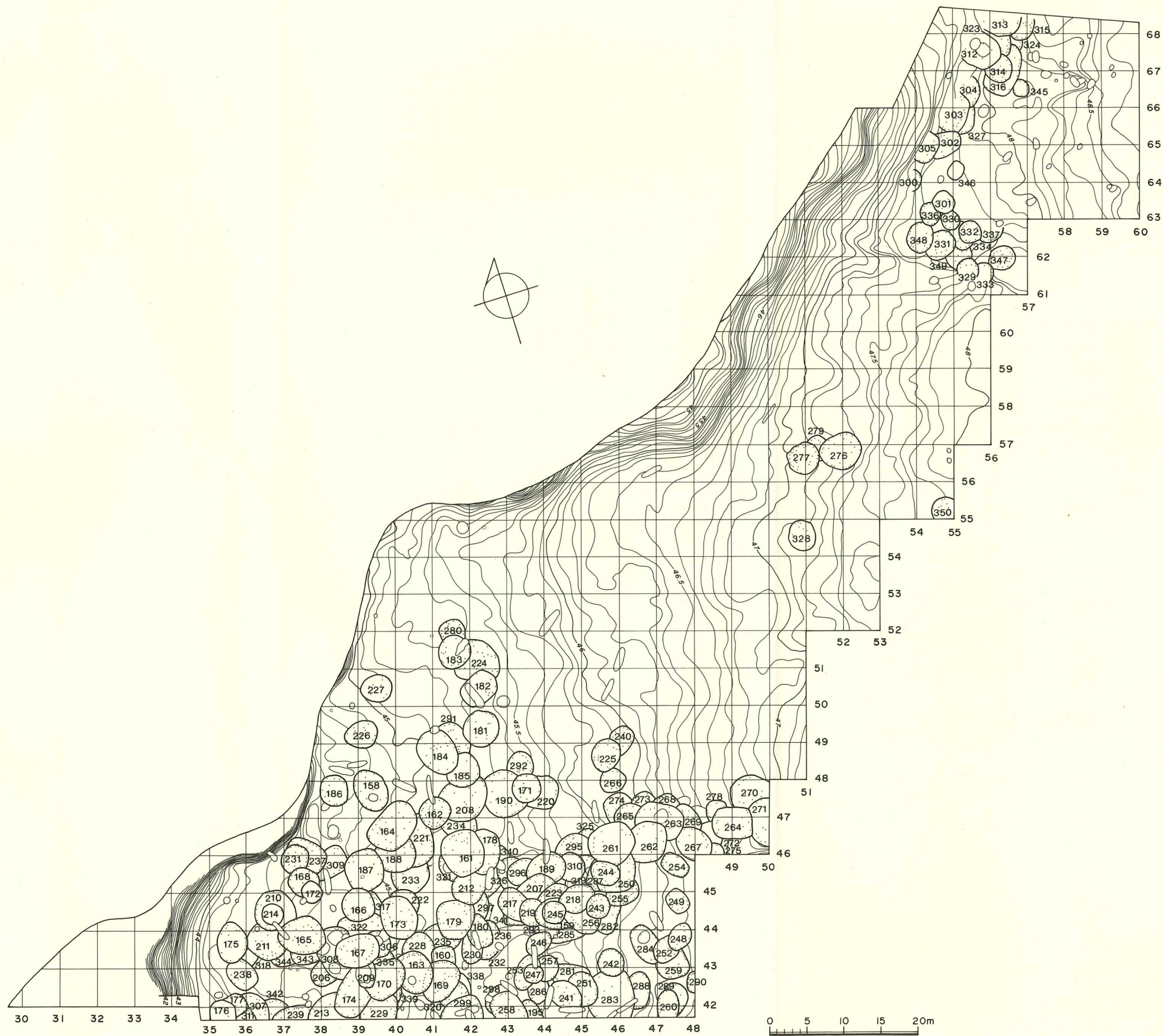
本報告書のIII章で取り扱う遺構は、住居跡177軒、土壇75基、Tピット28基、焼土12カ所である。このうちH-270・271・350は平成5・6年度の2年にわたって調査されたものであるが、III章で取り扱っている。調査区は銭亀宮の川左段丘上にあり、ほぼ北東から南西へゆるやかに傾斜する標高48m～44mの緩斜面上に立地している。遺構は北端部と南側とのほぼ二カ所に分かれている。北端部の遺構については包含層、遺構内(P-113墳底直上でII群土器が1点出土しただけである)から遺物が出土していないため時期を決定できないが、おそらく遺構の検出状況、規模、平面形、内部構造など南側の遺構と大差ないことから考え、縄文時代早期中葉のものと考えていいと思われる。南側の遺構は、出土遺物などから縄文時代早期中葉のものであり、このうちH-165・172はI群E類、H-161・163・164・175・209・247・253はI群D2類土器をそれぞれ伴う時期のものと思われる。他は包含層および遺構内出土の遺物などから判断するとI群D1類土器を伴う時期のものと考えて良いだろう。前年度までと同様に、住居跡はいちじるしく密集し、複雑に重複している。時期差によって立地のちがいは明瞭に見られないが、I群D2類土器を伴う住居跡は銭亀宮の川寄りのやや低位の平坦部にまとまっているようである。土壇はフラスコ状ピット(P-99)も検出されているが、大半が性格・用途などは不明である。時期はI群D1類土器を伴うもので、調査区全体に分散している。北端部付近で検出された土壇(P-138・139・144～153・157～166)の覆土下層には濁川火山灰(約12,000年前)起源の砂質土が堆積しており、形状は一定せず、掘り込みも浅いが、墳底、壁などがしっかりしていることから遺構として調査を行った。なお、Tピット、焼土についてはそれぞれの項でその概要をまとめて説明する。

1 住居跡

H-158

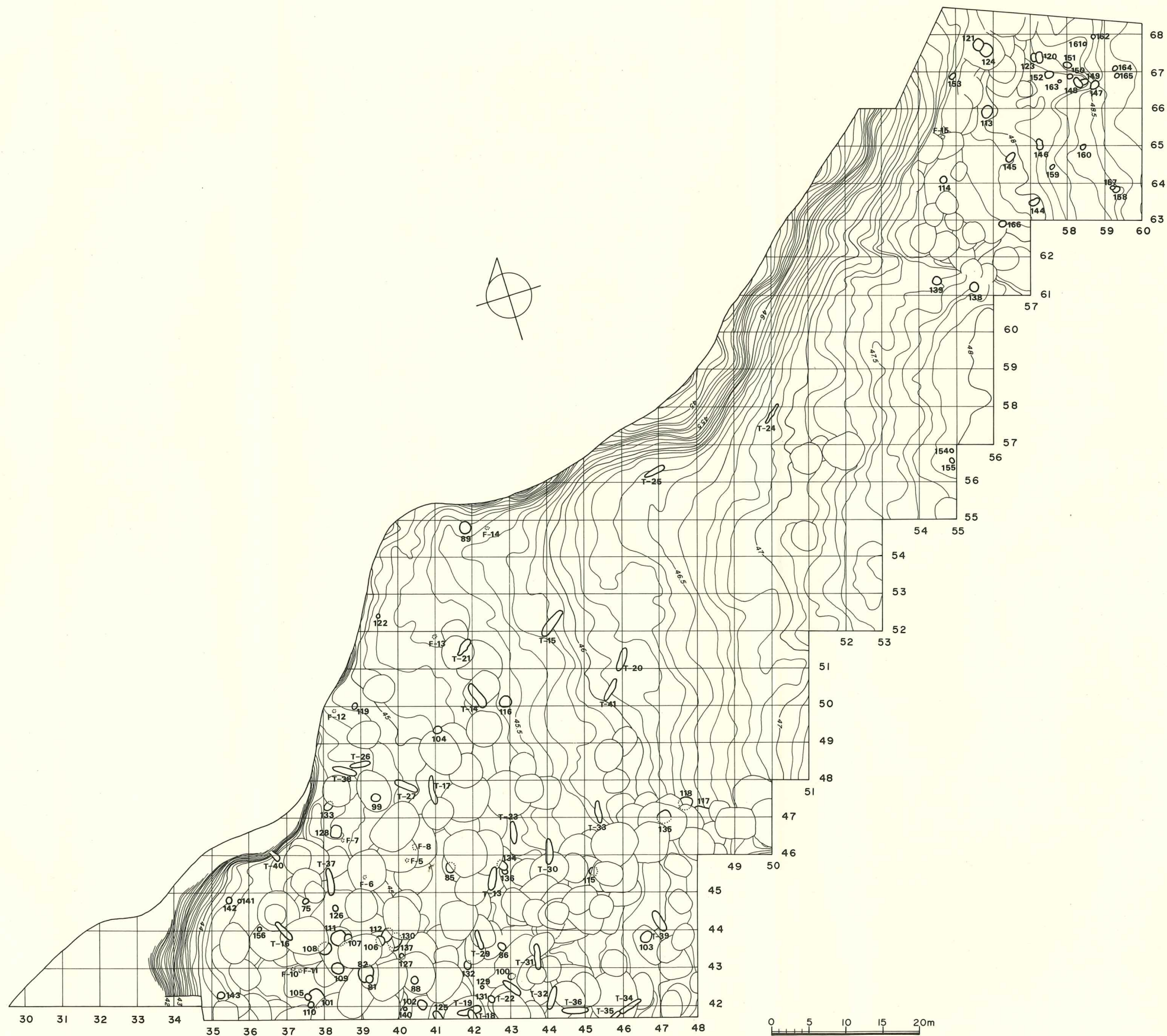






図III-2 遺構位置図(1) 住居跡





図Ⅲ-3 遺構位置図(2) 土壇・Tピット・焼土



H-158 (図III-1・5 図版9-1)

位置: 38-47・48 39-47・48 標高44.70m~44.96mのほぼ平坦地。

規模: 5.94m/5.70m×4.25m/4.00m×0.22m 床面積: 18.22m<sup>2</sup> 平面形: 隅丸長方形状

長軸方向: N-10°-W

検出・掘り込み面: IV層直上で黒色土まじりのIII b層の落ち込みを検出した。掘り込み面はIII b層中と思われる。重複関係: P-99と重複しており、これより古い住居跡である。

時期: I群D1類土器を伴う縄文時代早期中葉の時期のものと思われる。

床面: V層を浅く掘り込んで構築されている。南東→北西へゆるやかに傾斜している。構築面はほぼ平坦で、堅い。構築面直上には汚れた暗灰黄色土が薄く堆積しており、この上面が最終生活面と思われる。この面も平坦で、堅い。

壁: 立ち上がりは全体にゆるやかな傾斜である。検出面からの壁高は、北壁が7cm前後、東壁が13cm~16cm、南壁が9cm~12cm、西壁が11cm~18cmである。

炉跡: 焼土などは検出されていない。

付属ピット: 柱穴状小ピットは24個検出されている。すべて直立している。HP-1~14は壁際をめぐるものである。HP-15・16・19・21は支柱穴と考えられ、6本柱が想定される。

遺物出土状況: 出土遺物総数は52点である。この内訳は土器46点、石器6点である。遺物はすべて覆土中からの出土である。土器はI群D1、D2、E類のもので、石器では石鏃、剥片などが出土している。出土土器には、覆土2層と39-48Ⅲ (図III-4-1)、覆土2層とH-164覆土1層という接合関係が見られる。

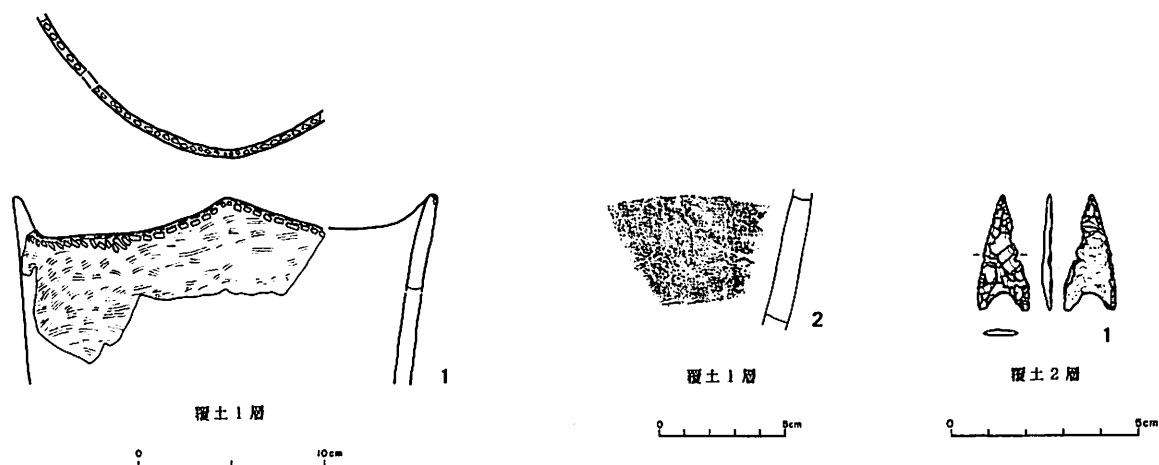
覆土はIII b層と黄色土がまじり合った土で、下層は粘質である。また構築面直上には汚れの目立つ暗灰黄色土が薄く見られた(和泉田)。

#### 土器 (図III-4 図版160-1)

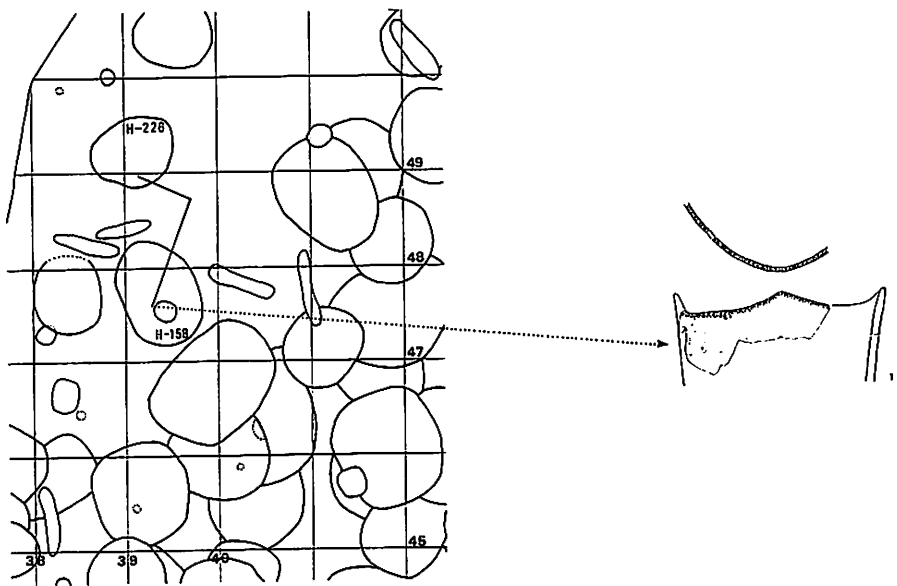
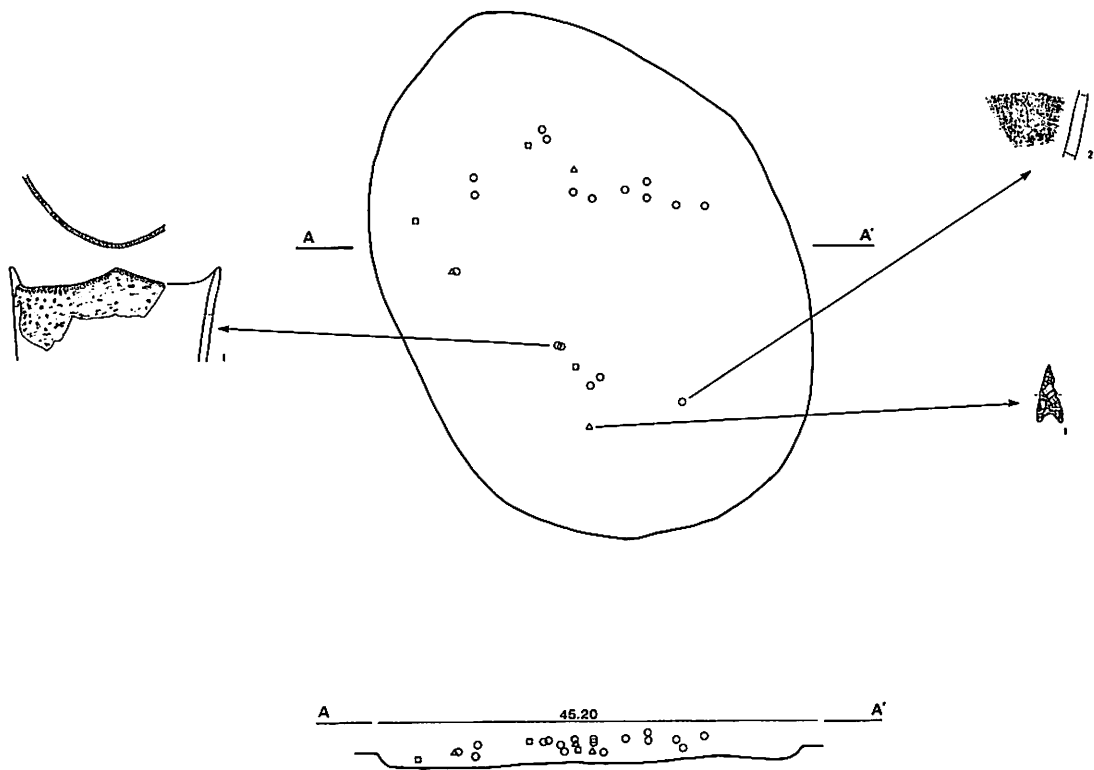
いずれも覆土1層から出土したもので、I群D1類である。1は尖底部の破片、2は体部の小破片、同一個体と見られる(森)。

#### 石器 (図III-4 図版160-2)

1は石鏃。片面は焼け弾けにより欠損している(宗像)。



図III-4 H-158出土遺物



図Ⅲ－5 H－158出土遺物分布・接合図



H-159 (図III-6 図版9-2・3)

位置: 43-44 44-44 規模: 6.10m/5.90m×3.90m/3.55m×0.33m 平面形: 長円形  
床面積: 17.40㎡ 長軸方向: N-80°-W

検出・掘り込み面: III b層中で検出されている。覆土の上半にIII b層の堆積が見られることから、掘り込み面はIII b層中と思われる。重複関係: H-245・218・256・285・293と重複しており、H-245・218・256より古く、H-285・293より新しい住居跡である。

時期: 周辺包含層の出土遺物などから、縄文時代早期中葉の時期のものと思われる。

床面: V層を約10cmほど掘り込んで構築されている。中央部は若干低く、ゆるやかに傾斜し、堅くしまっている。

壁: H-218・256に東壁上部は壊されている。検出面からの壁高は25cmあり、床からの立ち上がりは丸みがあり、傾斜はゆるやかである。

炉跡: 焼土などは検出されていない。

付属ピット: 柱穴状小ピットは54個検出されている。そのうち22個は壁面にある。13個は壁際から50cmの範囲内にある。

遺物出土状況: 覆土中で礫が1点出土しただけである(谷島)。

H-160 (図III-7 図版10-1・2)

位置: 40-43 41-43 標高45.20m~45.31mの平坦地。

規模: (4.20m)/(3.80m)×3.27m/2.90m×0.36m 床面積: 9.92㎡ 平面形: 隅丸長方形?  
長軸方向: N-17°-E

検出・掘り込み面: H-169の北壁面で覆土状の土の落ち込みを確認した。またIII b層中でIII b>黄色土の落ち込みを検出した。掘り込み面はIII b層中と思われる。重複関係: H-169・228・235と重複しており、H-169より古く、H-228・235より新しい住居跡である。

時期: 周辺包含層の出土遺物などから縄文時代早期中葉の時期のものと思われる。

床面: V層中に構築されている。平坦で、やや軟質。

壁: 立ち上がりは急傾斜である。検出面からの壁高は、西壁が19cm~25cm、北壁が13cm~17cm、東壁が17cm~22cmである。

炉跡: 焼土などは検出されていない。

付属ピット: 柱穴状小ピットは27個検出されている。このうちHP-12~16はH-169の構築面で検出されたものである。HP-2~15は壁際をめぐるもので、すべて直立している。HP-16・19・20は主柱穴と考えられ、2本柱が想定される。HP-21~27は構築面で検出されたもので、40cmほどの間隔で、杭状で細い小ピットである。

遺物出土状況: 出土遺物総数は21点である。この内訳は土器17点、石器4点である。このうち床直上からはI群D2類土器が1点、石核1点、礫2点が出土している。土器はI群B、D1、D2類のものが出土している。

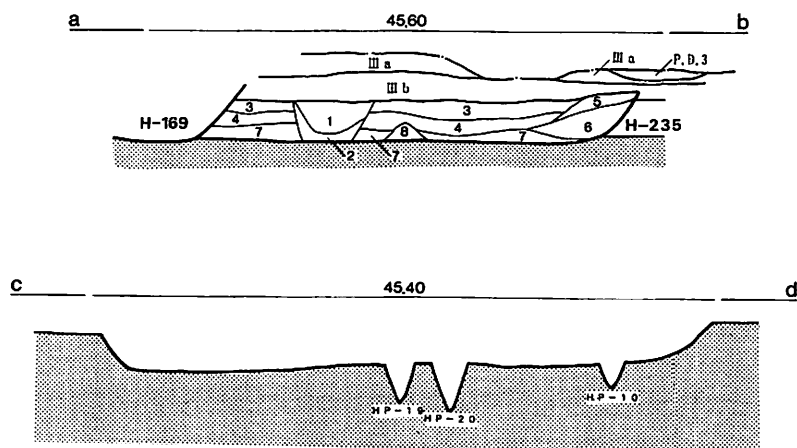
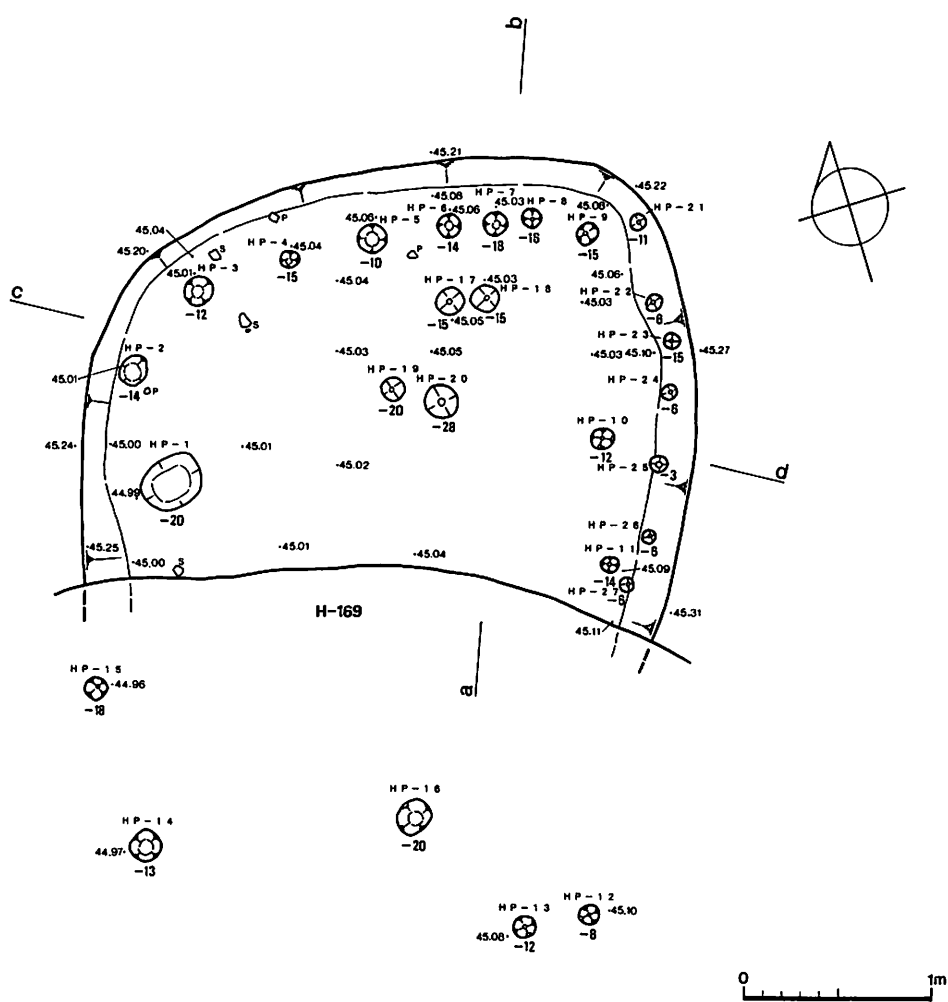
覆土はIII b層と黄色土がまじり合った土である(和泉田)。

土器 (図III-8 図版160-3)

1は覆土1層出土のI群B類、無文であるが、断面近くに僅かに波状沈線が認められる。胎土には黒い角閃石ないしは輝石の微細粒を含む。2~4はI群D2類土器である。2・3は覆土1層から、4



H-160



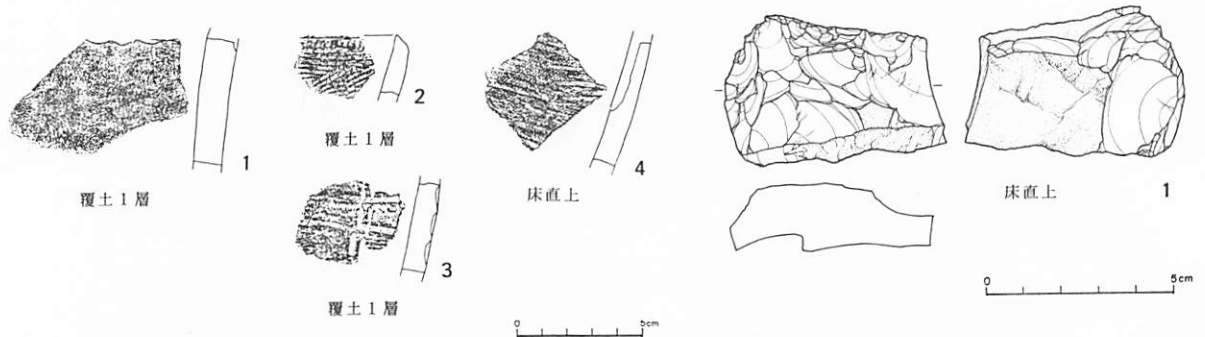
H-160の土層  
1. 黒褐色土>V 2. ①+V 3. III b>V 4. III b+V(粘質)  
5. III b>V 6. 暗黄茶色土(砂質) 7. 暗黄灰色土(粘質) 8.  
暗茶褐色土(砂質)

図Ⅲ-7 H-160実測図

は床直上から出土した。2は口縁部の小破片で、口唇断面が傾斜した切り出し状になり、端部と口唇部には貝殻条痕がある。3は口縁部文様帯の一部と思われ、2列の縦位の刺突列がある(森)。

#### 石器(図Ⅲ-8 図版160-4)

1は石核。上端の打面は礫面。下端と片面は節理面。主に上端を打面として剥離作業が行われるが、作業の進行とともにヒンジフラクチャーを起し、剥離される剥片が小型化し、作業が停止している(宗像)。



図Ⅲ-8 H-160出土遺物

H-161(図Ⅲ-9・10 図版10-3、図版11-1・2・3)

位置: 41-45・46 42-45・46 標高45.30m~45.46mの平坦地。

規模: 6.10m/5.70m×5.56m/5.16m×0.30m 床面: 24.94㎡ 平面形: ほぼ隅丸長方形 長軸方向: N-10°-W

検出・掘り込み面: III b層中でP.D.3の広がりが見られ、III b>黄色土の方形状の落ち込みが検出された。掘り込み面はIII b層中と思われる。重複関係: H-178・212・234・321、P-85と重複しており、これらより新しい住居跡であるが、P-85との新旧関係は明瞭でない。

時期: I群D2類土器を伴う縄文時代早期中葉の時期のものと思われる。

床面: V層を浅く掘り込んで、構築されている。ほぼ平坦で、堅い。

壁: 立ち上がりは急傾斜である。検出面からの壁高は、北壁が21cm~26cm、東壁が27cm~33cm、南壁が28cm前後、西壁が13cm~24cmである。

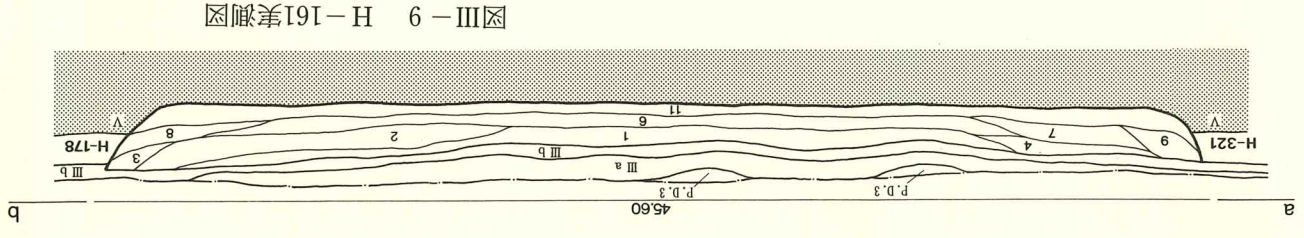
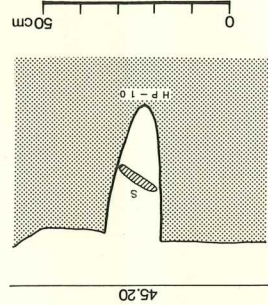
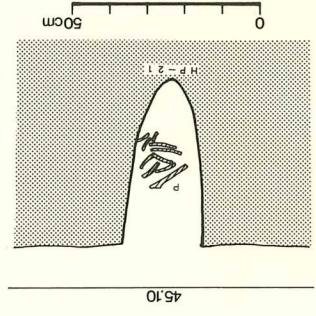
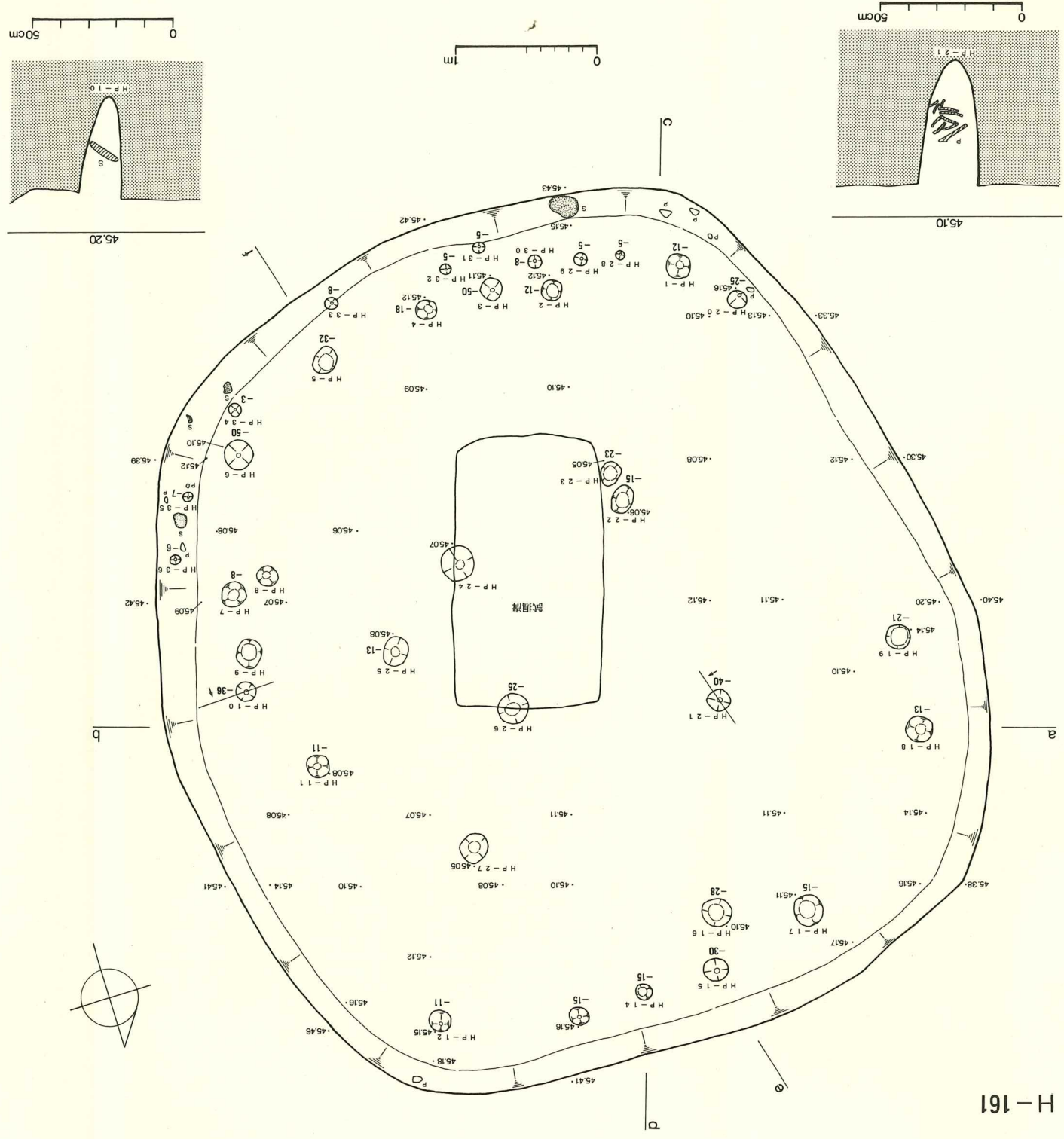
炉跡: 焼土などは検出されていない。

付属ピット: 柱穴状小ピットは36個検出されている。HP-21・23・25・27は主柱穴と考えられ、4本柱が想定される。HP-1~7・9~20は壁際よりやや内側にあり、直立している。HP-28~36は壁際をめぐるもので、構築面で検出されたものもある。これらは径10cm以下で、深さ5cmほどで、浅いけれども直立し、杭状である。間隔は約30cmで、規則的に並んでいる。

遺物出土状況: 出土遺物総数は303点である。この内訳は土器218点、石器85点である。このうち床直上などからは石器3点が出土している。壁からはI群D1類土器が26点出土している。またHP-10の覆土中からすり石1点、HP-21の覆土中からはI群D2類土器が一括出土した。これらは本住居跡の廃棄後混入したものであろう。土器はI群D1、D2類のものが出土し、石器ではすり石、石皿、砥石、石錘などが出土している。出土土器には、覆土1層とT-21覆土と38-46(Ⅱ)・39-46(Ⅱ)(図Ⅲ-11-1)、覆土3層・壁・HP埋土(図Ⅲ-11-2)、壁どうし(図Ⅲ-11-9)、覆土1層・3層とH-212覆土1層という接合関係が見られる。

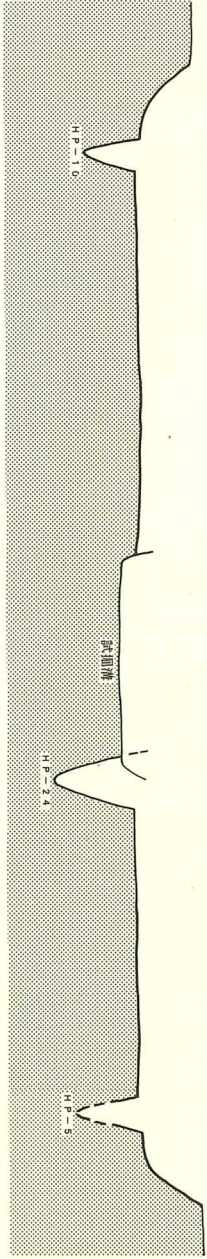
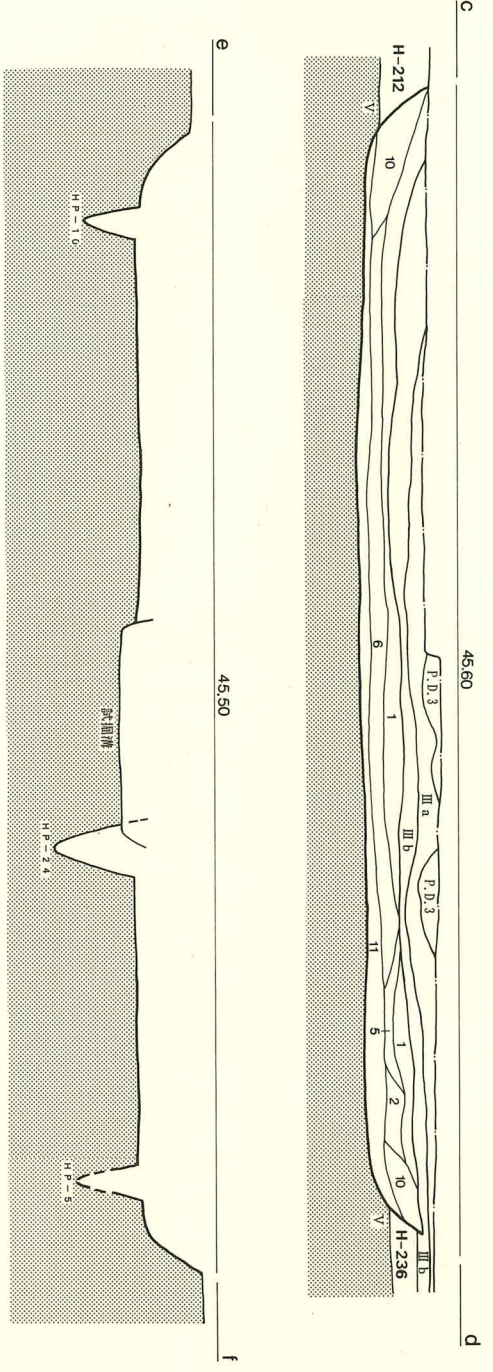


H-161

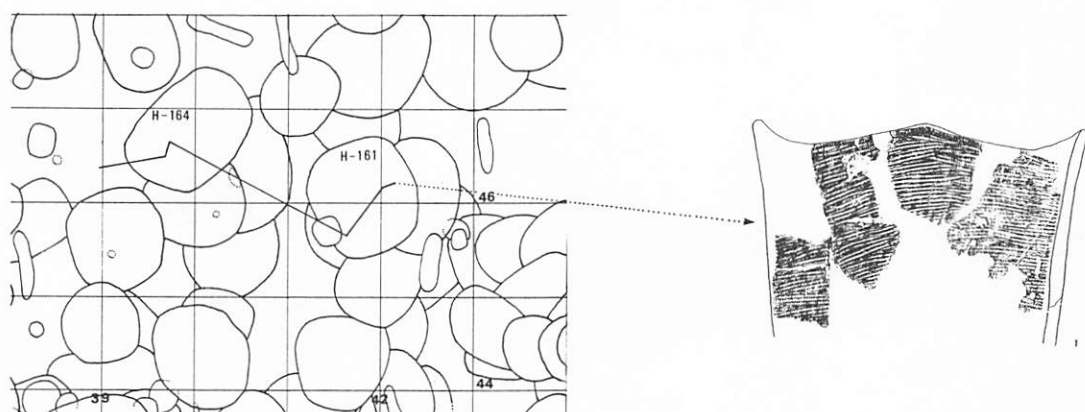


図III-9 H-161実測図

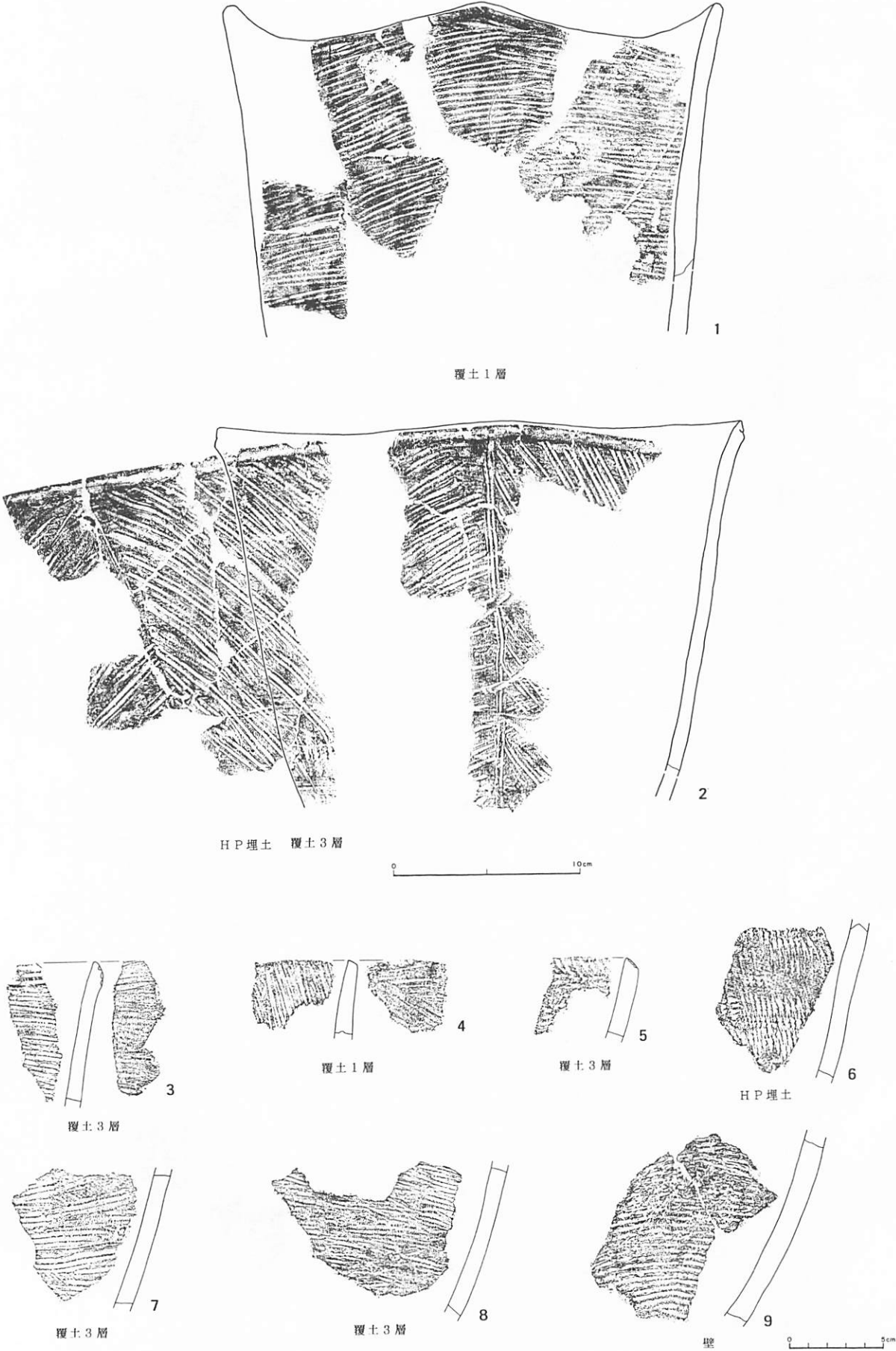
H-161の土層  
1. III b > 黄色土 2. 黒褐色土(粘質)  
3. 暗茶褐色土 4. 灰褐色土(砂質)  
5. III b > 黄色土(砂質) 6. 暗黄褐色土  
7. 灰黄色土(砂質) 8. 暗黄茶色土  
9. 暗灰黄色土(砂質) 10. ⑨ > 黄色土  
11. 暗黄色土  
(微小の軽石を混入)







図Ⅲ-10 H-161出土遺物分布・接合図

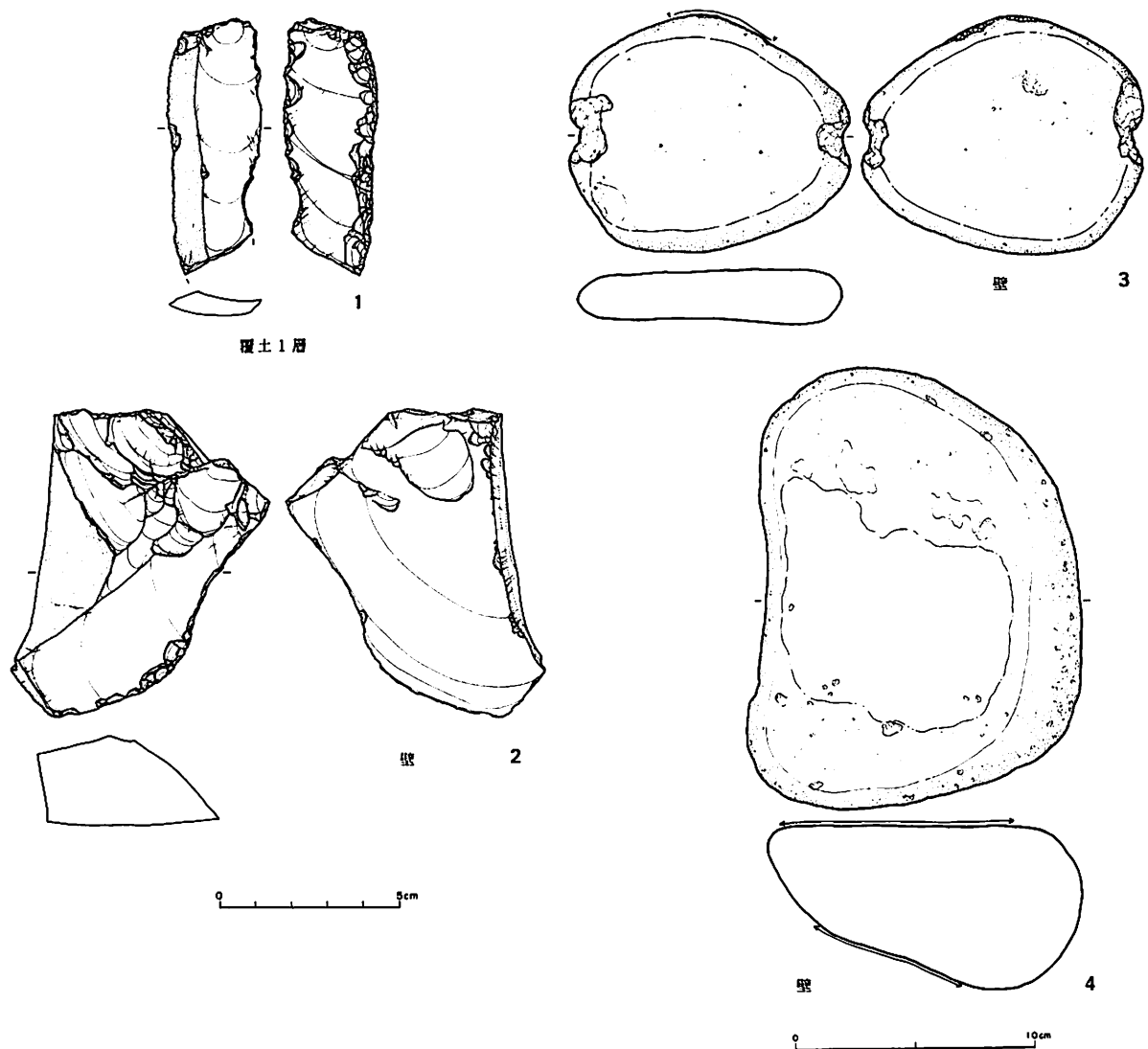


図Ⅲ-11 H-161出土土器

覆土はIII b層と黄色土がまじり合った土である。ただ東側の覆土中層付近で粘質の黒褐色土が10cm～20cmの厚さで堆積していた。また西側のIII b層下には砂質の灰褐色土が半円状に広がっていた。これには小石が多量に混入し、ガラガラしたもので、掘り揚げ土の流入を考えられる(和泉田)。

#### 土器 (図III-11 図版160-5)

図示した土器はすべてI群D2類のものである。1は本住居跡の覆土、T-21の覆土および包含層のIII層出土の土器片が接合したもので、口唇部から体部までのおおよその器形が復元できた個体である。底部の形態は不明であるが、ゆるやかな波状口縁と思われ、引き摺りの長い、整然とした貝殻条痕が内外両面をめぐっている。2も体部までの器形が復元できた個体で、平縁の土器と見られる。口唇部は切り出し状で、削がれて薄く仕上げられている。文様は、半截竹管様の施文具の内面を用いて密な条痕文を施すもので、縦位の沈線を中心として条痕を斜行させ、矢羽根状の文様構成となる。3は覆土3層から出土したもので、地文に条痕があり、切り出し状の口唇端部には3列の刺突列が横位に認められる。4は縦位の条痕のみの破片。5は地文に押引文が、切り出し状の口唇端部には貝殻腹縁文がある。6～9は体部の破片。6はHP-21から出土した破片で、ロッキングの手法を用いた貝殻腹縁



図III-12 H-161出土土器



文がある。7～8は貝殻条痕文があるもので、8には僅かに繊維の混入が認められる(森)。

石器(図Ⅲ-12 図版161-1)

1・2はスクレイパー。3は石錘。縁部にたたき痕が見られる。4は石皿。二面にすり面をもつ(宗像)。

H-162(図Ⅲ-13・15 図版11-4・5)

位置: 40-46・47 41-46・47 標高45.25m～45.47mのほぼ平坦地。

規模: 4.50m/4.13m×3.80m/3.40m×0.24m 床面積: 11.47㎡ 平面形: 隅丸長方形状

長軸方向: N-51°-E

検出・掘り込み面: Ⅲb層中でP.D.3、黒色土>P.D.3の広がりが見られ、またⅢb層中で石皿が出土していたことから遺構が想定された。Ⅲb層中でⅢb>黄色土の落ち込みを検出した。掘り込み面はⅢb層中と思われる。重複関係: T-17、H-208・221・234と重複しており、T-17より古く、他より新しい住居跡である。

時期: I群D1類土器を伴う縄文時代早期中葉の時期のものと思われる。

床面: V層中に構築されている。平坦で、堅い。

壁: 立ち上がりは急傾斜である。検出面からの壁高は、北東壁が16cm～19cm、南東壁が26cm～33cm、南西壁が22cm～26cm、北西壁が19cm前後である。

炉跡: 焼土などは検出されていない。

付属ピット: 柱穴状小ピットは26個検出されている。HP-1～17は壁際をめぐるもので、すべて直立している。

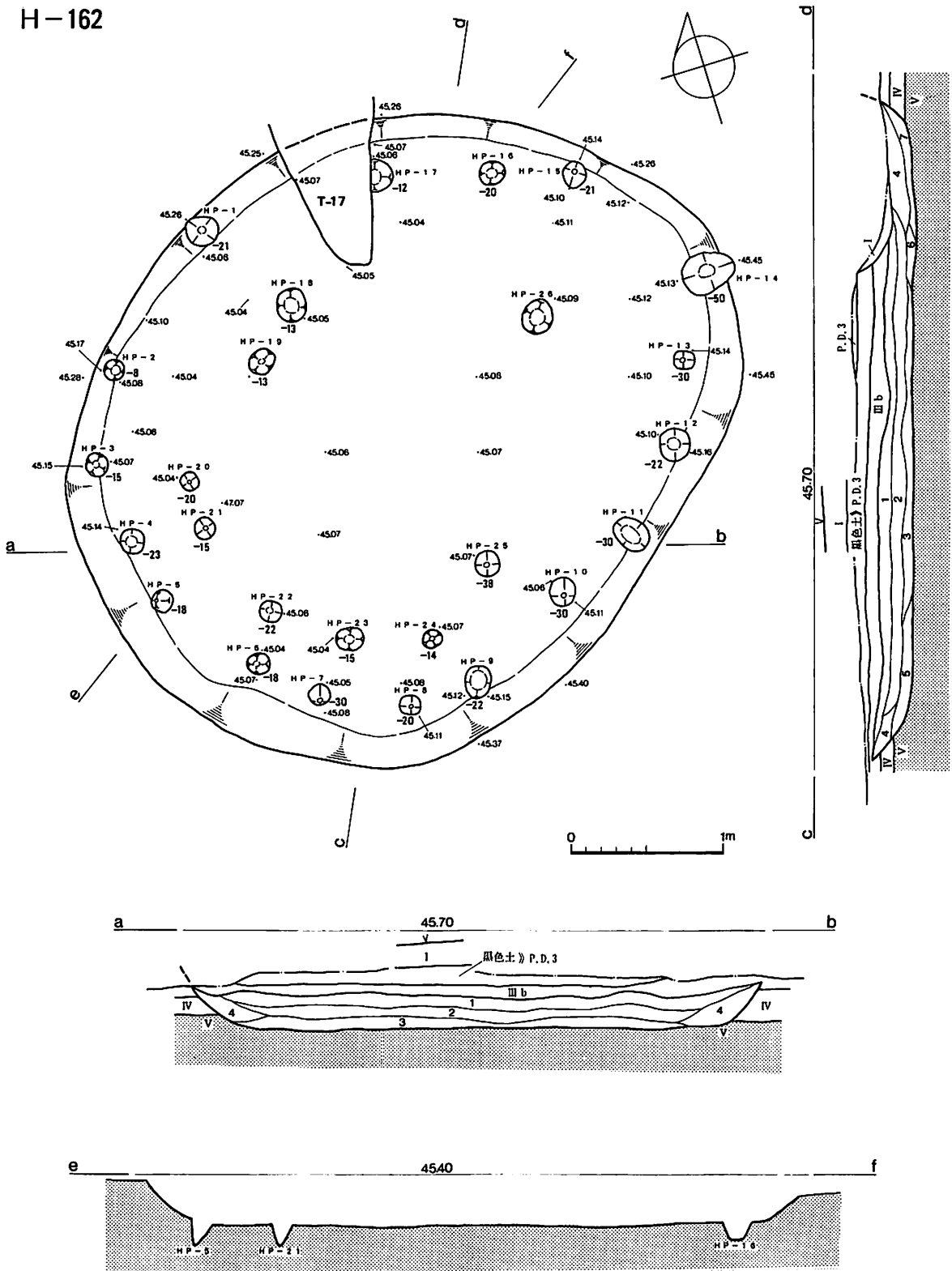
遺物出土状況: 出土遺物総数は30点である。この内訳は土器26点、石器4点である。Ⅲb層中で石皿が出土しており、覆土上のⅢb層で遺物が多く出土した。土器はI群D1、D2、E類のものが出土し、26点中18点がI群D1類土器である。石器ではスクレイパー、石錘などが出土している。出土土器には、覆土1層とH-161覆土1層・2層・壁とH-212覆土1層とH-178覆土1層・2層と41-48(Ⅱ)・44-48(Ⅱ)・44-47(Ⅱ)・45-48(Ⅱ)(図Ⅲ-14-1)、覆土どうし、覆土1層と2層、という接合関係が見られる。

覆土はⅢb層と黄色土がまじり合った土である(和泉田)。

土器(図Ⅲ-14 図版161-2)

1は覆土1層から出土した土器片と包含層I層、およびⅢ層出土の土器片が接合した口縁部の大破片で、器形・文様を推定したものである。4つの大きな突起がある波状口縁で、主突起の左右両側には副突起がある。口唇端部の断面形はやや丸味を帯び、口唇内面にはこまかな刻み目が認められる。文様は2条単位の沈線とそれに沿った刺突列で構成されており、口唇部には波頂部に対応した波状の文様が展開し、口縁部には方形の区画文様が配されている。方形文様の四隅には、刺突があり、やはり刺突列を伴った2条の沈線が対角線上に引かれ、方形文様を分割している。点対称になる刺突や、方形の区画を斜行沈線で分割するモチーフはI群B類にみられる特徴であるが、高低のある大波状をなす口縁部形態や間隔の密な刺突列といった特徴はI群D1類に通じるものであり、この土器は両方の特徴を合せ持つ資料と思われる。中野A遺跡平成3年度調査報告(北埋調報79、1992)では「物見台式と住吉町式の間位置付けられるもの」としてI群C類が設定されているが、本資料とはやや異なる土器を定義しており、混乱を避けるためここではI群D1類と分類しておく。2・3はI群D2類土器で

H-162



H-162の土層

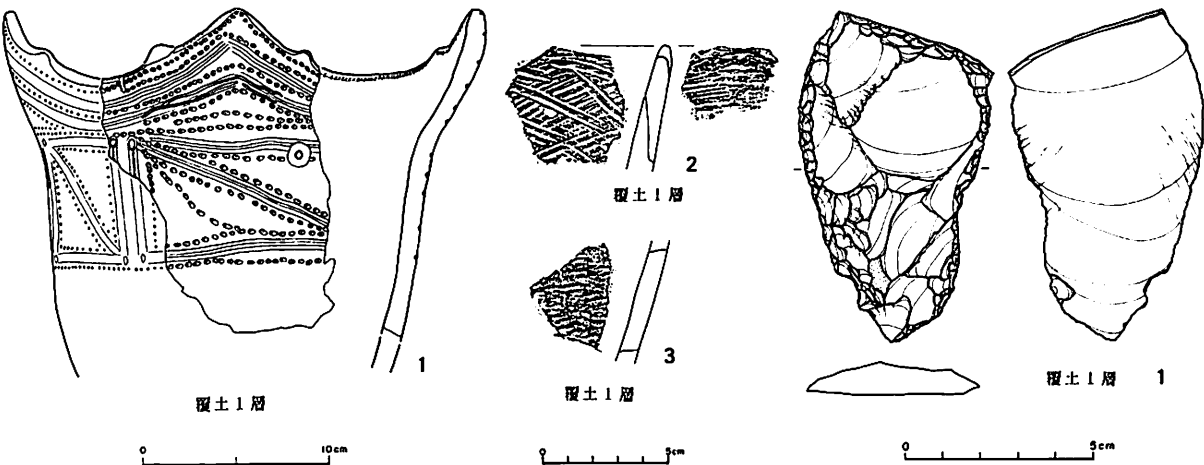
1. III b 黄色土粒 2. 暗黄茶色土 3. 暗褐茶色土(粘質) 4. 暗黄茶色土 5. 暗灰黄色土(砂質) 6. 暗茶黄色土(混合土、軟質) 7. 暗茶色土(少量の黄色土混入し、軟質)

図Ⅲ-13 H-162実測図

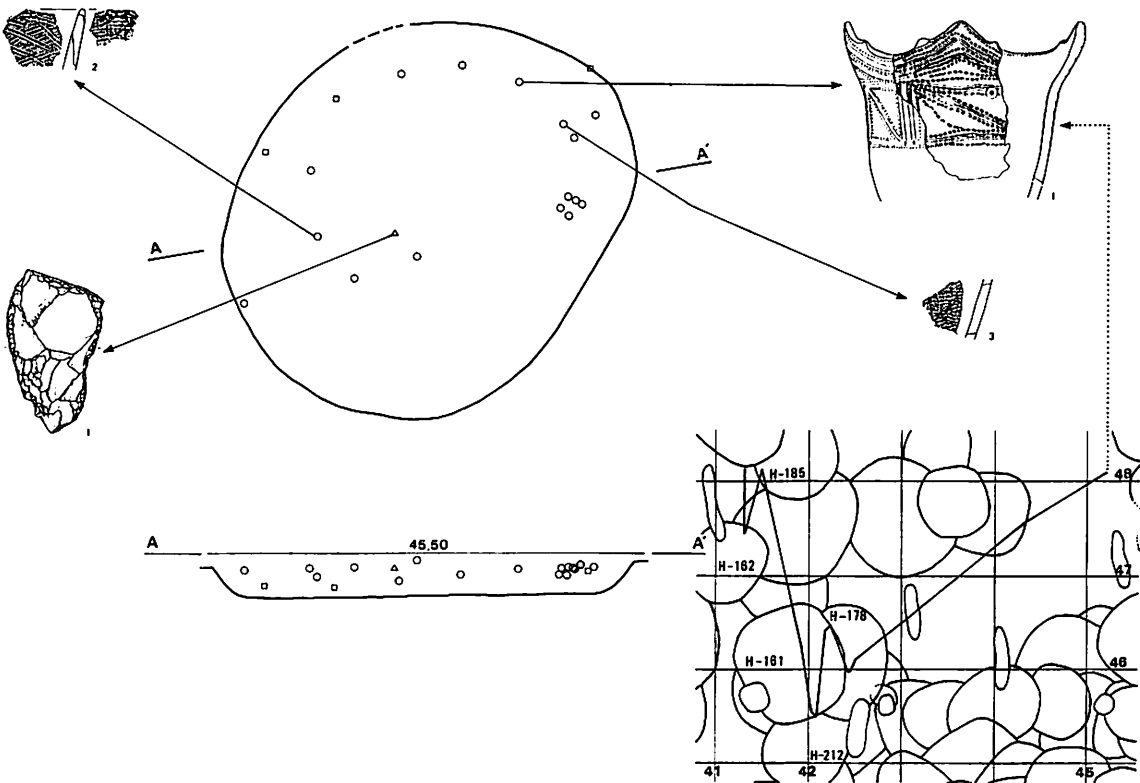
ある。2は覆土1層から出土した口縁部破片で、波頂部と思われ、櫛状の貝殻腹縁文が施文されている。3は条痕文のある体部破片。

石器 (図Ⅲ-14 図版161-3)

1はスクレイパー。刃部作出後に折り取られ、折断面を打点として、背面に微細な加工が施される。加工面はこまかくつぶれている(宗像)。



図Ⅲ-14 H-162出土遺物



図Ⅲ-15 H-162出土遺物分布・接合図

H-163 (図III-18・19 図版13-1・2 図版13-1)

位置: 40-42・43 標高45.25m付近の平坦地。 規模: 5.40m/5.00m×(4.90m)/(4.50m)×0.35m

床面積: (18.40㎡) 平面形: 楕円形状 長軸方向: N-7°-W

検出・掘り込み面: III b層中で長円形状の黒色土>P.D.3の広がりが見られ、III b>黄色土の落ち込みを検出した。掘り込み面はIII b層中と思われる。 重複関係: P-88・127、H-169・170・228と重複しており、P-88より古く、H-169・170・228より新しい住居跡である。P-127との新旧関係は明瞭でない。

時期: I群D2類土器を伴う縄文時代早期中葉の時期のものと思われる。

床面: V層中に構築されている。中央部が皿状にくぼんでいる。堅い。

壁: 立ち上がりは急傾斜である。検出面からの壁高は、北壁が21cm前後、東壁が23cm~29cm、南壁が6cm~15cm、西壁が12cm~18cmである。

炉跡: 焼土などは検出されていない。

付属ピット: 柱穴状小ピットは49個検出されている。小ピットが2個(HP-31・49)検出されている。HP-1~31は最終生活面で検出されたもので、HP-32~49は構築面で検出されたものである。またHP-50・51はH-170の構築面で検出されたものである。すべて直立している。HP-1~23は壁際をめぐるもので、HP-26~30は支柱穴と思われる。HP-32~42は壁際にあり、それらの間隔は30cm~40cmで、HP-1~23とはその用途が異なるように思われる。HP-44~48は支柱穴と思われる。HP-31は最終生活面で検出されたもので、0.90m×0.85m深さ0.24mのピットで、覆土は軽石、小石が多く混入する堅い黒褐色土である。墳底は平坦。性格、用途などは不明。HP-49は構築面で検出されたもので、1.00m×0.72mで浅いピット状のものである。覆土は暗褐色土+黄色土の堅い土である。この墳底直上からは土器片が貼り付くような状態で出土している。HP-26~30は最終生活面の、またHP-43~47は構築面での支柱穴と考えられる。

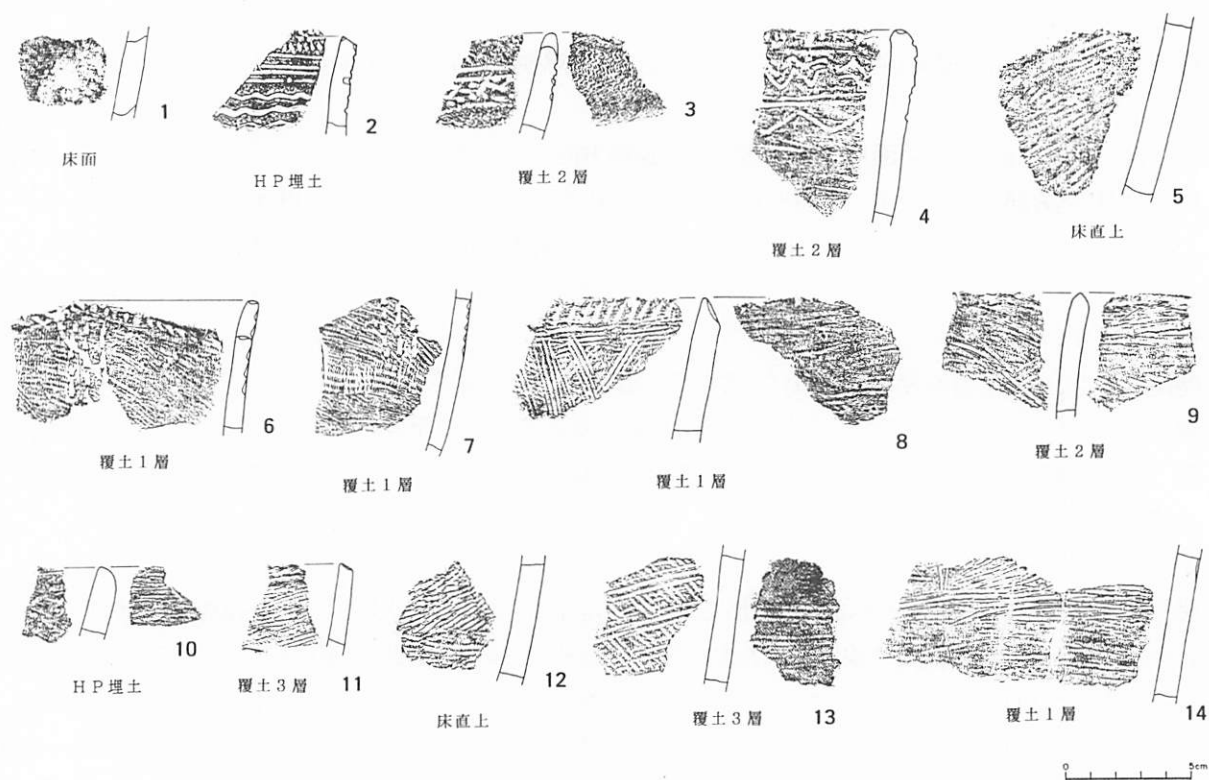
遺物出土状況: 出土遺物総数は329点である。この内訳は土器258点、石器71点である。床面・床直上などからは土器が85点、石器が11点出土している。HP-49の墳底直上からI群D2類土器がまとまって出土した。土器はI群B、D1、D2、E類のものが出土し、石器では石錐、石匙、石斧、石皿、石錘などが出土している。出土土器には、覆土1層どうし(図III-16-6)、覆土1層・HP-49(H-247床直上出土の土器片と同一個体)(図III-16-14)、覆土1層と40-43(III)、覆土3層と40-42(III)という接合関係が見られる。

覆土はIII b層と黄色土がまじり合った土である。構築面直上には汚れた暗黄褐色土が薄く堆積しており、この上面が最終生活面であろう。

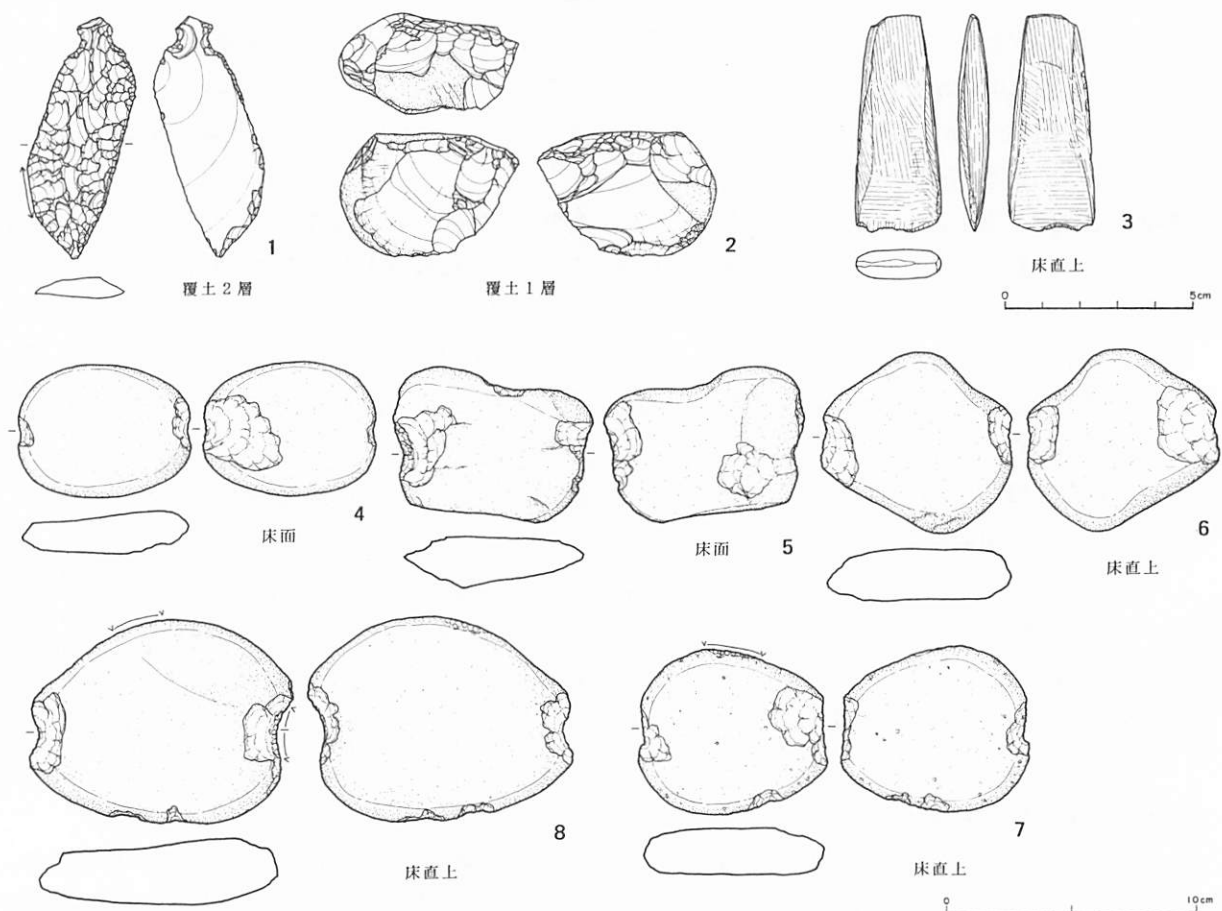
柱穴状小ピット、HP-31、HP-49の検出状況から、三時期あったことが想定される。最も古い時期のものはHP-49に伴うもの、次がHP-49を切って掘られているHP-48に伴うもの、最も新しいものはHP-31に伴うものである。HP-26~30は最も新しい時期の支柱穴であり、HP-43~47が最も古い時期の支柱穴と思われる(和泉田)。

土器(図III-16 図版162-1)

1は床直上から出土したI群B類土器で、風化して表面が剥落している。2~5はI群D1類土器。2は柱穴、5は床面、他は覆土から出土したものである。2は口唇端部の内外面に刻み目が、口唇部には無文地に整然とした円形刺突文がある。3は乳白色の長石と見られる微細粒を多量に含有する土



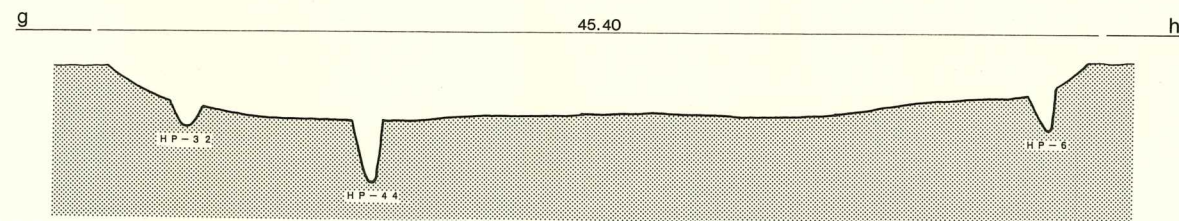
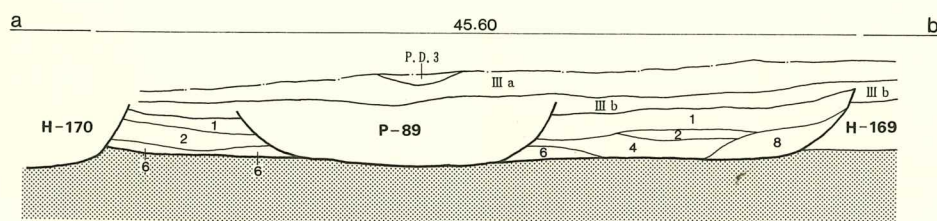
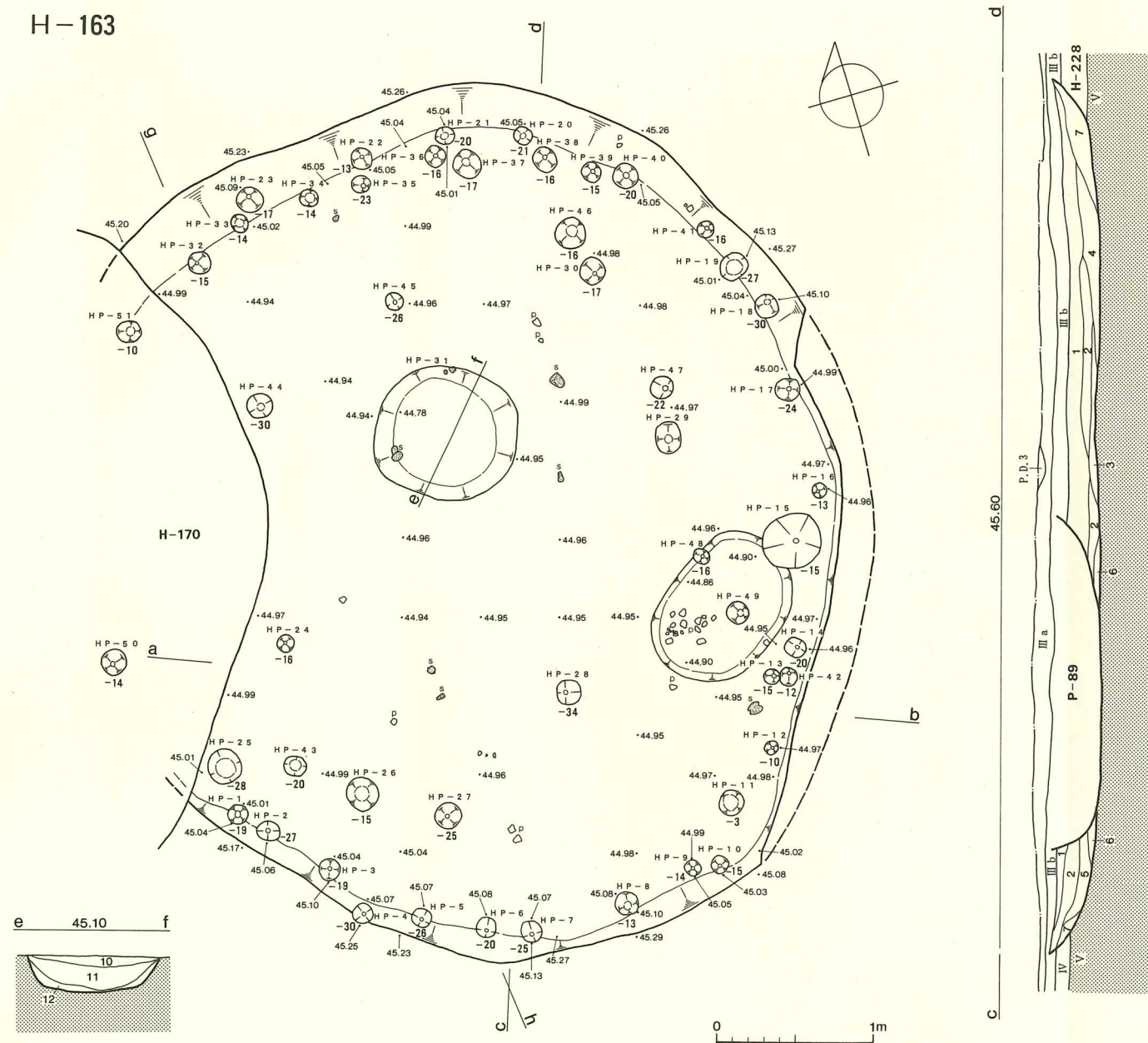
図Ⅲ-16 H-163出土土器



図Ⅲ-17 H-163出土石器



H-163

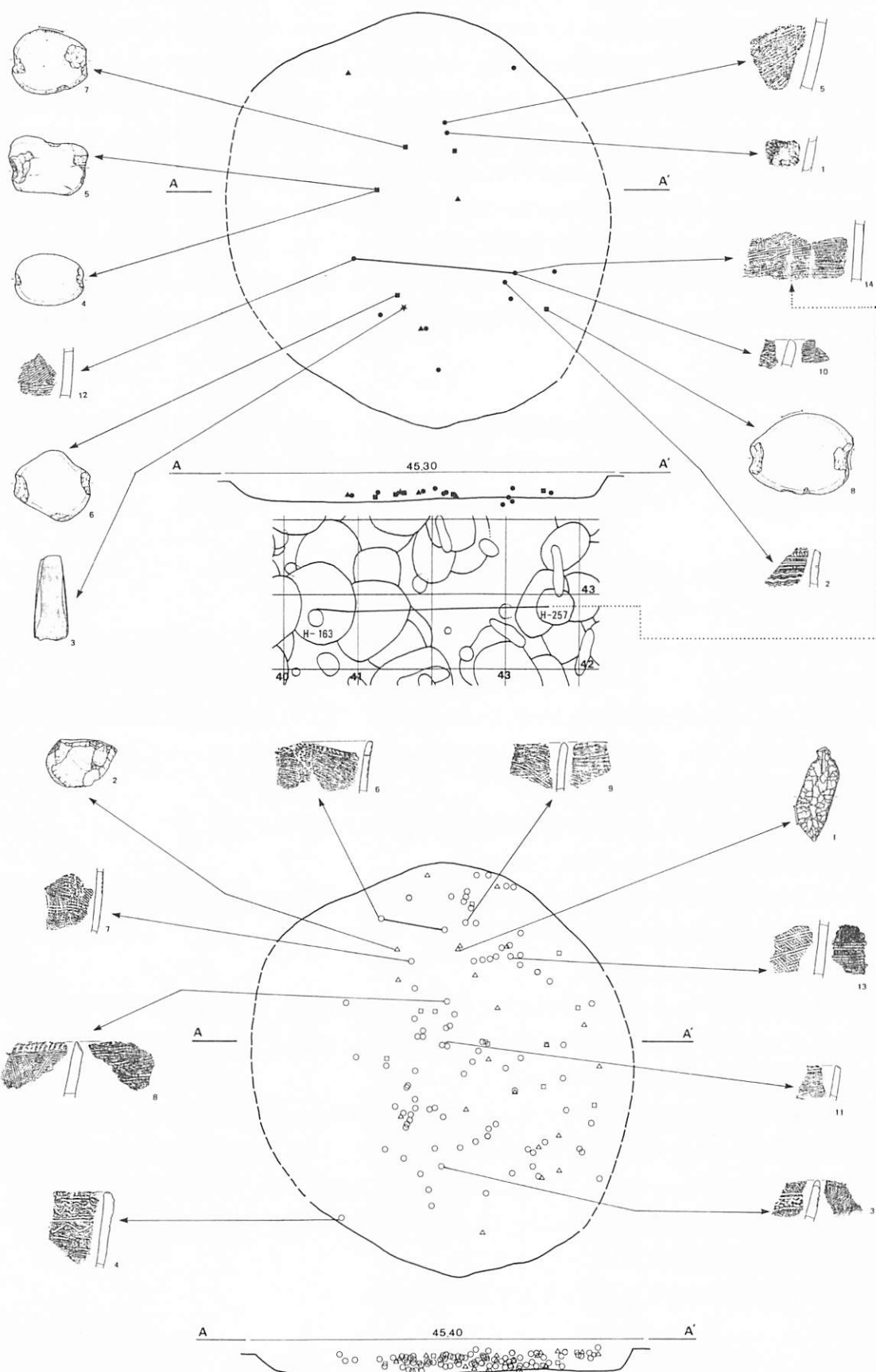


H-163の土層

1. III b > V 2. III b > V 3. 黄褐色土(砂質) 4. 茶褐色土(砂質、堅い)
5. 暗黄灰色土 6. 暗灰黄色土(砂質)
7. 暗褐色土(軟質) 8. 暗黄色土 9. 暗黄褐色土(汚れている)
10. 暗茶褐色土(小石、軽石混入) 11. 黒褐色土(小石、軽石混入、堅い) 12. ① > V

図III-18 H-163実測図





図III-19 H-163出土遺物分布・接合図(上図は床面、下図は覆土)

器で、口唇部内外面に密な貝殻腹縁文が、口唇部には沈線と刺突文がある。4はやや乱雑な鋸歯状沈線と、並行沈線が口唇部に施文されるものである。5は条痕文がある体部の破片で、文様的にはI群D2類土器に近いが、胎土から本分類に含めた。6～14はI群D2類土器に相当するものである。11は柱穴、13は床面から、他は覆土から出土したものである。6・7は同一個体で、口縁部下端を押し引き文で区画し、波頂部口唇から3列の刺突列をその押し引き文の位置まで垂下させる。刺突列は口唇端部にも施されている。8は傾斜した切り出し状の口唇端部に棒状施文具で刻み目を入れ、口唇部には横走る貝殻条痕に斜位の条痕を重ねているが、文様構成はよくわからない。9～11は条痕のみの口縁部破片で、口唇端部の断面は外側に傾斜した切り出し状となる。12～14は条痕のある体部破片、13は貝殻条痕文が襷状になるもので、H-162の図III-14-1と同一個体と見られる。14は口縁部文様帯の下端の破片と見られ、縦位の刺突がわずかに認められる。6・7・9・11は胎土に繊維を含んでいる(森)。

#### 石器(図III-17 図版162-2)

1は石匙。背面端部付近の縁部の剝離稜線が摩耗している。2は小礫素材の石核。3は石斧。基部付近は長軸方向、端部付近は短軸方向の研磨により整形される。鎬は不明瞭である。4～8は石錘。7・8はたたき石複合。8の片側の抉入部はこまかな敲打を受けている(宗像)。

#### H-164(図III-20・23 図版12-3 図版13-2・3)

位置：39-46・47 40-46・47 標高45.11m～45.37mのほぼ平坦地。

規模：7.25m/6.90m×5.13m/4.80m×0.32m 床面積：28.72㎡ 平面形：隅丸長方形状

長軸方向：N-60°-E

検出・掘り込み面：III b層上面で黒色土>P.D.3の長円形状の広がりが見られ、III b層中でIII b>黄色土の落ち込みを検出した。掘り込み面はIII b層中である。重複関係：H-188・221と重複しており、これらより新しい住居跡である。

時期：I群D2類土器を伴う縄文時代早期中葉の時期のものと思われる。

床面：V層中に構築されている。平坦で全体に堅い。

壁：立ち上がりは急傾斜である。検出面からの壁高は、北東壁が10cm～20cm、南東壁が22cm～29cm、南西壁が18cm～30cm、北西壁が20cm前後である。

炉跡：焼土などは検出されていない。

付属ピット：柱穴状小ピットは42個検出されている。すべて直立している。HP-24～31・35～39は長軸方向に沿って3.90m×2.10mの長方形状に、ほぼ規則的に仕置している。主柱穴で、12本柱であろう。HP-1～22は壁際をめぐるものである。

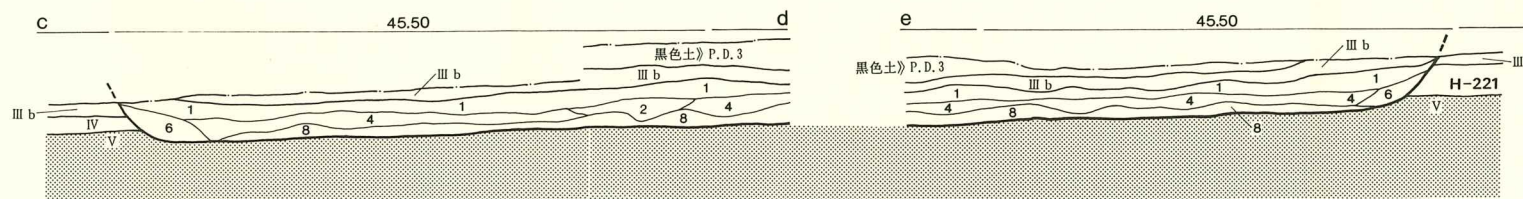
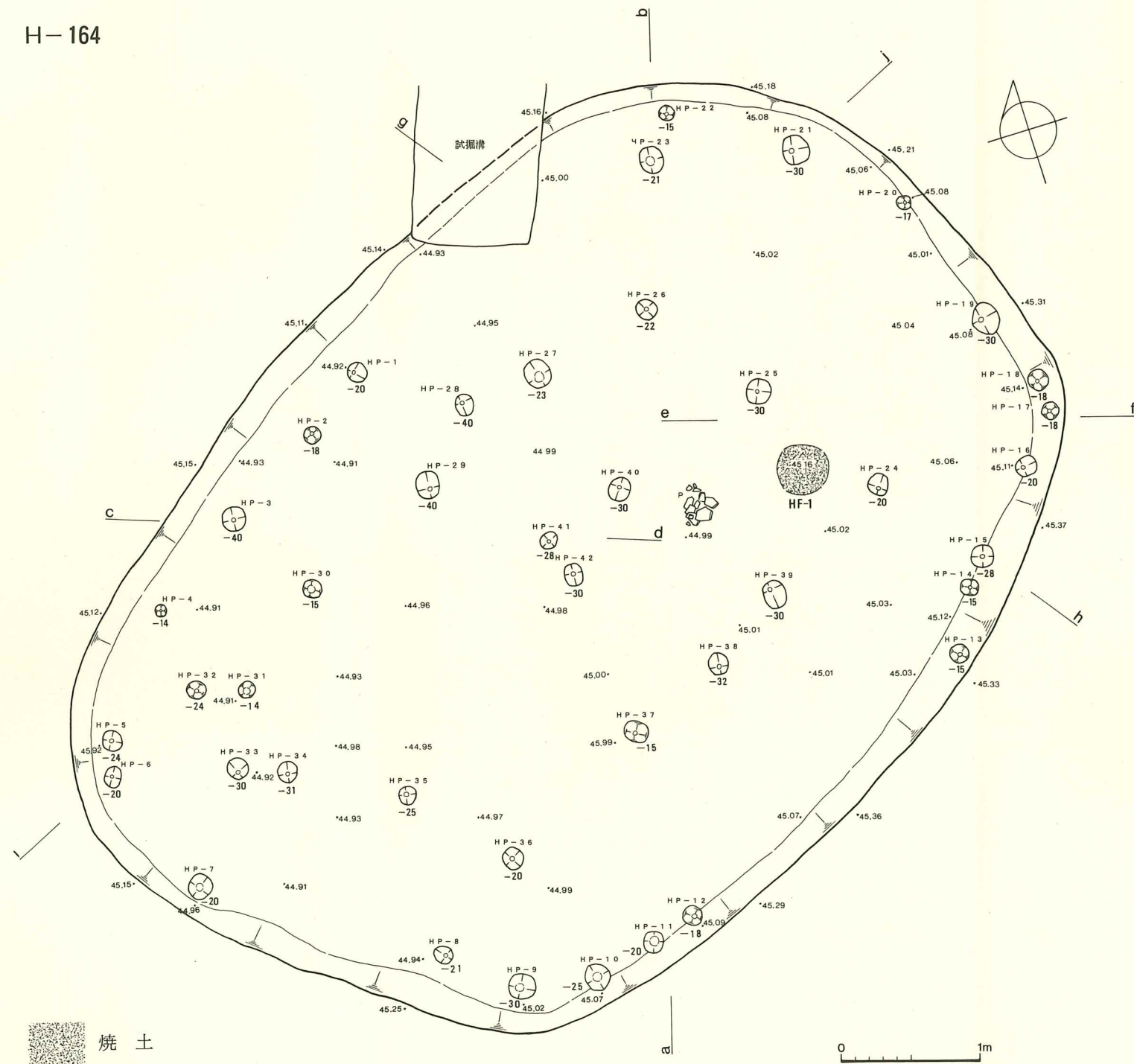
遺物出土状況：出土遺物総数は86点である。この内訳は土器66点、石器20点である。遺物は覆土上のIII b層で多く出土した。ただ床直上で押しつぶされた状態で、I群D2類土器が一括出土した。土器はI群D1、D2、E類のものが出土しており、石器では筥状石器、石皿、石錘などが出土している。出土土器には、覆土2層と床直上(図III-21-1)、覆土1層と39-40(Ⅱ)(図III-21-2)、覆土2層どうし、という接合関係が見られる。

覆土はIII b層と黄色土がまじり合った土である(和泉田)。

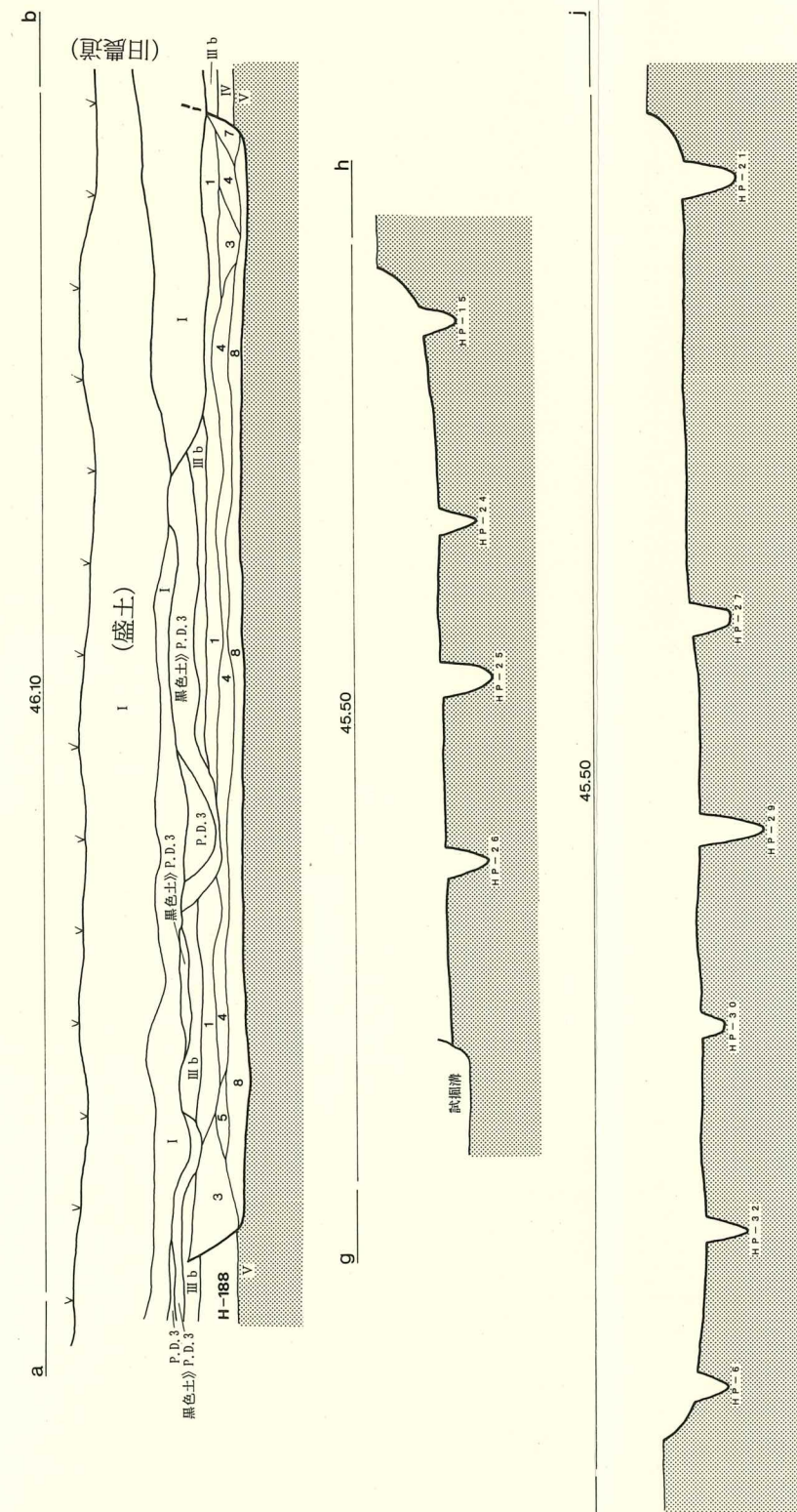
#### 土器(図III-21 図版163-1)

2と3はI群D1類土器で、覆土1層から出土したものである。2は無文地に口唇の内外面に貝殻腹

H-164



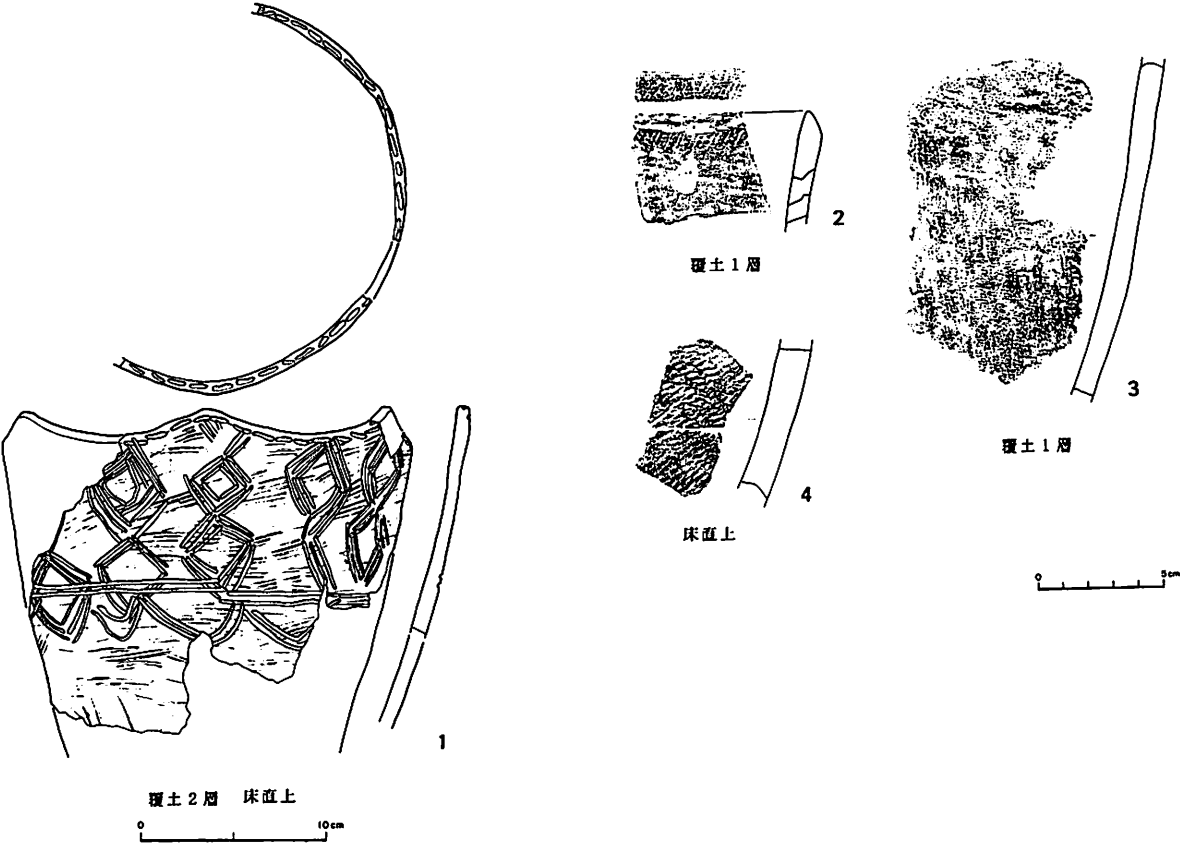
図III-20 H-164実測図



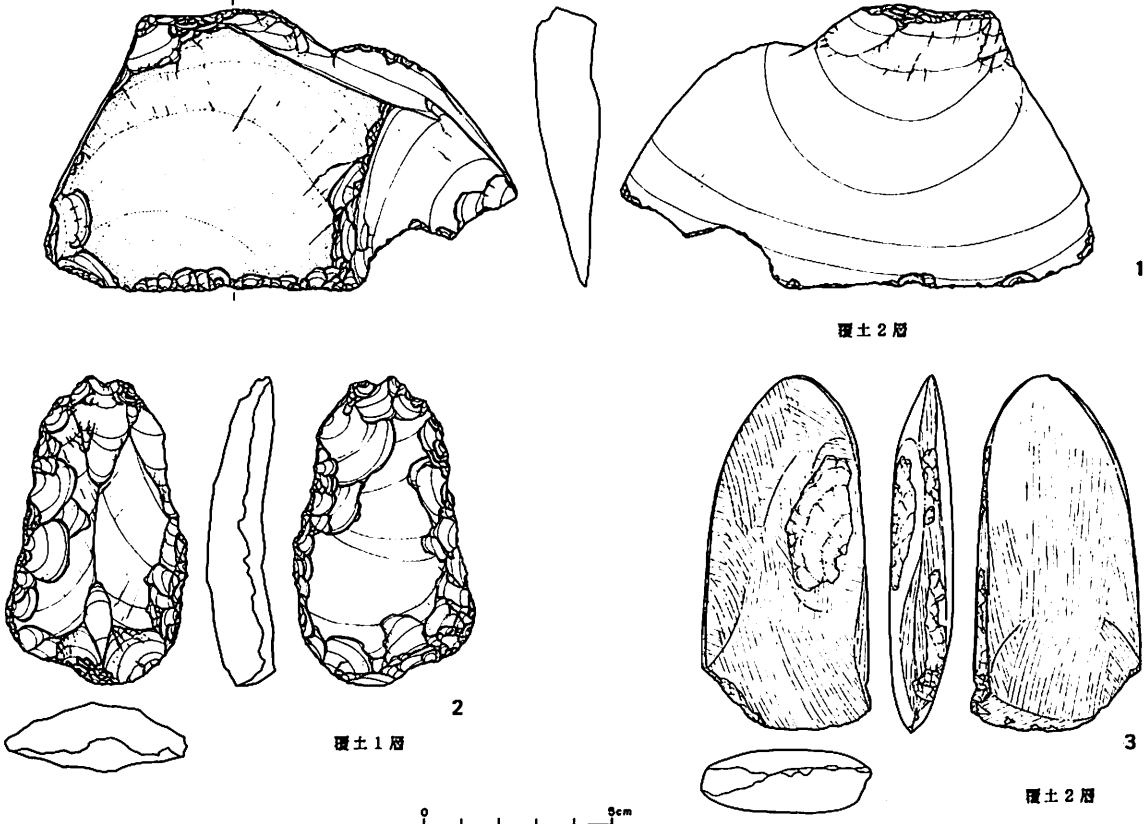
H-164の土層

1. III b > 黄色土 2. III b > 黄色土(軟質)
3. 暗茶褐色土(黄色土粒混入) 4. = ②
5. ①+⑧ 6. 暗茶褐色土 7. 茶褐色土(軟質、黄色土粒少量混入) 8. 暗灰黄色土(粘質、混合土)





図Ⅲ-21 H-164出土土器



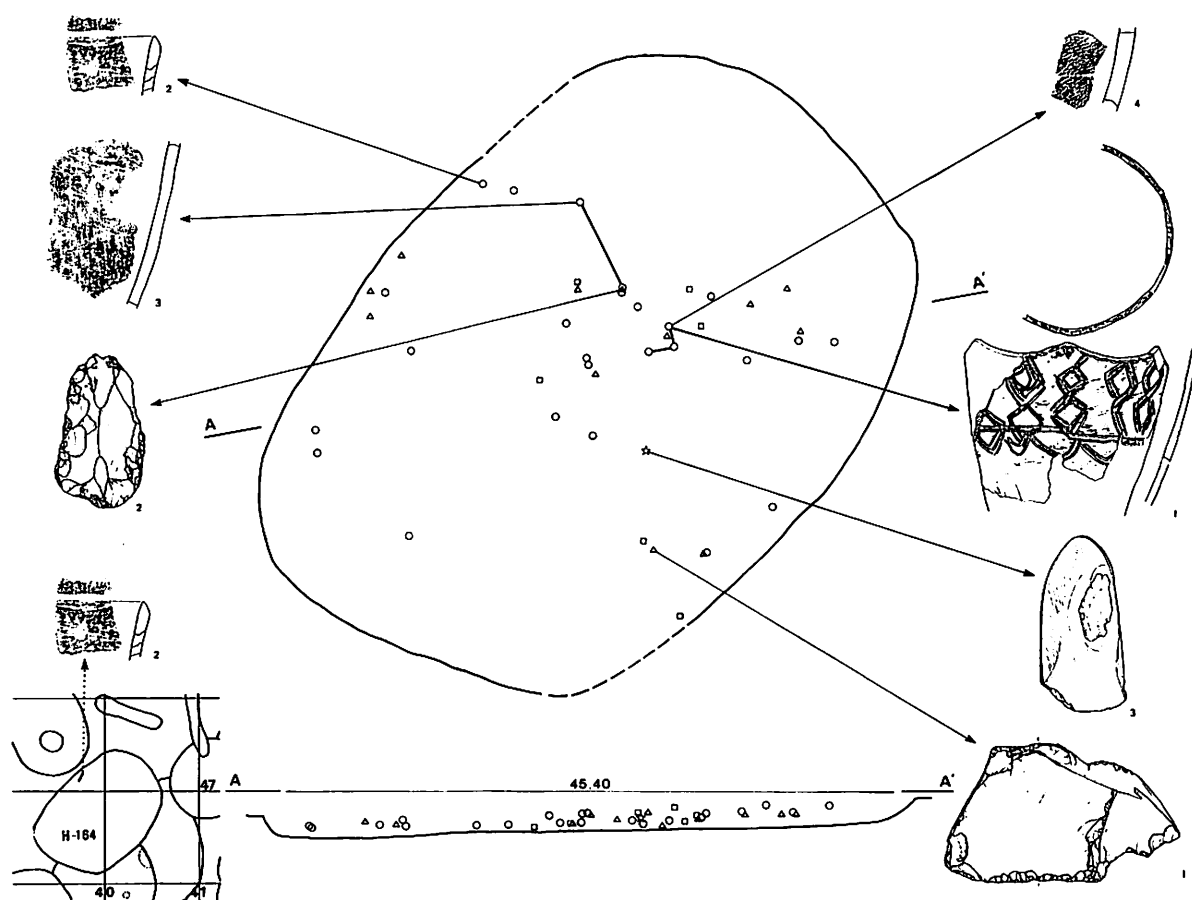
図Ⅲ-22 H-164出土石器



縁文が施文される。3は無文の体部破片。1と4はI群D2類土器で、床直上から出土した。1は口縁下部まで復元できた個体で、口縁部は一周しないが、口唇に6つの頂部がある波状の器形と推定される。貝殻条痕を地文とし、口唇端部と口唇部には、棒状施文具を斜位に押圧した刺突列がめぐる。口縁部文様帯には沈線があり、波頂部とその中間に対応する位置に菱形文を配し、口縁部下端に2条の沈線をめぐらせ、さらにその下を波状の沈線で縁取っている。地文の条痕は表面だけでなく、内側全面にも認められる。胎土には乳白色の長石や、透明な石英とみられる細粒を含有する。4は条痕のある体部破片で、胎土中には繊維の混入が認められる(森)。

### 石器(図III-22 図版162-3)

1はスクレイパー。2は篋状石器。側縁部が加工される。端部は未精製で、素材の厚みのある部分が残る。3は石斧。片面には粗割による調整痕が見られる(宗像)。



図III-23 H-164出土遺物分布・接合図

### H-165(図III-24 図版13-4・5)

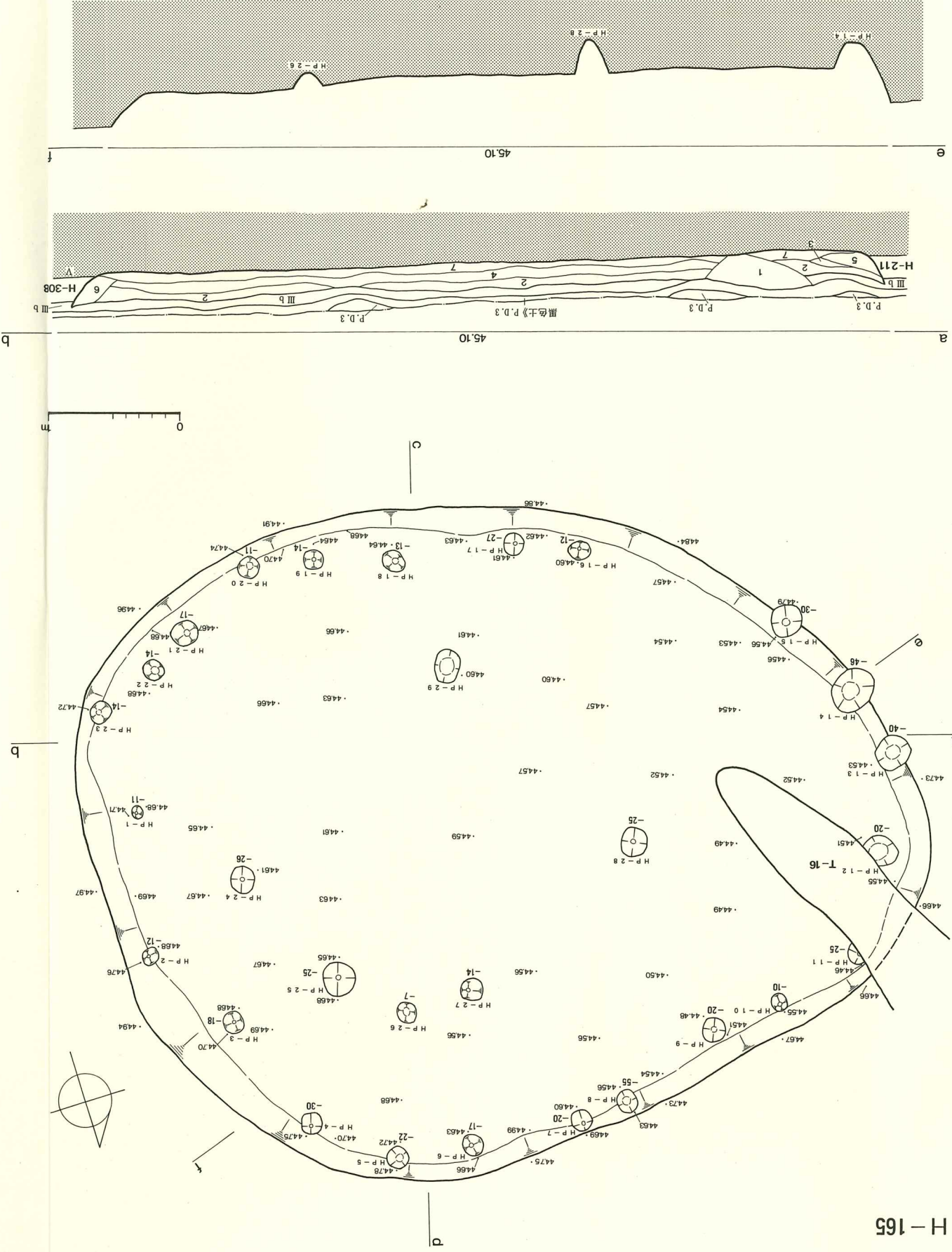
位置: 36-43・44 37-43・44 38-44 標高44.66m~44.97mのほぼ平坦地。

規模: 6.50m/6.20m×5.06m/4.70m×0.28m 床面積: 21.72㎡ 平面形: 楕円形状

長軸方向: N-70°-W

検出・掘り込み面: III b層上面で黒色土>P.D.3の広がりが見られ、III b層中でIII b>黄色土粒の長円形状の落ち込みを検出した。掘り込み面はIII b層中である。また本遺構の北東側で掘り揚げ土状の暗黄色土の広がりが確認された。重複関係: T-16、P-108、H-210・211・308と重複しており、





H-165の土層  
1. 黒色土 2. III b  
> 黄色土粒(軟質)  
3. III b > 黄色土(軟質)  
4. 暗褐色黄色土  
(軟質) 5. 暗灰黄色  
土(軟質) 6. 黒茶色  
土(下層には黄色土が  
混入) 7. 暗褐色黄色土  
(粘質)

図III-24 H-165実測図



T-16より古い、他より新しい住居跡である。

時期：覆土周辺包含層出土の遺物などから、縄文時代早期中葉の時期のものと思われる。

床面：V層中に構築されている。やや軟質であるが、ほぼ平坦。東→西へゆるやかに傾斜し、東側が若干高くなっている。

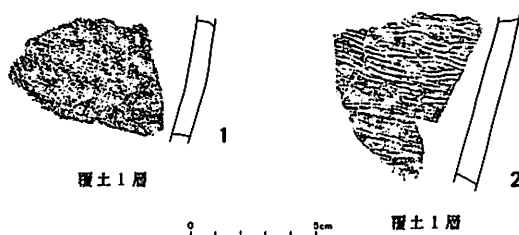
壁：立ち上がりは急傾斜である。検出面からの壁高は、北東壁が18cm～28cm、南東壁が21cm～28cm、南西壁が11cm～27cm、北西壁が14～20cmである。

炉跡：焼土などは検出されていない。

付属ピット：柱穴状小ピットは29個検出されている。すべて直立し、杭状のものである。HP-1～23は壁際をめぐるもので、HP-24・26・28・29は主柱穴で、4本柱が想定される。

遺物出土状況：出土遺物総数は18点である。石器は出土していない。遺物は覆土上のIII b層、覆土上層から散在的に出土している。覆土1層からは、I群D1類土器1点、D2類土器3点、同E類土器14点が出土した。

覆土はIII b層と黄色土がまじり合った土である。南西側の覆土直上で、小石を多く混入する掘り揚げ土状の明灰色土の広がり約5cmほどの厚さで検出された(和泉田)。



図III-25 H-165出土土器

土器(図III-25 図版161-4)

1はI群D1類、2はI群D2類の体部破片で、いずれも覆土1層から出土したものである(森)。

H-166(図III-26 図版14-1)

位置：38-44・45 39-44・45 標高44.93m～45.08mのほぼ平坦地。

規模：4.30m/4.03m×4.22m/3.84m×0.24m 床面積：12.62㎡ 平面形：楕円形状

長軸方向：N-5°-E

検出・掘り込み面：III b層上面で円形状の黒色土>P.D.3の広がりが見られ、III b層中でIII b>黄色土の落ち込みを検出した。掘り込み面はIII b層中である。重複関係：H-187・317・322と重複しており、これより新しい住居跡である。

時期：I群D1類土器を伴う縄文時代早期中葉の時期のものと思われる。

床面：V層中に構築されている。北東→南西へゆるやかに傾斜している。ほぼ平坦で、やや堅い。

壁：立ち上がりはゆるやかな傾斜である。検出面からの壁高は、北壁が16cm～21cm、東壁が18cm～20cm、南壁が17cm～20cm、西壁が12～18cmである。

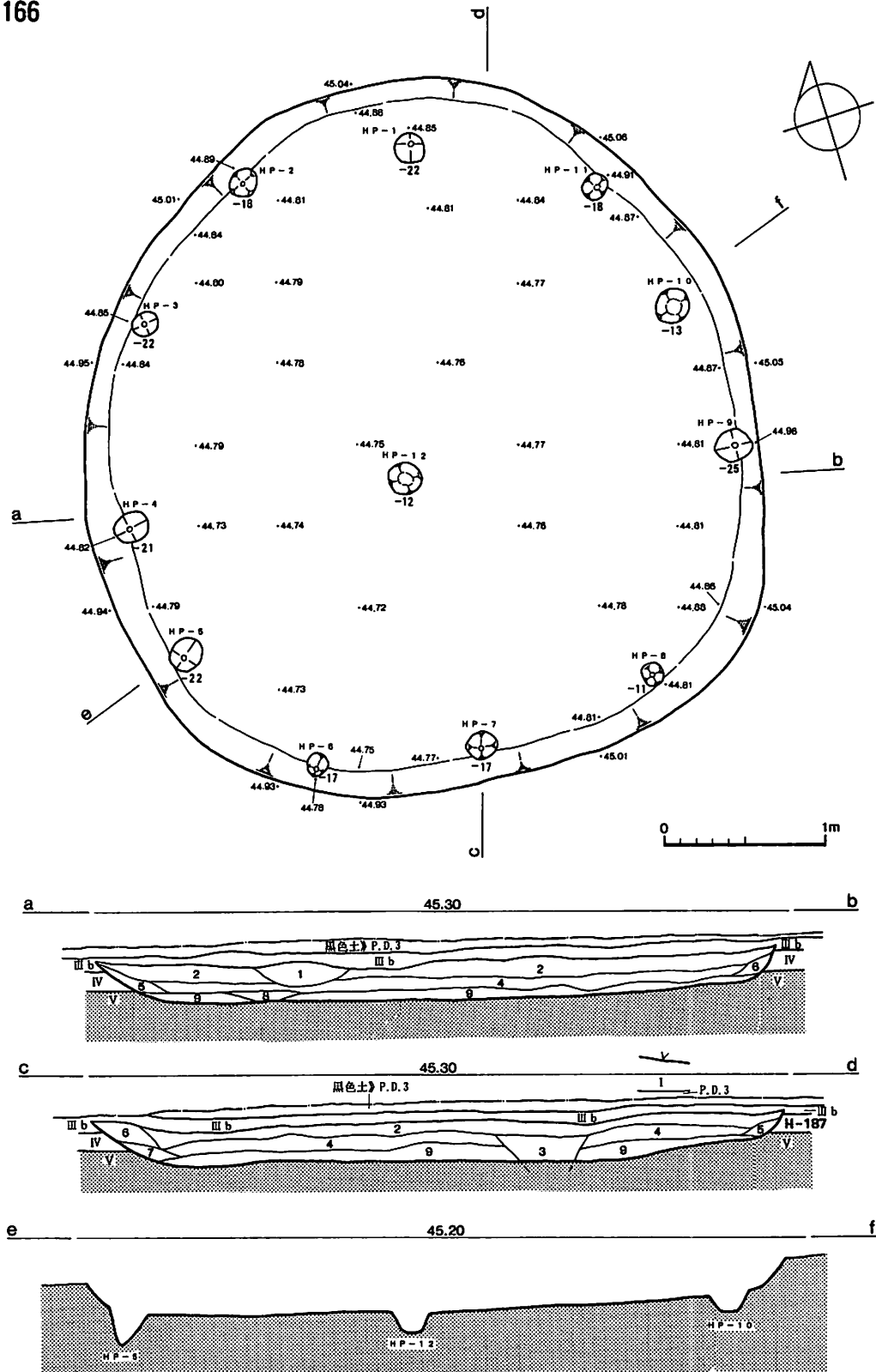
炉跡：焼土などは検出されていない。

付属ピット：柱穴状小ピットは12個検出されている。HP-12は主柱穴と考えられる。HP-1～11は壁際をめぐるもので、直立し、杭状のものである。

遺物出土状況：出土遺物総数は36点である。この内訳は土器24点、石器12点である。遺物は覆土上のIII b層と覆土上層からやや多く出土した。土器はI群D1類のもの、石器では剥片、礫が出土した。出土土器には、覆土1層・2層と39-45(III) (図III-28-2)、という接合関係が見られる。

覆土はIII b層と黄色土がまじり合った土である(和泉田)。

H-166



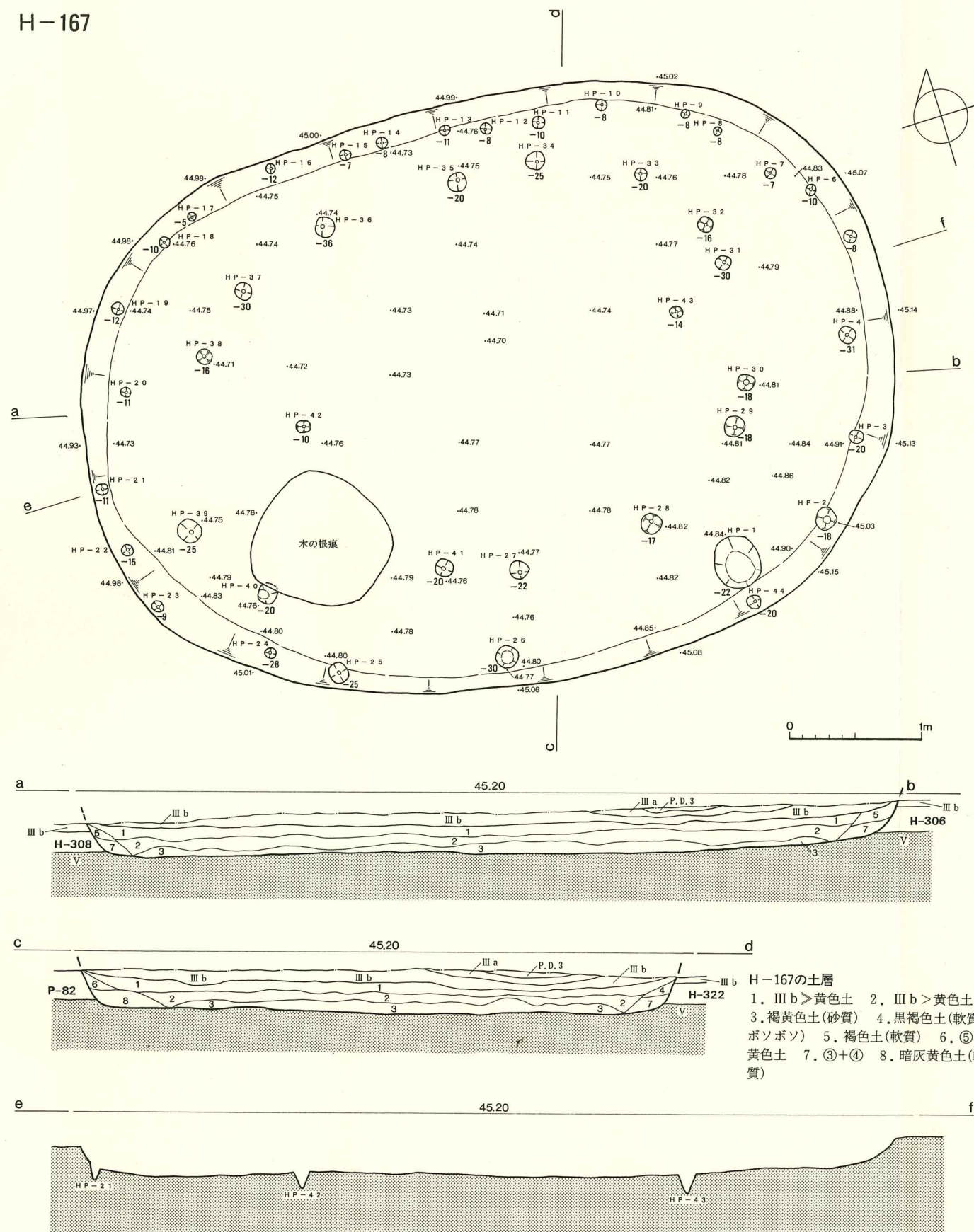
H-166の土層

1. 黒色土>P.D.3+III b (軟質) 2. III b>黄色土 3. III b>黄色土粒(粘質、堅い) 4. ②+⑨(暗茶黄色土、粘質) 5. ④+⑨(粘質) 6. ④>⑨(軟質、⑨がブロック状に混入) 7. 暗灰褐色土(軟質) 8. ④に砂質のV層がブロック状に混入 9. 暗灰黄色土(粘質)

図III-26 H-166実測図



H-167

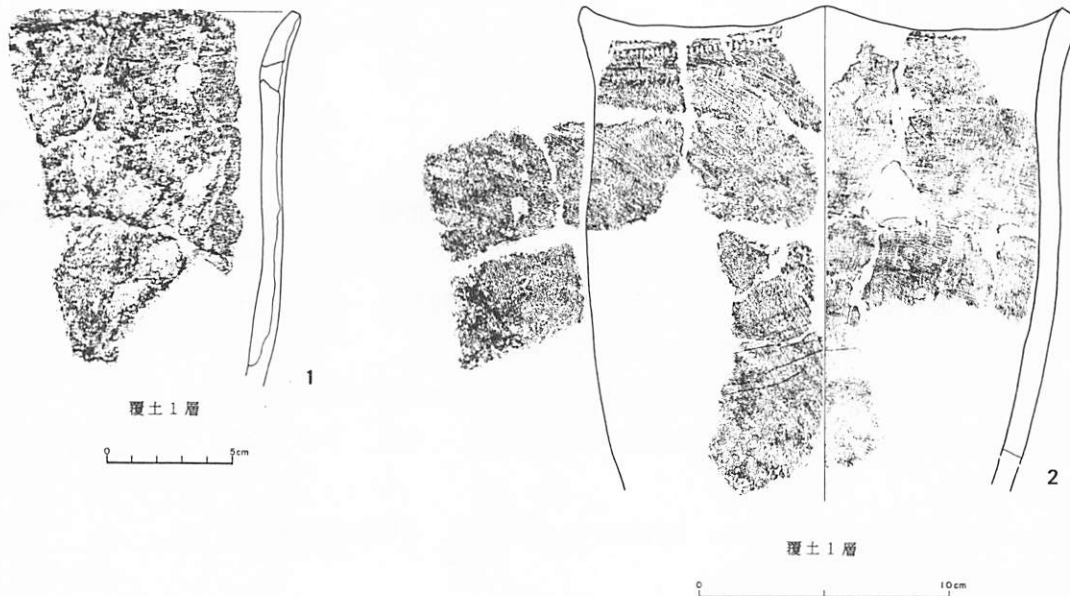


図III-27 H-167実測図



## 土器(図III-28 図版163-2)

1はI群D1類土器で、器表面のほとんどが剥落しているが、僅かに残る部分から無文の土器と思われる。覆土1層から出土した。2は覆土1層出土の破片と包含層III層から出土した破片と接合したもので、I群D1類土器と思われる。無文の土器で、僅かに口唇端部の内外面に刻み目がある(森)。



図III-28 H-166出土土器

## H-167(図III-27 図版14-2・3)

位置: 38-43 39-43 標高44.93m~45.15mのほぼ平坦地。

規模: 6.14m/5.77m×4.33m/4.00m×0.28m 床面積: 19.23㎡ 平面形: 隅丸長方形状

長軸方向: W-E

検出・掘り込み面: III b層上面でP.D.3、III a層の広がりが見られ、IV層直上でIII b層の黄色土の落ち込みを検出した。掘り込み面はIII b層中である。重複関係: P-82・106・107・111、H-174・209・306・307・322と重複しており、これらより新しい住居跡である。ただピットとの新旧関係は明瞭でない。

時期: I群D1類土器を伴う縄文時代早期中葉の時期のものと思われる。

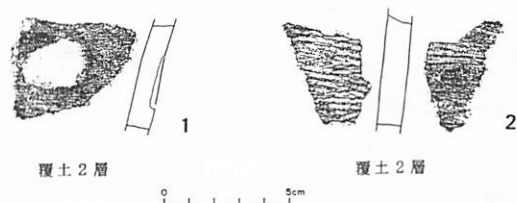
床面: V層中に構築されている。若干凹凸はあるが、ほぼ平坦で、堅い。

壁: 立ち上がりは急傾斜である。検出面からの壁高は、ほぼ16cm~22cmである。

炉跡: 焼土などは検出されていない。

付属ピット: 柱穴状小ピットは44個検出されている。すべて直立している。HP-1~26・44は壁際、壁面をめぐる。径8cm~11cm、深さ5cm~12cmの杭状のもので、ほぼ30cm~40cmの間隔である。HP-27~41は壁際から30cm~80cm内側をめぐるものである。HP-42・43は長軸線上にあり、支柱穴と思われる。

遺物出土状況: 遺物は覆土上のIII b層でやや多く出土しているが、覆土からは土器5点、石器3点



図III-29 H-167出土土器

が出土しただけである。土器はⅠ群B類1点、同D1類3点、同D2類1点で、石器は剝片、礫である。  
覆土はⅢb層と黄色土がまじり合った土である。

土器(図Ⅲ-29 図版161-5)

1はⅠ群B類、2はⅠ群D2類の体部破片で、いずれも覆土2層から出土したものである。2は胎土中に繊維を含む(森)。

H-168(図Ⅲ-31 図版15-1・2)

位置: 37-44・45 標高44.74m~44.92mのほぼ平坦地。

規模: (3.90m)/(3.70m)×3.90m/3.75m×0.25m 床面積: (10.42m<sup>2</sup>) 平面形: 隅丸方形  
検出・掘り込み面: Ⅲb層上面でP.D.3、Ⅲa層の広がりが見られ、Ⅲb層中でⅢb>黄色土の落ち込みを検出した。掘り込み面はⅢb層中と思われる。重複関係: H-172・231・237・309と重複しており、H-172より古く、他より新しい住居跡である。

時期: Ⅰ群D1類土器を伴う縄文時代早期中葉の時期のものと思われる。

床面: V層中に構築されている。北東→南西へやや傾斜しており、平坦で堅い。床面直上には炭化物が散在していた。

壁: 立ち上がりはほぼ急傾斜である。検出面からの壁高は、ほぼ19cm~24cmである。

炉跡: 焼土などは検出されていない。

付属ピット: 柱穴状小ピットは9個検出されている。HP-1は床面中央部にあり、直立している。主柱穴と考えられる。HP-2~8は壁際をめぐるもので、直立している。

遺物出土状況: 遺物は覆土上のⅢb層と覆土上層で少量出土した。覆土中からⅠ群D1類土器1点、同E類土器1点、床直上からは剝片が1点出土していた。

覆土はⅢb層と黄色土がまじり合った土である。

覆土2層は強く、またこの上面で遺物がやや多く出土していることから考えると、くぼみを利用した生活面があった可能性がある(和泉田)。



覆土2層

土器(図Ⅲ-30 図版163-3)

1はⅠ群D1類土器で、風化しているが無文の土器と思われる。覆土2層から出土した(森)。



図Ⅲ-30

H-168出土土器

H-169(図Ⅲ-32・35 図版16-1・2)

位置: 40-42・43 41-42・43 標高45.25m~45.47mのほぼ平坦地。

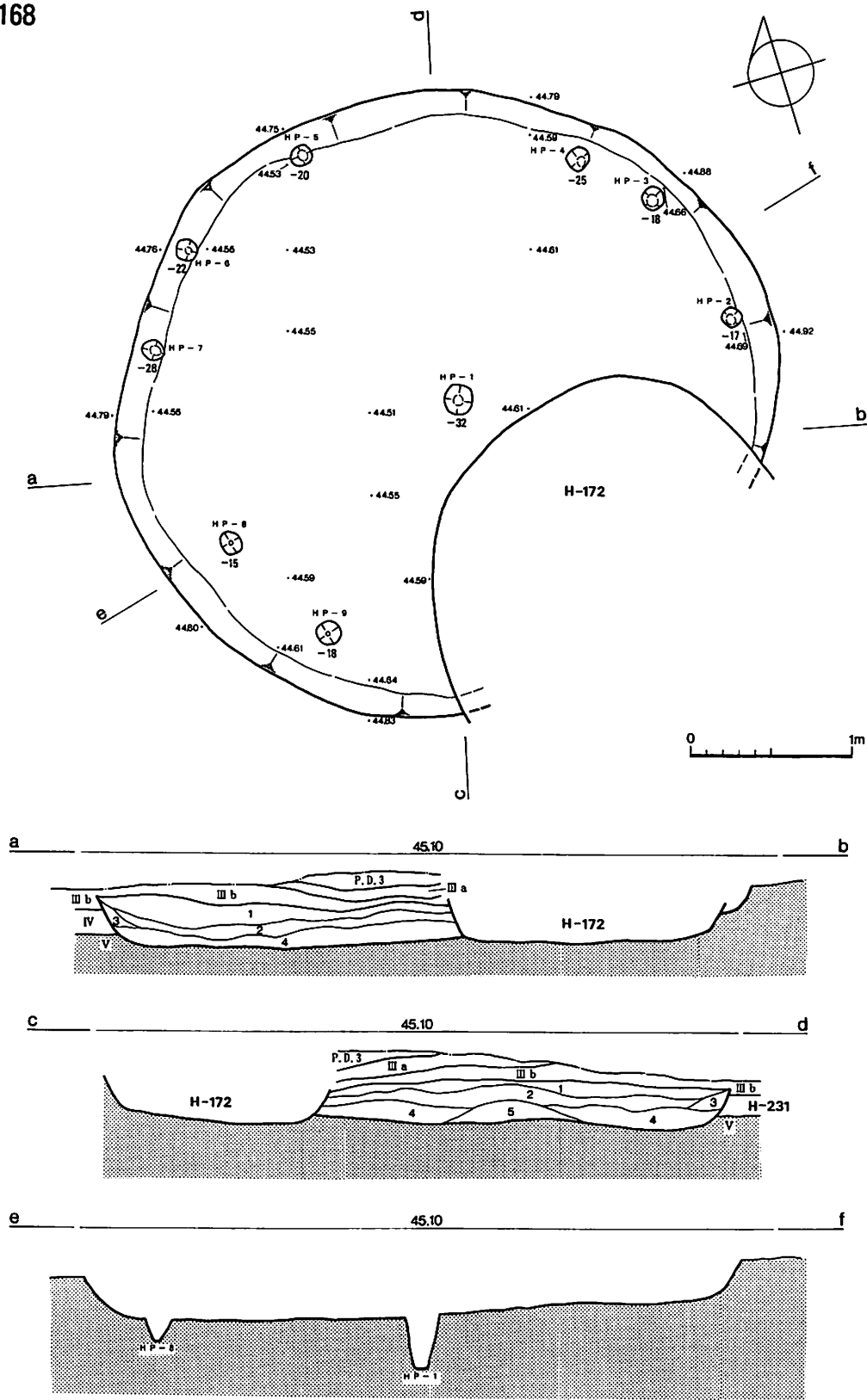
規模: 5.87m/5.40m×(4.53m)/(3.90m)×0.37m 床面積: (17.73m<sup>2</sup>) 平面形: 楕円形  
長軸方向: N-50°-E

検出・掘り込み面: H-163の東壁面で覆土状の土の落ち込みが見られた。またH-163の東側周辺のⅢb層上面付近で黒色土まじりの暗褐色土の広がりが見られ、Ⅲb層中でⅢb>黄色土の落ち込みを検出した。掘り込み面はⅢb層中である。重複関係: H-160・163・228・320・338と重複しており、H-160・163・228より古く、H-320・338より新しい住居跡である。

時期: Ⅰ群D1類土器を伴う縄文時代早期中葉の時期のものと思われる。

床面: V層中に構築されている。やや凹凸があるが、堅い。南側がやや高くなっている。

H-168

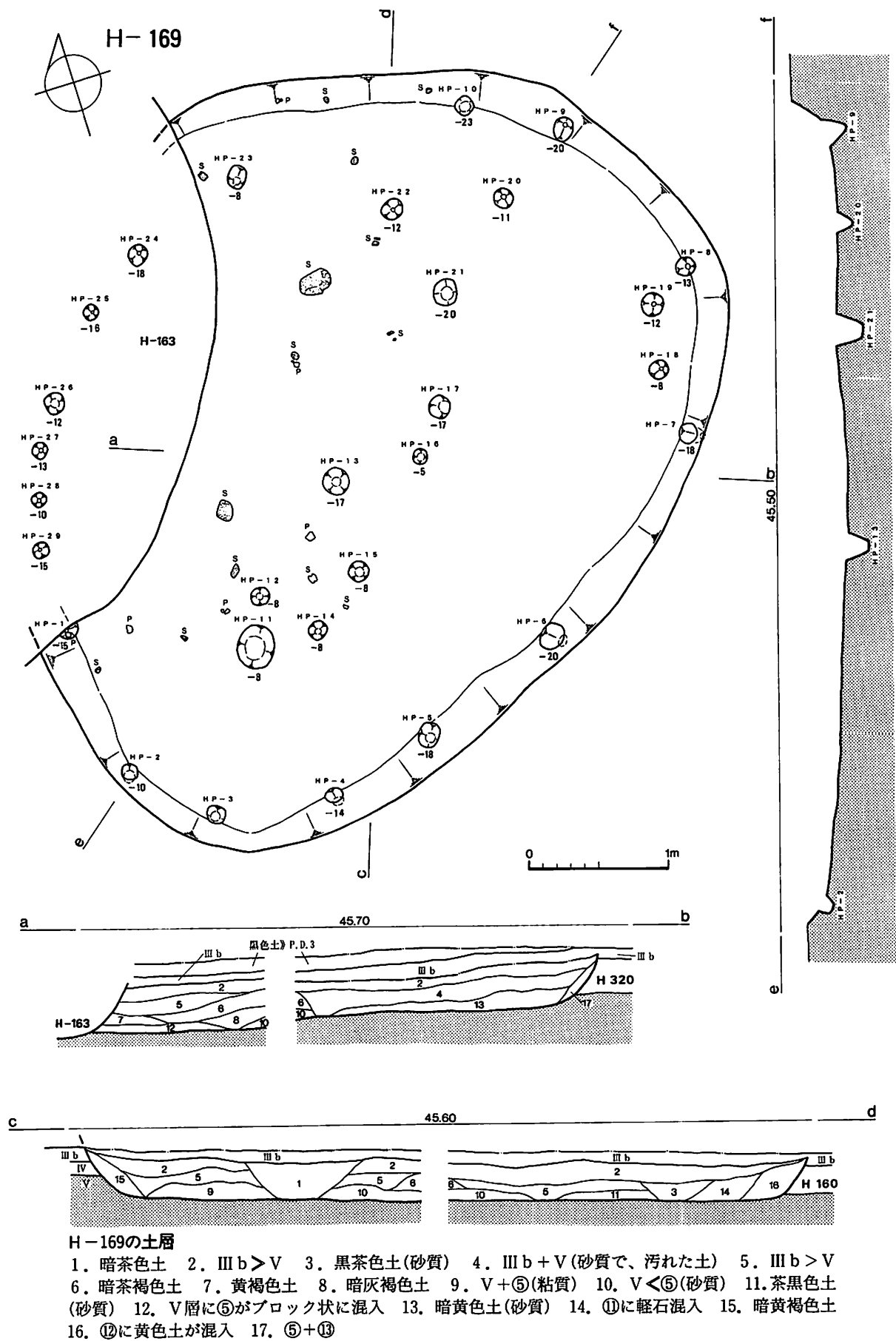


H-168の土層

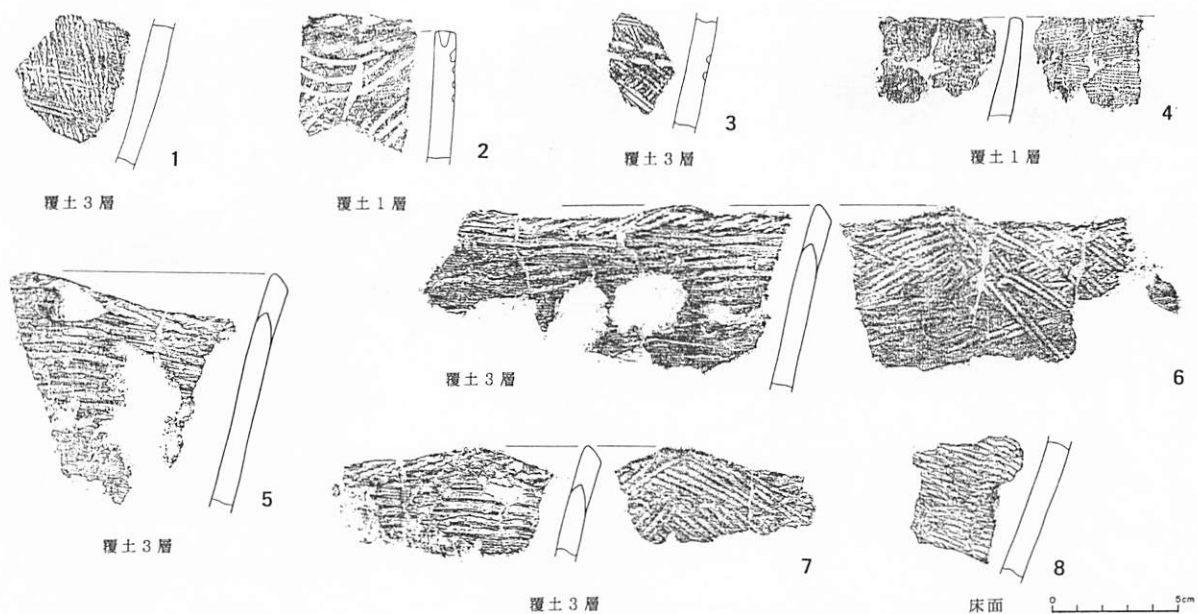
1. III b>黄色土 2. III b>黄色土(堅い) 3. ①+④(暗黄褐色土) 4. 暗  
灰黄色土(粘質) 5. 暗黄色土(軟質)

図Ⅲ-31 H-168実測図

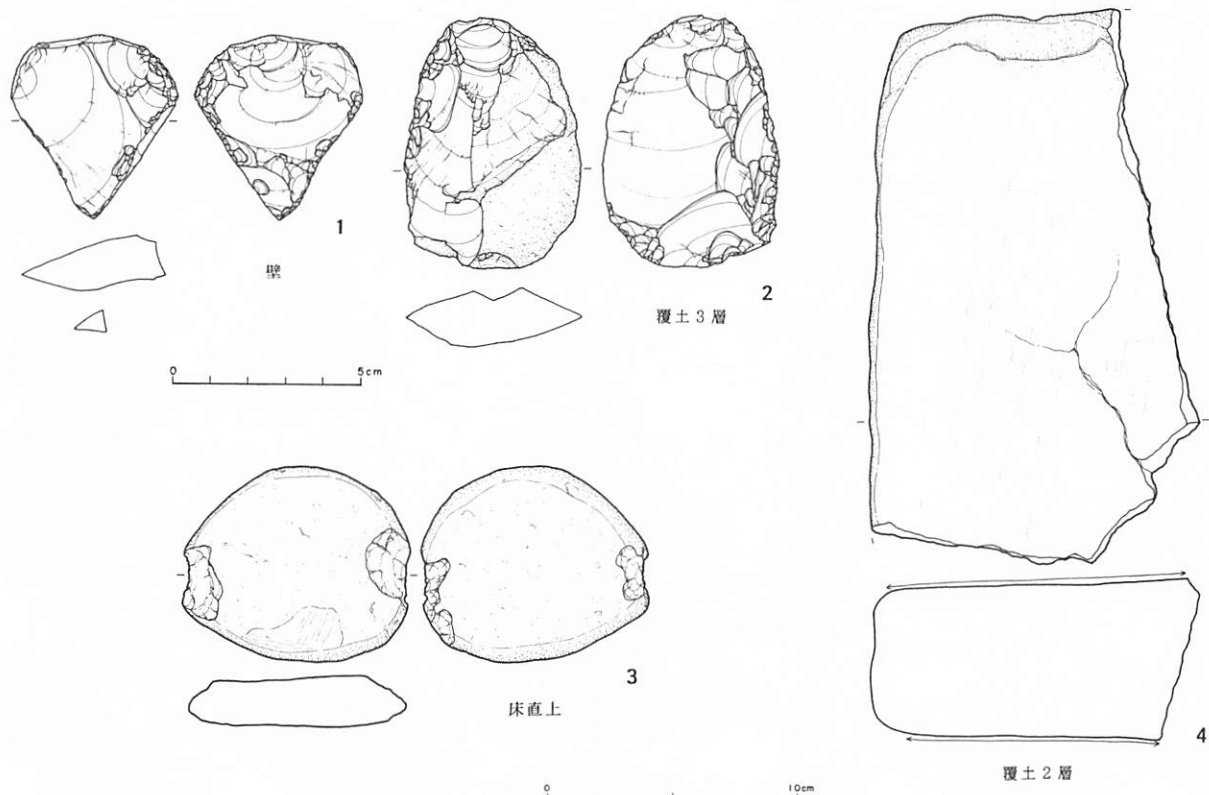




図III-32 H-169実測図



図Ⅲ-33 H-169出土土器

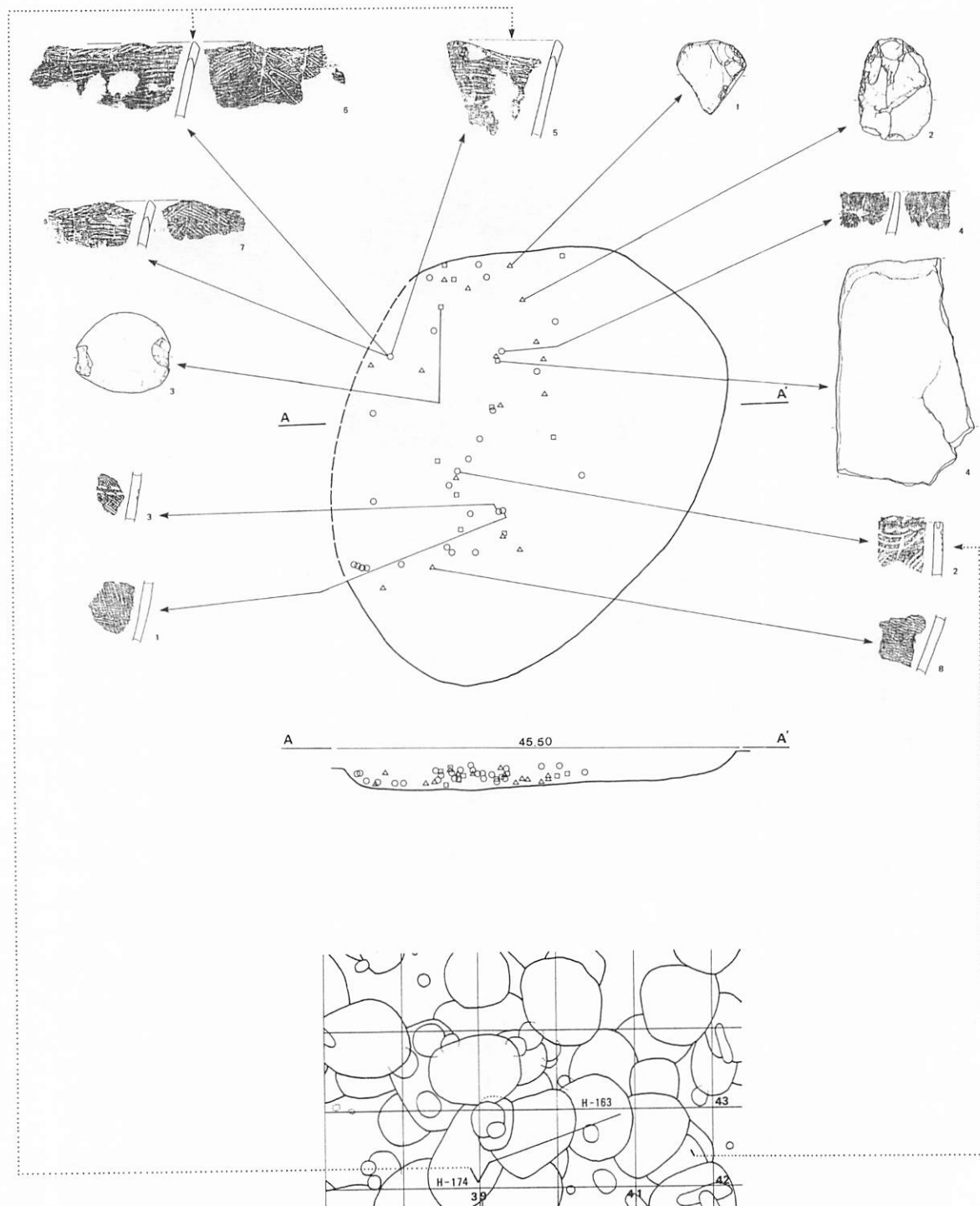


図Ⅲ-34 H-169出土石器

壁：立ち上がりは南壁以外は急傾斜である。検出面からの壁高は、北東壁が26～32cm、南東壁が24cm～33cm、南西壁が16cm～23cmである。

炉跡：焼土などは検出されていない。

付属ピット：柱穴状小ピットは29個検出されている。HP-1～10は壁面にあり、若干内傾している。HP-23～29はほぼ直立しており、壁際をめぐるものと思われる。HP-12・13・21はほぼ長軸線上に



図Ⅲ-35 H-169出土遺物分布・接合図

あり、主柱穴と考えられる。

遺物出土状況：出土遺物総数は89点である。この内訳は土器56点、石器33点である。床面・床直上などからはI群D2類土器1点、剥片5点が出土している。土器はI群D1、D2、E類のものが出土しており、石器ではUフレイク、石錘などが出土している。出土土器には、覆土1層と41-42(Ⅲ) (図Ⅲ-33-2)、覆土3層とH-174覆土1層と39-42(Ⅲ) (図Ⅲ-33-7)、という接合関係が見られる。

覆土はIII b層と黄色土がまじり合った土であるが、全体に不安定な堆積状態である。床直上は砂質の土である(和泉田)。

#### 土器(図III-33 図版164-1)

1は貝殻腹縁文が施される体部破片で、覆土3層から出土した。胎土や内面の調整からI群D1類土器と思われる。2～8はI群D2類に相当する土器である。8の体部破片が床面から出土したほかは、すべて覆土から出土した。2と3は貝殻条痕の上に刺突文が、4～8は条痕のみがある。5～7は同一個体で、本住居跡から出土した破片のほか、H-174の覆土、包含層III層から出土した破片がある。いずれも波状口縁であるが、波頂部が高い5と低い6があり、中間突起を有する器形になるものだろうか。胎土には繊維を含有し、器表面の剥落が顕著である(森)。

#### 石器(図III-34 図版164-3)

1は石錐。先端の加工は軽微だが、刺突によると思われるつぶれが見られる。2はスクレイパー。刃部加工は粗いが、刃こぼれが見られる。3は石錘。被熱により風化したと見られる流紋岩性の礫を素材とする。4は石皿。両面に平坦で目のこまかなすり面がある(宗像)。

#### H-170(図III-36・39 図版15-3 図版16-3)

位置: 39-42・43 40-42・43 標高44.91m～45.20mのほぼ平坦地。

規模: 5.90m/4.56m×4.52m/4.00m×0.32m 床面積: 18.11㎡ 平面形: 楕円形状

長軸方向: N-71°-E

検出・掘り込み面: III b層上面でP.D.3、黒色土>P.D.3の広がりが見られ、III b層中でIII b>黄色土の落ち込みを検出した。掘り込み面はIII b層中である。重複関係: H-163・174・209・229・335・339と重複しており、H-209より古く、他より新しい住居跡である。

時期: I群D1類土器を伴う縄文時代早期中葉の時期のものと思われる。

床面: V層中に構築されている。平坦で、堅い。

壁: 立ち上がりは急傾斜である。検出面からの壁高は、北壁が23cm～31cm、東壁が15cm～36cm、南壁が18cm～32cm、西壁が24cm前後である。

炉跡: 焼土などは検出されていない。

付属ピット: 柱穴状小ピットは32個検出されている。HP-1～23は壁際をめぐるもので、直立し、杭状のものである。HP-24～30は主柱穴と考えられる。

遺物出土状況: 出土遺物総数は127点である。この内訳は土器102点、石器25点である。遺物は覆土上のIII b層と覆土1層で多く出土しているが、床面付近などからは散在的に出土したに過ぎない。壁でI群D1類土器が2点出土している。土器はI群D1、D2、E類のものが出土しており、石器では石匙、すり石、石皿、石錘などが出土している。出土土器には、覆土1層と39-38(Ⅱ)(図III-37-1)、覆土1層どうし、という接合関係が見られる。

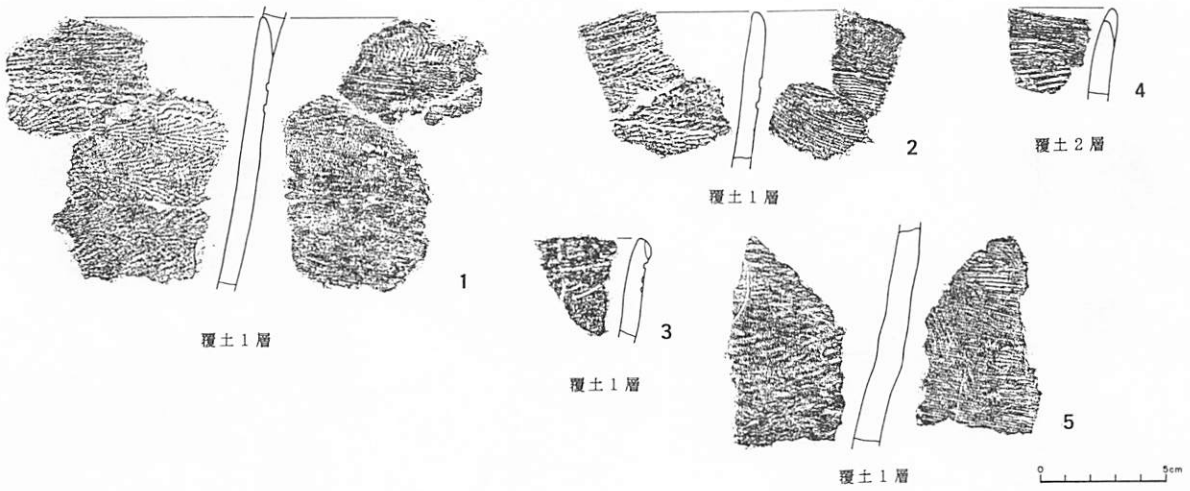
覆土はIII b層と黄色土がまじり合った土である。

#### 土器(図III-37 図版164-2)

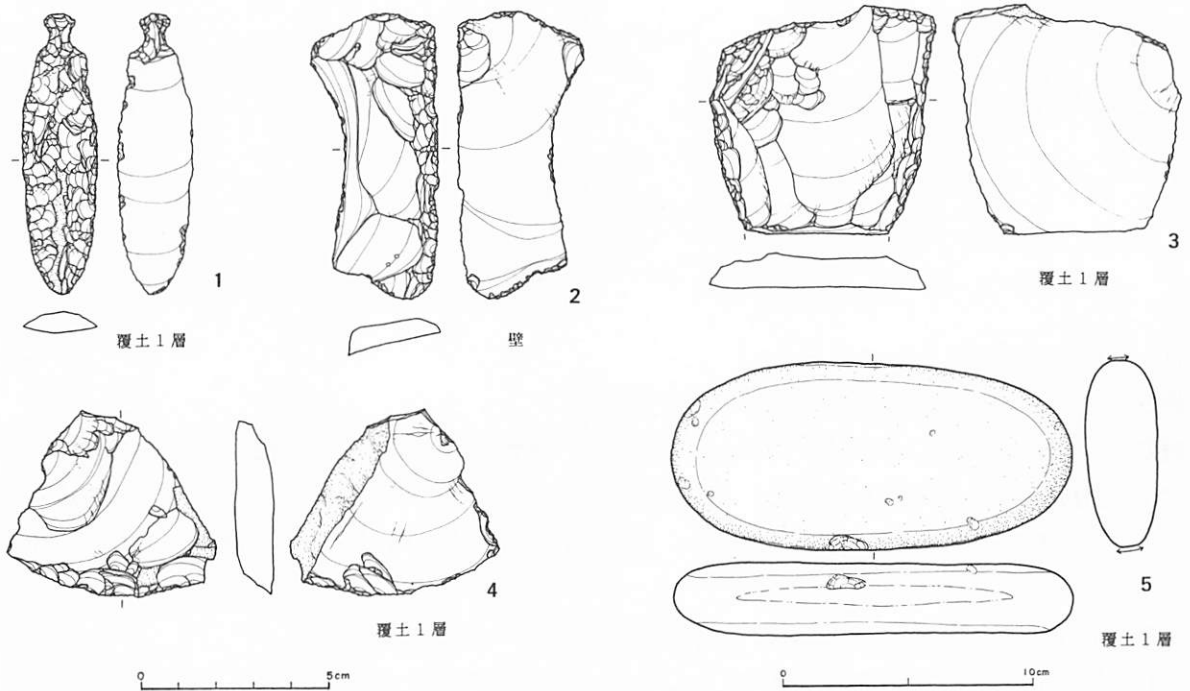
1～3はI群D1類。1と2は同一個体で、1は包含層III層と覆土1層、2は覆土1層から出土した。波頂部を有する個体と見られ、下端部を鋸歯状沈線で画した口縁部には、波頂部に対応した菱形のモチーフを取る貝殻腹縁文を施文されている。口唇部内面には貝殻腹縁文が、体部には貝殻背面圧痕が







図III-37 H-170出土土器

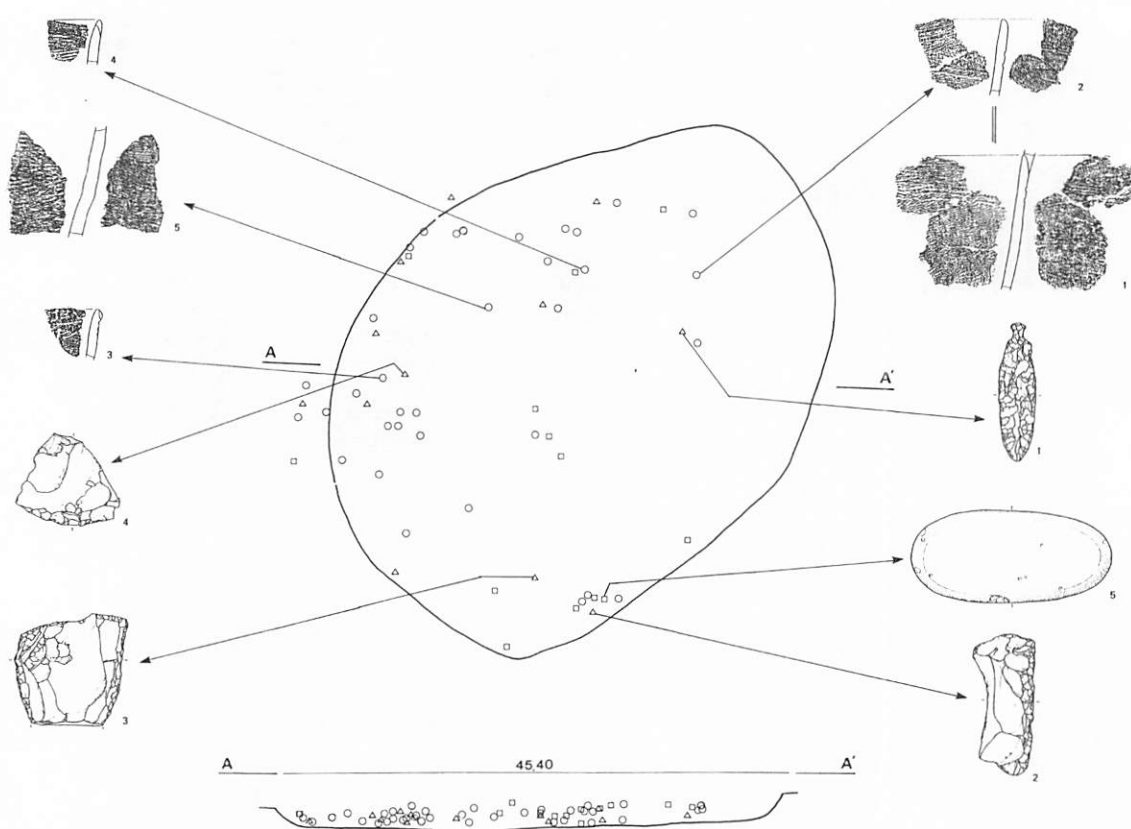


図III-38 H-170出土石器

ある。3も覆土1層から出土したもので小破片であるが、口唇部に爪形文がある。4・5はI群D2類土器である。いずれも条痕のみのもので、4は覆土2層、5は覆土1層から出土した。5は胎土に繊維を含んでいる(森)。

石器(図III-38 図版164-4)

1は石匙。両側縁には刃こぼれがまばらに見られる。2～4はスクレイパー。2は高角度で直線的な刃部をもつ。3は刃部破損後に下端部が切断される。5はすり石(宗像)。



圖III-39 H-170出土遺物分布圖

H-171 (图III-41 图版17-1·2)

位置：43-47・48 標高45.43m～45.64mの平坦地。

規模：3.93m/3.32m×3.74m/3.40m×0.28m      床面積：10.12m<sup>2</sup>      平面形：隅丸形状

検出・掘り込み面：Ⅲ b 層中でP.D.3、Ⅲ a 層の広がりが見られ、Ⅲ b 層中でⅢ b ≧黄色土落ち込みを検出した。掘り込み面はⅢ b 層中である。 重複関係：H-190・220・292と重複しており、これより新しい。

時期：I群D1類土器を伴う縄文時代早期中葉の時期のものと思われる。

床面：V層中に構築されている。ほぼ平坦であるが、中央部がややくぼんでいる。全体に砂質で堅い。

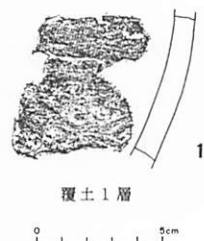
壁：立ち上がりはゆるやかな傾斜である。検出面からの壁高は、北壁が10cm～14cm、東壁が15cm前後、南壁が17cm前後、西壁が18cm前後である。

炉跡：焼土などは検出されていない。

付属ピット：柱穴状小ピットは12個検出されている。HP-1～11は壁際をめぐるもので、直立している。全体に浅いが、杭状のものである。HP-12は床面中央部にあり、支柱穴と考えられる。

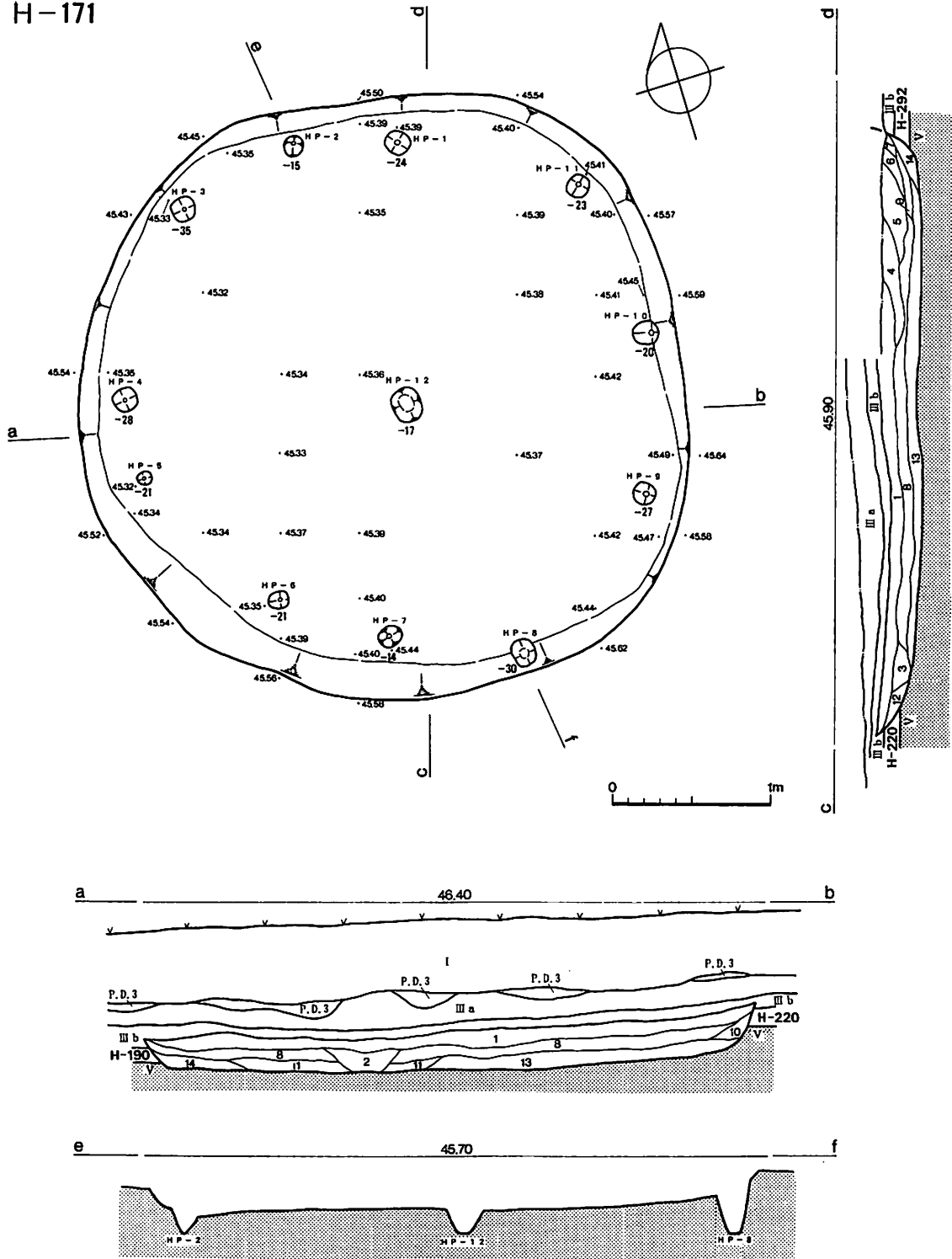
遺物出土状況：出土遺物総数は53点である。この内訳は土器3点、石器50点である。床面付近から遺物は出土していない。土器は覆土中からⅠ群D1類のものが3点出土している。ただ西側中央部の床直上で礫がまとまって出土した。これらは投げ入れられた出土状況を示していた。

覆土はIII b層と黄色土がまじり合った土であるが、覆土中層は粘質で、堅



图III-40  
H-171出土土器

H-171



H-171の土層

1. III b>黄色土粒 2. 暗茶褐色土(軽石混入) 3. 褐黄色土(砂質) 4. III b>黄色土 5. ④より黒味が強い 6. =④ 7. III b+⑭(砂質) 8. 暗黄茶色土(粘質、堅い) 9. 暗黄色土 10. 暗茶黄色土(粘質) 11. 黄色土>⑧(砂質、小石混入) 12. 暗灰黄色土(砂質) 13. 暗黄色土(粘質) 14. 暗黄褐色土(粘質)

図III-41 H-171実測図



い暗黄茶色土、覆土下層は粘質の暗黄色土である(和泉田)。

#### 土器(図Ⅲ-40 図版165-1)

1はI群D1類土器で、無文の体部破片である。覆土1層から出土した(森)。

H-172(図Ⅲ-42・44 図版17-3 図版18-1)

位置:37-44・45 38-44・45 標高44.86m~44.94mの平坦地。

規模:3.00m/2.80m×2.56m/2.34m×0.31m 床面積:5.41m<sup>2</sup> 平面形:隅丸方形状

長軸方向:N-20°-W

検出・掘り込み面:Ⅲb層中でⅢa層の広がりが見られ、Ⅲb>黄色土の落ち込みを検出した。掘り込み面はⅢb層中である。重複関係:P-75、H-168と重複しており、P-75より古く、H-168より新しい。

時期:I群D1類土器を伴う縄文時代早期中葉の時期のものか?

床面:V層中に構築されている。中央部がややくぼみ、凹凸がある。堅い。特に南西側が堅い。

壁:立ち上がりは全体的に急傾斜である。検出面からの壁高は、北西壁が5cm~8cm、北東壁が10cm~21cm、南東壁が14cm~19cm、南西壁が17cm~21cmである。

炉跡:焼土などは検出されていない。

付属ピット:柱穴状小ピットは1個検出されている。直立しており、主柱穴である。

遺物出土状況:出土遺物総数は43点である。この内訳は土器34点、石器9点である。床面付近からはI群D1類土器7点、同D2類土器5点、同E類土器3点、剥片1点出土した。土器はI群D1、D2、E類のもの、石器では石錐、すり石などが出土している。出土土器には、覆土2層と床直上(図Ⅲ-43-2)、覆土1層と床直上(図Ⅲ-43-3)、床直上と38-46(Ⅲ)、という接合関係が見られる。

覆土はⅢb層と黄色土がまじり合った土であるが、覆土下層には粘土質で堅い暗黄褐色土が堆積している。また北側の床直上には黒褐色土(黄色土がブロック状に混入)と微小の小石を多量に混入する暗茶褐色土が見られた(和泉田)。

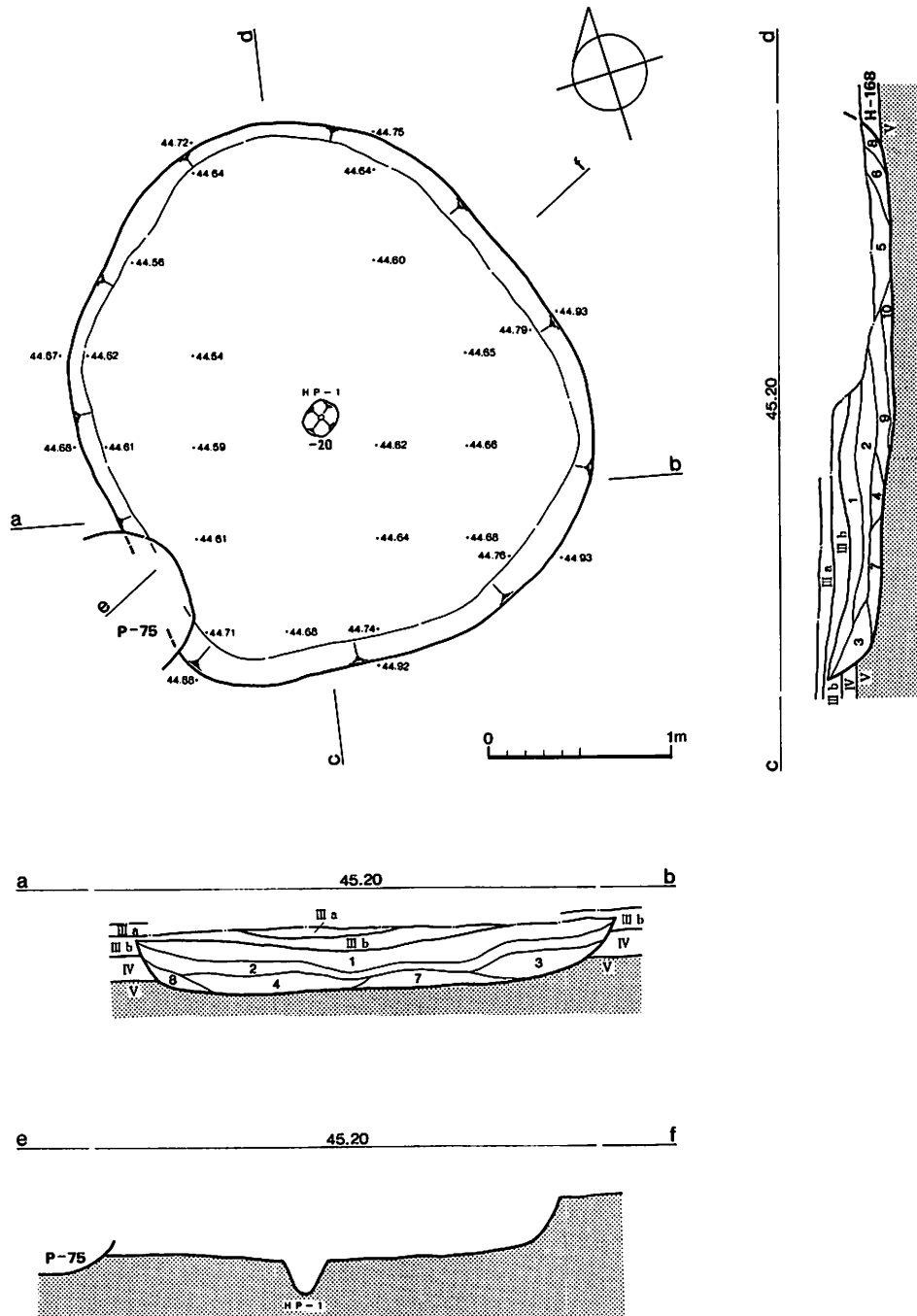
#### 土器(図Ⅲ-43 図版163-4)

1・2はI群D1類土器。1は床直上出土の口縁部破片。口唇端部と口唇部内外面に貝殻腹縁文が施文されている。2は体部破片で、床直上と覆土2層の破片が接合したものである。3・4はI群D2類土器で、いずれも口縁部破片で、3は床直上と覆土1層の破片が接合したものである。貝殻条痕と一部押引文が施文される。4は床直上から出土したもので、波頂部である。小破片のため全体の文様構成は伺えないが、傾斜した切り出し状の口唇端部に、棒状施文具で刺突列をめぐらせ、波頂部口唇から垂下する2条の沈線を中心として、矢羽根状に斜行沈線を配するものと見られる(森)。

#### 石器(図Ⅲ-43 図版165-2)

1は石錐。両面の周縁部に高角度の加工を施して機能部を作出している。両端に摩耗痕をもつ。2はスクレイパー。背面右側縁の刃部の対縁は、無加工だが、つぶれ状の使用痕をもつ。3はすり石(宗像)。

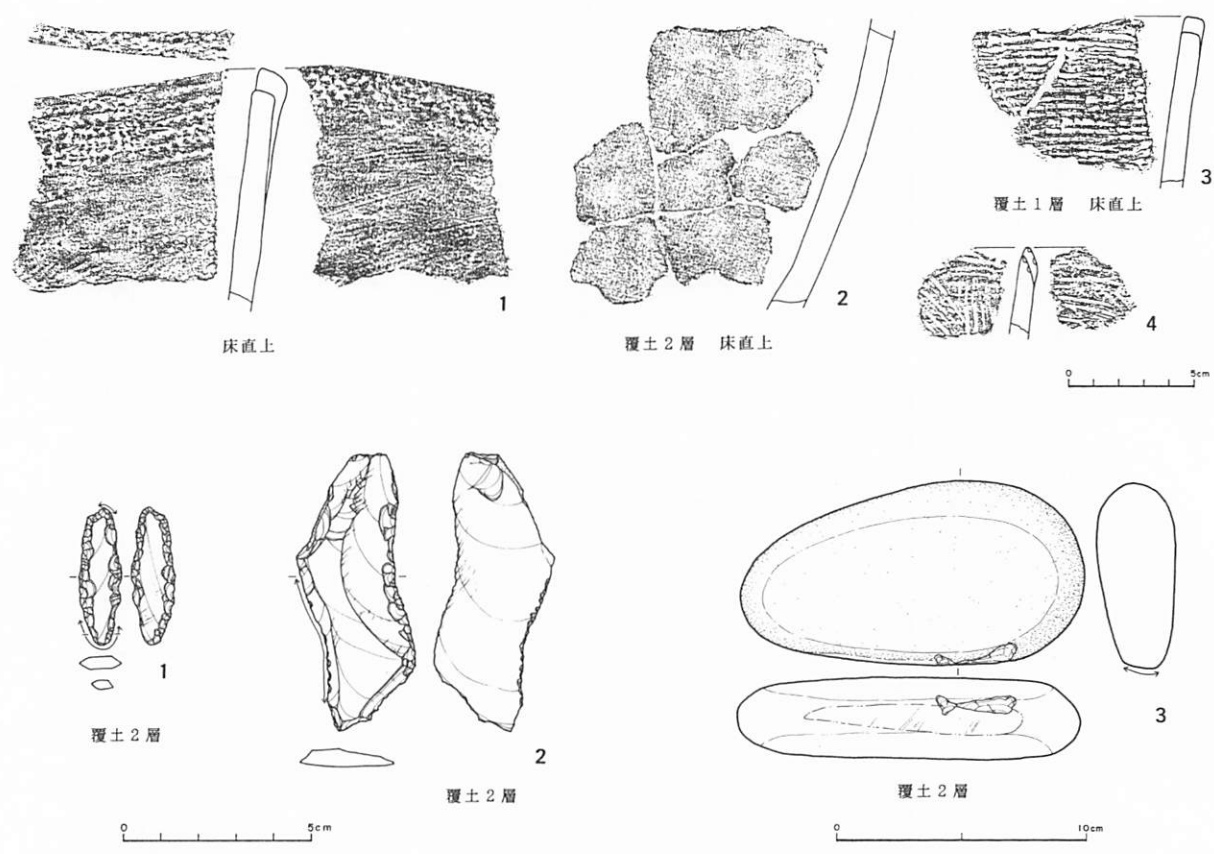
H-172



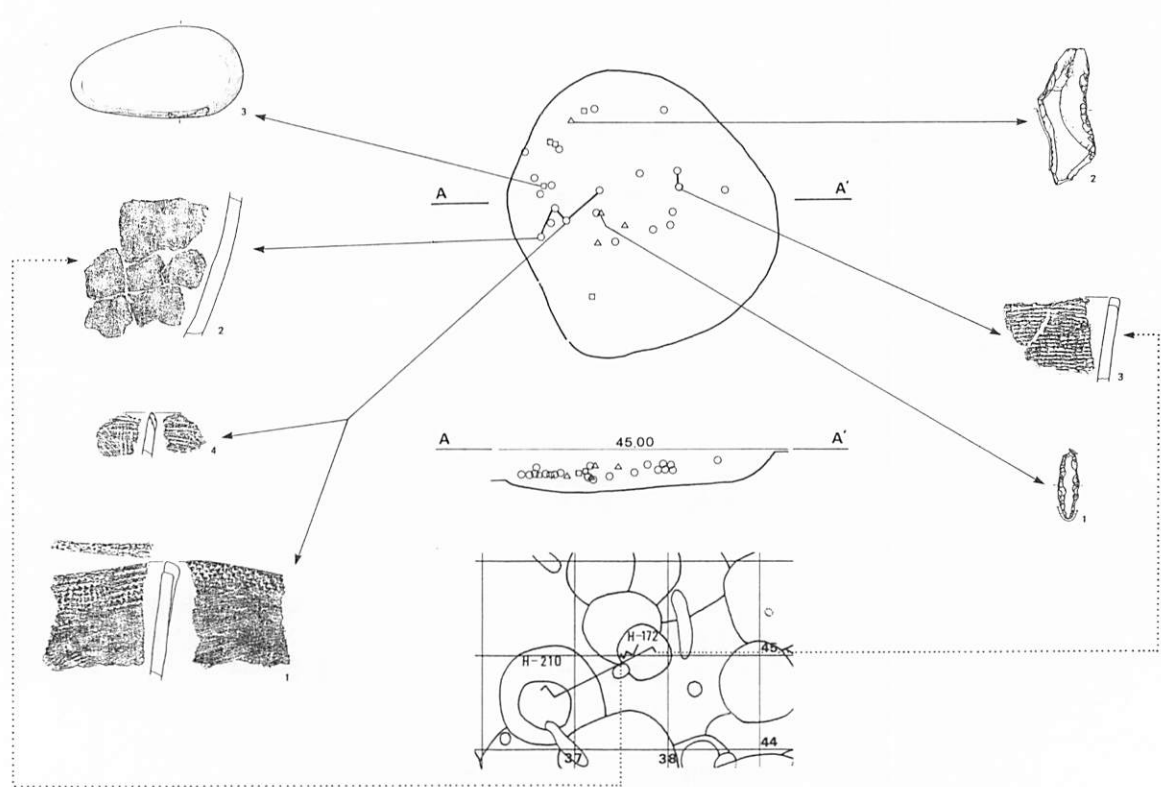
H-172の土層

1. III b > 黄色土 2. III b > 黄色土 3. 褐黄色土(粘質) 4. 暗黄褐色土(粘質、堅い) 5. 黒褐色土(黄色土がブロック状に混入、非常に堅い) 6. ④より黄土色が多く、明るい色調 7. 暗黄色土+② 8. 暗褐黄色土(粘質、堅い) 9. 暗茶褐色土(粘質、堅い、微小の小石混入) 10. 黄褐色土(粘質)

図Ⅲ-42 H-172実測図



図Ⅲ-43 H-172出土遺物



図Ⅲ-44 H-172出土遺物分布・接合図

H-173 (図III-46・47 図版18-2・3)

位置：39-43・44 40-43・44 標高45.08m~45.31mのほぼ平坦地。

規模：6.20m/5.84m×5.07m/4.78m×0.30m 床面積：20.53m<sup>2</sup> 平面形：楕円形状

長軸方向：N-19°-W

検出・掘り込み面：III b層上面でP.D.3、III a層の広がりが見られ、III b層中でIII b ≧ 黄色土の落ち込みを検出した。掘り込み面はIII b層中である。 重複関係：P-112・130、H-222・228・317・322と重複しており、これらより新しい住居跡である。ただP-112・130と新旧関係は明瞭でない。

時期：I群D1類土器を伴う縄文時代早期中葉の時期のものか？

床面：V層を浅く掘り込んで構築されている。東→西へやや傾斜している。ほぼ平坦で、堅い。

壁：立ち上がりは全体にゆるやかな傾斜である。検出面からの壁高は、北壁が17cm前後、東壁が19cm前後、南壁が22cm~27cm、西壁が14cm~25cmである。

炉跡：焼土などは検出されていない。

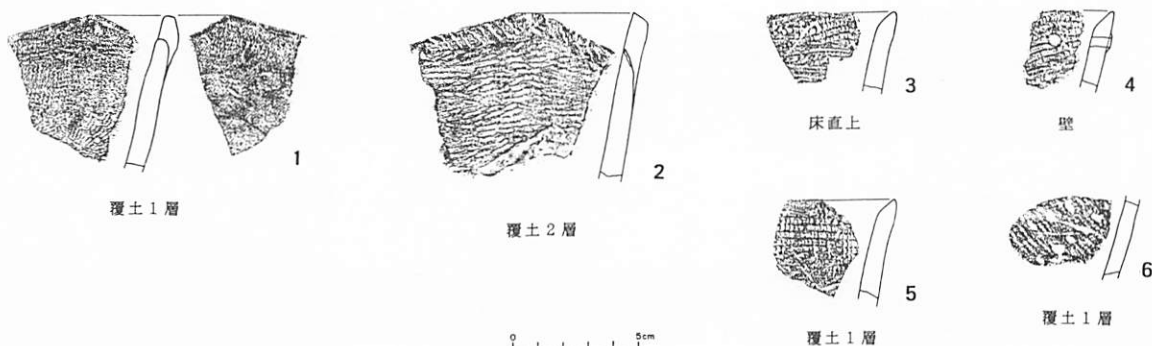
付属ピット：柱穴状小ピットは14個検出されている。HP-1~6・9~11・14は壁より内側に隅丸方形に並んでいる。すべて直立している。隅丸方形から隅丸長方形のものに建て替えられたものと考えられる。

遺物出土状況：出土遺物総数は84点である。この内訳は土器50点、石器34点である。床直上などからはI群D1類土器2点、同D2類土器3点、剥片1点が出土した。南壁からは土器片、石匙などが流れ込みの状態で出土した。土器はI群D1、D2、E、I、J類のものが出土し、石器では石匙、石錘などが出土した。出土土器には、覆土1層と壁と床直上という接合関係が見られた。図III-45-3・4・5は同一個体である。

覆土はIII b層と黄色土がまじり合った土で、床直上には砂質で汚れた土が薄く堆積していた(和泉田)。

### 土器 (図III-45 図版165-3)

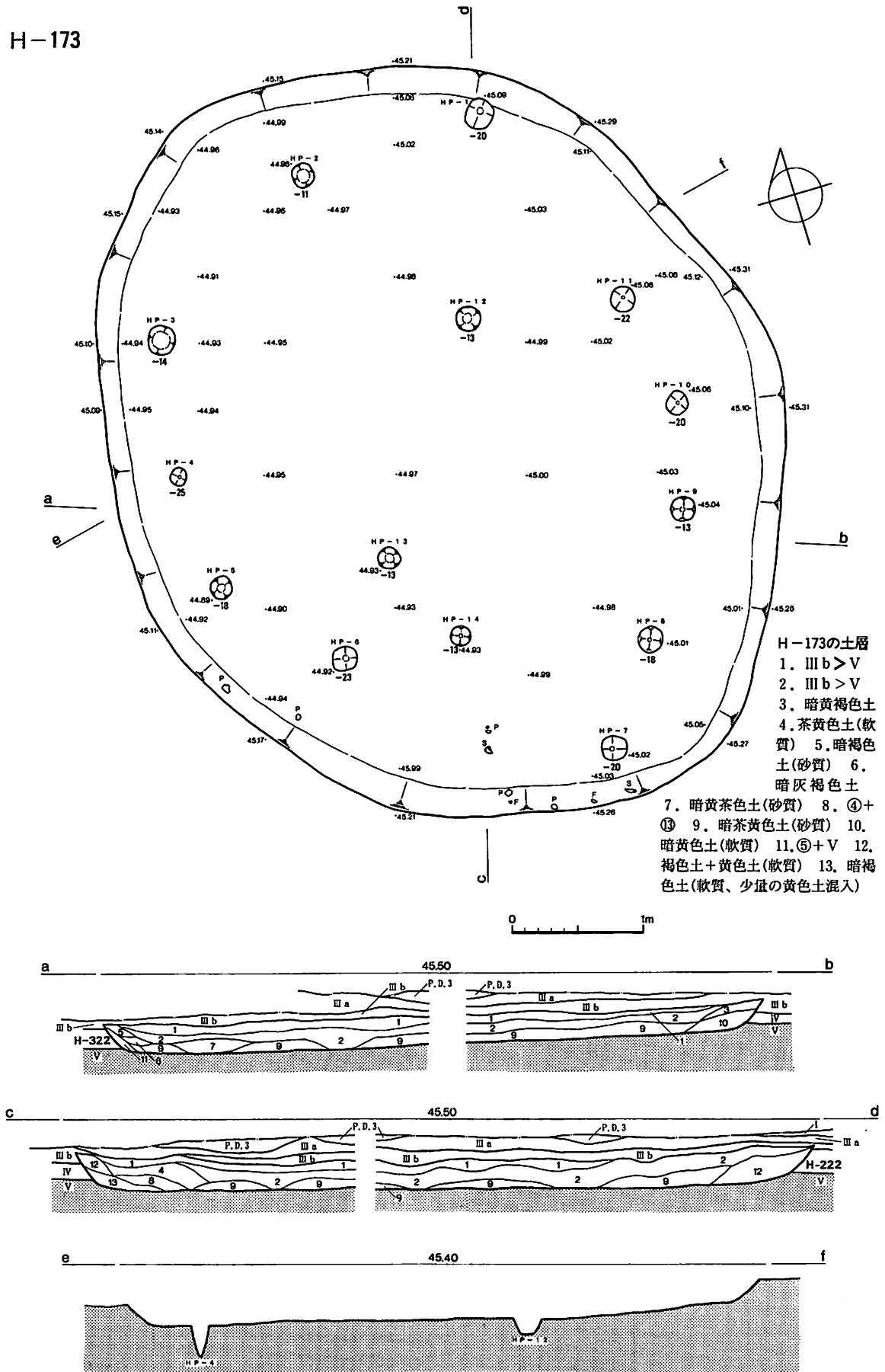
1は覆土1層から出土したI群D1類の口縁部破片。貝殻背面圧痕のみで、文様は見られない。2~5はI群D2類土器で、2は覆土2層から出土した口縁部破片。地文には貝殻条痕文を、切り出し状の口唇端部には、貝殻腹縁文が施文されてる。胎土中に繊維を含有している。3~5は同一個体で、3は床直上、4は壁、5は覆土1層からそれぞれ出土した。いずれも口縁部破片であるが、小破片のため平縁か波状口縁かはよくわからない。口唇端部の断面は内側から削がれたようになって外反しており、4には焼成前の貫通孔がある。密な押引文が横位に施文されている。6はI群I類の口縁部破片。撚糸文の上に縄文原体の端部を押し付けている(森)。



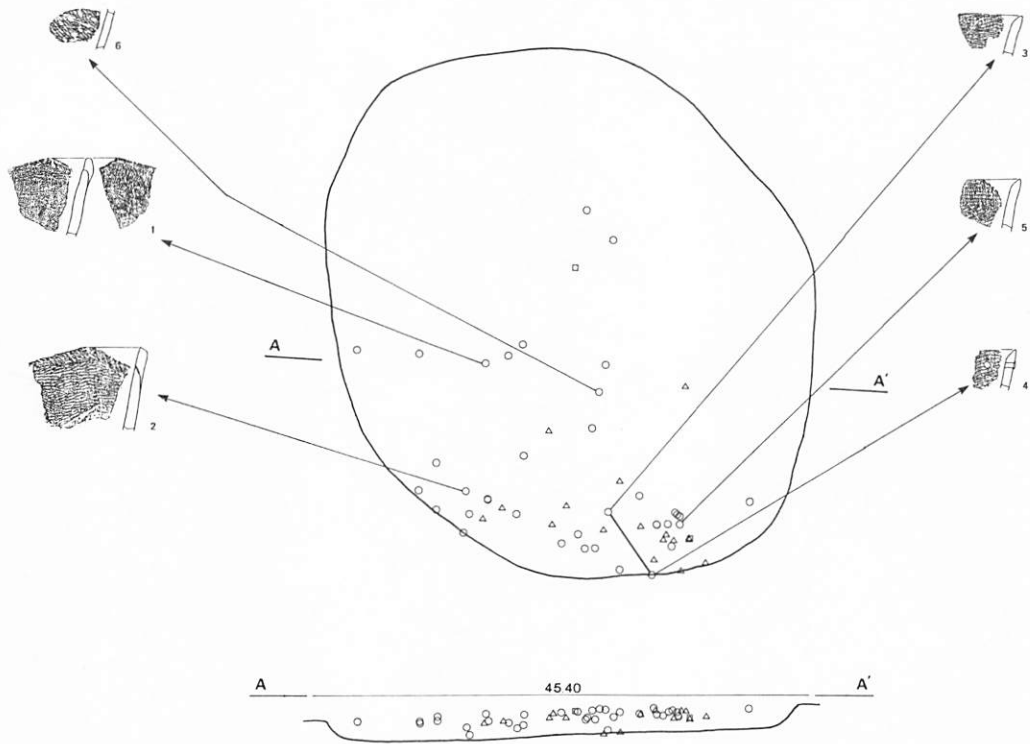
図III-45 H-173出土土器



H-173



図Ⅲ-46 H-173実測図



図III-47 H-173出土遺物分布・接合図

H-174 (図III-48・50 図版18-4 図版19-1)

位置：38-41・42・43 39-41・42 標高44.98m～45.13mの平坦地。

規模：——／——×4.50m／4.12m×0.25m 床面積：(24.40m<sup>2</sup>) 平面形：隅丸長方形状

長軸方向：N-47°-E

検出・掘り込み面：III b層上面でIII a ≧ P.D.3、III a層の広がりが見られ、III b層中でIII b ≧ 黄色土の落ち込みを検出した。掘り込み面はIII b層中である。 重複関係：P-82、H-170・209・213・229と重複しており、P-82、H-170・209より古く、H-213・229より新しい住居跡である。

時期：周辺包含層出土の遺物などから縄文時代早期中葉の時期のものと思われる。

床面：V層中に構築されている。ほぼ平坦で、堅い。

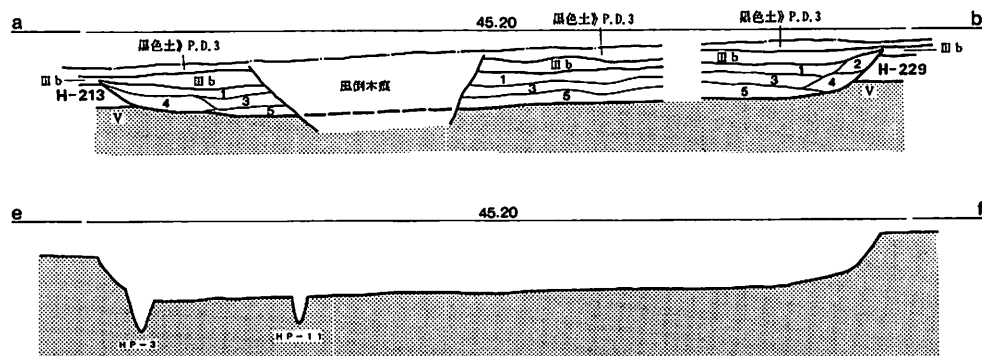
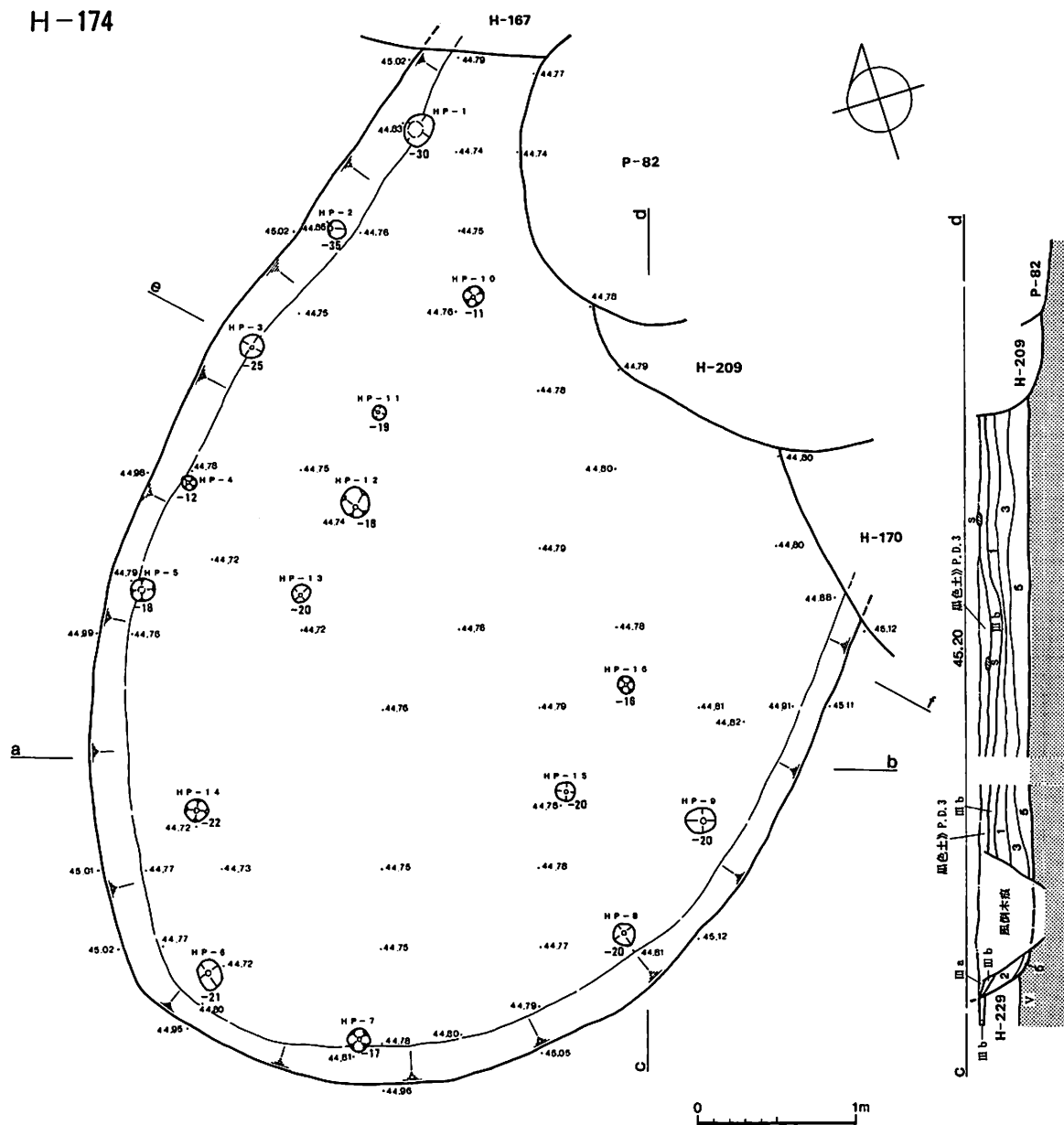
壁：立ち上がりは急傾斜である。検出面からの壁高は、北西壁が20cm～26cm、南西壁が15cm～25cm、南東壁が24cm～30cmである。

炉跡：焼土などは検出されていない。

付属ピット：柱穴状小ピットは16個検出されている。HP-1・2は若干内傾しているが、他は直立し、杭状のものである。HP-1～9は壁際をめぐるものである。HP-10～16は支柱穴と考えられる。

遺物出土状況：出土遺物総数は76点である。この内訳は土器47点、石器29点である。遺物は覆土上のIII b層と覆土中で出土しており、床面付近からは出土していない。土器はI群D1、D2、E類のものが出土しており、石器ではすり石、石錘などが出土している。出土土器には、覆土1層とH-169覆土3層という接合関係が見られる。

## H-174



H-174の土層

1. III b > V 2. 暗褐色土(軟質) 3. III b > V 4. 暗黃褐色土 5. 暗灰黃色土(粘質)

図III-48 H-174実測図

覆土はIII b層と黄色土がまじり合った土である。

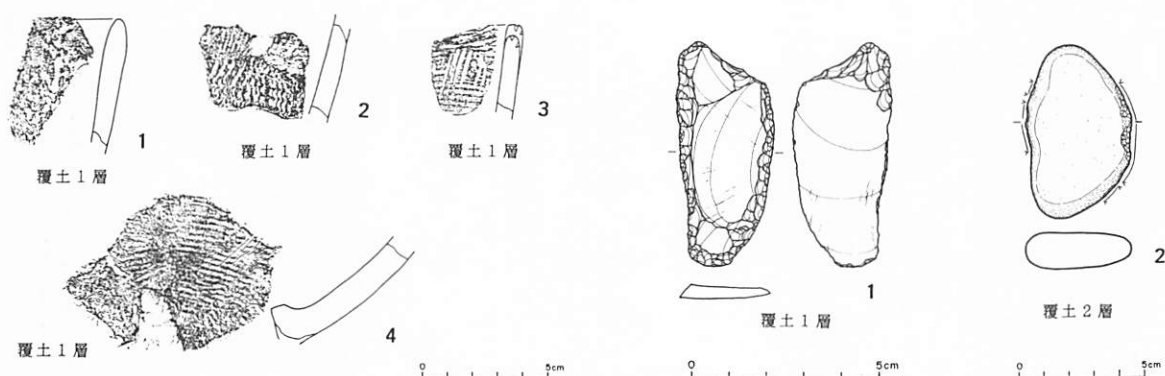
柱穴状小ピットの配列などから、7.50m×4.50mの隅丸長形状の住居跡が想定される(和泉田)。

# 土器 (図III-49 図版165-4)

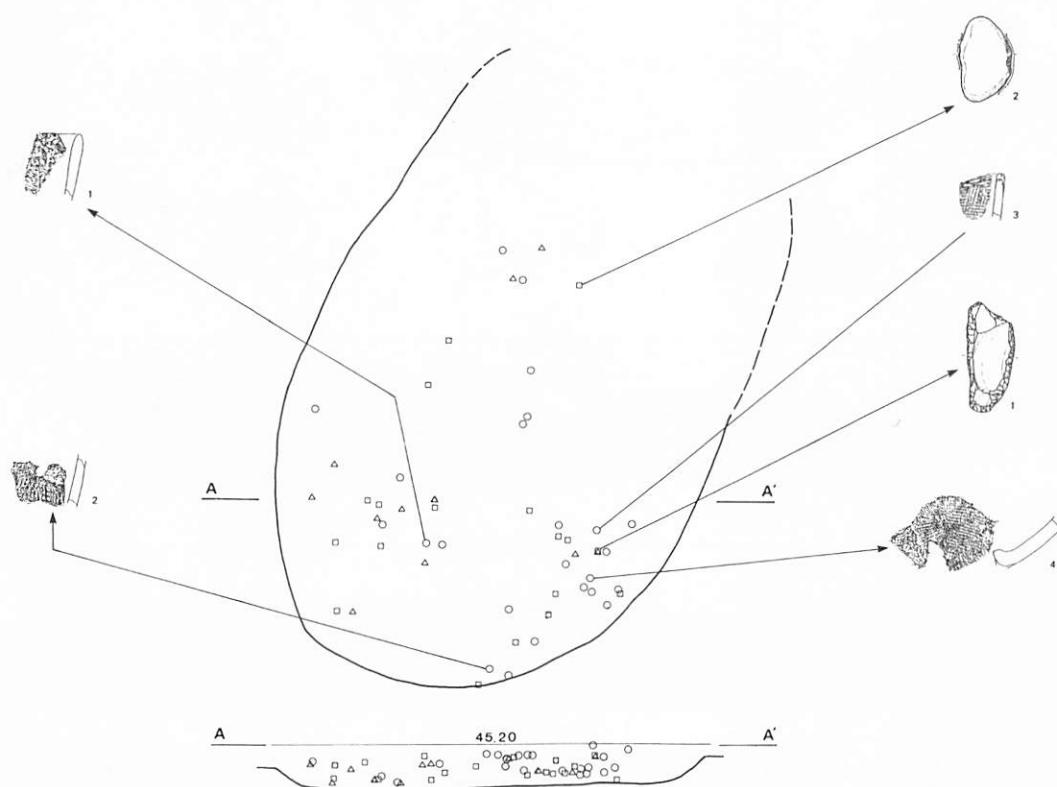
1・2は覆土1層から出土したI群D1類土器。1は表面が風化した口縁部破片。2は腹縁文のある体部。3・4はI群D2類土器で、やはり覆土1層から出土した。3は口縁部破片で、口唇端部には刺突列がある。4は底部の破片で、貝殻条痕文が尖底部近くまで施文される。胎土には繊維を含んでいる(森)。

# 石器 (図III-49 図版165-5)

1はスクレイパー。2はたたき石。側縁の向き合う位置にたたき痕をもつ(宗像)。

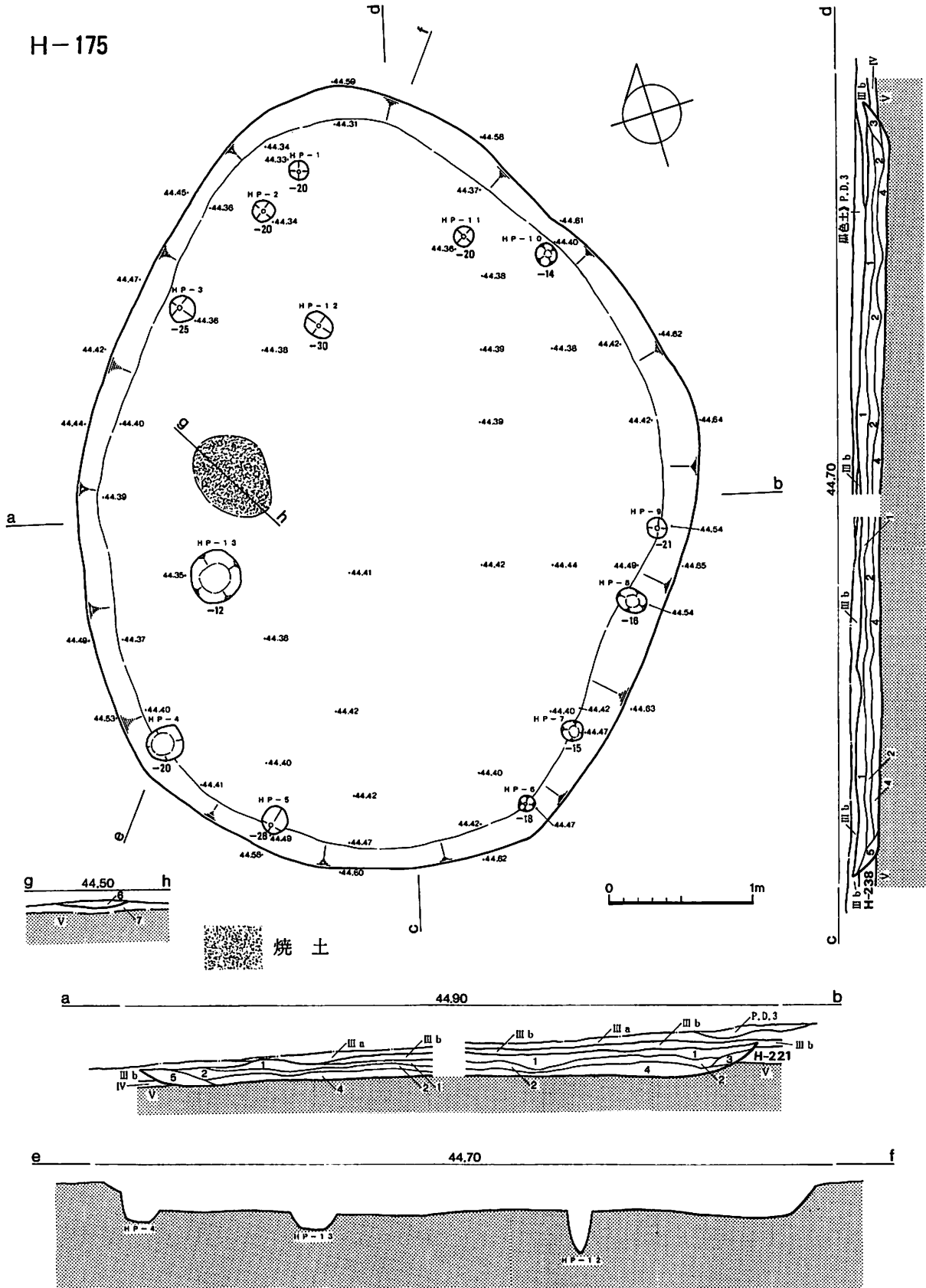


図III-49 H-174出土遺物



図III-50 H-174出土遺物分布図





H-175の土層  
1. III b>V 2. III b>V 3. 暗黄褐色土(粘質) 4. 暗灰黄色土(粘質) 5. 黄褐色土(軟質) 6. 暗橙色焼土>暗灰黄色土 7. 灰状のもの+褐色土

図Ⅲ-51 H-175実測図

H-175 (図Ⅲ-51 図版18-5 図版19-2)

位置：35-43・44 東→西へゆるやかに傾斜する標高44.42m～44.65mの緩斜面。

規模：5.40m/5.04m×4.30m/3.90m×0.24m 床面積：14.61㎡ 平面形：楕円形状

長軸方向：N-12°-E

検出・掘り込み面：Ⅲb層上層付近で遺物が多く、遺構が想定された。Ⅲb層中でⅢa>P.D.3が南北に、長円形状に広がり、Ⅲb>黄色土の落ち込みを検出した。掘り込み面はⅢb層中である。

重複関係：H-211・238・318と重複しており、これらより新しい住居跡である。

時期：周辺包含層出土の遺物などから、縄文時代早期中葉の時期のものと思われる。

床面：西側はⅤ層上面、東側はⅤ層を浅く掘り込んで構築されている。中央部が若干高くなっているが、ほぼ平坦で、堅い。

壁：立ち上がりは全体にゆるやかな傾斜である。西側は明瞭な壁の立ち上がりを検出できなかった。

検出面からの壁高は、北西壁が4cm～13cm、北東壁が18cm～24cm前後、南東壁が16cm～21cm、南西壁が13cm～20cmである。

炉跡：中央部西側で0.60m×0.50mの広がりをもつ焼土が検出されている。これは床直上にあり、暗灰黄色土と暗橙色焼土がまじり合った土である。地床炉であろう。

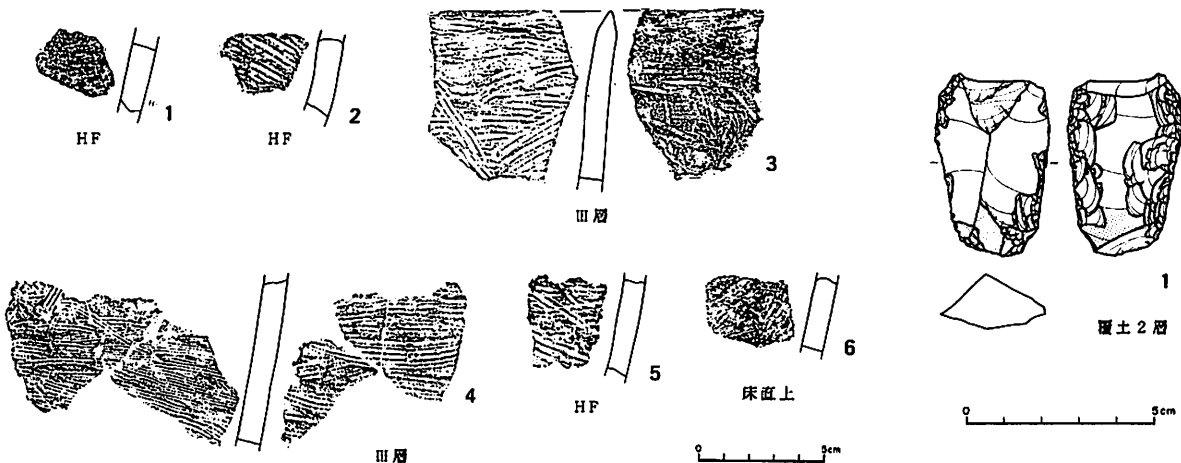
付属ピット：柱穴状小ピットは13個検出されている。すべて直立している。HP-12・13は主柱穴と考えられ、4本柱が想定される。

遺物出土状況：出土遺物総数は28点である。この内訳は土器22点、石器6点である。床直上からはⅠ群D2類土器1点、剥片1点が出土し、HP-1の直上からはⅠ群D1類土器2点、同D2類土器が1点出土した。土器はⅠ群D1、D2、E類のものが出土し、石器ではRフレイク、すり石、石錘などが出土している。出土土器には、覆土上のⅢ層とH-180覆土1層(図Ⅲ-52-3・4)という接合関係が見られる。

覆土はⅢb層と黄色土がまじり合った土である(和泉田)。

土器 (図Ⅲ-52 図版165-7)

1・2は小破片のため判別困難であるが、胎土や器表面のナデ調整からⅠ群D1類とした土器片である。3～6はⅠ群D2類土器で、3・4は同一個体である。3は口縁部破片、4は口縁部から体部にか



図Ⅲ-52 H-175出土遺物

けての破片と見られ、いずれも貝殻条痕がある。3・4は覆土上のⅢ層、1・2・5は焼土直上、6は床直上から出土した。5は2次焼土のため赤褐色に変色しており、住居跡と共伴する可能性の強い遺物と見られる(森)。

#### 石器(図Ⅲ-52 図版165-6)

1はRフレイク。両側縁にこまかな加工が施されている。素材腹面は摩耗している(宗像)。

#### H-176(図Ⅲ-54 図版20-1)

位置：34-41・42 35-41・42 東→西へゆるやかに傾斜する標高44.38m～44.50mの緩斜面。

規模・床面積・平面形・長軸方向：南半部が調査区外であるため全体は不明である。

検出・掘り込み面：H-177の覆土中でⅢb>黄色土の落ち込みを検出した。重複関係：H-177と重複しており、これらより新しい住居跡である。

時期：I群D1類土器を伴う縄文時代早期中葉の時期のものと思われる。

床面：V層中に構築されている。東→西へゆるやかに傾斜している。凹凸があり、堅い。構築面上には汚れた暗灰黄色土が堆積しており、この上面が最終生活面と思われる。

壁：立ち上がりは急傾斜である。検出面からの壁高は、北西壁が19cm～29cm、北東壁が29cm前後、南東壁が27cm前後である。

炉跡：焼土などは検出されていない。

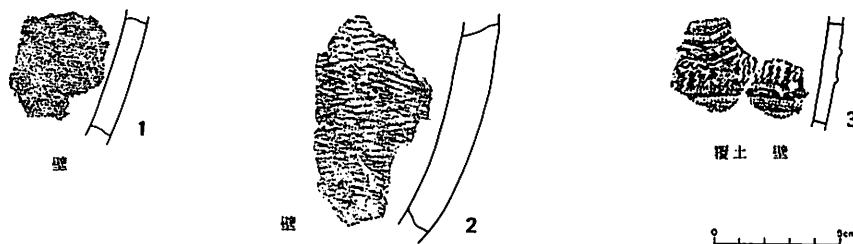
付属ピット：柱穴状小ピットは2個検出されている。主柱穴と考えられる。直立している。

遺物出土状況：出土遺物総数は18点である。この内訳は土器9点、石器9点である。床面からは礫が5点出土しただけである。ただ北西壁では流れ込み状に土器片、石器などが少量出土した。土器はI群D1、D2、I類のものが出土し、石器では石錘2点、礫7点が出土している。

覆土はⅢa層、Ⅲb層、黄色土がまじり合った土で軽石も混入しており、不安定な堆積状態で、非常に汚れている。柱穴状小ピットの位置関係から、一辺3.60m～3.40mの隅丸方形の住居跡が想定される(和泉田)。

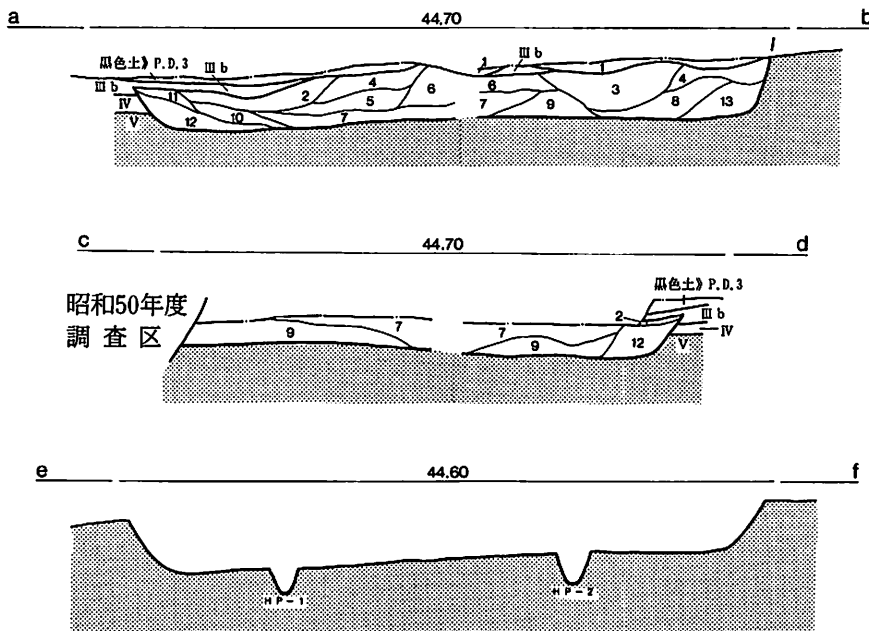
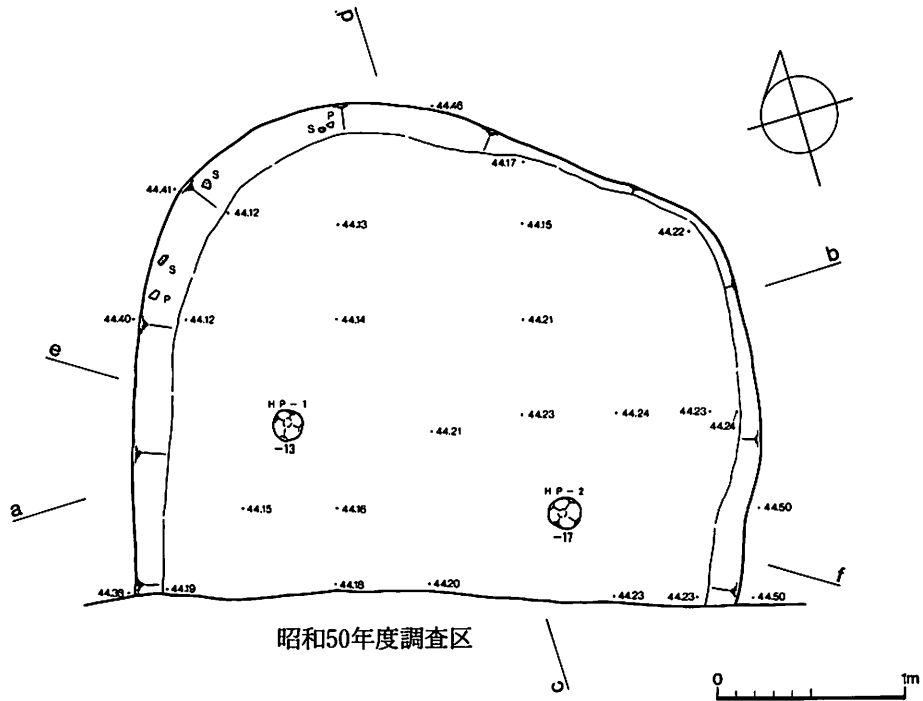
#### 土器(図Ⅲ-53 図版165-8)

いずれも壁付近で出土したものである。1はI群D1類の体部破片で、無文である。2はI群D2類の底部に近い体部破片。貝殻条痕がある。器厚があり繊維を含む。3はI群I類の体部破片。微隆起線文の間に撚糸文と絡条体圧痕文が施文される(森)。



図Ⅲ-53 H-176出土土器

H-176



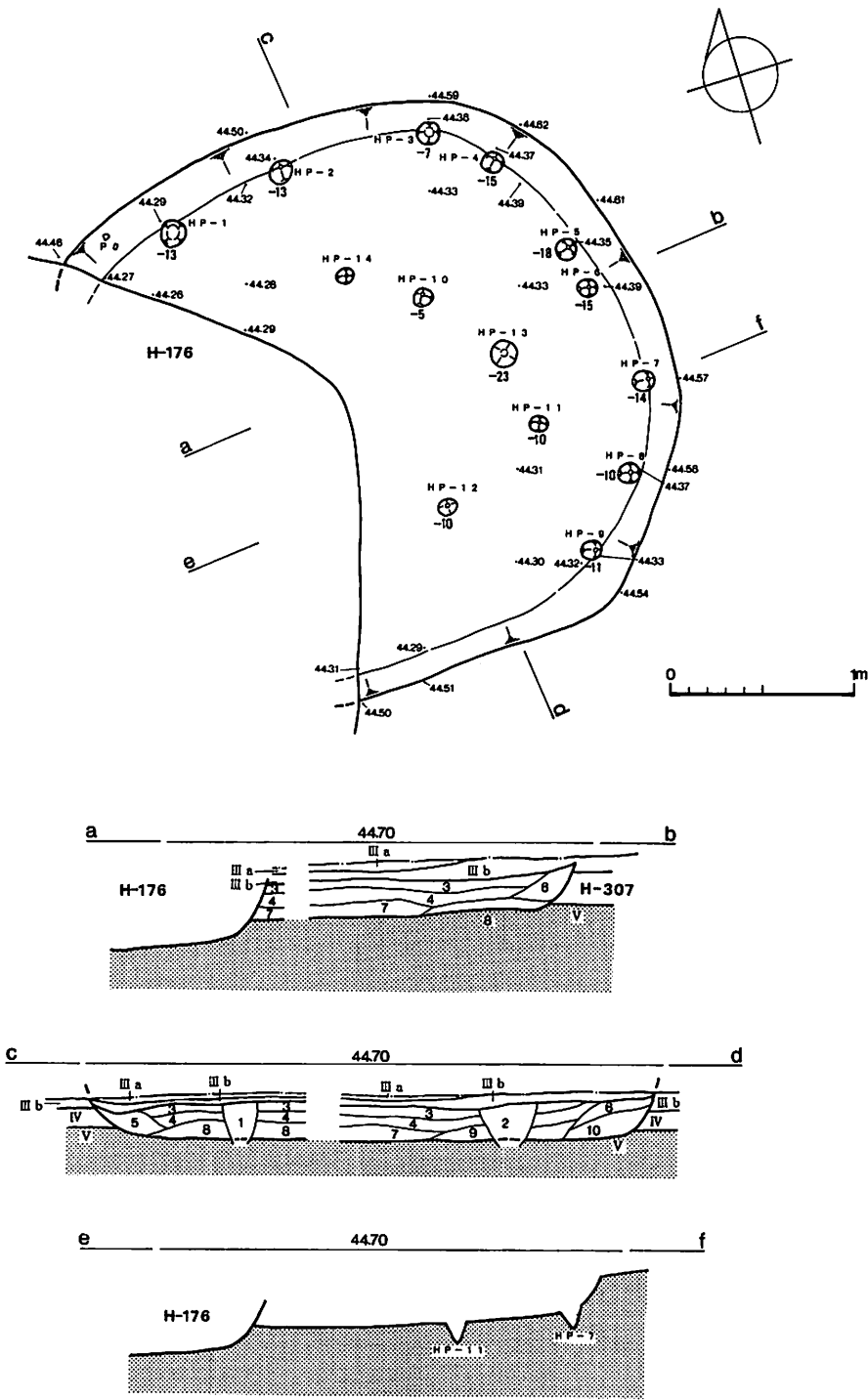
H-176の土層

1. 明褐色土(砂質) 2. III b > V 3. 黒褐色土 > V 4. 褐色土(①+②)
5. ④+黄色土(軟質) 6. 褐色土 > 黄色土粒(砂質) 7. 暗黄茶色土(軟質)
8. ③ > 黄色土 9. 暗茶黄色土(軟質) 10. 暗黄色土 > 暗褐色土 11. III b > V
12. 暗黄褐色土 13. 褐黄色土(砂質)

図Ⅲ-54 H-176実測図



H-177



H-177の土層  
1. 暗灰褐色土(砂質) 2. 黒褐色土(粘質) 3. III b>黄色土 4. III b>黄色土 5. 褐灰色土 6. 褐色土(軟質) 7. 暗茶褐色土 8. 暗灰黄色土(砂質) 9. 暗灰褐色土 10. 褐色土+黄色土(軟質)

図Ⅲ-55 H-177実測図

H-177 (図Ⅲ-55 図版20-2・3)

位置：35-41・42 44.46m～44.62mのほぼ平坦地。

規模・床面積・平面形・長軸方向：不明

検出・掘り込み面：Ⅲb層中でⅢa層の広がりが見られ、Ⅲb>黄色土の落ち込みを検出した。

重複関係：H-176・307・311と重複しており、H-176より古く、他より新しい住居跡である。

時期：周辺包含層出土の遺物などから、縄文時代早期中葉の時期のものと思われる。

床面：V層をわずかに掘り込んで構築されている。やや北東→南西へ傾斜している。平坦で、堅い。

壁：立ち上がりは急傾斜である。検出面からの壁高は、北壁が18cm～22cm前後、東壁が19cm～25cm、南壁が19cm～23cmである。

炉跡：焼土などは検出されていない。

付属ピット：柱穴状小ピットは12個検出されている。HP-1～9は壁際をめぐるもので、直立している。HP-10～12は主柱穴と考えられる。

遺物出土状況：覆土上のⅢb層中で遺物は出土しているが、覆土、床面付近からは出土していない。

覆土は砂質の褐灰色土と黄色土が混在しており、不安定な堆積状態である。

柱穴状小ピットの配列などから、1辺3.10mで隅丸方形の住居跡が想定される。4本柱か？(和泉田)。

H-178 (図Ⅲ-56・58 図版21-1 図版22-1)

位置：42-45・46 標高45.36m～45.46mの平坦地。

規模：5.90m/5.74m×(4.80m)/(4.47m)×0.22m 床面積：(19.79㎡) 平面形：長円形状  
長軸方向：N-35°-E

検出・掘り込み面：H-161の東壁で覆土状の土の落ち込みを確認した。IV層直上で長円形状に広がるⅢb層、Ⅲb>黄色土の落ち込みを検出した。掘り込み面はⅢb層中と思われる。 重複関係：T-13、H-161・212・340、P-134と重複しており、T-13、H-161より古く、H-212・340より新しい住居跡である。P-134との新旧関係は明瞭でない。

時期：I群D1類土器を伴う縄文時代早期中葉の時期のものと思われる。

床面：V層を浅く掘り込んで構築されている。平坦で、堅い。北～北東～南東にかけて、壁からの約1.0mほどの範囲は若干高くなっている。

炉跡：焼土などは検出されていない。

付属ピット：柱穴状小ピットは16個検出されている。HP-1～8は壁際をめぐるもので、直立し、全体に浅いものである。HP-14～16は主柱穴で、6本柱が想定される。

遺物出土状況：出土遺物総数は138点である。この内訳は土器88点、石器50点である。床面からはI群D1類土器1点、同D2類土器6点、剥片2点が出土している。また床直上付近からはI群D2類土器4点、同E類土器5点、同F類土器3点が出土している。石器では石錐、石匙、すり石、石皿、石錘などが出土した。出土土器には、覆土2層と床面(図Ⅲ-57-2)、覆土1層とH-228覆土1層という接合関係が見られ、また石皿(図Ⅲ-57-6)では覆土1層とH-186覆土3層のものが接合した。

覆土はⅢb層と黄色土がまじり合った土であるが、床直上には軽石を多く含む褐灰色土が見られ、この中から遺物が多く出土した(和泉田)。

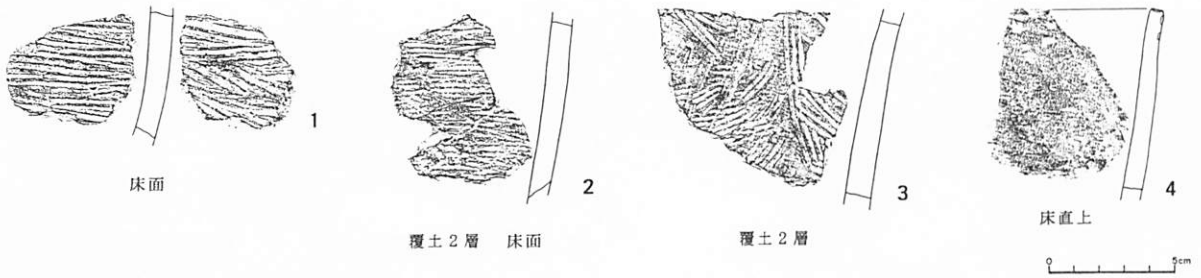


土器(図III-57 図版165-9)

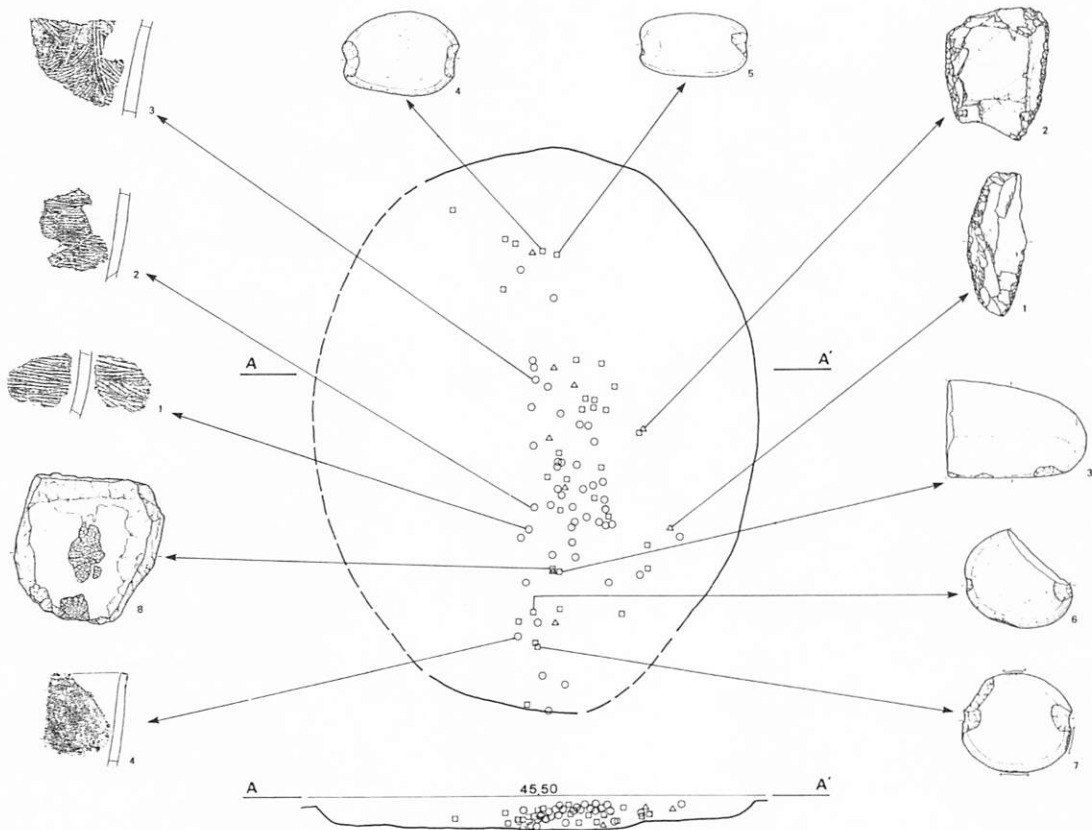
1～3はI群D2類土器で、いずれも体部破片で、貝殻条痕である。1は床面、2は床面と覆土2層出土の破片が接合したもの、3は覆土2層出土である。1・3は胎土中に繊維を僅かに含んでいる。4はI群E類の口縁部破片で床直上から出土した。平坦な角形の口唇端部と口縁部に刺突列があるほかは無文。風化してクラックが入る(森)。

石器(図III-59 図版166-1)

1・2はスクレイパー。3はすり石。すり面の形成に先行して綾部は打ち欠きを受ける。4～7は石錘。6・7はたたき石複合。8は石皿。すり面に敲打が加えられている(宗像)。

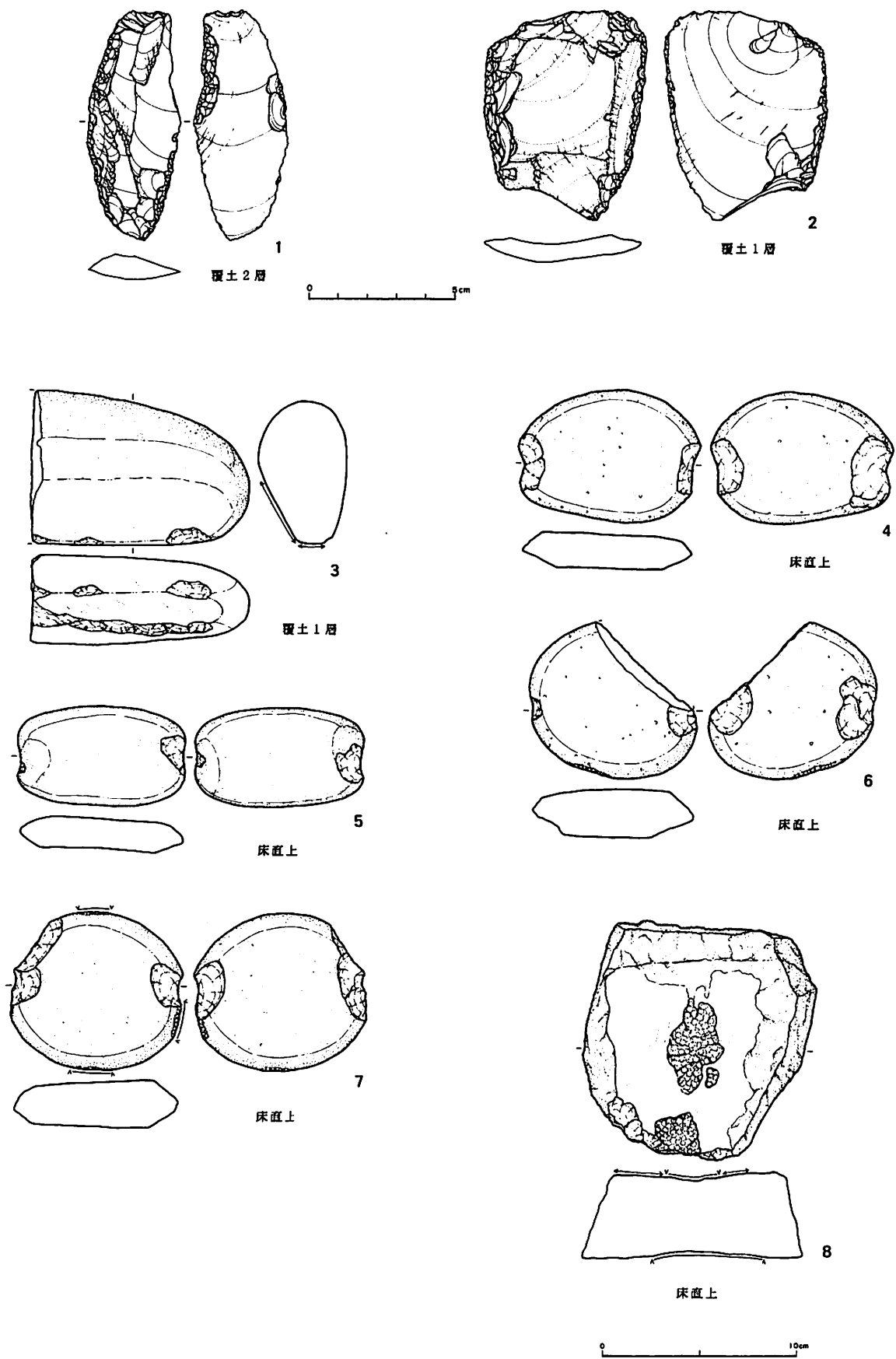


図III-57 H-178出土土器



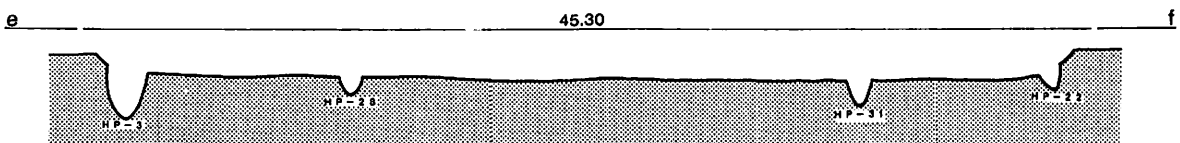
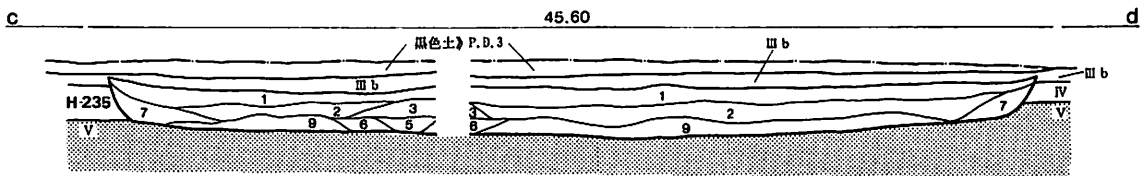
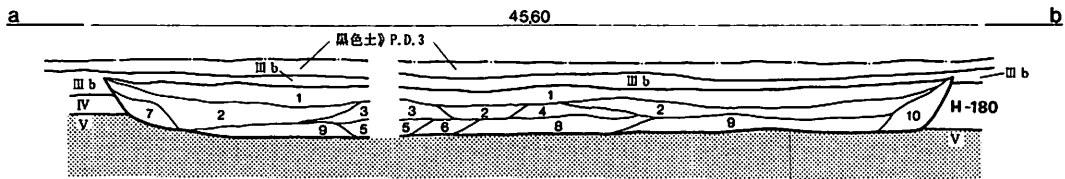
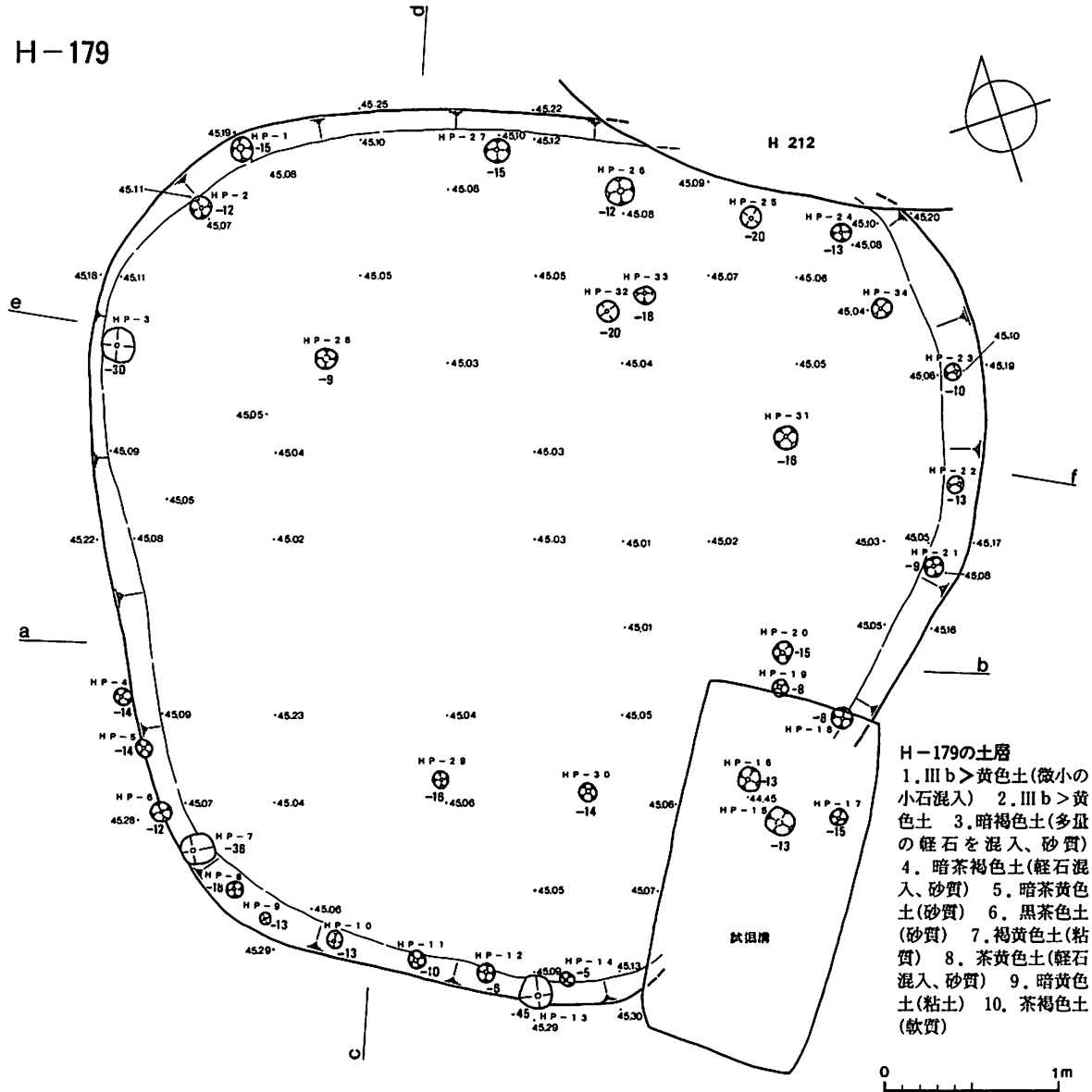
図III-58 H-178出土遺物分布図





図Ⅲ-59 H-178出土石器

H-179



図III-60 H-179実測図

H-179 (図Ⅲ-60・63 図版21-2 図版22-2)

位置: 41-43・44 42-44 標高45.16m~45.30mのほぼ平坦地。

規模: 5.16m/4.90m×5.00m/4.72m×0.30m 床面積: 18.64㎡ 平面形: 台形状

長軸方向: N-25°-E

検出・掘り込み面: Ⅲb層上面でⅢa>P.D.3の広がりが見られ、Ⅲb層中でⅢb>黄色土の落ち込みを検出した。掘り込み面はⅢb層中である。重複関係: H-180・212・230・235・297と重複しており、H-212より古い、他より新しい住居跡である。

時期: I群D1類土器を伴う縄文時代早期中葉の時期のものである。

床面: V層中に構築されている。平坦で、やや堅い。

壁: 立ち上がりは急傾斜である。検出面からの壁高は、北壁が10cm前後、東壁が12cm前後、南壁が17cm~22cm、西壁が6cm~19cmである。

炉跡: 焼土などは検出されていない。

付属ピット: 柱穴状小ピットは33個検出されている。HP-1~3・7・15・18・24~27・34は壁際をめぐるもので、直立している。HP-4~6・8~12・14はH-235の床面調査中に検出したもので、ほぼ30cmほどの間隔で並び、径約10cmで、直立し、杭状の浅いものである。HP-21~23も同様の小ピットと思われる。HP-28~31は支柱穴ではないかと考えられる。

遺物出土状況: 出土遺物総数は201点である。この内訳は土器150点、石器51点である。遺物は覆土上のⅢb層と覆土中で出土しているが、床面付近などからは出土していない。土器はI群B、D1、D2、E類のものが出土し、I群D1類土器が125点出土している。石器では石匙、石錐、たたき石、すり石、砥石、石錘などが出土している。出土土器には、覆土1層とH-166覆土とH-199覆土と41-42・44(Ⅳ)(図Ⅲ-61-1)、覆土1層と41-46(Ⅳ)(図Ⅲ-61-3)、覆土1層どうし(図Ⅲ-61-6)、覆土1層とH-212覆土2層、という接合関係が見られる。

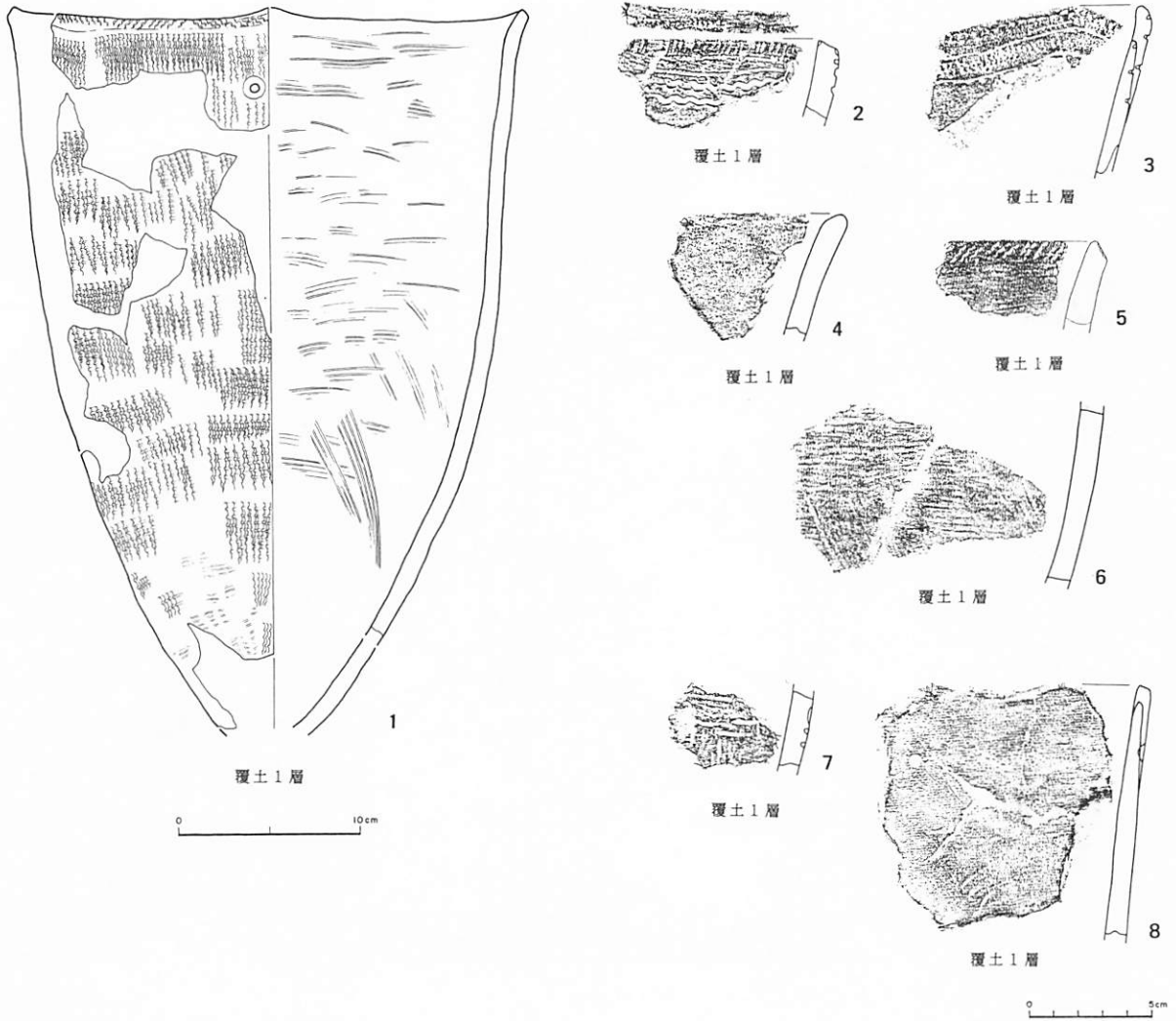
覆土はⅢb層と黄色土がまじり合った土であるが、覆土中~下層にかけて部分的に軽石を多く混入する汚れた土が見られた(和泉田)。

#### 土器 (図Ⅲ-61 図版167-1・2)

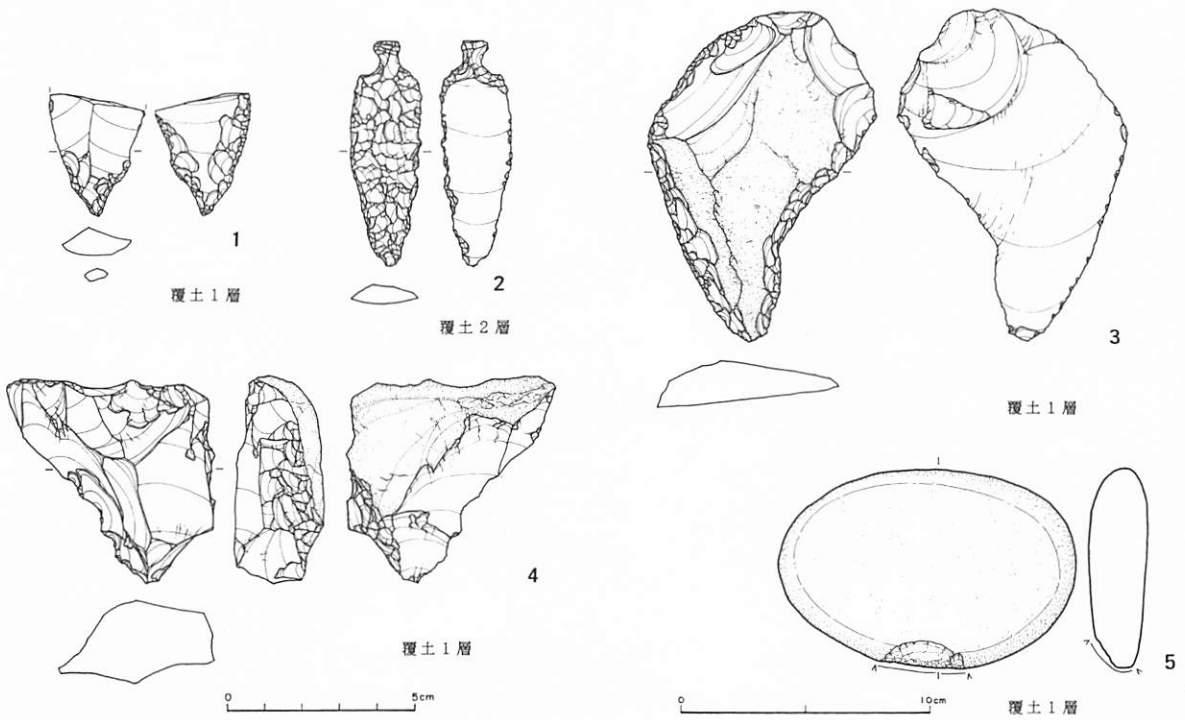
図示した土器はすべて覆土1層から出土したものである。2~4はI群D1類土器の口縁部破片。2は口唇端部の内外面に刻み目が、口唇部には沈線文と円形刺突がある。3には沈線に重ねた刺突列で画した間に貝殻腹縁文が施文されている。4は無文の口縁部。1・5~7はI群D2類土器である。1は本住居跡から出土した土器片とH-166、H-199の覆土、そして包含層Ⅲ層の土器片が接合したもので、ほぼ全体の器形を伺うことのできる個体である。砲弾形尖底の器形になるものと見られ、口唇部は僅かに外反する。貝殻腹縁文が器表面全体と傾斜した切り出し状の口唇端部に施文されている。5~7は貝殻条痕のあるもので、5の口唇端部には貝殻腹縁文が、7には刺突文が認められる。8はI群E類の口縁部。2つの波頂部があり、口縁部には穿孔作業を中止した補修孔がある(森)。

#### 石器 (図Ⅲ-62 図版167-3)

1は石錐。2は石匙。つまみ部に素材打面を残す。側縁部には刃こぼれが見られる。3はスクレイパー。両側縁の刃部とも、原石中の軟質部に作出されている。4は剥片素材の石核。3面で剥離作業が行われる。5はたたき石。縁部を打ち欠き後に、目のこまかな敲打痕がつけられる(宗像)。

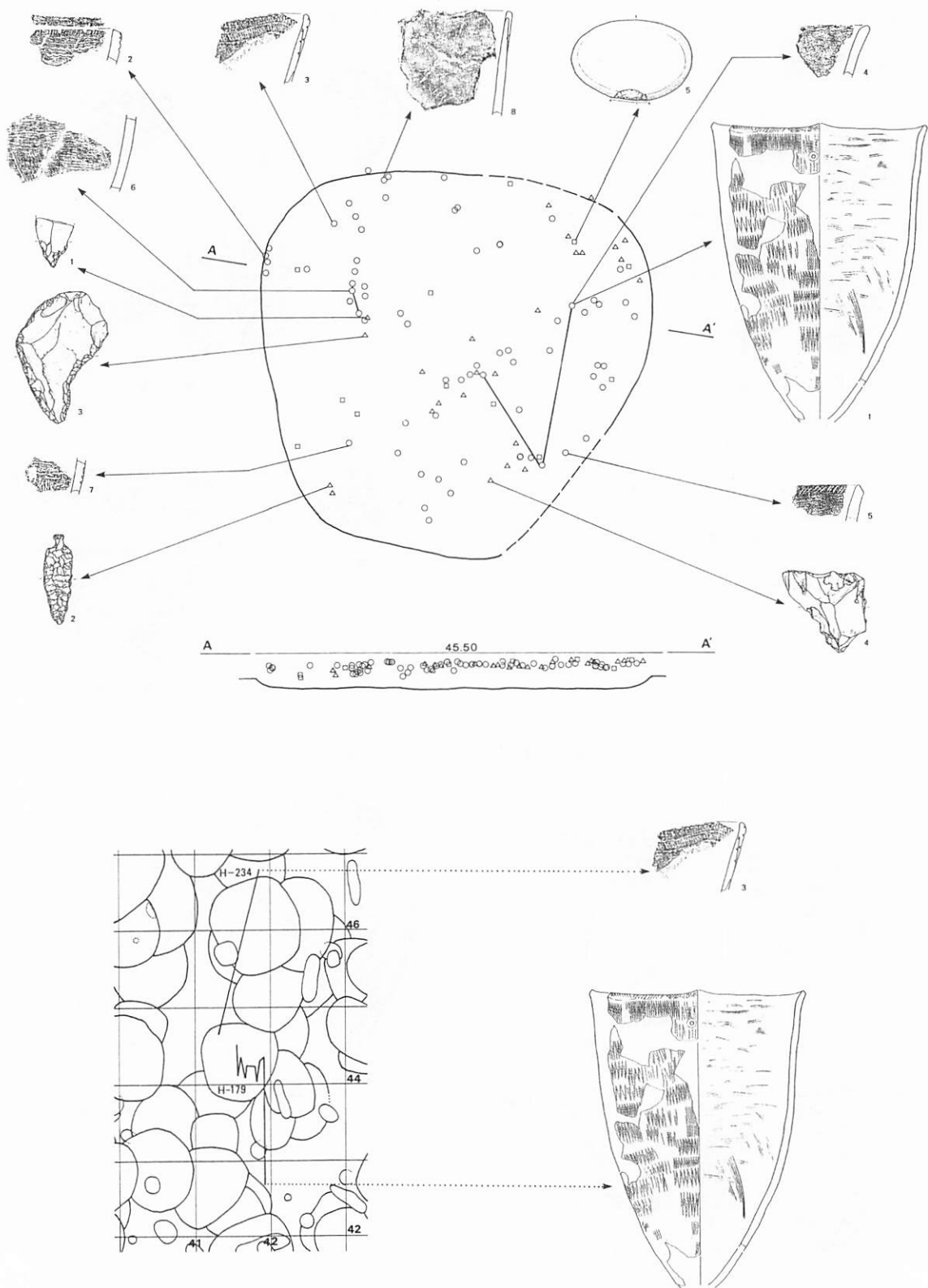


図III-61 H-179出土土器

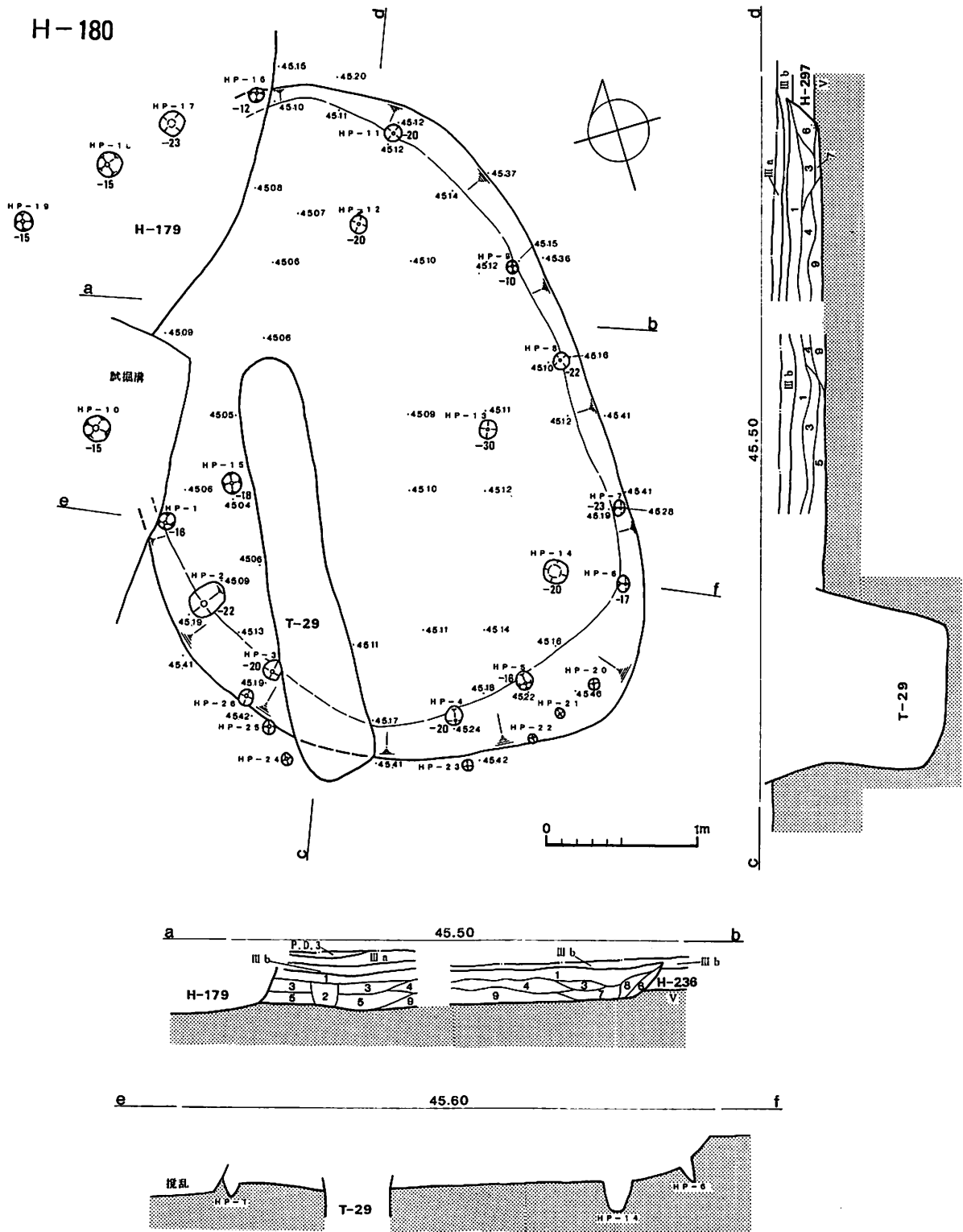


図III-62 H-179出土石器





図Ⅲ-63 H-179出土遺物分布・接合図



図III-64 H-180実測図

H-180 (図Ⅲ-64 図版22-3・4)

位置：41-43・44 42-43・44 標高45.15m～45.42mのほぼ平坦地。

規模：(4.70m)／(4.20m)×3.14m／2.80m×0.30m 床面積：(11.08m<sup>2</sup>) 平面形：隅丸長方形 形状 長軸方向：N-10°-W

検出・掘り込み面：Ⅲb層中でP.D.3、Ⅲa層の広がりが見られ、Ⅳ層直上でⅢb＞黄色土の落ち込みを検出した。掘り込み面はⅢb層中と思われる。重複関係：T-29、H-179・230・232・236・297と重複しており、T-29、H-179より古いが、他より新しい住居跡である。

時期：周辺包含層出土の遺物などから、縄文時代早期中葉の時期のものと思われる。

床面：Ⅴ層を浅く掘り込んで構築されている。やや凹凸がある。

壁：立ち上がりはゆるやかな傾斜である。検出面からの壁高は、北東壁が13cm～29cm、南東壁が21cm～30cm、南西壁が26cm～30cmである。

炉跡：焼土などは検出されていない。

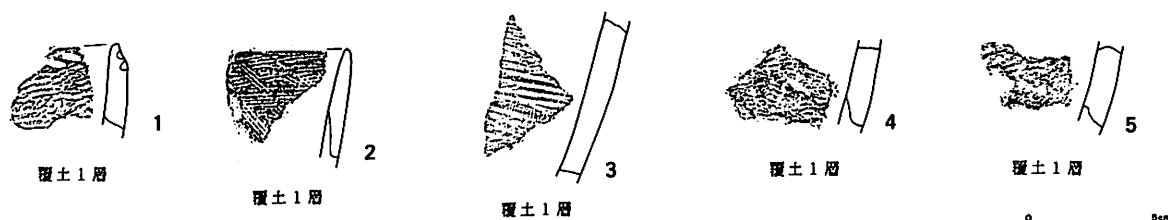
付属ピット：柱穴状小ピットは26個検出されている。HP-1～11・17～19は壁際をめぐるもので、直立している。ただHP-6・7は若干内傾気味である。HP-20～26はH-230・232の床面調査中に検出されたもので、径6cm～10cm、深さ6cm～10cmの細い杭状のもので、直立している。HP-12～15は支柱穴と考えられ、6本柱が想定される。

遺物出土状況：出土遺物総数は19点である。この内訳は土器14点、石器5点である。遺物は覆土中から出土したものである。土器はⅠ群D1、D2、E類のものなど、石器では石錘、剝片が出土している。

覆土はⅢb層と黄色土がまじり合った土であるが、Ⅲa層がやや厚く堆積し、また覆土中・下層には軽石を多く混入し、汚れの目立つ暗茶褐色土が見られた(和泉田)。

土器 (図Ⅲ-65 図版167-4)

いずれも覆土1層から出土したもので、1～4はⅠ群D2類土器に相当するものと見られるが、5は小破片のうえ磨滅しており分類は判定できない。1と2は貝殻条痕が認められる口縁部破片で、1の口唇端部には刺突文がある。2は胎土に繊維を含んでいる(森)。



図Ⅲ-65 H-180出土土器

H-181 (図Ⅲ-66・71・72・73 図版22-5 図版23-1・2・3)

位置：41-48・49 42-48・49 規模：5.16m／4.37m×4.64m／3.94m×0.48m

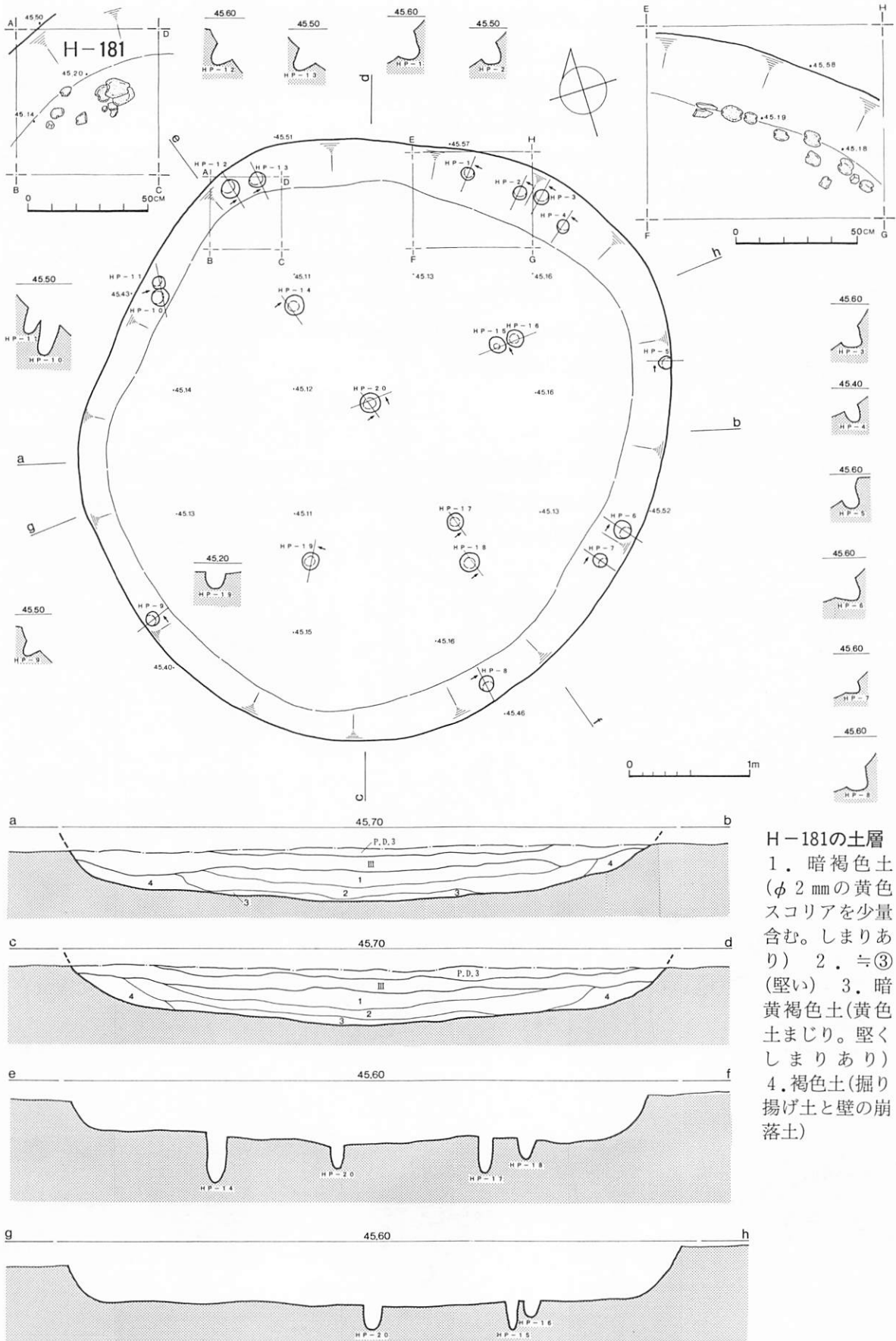
床面積：14.47m<sup>2</sup> 平面形：円形に近い隅丸方形 長軸方向：N-32°-E

検出・掘り込み面：Ⅰ層除去後、42-49でP.D.3の広がりが見られ、トレンチ調査で確認した。

重複関係：H-291と重複しており、これより新しい住居跡である。

時期：Ⅰ群D1類土器を伴う縄文時代早期中葉の時期のものである。

床面：Ⅴ層を掘り込んで構築されている。中央がややくぼむが、ほぼ平坦である。



図Ⅲ-66 H-181実測図



壁：立ち上がりは急傾斜であるが、北東側はゆるやかである。検出面からの壁高は、約0.40mである。

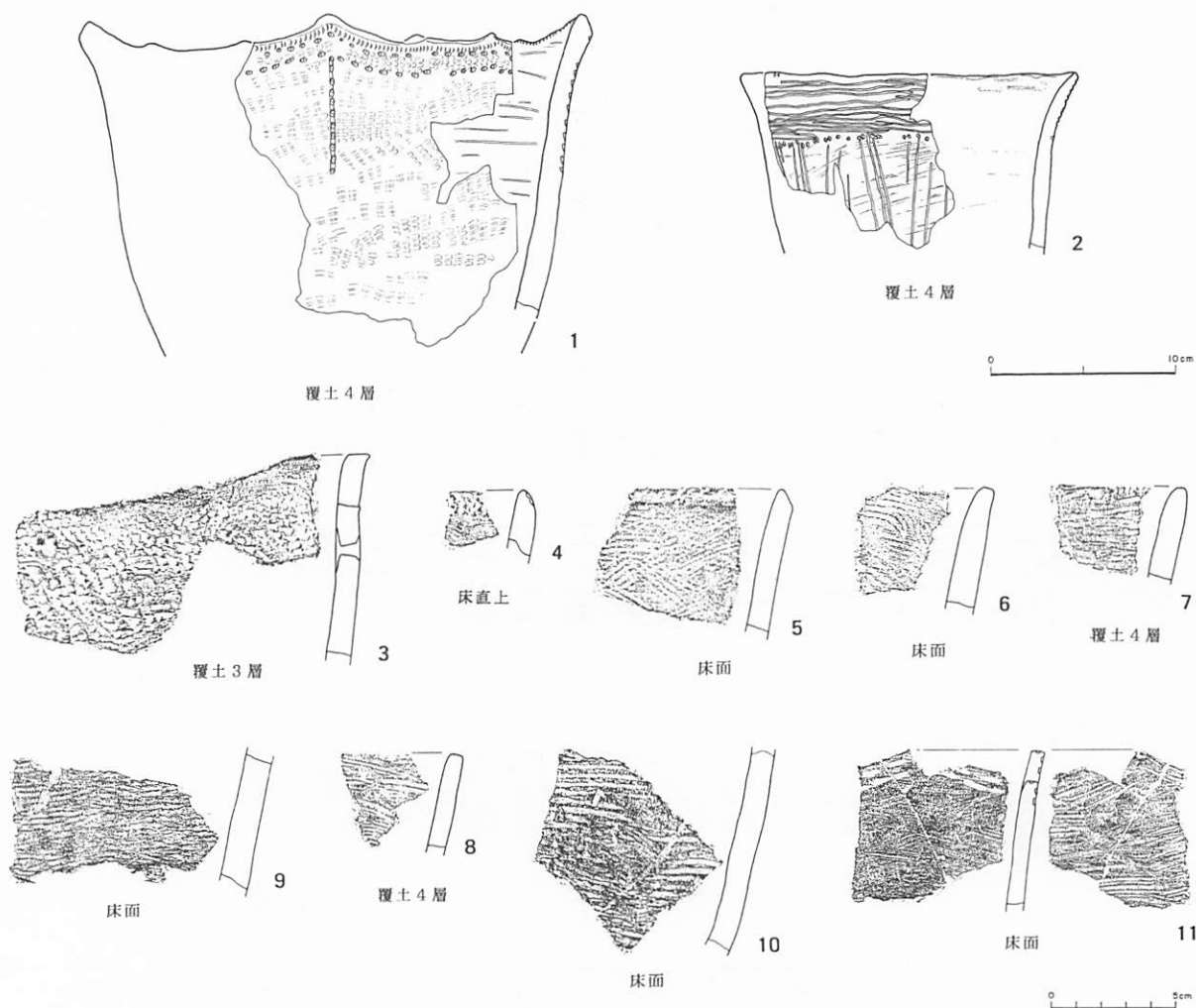
炉跡：焼土などは検出されなかったが、遺構中央のHP-20の覆土には炭化物が多く含まれていた。

付属ピット：柱穴状小ピットは20個検出された。HP-14・15・17・19は深さ40cm前後と深く、4本柱の主柱穴と考えられる。壁際のもは内傾している。

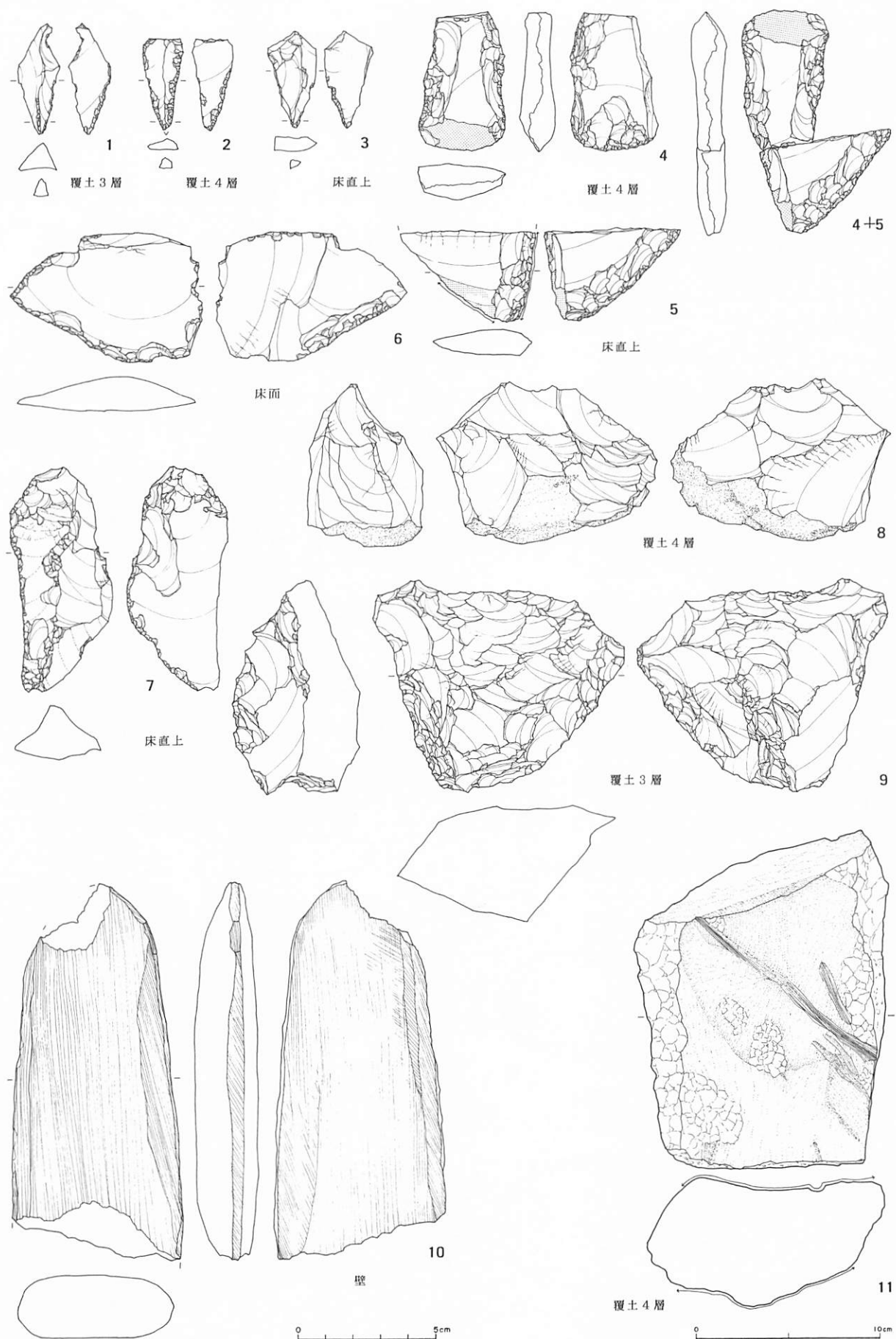
遺物出土状況：出土遺物総数は447点である。この内訳は土器244点、石器203点である。土器はⅠ群D1、D2、E類のものが出土しているが、大半はⅠ群D1類のもので、Ⅰ群E類のものは流れ込みと考えられる。石器は石錐、スクレイパー、石斧などが出土しているが、最も多いのは石錐で47点出土し、壁際に10点ほどのまとまりが二カ所で見られた。床面からⅠ群D1類の土器片錘が1点出土している。出土土器には、覆土4層と39-44Ⅲ(図Ⅲ-67-1)、覆土3・4層と41-50Ⅲ(図Ⅲ-67-2)、覆土3・4層・床面(図Ⅲ-67-3)、覆土3層と床面(図Ⅲ-67-5)、床面どうし(図Ⅲ-67-11)、床面と42-42Ⅲ、という接合関係が見られる(村田)。

### 土器(図Ⅲ-67 図版168-1・2)

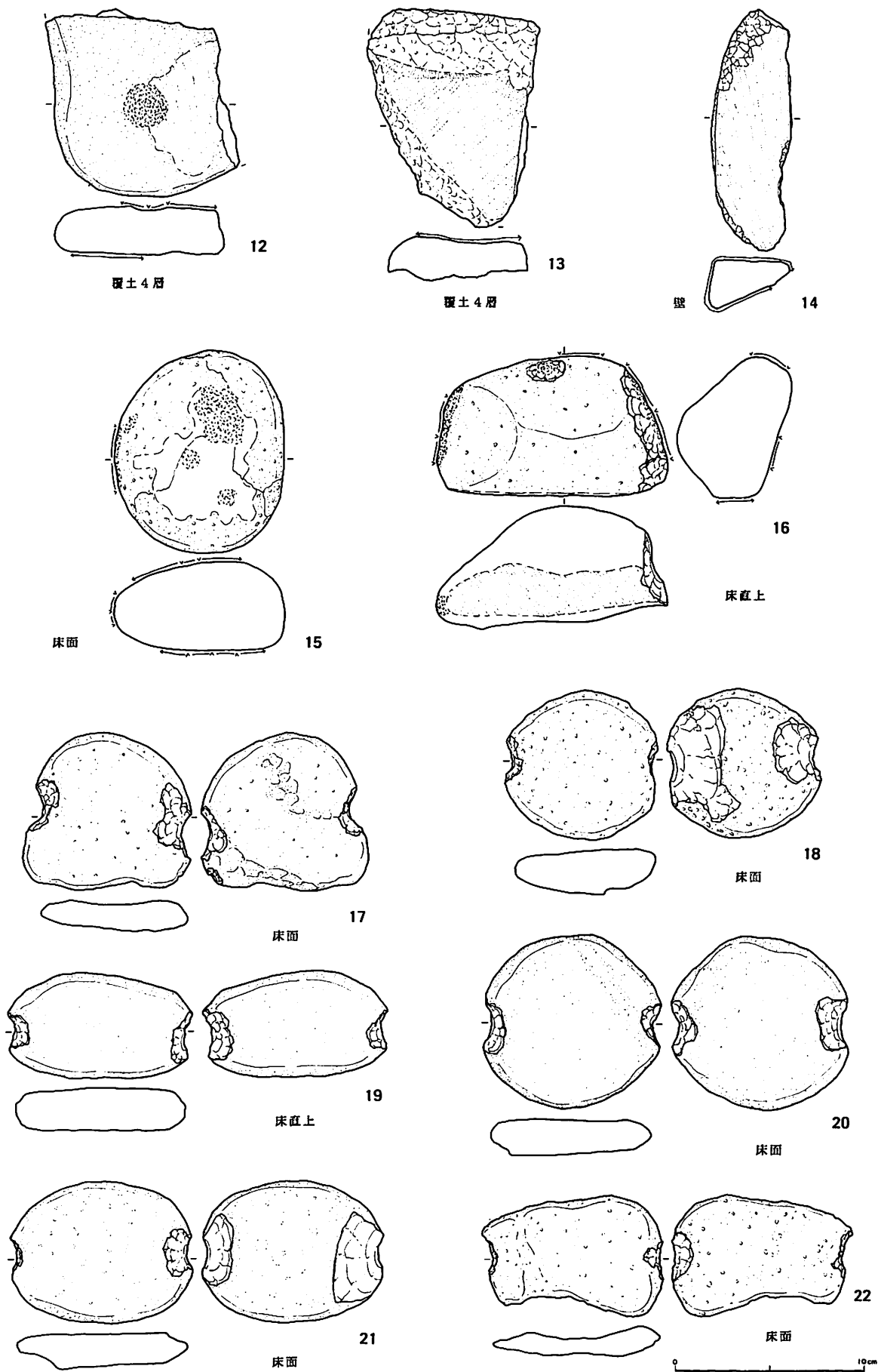
1～4はⅠ群D1類土器。1と2は口縁部の大破片で、およその器形を推定復元できたものである。1は波頂部の左右に副突起を伴うもので口唇端部の内外面には刻み目があり、波頂部口唇から沈線に重ねた刺突列が垂下する。刺突列は口唇部にも2列認められ、波頂部に対応して波状に口唇部をめぐる



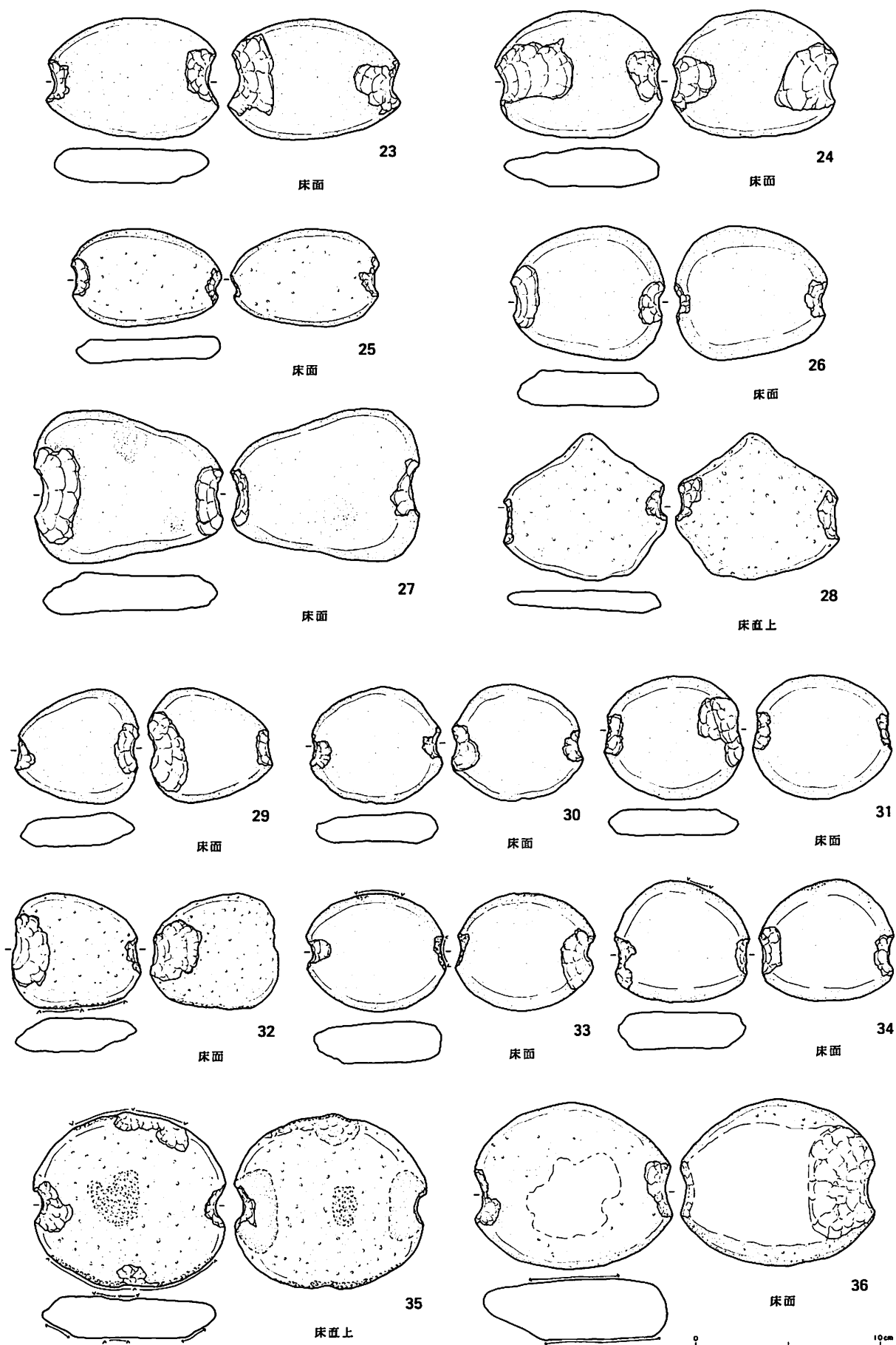
図Ⅲ-67 H-181出土土器



図III-68 H-181出土石器(1)

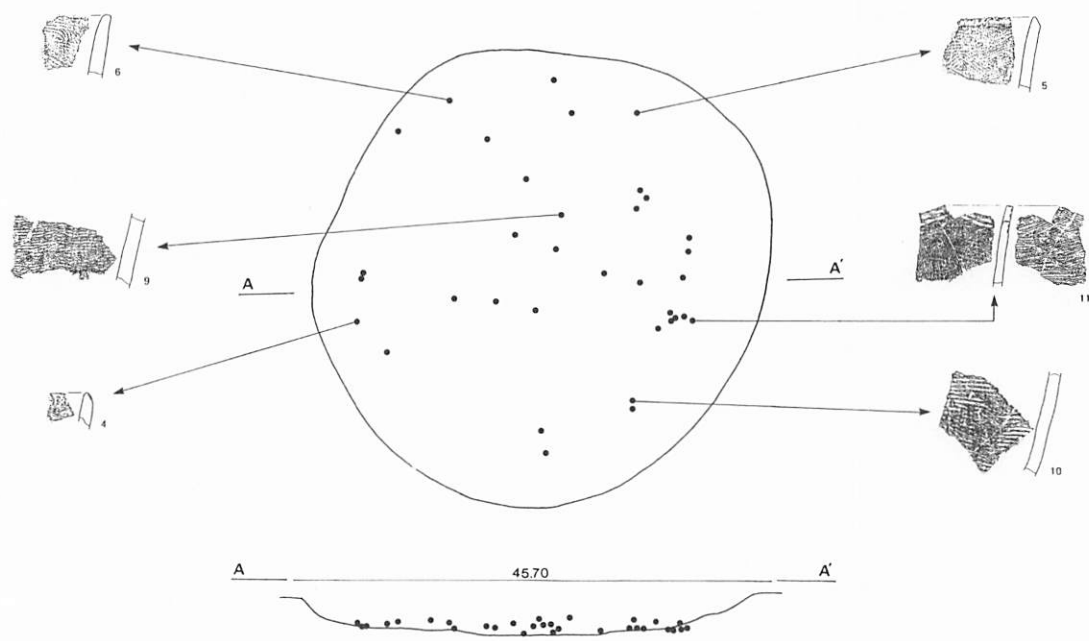


図Ⅲ-69 H-181出土石器(2)

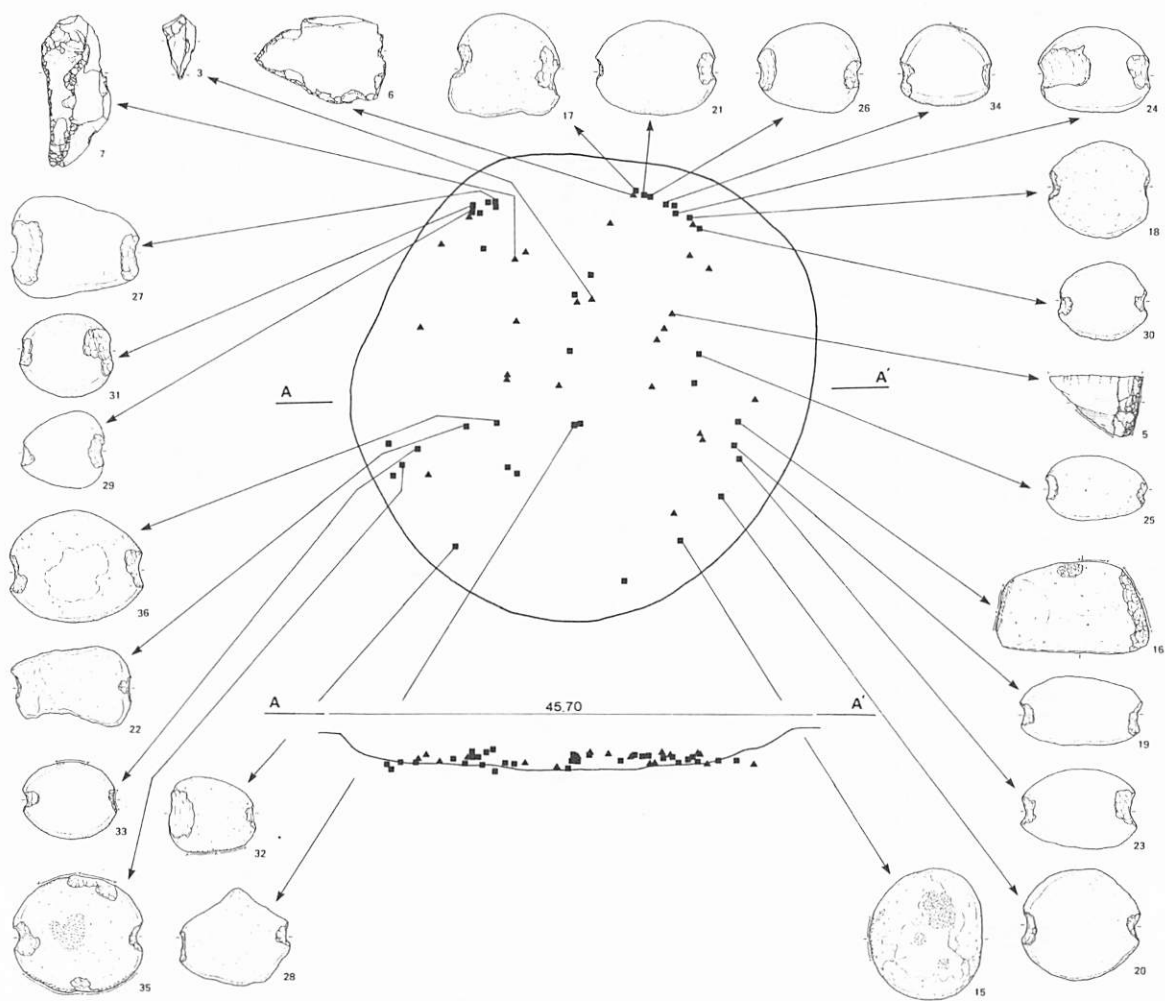


図Ⅲ-70 H-181出土石器(3)

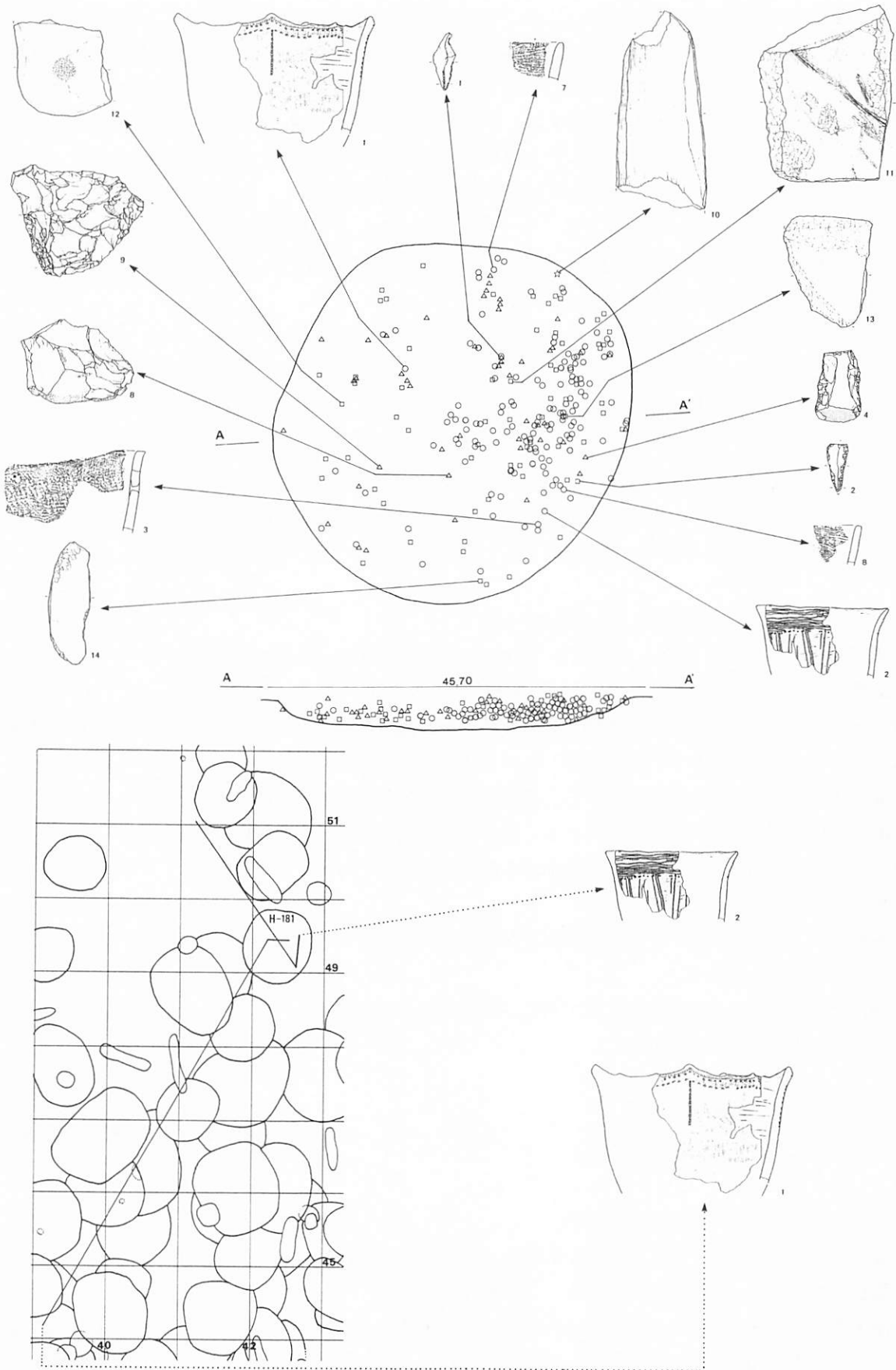




図Ⅲ-71 H-181出土土器分布図(床面)



図Ⅲ-72 H-181出土石器分布図(床面)



図III-73 H-181出土遺物分布・接合図(覆土)

るものと見られる。覆土4層から出土した。破片の一部は風化して磨滅している。2も覆土4層から出土した小型の個体で、平縁をなす器形と推定される。文様は無文地に、口唇部には横走る沈線をめぐらし、その下部を刺突列で縁取る。さらに体部には数本単位の縦位の沈線を施文する。沈線文は間隔、単位が一定せず、粗雑な構成である。3は覆土3層から出土した、ゆるやかな波頂部に破片で、口唇端部は平坦な角形、押引文が施文されている。4は床面から出土した口唇部の小破片で、貝殻腹縁文が認められる。5～10はI群D2類土器で、5～8は口縁部破片、9・10は体部破片である。すべて貝殻条痕のみとなっている。5・6・9・10は床面から、7・8は覆土4層から出土した。11はI群E類に相当すると見られるものである。口縁部破片で床面から出土した。平坦な角形の口唇端部と口縁部に刺突列があるほかは無文となる(森)。

石器(図Ⅲ-68・69・70 図版169-1 図版170-1 図版171-1)

1～3は石錐。いずれも素材の縁部に微細な加工を施して機能部が作出される。4は篋状石器。5はスクレイパー。節理面で破損した後に4が篋状石器に再生される。本来は周縁部の刃部に摩耗痕をもったスクレイパーであった。6・7はスクレイパー。6は腹面の刃部を打点として背面が加工される。腹面の刃部は摩耗している。8・9は石核。8は礫素材。10は石斧。11は砥石。平坦なすり面に溝状のすり面に切られる。11はすり石にたたき痕が複合する。14は刃部状のすり痕を縁部にもち、石鋸からの転用と思われる。15・16はすり石で、たたき石複合。17～36は石錘(宗像)。

H-182(図Ⅲ-75 図版23-4 図版24-1)

位置:41-50 42-49・50 規模:5.15m/4.51m×3.80m/3.32m×0.30m

床面積:12.66㎡ 平面形:長円形 長軸方向:N-50°-E

検出・掘り込み面:Ⅳ層上面で黒色土の落ち込みが認められ、トレンチ調査で確認した。掘り込み面は不明。 重複関係:T-14と重複し、これより古い住居跡である。

時期:周辺包含層出土の遺物などから、縄文時代早期中葉の時期のものと思われる。

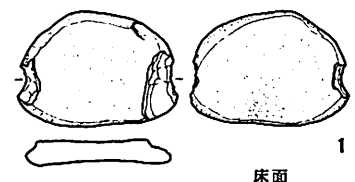
床面:Ⅴ層を掘り込んで構築されている。ほぼ平坦で、南西側にやや傾いている。

壁:全体に急傾斜で立ち上がる。検出面からの壁高は、約0.24mである。

炉跡:焼土などは検出されていない。

付属ピット:柱穴状小ピットは9個検出されている。配列は不規則でやや内傾している。

遺物出土状況:出土遺物総数は2点である。石皿が1点、床面から石錘が1点である(村田)。



図Ⅲ-74 H-182出土石器

石器(図Ⅲ-74 図版167-5)

1は床面出土の石錘である(宗像)。

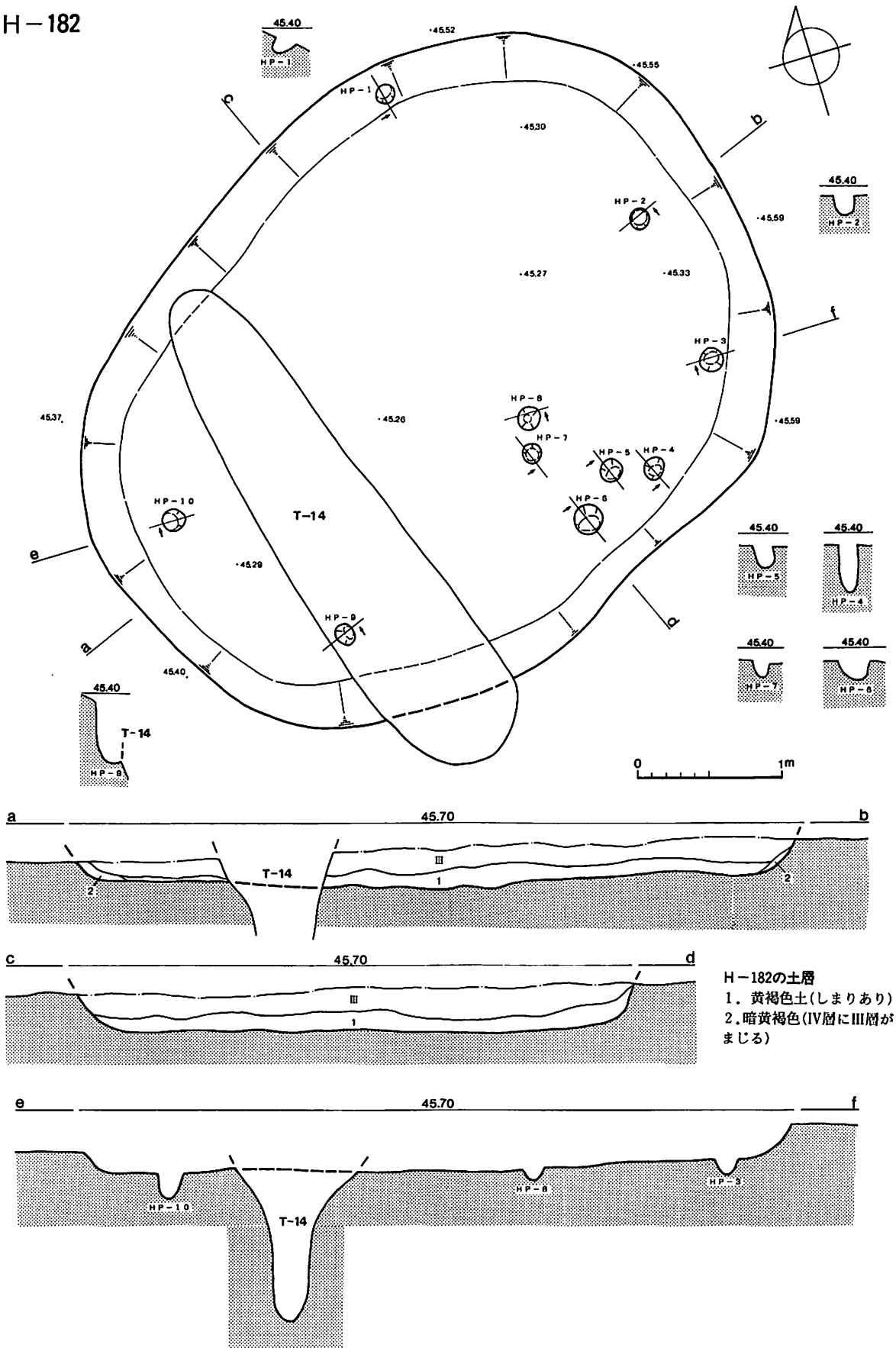
H-183(図Ⅲ-76 図版24-2・3)

位置:41-50・51 42-51 規模:4.56m/4.20m×4.20m/3.56m×0.26m

床面積:11.53㎡ 平面形:円形状 長軸方向:N-27°-E

検出・掘り込み面:Ⅳ層上面で黒色土の落ち込みを確認し、トレンチ調査で確認した。掘り込み面は不明。 重複関係:H-224・280と重複し、これらより新しい住居跡である。また北東側はT-21に切られている。

H-182



図Ⅲ-75 H-182実測図





**時期：**出土遺物が少なく判断の材料に乏しいが、床面近くからⅠ群D1類土器が出土していることから、これを伴う縄文時代早期中葉の時期のものと考えられる。

**床面：**ほぼ平坦である。

**壁：**南西側は急に立ち上がるが、北東側はゆるやかである。検出面からの壁高は、約0.20mである。

**炉跡：**焼土などは検出されていない。

**付属ピット：**柱穴状小ピットは19個検出された。配列は不規則である。HP-7・9・10・17・19は直立し、他は内傾している。

**遺物出土状況：**出土遺物総数は9点である。遺物はすべて覆土中から出土したもので、土器はⅠ群D1類4点、同D2類1点が出土し、石器では剥片が3点、礫が1点出土しただけである(村田)。

#### 土器(図Ⅲ-77 図版168-3)

1はⅠ群D1類、2はⅠ群D2類の体部破片である。2には連続した腹縁文が施文され、胎土に繊維を含んでいる。いずれも覆土2層から出土したものである(森)。



図Ⅲ-77 H-183出土土器

#### H-184(図Ⅲ-78・80 図版24-4 図版25-1)

**位置：**40-48・49 41-48・49 **規模：**6.22m/5.78m×4.95m/4.25m×0.32m

**床面積：**16.42m<sup>2</sup> **平面形：**楕円形 **長軸方向：**N-35°-W

**掘り込み面：**Ⅰ層除去後、41-48・49でP.D.3の広がりが見られ、トレンチ調査で確認した。掘り込み面はⅢ層中と思われる。 **重複関係：**H-185・291、P-104と重複し、H-185・291より新しく、P-104より古い住居跡である。

**時期：**遺構覆土上層と周辺包含層出土の遺物などから、縄文時代早期中葉の時期のものと思われる。

**床面：**V層を掘り込んで構築されている。ほぼ平坦である。

**壁：**全体に急傾斜で立ち上がる。検出面からの壁高は、約19cmである。

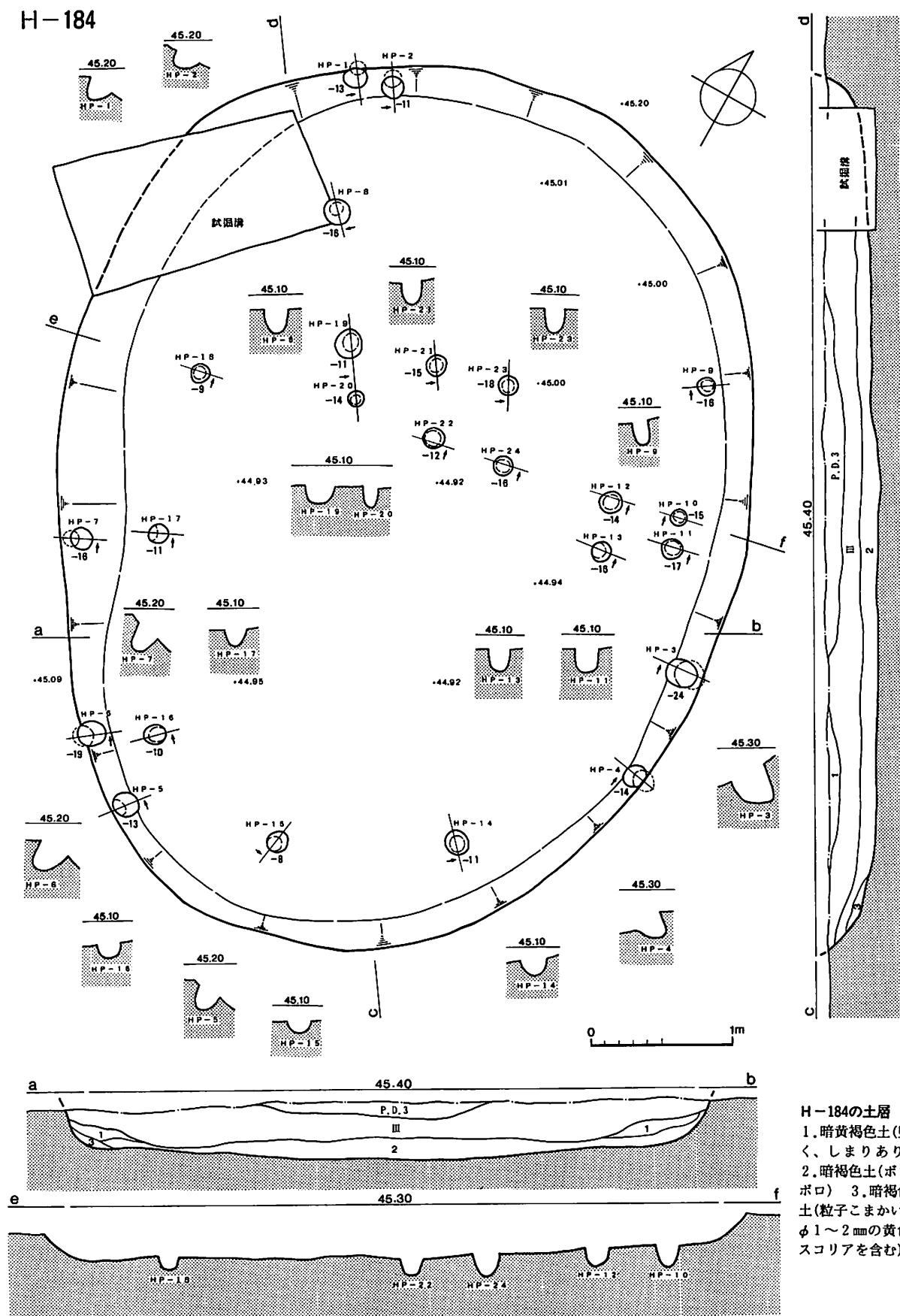
**炉跡：**焼土などは検出されていない。

**付属ピット：**柱穴状小ピットは24個検出されている。壁際のは内傾している。

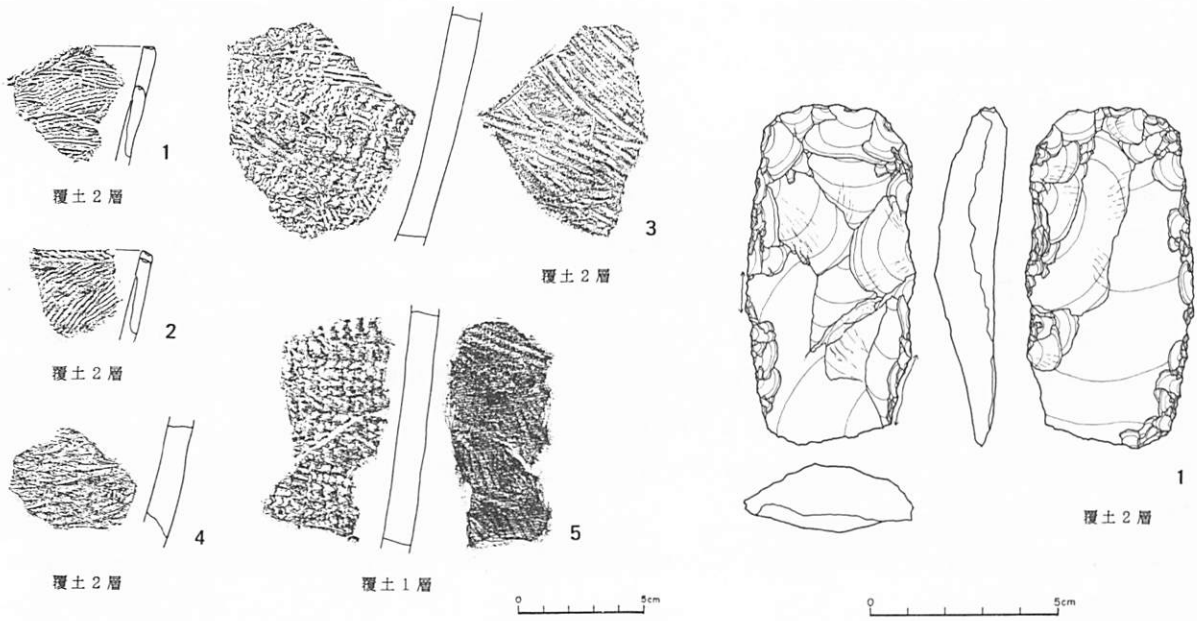
**遺物出土状況：**出土遺物総数は27点である。この内訳は土器19点、石器8点である。土器はⅠ群D1類のものが7点、同D2類のものが10点、同E類のものが1点覆土上層から出土している。石器では筥状石器、石錘などが少量出土している。出土土器には、覆土1層と41-48(Ⅲ)、という接合関係が見られる(村田)。

#### 土器(図Ⅲ-79 図版168-4)

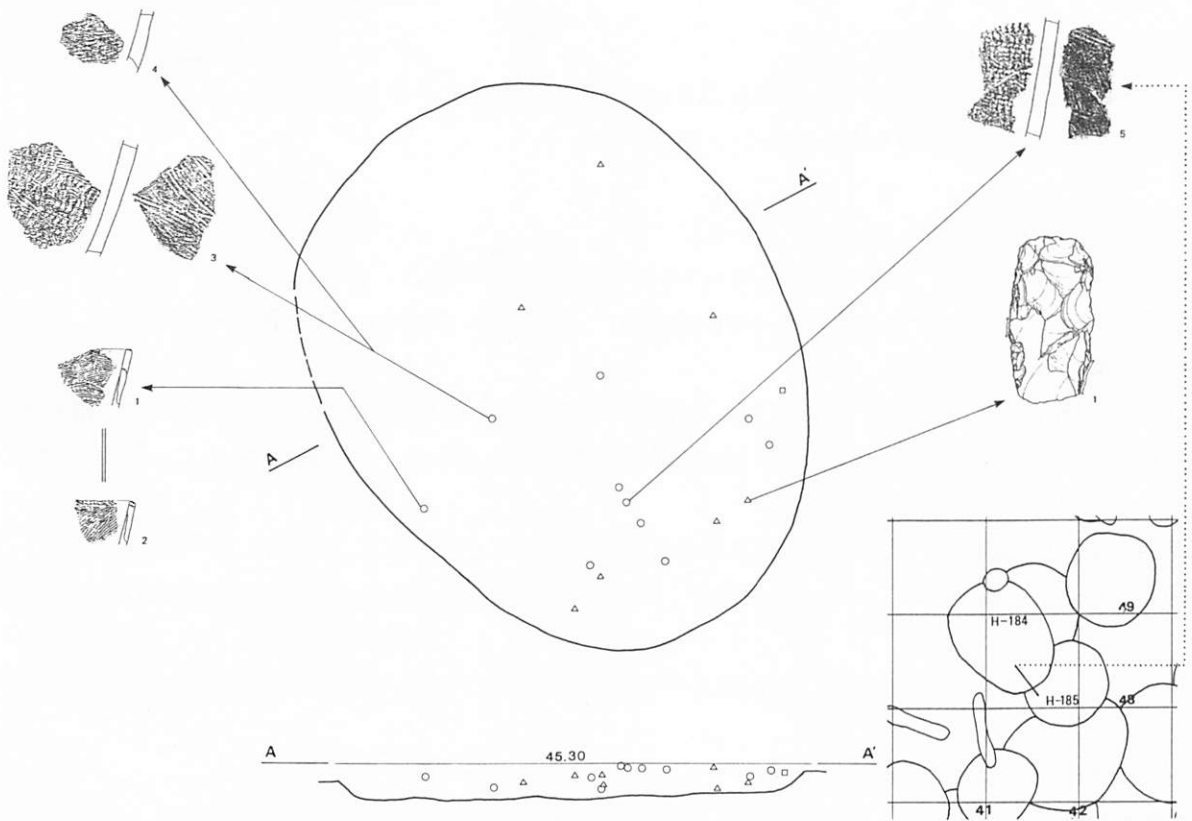
図示した土器はすべてⅠ群D2類に相当すると思われる。1と2は覆土2層から出土した同一個体で、薄手の土器。口唇端部には貝殻腹縁文が、器表面には条痕文がある。3と4も覆土2層から出土した体部破片。3は深く明瞭な貝殻腹縁文の上から条痕を加えている。5は覆土1層と包含層Ⅲ層の土器片が接合したもので連続した腹縁文が施文されている(森)。



図III-78 H-184実測図



図Ⅲ-79 H-184出土遺物



図Ⅲ-80 H-184出土遺物分布・接合図

### 石器(図III-79 図版168-8)

1は腹面の加工により整形されていることから、篋状石器とした。両側縁の摩耗している刃部を腹面加工時の打点としていることから、スクレイパーからの転用品の可能性はある(宗像)。

### H-185(図III-82 図版24-5 図版25-2)

位置: 41-47・48 42-47・48 規模: 4.27m/4.40m×(3.05m)/(2.88m)×0.22m

床面積: (13.19㎡) 平面形: 円形 長軸方向: N-25°-E

検出・掘り込み面: H-184の調査中、南東側の壁に暗褐色土の落ち込みを検出した。掘り込み面は不明。 重複関係: H-184・291と重複しており、H-184より古く、H-291より新しい住居跡である。

時期: 遺構覆土上層と周辺包含層出土の遺物などから、縄文時代早期中葉の時期のものと思われる。

床面: V層を掘り込んで構築されている。ほぼ平坦。

壁: 全体に急傾斜で立ち上がる。検出面からの壁高は、約20cmである。

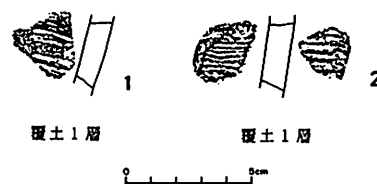
炉跡: 焼土などは検出されていない。

付属ピット: 柱穴状小ピットは16個検出された。概して浅いが、床面のものは直立し、壁際のものは内傾している。

遺物出土状況: 出土遺物総数は5点である。覆土上層でI群D

1類土器1点、同D2類土器2点出土したほかは、礫が2点出土

しただけである(村田)。



図III-81 H-185出土土器

### 土器(図III-81 図版168-5)

1・2とともに体部小破片で、特徴が乏しいがI群D2類土器と思われる。覆土1層から出土したものである(森)。

### H-186(図III-83・86 図版26-1・2)

位置: 37-47 38-47・48 標高44.72m~44.82mのほぼ平坦地。

規模: 4.40m/4.10m×3.64m/3.44m×0.40m 床面積: 10.95㎡ 平面形: 長円形状

長軸方向: N-18°-W

検出・掘り込み面: I層を除去し、P.D.3の広がりが見られ、遺構が想定された。III b層中でIII a層、III b>黄色土の落ち込みを検出した。掘り込み面はIII b層中である。 重複関係: P-133と重複しているが、新旧関係は明瞭でない。

時期: I群D1類土器を伴う縄文時代早期中葉の時期のものと思われる。

床面: V層中に構築されている。中央部がくぼみ、皿状である。堅い。床直上に炭化物が多く散在している。

壁: 立ち上がりは急傾斜である。検出面からの壁高は、東壁が14cm~22cm、南壁が20cm~29cm、西壁が17cm~24cmである。

炉跡: 焼土などは検出されていない。

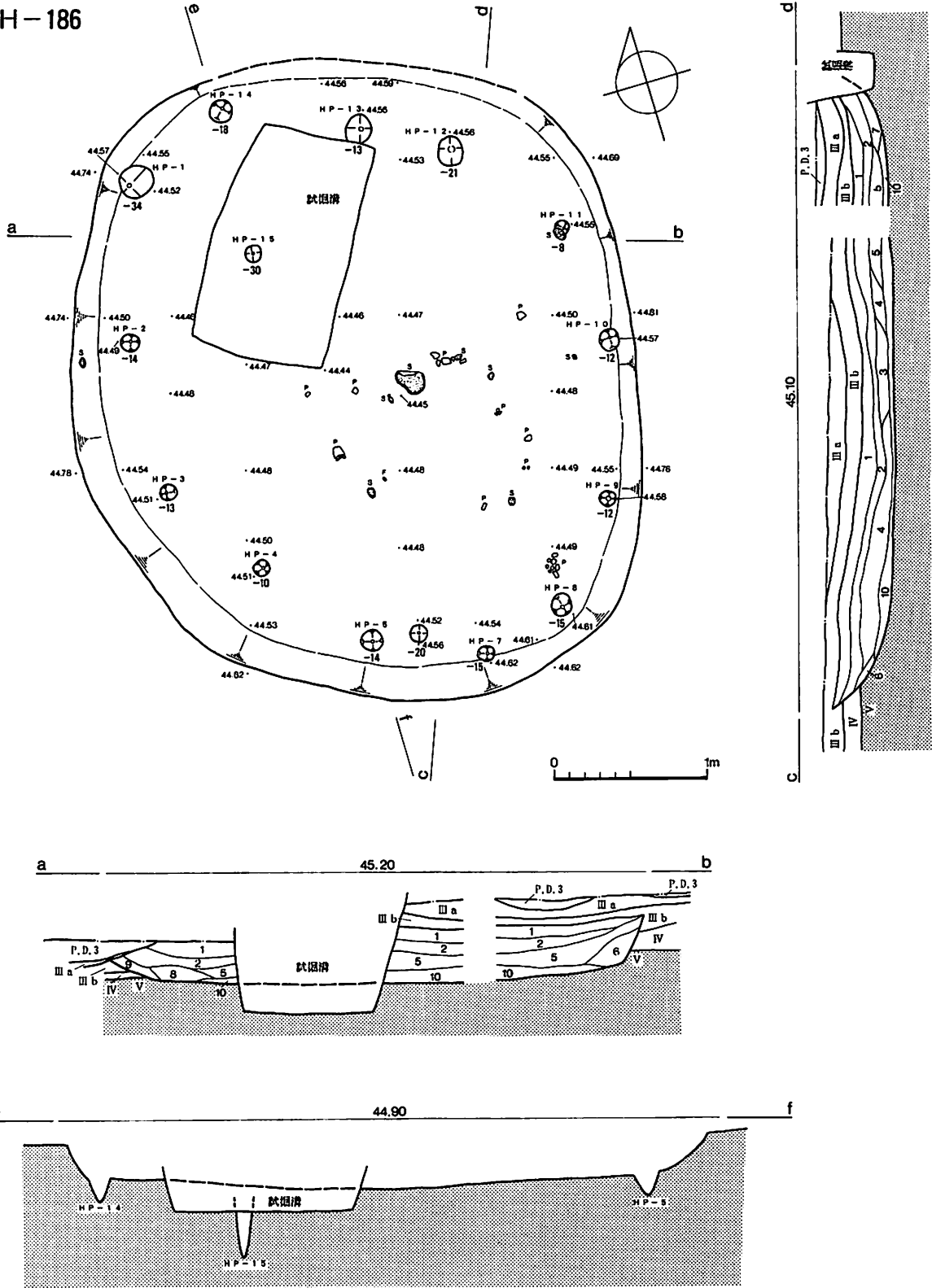
付属ピット: 柱穴状小ピットは15個検出されている。HP-1~14は壁際をめぐるもので、すべて直立している。HP-15は主柱穴と思われる。

遺物出土状況: 出土遺物総数は204点である。この内訳は土器181点、石器23点である。このうち床面・床直上からは土器49点、石器6点が出土した。遺物は覆土上のIII b層と覆土上層で多く出土した。覆





H-186



H-186の土層  
1. III b > V 2. III b > V 3. 暗茶褐色土(混合土) 4. 黄褐色土(混合土) 5. 褐色土 > V(堅い) 6. 暗灰黄色土 7. 暗黄灰色土(粘質) 8. 明灰黄色砂 9. III b + ⑧ 10. 暗黄色土(粘質)

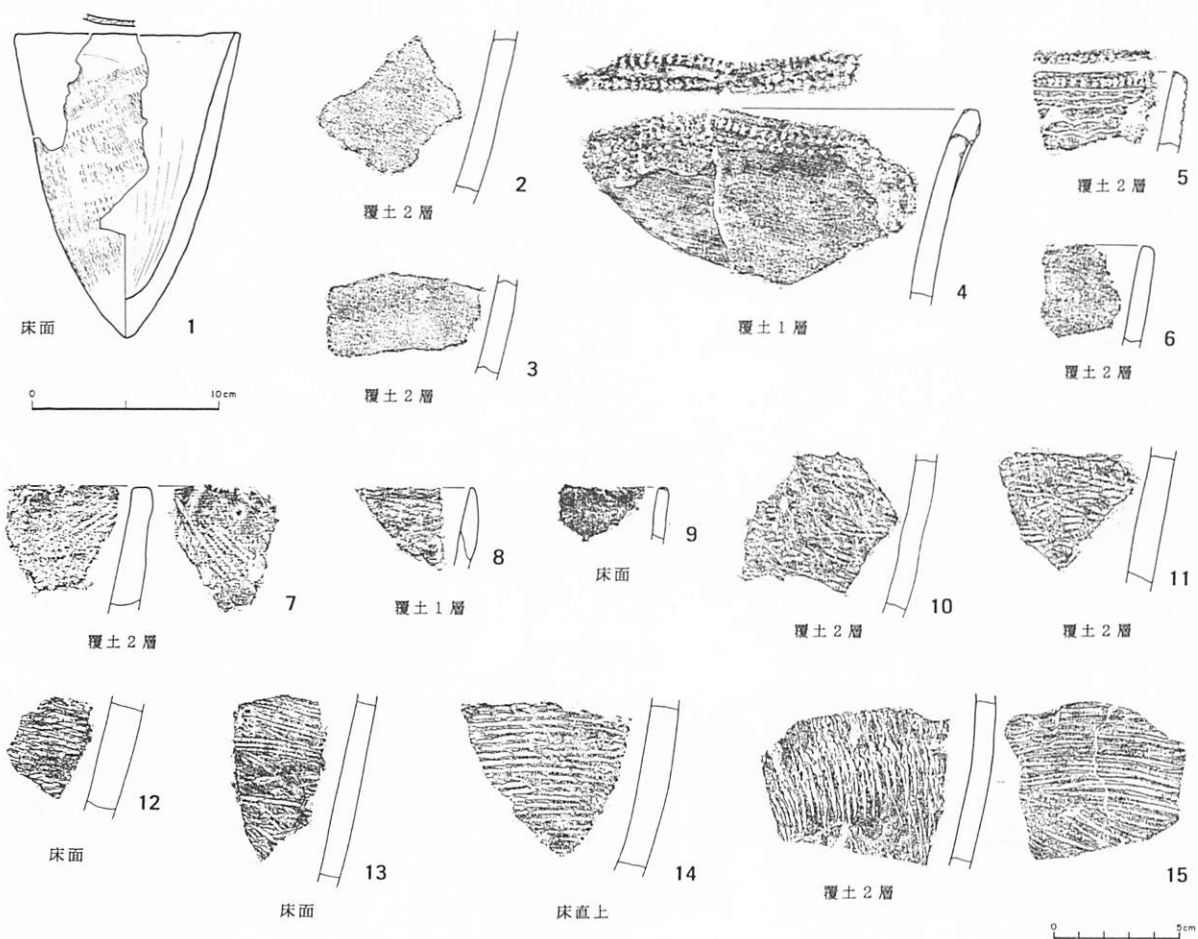
図Ⅲ-83 H-186実測図

土下層の直上で石皿が出土し、その南西側で土器底部が横倒しの状態で出土した。床面・床直上でI群D1類土器が39点、同D2類土器が7点出土している。土器はI群B、D1、D2、E、I、J類のものが出土し、石器では石匙、すり石、石皿、石錘などが出土している。出土土器には、床直上と床面(図III-84-1)、覆土1層と38-45(III)(図III-84-4)、覆土1層と床面(図III-84-9)、覆土2層と床直上(図III-84-11)、覆土2層と床直上(図III-84-12)、という接合関係が見られる。

覆土はIII b層と黄色土がまじり合った土であるが、覆土下層は堅く、汚れた混合土である。遺物の出土状態などを含めて考えると、本住居の埋まる過程で、そのくぼみを利用した生活面があったものと思われる(和泉田)。

#### 土器(図III-84 図版171-2 図版172-1)

2・3はI群B類土器。無文の体部破片である。覆土2層から出土した。1・4～6はI群D1類土器。1は床面から出土した小型の土器で、口唇部と尖底部をのぞく全面に密な貝殻腹縁文が施文されている。口唇端部にも圧痕文がある。4～6はいずれも口縁部破片である。4は低い波頂部になるもので、口唇端部内外面に刻み目を入れ、口唇部には円形刺突文がめぐっている。これは覆土1層と包含層III層の土器片が接合したものである。5は口唇端部内外面に同じく刻み目があり、口唇部には沈線文がめぐる。覆土2層から出土した。6も覆土2層から出土した無文口縁部破片である。7～15はI群D2類に相当する土器片である。7～9は口縁部で、他は体部破片。15は貝殻腹縁文が施文される

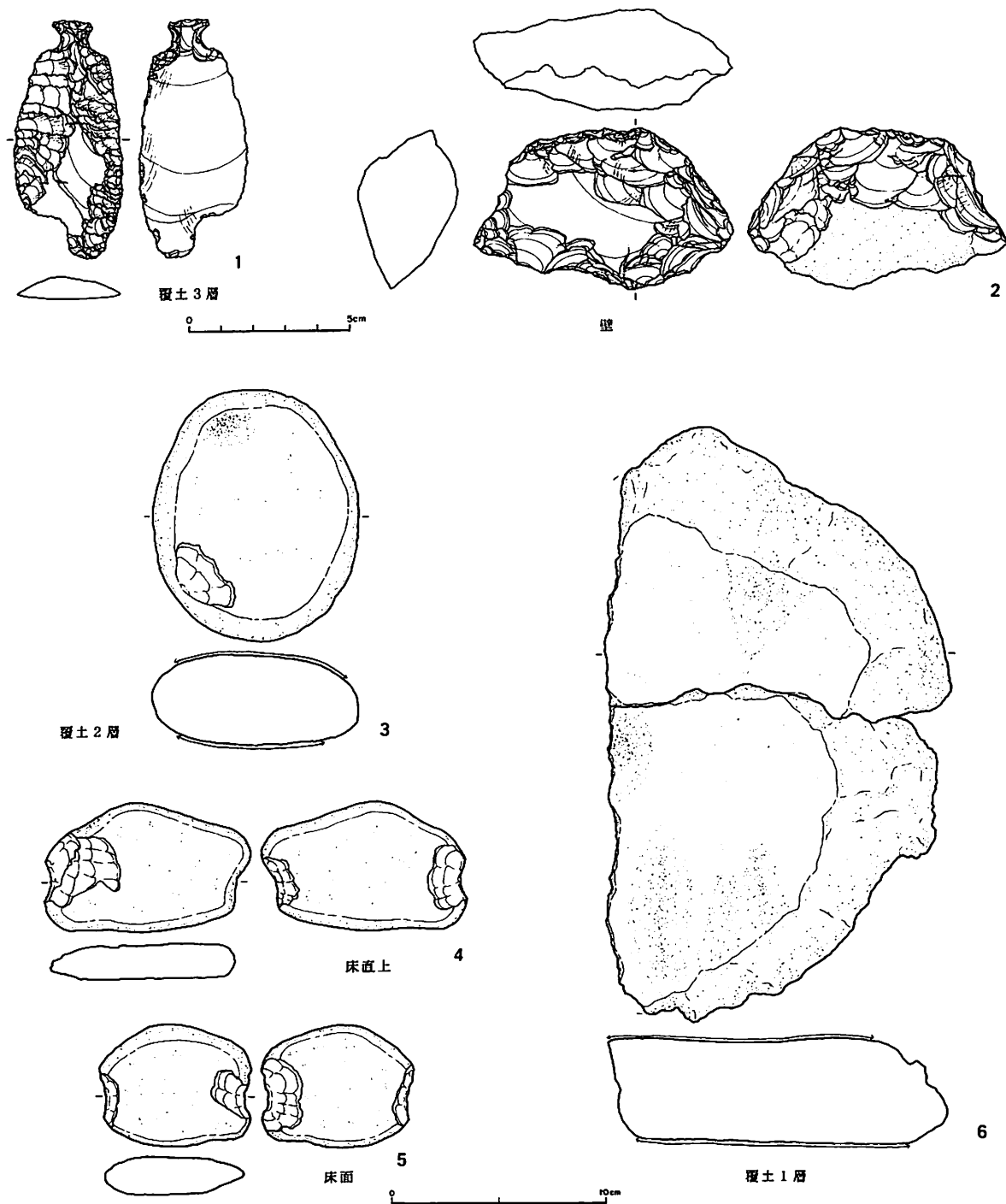


図III-84 H-186出土土器

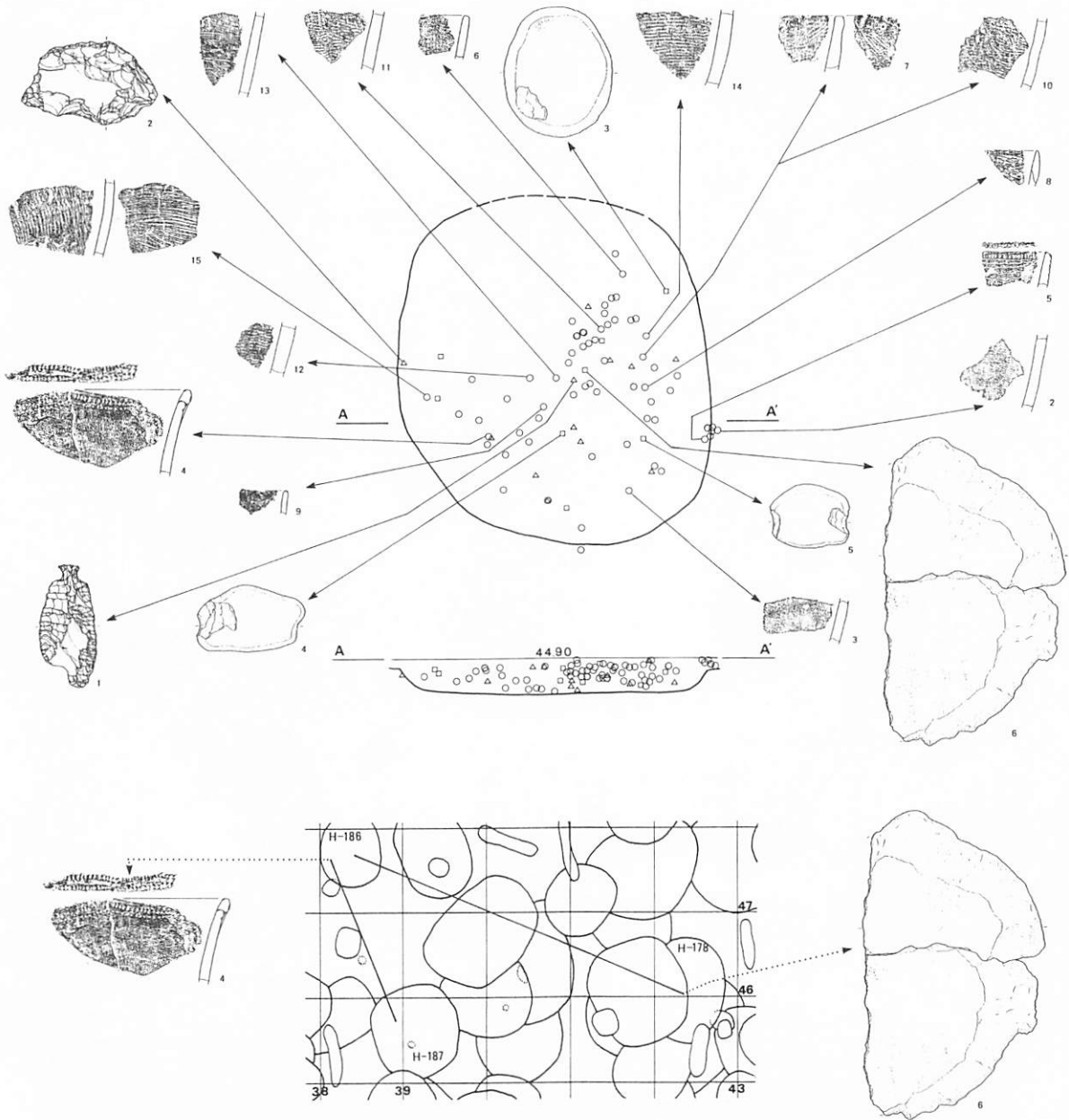
ほかは条痕のみの破片である。9・12～13が床面から、14が床直上から、7・10・11・15は覆土2層から出土した(森)。

石器(図Ⅲ-85 図版172-2)

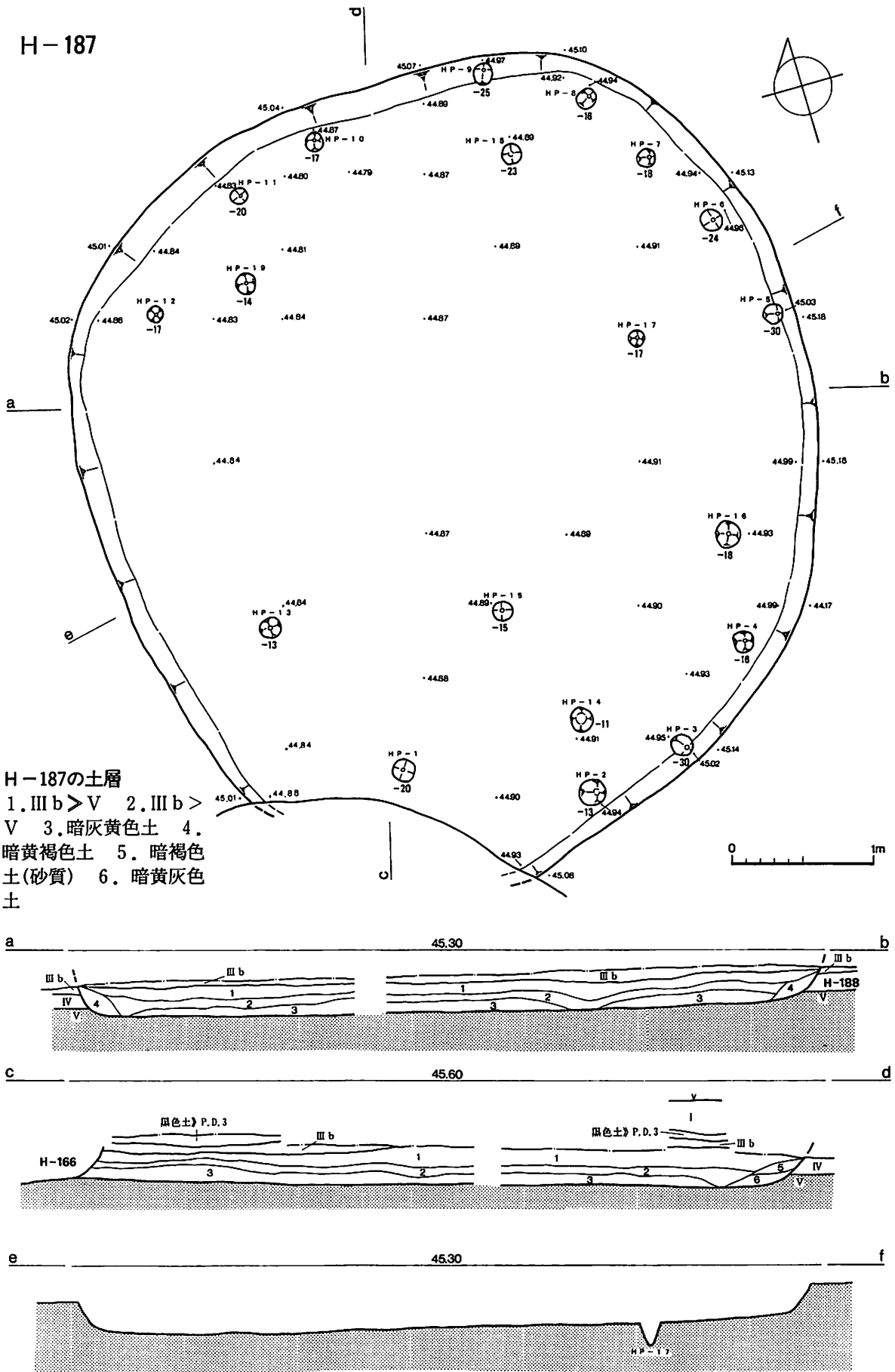
1は石匙。背面に並列剥離が施される。2は石核。厚手の剥片が素材と思われる。素材腹面を剥離作業面としている。3はすり石。4・5は石錘。6は石皿。図の上半はH-178覆土1層出土、下半はH-186覆土3層出土である(宗像)。



図Ⅲ-85 H-186出土石器



図Ⅲ-86 H-186出土遺物分布・接合図





H-187 (図Ⅲ-87・89 図版26-3)

位置：38-45・46 39-45・46 標高45.01m～45.19mのほぼ平坦地。

規模：5.46m/5.18m×5.15m/4.90m×0.23m 床面積：21.09m<sup>2</sup> 平面形：隅丸長方形状

長軸方向：N-13°-W

検出・掘り込み面：Ⅳ層直上で黒色土まじりの暗褐色土の広がりが見られ、Ⅲb>黄色土の落ち込みを検出した。掘り込み面はⅢb層中と思われる。重複関係：H-166・188・309と重複しており、H-166より古く、H-188・309より新しい住居跡である。

時期：Ⅰ群D1類土器を伴う縄文時代早期中葉の時期のものと思われる。

床面：Ⅴ層中に構築されている。平坦で、堅い。

壁：立ち上がりはほぼ急傾斜である。検出面からの壁高は、北壁が19cm前後、東壁が17～21cm、南壁が15cm前後、西壁が13cm～19cmである。

炉跡：焼土などは検出されていない。

付属ピット：柱穴状小ピットは19個検出されている。HP-1～13は壁際をめぐるもので、すべて直立し、杭状のものである。HP-15～19は主柱穴と考えられ、6本柱が想定される。

遺物出土状況：出土遺物総数は31点である。この内訳は土器22点、石器9点である。遺物はすべて覆土中から出土した。Ⅰ群D1類土器21点、同E類土器1点で、石器ではスクレイパー、剥片、礫が出土した。出土土器には、覆土2層と39-45Ⅲ(図Ⅲ-88-2)、覆土2層と39-45Ⅲ(図Ⅲ-88-3)、覆土2層どうし(図Ⅲ-88-4)という接合関係が見られる。

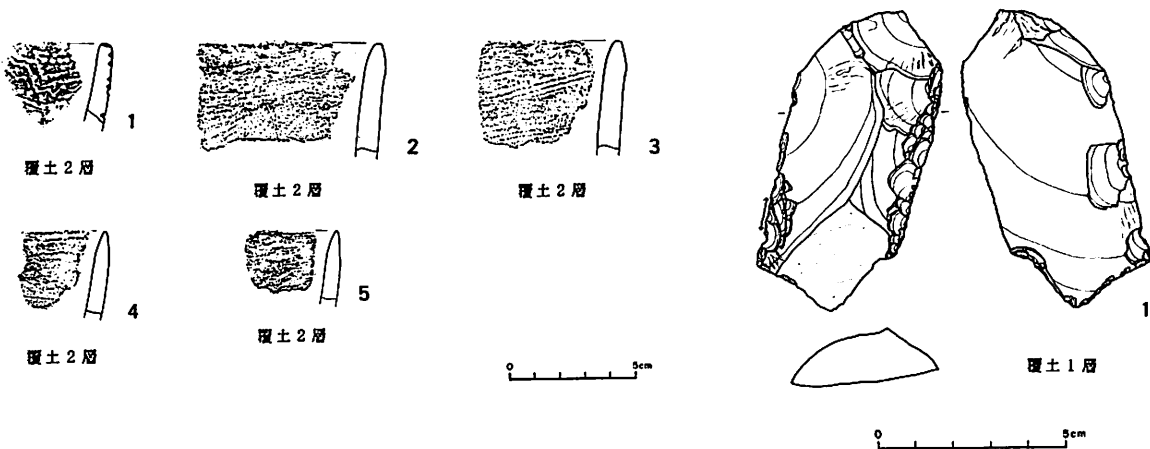
覆土はⅢb層と黄色土がまじり合った土である(和泉田)。

土器(図Ⅲ-88 図版168-6)

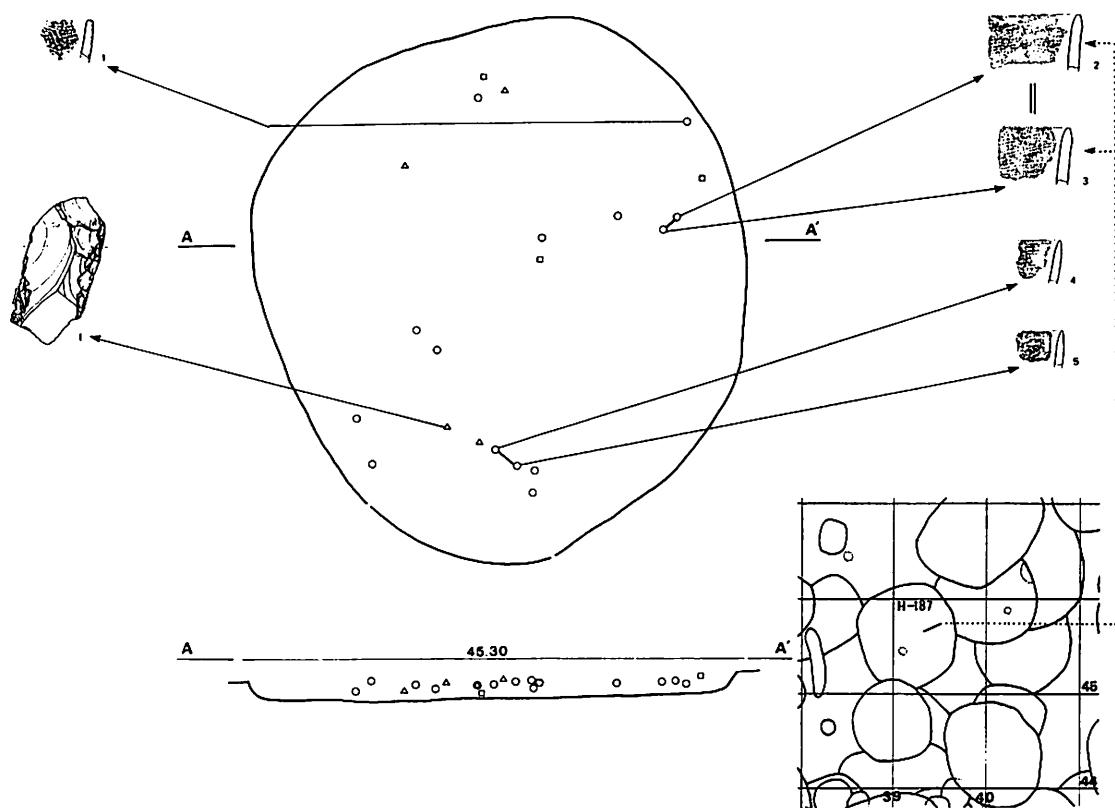
図示した土器はすべて覆土2層から出土したもので、Ⅰ群D1類土器に相当するものと思われる。1に刺突と沈線文が施文されるほかは無文の土器である。4・5は同一個体(森)。

石器(図Ⅲ-88 図版168-7)

1はスクレイパー。背面左側縁の摩耗している刃部を打点として、腹面に加工が施される(宗像)。



図Ⅲ-88 H-187出土遺物



図Ⅲ-89 H-187出土遺物分布・接合図

H-188 (図Ⅲ-91 図版27-1 図版28-1)

位置：39-45・46 40-45・46 標高45.11m～45.30mのほぼ平坦地。

規模：5.70m/5.26m×(5.10m)/(4.70m)×0.22m 床面積：19.44m<sup>2</sup> 平面形：隅丸長方形状 長軸方向：N-72°-W

検出・掘り込み面：H-164の南壁面で覆土状の土の落ち込みが見られた。Ⅲb層中で黒色土まじりの暗褐色土の広がりが見られ、Ⅳ層直上でⅢb>黄色土の落ち込みを検出した。掘り込み面はⅢb層中と思われる。重複関係：H-164・187・221・233と重複しており、H-164・187より古く、H-221・233より新しい住居跡である。

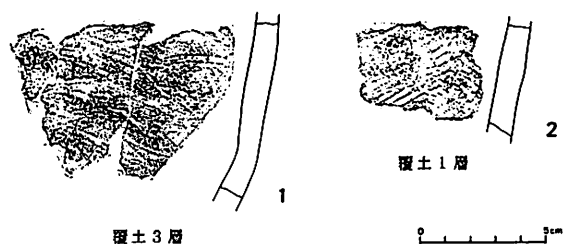
時期：周辺包含層出土の遺物などから縄文時代早期中葉の時期のものと思われる。

床面：Ⅴ層中に構築されている。平坦で、堅い。

壁：立ち上がりはほぼ急傾斜である。検出面からの壁高は、東壁が13cm～20cm、南壁が14cm～21cmである。

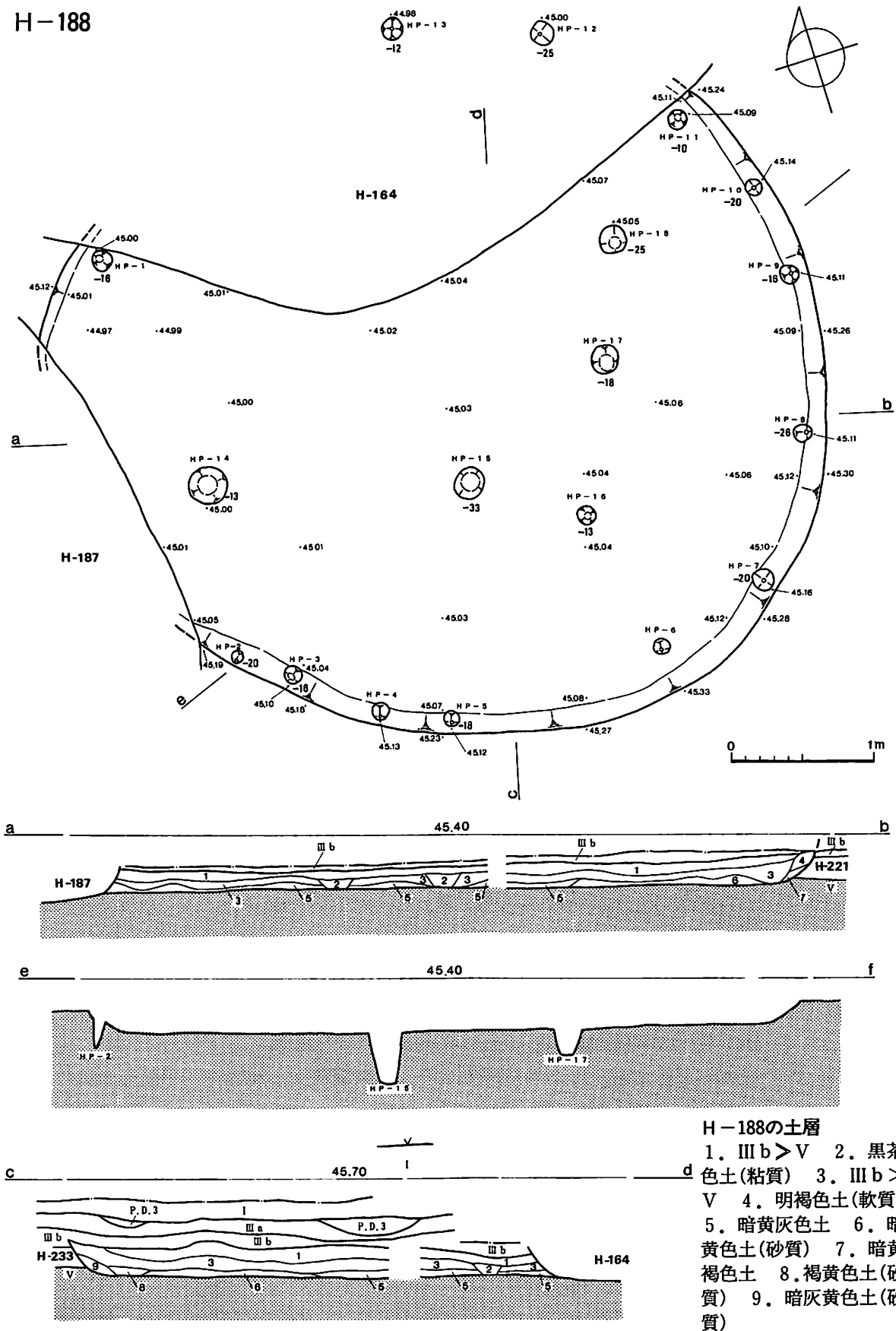
炉跡：焼土などは検出されていない。

付属ピット：柱穴状小ピットは18個検出されている。HP-1～13は壁際をめぐるもので、直立している。HP-12・13はH-164の構築面で検出されたものである。HP-14・16・18は支柱穴で、6本



図Ⅲ-90 H-188出土土器

H-188



図Ⅲ-91 H-188実測図

柱が想定される。

遺物出土状況：遺物はすべて覆土中から出土したもので、Ⅰ群D1類土器が2点、同D2類土器が6点、同E類土器が1点である。石器は剥片、石斧、礫が出土した。

覆土はⅢb層と黄色土がまじり合った土である(和泉田)。

#### 土器(図Ⅲ-90 図版173-1)

1・2ともにⅠ群D2類の体部破片で、1は覆土3層から、2は覆土1層から出土したものである。1の胎土には繊維を含む(森)。

#### H-189(図Ⅲ-92 図版27-2 図版28-2)

位置：43-45・46 44-45・46 標高45.45m～45.61mのほぼ平坦地。

規模：(5.60m)／(5.20m)×4.36m／4.10m×0.26m 床面積：20.24㎡ 平面形：隅丸長方形  
状 長軸方向：N-56°-E

検出・掘り込み面：Ⅲb層中でⅢa層の広がりが見られ、Ⅲb層>黄色土の長円形状の落ち込みを検出した。掘り込み面はⅢb層中である。重複関係：T-30、H-207・295・296・310と重複しており、T-30、H-207より古い、他より新しい住居跡である。

時期：Ⅰ群D1類土器を伴う縄文時代早期中葉の時期のものと思われる。

床面：V層中に構築されている。北東→南西へわずかに傾斜している。平坦で、堅い。

壁：立ち上がりは急傾斜である。検出面からの壁高は、北東壁が16cm～22cm、南東壁が18cm～25cm、北西壁が10cm～20cmである。

炉跡：焼土などは検出されていない。

付属ピット：柱穴状小ピットは17個検出されている。HP-1～14は壁際をめぐるもので、直立し、杭状のものである。HP-11～14はH-207の構築面で検出されたものである。HP-16・17は支柱穴と考えられ、4本柱が想定される。

遺物出土状況：遺物は覆土中でⅠ群D1類土器が1点出土しただけである。

覆土はⅢb層と黄色土がまじり合った土であるが、覆土中・下層には軽石が多く混入していた。また床面上に見られた暗茶褐色土は、軽石を多量に混入し、掘り揚げ土の流入土を思わせる汚れた混合土である(和泉田)。

#### H-190(図Ⅲ-93 図版28-3)

位置：42-47・48 43-47・48 標高45.40m～45.60mのほぼ平坦地。

規模：6.45m／6.00m×(5.54m)／(5.20m)×0.20m 床面積：25.47㎡ 平面形：隅丸長方形  
状 長軸方向：N-35°-W

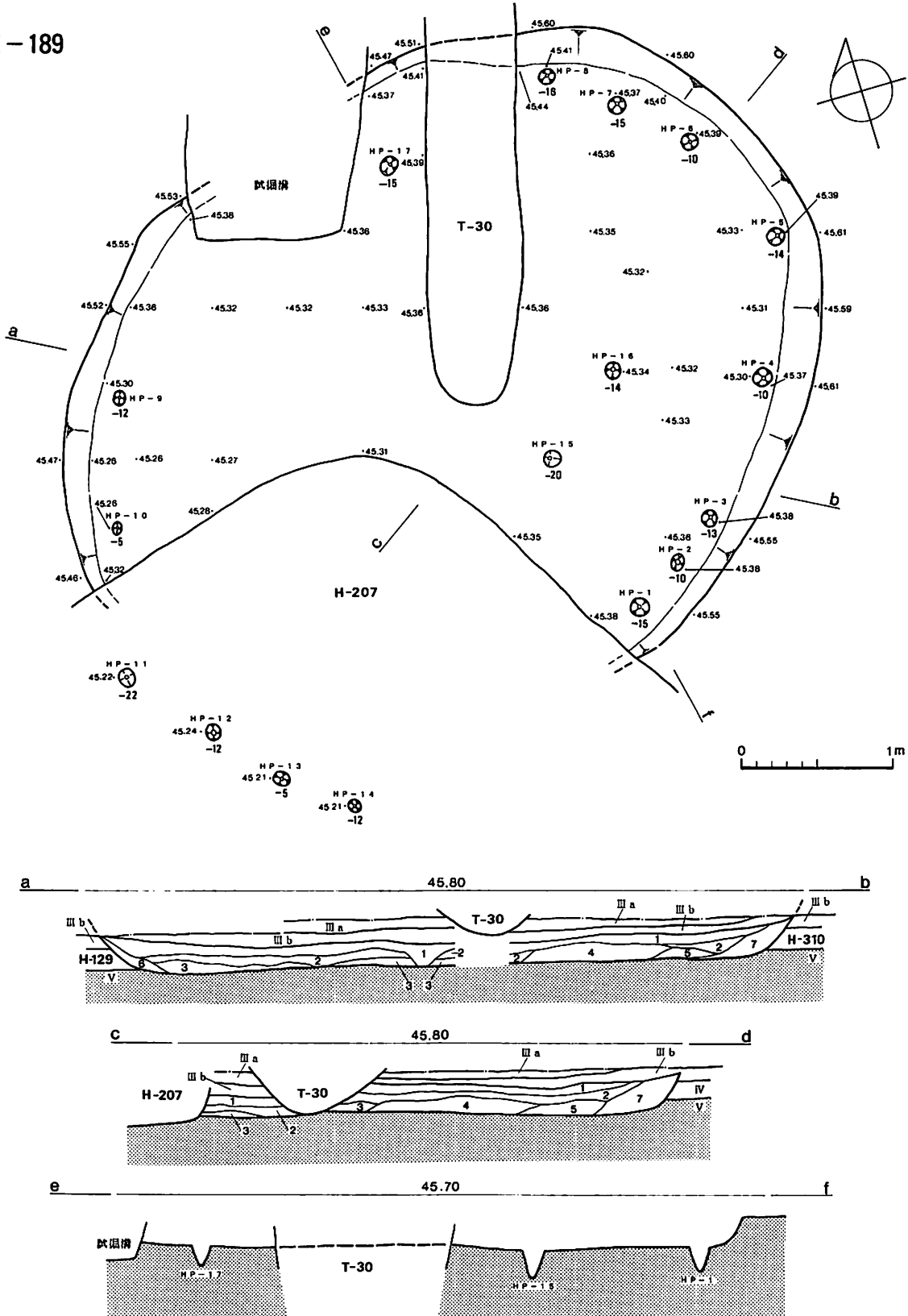
検出・掘り込み面：Ⅳ層直上で黒色土まじりの暗褐色土の広がりが見られ、Ⅲb層>黄色土の落ち込みを検出した。掘り込み面はⅢb層中と思われる。重複関係：H-171・208・292と重複しており、H-171・208より古く、H-292より新しい住居跡である。

時期：Ⅰ群D1類土器を伴う縄文時代早期中葉の時期のものと思われる。

床面：V層中に構築されている。中央部がわずかにくぼみ、皿状である。堅い。

壁：立ち上がりはゆるやかな傾斜である。検出面からの壁高は、北西壁が7cm～12cm、南東壁が10cm～16cm、南西壁が7cm～13cmである。

H-189

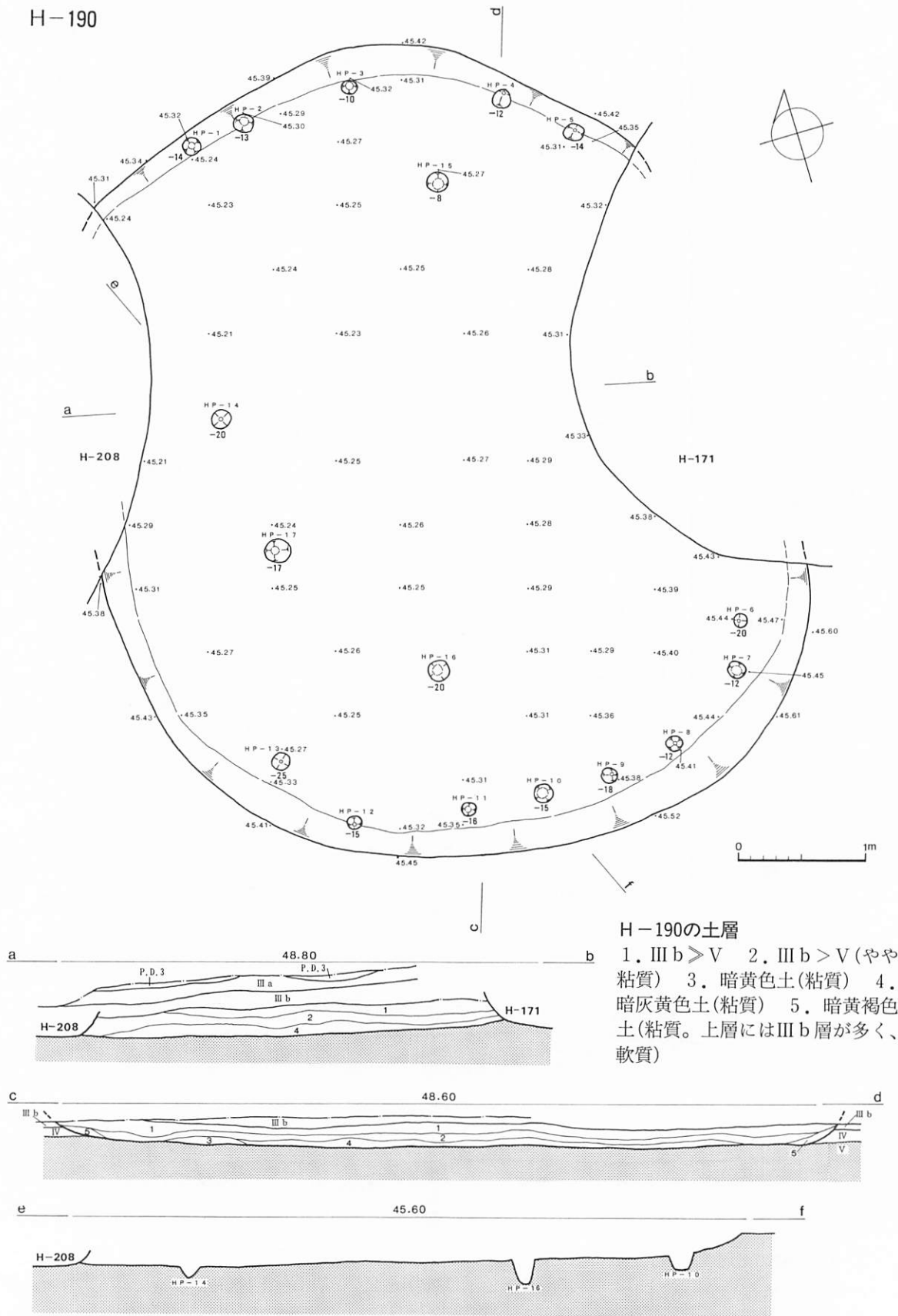


H-189の土層

1. III b > V 2. ①+③ 3. 暗黄灰色土(粘質) 4. 暗茶褐色土(軽石が多量に混入。混合土) 5. 暗黄灰色土(砂質) 6. 暗黄色土(砂質) 7. 暗黄色土(III b層を混入)

図Ⅲ-92 H-189実測図





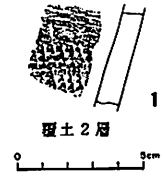
図Ⅲ-93 H-190実測図

炉跡：焼土などは検出されていない。

付属ピット：柱穴状小ピットは16個検出されている。HP-1～13は壁際をめぐるもので、すべて直立している。HP-14～17は支柱穴と考えられ、6本柱か9本柱が想定される。

遺物出土状況：遺物は覆土からⅠ群D1類土器1点、礫が5点出土しただけである。

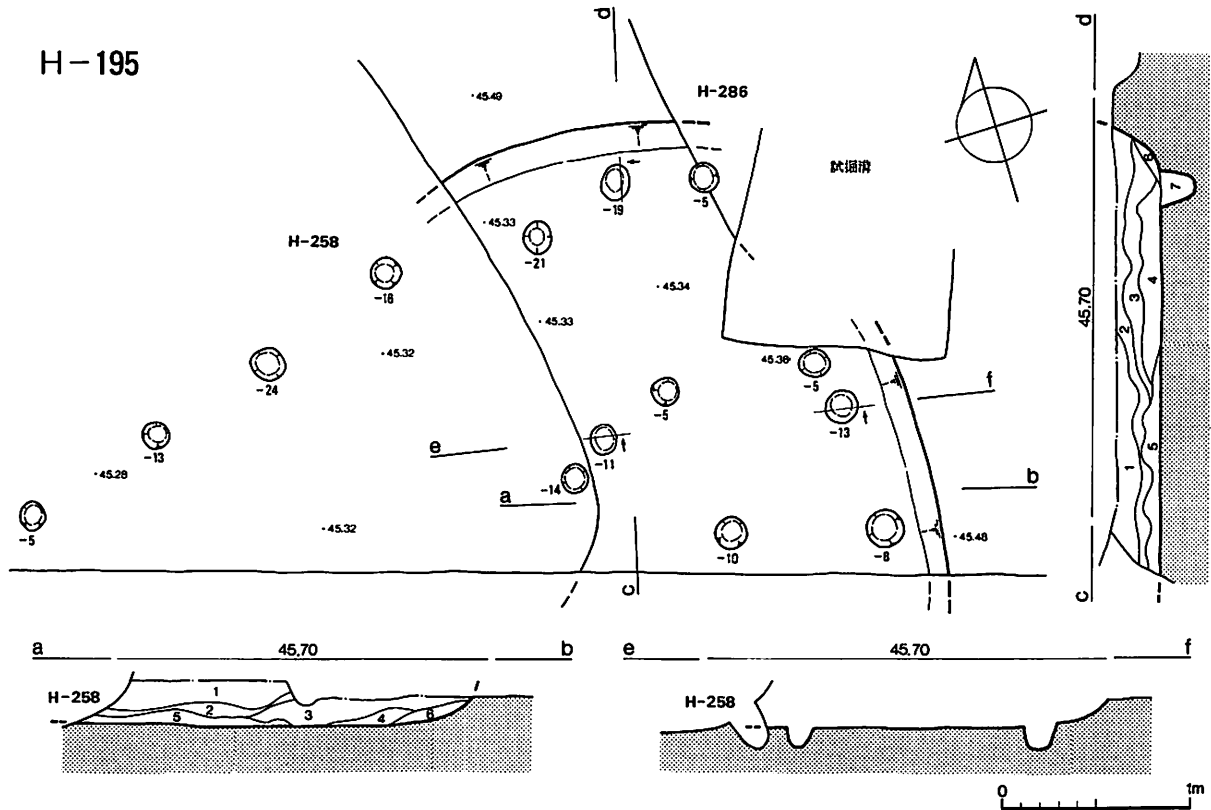
覆土はⅢb層と黄色土がまじり合った土であるが、北東の壁際には小石が多量にまじり合った混合土が堆積していた(和泉田)。



図Ⅲ-94  
H-190出土土器

### 土器 (図Ⅲ-94 図版173-2)

1はⅠ群D1類土器に相当するものと思われる。小破片であるが貝殻腹縁文が認められる(森)。



H-195の土層 1. 黒褐色土 2. 暗灰茶褐色粘質土 3. 暗黄茶褐色土(軽石を含む) 4. 黄茶褐色土(軽石を含む) 5. 暗灰黄褐色土 6. 黄褐色土 7. 暗茶褐色土(柱穴)

図Ⅲ-95 H-195実測図

H-195 (図Ⅲ-95 図版29-1・2・3)

位置：43-41・42 規模：——/——×——/——×(0.25m) 平面形・床面積・長軸方向：不明

検出・掘り込み面：Ⅳ層上面で検出されている。掘り込み面はⅢb層中と考えられる。

重複関係：H-258・286と重複しており、これらより古い住居跡である。

時期：周辺包含層出土の遺物などから、縄文時代早期中葉の時期のものと思われる。

床面：西側と北東側はH-258とH-286に壊されている。V層を約15cmほど掘り込んで構築されている。ほぼ平坦で、堅くしまっている。

壁：北側と東側のみが残存する。検出面からの壁高は約23cmである。床からの立ち上がりは丸味があり、傾斜はゆるやかである。

炉跡：焼土などは検出されていない。

付属ピット：柱穴状小ピットは9個検出されている。そのうち6個は壁際から50cmの範囲内にある。

HP-258の床面から本住居跡に伴うと考えられる柱穴状小ピットが5個検出されている。

遺物出土状況：覆土、床面付近から遺物は出土していない(谷島)。

H-206 (図Ⅲ-96 図版28-4 図版29-4)

位置：37-42・43 38-42・43 標高44.85m付近の平坦地。

規模：——/——×3.33m/3.06m×0.15m 床面積・平面形：不明 長軸方向：N-70°-E

検出・掘り込み面：Ⅳ層直上でⅢb>黄色土の落ち込みを検出した。掘り込み面はⅢb層中と思われる。

重複関係：H-308と重複しており、これより古い住居跡である。

時期：周辺包含層出土の遺物などから、縄文時代早期中葉の時期のものと思われる。

床面：V層中に構築されている。ほぼ平坦で、軟質である。

壁：立ち上がりはゆるやかな傾斜である。検出面からの壁高は、11cm~15cmである。

炉跡：焼土などは検出されていない。

付属ピット：柱穴状小ピットは10個検出されている。HP-1~9は壁際をめぐるもので、直立し、杭状のものである。全体に浅い。HP-10は支柱穴と考えられる。

遺物出土状況：覆土、床面付近から遺物は出土していない。

覆土はⅢb層と黄色土がまじり合った土である。周辺に木の根、風倒木痕などがあり、全体に不安定な堆積状態である。軽石、小石などが混入し、砂質土である(和泉田)。

H-207 (図Ⅲ-97 図版29-5 図版30-1)

位置：43-44・45 44-45 標高45.45m付近の平坦地。

規模・床面積・平面形・長軸方向：不明

検出・掘り込み面：Ⅲb層上面でⅢa層の広がりが見られ、Ⅲb層中で黒褐色土の落ち込みを検出した。掘り込み面はⅢb層中と思われる。 重複関係：H-189・217・219・223・296と重複しており、H-189・296より新しく、他より古い住居跡である。

時期：周辺包含層出土の遺物などから、縄文時代早期中葉の時期のものと思われる。

床面：V層を浅く掘り込んで構築されている。ほぼ平坦で、やや軟質。

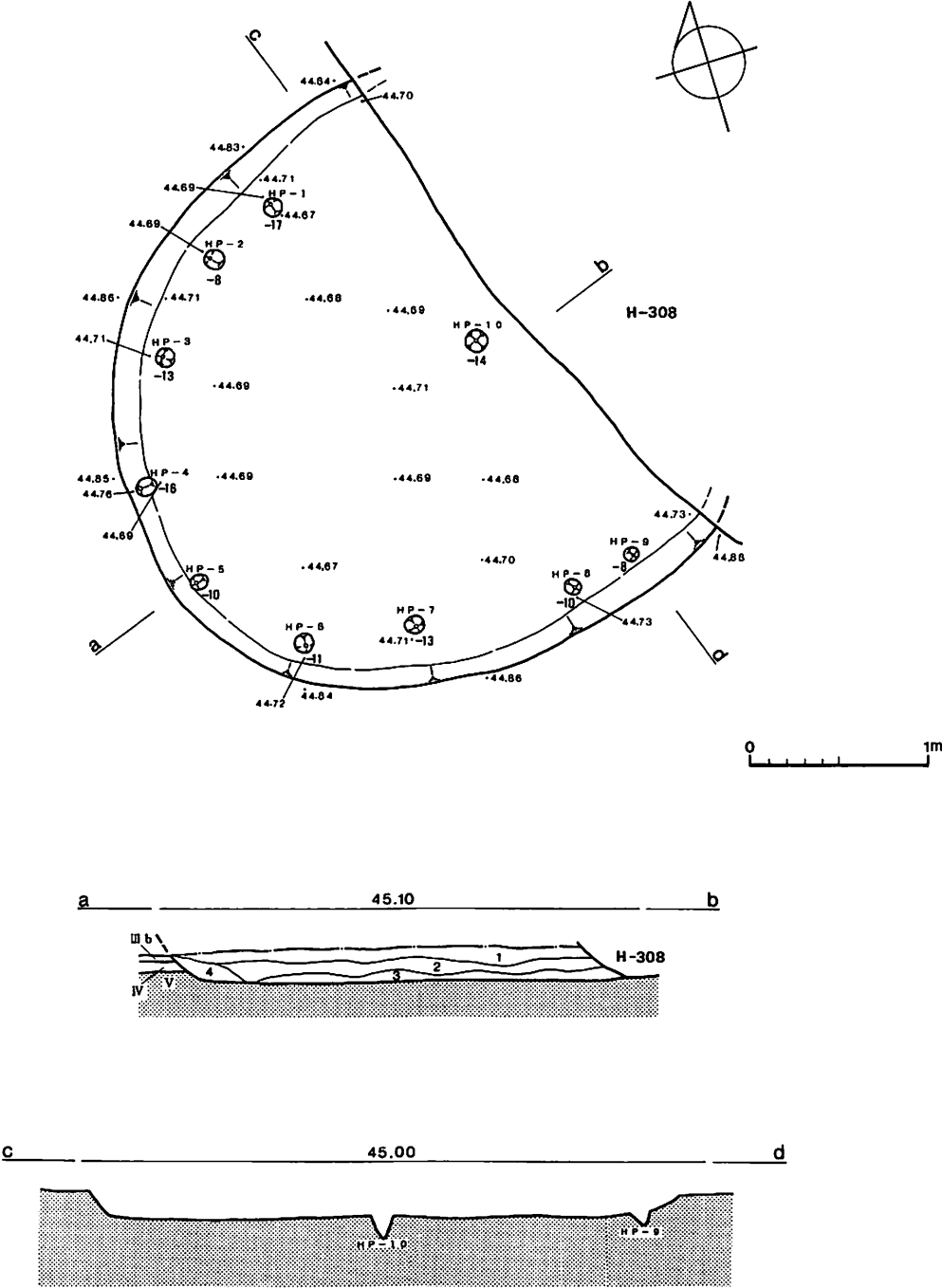
壁：立ち上がりは急傾斜である。検出面からの壁高は、北西壁が11cm~18cm、北東壁が14cm~19cmである。

炉跡：焼土などは検出されていない。

付属ピット：柱穴状小ピットは14個検出されている。HP-1~10は壁際をめぐり、直立している。

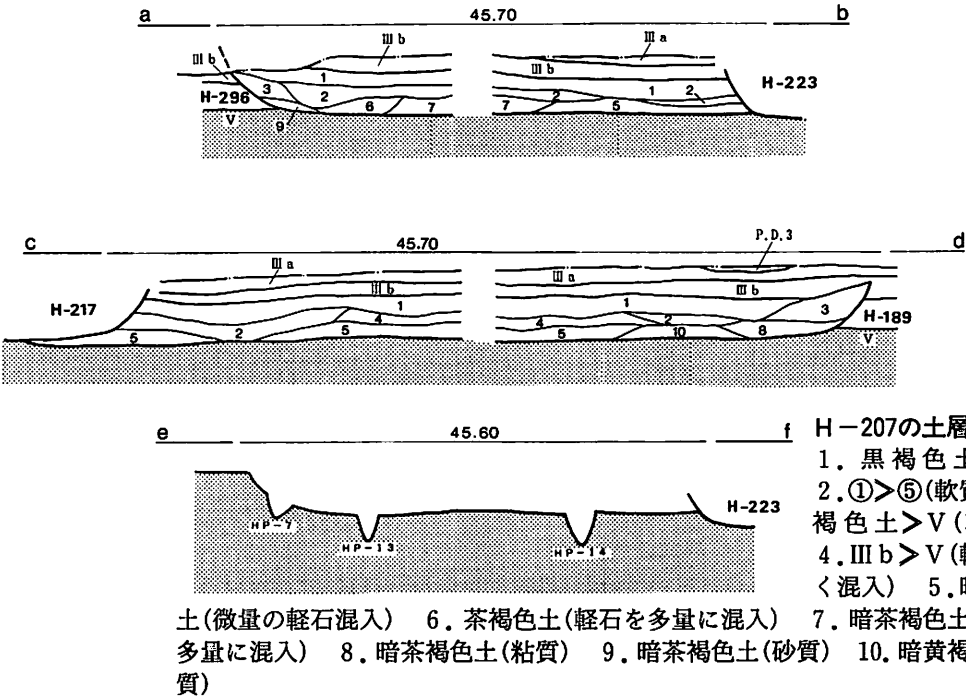
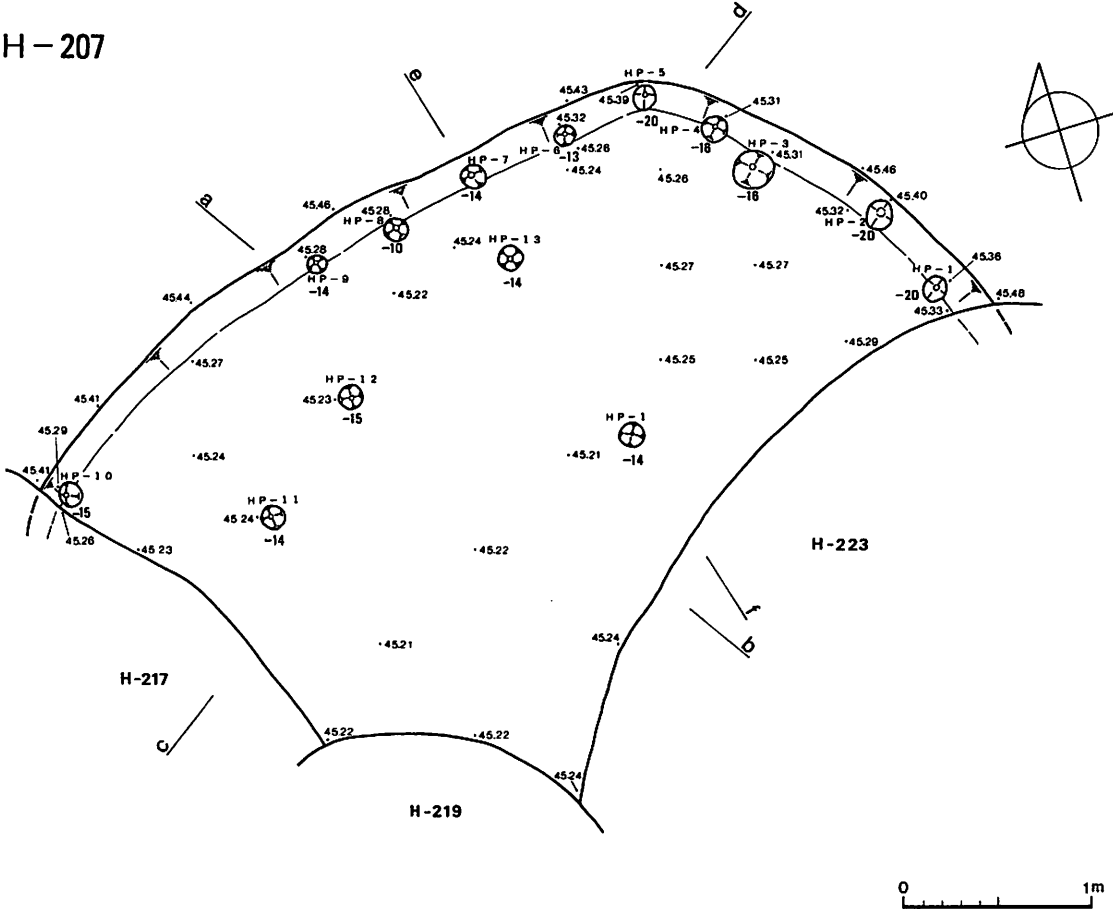
遺物出土状況：遺物は覆土上層で土器11点、石器10点が出土している。土器はⅠ群B(1点)、D1(9点)、F(1点)類が出土し、石器では石錘(9点)などが出土している。出土土器には、覆土1層とF-

H-206



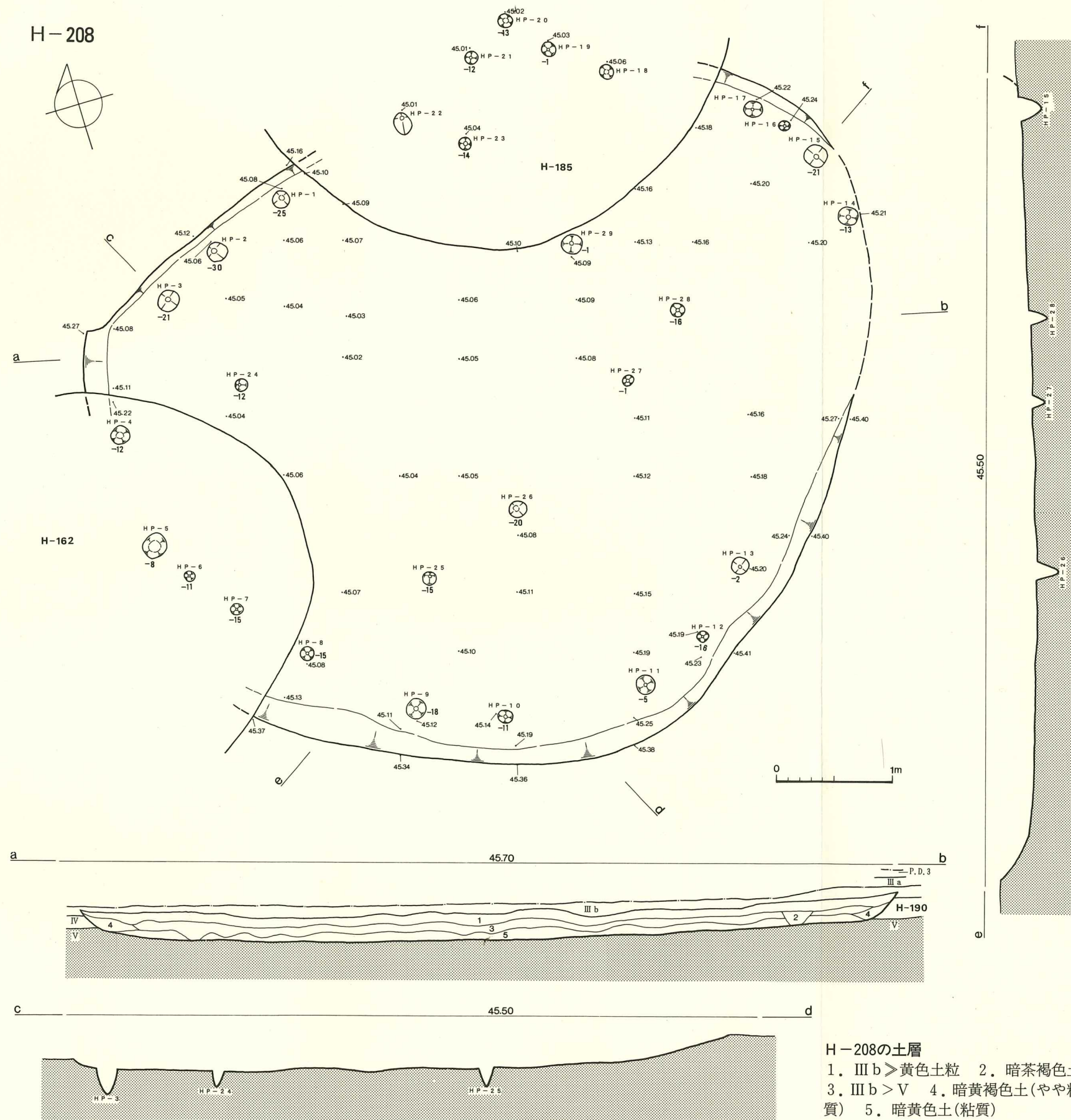
H-206の土層  
1. III b > V 2. ①+③ 3. 暗黄色土(砂質) 4. 暗黄灰色土(軟質)

図Ⅲ-96 H-206実測図



図Ⅲ-97 H-207実測図





図III-98 H-208実測図



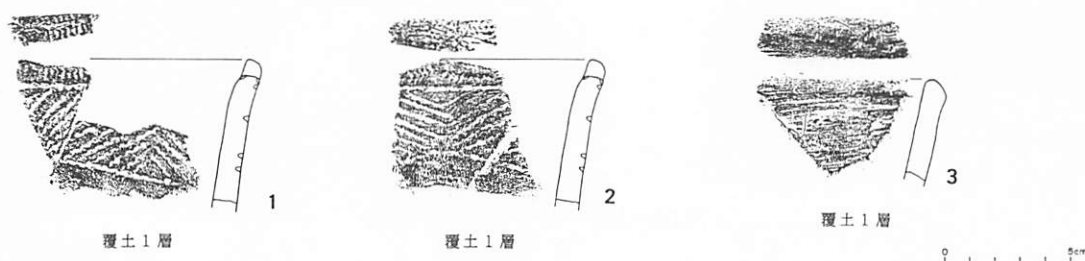
14上のIII層(図III-99-1)、という接合関係が見られる。

覆土は黒色褐色土が床面直上まで厚く堆積している。床直上には汚れた土が見られた。覆土全体に軽石が多い。特に下層に多い。

柱穴状小ピットの配列などから、5.00m×3.80m深さ0.22m、長軸方向N-60°-E、平面形が隅丸長形状で、4本柱の住居跡が想定される(和泉田)。

#### 土器(図III-99 図版173-3)

1・2はI群B類土器に相当するものと思われる。いずれも同一個体の口縁部で、1は覆土1層とF-14上包含層III b層出土の破片が接合したもの。沈線に重ねた貝殻腹縁文で口縁部文様帯の天地を画し、その中に腹縁文を鋸歯状のモチーフを取るように配置している。3はI群D1類の無文土器口縁部(森)。



図III-99 H-207出土土器

#### H-208(図III-98 図版30-2・3)

位置：41-46・47・48 42-46・47・48 東→西へゆるやかに傾斜する標高45.11m～45.41mの緩斜面。

規模：6.84m/6.50m×5.76m/5.52m×0.30m 床面積：29.41m<sup>2</sup> 平面形：隅丸長形状  
長軸方向：N-57°-E

検出・掘り込み面：IV層直上でIII a層の広がりが見られ、III b層黄色土の落ち込みを検出した。掘り込み面はIII b層中と思われる。重複関係：H-162・185・190・234と重複しており、H-162・185より古く、H-190・234より新しい住居跡である。

時期：周辺包含層出土の遺物などから、縄文時代早期中葉の時期のものと思われる。

床面：V層中に構築されている。中央部がわずかにくぼみ、皿状である。

壁：立ち上がりはゆるやかな傾斜である。検出面からの壁高は、南東壁が13cm～22cm、南西壁が17cm～24cmである。

炉跡：焼土などは検出されていない。

付属ピット：柱穴状小ピットは29個検出されている。HP-1～22は壁際をめぐるもので、すべて直立している。HP-4～7はH-162、HP-18～22はH-185のそれぞれの構築面で検出されたものである。HP-23～29は主柱穴と考えられ、10本柱が想定される。

遺物出土状況：遺物は覆土上のIII b層で多く出土しており、覆土からはI群D1類土器1点、同D2類土器3点、剥片、すり石、石錘が各1点ずつ出土している。床面付近からは出土していない。

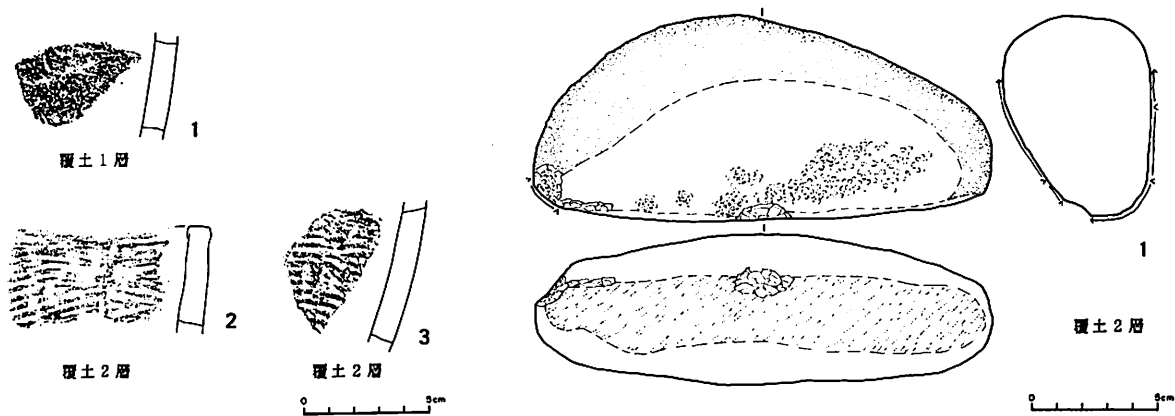
覆土はIII b層と黄色土がまじり合った土でH-190と堆積状態が酷似している(和泉田)。

土器 (図Ⅲ-100 図版173-4)

1は覆土1層から出土したⅠ群D1類土器の無文部。2・3は覆土2層から出土したⅠ群D2類土器で、同一個体である。口唇端部は平坦な角形で、ナデにより調整されており、内面に折り返されているが、意識的な作り出しかどうかはよくわからない。ともに条痕文が施文されている(森)。

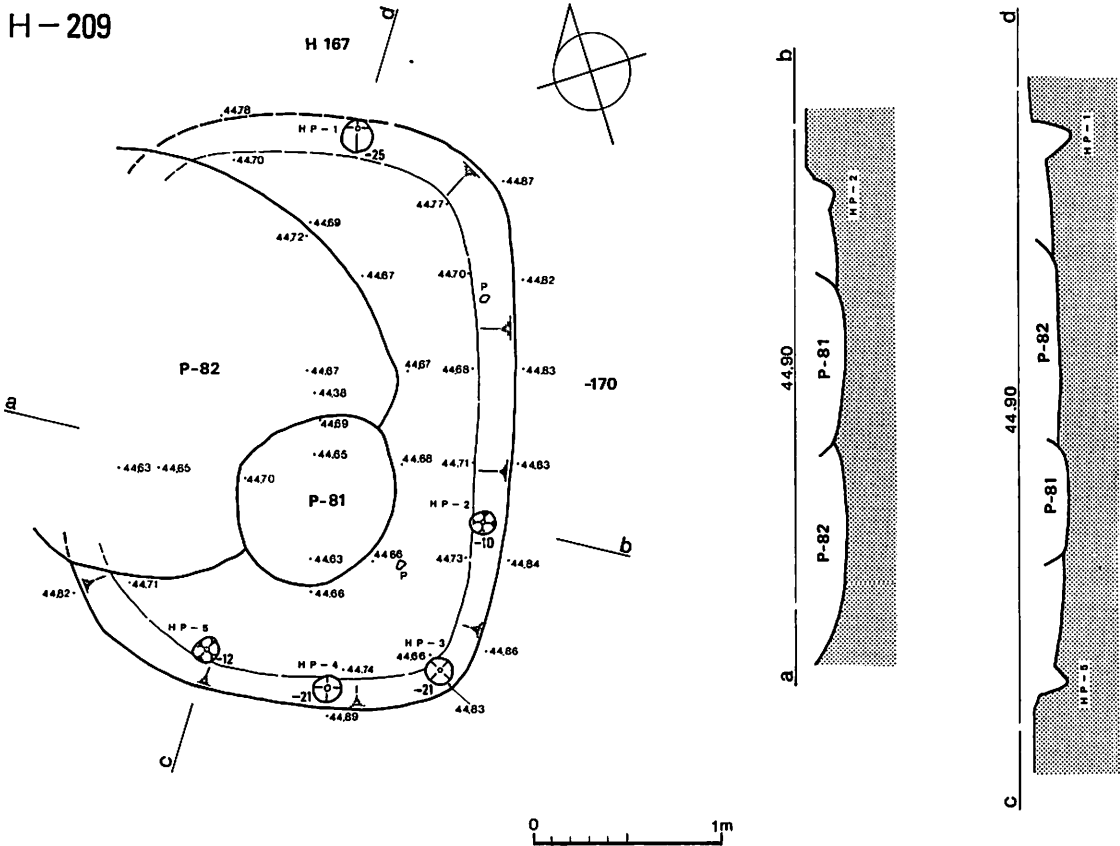
石器 (図Ⅲ-100 図版173-5)

1はすり石。すり面の形成に先行する打ち欠き痕が、縁部に見られる(宗像)。



図Ⅲ-100 H-208出土遺物

H-209



図Ⅲ-101 H-209実測図

H-209 (図Ⅲ-101 図版31-1)

位置: 38-42・43 39-42・43 標高45.10m付近の  
平坦地。

規模: 3.80m/2.74m × (2.36m)/(2.00m) × 0.14  
m

床面積: (5.11m<sup>2</sup>) 平面形: 隅丸長方形

長軸方向: N-25°-E

検出・掘り込み面: H-170、H-174の覆土中で暗黄茶色土の落ち込みを検出した。重複関係:  
P-81・82、H-167・170・174・335と重複しており、P-81・82より古い、他より新しい。

時期: 周辺包含層出土の遺物などから、縄文時代早期中葉の時期のものと思われる。

床面: V層中に構築されている。全体に皿状で、堅い。

壁: 立ち上がりはゆるやかな傾斜である。検出面からの壁高は、8cm~15cmである。

炉跡: 焼土などは検出されていない。

付属ピット: 柱穴状小ピットは5個検出されている。すべて壁面にあり、直立し、杭状のものである。

遺物出土状況: 遺物は覆土2層からI群D2類土器2点が出土しただけである(和泉田)。



図Ⅲ-102 H-209出土土器

土器 (図Ⅲ-102 図版173-6)

1・2は覆土2層から出土したI群D2類土器で、体部の小破片である(森)。

H-210 (図Ⅲ-103 図版31-2・3)

位置: 36-44・45 37-44・45 標高44.51m~44.71mのほぼ平坦地。

規模: 5.12m/5.00m × (4.60m)/(4.20m) × 0.30m 床面積: (21.45m<sup>2</sup>) 平面形: ほぼ隅丸  
長方形 長軸方向: N-13°-E

検出・掘り込み面: III b層中でIII aの広がりが見られ、III b>黄色土粒の落ち込みを検出した。掘り  
込み面はIII b層中と思われる。重複関係: T-16、H-165・211・214と重複しており、H-211  
より新しく、他より古い住居跡である。

時期: 周辺包含層出土の遺物などから、縄文時代早期中葉の時期のものと思われる。

床面: V層中に構築されている。わずかに北東→南西へ傾斜している。平坦で、堅い。

壁: 立ち上がりは急傾斜である。検出面からの壁高は、南壁が12cm~17cm、西壁が13cm~17cm、北壁  
が12cm~17cm、東壁が17cm~24cmである。

炉跡: 焼土などは検出されていない。

付属ピット: 柱穴状小ピットは17個検出されている。HP-1~13は壁際をめぐるもので、直立してい  
る。HP-14~17は主柱穴と考えられ、6本柱が想定される。

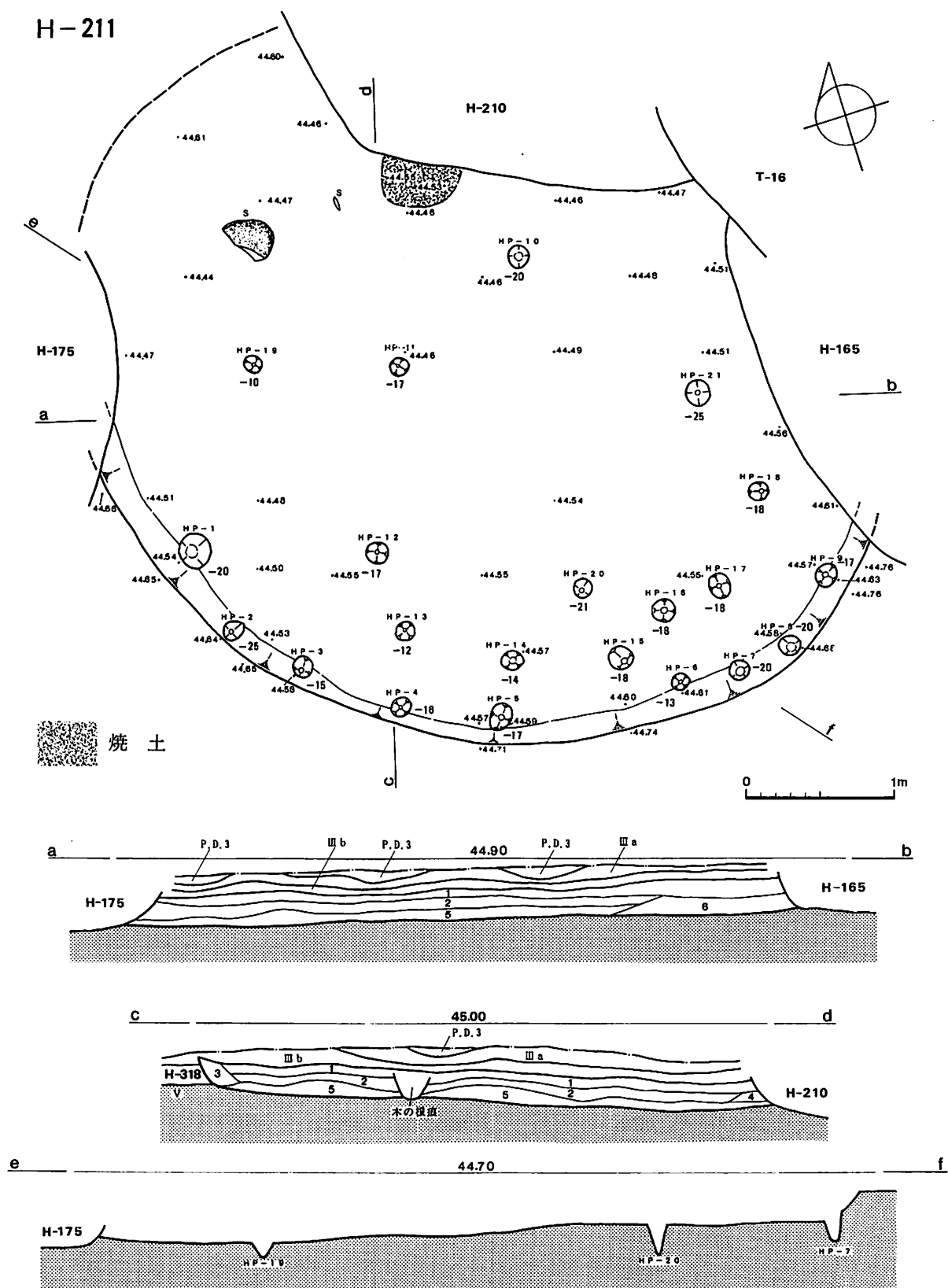
遺物出土状況: 遺物は覆土上のIII b層で出土しているが、覆土、床面付近からは出土していない。

覆土はIII b層と黄色土がまじり合った土である。

平面形は不整五角形状であるが、柱穴状小ピットの検出状況などから考えると、隅丸長方形の平  
面形と思われる(和泉田)。







図III-104 H-211実測図

H-211 (図Ⅲ-104 図版32-1・2)

位置: 36-43・44 標高44.64m~44.76mの平坦地。

規模・床面積・平面形・長軸方向: 不明

検出・掘り込み面: Ⅲb層中でⅢa>P.D.3の広がりが見られ、Ⅳ層直上でⅢb>黄色土の落ち込みを検出した。掘り込み面はⅢb層中と思われる。重複関係: T-16、P-156、H-165・175・210・318・344と重複しており、T-16、H-165・175・210より古く、H-318・344より新しい。P-156との新旧関係は不明。

時期: 周辺包含層出土の遺物などから、縄文時代早期中葉の時期のものと思われる。

床面: 南側はⅤ層中、北側はⅤ層を浅く掘り込んで構築されている。南→北へやや傾斜している。若干凹凸があり、堅い。

壁: 残存部分の立ち上がりは急傾斜である。検出面からの壁高は、12cm~20cmである。

炉跡: 床直上(土層図⑤の直上)で0.50m×0.40mの広がりをもつ焼土が検出された。本住居跡に伴うかどうかは不明である。

付属ピット: 柱穴状小ピットは21個検出されている。HP-1~9は壁際をめぐるもので、直立し、杭状である。HP-19~21は主柱穴と考えられ、6本柱が想定される。HP-10~18は円形状に並んでおり、本住居とは別の遺構があった可能性がある。

遺物出土状況: 覆土上のⅢb層、特に北東側で遺物は多く出土した。床直上からは石皿が1点出土した。土器はⅠ群D1、D2類のものが出土している。出土土器には、覆土1層と36-43(Ⅱ)、という接合関係が見られる。

覆土はⅢb層と黄色土がまじり合った土である。

柱穴状小ピットの配列から、5.80m×4.70m、長軸方向N-40°-W、平面形が楕円形状の住居跡が想定される(和泉田)。

土器 (図Ⅲ-105 図版173-7)

1・2ともに覆土1層から出土したもので、小破片であるため分類の判別は困難であるが、1はⅠ群D1類、2はⅠ群D2類の土器と思われる(森)。

石器 (図Ⅲ-105 図版173-8)

1は石匙。2は石皿である(宗像)。

H-212 (図Ⅲ-106・109 図版32-3・4)

位置: 41-44・45 42-44・45 標高45.19m~45.35mのほぼ平坦地。

規模: ———×4.30m/4.05m×0.21m 床面積: (17.80㎡) 平面形: 隅丸長方形か?

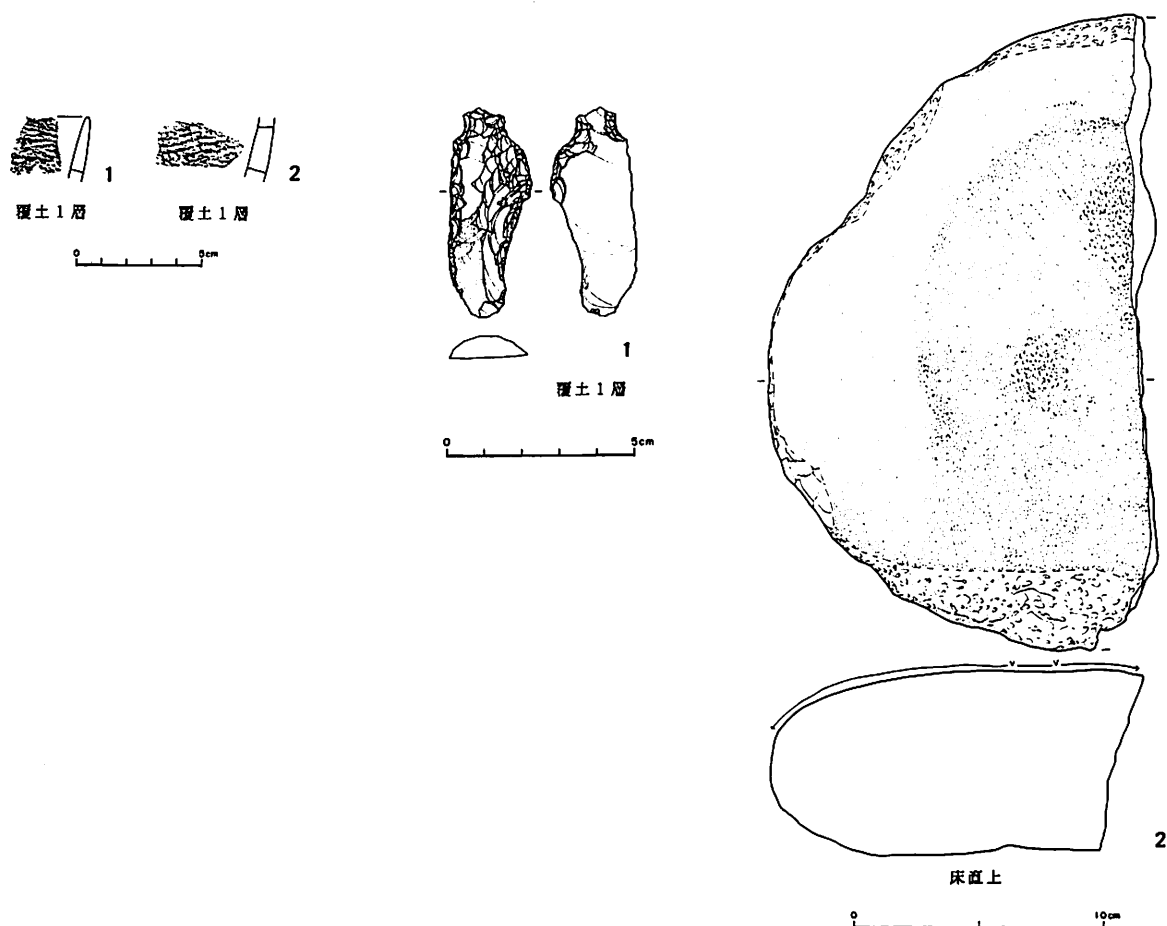
長軸方向: N-40°-E

検出・掘り込み面: Ⅲb層中で遺物が多く出土し、遺構が想定された。H-161の南壁面、T-13の西壁面で覆土状の土の落ち込みを確認した。Ⅲb層中でⅢb>黄色土の落ち込みを検出した。掘り込み面はⅢb層中と思われる。重複関係: T-13、H-161・178・179・297・340と重複しており、T-13、H-161・178より古く、他より新しい住居跡である。

時期: Ⅰ群D1類土器を伴う縄文時代早期中葉の時期のものと思われる。

床面: Ⅴ層中に構築されている。ほぼ平坦で、堅い。

壁: 立ち上がりは急傾斜である。検出面からの壁高は、北西壁が15cm前後、南西壁が8cm~14cm、南



図III-105 H-211出土遺物

東壁が19cm前後である。

炉跡：焼土などは検出されていない。

付属ピット：柱穴状小ピットは27個検出されている。HP-14~20は壁際をめぐるもので、直立している。HP-1~13はH-179の構築面で検出されたもので、拡張に伴うものか、あるいはHP-14~20とは用途が別なものなのか明瞭でない。HP-21・23・25は主柱穴と考えられ、4本柱が想定される。

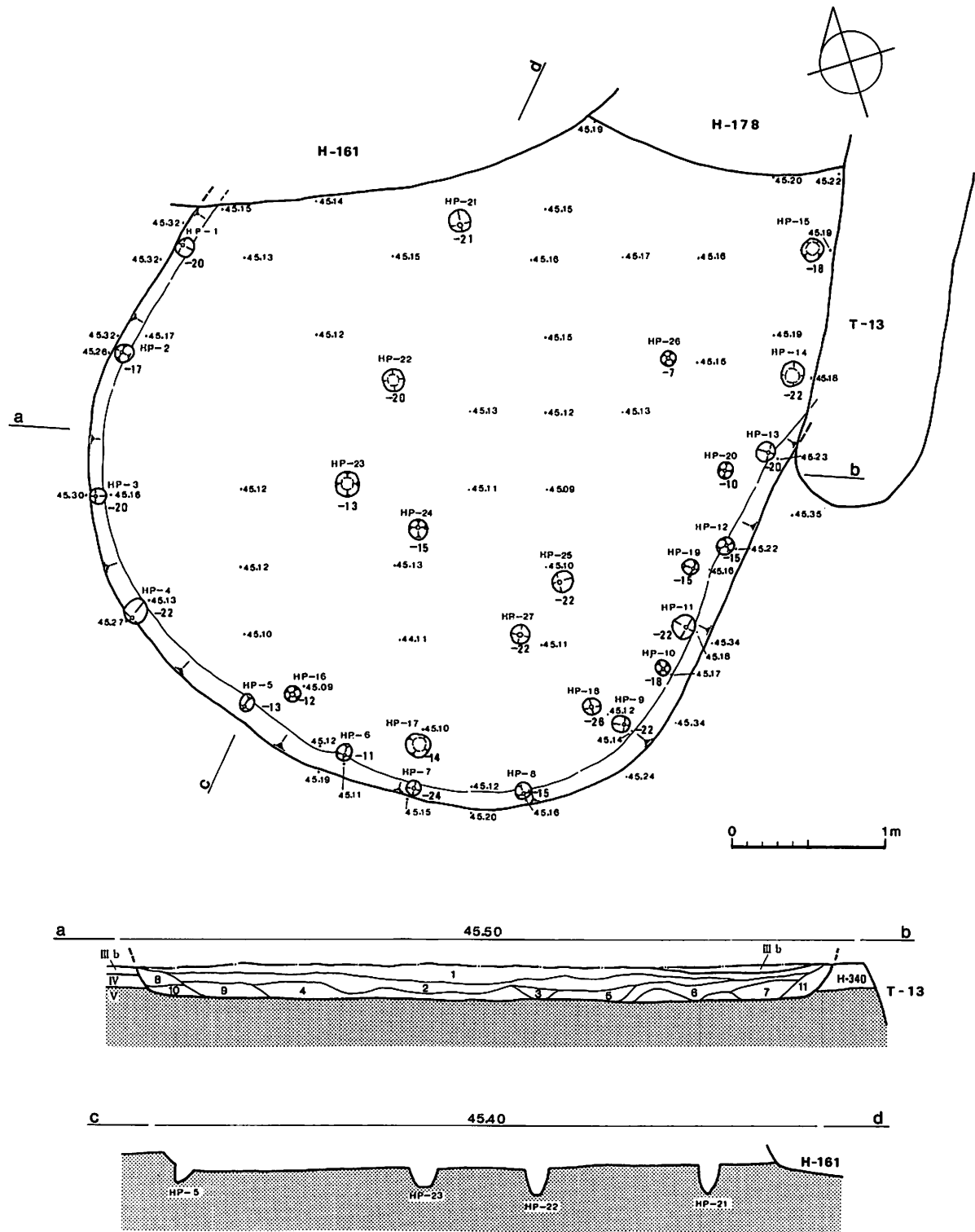
遺物出土状況：出土遺物総数は101点である。この内訳は土器76点、石器25点である。床直上から石錘1点が出土しただけで、他は覆土中から出土したものである。I群D1類土器69点、同D2類土器7点が出土し、石器では石錐、石斧、石錘などが出土している。出土土器には、覆土3層と37-46(Ⅱ)・40-43・44(Ⅱ)・41-44(Ⅱ)・42-43(Ⅱ) (図III-107-1)、覆土1層とH-161層土1層・3層・壁、覆土1層どうし、覆土1層と2層、覆土2層とH-179覆土1層、という接合関係が見られる。

覆土はⅢb層と黄色土がまじり合った土であるが、東寄りの覆土中層には軽石を多く混入する暗褐色土が見られた(和泉田)。

#### 土器 (図III-107 図版173-9)

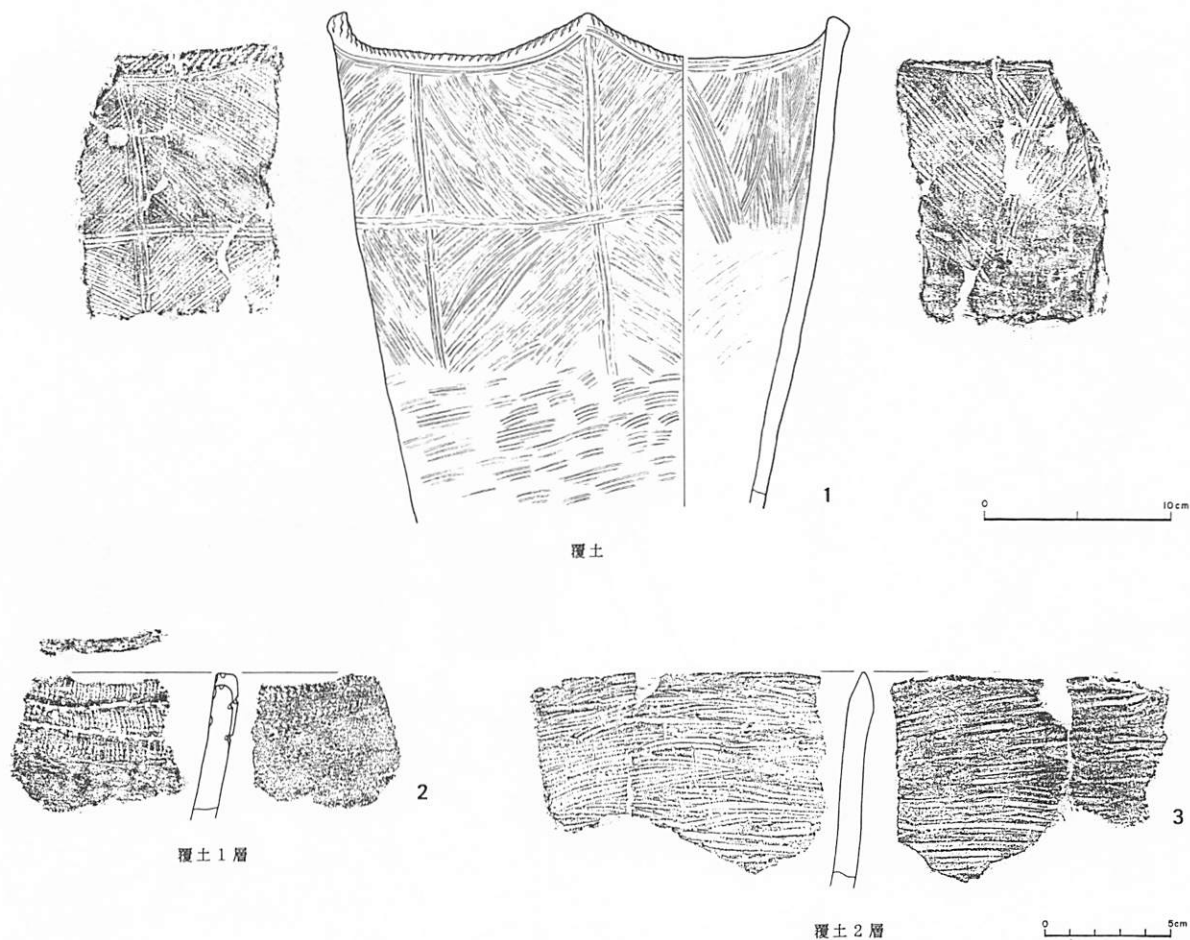
2はI群D1類土器で、覆土1層から出土したものである。沈線に重ねた刺突列を2条口唇部にめぐらし、その間と上下を貝殻腹縁文で充填する。刺突列は口唇端部にもある。口唇部内面にも貝殻を用いた刻み目があるが、施文の際、偶然ついた爪形の列点がこれに平行する。1と3はI群D2類土器。1は本住居跡の覆土と包含層Ⅲ層出土の土器片が接合したもので、個体の三分の一ほどが復元できた。

H-212

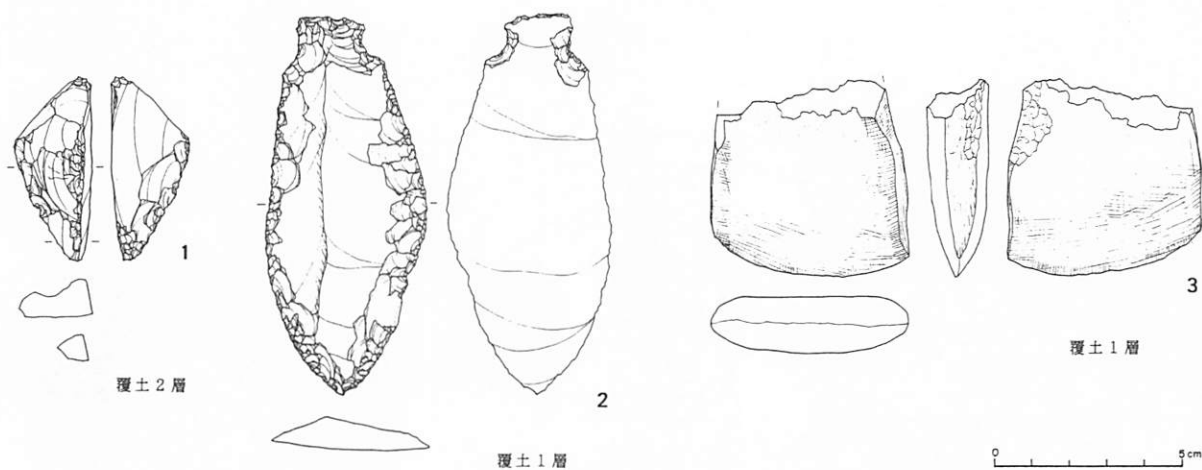


H-212の土層  
1. III b>V 2. III b>V 3. 茶褐色土(粘質) 4. 暗黄灰色土(粘質) 5. 暗黄灰色土(砂質) 6. 暗褐色土(軽石混入) 7. 暗茶褐色土(砂質) 8. 褐色土(軟質) 9. 茶黄色土(砂質) 10. 暗灰黄色土(砂質) 11. 暗黄褐色土(軽石混入)

図Ⅲ-106 H-212実測図



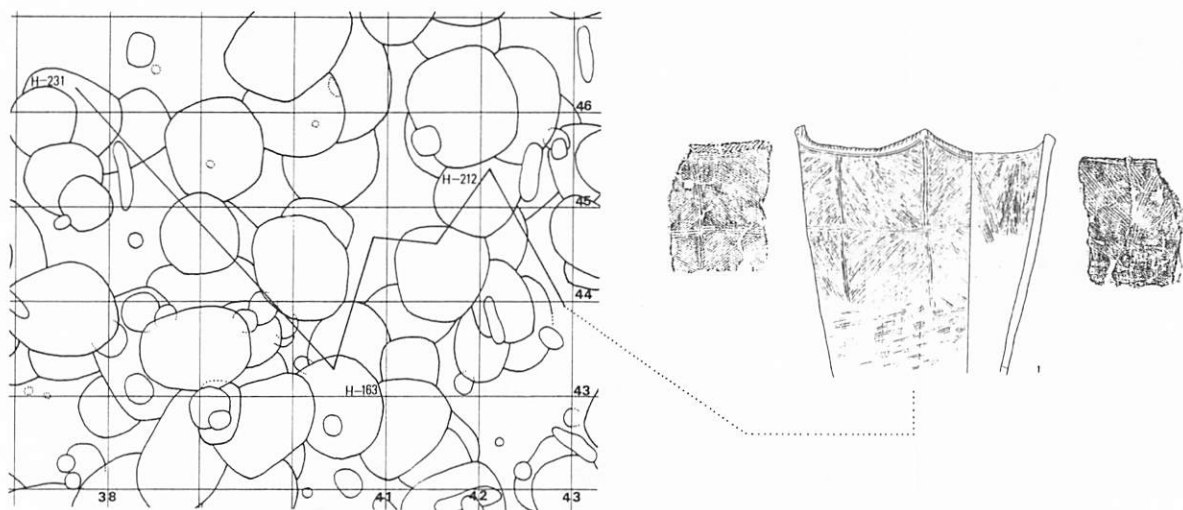
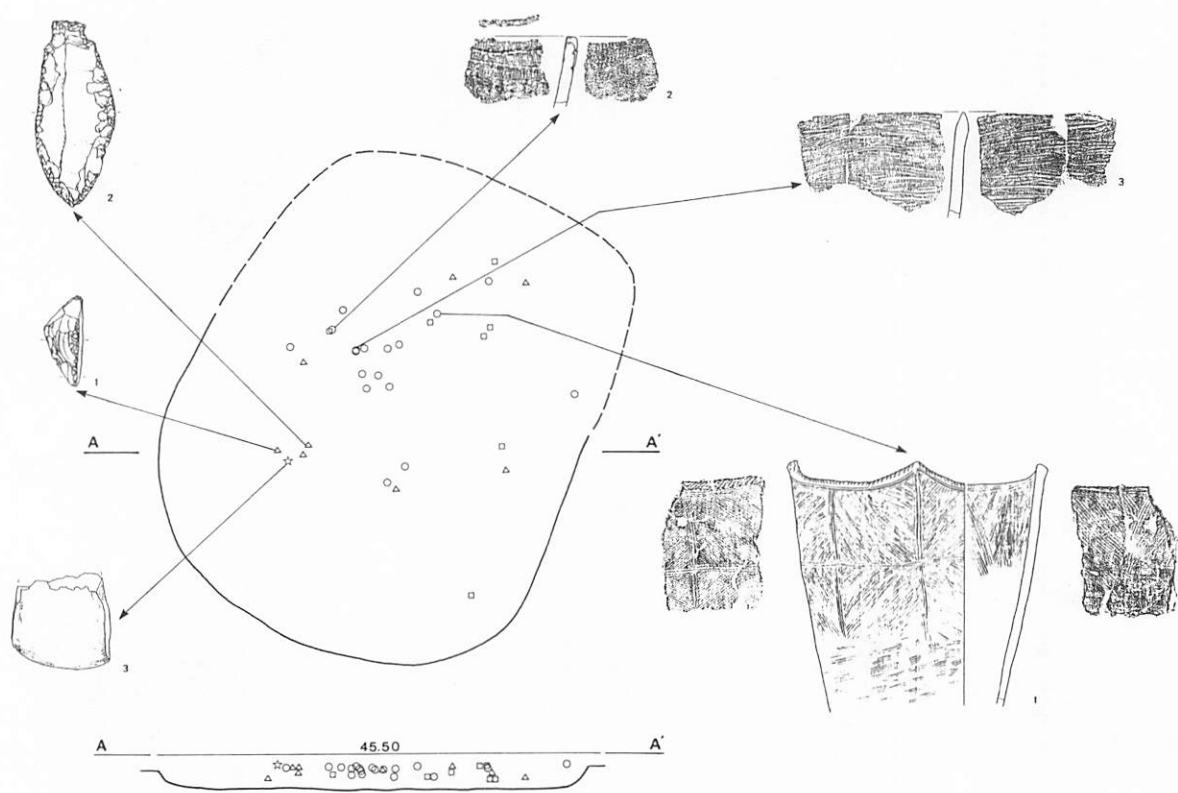
図III-107 H-212出土土器



図III-108 H-212出土石器

胎土には風化した岩片や砂礫を含み、土器自体も風化して文様が一部磨滅している。器表面は調整されて凹凸はないが、内面および断面には3～5mmの粒状の空洞が胎土中に認められ、植物の種子のような、焼成によって消失する夾雑物が混入されていたものらしい。底部の形態は不明なものの、口縁は波状なす深鉢形の器形になるものと推定される。傾斜した切り出し状の口唇端部には貝殻腹縁文があり、その直下の口唇部を貝殻条痕で、縁取る。口縁部文様帯は図で見る如く、波頂部口唇およびそ





図Ⅲ-109 H-212出土遺物分布・接合図

の中間から垂下する縦位の条痕と、口縁部文様帯の中央をめぐる横位の条痕で矩形に分割され、その中に方向を違えた斜位の条痕を配する文様構成となる。貝殻条痕は内面にもあるが、こちらは明瞭な文様とはならない。ただし、口唇部内面には条痕を横位にめぐらし、端部を縁取っている。体部以下は、調整痕のみで無文になるものと見られる。3は貝殻条痕文が施文される口縁部破片で、覆土1層と2層から出土した土器片が接合したものである。口唇端部は薄く仕上げられ、胎土には繊維を含む(森)。

#### 石器(図III-108、図版174-1)

1は折れ面再利用の石錐。2面の折れ面をもつ剝片を、素材としている。2は石匙。素材打面を残す。3は石斧の刃部破損品。縁部には粗割調整痕が見られる(宗像)。

#### H-213(図III-110 図版33-1・2)

位置:37-41・42 38-41・42 標高44.86m~44.99mの平坦地。

規模・床面積・平面形・長軸方向:不明

検出・掘り込み面:H-174の西壁面で、覆土状の土の落ち込みが見られ、IV層直上でIII b>黄色土の落ち込みを検出した。掘り込み面はIII b層中と思われる。重複関係:P-101、H-174・239と重複しており、H-174より古く、P-101、H-239より新しい住居跡である。

時期:周辺包含層出土の遺物などから、縄文時代早期中葉の時期のものである。

床面:V層中に構築されている。平坦で、堅い。

壁:残存部分の立ち上がりは急傾斜である。検出面からの壁高は、21cm~27cmである。

炉跡:焼土などは検出されていない。

付属ピット:柱穴状小ピットは12個検出されている。HP-1~6は壁際をめぐるもので、直立している。HP-5・6はH-174の構築面で検出されたものである。HP-7~12は支柱穴と考えられる。

遺物出土状況:覆土、床面付近から遺物は出土していない。

覆土はIII b層と黄色土がまじり合った土である。

遺構の大半が調査区外にあるため、全体は不明であるが、柱穴状ピットの配列などから、長軸方向がN-75°-Eの隅丸長方形の住居跡が想定される(和泉田)。

#### H-214(図III-111 図版33-3・4)

位置:36-44 標高44.46m~44.62mのほぼ平坦地。

規模:2.90m/2.60m×2.66m/2.50m×0.30m 床面積:5.37㎡ 平面形:隅丸方形

長軸方向:N-67°-W

検出・掘り込み面:H-210の覆土2層中でIII b>黄色土の方形状の落ち込みを検出した。掘り込み面はIII b層中である。重複関係:H-210と重複しており、これより新しい住居跡である。

時期:I群D1類土器を伴う縄文時代早期中葉の時期のものと思われる。

床面:V層中に構築されている。ほぼ平坦で、堅い。

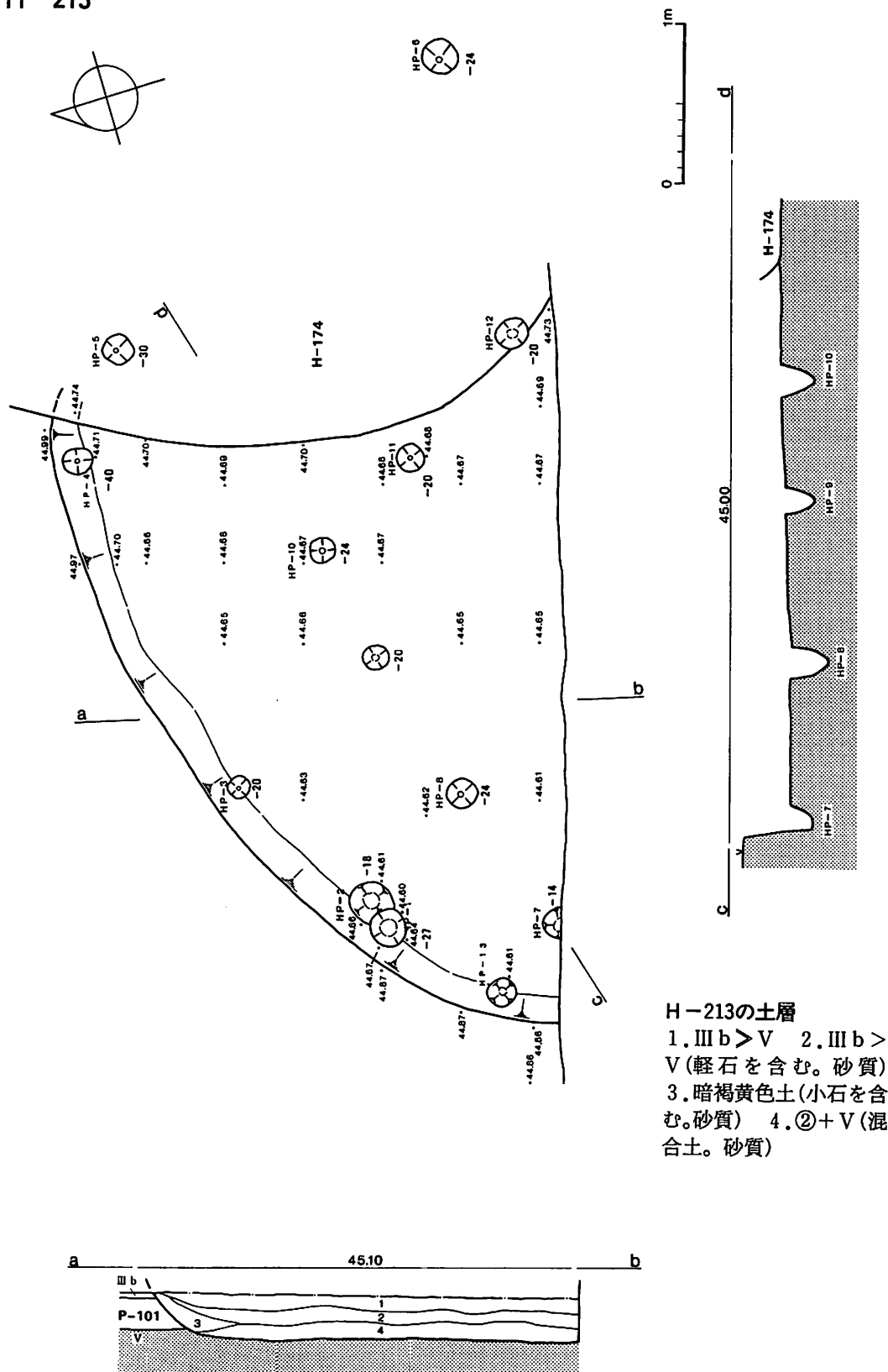
壁:立ち上がりは急傾斜である。検出面からの壁高は、北東壁が9cm~12cm、南東壁が11cm~26cm、南西壁が10cm~17cm、北西壁が10cm~25cmである。

炉跡:焼土などは検出されていない。

付属ピット:柱穴状小ピットは3個検出されており、壁際にある。

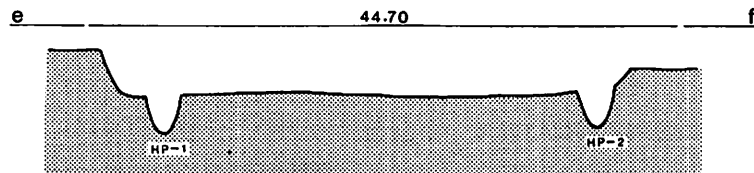
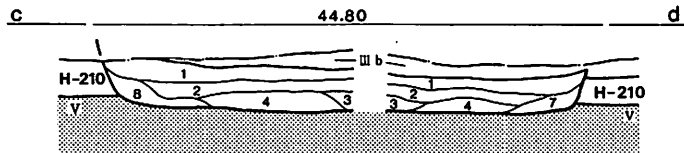
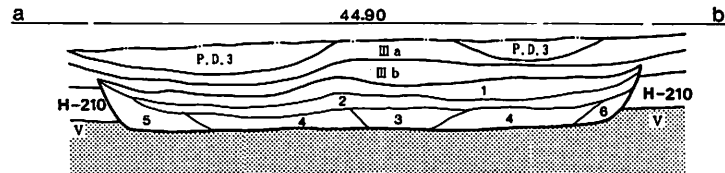
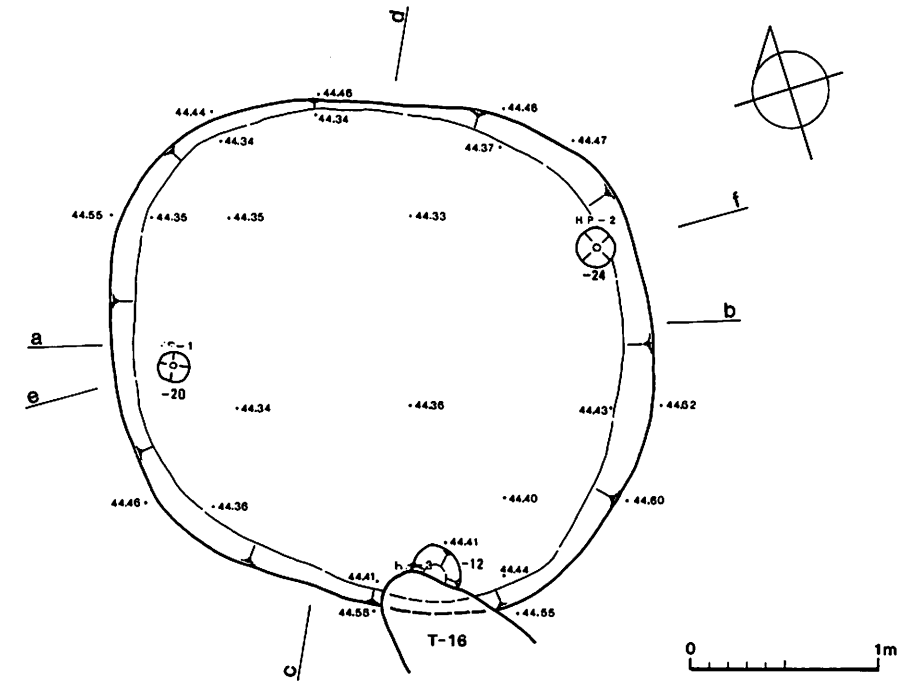
遺物出土状況:遺物は覆土3層でI群D1類土器2点、礫が1点出土した。

H-213



図III-110 H-213実測図

H-214



H-214の土層

- 1.Ⅲ b>V 2.Ⅲ b>V 3.暗茶褐色土(やや粘質) 4.暗黄色土(粘質) 5.茶褐色土(堅い) 6.暗黄灰色土(粘質) 7.暗黄褐色土(粘質) 8.黄褐色土(軟質)

図Ⅲ-111 H-214実測図

覆土はⅢb層と黄色土がまじり合った土である(和泉田)。

#### 土器(図Ⅲ-112 図版174-2)

1はⅠ群D1類土器に相当するものと思われる。小破片であるが貝殻腹縁文が認められる(森)。



図Ⅲ-112  
H-214出土土器

#### H-217(図Ⅲ-114 図版34-1・2)

位置: 42-44・45 43-44・45 標高45.36m~45.55mの平坦地。

規模: ———/———×3.54m/3.20m×0.30m 床面積: (11.09m<sup>2</sup>) 平面形・長軸方向: 不明

検出・掘り込み面: H-219の西壁面で覆土状の土の落ち込みを確認した。Ⅲb層上面でⅢa>P.D.3の広がりが見られ、Ⅳ層直上でⅢb>黄色土の落ち込みを検出した。掘り込み面はⅢb層中である。  
重複関係: H-207・219・326・341と重複しており、H-219より古い、他より新しい住居跡である。

時期: 周辺包含層出土の遺物などから、縄文時代早期中葉の時期のものと思われる。

壁: 立ち上がりは急傾斜である。検出面からの壁高は、南西壁が20cm前後、北西壁が13cm~17cm、北東壁が18cm~29cmである。

炉跡: 焼土などは検出されていない。

付属ピット: 柱穴状小ピットは19個検出されている。HP-1~15は壁際をめぐるもので、直立している。HP-16~19は主柱穴と考えられ、4本柱が想定される。

遺物出土状況: 遺物は覆土2層でⅠ群D2類土器が1点、礫が2点出土しただけである。

覆土はⅢb層と黄色土がまじり合った土である。ただ床面にある覆土下層は軽石を多く混入する褐灰色土である。

柱穴状小ピットの配列などから考えると、4.50m×3.54m、長軸方向N-40°-W、平面形が隅丸長方形の住居跡が想定される(和泉田)。



図Ⅲ-113  
H-217出土土器

#### 土器(図Ⅲ-113 図版174-3)

1はⅠ群D2類土器で、条痕文の体部である。覆土2層から出土した。胎土には繊維を含んでいる(森)。

#### H-218(図Ⅲ-115・117 図版34-3・4)

位置: 44-44・45 45-44・45 規模: ———/———×3.60m/3.25m×0.40m 床面積: (10.89m<sup>2</sup>) 平面形: 長円形 長軸方向: N-75°-E

検出・掘り込み面: Ⅲb層中で検出されている。覆土の上半にⅡ層、Ⅲa層、Ⅲb層の堆積が見られることから、掘り込み面はⅢb層中と考えられる。 重複関係: H-223・243・245・287・294・256・159と重複しており、H-223・243・245より古く、他より新しい住居跡である。

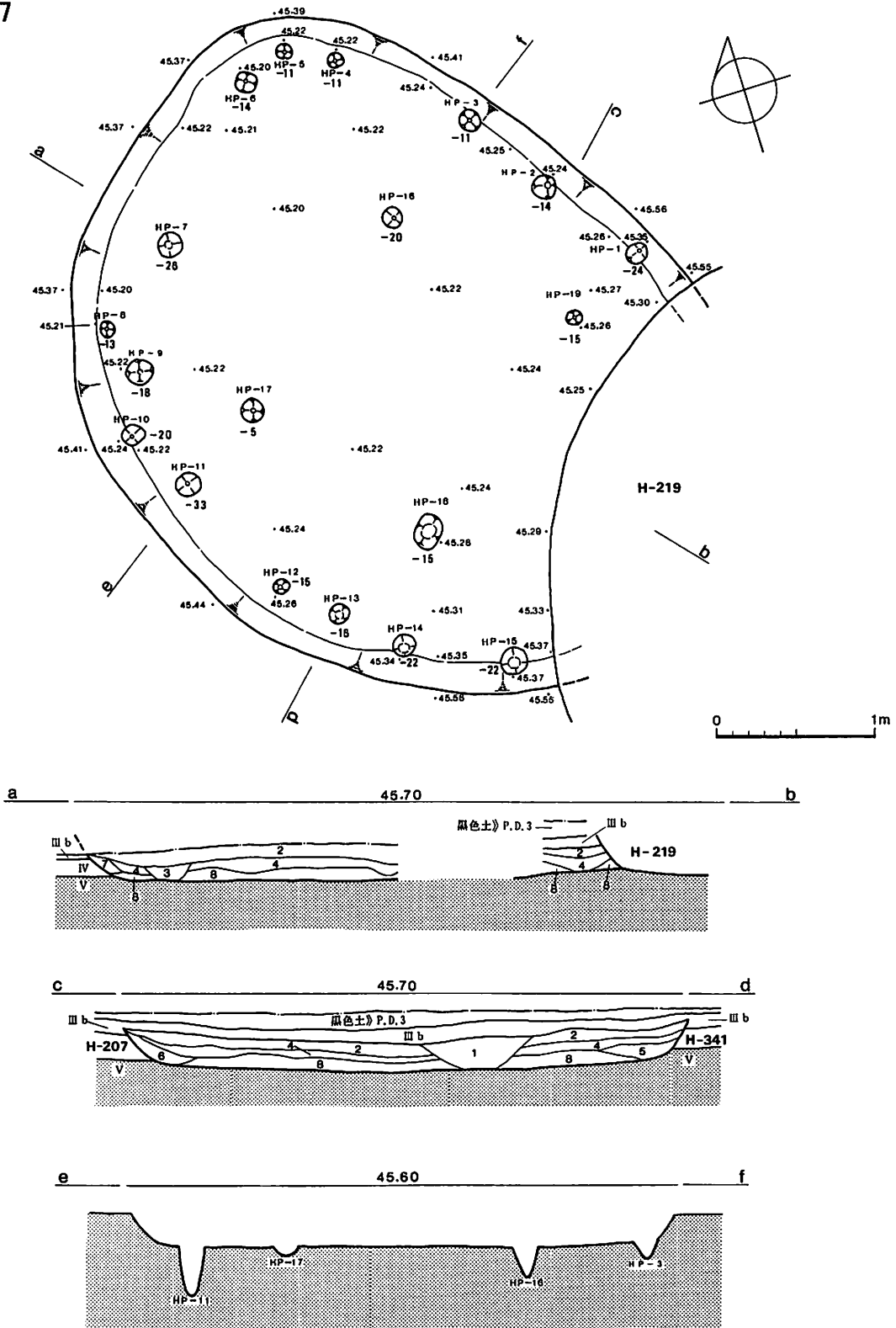
時期: Ⅰ群D1類土器を伴う縄文時代早期中葉の時期のものと思われる。

床面: 南西端はH-245に壊されている。他はⅤ層を約10cmほど掘り込んで構築されている。北東側が若干低く、ゆるやかに傾斜し、堅くしまっている。

壁: 北西側と南東側の壁上部はH-223とH-243に壊されている。検出面からの壁高は、35cmあり、床面からの立ち上がりは丸味があり、傾斜はゆるやかである。



H-217

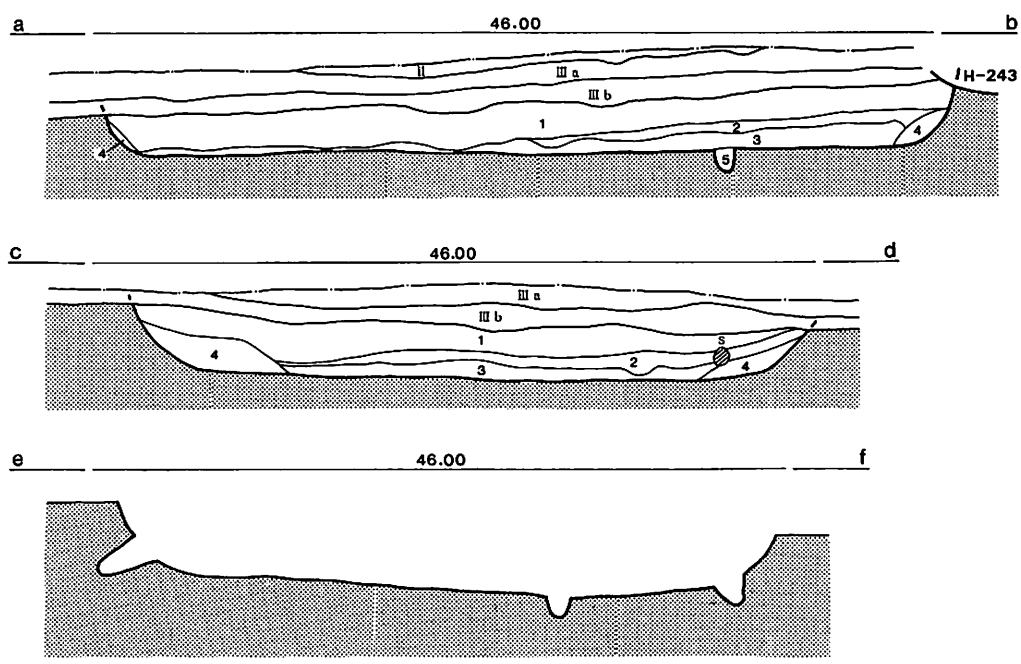
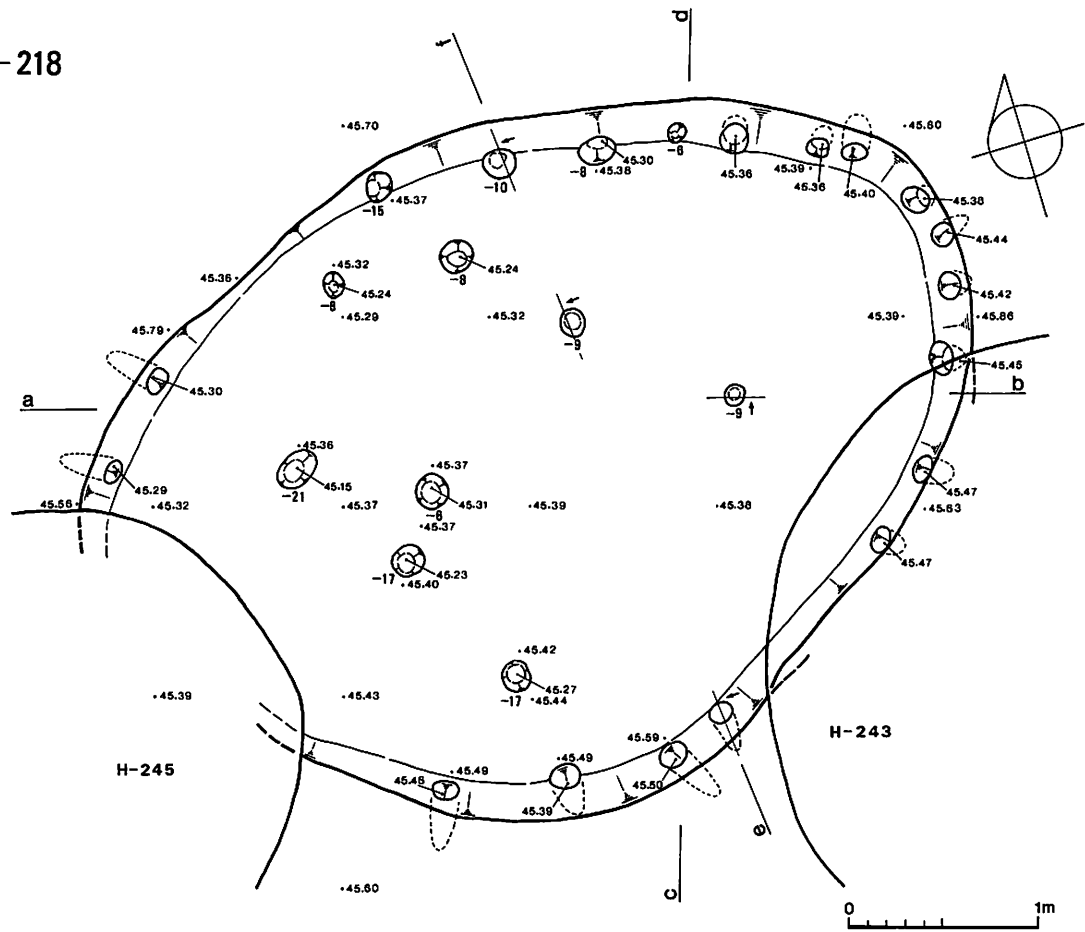


H-217の土層

1. III b > V (軟質) 2. III b > V 3. III b > V (堅い) 4. ② + ⑧ 5. 暗黄褐色土(軟質) 6. 茶褐色土(軽石混入) 7. III b + V (堅い) 8. 褐灰色土(軽石、黄色土混入。砂質)

図III-114 H-217実測図

H-218



H-218の土層  
1. 黒茶褐色土(少量の軽石を含む。掘り揚げ土か?) 2. 灰茶褐色土 3. 暗黄褐色土 4. 黄褐色土 5. 暗褐色土

図Ⅲ-115 H-218実測図

炉跡：焼土などは検出されていない。

付属ピット：柱穴状小ピットは27個検出されている。そのうち19個は壁面にあり、内傾する。4個は壁際から1mの範囲内にある。

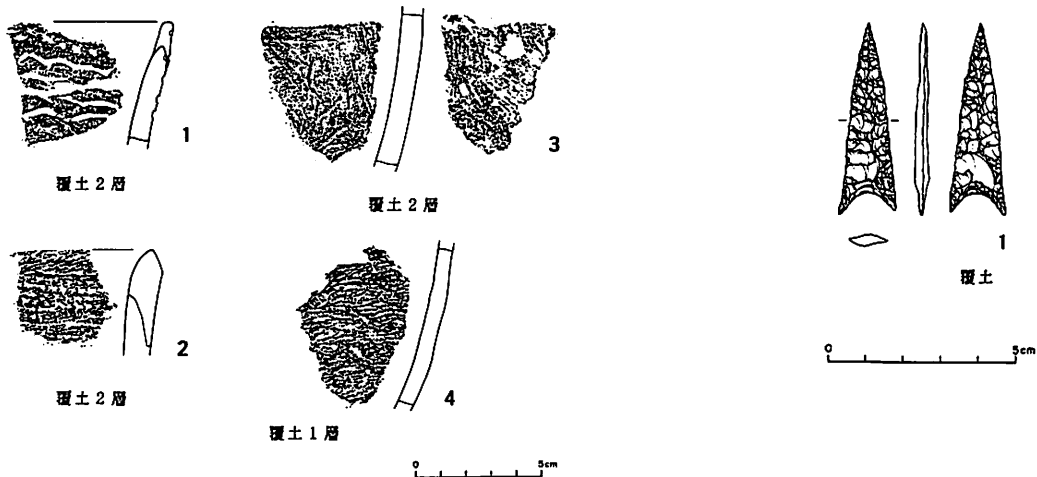
遺物出土状況：出土遺物総数は36点である。この内訳は土器22点、石器14点である。床直上からは石錘1点、礫2点が出土しただけで、他は覆土中から出土したものである。土器はI群D1類20点、同D2類2点出土しており、石器では石鏃、石錘などが出土している(谷島)。

#### 土器 (図III-116 図版174-4)

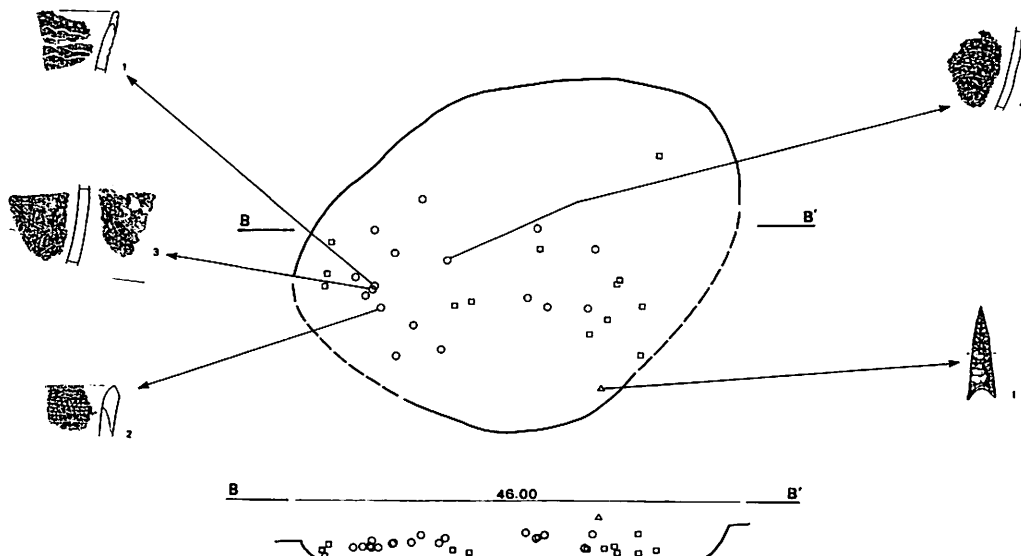
1・2はI群D1類の口縁部破片。覆土2層から出土した。1には刺突と沈線文が、2には貝殻原体による押引文が施文されている。3・4はI群D2類土器で、3は覆土2層、4は覆土1層から出土した(森)。

#### 石器 (図III-116、図版174-5)

1は石鏃。図右面の基部付近には素材腹面を残す(宗像)。



図III-116 H-218出土遺物



図III-117 H-218出土遺物分布図

H-219 (図Ⅲ-119 図版35-1・2)

位置：43-44 標高45.56m付近の平坦地。

規模：(4.00m)／(3.65m)×3.50m／3.14m×0.32m 床面積：(8.72m<sup>2</sup>) 平面形：長円形

長軸方向：N-50°-W

検出・掘り込み面：H-159の西壁面で覆土状の土の落ち込みが見られた。H-217の覆土中でⅢa層、Ⅲb層、Ⅲb>黄色土の落ち込みを検出した。掘り込み面はⅢb層中と思われる。重複関係：H-159・207・217・223・293・341と重複しており、H-159より古く、他より新しい住居跡である。

時期：I群D1類土器を伴う縄文時代早期中葉の時期のものと思われる。

床面：V層中に構築されている。ほぼ平坦であるが、やや軟質である。

壁：立ち上がりは急傾斜である。検出面からの壁高は、23cm～29cmである。

炉跡：焼土などは検出されていない。

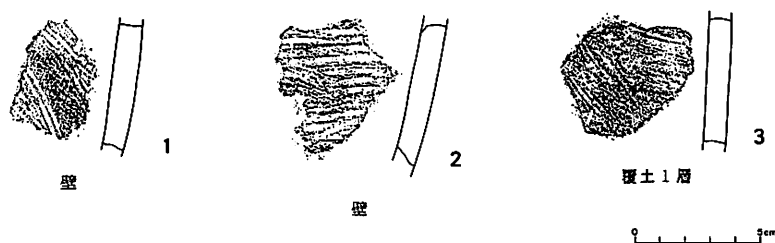
付属ピット：柱穴状小ピットは11個検出されている。HP-1～9はほぼ壁際をめぐるもので、直立し、杭状である。HP-10・11は主柱穴と考えられる。

遺物出土状況：出土遺物総数は19点である。この内訳は土器12点、石器7点である。北東壁で流れ込み状にI群D2類土器が2点、石錘1点が出土した。覆土中でI群D1類土器が8点、同D2類土器が1点、同E類土器が1点出土し、石器では石皿などが出土している。

覆土はⅢb層と黄色土がまじり合った土である(和泉田)。

土器(図Ⅲ-118 図版174-6)

すべてI群D2類の体部破片である。1・2は壁、3は覆土1層から出土した(森)。



図Ⅲ-118 H-219出土土器

H-220 (図Ⅲ-120 図版35-3 図版36-1)

位置：43-47・48 44-47・48 東→西へゆるやかに傾斜する標高45.56m～45.83mの緩斜面。

規模：(4.68m)／(4.40m)×4.40m／4.03m×0.22m 床面積：(16.33m<sup>2</sup>) 平面形：隅丸方形状

長軸方向：N-60°-W

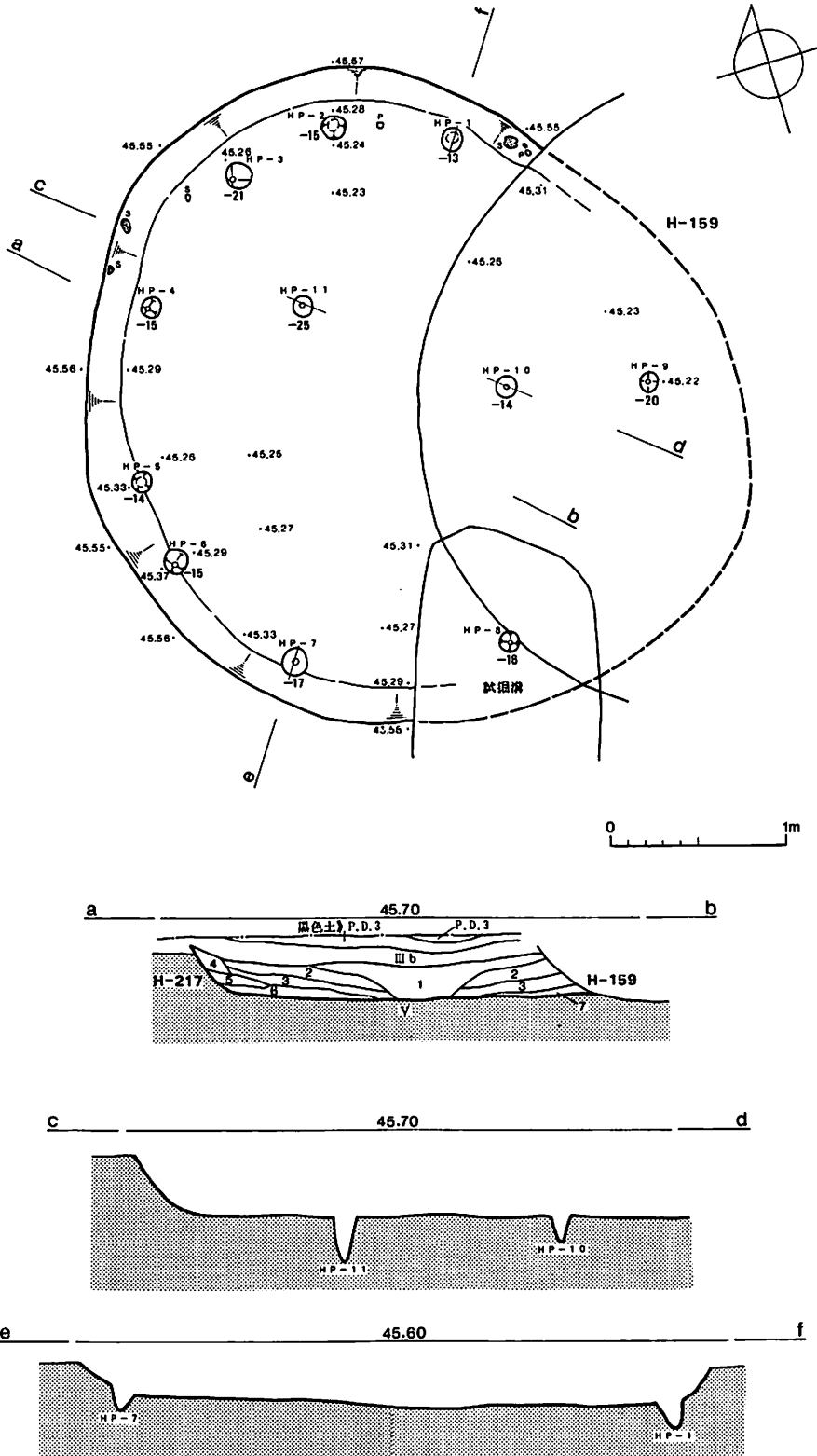
検出・掘り込み面：Ⅳ層直上でⅢb層>黄色土の半円形状の落ち込みを検出した。掘り込み面はⅢb層中と思われる。重複関係：H-171・190と重複しており、これらより古い住居跡である。

時期：周辺包含層出土の遺物などから、縄文時代早期中葉の時期のものと思われる。

床面：V層中に構築されている。東→西へゆるやかに傾斜し、やや凹凸があり、軟質である。

壁：立ち上がりはゆるやかな傾斜である。検出面からの壁高は、北東壁が10cm～16cm、南東壁が13cm～18cm、南西壁が16cm～19cmである。

H-219



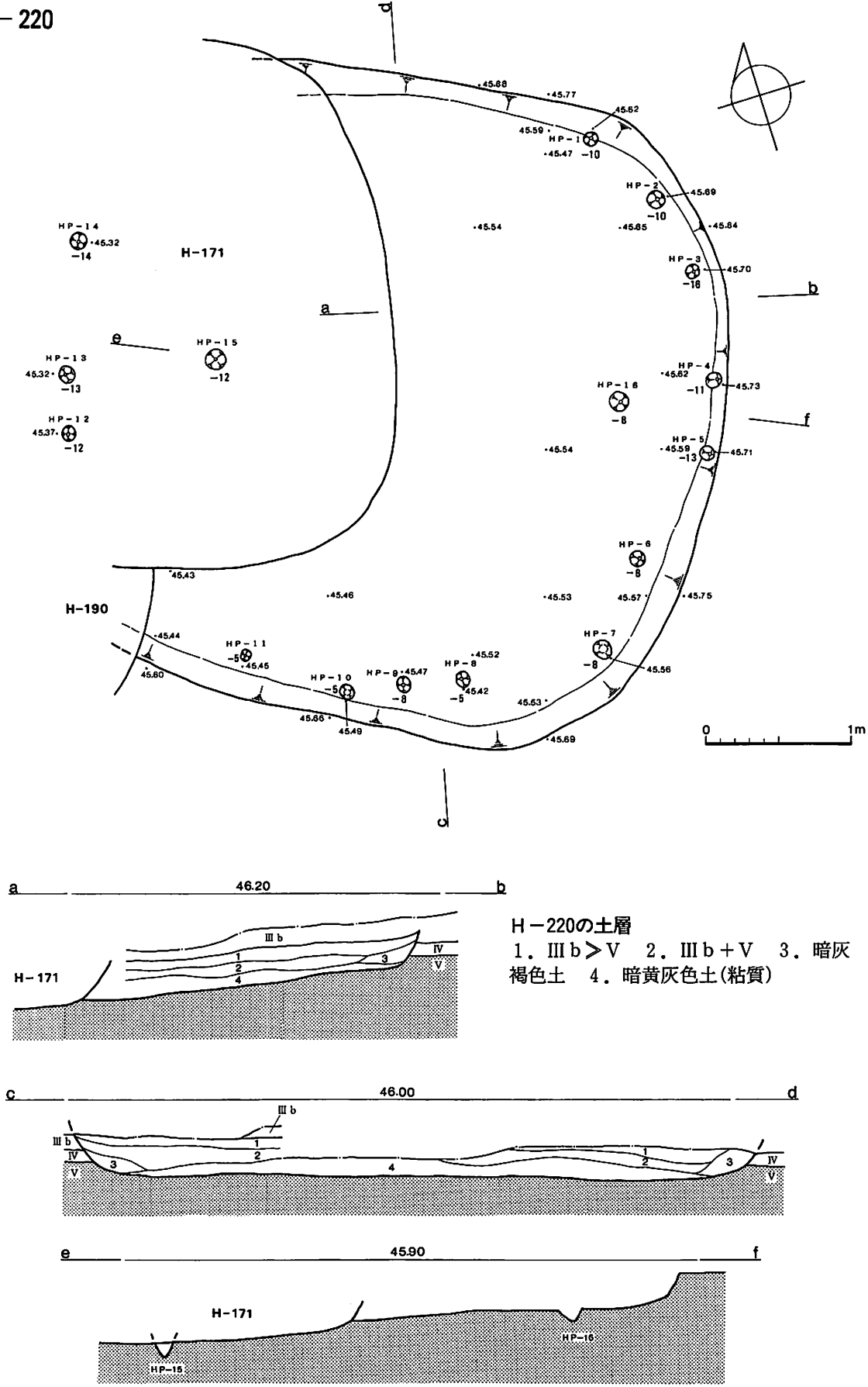
H-219の土層

1. Ⅲb+黒色土 2. Ⅲb>Ⅴ 3. Ⅲb>Ⅴ 4. 暗褐色土 5. 茶褐色土(軽石混入) 6. 茶黄色土(小石、軽石、黄色土が混入) 7. 暗茶灰色土(粘質)

図III-119 H-219実測図



H-220



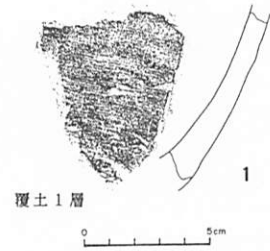
図Ⅲ-120 H-220実測図

炉跡：焼土などは検出されていない。

付属ピット：柱穴状小ピットは16個検出されている。HP-1～14は壁際をめぐるもので、直立している。全体に浅いが、杭状である。HP-12～15はH-171の構築面で検出されたものである。HP-15・16は主柱穴と考えられる。

遺物出土状況：遺物は覆土1層でI群土器が2点、剥片が1点出土しただけである。

覆土はIII b層と黄色土がまじり合った土である(和泉田)。



図III-121  
H-220出土土器

#### 土器 (図III-121 図版174-7)

1は底部に近い無文の破片で、I群と思われるが、細分類は判別できない(森)。

#### H-221 (図III-122 図版36-2・3)

位置：40-45・46・47 41-46 標高45.23m～45.32mの平坦地。

規模：6.80m/6.50m×——/——×0.19m 床面積：(27.30m<sup>2</sup>) 平面形・長軸方向：不明

検出・掘り込み面：IV層直上で黒味のある暗褐色土の広がりが見られ、III b>黄色土の落ち込みを検出した。掘り込み面はIII b層中と思われる。重複関係：H-162・164・188・233と重複しており、H-233より新しく、他より古い住居跡である。

時期：I群D1類土器を伴う縄文時代早期中葉の時期のものと思われる。

床面：V層を浅く掘り込んで構築されている。平坦で、堅い。

壁：立ち上がりはやや急傾斜である。検出面からの壁高は、東壁が12cm～15cm、南壁が7cm～12cmである。

炉跡：焼土などは検出されていない。

付属ピット：柱穴状小ピットは15個検出されている。HP-1～10・14・15は壁際をめぐるもので、直立し、杭状である。HP-14はH-188、HP-15はH-164の構築面でそれぞれ検出されたものである。HP-11～13は主柱穴と思われる。

遺物出土状況：遺物は覆土中でI群D1類土器15点、同D2類土器1点、同E類土器1点、II群土器1点、石匙1点、スクレイパー4点などが出土した。

覆土はIII b層と黄色土がまじり合った土である。

柱穴状小ピットの配列などから、6.80m×5.00m、長軸方向N-7°-E、平面形が隅丸長方形形状の住居跡が想定される(和泉田)。

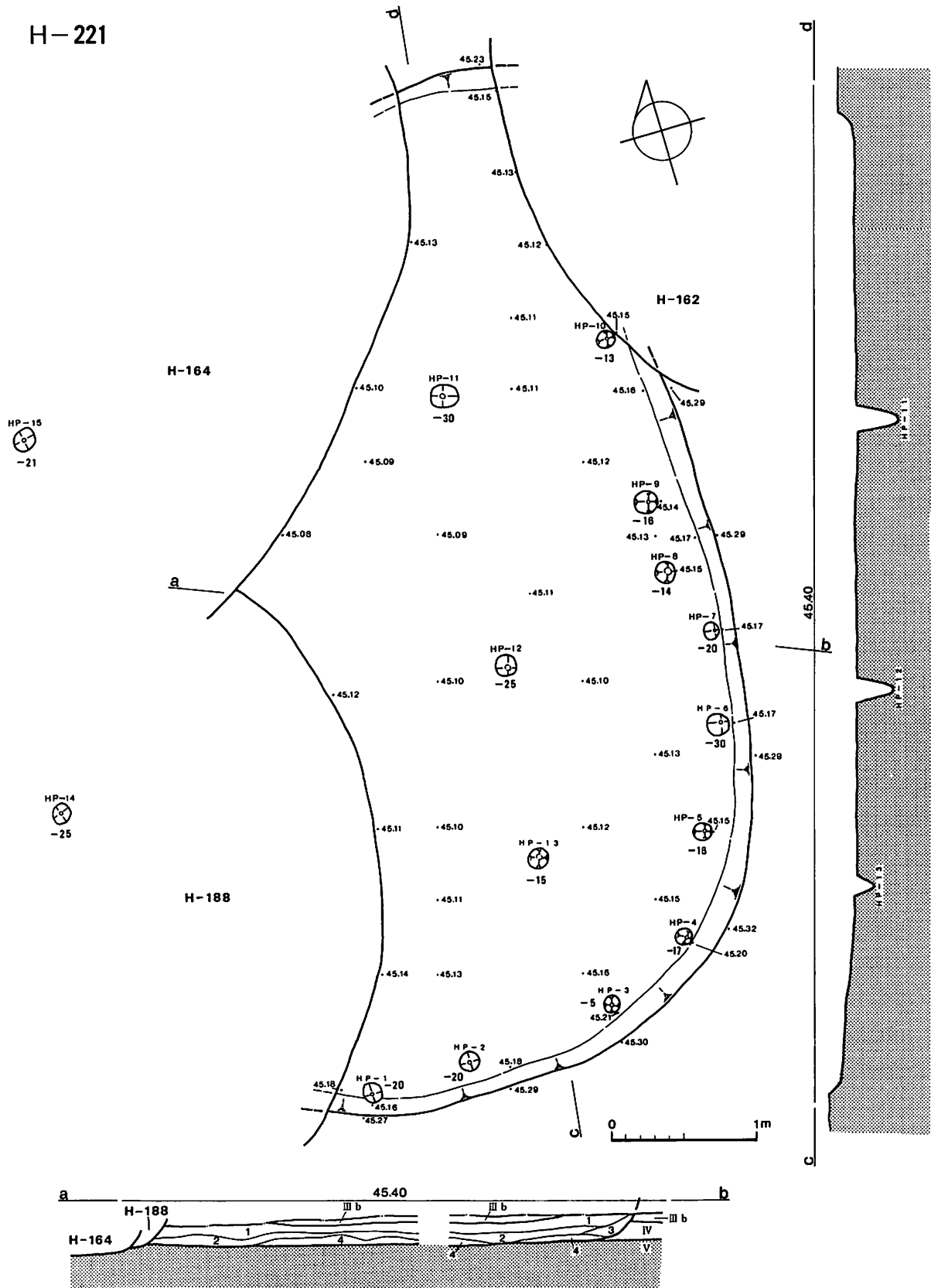
#### 土器 (図III-123 図版174-9)

1はI群D1類の体部破片で、覆土2層から出土した。2は覆土1層から出土したI群D2類の口縁部小破片。3は胎土に繊維を含有するII群土器、張り付けによる隆起帯がある。覆土2層から出土(森)。

#### 石器 (図III-123、図版174-8)

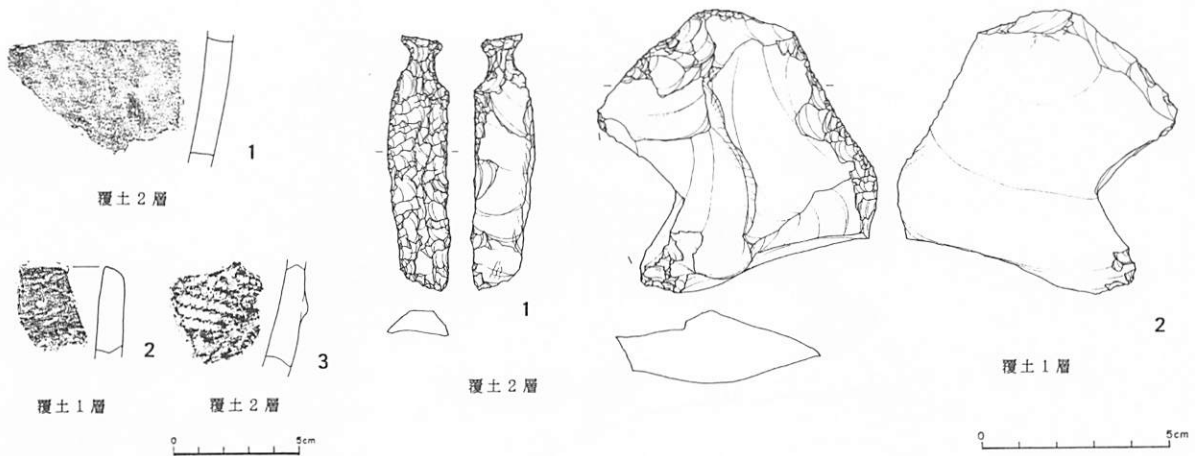
1は石匙。図右面には、素材剥片の先行剥離面をもつ。本資料は素材腹面に整形加工を施したものである。2はスクレイパー(宗像)。

H-221



H-221の土層  
1. III b > V 2. III b > V 3. III b + V (軟質) 4. 褐黄色土(やや粘質)

図Ⅲ-122 H-221実測図



図III-123 H-221出土遺物

H-222 (図III-124 図版37-1)

位置：39-44・45 40-44・45 標高45.14m～45.27mのほぼ平坦地。

規模・床面積・平面形・長軸方向：不明

検出・掘り込み面：IV層直上でIII b 黄色土の落ち込みを検出した。掘り込み面はIII b 層中と思われる。

重複関係：H-173・233と重複しており、H-173より古く、H-233より新しい住居跡である。

時期：周辺包含層出土の遺物などから、縄文時代早期中葉の時期のものと思われる。

床面：V層中を浅く掘り込んで構築されている。平坦であるが、軟質である。

壁：残存部分の立ち上がりはゆるやかな傾斜である。検出面からの壁高は、7cm～14cmである。

炉跡：焼土などは検出されていない。

付属ピット：柱穴状小ピットは17個検出されている。HP-7～13・15・16はH-173の構築面で検出されたものである。HP-1～13は壁際のめぐるもので、直立している。HP-14～17は支柱穴と考えられ、4本柱が想定される。

遺物出土状況：遺物は覆土2層からI群D2類土器4点、スクレイパー2点、礫1点が出土しただけである。

覆土はIII b 層と黄色土がまじり合った土である。

柱穴状小ピットの配列などから、4.80m×4.00m、長軸方向N-55°-E、平面形が隅丸長方形の住居跡が想定される(和泉田)。

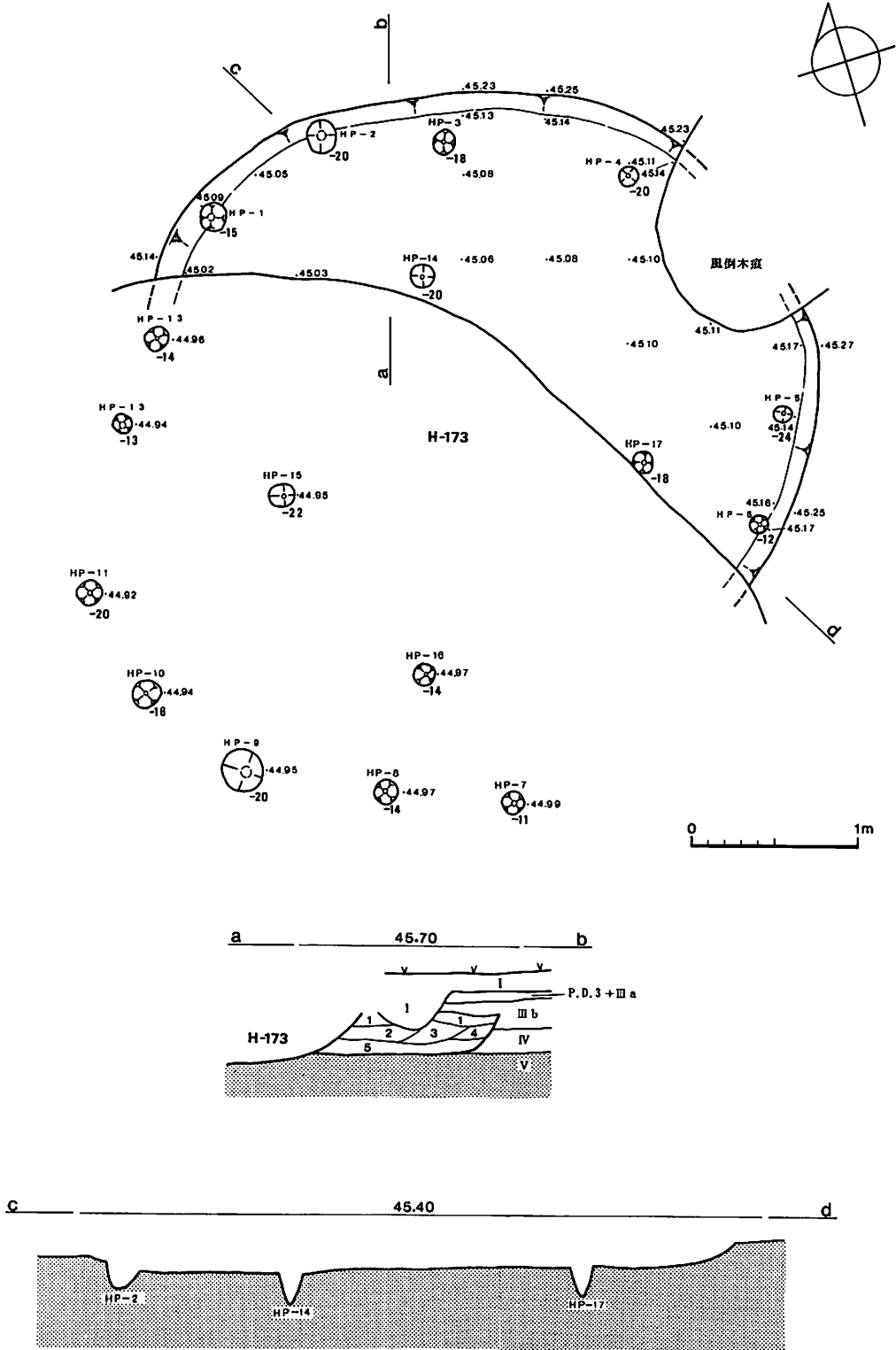
土器 (図III-125 図版174-10)

1はI群D2類土器で、条痕文の体部である。覆土2層から出土した(森)。

石器 (図III-125 図版174-11)

1・2はスクレイパーで、折れ面で接合する。1は1面の、2は3面の折れ面をもつ。本来は剥離端部に刃部をもっていた1点のスクレイパーが器体中央部で破損後、1の折れ面に高角度の刃部が再生される。2は最初の破損後、2度の折り取りを受ける(宗像)。

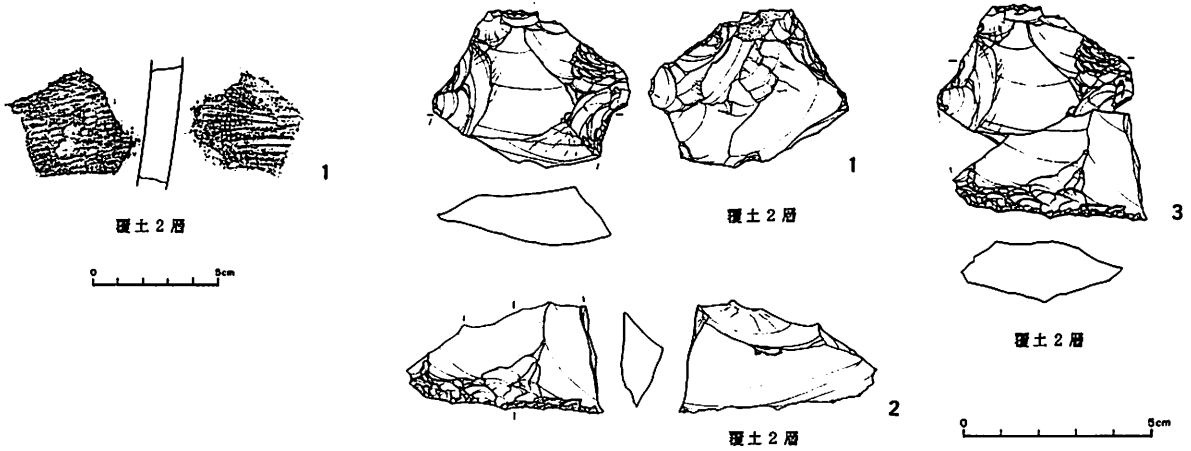
H-222



H-222の土層  
1. III b>V 2. ③に軽石が混入 3. III b>V 4. 黒褐色土>V(軟質)  
5. 黄褐色土(軟質)

図Ⅲ-124 H-222実測図





図III-125 H-222出土遺物

### H-223 (図III-126)

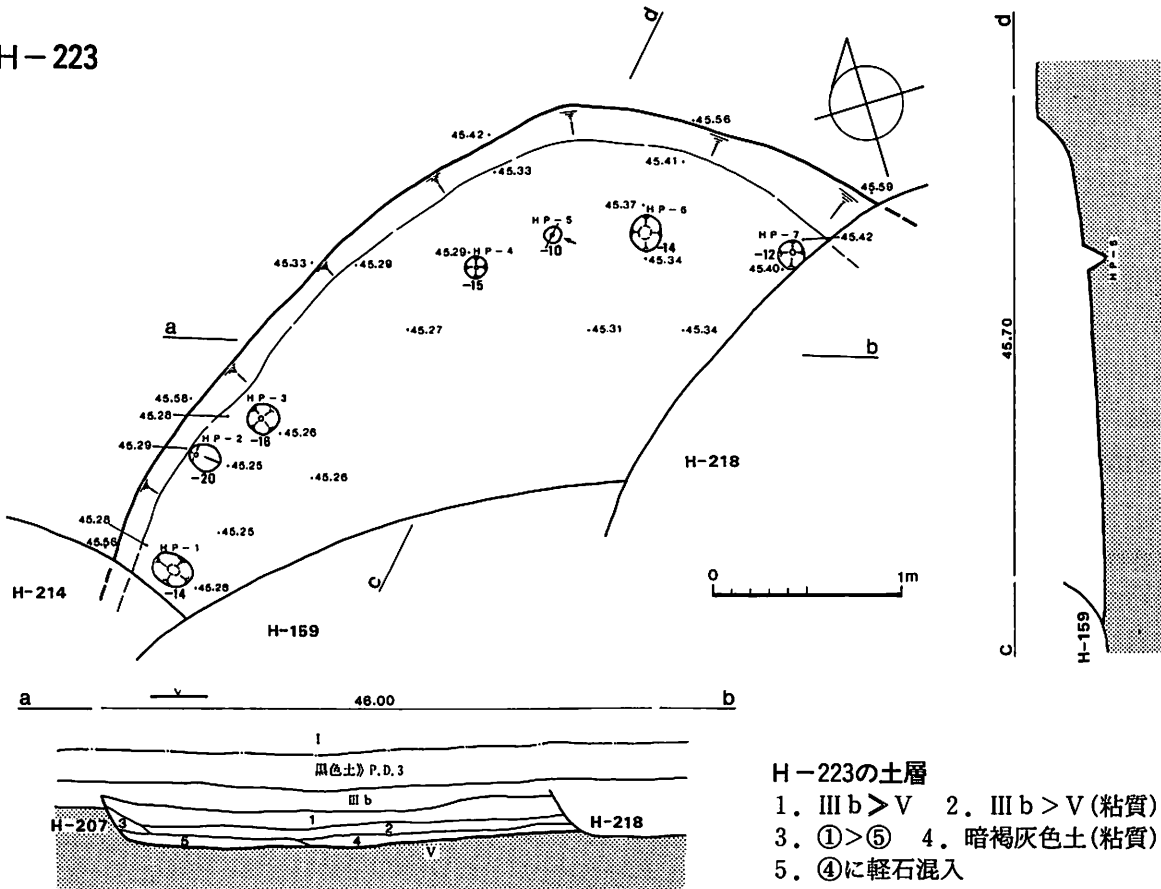
位置：43-44・45 44-44・45 標高45.56m前後の平坦地。

規模・床面積・平面形・長軸方向：不明

検出・掘り込み面：III b層中でIII a層の広がりが見られ、周辺の遺構覆土中でIII b>黄色土の落ち込みを検出した。掘り込み面はIII b層中と思われる。重複関係：H-159・207・218・219・319と重複しており、H-159・218・219より古く、他より新しい住居跡である。

時期：周辺包含層出土の遺物などから、縄文時代早期中葉の時期のものと思われる。

### H-223



図III-126 H-223実測図

床面：北東側はV層直上、西側はH-207の覆土中に構築されている。北東→南西へわずかに傾斜している。ほぼ平坦であるが、やや軟質である。

壁：立ち上がりは急傾斜である。検出面からの壁高は、北東壁が15cm前後、北壁が8cm前後、西壁が29cm前後である。

炉跡：焼土などは検出されていない。

付属ピット：柱穴状小ピットは7個検出されている。ほぼ壁際にあり、直立している。

遺物出土状況：覆土、床面付近から遺物は出土していない。

覆土はⅢb層と黄色土がまじり合った土である(和泉田)。

#### H-224 (図Ⅲ-129 図版37-2)

位置：41-50・51 42-50・51 規模・長軸方向：不明 床面積：(23.87m<sup>2</sup>) 平面形：楕円形？

検出・掘り込み面：H-182、H-183の調査中、H-182の北側、H-183の南東側に暗褐色土の落ち込みを確認した。重複関係：H-182・183、T-21と重複し、これらより古い住居跡である。

時期：周辺包含層出土の遺物などから、縄文時代早期中葉の時期のものと思われる。

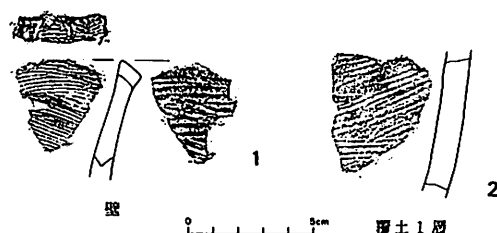
床面：V層を掘り込んで構築されている。ほぼ平坦である。

壁：全体に急に立ち上がる。検出面からの壁高は約20cmである。

炉跡：焼土などは検出されていない。

付属ピット：柱穴状小ピットは26個検出された。概して浅いものが多く、壁際のは内傾している。

遺物出土状況：遺物は覆土1層からI群D2類土器1点、同E類土器1点、剥片1点が出土しただけである(村田)。



図Ⅲ-127 H-224出土土器

#### 土器 (図Ⅲ-127 図版174-12)

1・2ともにI群D2類土器で、1は口縁波頂部の小破片。口唇端部と口唇両面に条痕文がある。壁から出土した。2は体部破片。やはり条痕文が施文される。覆土1層出土(森)。

#### H-225 (図Ⅲ-130 図版38-1)

位置：45-48・49 46-48 規模：4.55m/3.95m×3.80m/3.30m×0.18m

床面積：10.49m<sup>2</sup> 平面形：楕円形 長軸方向：N-41°-E

検出・掘り込み面：Ⅳ層上面で黒色土の落ち込みを検出した。掘り込み面は不明。

重複関係：H-240・266と重複しており、これらより新しい住居跡である。

時期：周辺包含層出土の遺物などから、縄文時代早期中葉の時期のものと思われる。

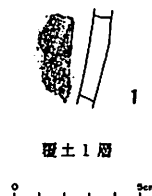
床面：V層を掘り込んで構築されている。ほぼ平坦で、西側にやや傾斜する。

壁：全体に急に立ち上がる。検出面からの壁高は、約20cmである。

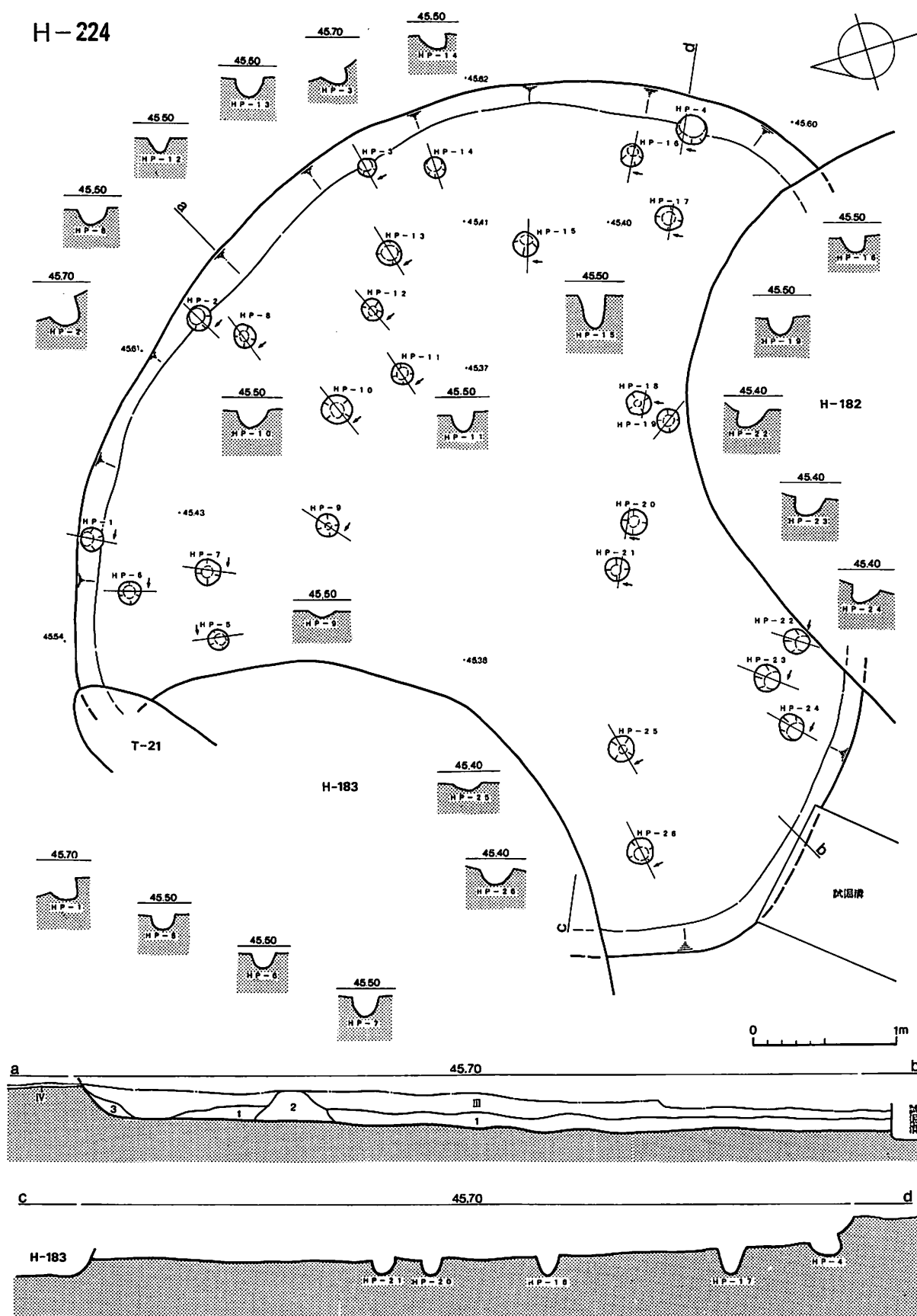
炉跡：焼土などは検出されていない。

付属ピット：柱穴状小ピットは24個検出された。HP-17・24は深く、支柱穴と思われるが、他は概して浅く、壁際のは内傾している。

遺物出土状況：遺物は覆土1層からI群D1類土器が1点、同D2類土器が1点出土しただけである(村田)。



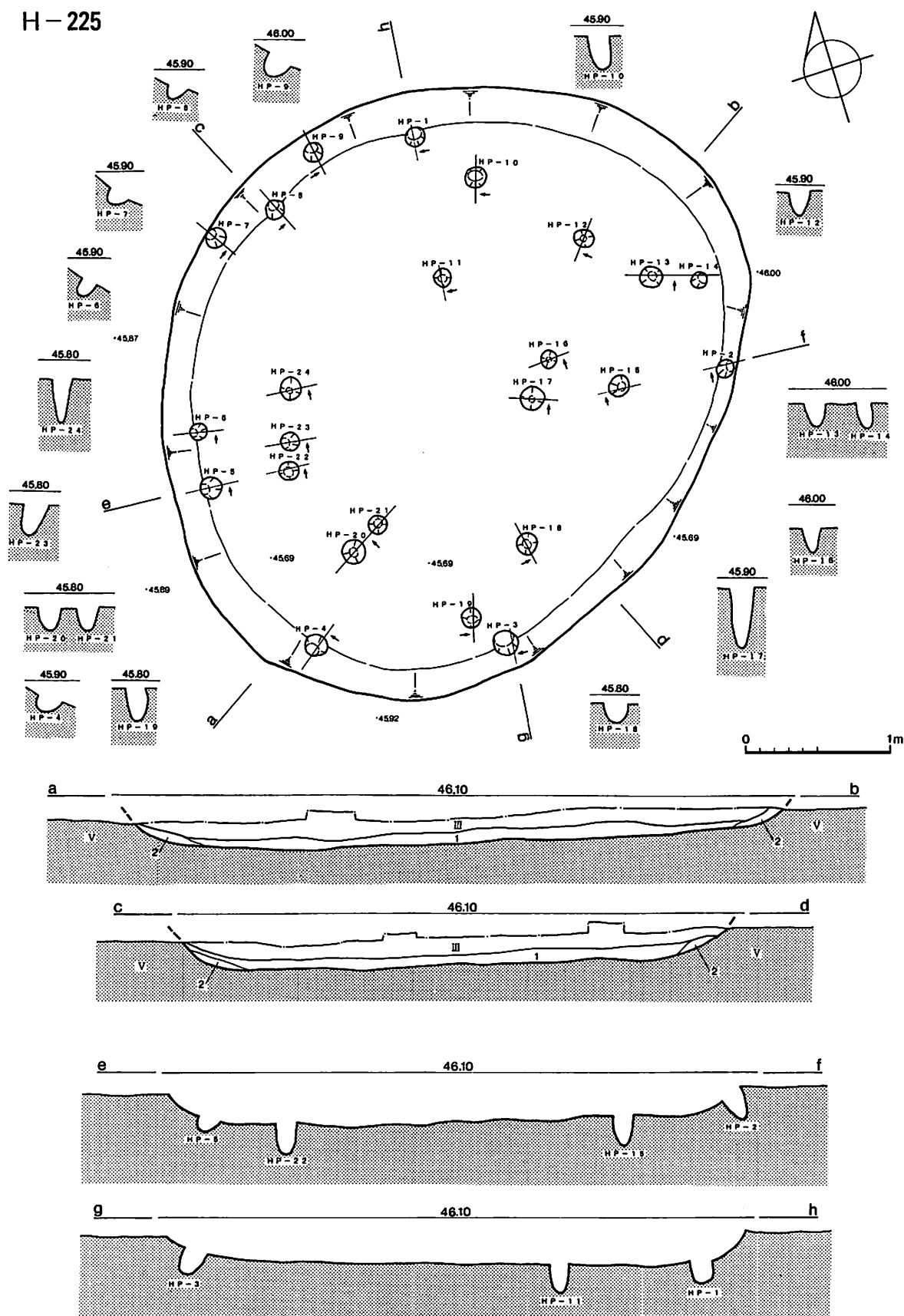
図Ⅲ-128  
H-225出土土器



H-224の土層

1. 暗黄褐色土(堅く、しまりあり) 2. 褐色土(粒子粗い) 3. 黄褐色土(IV、V層の崩落土)

図III-129 H-224実測図



## H-225の土層

1. 暗黄褐色土( $\phi 2 \sim 3$  mmの黄色スコリアを含む) 2. 黄褐色土(IV、V層の崩落土?)

図III-130 H-225実測図

## 土器(図III-128 図版174-13)

1は覆土1層から出土した体部の小破片。分類は困難であるが、I群D1類のものと思われる(森)。

## H-226(図III-132・133 図版38-2・3)

位置: 38-48・49 39-48・49 規模: 4.45m/4.10m×3.61m/3.35m×0.32m

床面積: 10.43m<sup>2</sup> 平面形: 不整円形 長軸方向: N-75°-W

検出・掘り込み面: IV層上面で黒色土の落ち込みを検出した。掘り込み面は不明。

重複関係: なし。

時期: I群D1類土器を伴う縄文時代早期中葉の時期のものと思われる。

床面: V層を掘り込んで構築されている。ほぼ平坦で、西側にやや傾斜している。 壁: 全体に急に立ち上がる。検出面からの壁高は約21cmである。

炉跡: 焼土などは検出されていない。

付属ピット: 柱穴状小ピットは17個検出された。概して浅く、壁際のはものは内傾している。

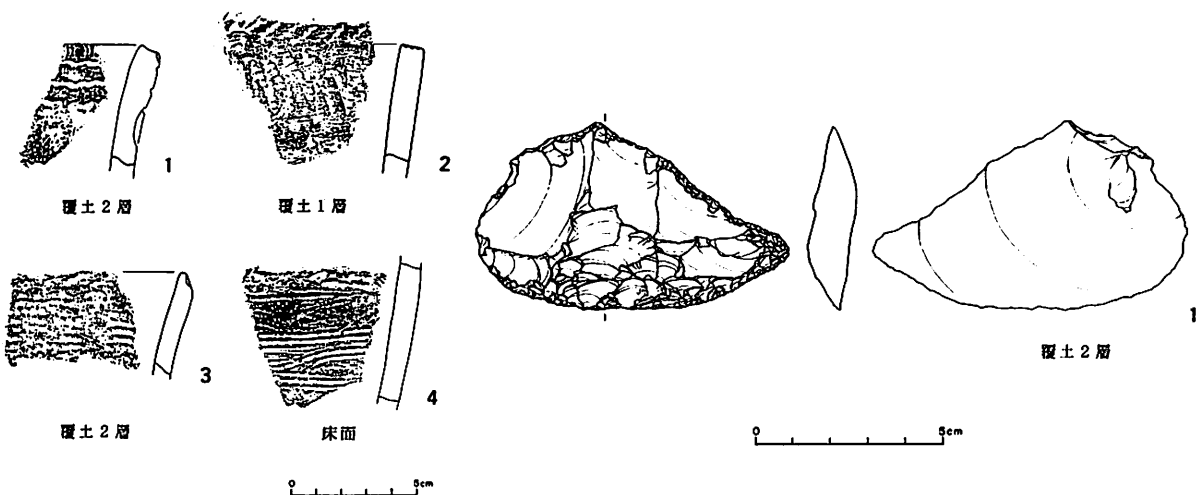
遺物出土状況: 出土遺物総数は22点である。この内訳は土器16点、石器6点である。土器はI群D1類7点、同D2類2点、同I類6点が出土しており、石器では石錘、スクレイパーが各1点出土したほかは剥片である(村田)。

## 土器(図III-131 図版174-14)

1・2はI群D1類土器。1は口縁部小破片で口唇端部外側の刻み目と、口唇部の沈線文がわずかに伺える。覆土2層から出土した。2はロッキングの手法による貝殻腹縁文が施文される土器で、胎土や器表面調整から本分類に含めた。覆土1層の出土。3・4はI群D2類土器で、3は覆土2層から出土した。押引文が施文される口縁部破片。4は体部破片で床面から出土したものである(森)。

## 石器(図III-131、図版174-15)

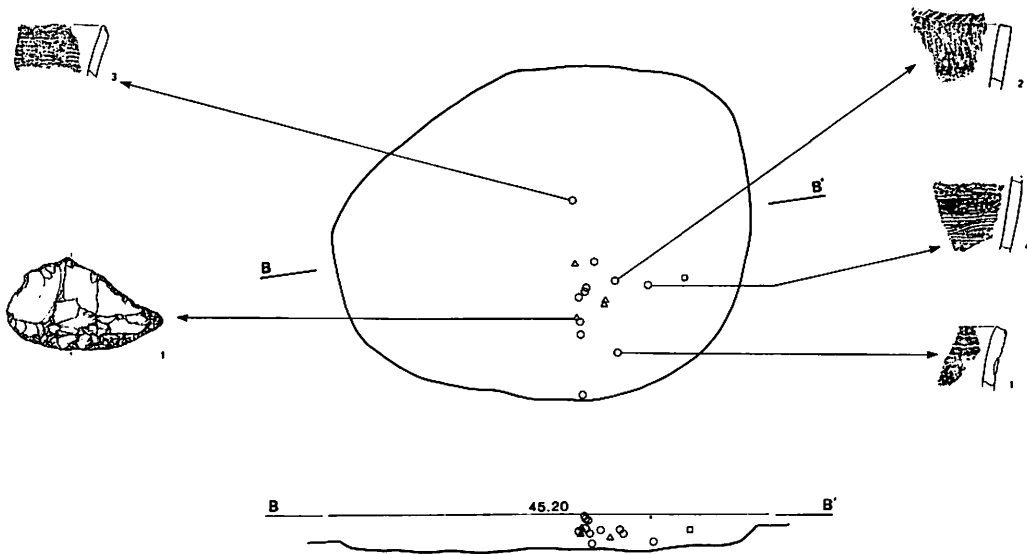
1はスクレイパー。刃部のほぼ全体に、刃こぼれ状の使用痕が見られる(宗像)。



図III-131 H-226出土遺物







図III-133 H-226出土遺物分布図

H-227 (図III-134・136 図版39-1・2)

位置：39-50 規模：4.31m/3.88m×3.65m/3.25m×0.45m 床面積：(9.91m<sup>2</sup>)

平面形：円形状 長軸方向：N-87°-W

検出・掘り込み面：I層除去後、P.D.3の広がり認められ、トレンチ調査で確認した。

重複関係：なし。

時期：I群D1類土器を伴う縄文時代早期中葉の時期のものと思われる。

床面：V層を掘り込んで構築されている。中央付近にくぼみがある。

壁：全体にゆるやかに立ち上がる。検出面からの壁高は約30cmである。

炉跡：焼土などは検出されていない。

付属ビット：柱穴状小ビットは9個検出された。概して浅い。

遺物出土状況：出土遺物総数は46点である。この内訳は土器41点、石器5点である。土器はI群D1、D2、E類が出土しており、床面に近い覆土からI群D1類土器の出土が多い。石器では石錐、砥石が各1点出土している。出土土器には、覆土2層と39-50(III) (図III-135-1)、覆土2層どうし(図III-135-2)、という接合関係が見られる(村田)。

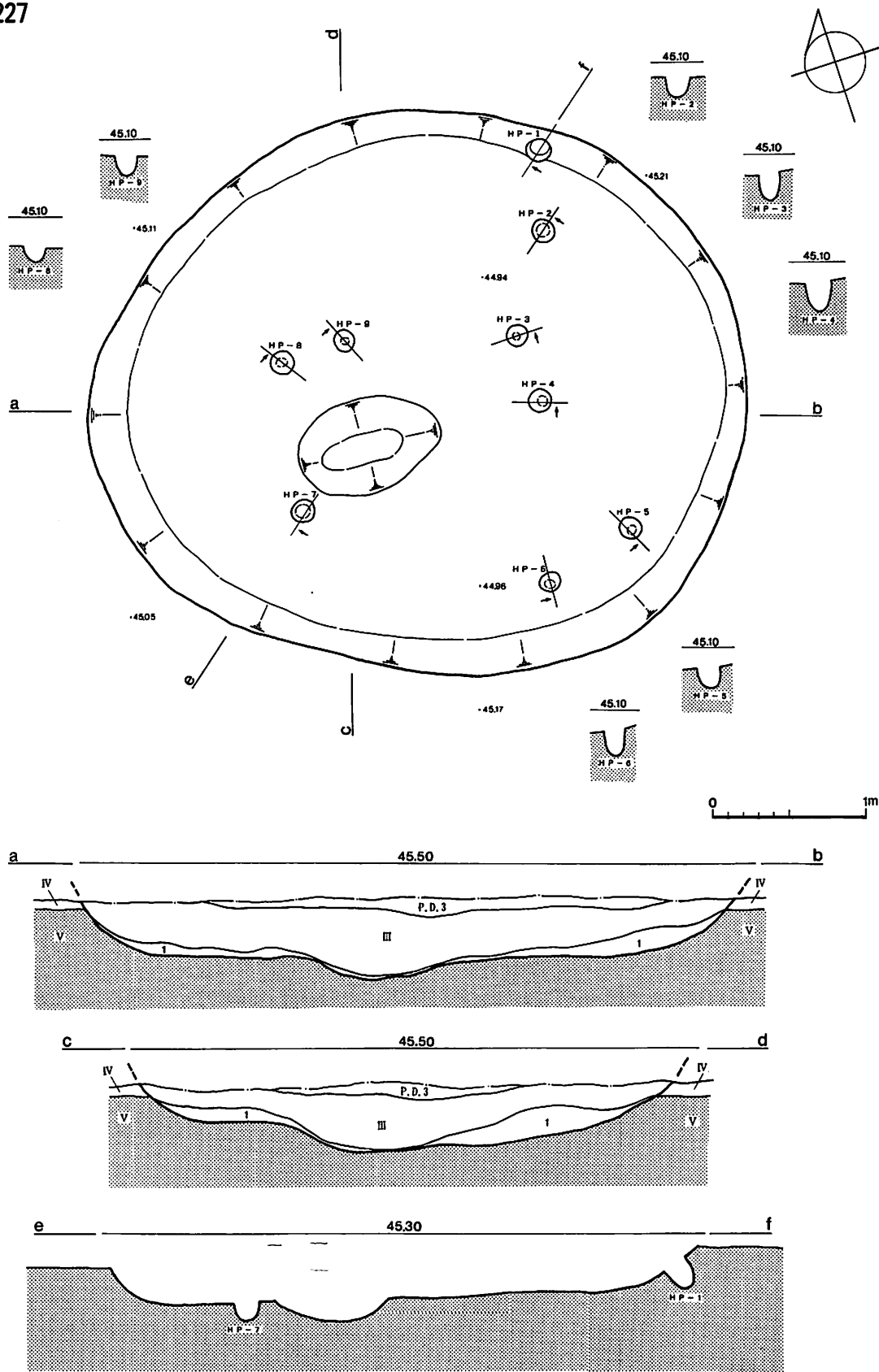
土器 (図III-135 図版175-1)

1は覆土2層と包含層III層出土の土器片が接合した口縁部の破片である。口唇端部断面が平坦な角形で、不規則な小波状である。口唇部には2条の沈線文と2列の刺突列が施文されるほか文様はなく、調整痕のみとなる。胎土は精良であるが、器表面は剝落が著しい。I群D1類としておく。2はやはり口縁部の破片で、I群D1類土器である。口唇端部外側に刻み目と、口唇部に沈線文がある。覆土2層から出土した(森)。

石器 (図III-135 図版175-2)

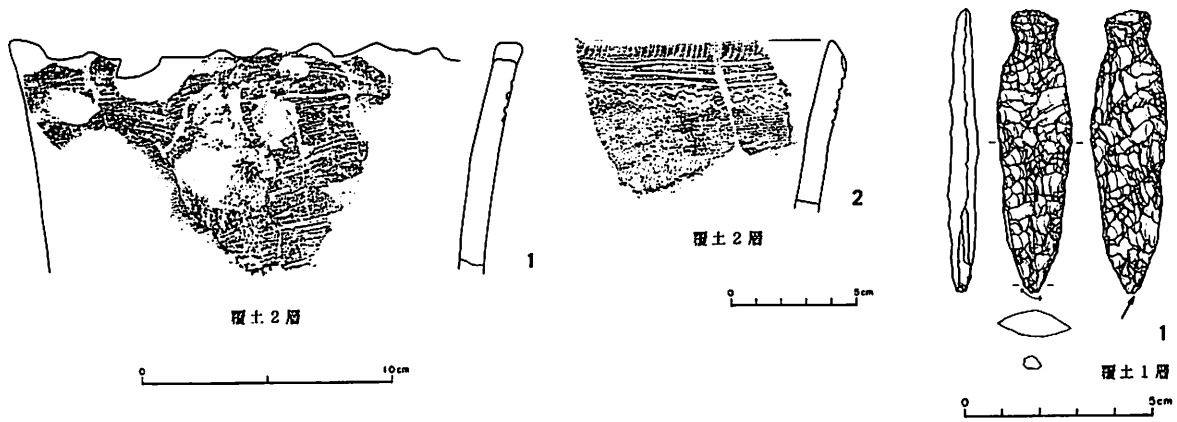
1は石錐。両面加工の石匙からの転用品である。先端付近には2面の槌状剝離面をもつ。回転作業時の押圧力による事故的な剝離面と思われる(宗像)。

H-227

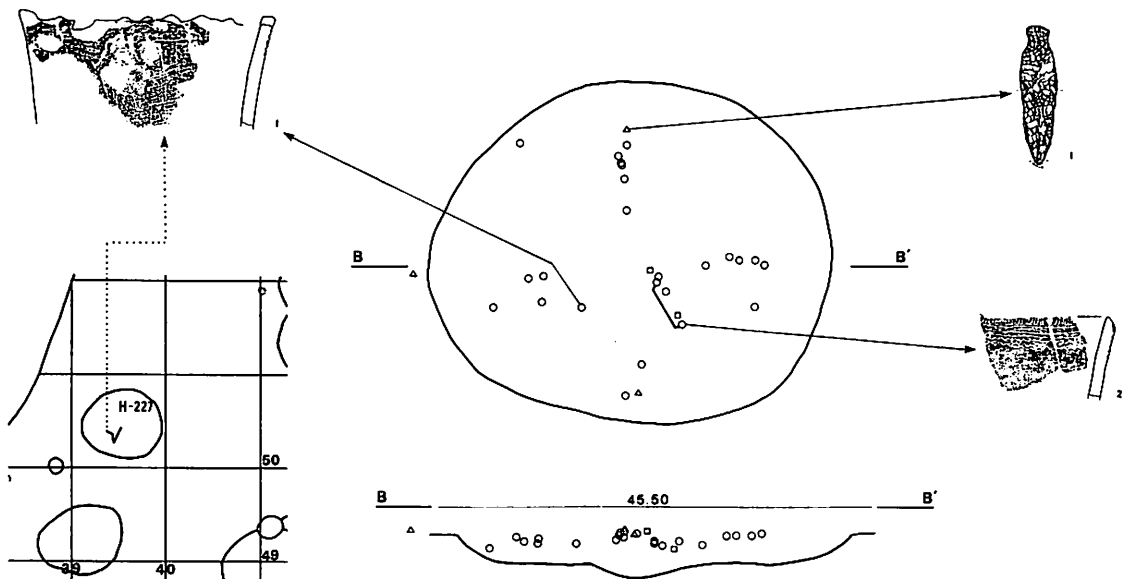


H-227の土層  
1. 暗褐色土(φ 5 mm前後の黄色スコリアがまじり、しまりある)

図Ⅲ-134 H-227実測図



図III-135 H-227出土遺物



図III-136 H-227出土遺物分布・接合図

H-228 (図III-137・139 図版39-3・4)

位置：40-43 41-43 標高45.20m前後の平坦地。

規模・床面積・平面形・長軸方向：不明

検出・掘り込み面：H-160の西壁面、H-163の北壁面で覆土状の土の落ち込みが確認された。IV層直上で黒味をもつ暗褐色土の広がりが見られ、III b>黄色土の落ち込みを検出した。掘り込み面はIII b層中と思われる。重複関係：H-160・163・169・173・235と重複しており、H-235より新しく、他より古い。

時期：I群D1類土器を伴う縄文時代早期中葉の時期のものと思われる。

床面：V層を浅く掘り込んで構築されている。平坦で、堅い。

壁：残存部分の立ち上がりはやや急傾斜である。検出面からの壁高は、西壁が12cm~22cm、東壁~北壁が10cm~16cmである。

炉跡：焼土などは検出されていない。

付属ピット：柱穴状小ピットは15個検出されている。HP-1~13は壁際をめぐるもので、直立してい



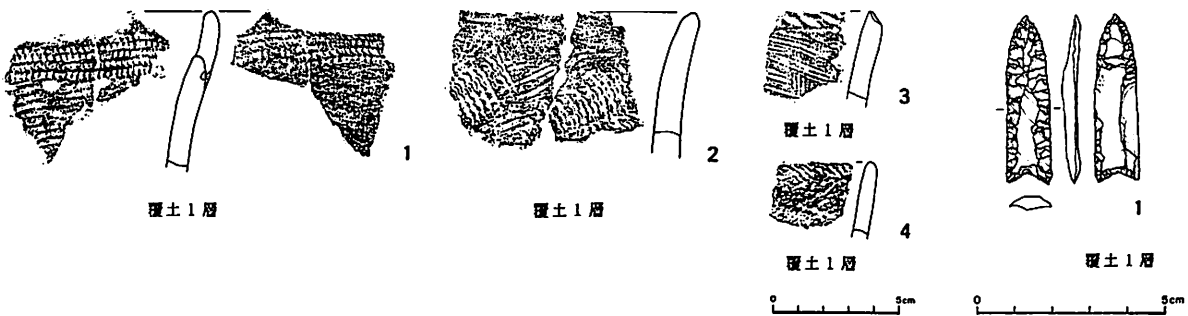


る。HP-12~14はH-163の構築面で検出されたものである。HP-14・15は支柱穴と考えられ、2本柱が想定される。

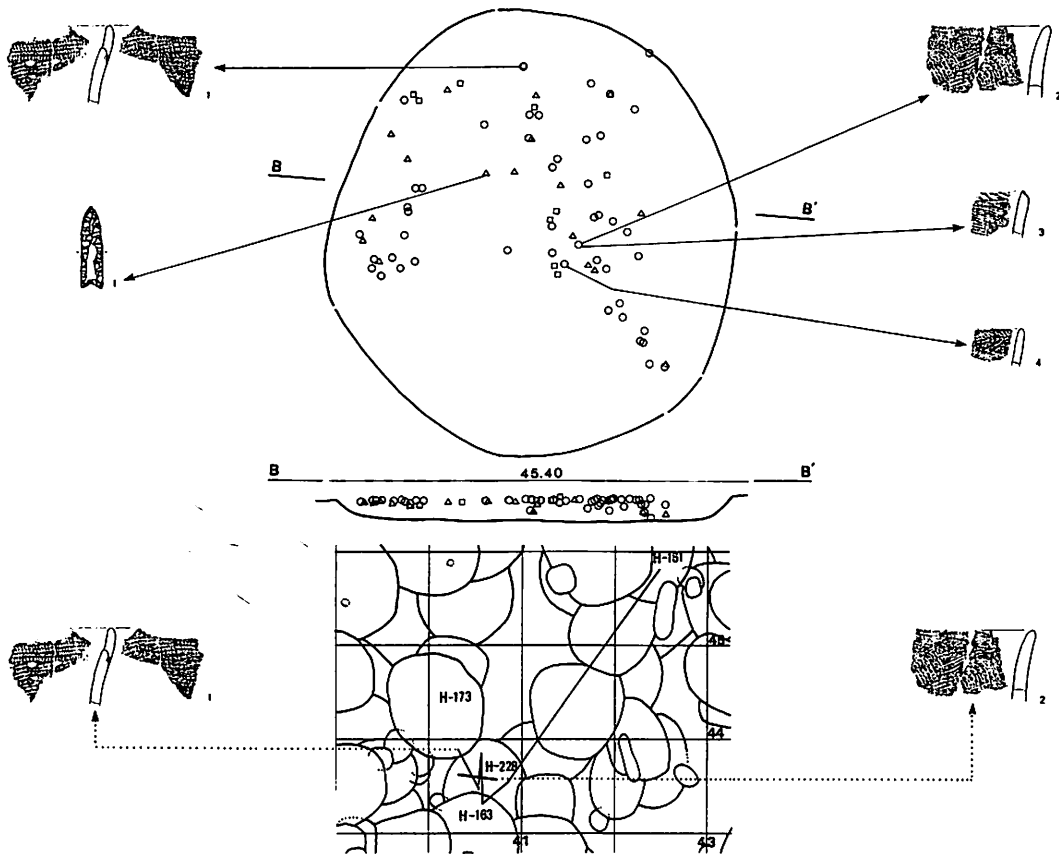
遺物出土状況：出土遺物総数は237点である。この内訳は土器204点、石器33点である。遺物はすべて覆土で出土したものである。I群D1類土器197点、同D2類土器6点、同E類土器1点で、石器では石鏃、石匙、すり石、石錘などが出土した。出土土器には、覆土1層とH-178覆土1層と40-43Ⅱ(図Ⅲ-138-1)、覆土1層と40-43Ⅱ(図Ⅲ-138-2)、覆土1層とH-248覆土1層、という接合関係が見られる。

覆土はⅢb層と黄色土がまじり合った土であるが、床直上には砂質で軽石などが混入する汚れた土が見られた。

柱穴状小ピットの配列などから、4.60m×4.30m、長軸方向N-10°-E、平面形が楕円形状の住居



図Ⅲ-138 H-228出土遺物



図Ⅲ-139 H-228出土遺物分布・接合図

跡が想定される(和泉田)。

土器(図Ⅲ-138 図版175-3)

1・2はⅠ群D1類土器、3・4はⅠ群D2類土器である。すべて覆土1層から出土した。1は波頂部で貝殻条痕を地文とし、口唇部に刺突列を内外面に密な押引文をめぐらせるものである。2は包含層Ⅲ層出土の土器片と接合した口縁部破片で、口唇端部の断面はやや丸味を帯び、わずかに外反する。3・4も口縁部の小破片で、口唇端部には棒状施文具による刻みがある(森)。

石器(図Ⅲ-138 図版175-4)

1は石鏃。背面加工後に腹面が加工される(宗像)。

H-229(図Ⅲ-140・143 図版40-1)

位置:38-41・42 39-41・42 標高45.19m前後の平坦地。

規模・床面積・平面形・長軸方向:不明

検出・掘り込み面:H-170の南壁面で覆土状の土の落ち込みを確認した。Ⅳ層直上で黒味をもつ暗褐色土の広がりが見られ、これを掘り下げてⅢb黄色土の落ち込みを検出した。掘り込み面はⅢb層中と思われる。重複関係:H-170・174・339と重複しており、H-339より新しく、他より古い。

時期:Ⅰ群D1類土器を伴う縄文時代早期中葉の時期のものと思われる。

床面:Ⅴ層を浅く掘り込んで構築されている。平坦で、やや軟質である。

壁:残存部分の立ち上がりは急傾斜である。検出面からの壁高は、23cm~27cmである。

炉跡:焼土などは検出されていない。

付属ピット:柱穴状小ピットは9個検出されている。HP-1~6は壁際をめぐるもので、杭状で深く、直立している。HP-7~9は主柱穴と考えられ、4本柱が想定される。

遺物出土状況:出土遺物総数は157点である。この内訳は土器108点、石器49点である。遺物はすべて覆土中から出土したものである。Ⅰ群D1類土器87点、同D2類土器9点、同E類土器7点、同G類土器3点で、縄文前期のものが2点出土している。石器では石錐、砥石、石錘などが出土している。出土土器には、覆土1層どうし(図Ⅲ-141-3)、覆土2層どうし(図Ⅲ-141-5)、という接合関係が見られる。

覆土はⅢb層と黄色土がまじり合った土である。覆土下層は軽石が混入し、汚れた混合土である。柱穴状小ピットの配列などから、4.80m×3.90m、長軸方向N-72°-W、平面形が隅丸長方形の住居跡が想定される(和泉田)。

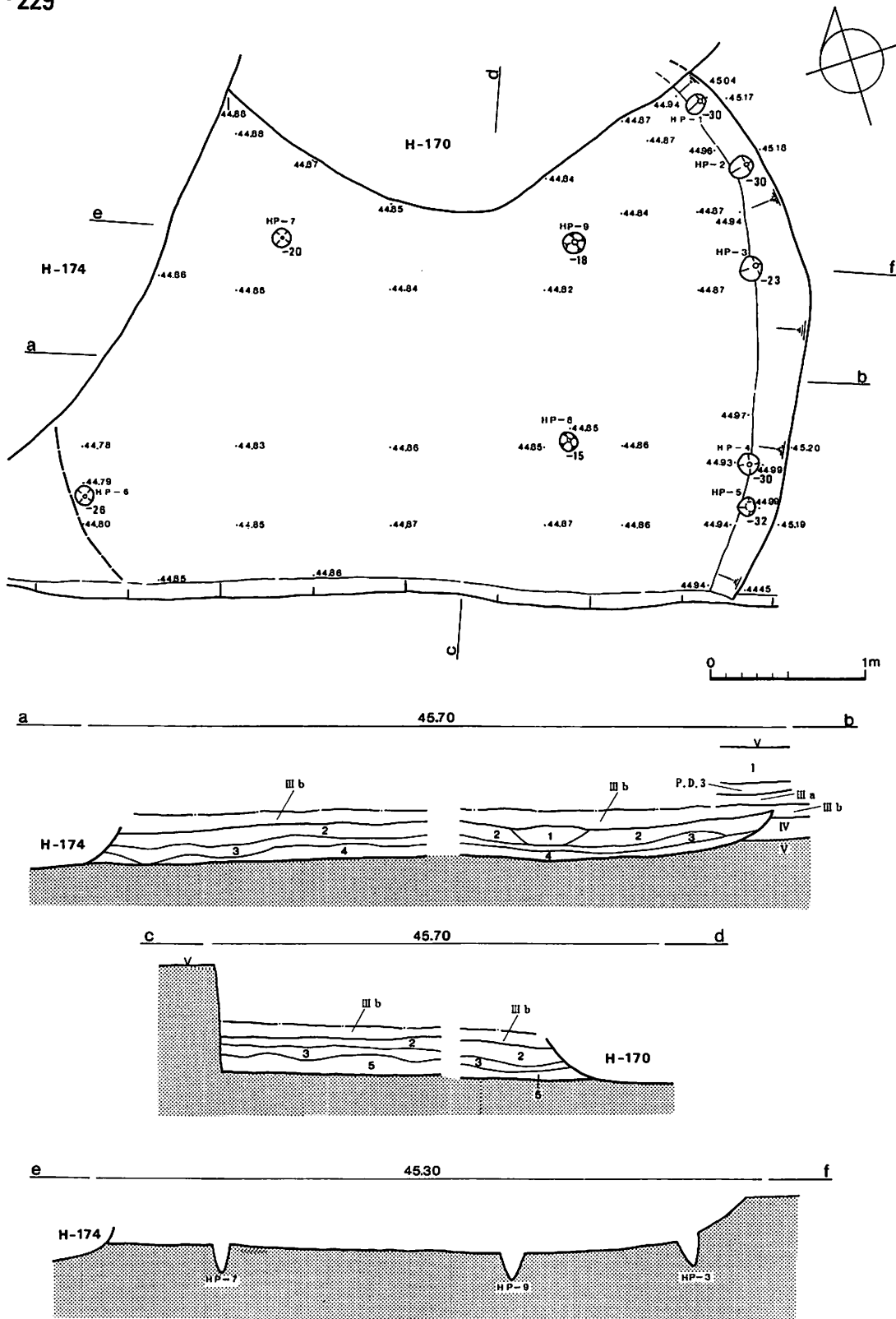
土器(図Ⅲ-141 図版175-5)

1~4はⅠ群D1類の口縁部破片である。1と2には口唇部に貝殻腹縁文が、3には爪形文、4には横走沈線と刺突列が交互に配される。1~3は覆土1層、4は覆土2層の出土である。5~7はⅠ群D2類の口縁部破片。いずれも貝殻条痕文を地文とし、口唇端部に、施文具を器面に対して斜位に押し付けた刺突列がめぐる。5には波頂部口唇と、波頂部の中間から垂下する2列の刺突列がある。6は胎土に繊維を含んでいる。7は覆土1層、ほか2点は覆土2層から出土した(森)。

石器(図Ⅲ-142 図版175-6)

1・2はスクレイパー。1は腹面の折れ面付近に。破損後の再加工痕が見られる(宗像)。

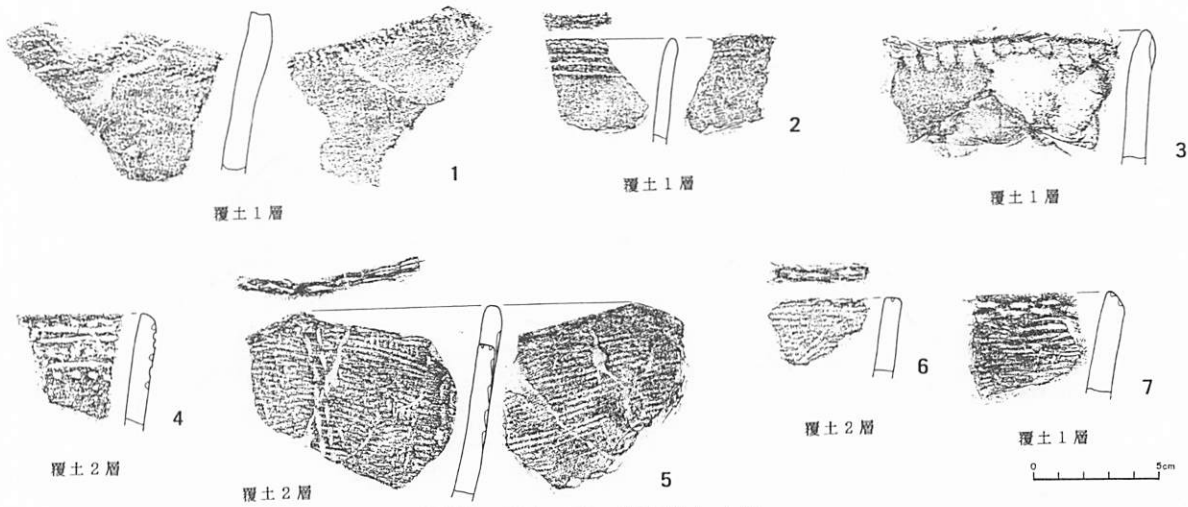
H-229



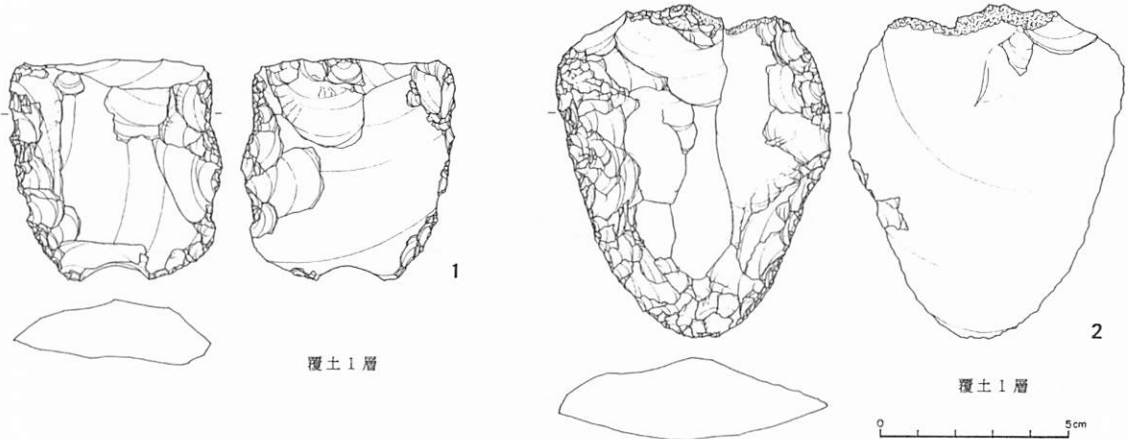
H-229の土層

1. III b + V (砂質、ブロック状) 2. III b > V 3. ②+④(混合土) 4. 暗灰黄色土(軽石混入、混合土) 5. 暗黄褐色土(砂質。軽石、小石混入。混合土)

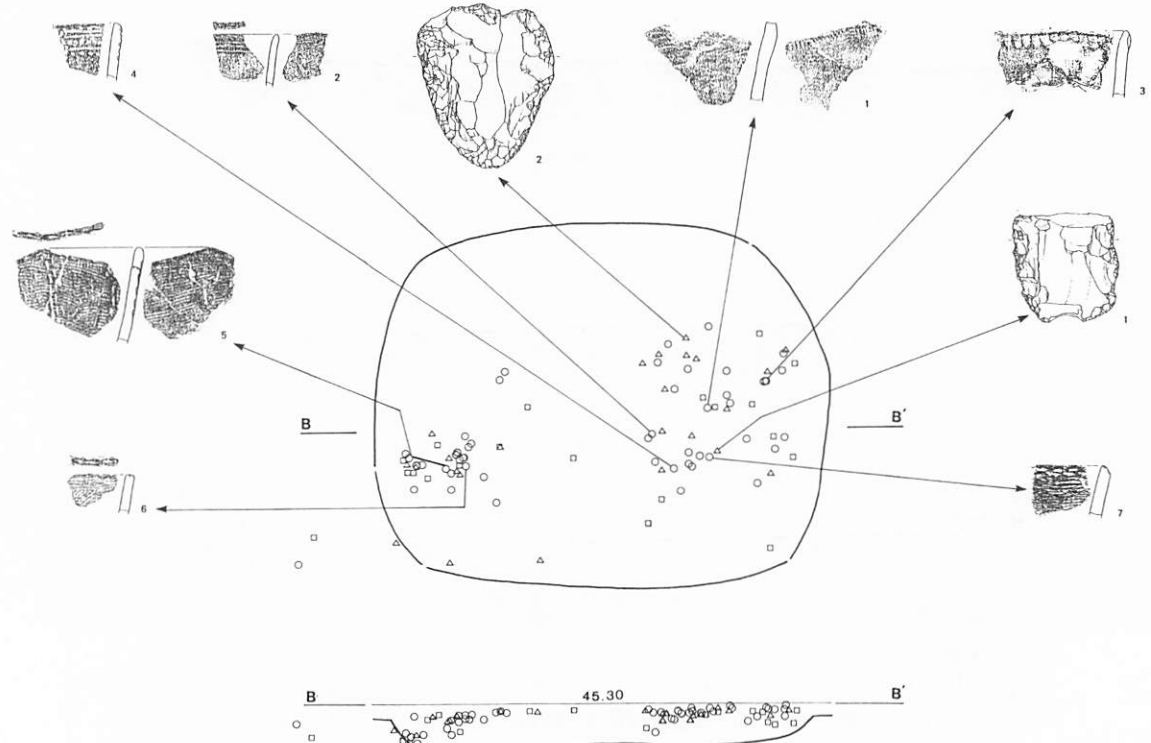
図Ⅲ-140 H-229実測図



図Ⅲ-141 H-229出土土器

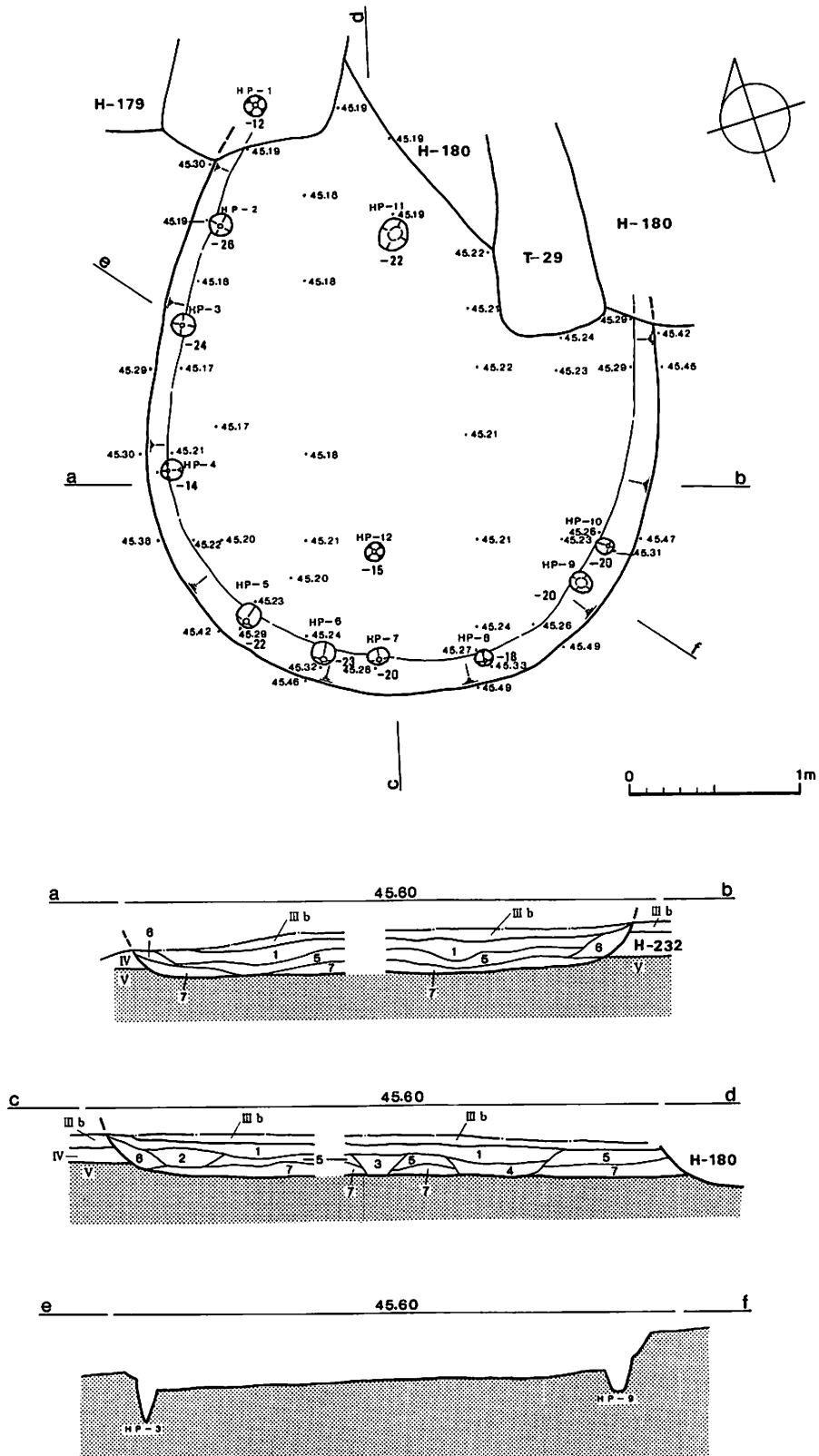


図Ⅲ-142 H-229出土石器



図Ⅲ-143 H-229出土遺物分布図

H-230



H-230の土層

1. Ⅲ b > V 2. Ⅲ b > V (砂質。軽石混入) 3. 黒褐色土 > V 4. 黄褐色土(軟質) 5. ①+⑦ 6. Ⅲ b + V (軟質) 7. 暗黄褐色土(砂質。混合土)

図Ⅲ-144 H-230実測図



H-230 (図Ⅲ-144 図版40-2・3)

位置：41-43 42-43 標高45.27m～45.49mのやや平坦地。

規模：(3.68m)／(3.50m)×2.96m／2.70m×0.24m 床面積：(7.68m<sup>2</sup>) 平面形：隅丸長方形状

長軸方向：N-24°-E

検出・掘り込み面：Ⅳ層直上で黒味をもつ暗褐色土の広がりが見られ、これを掘り下げⅢb＞黄色土の落ち込みを検出した。掘り込み面はⅢb層中と思われる。重複関係：T-29、P-132、H-180・232と重複しており、T-29、H-180より古く、H-232より新しいが、P-132との新旧関係は明瞭でない。

時期：周辺包含層出土の遺物などから、縄文時代早期中葉の時期のものと思われる。

床面：Ⅴ層を浅く掘り込んで構築されている。南東→北西へゆるやかに傾斜している。平坦で、堅い。

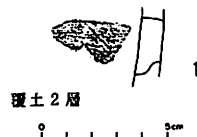
壁：立ち上がりは急傾斜である。検出面からの壁高は、西壁が9cm～12cm、南壁が16cm～22cm、東壁が13cm～23cmである。

炉跡：焼土などは検出されていない。

付属ピット：柱穴状小ピットは12個検出されている。HP-1～11は壁際をめぐるもので、直立している。HP-11・12は主柱穴と考えられ、2本柱が想定される。

遺物出土状況：遺物は覆土中からⅠ群土器が1点出土しただけである。

覆土はⅢb層と黄色土がまじり合った土であるが、軽石が少量混入し、砂質土である(和泉田)。



土器 (図Ⅲ-145 図版175-7)

1は覆土2層から出土した小破片である。僅かに貝殻条痕文が認められる。H-230出土土器Ⅰ群と思われるが細分類は困難である(森)。

図Ⅲ-145

H-230出土土器

H-231 (図Ⅲ-146 図版41-1)

位置：36-45・46 37-45・46 標高44.60m～44.76mのほぼ平坦地。

規模：(4.00m)／(3.70m)×3.50m／3.20m×0.24m 床面積：(9.53m<sup>2</sup>) 平面形：隅丸長方形状

長軸方向：N-20°-E

検出・掘り込み面：Ⅳ層直上で黒味をもつ暗褐色土の広がりが見られ、Ⅲb＞黄色土の落ち込みが検出された。掘り込み面はⅢb層中と思われる。重複関係：H-168・237と重複しており、H-168より古く、H-237より新しい住居跡である。

時期：周辺包含層出土の遺物などから、縄文時代早期中葉の時期のものと思われる。

床面：Ⅴ層を浅く掘り込んで構築されている。南→北へ若干傾斜している。中央部がやや高くなっているが、ほぼ平坦で、堅い。

壁：立ち上がりはゆるやかな傾斜である。検出面からの壁高は、北壁が12cm～21cm、西壁が10cm～20cm、南壁が16cm前後、東壁が18cm前後である。

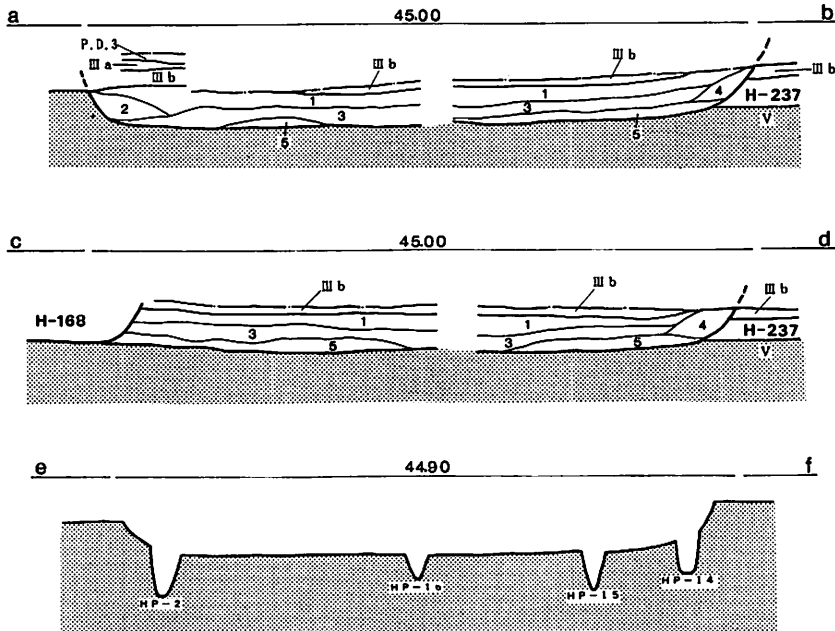
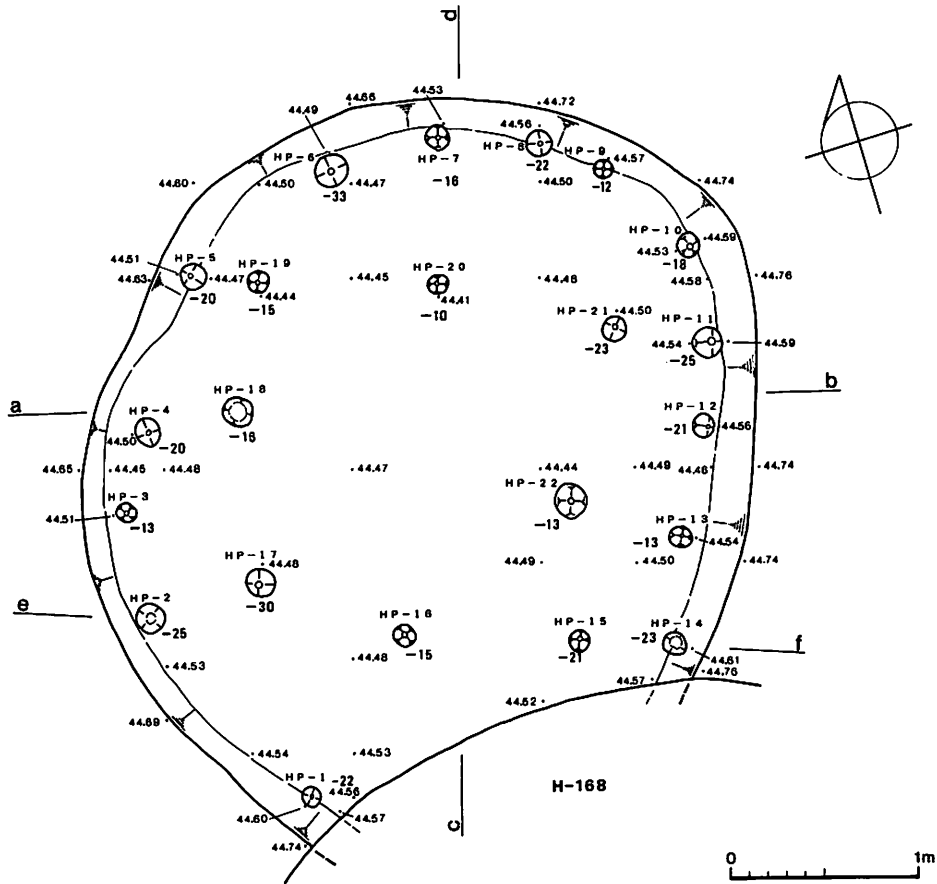
炉跡：焼土などは検出されていない。

付属ピット：柱穴状小ピットは22個検出されている。HP-1～14は壁際をめぐるもので、直立している。HP-15～22は主柱穴と考えられる。

遺物出土状況：遺物は覆土1層中からⅠ群D1類土器1点、同D2類土器3点が出土しただけである。

覆土はⅢb層と黄色土がまじり合った土である(和泉田)。

H-231



H-231の土層

1. Ⅲ b > V 2. Ⅲ b > V (軟質) 3. ②+⑤ 4. Ⅲ b + V 5. 暗黄褐色土(粘質、混合土)

図Ⅲ-146 H-231実測図

土器 (図Ⅲ-147 図版175-8)

1・2ともに覆土1層から出土したⅠ群D2類の体部破片である。2は繊維を含む(森)。



図Ⅲ-147 H-231出土土器

H-232 (図Ⅲ-148 図版41-2・3)

位置：42-43 標高45.45m～45.50mの平坦地。

規模・床面積・平面形・長軸方向：不明

検出・掘り込み面：Ⅳ層直上でⅢb>黄色土の落ち込みを検出した。掘り込み面はⅢb層中と思われる。

重複関係：P-86、H-180・230・236と重複しており、P-86、H-180・230より古い住居跡であるが、H-236との新旧関係は不明である。

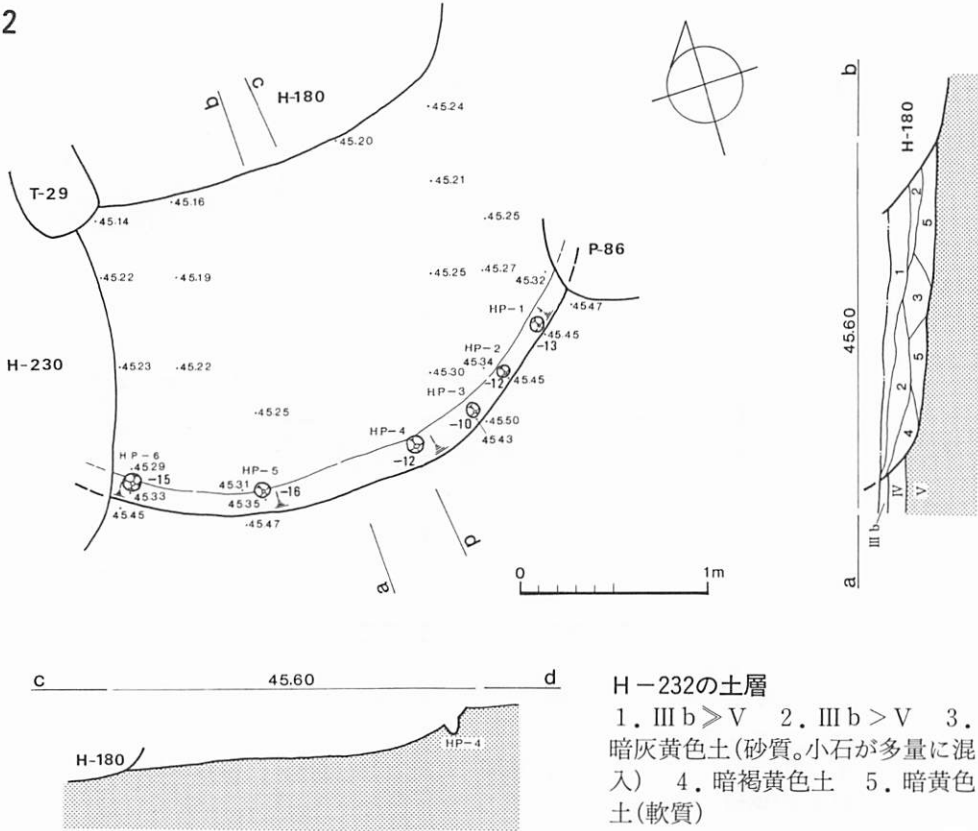
時期：周辺包含層出土の遺物などから、縄文時代早期中葉の時期のものと思われる。

床面：Ⅴ層中に構築されている。南→北へゆるやかに傾斜している。平坦であるが軟質。

壁：残存部分の立ち上がりはゆるやかな傾斜である。検出面からの壁高は、14cm～17cmである。

炉跡：焼土などは検出されていない。

H-232



図Ⅲ-148 H-232実測図

付属ピット：柱穴状小ピットは6個検出されている。すべて壁際と壁面にあり、杭状で直立している。  
遺物出土状況：覆土、床面付近から遺物は出土していない。

覆土はⅢb層と黄色土がまじり合った土であるが、覆土下層には小石、軽石を混入した混合土が見られた(和泉田)。

H-233 (図Ⅲ-149 図版42-1・2)

位置：34-45 40-45 標高45.14m～45.28mの平坦地。

規模：5.00m/4.80m×(4.30m)/—×0.16m 床面積：(15.20m<sup>2</sup>) 平面形：隅丸長方形状  
長軸方向：N-71°-E

検出・掘り込み面：H-188・221の南壁面で覆土状の土の落ち込みが見られ、IV層直上でⅢb>黄色土の落ち込みを検出した。掘り込み面はⅢb層中と思われる。 重複関係：H-188・221・222と重複しており、これらより古い住居跡である。

時期：周辺包含層出土の遺物などから、縄文時代早期中葉の時期のものと思われる。

床面：V層を浅く掘り込んで構築されている。平坦で、堅い。

壁：立ち上がりはゆるやかな傾斜である。検出面からの壁高は、西壁が5cm～11cm、東壁と南壁が10cm前後である。

炉跡：焼土などは検出されていない。

付属ピット：柱穴状小ピットは12個検出されている。HP-1～8は壁際をめぐるもので、直立している。HP-9～12は主柱穴と考えられ、4本柱が想定される。

遺物出土状況：遺物は覆土2層から石錘が1点出土しただけである。

覆土はⅢb層と黄色土がまじり合った土である(和泉田)。

H-234 (図Ⅲ-150 図版42-3・4)

位置：41-46・47 42-46・47 標高45.30m～45.39mの平坦地。

規模・床面積・平面形・長軸方向：不明

検出・掘り込み面：H-161の北壁面、H-162の南東壁面、H-208の南壁面で覆土状の土の落ち込みが見られ、IV層直上でⅢb>黄色土の落ち込みを検出した。掘り込み面はⅢb層中と思われる。

重複関係：H-161・162・178・208と重複しており、これらより古い住居跡である。

時期：周辺包含層出土の遺物などから、縄文時代早期中葉の時期のものと思われる。

床面：V層を浅く掘り込んで構築されている。南→北へ若干傾斜している。平坦で、軟質である。

壁：残存部分の立ち上がりはゆるやかな傾斜である。検出面からの壁高は、西壁が13cm～18cm、東壁が10cm～13cmである。

炉跡：焼土などは検出されていない。

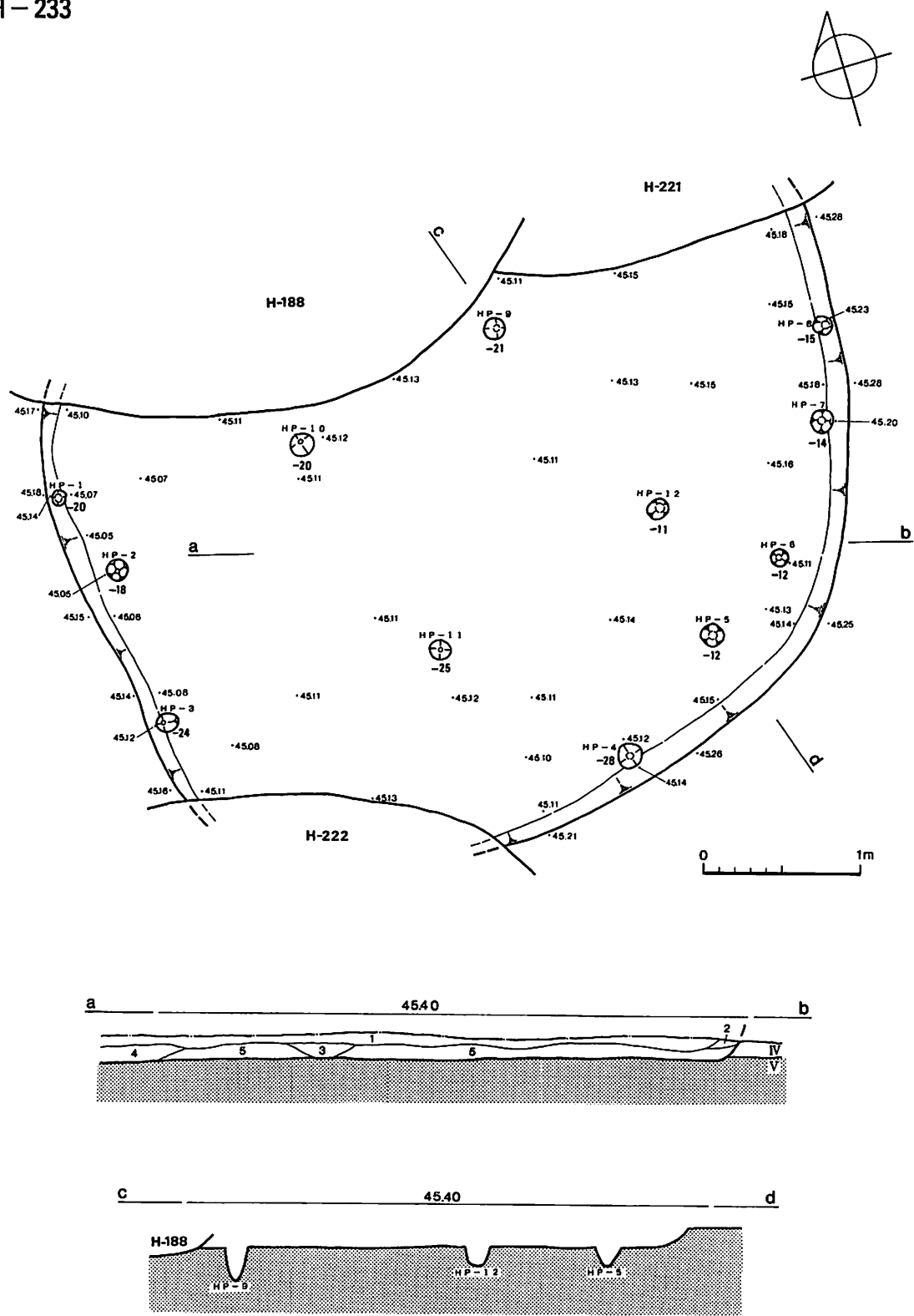
付属ピット：柱穴状小ピットは23個検出されている。HP-1～20は壁際をめぐるものと思われ、杭状で直立している。HP-21～23は主柱穴と考えられる。HP-4～7はH-161、HP-8～11はH-162、HP-12～20はH-208のそれぞれ構築面で検出されたものである。

遺物出土状況：覆土、床面付近から遺物は出土していない。

覆土はⅢb層と黄色土がまじり合った土であるが、軽石が混入している。

柱穴状小ピットの配列などから、6.60m×4.50m、長軸方向N-13°-W、平面形が隅丸長方形の住居跡が想定される。8本柱かと思われる(和泉田)。

H-233



H-233の土層  
1. III b + ⑤ 2. 黄褐色土 3. III b > V 4. 暗黄褐色土(砂質) 5.  
暗黄色土(粘質)

図Ⅲ-149 H-233実測図





H-235 (図Ⅲ-152 図版43-1・2)

位置：40-43・44 41-43・44 標高45.25m前後の平坦地。

規模・床面積・平面形・長軸方向：不明

検出・掘り込み面：H-160の北壁面、H-228の北東壁面で覆土状の土の落ち込みが見られ、Ⅳ層直上でⅢb>黄色土の落ち込みを検出した。掘り込み面はⅢb層中と思われる。重複関係：H-160・179・228と重複しており、これらより古い住居跡である。

時期：周辺包含層出土の遺物などから、縄文時代早期中葉の時期のものと思われる。

床面：Ⅴ層を浅く掘り込んで構築されている。ほぼ平坦で、軟質である。

壁：残存部分の立ち上がりはゆるやかな傾斜である。検出面からの壁高は、北西壁が10cm～13cm、南東壁が13cm～18cmである。

炉跡：焼土などは検出されていない。

付属ピット：柱穴状小ピットは18個検出されている。HP-1～7、15～18は壁際をめぐるもので、直立している。HP-15～18はH-179の構築面で検出されたものである。HP-12～14は支柱穴と考えられ、4本柱が想定される。

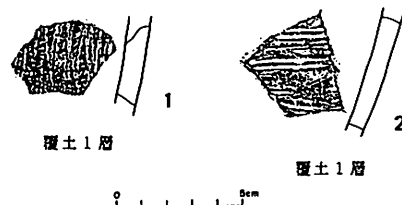
遺物出土状況：遺物は床面で礫が1点、覆土中でⅠ群D1、D2類土器、剥片が各1点出土した。

覆土はⅢb層と黄色土がまじり合った土であるが、東壁側には軽石が混入している。

柱穴状小ピットの配列などから、5.30m×4.00m、長軸方向N-68°-E、平面形が隅丸長方形の住居跡が想定される(和泉田)。

土器 (図Ⅲ-151 図版175-9)

1はⅠ群D1類、2はⅠ群D2類の体部破片である。いずれも覆土1層から出土した。1にはロッキングの手法を用いた貝殻腹縁文が、2には貝殻条痕があり、胎土には繊維が認められる(森)。



図Ⅲ-151 H-235出土土器

H-236 (図Ⅲ-153 図版43-3 図版44-1)

位置：42-43・44 標高45.33m～45.46mのほぼ平坦地。

規模・床面積・平面形・長軸方向：不明

検出・掘り込み面：Ⅳ層直上でⅢb>黄色土の落ち込みを検出した。掘り込み面はⅢb層中と思われる。重複関係：P-86、H-180・232と重複しており、P-86、H-180より古い住居跡である。H-232との新旧関係は不明である。

時期：周辺包含層出土の遺物などから、縄文時代早期中葉の時期のものと思われる。

床面：Ⅴ層中に構築されている。東→西へ傾斜している。平坦で、軟質。

壁：残存部分の立ち上がりは急傾斜である。検出面からの壁高は、16cm～24cmである。

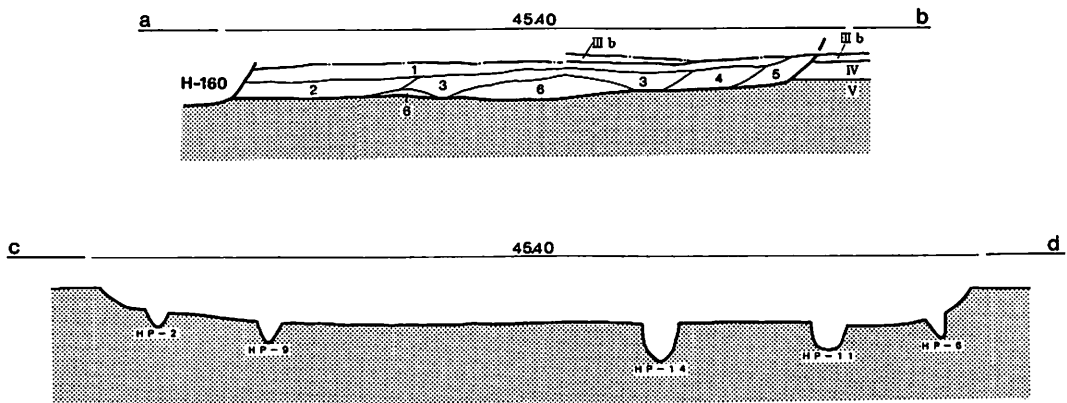
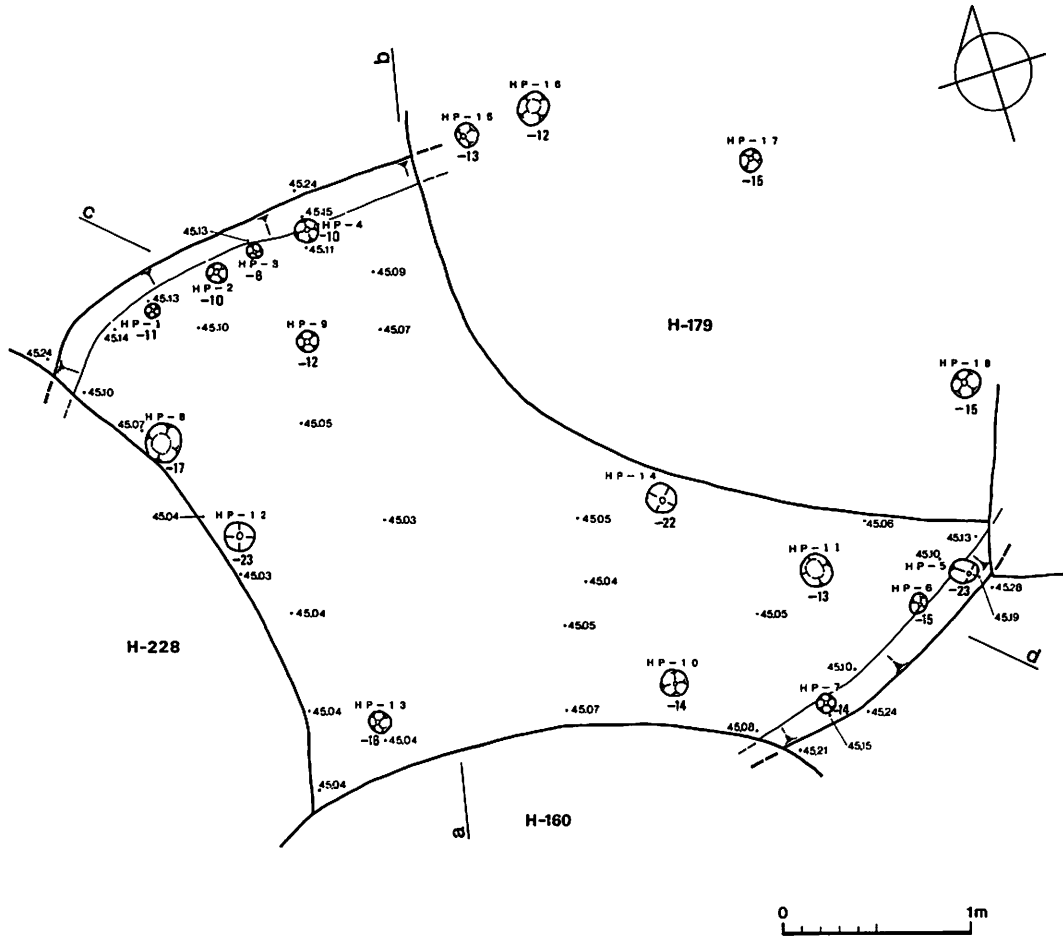
炉跡：焼土などは検出されていない。

付属ピット：柱穴状小ピットは8個検出されており、すべて壁際をめぐるものである。杭状で、直立している。

遺物出土状況：覆土、床面付近から遺物は出土していない。

覆土中・下層は軽石を多量に混入し、掘り揚げ土の流入土と思われる暗茶褐色系の混合土である(和泉田)。

H-235

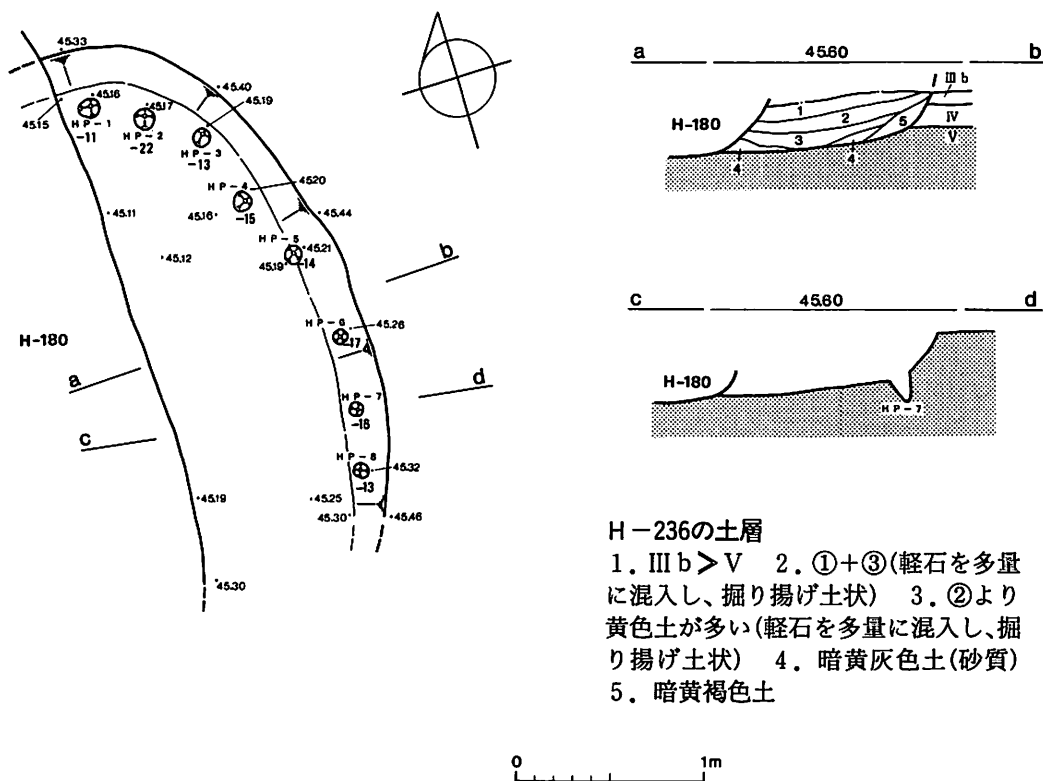


H-235の土層

1. III b > V 2. 暗黄褐色土(砂質。軽石状小石が混入) 3.
- ①+⑥ 4. 暗茶灰色土(砂質。軽石混入) 5. 暗茶灰色土(軟質) 6. 暗黄灰色土(砂質)

図III-152 H-235実測図

## H-236



図III-153 H-236実測図

H-237 (図III-154 図版44-2・3)

位置：37-45・46 東→西へ傾斜する標高44.58m～44.89mの緩斜面。

規模：5.60m/5.30m×——/——×0.26m 床面積：(15.34m<sup>2</sup>) 平面形：隅丸長方形状

長軸方向：N-42°-W

検出・掘り込み面：H-231の北西壁面、H-168の北東壁面で覆土状の土の落ち込みが見られた。III b層下層で黒味をもつ暗褐色土の落ち込みを検出した。掘り込み面はIII b層中と思われる。

重複関係：H-168・231・309と重複しており、H-309より新しく、H-168・231より古い住居跡である。

時期：周辺包含層出土の遺物などから、縄文時代早期中葉の時期のものと思われる。

床面：V層中に構築されている。南東→北西へやや傾斜している。ほぼ平坦で、堅い。

壁：立ち上がりは、西壁はゆるやかな傾斜、東壁は急傾斜である。検出面からの壁高は、北西壁が12cm前後、北東壁が21cm～26cm、南東壁が17cm～21cmである。

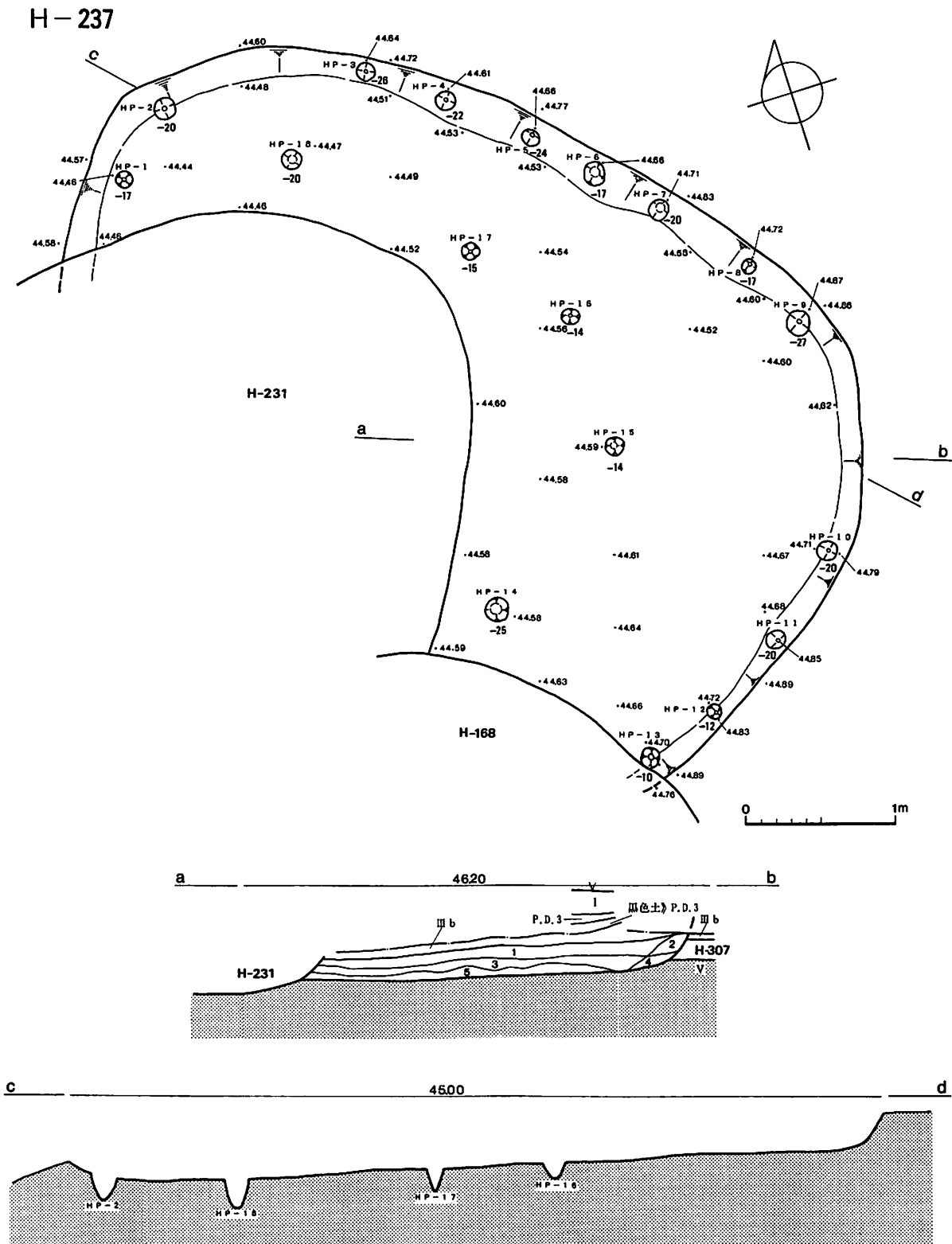
炉跡：焼土などは検出されていない。

付属ピット：柱穴状小ピットは18個検出されている。HP-1～13は壁際、壁面にあり、直立している。

杭状で全体に深い。HP-14・18は主柱穴と思われる。

遺物出土状況：覆土上のIII b層中で遺物は出土しているが、覆土、床面付近からは出土していない。

覆土はIII b層と黄色土がまじり合った土である(和泉田)。



H-237の土層

1. III b > V 2. III b > V (軟質) 3. ①+② 4. 黄褐色土 5. 暗黄色土(軟質)

図III-154 H-237実測図

H-238 (図Ⅲ-156 図版44-4 図版45-1)

位置: 35-42・43 36-42・43 北東→南西へゆるやかに傾斜する標高44.52m~44.77mの緩斜面。

規模: (4.64m)/(4.40m)×3.51m/3.29m×0.24m 床面積: (11.42m<sup>2</sup>) 平面形: 長円形状

長軸方向: N-24°-W

検出・掘り込み面: Ⅲb層中でⅢa>P.D.3の広がりが見られ、Ⅳ層直上でⅢb>黄色土の落ち込みを検出した。掘り込み面はⅢb層中と思われる。重複関係: H-175・318と重複しており、H-175より古く、H-318より新しい住居跡である。

時期: I群D1類土器を伴う縄文時代早期中葉の時期のものと思われる。

床面: V層を浅く掘り込んで構築されている。南東→北西へ若干傾斜している。やや凹凸があり、軟質の部分と堅い部分がある。

壁: 立ち上がりはゆるやかな傾斜である。検出面からの壁高は、南西壁が11cm~17cm、南東壁が15cm~22cm、北東壁が11cm~23cmである。

炉跡: 焼土などは検出されていない。

付属ピット: 柱穴状小ピットは13個検出されている。HP-1~9は壁際をめぐるもので、直立している。HP-9はH-175の構築面で検出されたものである。HP-10~13は支柱穴と考えられる。

遺物出土状況: 遺物は床面で石皿が2点出土し、これらは接合した。覆土1層でI群D1類土器が4点、同D2類土器が1点出土しただけである。

覆土はⅢb層と黄色土がまじり合った土であるが、覆土中・下層には軽石が多い(和泉田)。

土器 (図Ⅲ-155 図版175-10)

1はI群D1類、2はI群D2類土器である。いずれも覆土1層から出土した。1は器表面の剝落が激しい口縁部破片で、口唇端部には貝殻腹縁文が施文されている。2は体部破片で条痕文がある(森)。



図Ⅲ-155 H-238出土土器

H-239 (図Ⅲ-157 図版45-2・3)

位置: 36-41 37-41・42 標高は44.65m~44.78mの平坦地。

規模・床面積・平面形・長軸方向: 不明

検出・掘り込み面: Ⅲb層中で黒味のある暗褐色土の広がりが見られ、Ⅳ層直上でⅢb>黄色土の落ち込みを検出した。掘り込み面はⅢb層中と思われる。重複関係: P-101・117、H-213・342と重複しており、P-101・117、H-213より古く、他より新しい住居跡である。

時期: 周辺包含層出土の遺物などから、縄文時代早期中葉の時期のものと思われる。

床面: V層中に構築されている。平坦であるが、軟質。

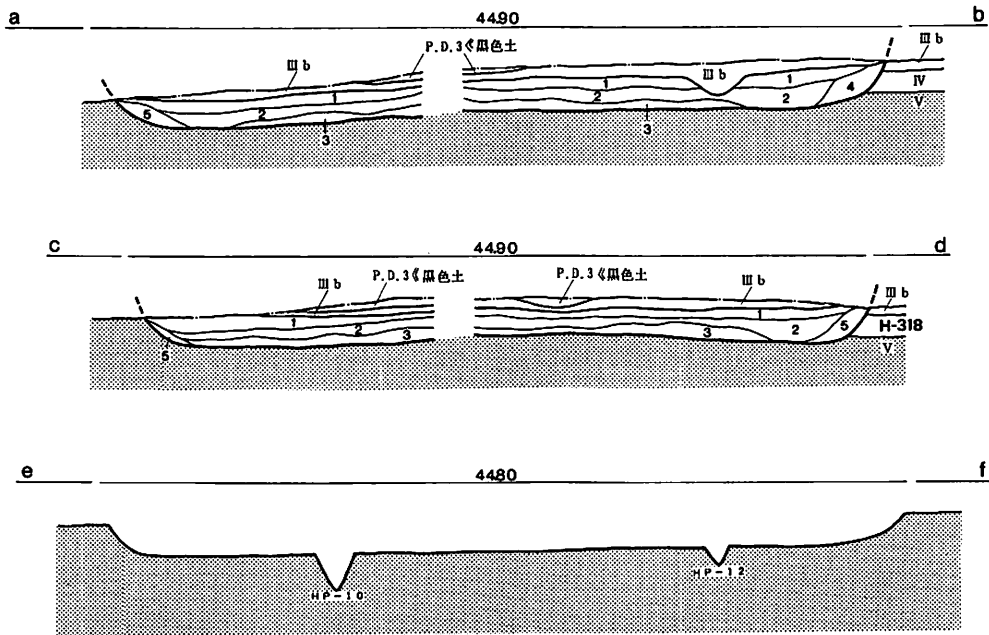
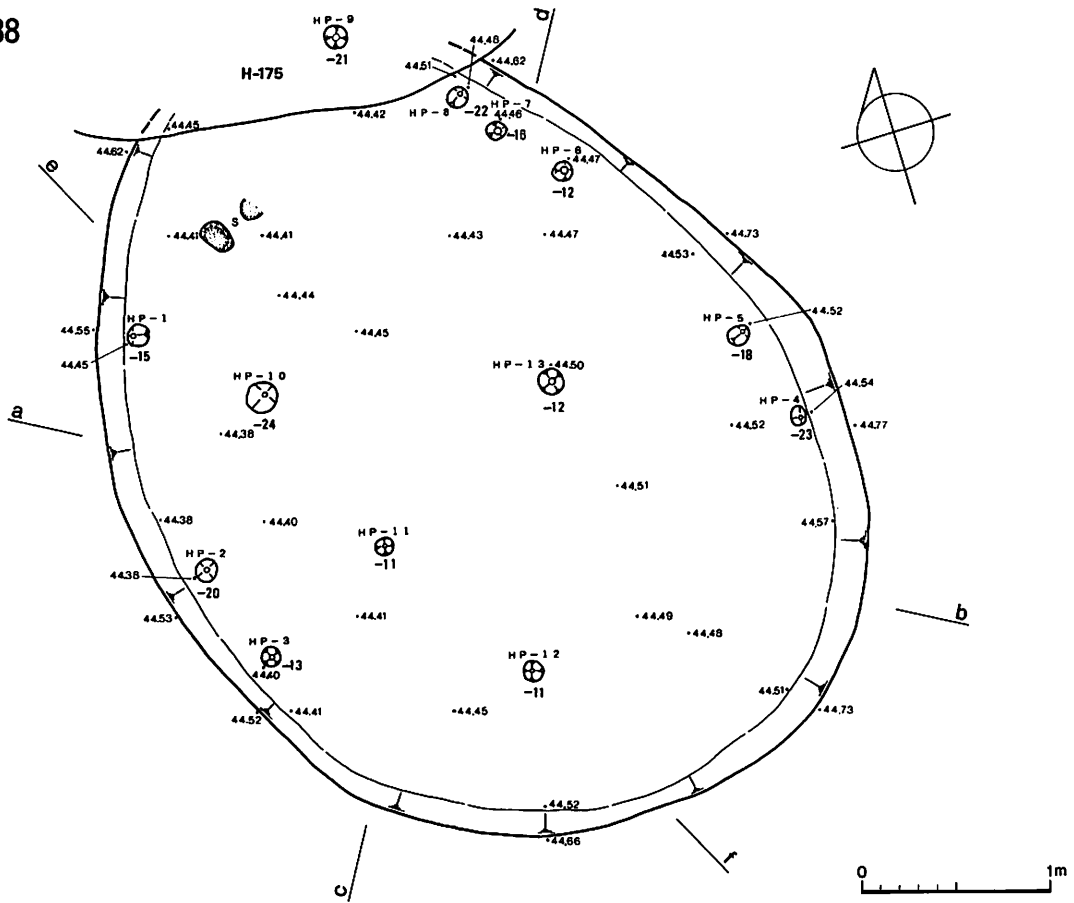
壁: 残存部分の立ち上がりは急傾斜である。検出面からの壁高は12cm~20cmである。

炉跡: 焼土などは検出されていない。

付属ピット: 柱穴状小ピットは16個検出されている。HP-1~12は壁際にあり、直立し、杭状のものである。20cm~30cmの間隔で、支柱穴状のものとは異質である。HP-13・14・16は支柱穴と思われる。



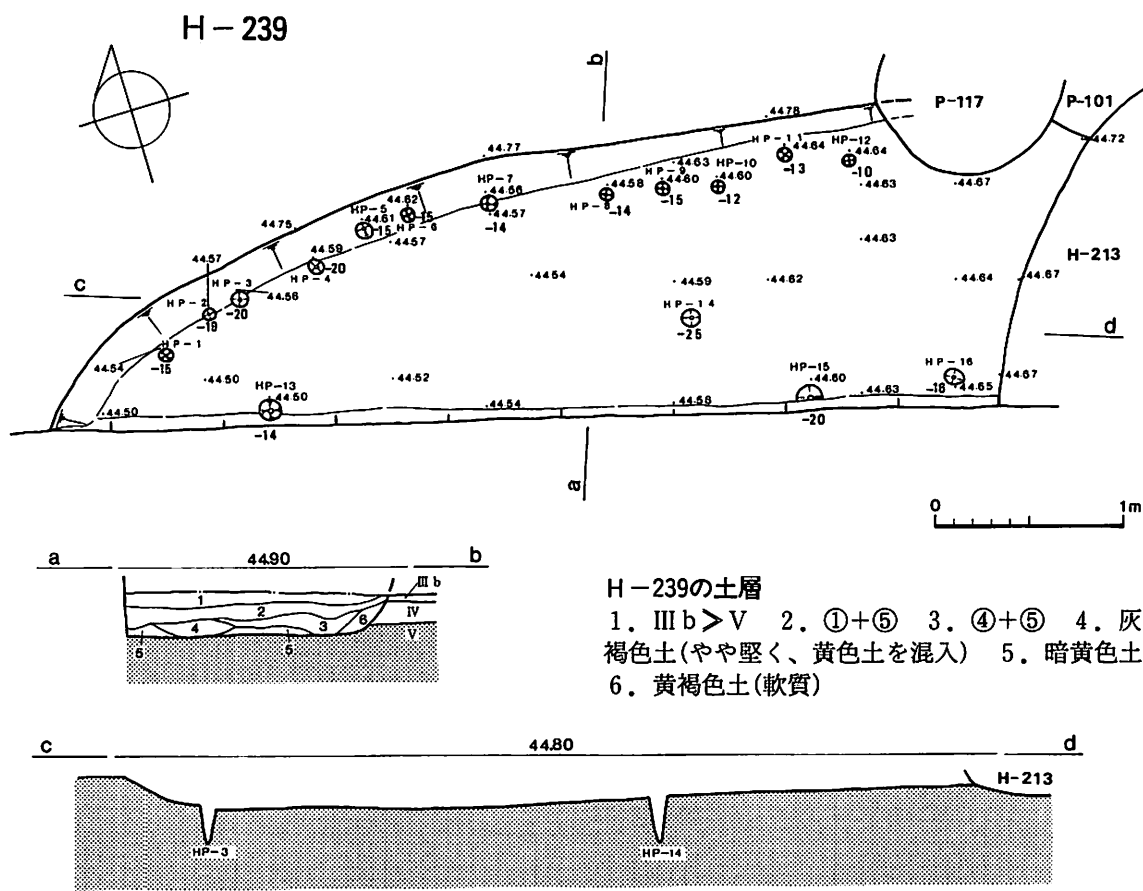
H-238



H-238の土層

1. III b > V 2. ①+③(軽石混入) 3. 暗黄灰色土(砂質。軽石混入) 4. III b > V(軟質) 5. 暗黄褐色土(軟質)

図III-156 H-238実測図



図Ⅲ-157 H-239実測図

遺物出土状況：覆土、床面付近から遺物は出土していない。

覆土はⅢ b層と黄色土がまじり合った土であるが、覆土中～下層は混合土であり、全体に堆積状態は不安定である(和泉田)。

H-240 (図Ⅲ-158 図版45-4・5)

位置：45-48・49 46-48・49 規模：——/——×3.12m/2.80m×0.16m

床面積：(9.82㎡) 平面形：楕円形状 長軸方向：不明

検出・掘り込み面：H-225の北東側の壁に暗褐色土の落ち込みを検出した。 重複関係：H-225と重複し、これより古い住居跡である。

時期：周辺包含層出土の遺物などから、縄文時代早期中葉の時期のものと思われる。

床面：V層を掘り込んで構築されている。ほぼ平坦。

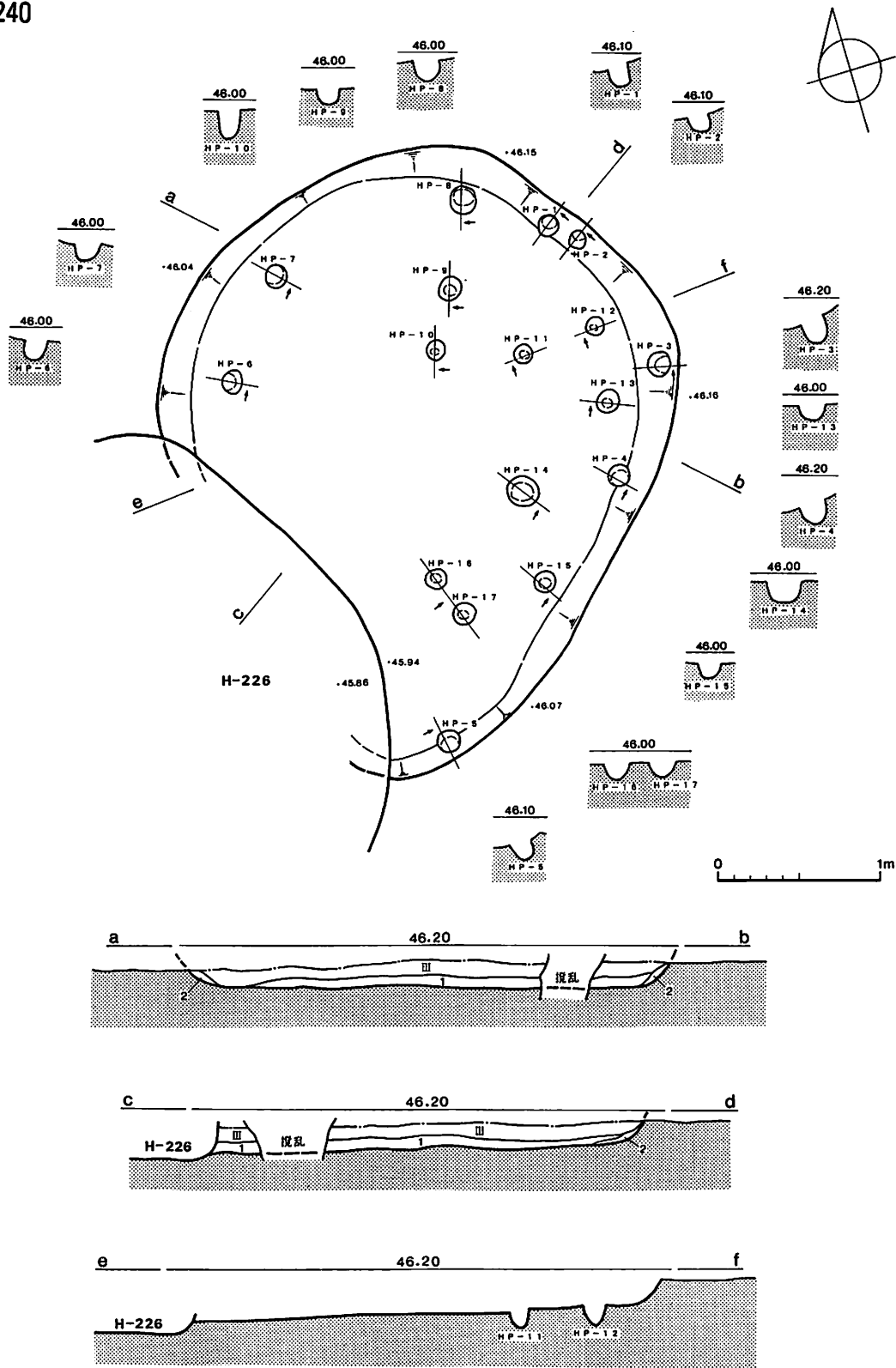
壁：全体に急に立ち上がる。検出面からの壁高は約16cmである。

炉跡：焼土などは検出されていない。

付属ピット：柱穴状小ピットは17個検出された。概して浅く、壁際のは内傾している。

遺物出土状況：覆土、床面付近から遺物は出土していない(村田)。

H-240



H-240の土層  
1. 暗褐色土(粘性があり、しまりあり) 2. 暗黄褐色土(V層の崩落土を含む)

図Ⅲ-158 H-240実測図

H-241 (図Ⅲ-160・161 図版46-1・2)

位置: 44-42 規模: 4.60m/4.30m×3.35m/3.05m×0.25m 床面積: 11.87m<sup>2</sup>

平面形: 長円形 長軸方向: N-50°-W

検出・掘り込み面: Ⅲ層中で検出された。覆土の上半にⅢ層の堆積が見られたことから、掘り込み面はⅢb層中と考えられる。重複関係: H-251・281、T-32・36と重複しており、T-32・36より古く、H-251・281より新しい住居跡である。

時期: I群D1類土器を伴う縄文時代早期中葉の時期のものと思われる。

床面: V層を約5cmほど掘り込んで構築されている。中央部は若干くぼんでいる。

壁: 検出面からの壁高は25cmで、床面からの立ち上がりは丸味があり、傾斜はゆるやかである。

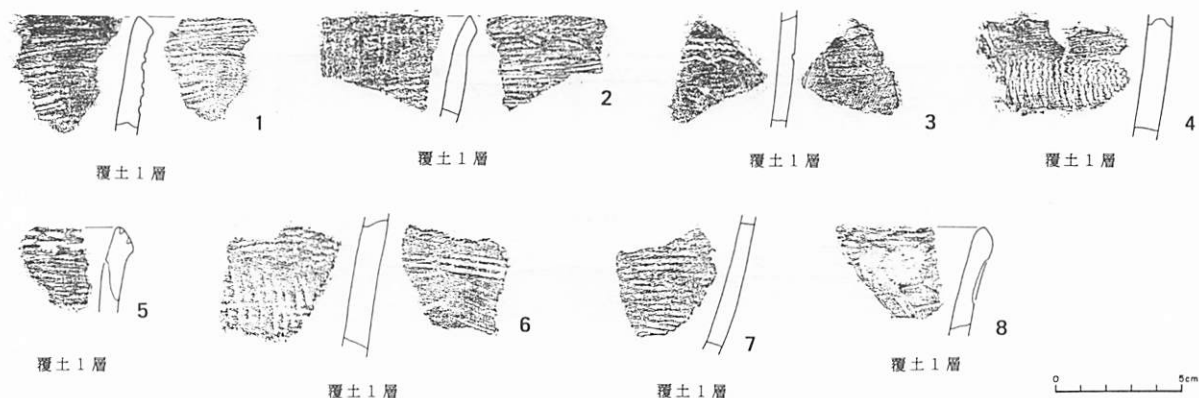
炉跡: 焼土などは検出されていない。

付属ピット: 柱穴状小ピットは15個検出されている。そのうち6個は壁際から50cmの範囲内にある。

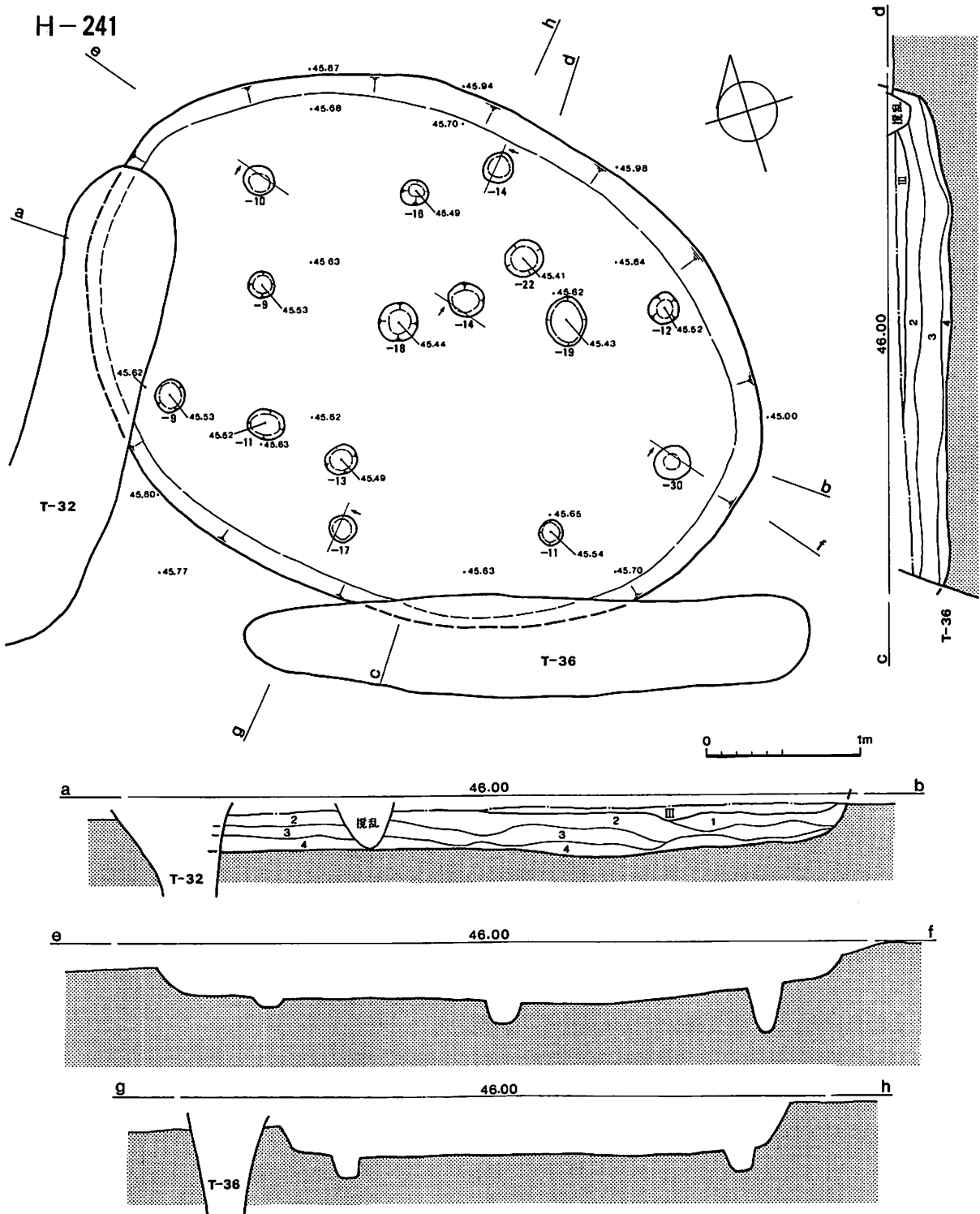
遺物出土状況: 出土遺物総数は180点である。この内訳は土器135点、石器45点である。床面付近からは剥片1点、礫が1点出土しただけである。遺物は覆土上層で多く出土している。土器はI群D1、D2、E類のものが出土しており、I群D1類土器が128点と多い。石器ではすり石、砥石、石錘などが出土している。出土土器には、覆土1層と3層(図Ⅲ-159-4)、覆土2層とH-242覆土1層と46-43(Ⅲ)、という接合関係が見られる(谷島)。

#### 土器 (図Ⅲ-159 図版175-11)

図示した土器片はすべて覆土1層から出土したものである。1～4はI群D1類土器と思われるもので、1・2は口縁部。2には縦位の貝殻腹縁文がある。3は口縁部の一部と思われ、鋸歯状沈線がある。4はロッキングの手法を用いた貝殻腹縁文がある体部破片。5～7はI群D2類土器。5は口縁部破片で、貝殻条痕文を地文とし、口唇端部に施文具を器面に体して斜位に押し付けた刺突列がめぐるものと見られる。8は無文の口縁部破片で、胎土からI群E類と判断した(森)。



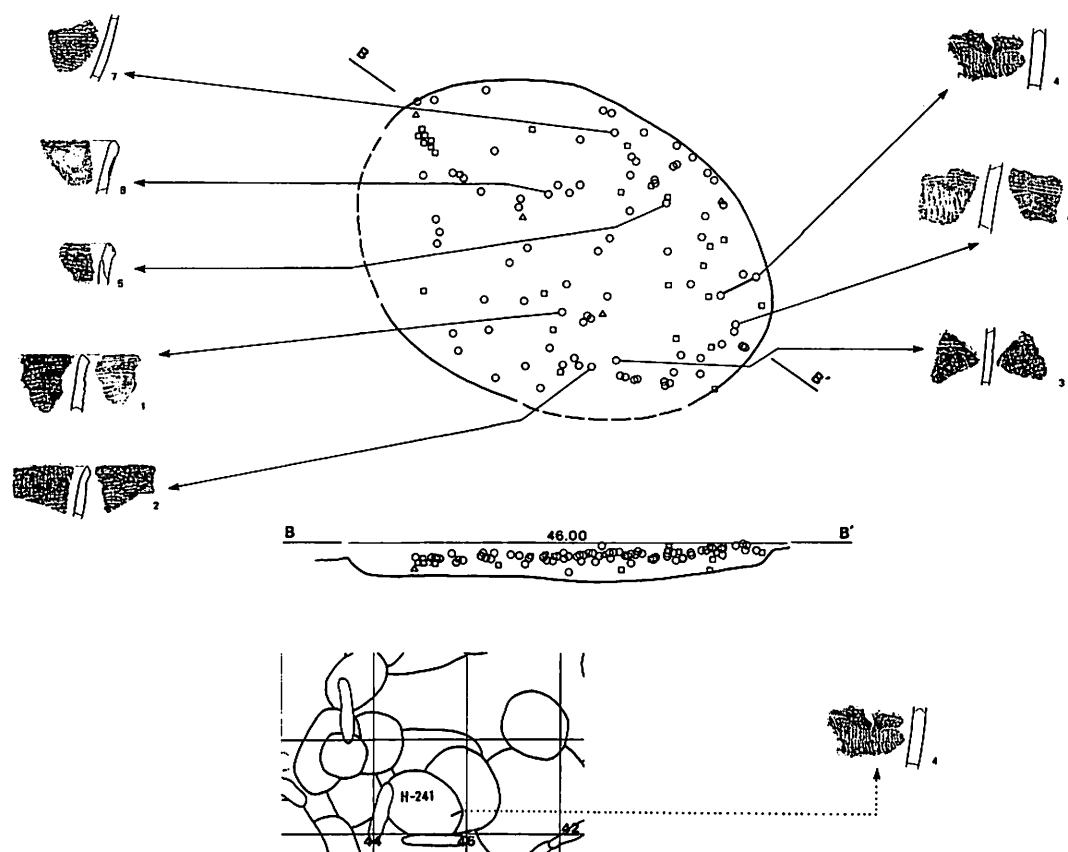
図Ⅲ-159 H-241出土土器



H-241の土層

1. 暗茶褐色土 2. 黒茶褐色土 3. 黄黒色土 4. 暗黄褐色土

図III-160 H-241実測図



図Ⅲ-161 H-241出土土器分布・接合図

H-242 (図Ⅲ-162・165 図版46-3 図版47-1・2)

位置：45-42・43 46-42・43 規模：3.55m/3.15m×3.50m/3.10m×0.14m

床面積：10.24m<sup>2</sup> 平面形：隅丸方形状 長軸方向：N-58°-W

検出・掘り込み面：Ⅲb層中で検出されている。覆土の上半にⅢ層の堆積が見られることから、掘り込み面はⅢb層中と考えられる。重複関係：H-283と重複しており、これより新しい住居跡である。

時期：Ⅰ群D1類土器を伴う縄文時代早期中葉の時期のものと思われる。

床面：V層を約20cm掘り込んで構築されている。ほぼ平坦で、堅くしまっている。

壁：検出面からの壁高は25cmで、床面からの立ち上がりは丸味があり、傾斜はゆるやかである。

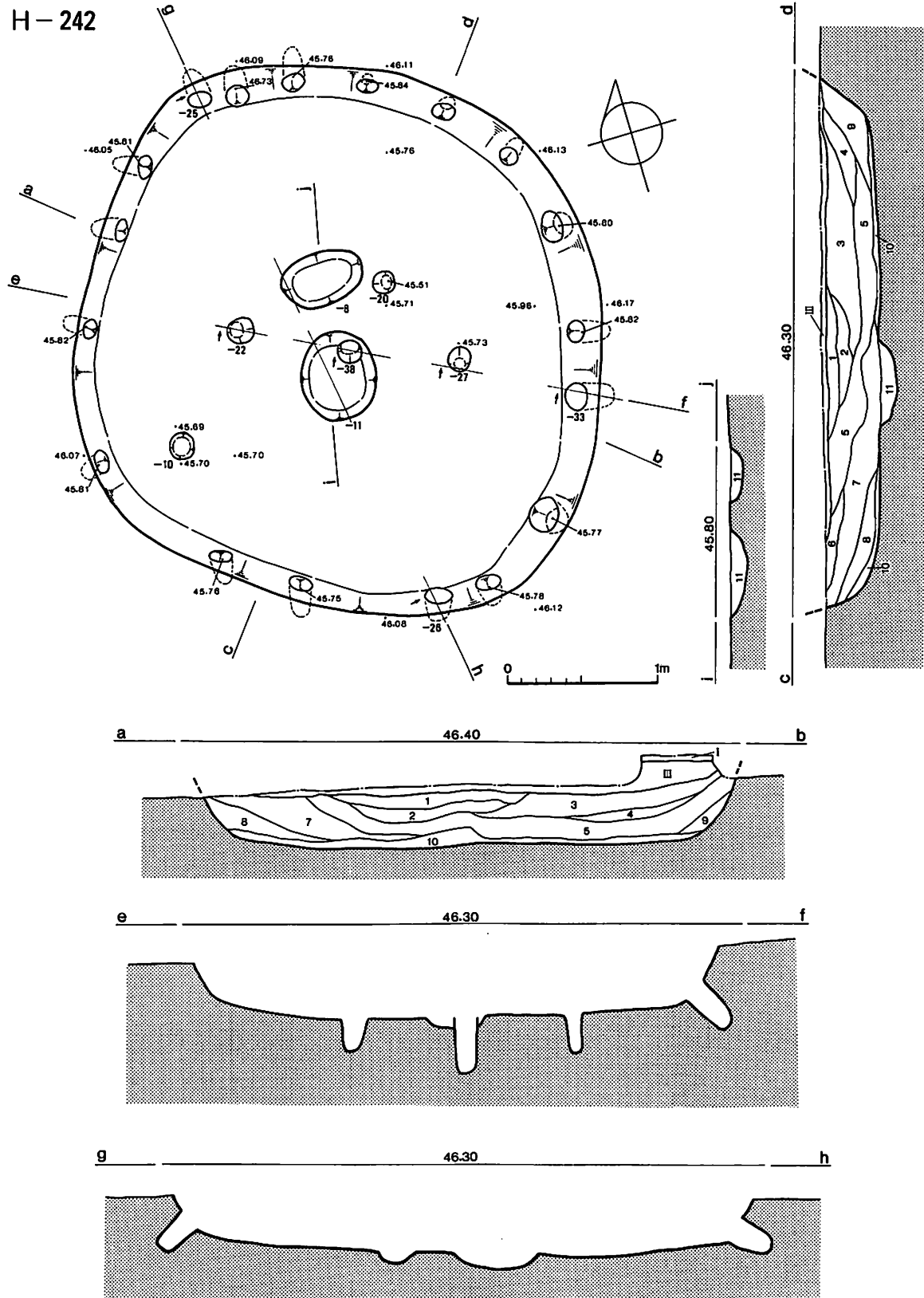
炉跡：焼土などは検出されていない。

付属ピット：南北に並んだピットが床面中央部で検出されている。北側のものは、0.55m×0.35m、深さ0.08mの長円形である。南側のものは、0.60m×0.50m、深さ0.12mの円形で、南側のものには柱穴状小ピットが見られる。柱穴状小ピットは23個検出されている。そのうち18個は壁面にあり内傾する。

遺物出土状況：出土遺物総数は116点である。この内訳は土器86点、石器30点である。床面付近からは、Ⅰ群D1類土器が9点、同D2類、同E類土器が各1点ずつ出土しており、このうち構築面およびHP埋土からはⅠ群D1類土器が4点出土している。石器ではすり石、石皿などが出土している。出土土器には、覆土1層と2層とH-241覆土2層と46-43(Ⅲ)・46-43(I) (図Ⅲ-164-1)、覆土3層と床直上



H-242



H-242の土層 1. 暗灰黒褐色土 2. 暗灰黒褐色土(少量の軽石を含む) 3. 暗灰褐色土 4. 黒褐色土(軽石を含む) 5. 灰黒褐色土 6. 暗茶褐色土 7. 黒茶褐色土 8. 暗黄茶褐色土 9. 暗黄褐色土(黄褐色土+黒褐色土) 10. 暗灰茶褐色土(ピット内)

図Ⅲ-162 H-242実測図

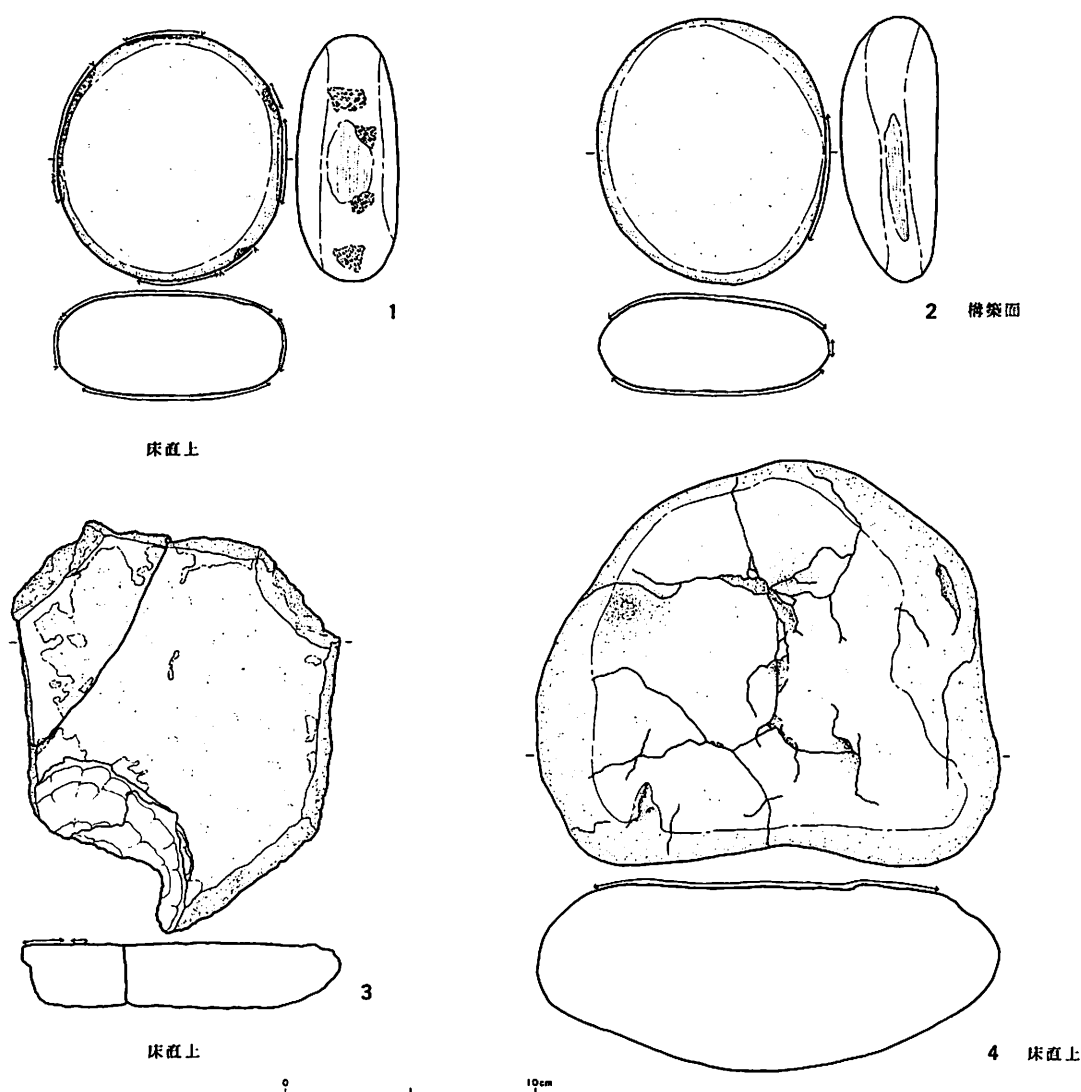
(図Ⅲ-164-3)、覆土1層と2層、覆土2層と3層、覆土2層どうし、という接合関係が見られる(谷島)。

# 土器(図Ⅲ-164 図版176-1・2)

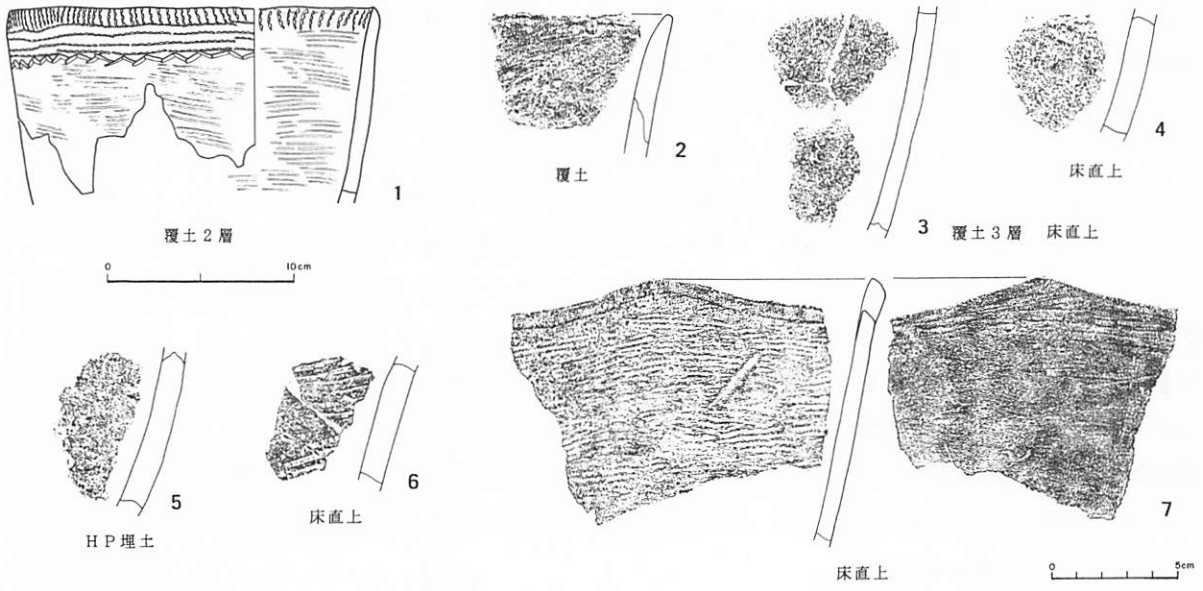
1は覆土1層と包含層Ⅰ層およびⅢ層から出土した破片が接合したもので、Ⅰ群D1類土器である。口唇部に縦位の、口縁部には横位の貝殻腹縁文があり、その下部を鋸歯状沈線で縁取る。口唇部内面にも縦位の貝殻腹縁文が施文される。2～6もⅠ群D1類と見られる無文土器で、3・4・6は床直上、5は柱穴、2は覆土から出土した。7はⅠ群D2類の口縁部破片で、床直上から出土したものである。切り出し状の口唇端部は磨かれて光沢がある(森)。

# 石器(図Ⅲ-163 図版177-1)

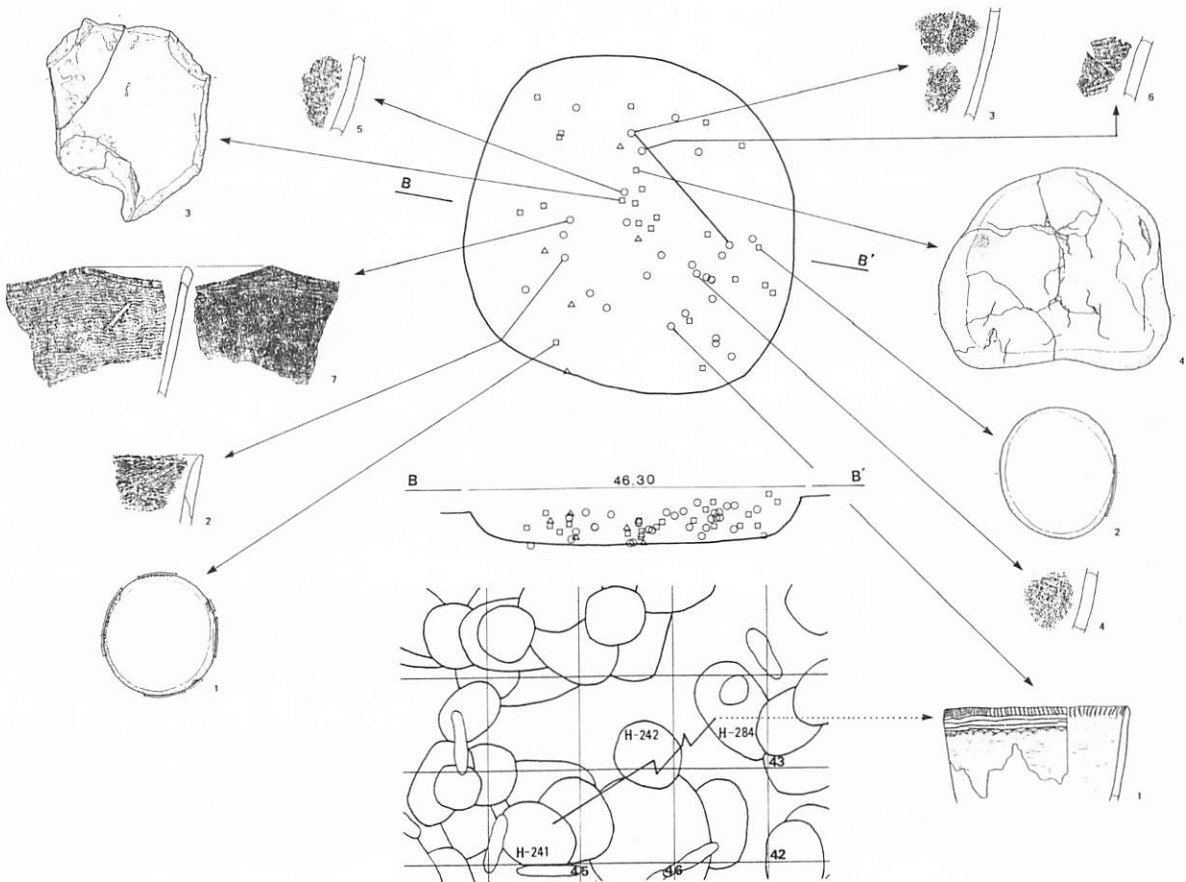
1・2はすり石で、たたき石が複合する。3・4は石皿。3は被熱によると思われる風化が著しい(宗像)。



図Ⅲ-163 H-242出土石器



図III-164 H-242出土土器



図III-165 H-242出土遺物分布・接合図

H-243 (図Ⅲ-167 図版47-3・4・5)

位置: 45-44 規模: 3.60m/3.15m×3.40m/3.00m×0.25m 床面積: 9.58m<sup>2</sup>

平面形: 円形状 長軸方向: N-55°-E

検出・掘り込み面: Ⅲb層中で検出し、掘り込み面もほぼ同一と考えられる。重複関係: H-294・255・282・256・218と重複しており、これらより新しい住居跡である。

時期: I群D1類土器を伴う縄文時代早期中葉の時期のものと思われる。

床面: 他遺構の覆土中に床面が構築されている。西側がやや低いが、ほぼ平坦である。

壁: 検出面からの壁高は約25cmで、床面からの立ち上がりは丸味があり、傾斜はゆるやかである。

炉跡: 焼土などは検出されていない。

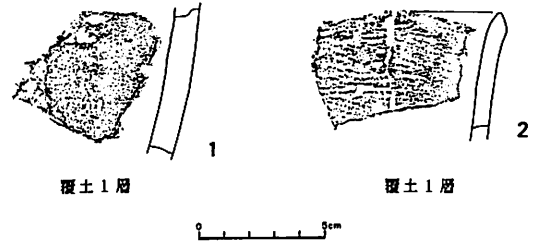
付属ピット: 床面中央部でピットが検出された。0.90m×0.62m、深さ0.25cmの長円形状である。柱穴状小ピットは17個検出されている。すべて壁際から1mの範囲内にある。

遺物出土状況: 遺物は覆土中から出土したもので、I群D1類土器が8点、同D2類土器が1点、石器では剝片、礫が各1点ずつ出土した。出土土器には、覆土1層と41-43(Ⅱ) (図Ⅲ-166-2)、という接合関係が見られる(谷島)。

土器 (図Ⅲ-166 図版176-3)

1は覆土1層から出土したI群D1類の無文部。

2はI群D2類と思われる口縁部破片で、覆土1層と包含層Ⅲ層から出土した破片が接合したものである。胎土には繊維を含んでいる(森)。



図Ⅲ-166 H-243出土土器

H-244 (図Ⅲ-168 図版48-1・2)

位置: 45-45 規模: 4.15m/3.80m×(3.20m)/(2.90m)×0.20m 床面積: (10.87m<sup>2</sup>)

平面形: 長円形状 長軸方向: N-60°-W

検出・掘り込み面: Ⅲb層中で検出された。覆土の上半にP.D.3、Ⅲa層、Ⅲb層が堆積していることから、掘り込み面はⅢb層中と考えられる。重複関係: H-250・287と重複しており、これより新しい住居跡である。

時期: I群D1類土器を伴う縄文時代早期中葉の時期のものと思われる。

床面: H-287の覆土中に床面が構築されている。西側がやや低いが、ほぼ平坦である。

壁: 検出面からの壁高は20cmほどで、床面からの立ち上がりは丸味があり、傾斜はゆるやかである。

炉跡: 焼土などは検出されていない。

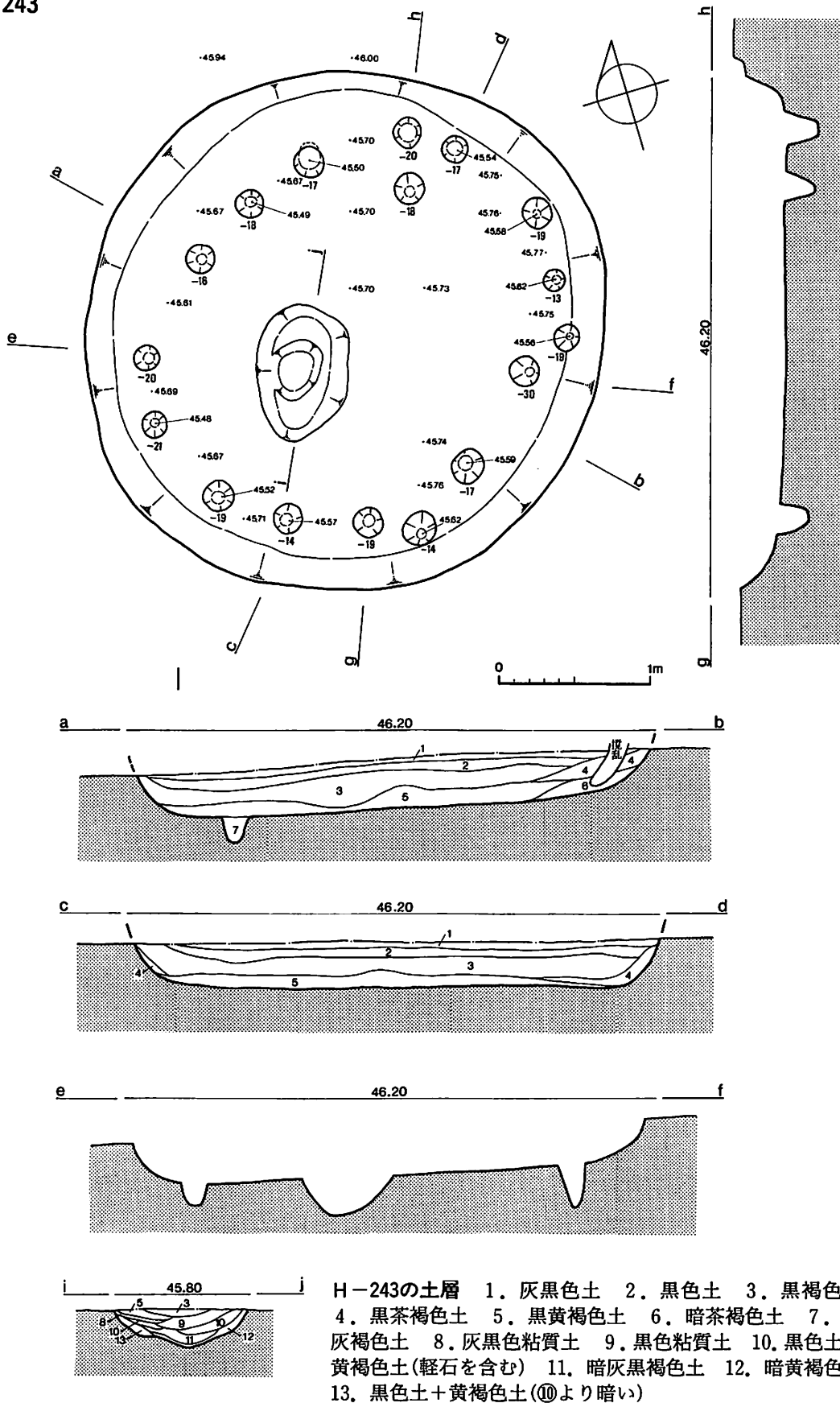
付属ピット: 床面中央部でピットが検出された。0.72m×0.57m、深さ0.16mの長円形のものである。ピットの北西壁には柱穴状小ピットが2個検出されている。柱穴状小ピットは19個検出され、そのうち13個は壁際から50cmの範囲内にある。

遺物出土状況: 遺物は26点出土した。床面付近からはI群D1類土器が1点出土し、他は覆土1層からの出土である。土器はI群D1、D2類のものが出土し、石器では剝片、礫が出土している。出土土器には、覆土1層・床直上とH-250覆土1層(図Ⅲ-169-3)、という接合関係が見られる(谷島)。

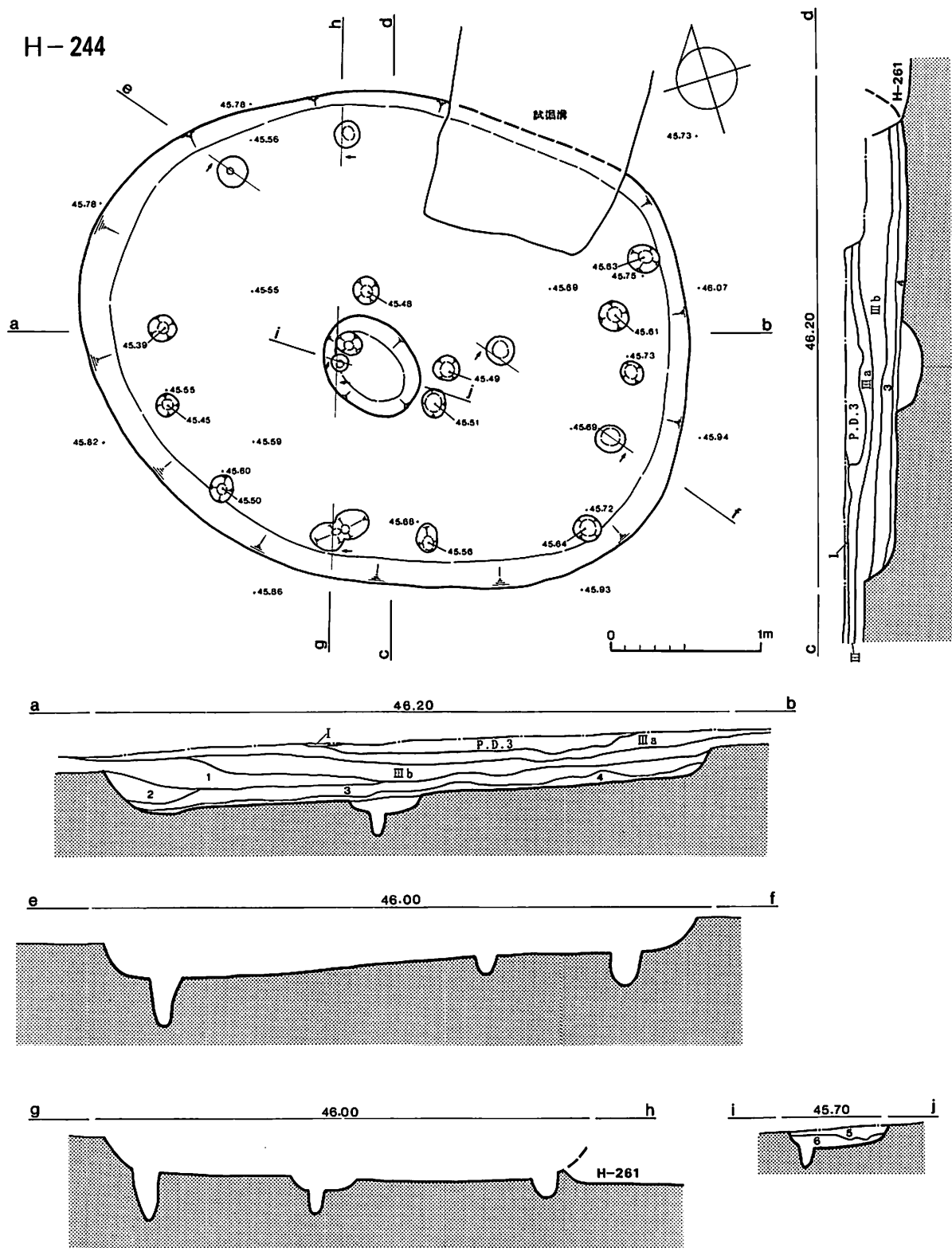
土器 (図Ⅲ-169 図版176-4)

1・2はI群D1類の口縁部破片で、ともに覆土1層から出土した。1は口唇部に縦位の貝殻腹縁文

H-243



図Ⅲ-167 H-243実測図



H-244の土層  
1. 黒色土(掘り揚げ土) 2. 灰黒色土 3. 暗茶褐色土 4. 暗褐色土 5. 暗褐色土  
(軽石を含む) 6. 暗黄褐色土

図Ⅲ-168 H-244実測図



を、その下に3条の平行沈線を施文している。2は無文、器表面は剥落している。4は覆土1層より出土した貝殻条痕文のあるI群D2類の体部破片である(森)。



図Ⅲ-169 H-244出土土器

H-245 (図Ⅲ-171 図版48-3・4)

位置: 44-44 規模: ———/———×3.75m/2.90m×0.2m 床面積: (9.30m<sup>2</sup>)

平面形: 円形状 長軸方向: N-55°-W

検出・掘り込み面: III b層中で検出された。覆土の上半にP.D.3、III a層、III b層の堆積が見られることから、掘り込み面はIII b層中と考えられる。 重複関係: H-159・218・256より新しい住居跡である。

時期: 周辺包含層出土の遺物などから縄文時代早期中葉の時期のものと思われる。

床面: H-159の覆土中に床面が構築されている。北側がやや低い、ほぼ平坦である。

壁: 検出面からの壁高は20cmで、床面からの立ち上がりは丸味があり、傾斜はゆるやかである。

炉跡: 焼土などは検出されていない。

付属ピット: 柱穴状小ピットは12個検出されている。そのうち7個は壁際から50cmの範囲内にある。

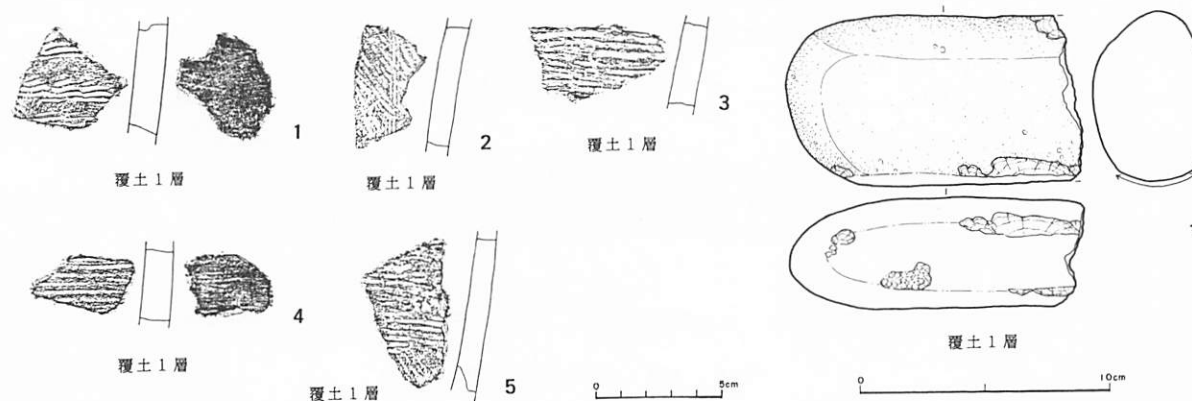
遺物出土状況: 遺物は覆土1層から土器6点、石器2点が出土しただけである。I群D1類土器が2点、同D2類土器が4点出土し、石器ではすり石、礫が出土している(谷島)。

土器 (図Ⅲ-170 図版176-5)

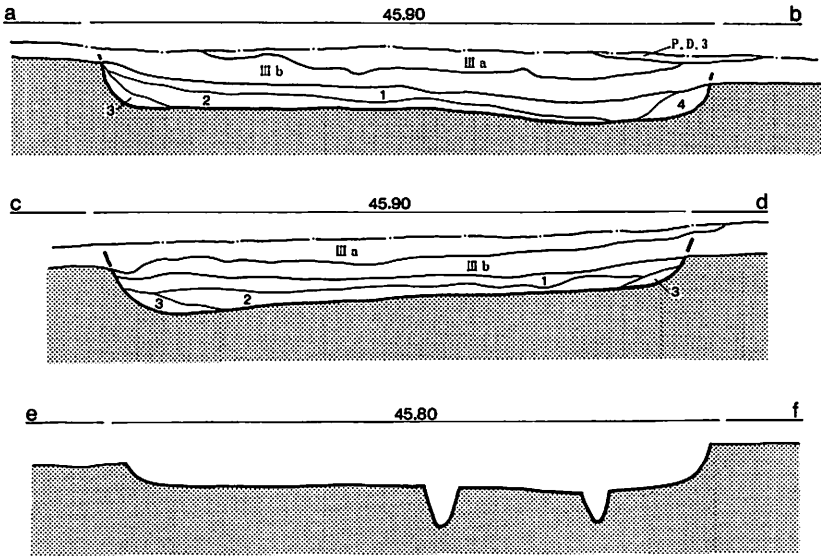
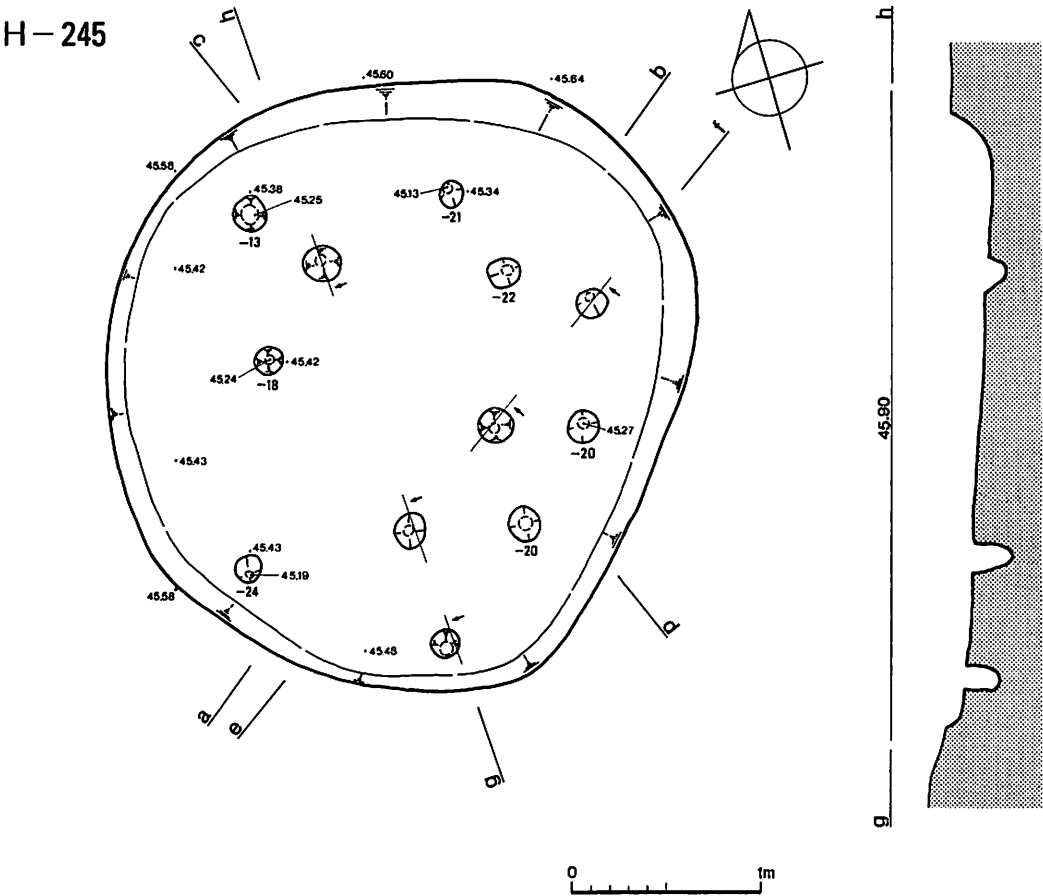
いずれも体部の小破片で、分類困難なものであるが、1は内面の調整や胎土からI群D1類に、ほかはI群D2類土器である。3は胎土に繊維を含んでいる。すべて覆土1層の出土である(森)。

石器 (図Ⅲ-170 図版176-6)

1はすり石。素材面が風化している(宗像)。



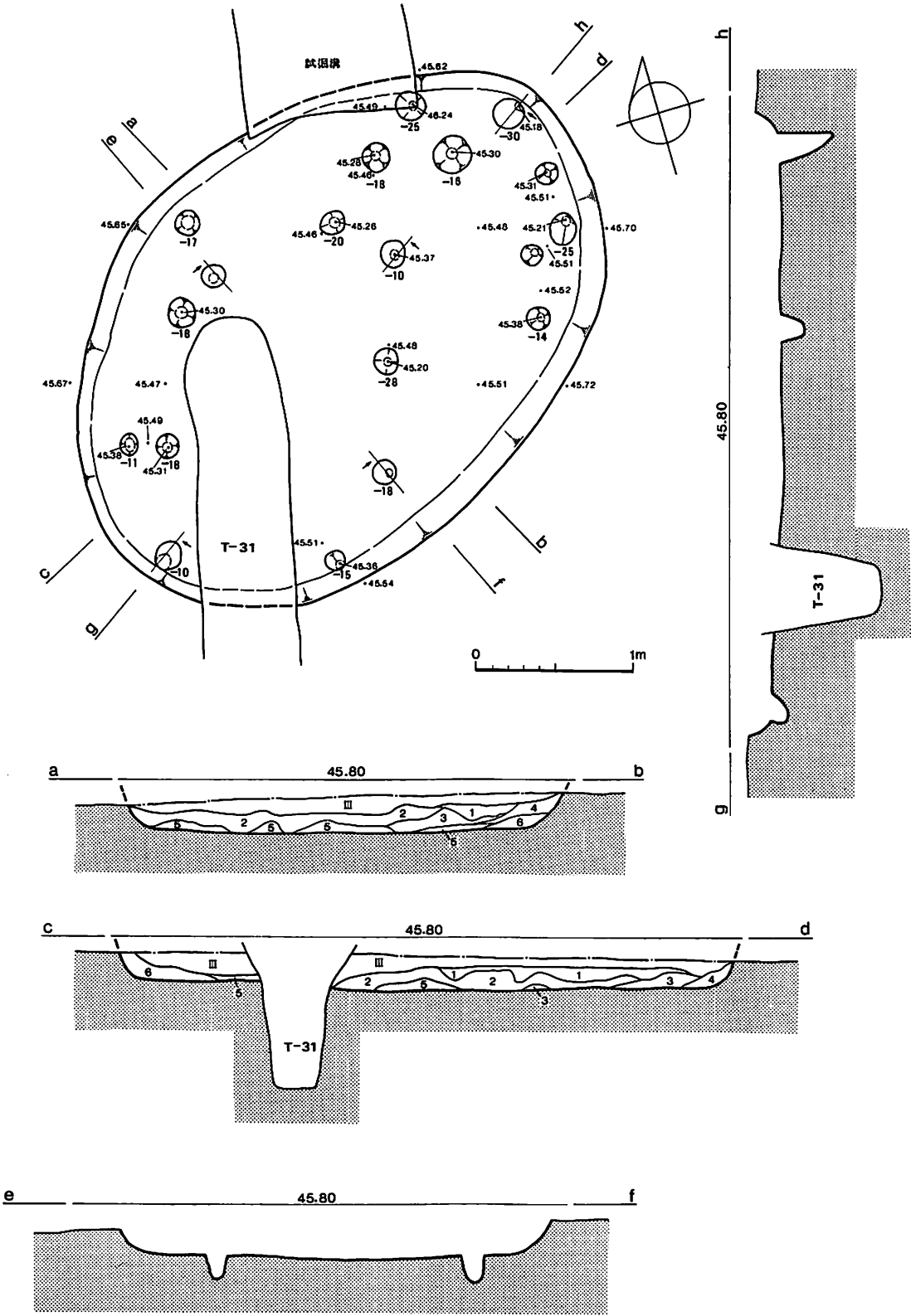
図Ⅲ-170 H-245出土遺物



H-245の土層  
1. 黒茶褐色土 2. 暗茶褐色土 3. 灰黒茶褐色土 4. 灰黒褐色土

図Ⅲ-171 H-245実測図

H-246



H-246の土層

1. 黒茶褐色土(軽石を含む) 2. 暗茶褐色土(軽石を含む) 3. 茶褐色土 4. 灰黒色土 5. 暗黄色土 6. 暗黄褐色土

図Ⅲ-172 H-246実測図

H-246 (図Ⅲ-172 図版49-1・2)

位置: 43-43 44-43 規模: 3.90m/3.70m×2.75m/2.50m×0.20m 床面積: 9.93㎡

平面形: 長円形状 長軸方向: N-60°-E

検出・掘り込み面: III b層中で検出された。覆土の上半にIII b層が堆積していることから、掘り込み面はIII b層中と考えられる。 重複関係: H-293・285・253、T-31と重複しており、T-31より古く、他より新しい住居跡である。

時期: 周辺包含層出土の遺物などから、縄文時代早期中葉の時期のものと思われる。

床面: V層を約5cmほど掘り込んで構築されている。 壁: 床面からの立ち上がりは丸味があり、傾斜はゆるやかである。

炉跡: 焼土などは検出されていない。

付属ピット: 柱穴状ピットは19個検出されている。そのうち16個は壁際にある。

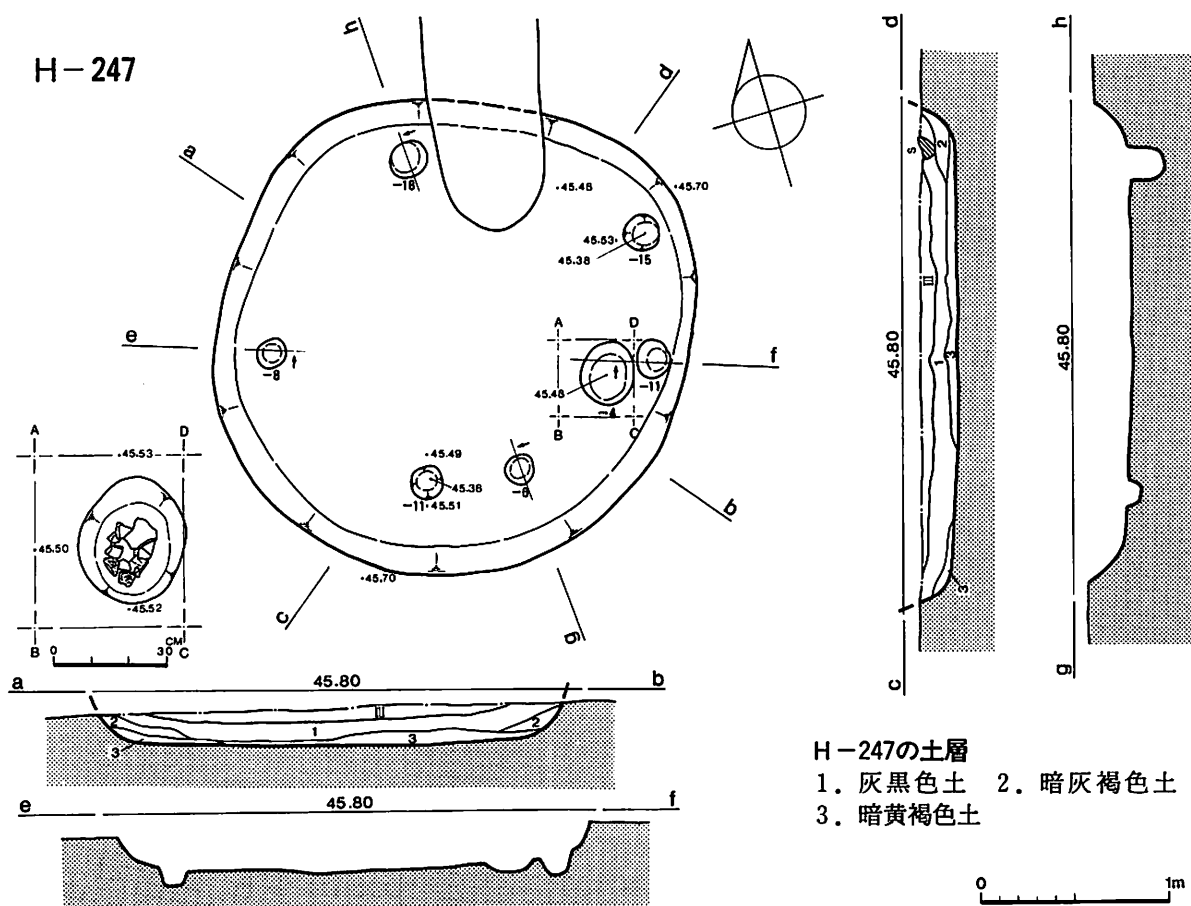
遺物出土状況: 覆土、床面付近から遺物は出土していない(谷島)。

H-247 (図Ⅲ-173・176 図版49-3・4 図版50-1)

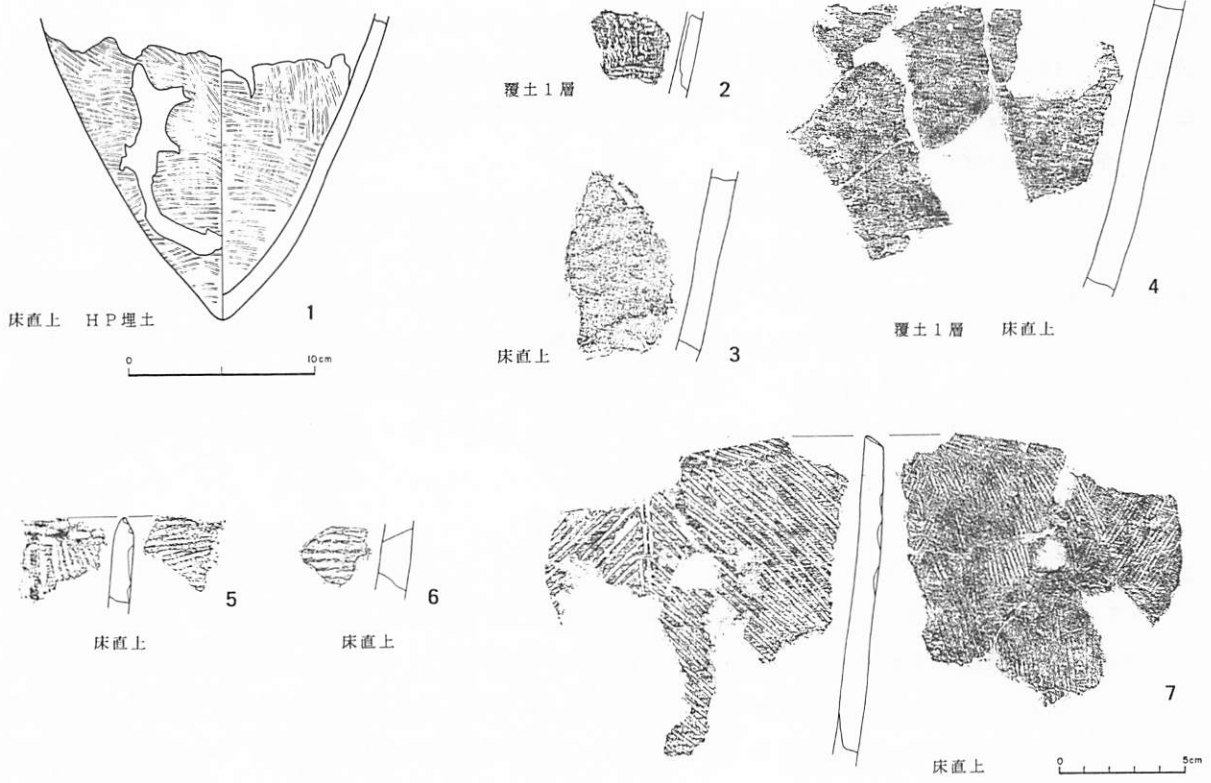
位置: 43-42・43 規模: 2.67m/2.45m×2.55m/2.37m×0.15m 床面積: 7.32㎡

平面形: 円形状 長軸方向: N-75°-E

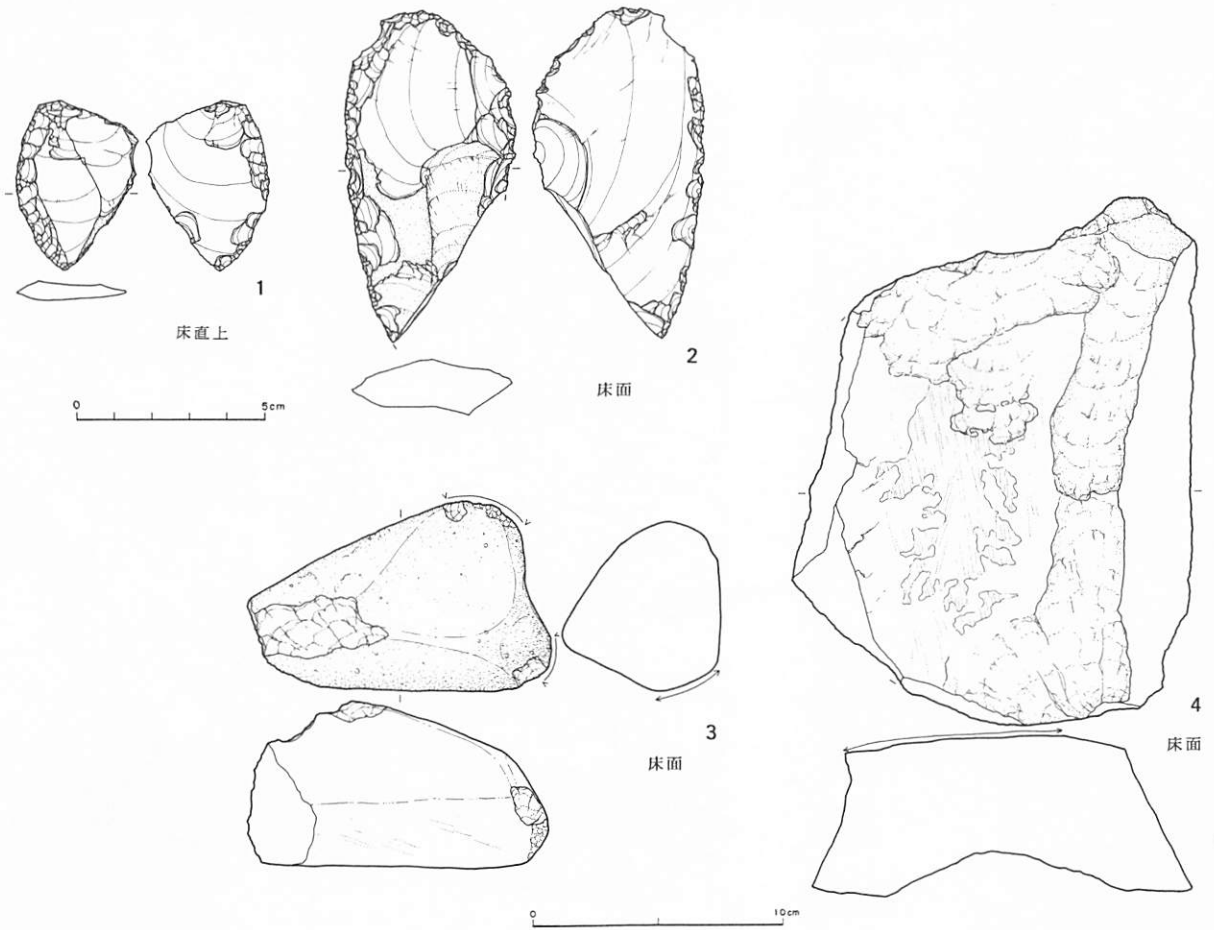
検出・掘り込み面: III b層中で検出された。覆土の上半にIII b層が堆積していることから、掘り込み面はIII b層中と考えられる。 重複関係: 平面上H-253・257・286の上に位置するが、これらを壊していない。



図Ⅲ-173 H-247実測図



図Ⅲ-174 H-247出土土器



図Ⅲ-175 H-247出土石器

時期：Ⅰ群D2類土器を伴う縄文時代早期中葉の時期のものと思われる。

床面：他遺構の覆土の上に床面が構築されている。ほぼ平坦である。

壁：検出面からの壁高は15cmで、床面からの立ち上がりは丸味があり、傾斜はゆるやかである。

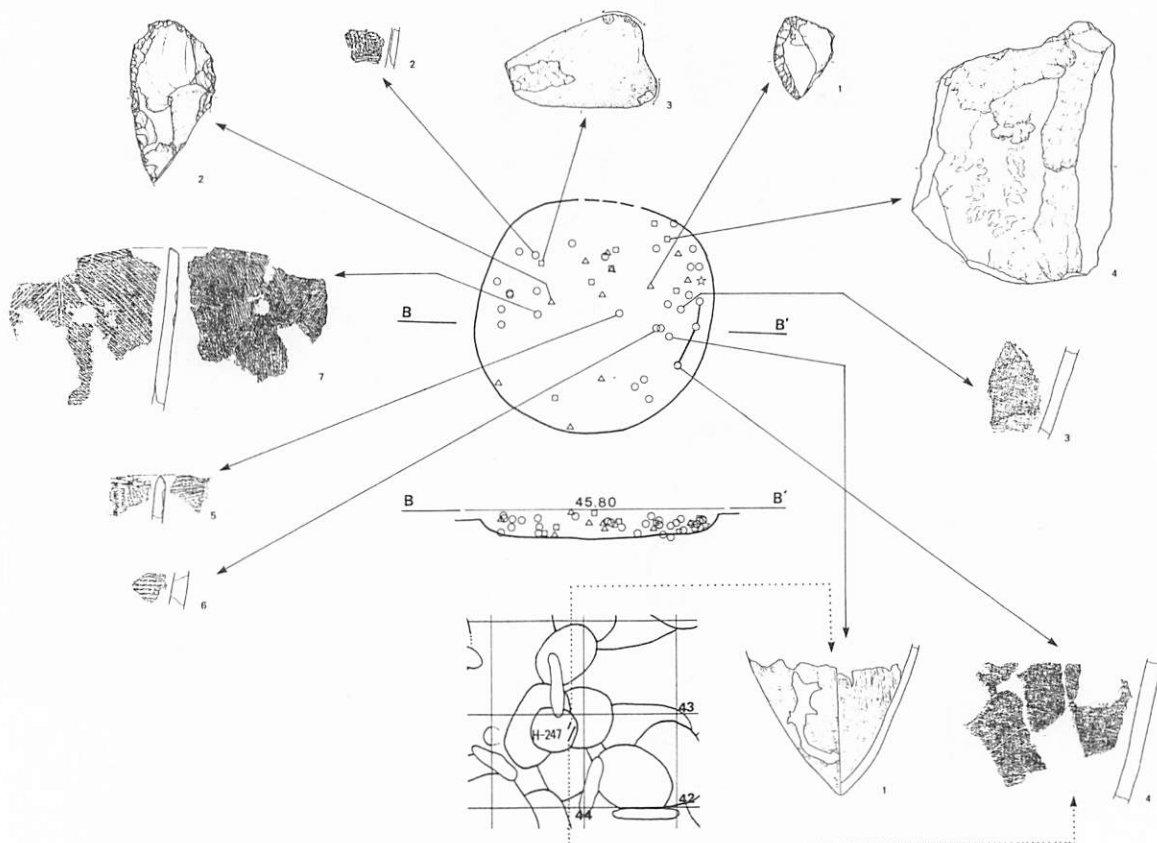
炉跡：焼土などは検出されていない。

付属ピット：床面の東側で、0.65m×0.55m、深さ約0.05mの円形状のピットを検出した。柱穴状小ピットは6個検出されている。すべて壁際から50cmの範囲内にある。

遺物出土状況：出土遺物総数は149点である。この内訳は土器125点、石器24点である。床面付近では土器45点、石器12点が出土した。HP埋土からⅠ群D2類土器25点出土している。土器はⅠ群D1、D2、E類のものが出土し、石器ではスクレイパー、砥石、石皿などが出土している。出土土器には、床面と床直上とHP埋土(図Ⅲ-174-1)、覆土1層と床直上(図Ⅲ-174-4)、床直上とH-163覆土1層(図Ⅲ-174-7)、という接合関係が見られる(谷島)。

#### 土器(図Ⅲ-174 図版178-1)

2・3はⅠ群D1類土器と思われる。4は表面が剥落した無文部で、細分類は困難。2は覆土1層、3は床直上、4は覆土1層と床直上から出土した破片が接合したものである。1・5～7はⅠ群D2類土器で、いずれも床直上などから出土したものである。1は柱穴から出土した破片と接合した底部で、貝殻条痕文が尖底部近くまで施文されている。5は口唇端部に斜位の刺突列がめぐるものであろう。6は貝殻条痕文が施文された小破片。7は棒状施文具で、外側に傾斜した切り出し状の口唇端部に短刻線を、口縁部には2列の刺突列を垂下させ、それを中心に矢羽根状の沈線文を施文するものである。内面には貝殻条痕文がある(森)。



図Ⅲ-176 H-247出土遺物分布・接合図



## 石器(図III-175 図版178-2)

1・2はスクレイパー。1は背面の刃部加工に先行して、腹面が加工される。2は腹面に、折れ面を打点とする加工痕をもつ。3はすり石でたたき石が複合する。4は石皿。流紋岩製で、目のこまかなすり面をもつ(宗像)。

## H-248(図III-178 図版50-2・3)

位置: 47-43・44 規模: (4.00m)/2.90m×2.55m/0.25m 床面積: (10.09m<sup>2</sup>)

平面形: 長円形状 長軸方向: N-60°-E

検出・掘り込み面: III b層中で検出し、掘り込み面もほぼ同一と考えられる。重複関係: H-259・252と重複しており、これらより新しい住居跡である。

時期: I群D1類土器を伴う縄文時代早期中葉の時期のものと思われる。

床面: V層を5cmほど掘り込んで構築されている。ほぼ平坦で、堅くしまっている。

壁: 検出面からの壁高は20cmで床面からの立ち上がりは丸味があり、傾斜はゆるやかである。

炉跡: 焼土などは検出されていない。

付属ピット: 柱穴状小ピットは19個検出されている。2個は壁面にあり、内傾する。13個は壁際から50cmの範囲内にある。

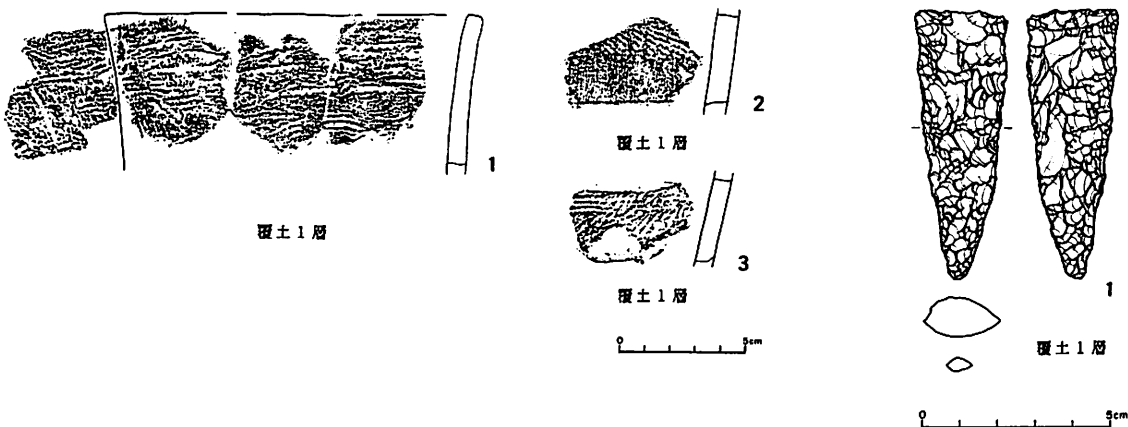
遺物出土状況: 出土遺物総数は36点である。この内訳は土器30点、石器6点である。遺物は覆土1層から出土しただけである。土器はI群D1類29点、同D2類1点で、石器では石錐1点、剝片4点、石錘1点が出土した。出土土器には、覆土1層とH-228覆土1層(図III-177-1)、という接合関係が見られる(谷島)。

## 土器(図III-177 図版176-7)

1は覆土1層とH-228の覆土1層から出土した破片が接合した口縁部で、小型の土器と思われる。口唇部に横位の貝殻腹縁文が施文されるI群D1類土器である。2はやはりI群D1類の口縁部破片で、貝殻背面圧痕が僅かに認められる。覆土1層から出土した。3は風化した体部破片であるが、I群D2類としたものである。胎土に繊維を含んでいる。覆土1層の出土(森)。

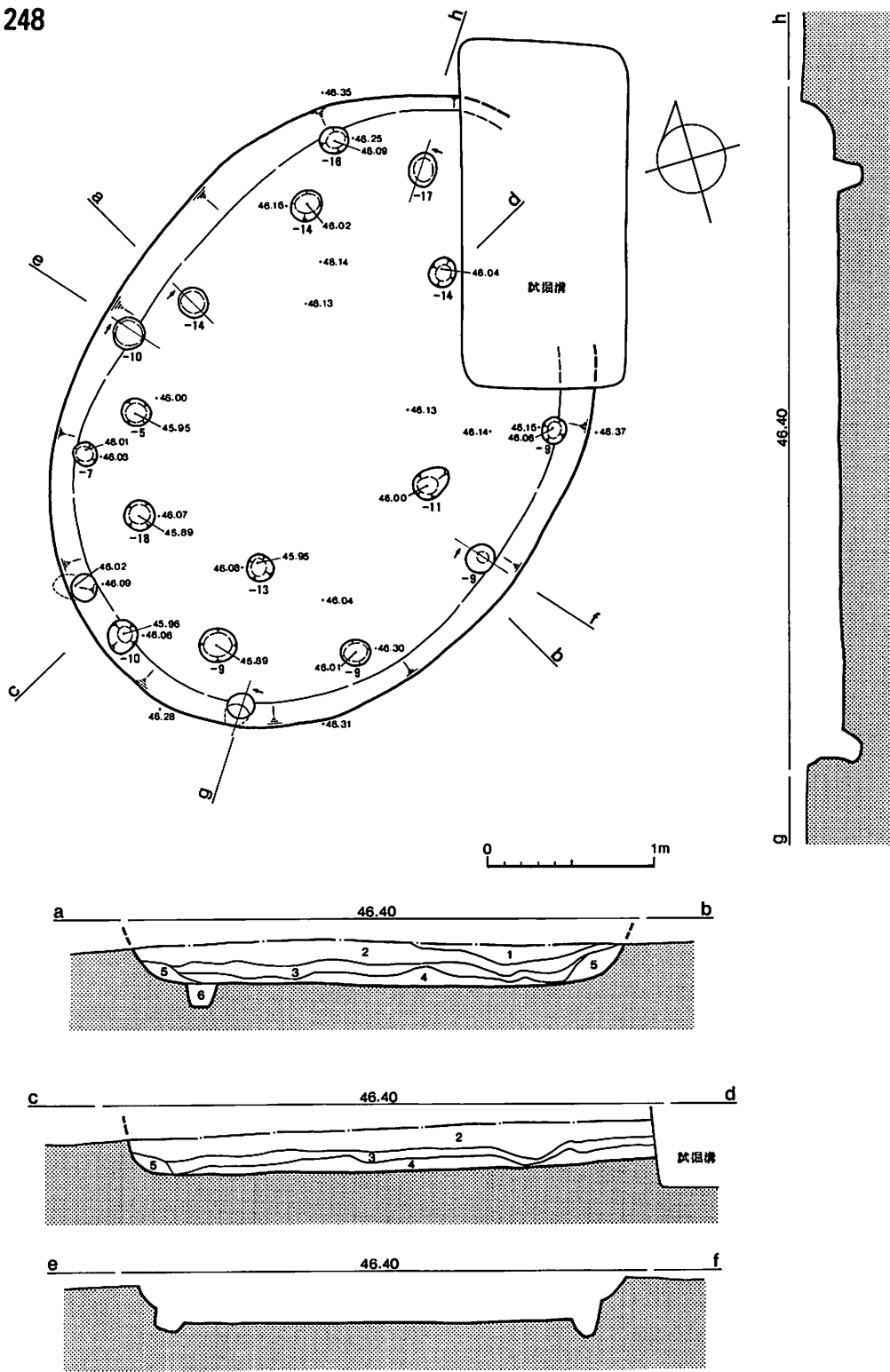
## 石器(図III-177 図版176-8)

1は石錐。両面とも右側縁の加工が新しい(宗像)。



図III-177 H-248出土遺物

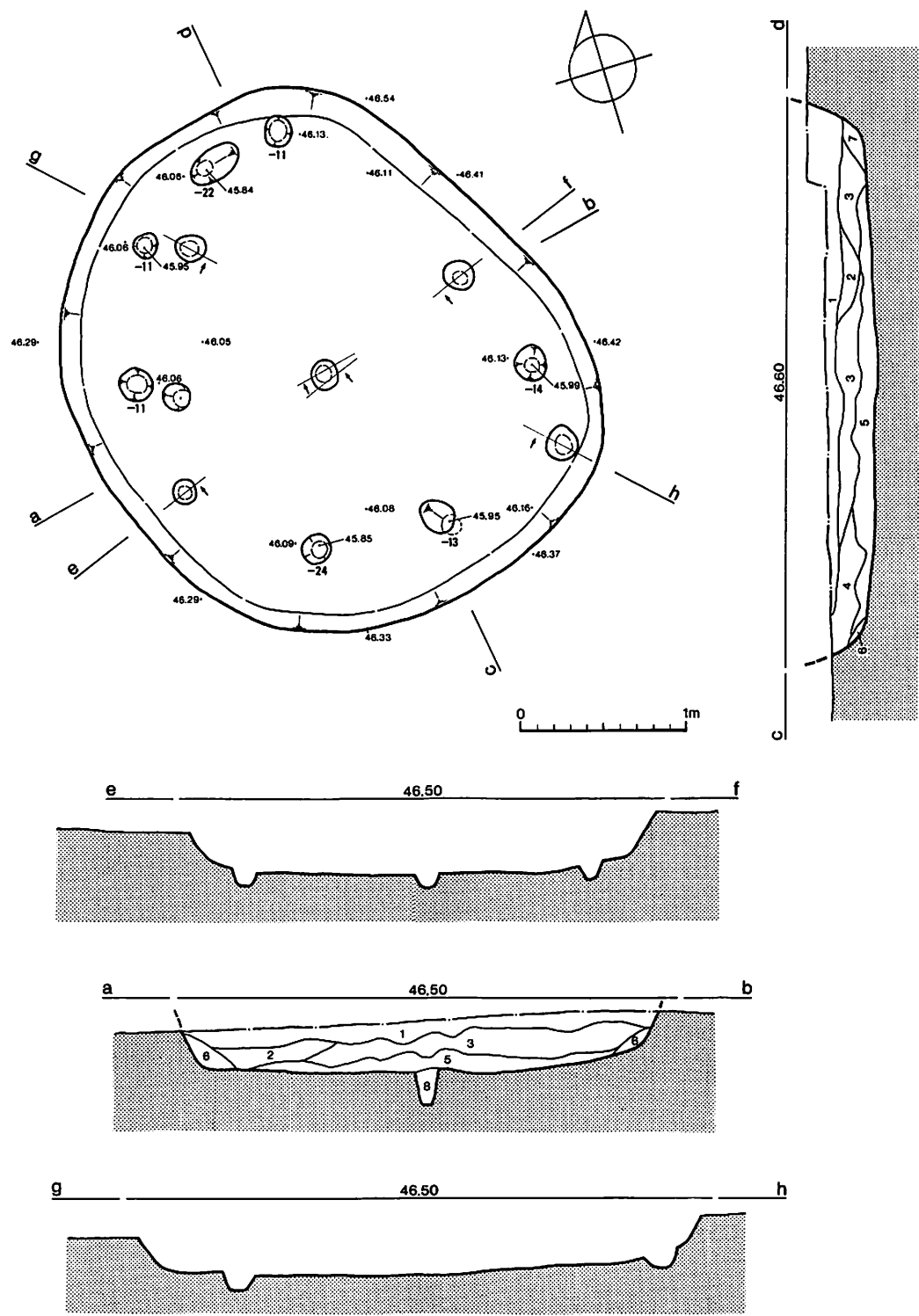
H-248



H-248の土層  
1. 灰黒茶褐色土 2. 黒褐色土 3. 黒茶褐色土 4. 暗黄褐色土 5. 暗茶褐色土 6. 暗褐色土(柱穴)

図Ⅲ-178 H-248実測図

H-249



H-249の土層  
1. 黒褐色土 2. 暗灰茶褐色土 3. 暗黄褐色土(軽石を多く含む) 4. 暗灰褐色土 5. 黄褐色土 6. 黄灰褐色土 7. 暗灰黄褐色土 8. 灰褐色土

図Ⅲ-179 H-249実測図

H-249 (図Ⅲ-179 図版50-4 図版51-1)

位置: 47-44・45 規模: 3.30m/3.05m×2.80m/2.55m×0.30m 床面積: 9.28m<sup>2</sup>

平面形: 隅丸長方形 長軸方向: N-35°-W

検出・掘り込み面: Ⅲb層で検出し、掘り込み面もほぼ同一である。 重複関係: ない

時期: 周辺包含層出土の遺物などから、縄文時代早期中葉の時期のものと思われる。

床面: V層を10cmほど掘り込んで構築されている。中央部がややくぼみ、堅くしまっている。

壁: 検出面からの壁高は20cmで、床面からの立ち上がりは丸味があり、傾斜はゆるやかである。

炉跡: 焼土などは検出されていない。

付属ピット: 柱穴状小ピットは13個検出されている。そのうち15個は壁際から50cmの範囲内にある。

遺物出土状況: 覆土1層で、礫が1点出土しただけである(谷島)。

H-250 (図Ⅲ-181 図版51-2・3)

位置: 45-45 46-45 規模: 5.20m/4.80m×(5.00m)/——×0.20m 床面積: (15.85m<sup>2</sup>)

平面形: 隅丸長方形 長軸方向: N-15°-E

検出・掘り込み面: Ⅲb層中で検出された。覆土の上半にⅢb層が堆積していることから、掘り込み面はⅢb層中と考えられる。 重複関係: H-244・266・255・284・287と重複しており、H-244・266より古く、他より新しい住居跡である。

時期: I群D1類土器を伴う縄文時代早期中葉の時期のものと思われる。

床面: V層を10cmほど掘り込んで構築されている。西側がやや低いが、ほぼ平坦で、堅くしまっている。

壁: 検出面からの壁高は18cmで、床面からの立ち上がりは丸味があり、傾斜はゆるやかである。

炉跡: 焼土などは検出されていない。

付属ピット: 柱穴状小ピットは24個検出されている。10個が壁面にあり、内傾する。他は1個を除き壁際から1mの範囲内にある。H-260とH-244の床面からH-250に伴うと考えられる柱穴状小ピットが12個検出された。

遺物出土状況: 遺物は土器が3点、石器が3点出土し、このうち床面付近からは剥片1点、礫2点出土している。土器はI群D1類のものが3点出土している。出土土器には、覆土1層とH-244覆土1層・床直上(図Ⅲ-180-1)、という接合関係が見られる(谷島)。



覆土1層

0 5cm

図Ⅲ-180

H-250出土土器

土器 (図Ⅲ-180 図版176-9)

1は覆土1層から出土したもので、貝殻条痕が内外両面に認められる体部破片。特徴に乏しいがI群D1類土器と思われる(森)。

H-251 (図Ⅲ-182・184 図版52-1・2)

位置: 44-42 45-42 規模: 5.00m/4.70m×4.70m/4.30m×0.40m 床面積: 14.89m<sup>2</sup>

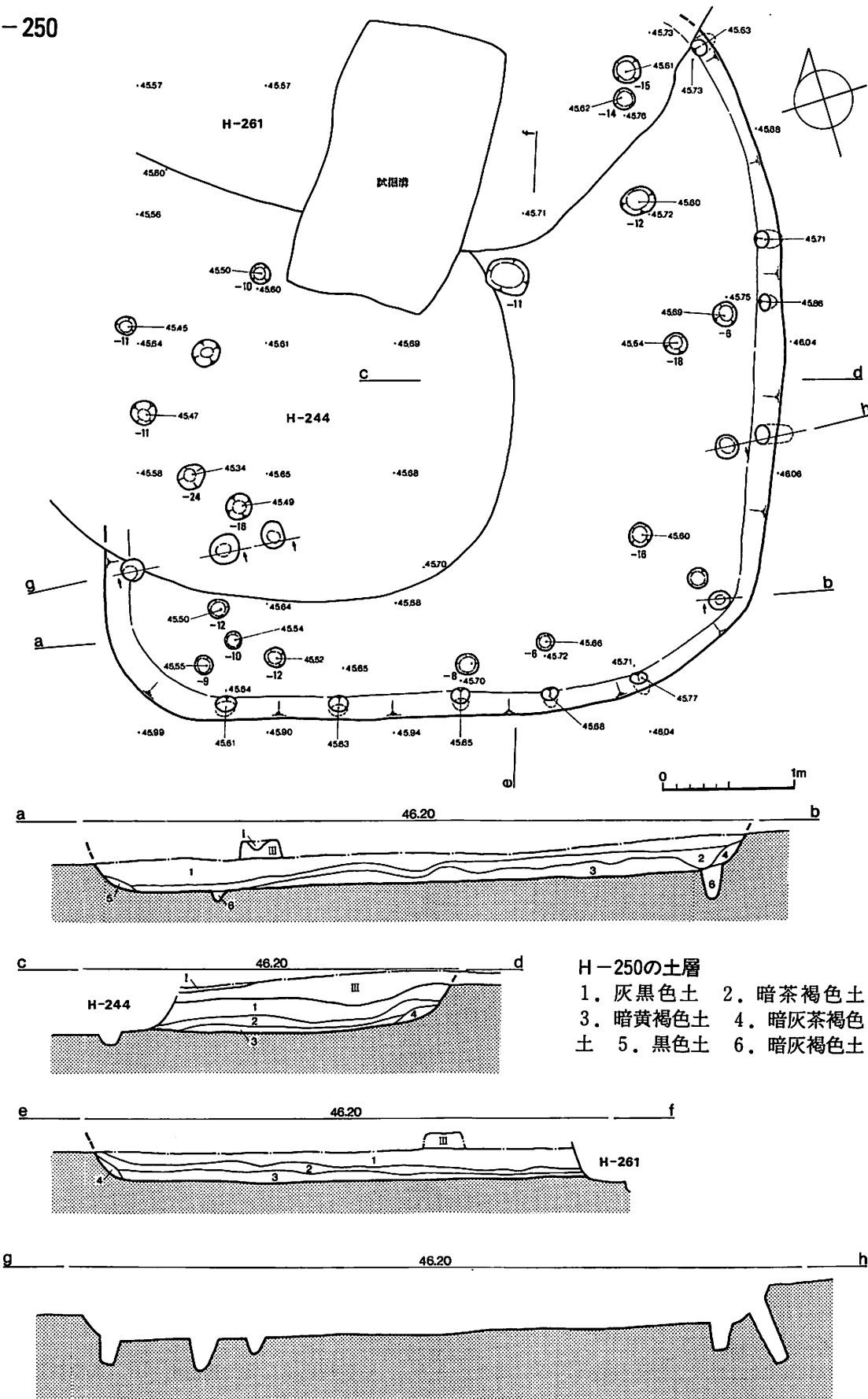
平面形: 卵形 長軸方向: N-52°-E

検出・掘り込み面: Ⅲb層中で検出し、掘り込み面もほぼ同一と考えられる。 重複関係: H-241・

281・283と重複しており、H-241より古く、他より新しい住居跡である。

時期: I群D1類土器を伴う縄文時代早期の時期のものと思われる。

H-250



図Ⅲ-181 H-250実測図





床面：V層を15cmほど掘り込んで構築されている。南西側がやや低いが、ほぼ平坦で、堅くしまっている。

壁：検出面からの壁高は35cmで、床面からの立ち上がりは丸味があり、壁の上部は急傾斜である。

炉跡：焼土などは検出されていない。

付属ピット：柱穴状小ピットは46個検出されている。18個は壁面により内傾する。21個は壁際から50cmの範囲内にある。

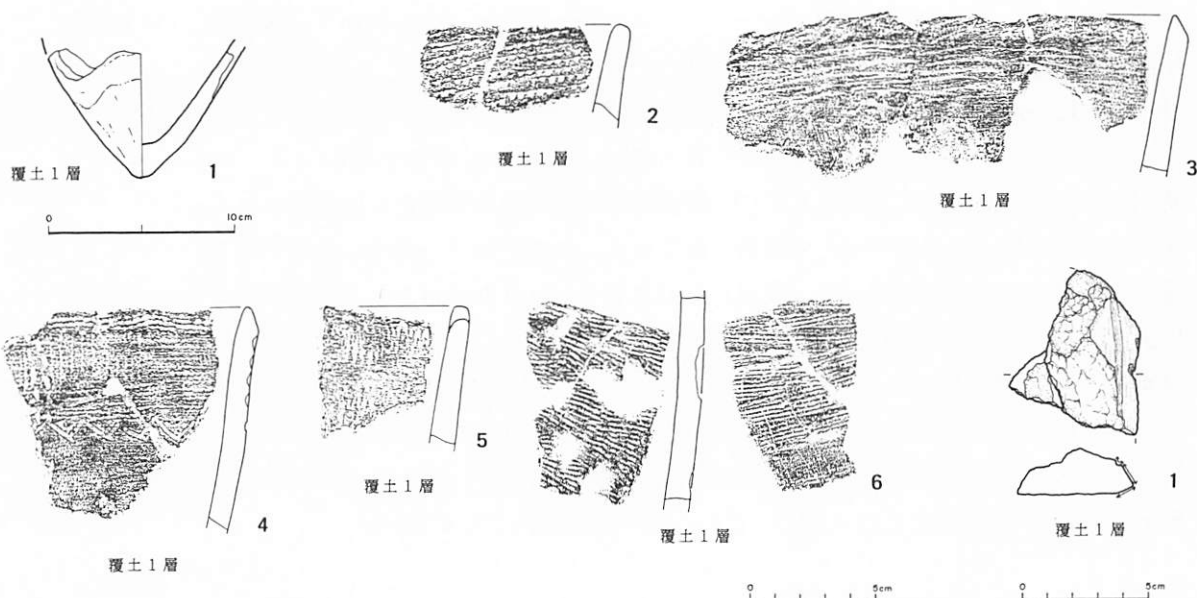
遺物出土状況：出土遺物総数は154点である。この内訳は土器129点、石器25点である。床面付近からは石皿1点、礫2点出土した。遺物は覆土上層から多く出土し、土器の大半はI群D1類のものである。土器はI群D1、D2、E類のものが出土し、石器ではすり石、石錘、石皿などが出土した。出土土器には、覆土どうし(図III-183-2・4)、覆土1層と47-44(Ⅲ)(図III-183-3)、覆土1層と45-42(Ⅲ)(図III-183-6)、という接合関係が見られる(谷島)。

#### 土器(図III-183 図版179-1)

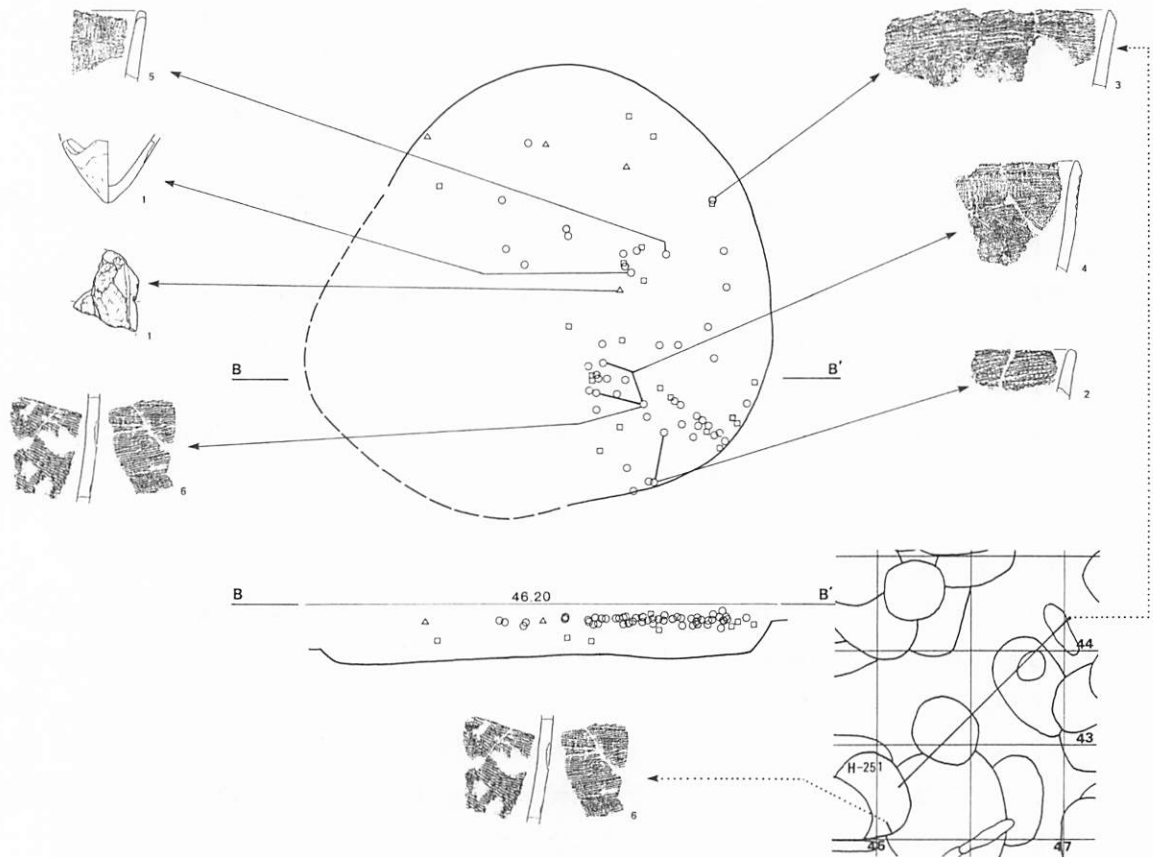
1は覆土1層から出土した尖底部で、細分類はいずれとも決し難い。2～4はI群D1類土器で、いずれも覆土1層から出土した口縁部破片である。2は横走る貝殻腹縁文がある。3は放射肋の低い貝殻を用いた腹縁文が、外側に傾斜した口唇端部には斜位に、口唇部には横位にめぐっている。4は口唇に貝殻腹縁文と刺突列の垂下が、口縁下部には鋸歯状沈線がある。5・6はI群D2類土器と思われるもので、やはり覆土1層から出土した。5の口縁部破片には連続した貝殻腹縁文が、6の体部破片には内外両面に貝殻条痕文が施文される。胎土には繊維が含有し、器表面が剥落している(森)。

#### 石器(図III-183 図版179-2)

1は加工痕のある礫。風化が著しい凝灰岩礫に3条の溝状のすり痕をもつ(宗像)。



図III-183 H-251出土遺物



図III-184 H-251出土遺物分布・接合図

H-252 (図III-185 図版52-3・4)

位置：46-43 47-43 規模：——／——×3.30m／3.00m×0.20m 床面積：(10.89m<sup>2</sup>)

平面形：長円形 長軸方向：N-60°-E

検出・掘り込み面：Ⅲb層中で検出し、掘り込み面もほぼ同一と考えられる。重複関係：H-248・259と重複しており、H-248より古く、H-259より新しい住居跡である。

時期：周辺包含層出土の遺物などから、縄文時代早期中葉の時期のものと思われる。

床面：Ⅴ層を10cmほど掘り込んで構築されている。ほぼ平坦で、堅くしまっている。

壁：検出面からの壁高は20cmで、床面からの立ち上がりは丸味があり、傾斜はゆるやかである。

炉跡：焼土などは検出されていない。

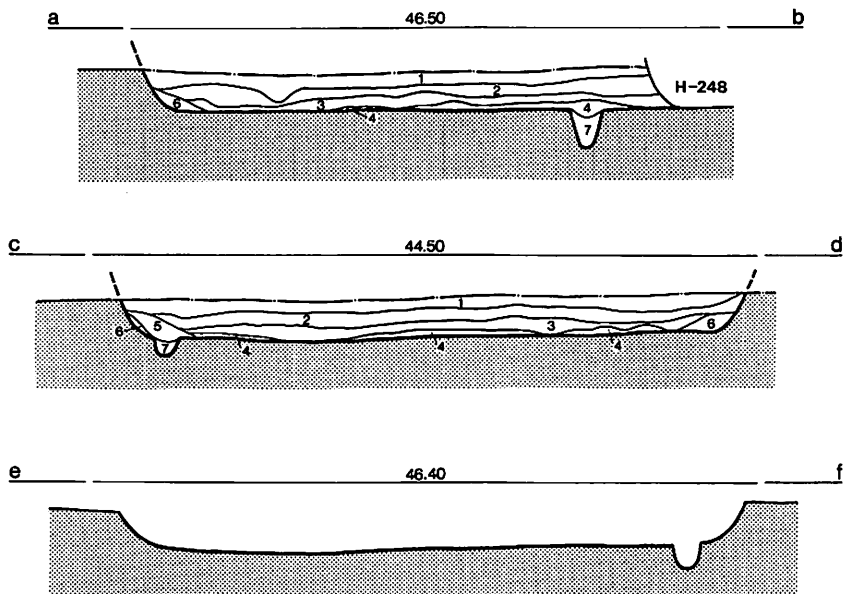
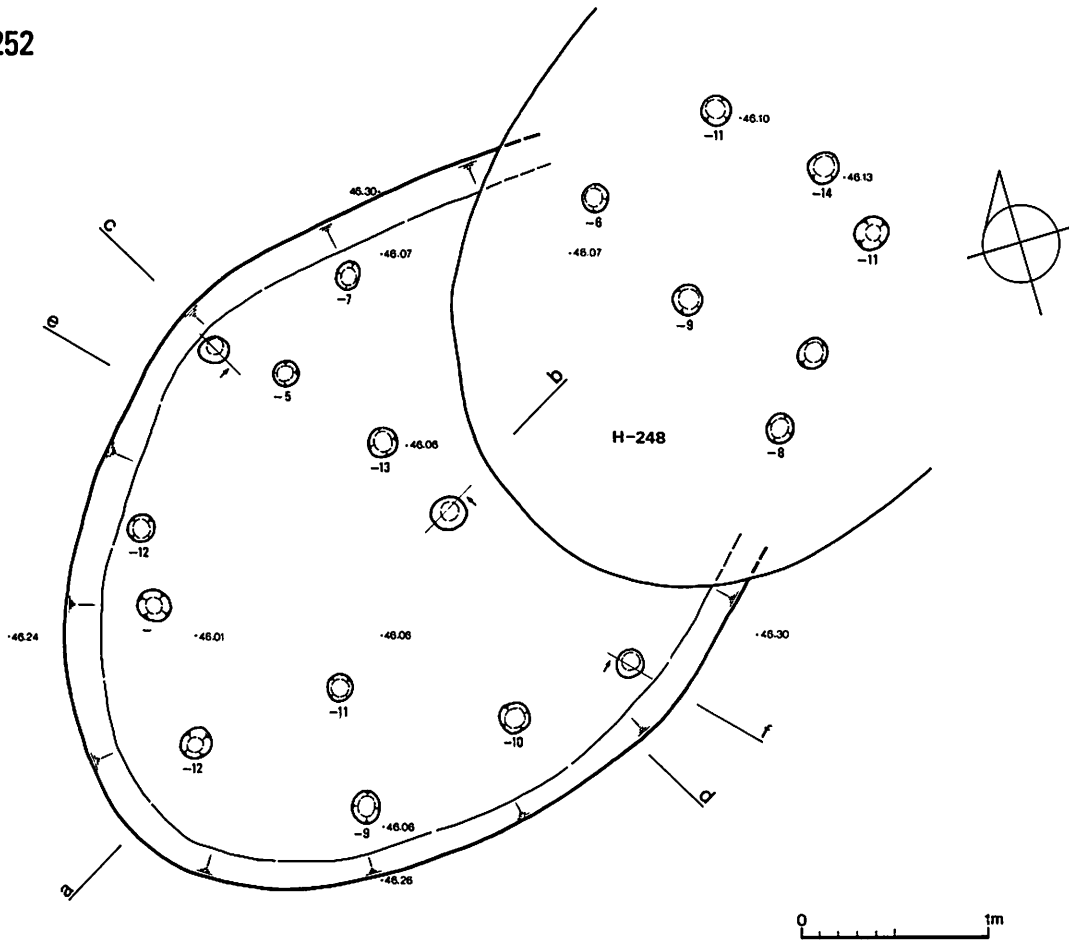
付属ピット：柱穴状小ピットは12個検出されている。9個は壁際から50cmの範囲内にある。H-248の床面からH-252に伴うと考えられる柱穴状小ピットが7個検出されている。

遺物出土状況：遺物は覆土1層からⅠ群D1類土器1点、礫4点出土しただけである。出土土器には、覆土1層とH-260覆土と47-42(I)、という接合関係が見られる(谷島)。

土器 (図III-186 図版179-3)

いずれもⅠ群D1類土器で、2はH-260の覆土1層、および包含層Ⅰ層から出土したものであるが、本住居跡の覆土1層から出土した1と同一個体であったため、ここに図示した。口唇部には貝殻腹縁文と鋸歯状の沈線が、口縁部には押引文が施文される。口唇部内面には縦位の貝殻腹縁文が施文され、この部分は器厚が薄くなっている(森)。

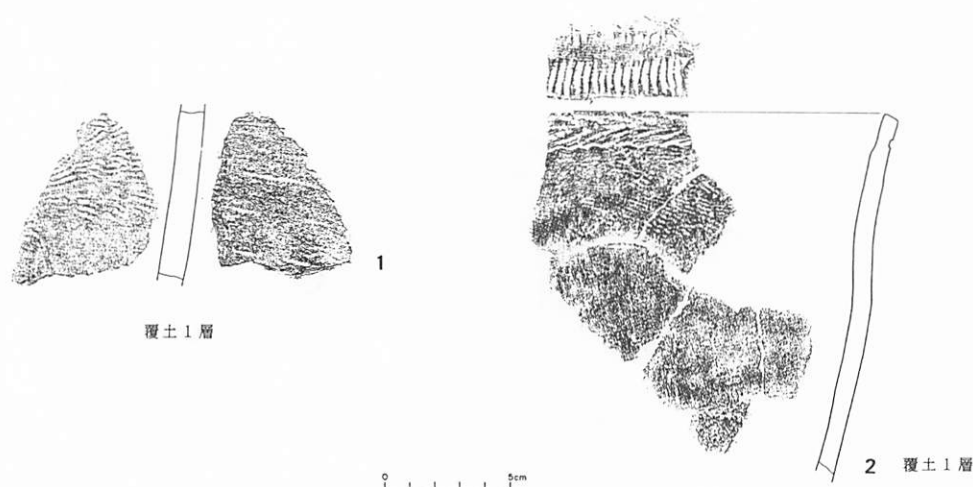
H-252



H-252の土層

1. 黒褐色土 2. 黒茶褐色土 3. 暗茶褐色土 4. 暗黄色粘質土 5. 茶褐色土  
6. 暗黄褐色土 7. 暗褐色土(柱穴)

図Ⅲ-185 H-252実測図



図III-186 H-252出土土器

H-253 (図III-187 図版53-1・2)

位置：43-42・43 規模：4.90m／4.65m×2.75m／2.55m×0.25m 床面積：10.03m<sup>2</sup>

平面形：長円形 長軸方向：N-45°-E

検出・掘り込み面：Ⅲb層中で検出し、掘り込み面もⅢb層中と考えられる。重複関係：H-247・246・257・286、T-31と重複しており、H-247・246、T-31より古く、他より新しい住居跡である。

時期：Ⅰ群D2類土器を伴う縄文時代早期中葉の時期のものと思われる。

床面：Ⅴ層を5cmほど掘り込んで構築されている。ほぼ平坦で、堅くしまっている。

壁：検出面からの壁高は15cmで、床面からの立ち上がりは丸味があり、傾斜はゆるやかである。

炉跡：焼土などは検出されていない。

付属ピット：床面の中央部北東寄りで1.04m×0.80m、深さ0.07mの長円形状のピットを検出した。柱穴状小ピットは24個検出されている。6個は壁面で検出され内傾する。14個は壁際から50cmの範囲内にある。

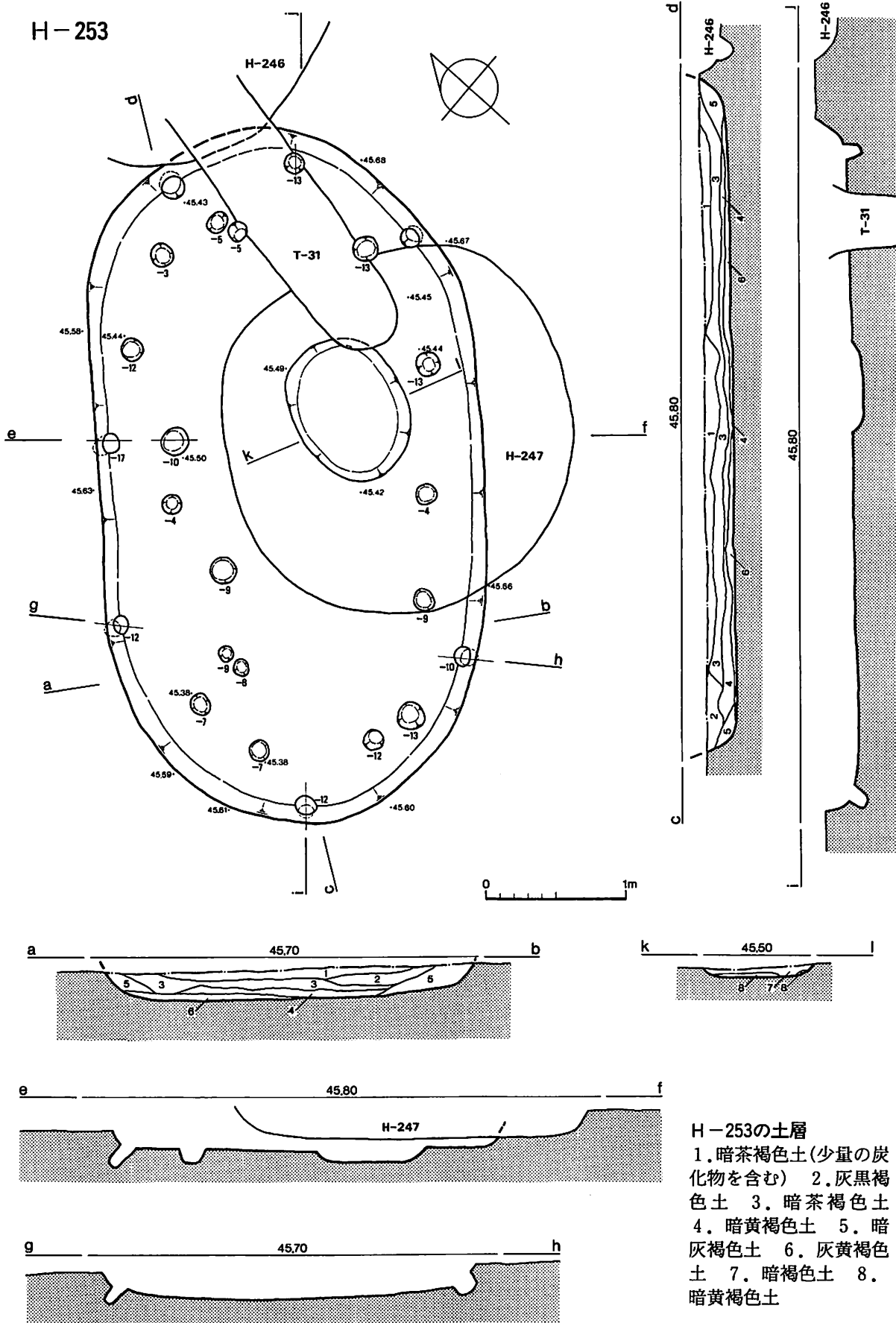
遺物出土状況：出土遺物総数は35点で、このうち土器は28点、石器は7点である。HP埋土、床面からⅠ群D2類土器が11点出土している。土器はⅠ群D1、D2類のものが出土し、石器では石皿、石錘、剥片が出土した。出土土器には、床面とHP埋土(図III-188-6)という接合関係が見られ、これは図III-188-5と同一個体である(谷島)。

土器(図III-188 図版179-5)

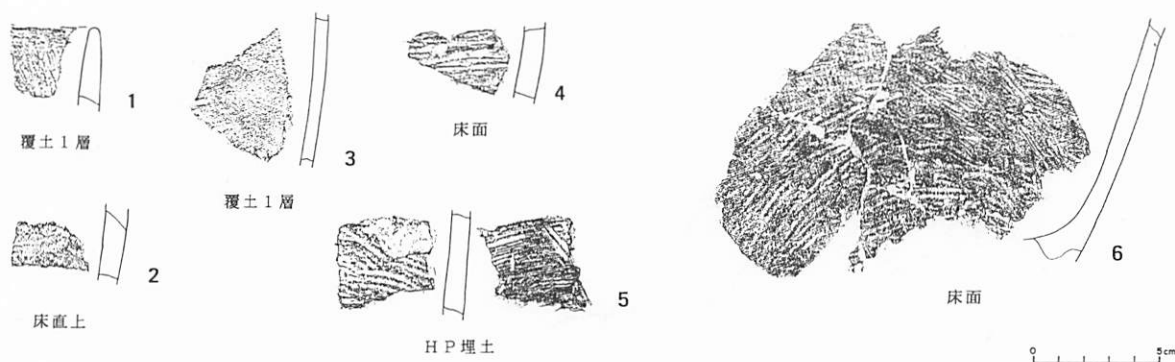
1～4はⅠ群D1類土器で、4の体部小破片が床面から出土したほかは、覆土1層の出土。5・6はⅠ群D2類土器で、5が内外面に貝殻条痕のある体部破片で、柱穴から、6は尖底部で床面から出土したものである(森)。

石器(図III-189 図版179-6)

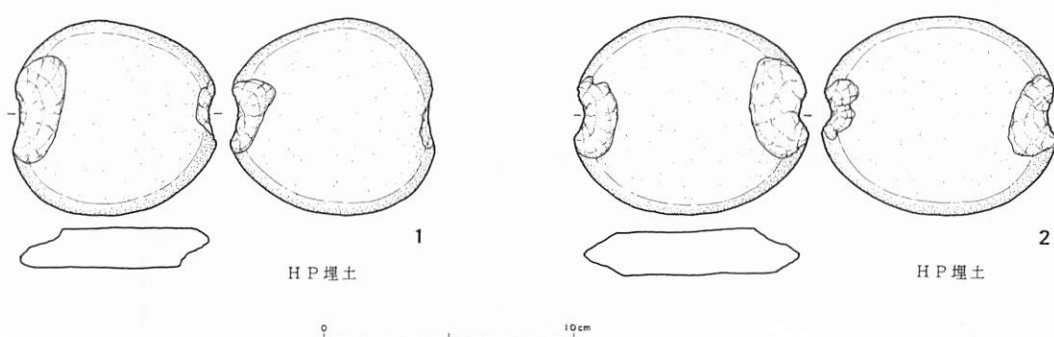
1・2はHP埋土から出土した石錘である(宗像)。



図Ⅲ-187 H-253実測図



図Ⅲ-188 H-253出土土器



図Ⅲ-189 H-253出土石器

H-254 (図Ⅲ-191 図版54-1・2)

位置：47-45・46 規模：3.95m/3.70m×2.80m/2.55m×0.25m 床面積：7.75㎡

平面形：長円形 長軸方向：N-45°-W

検出・掘り込み面：Ⅲb層中で検出し、掘り込み面もⅢb層中と考えられる。重複関係：ない

時期：周辺包含層出土の遺物などから、縄文時代早期中葉の時期のものと思われる。

床面：V層を10cmほど掘り込んで構築されている。ほぼ平坦で、堅くしまっている。

壁：検出面からの壁高は20cmで、床面からの立ち上がりは丸味があり、傾斜はゆるやかである。

炉跡：焼土などは検出されていない。

付属ピット：柱穴状小ピットは41個検出されている。21個は壁面にあり内傾する。10個は壁際から50cmの範囲内にある。

遺物出土状況：遺物はⅠ群のものと思われる土器片が1点、石器が6点出土しただけである。床面とHP埋土から礫が1点出土した以外は覆土中から出土したものである(谷島)。



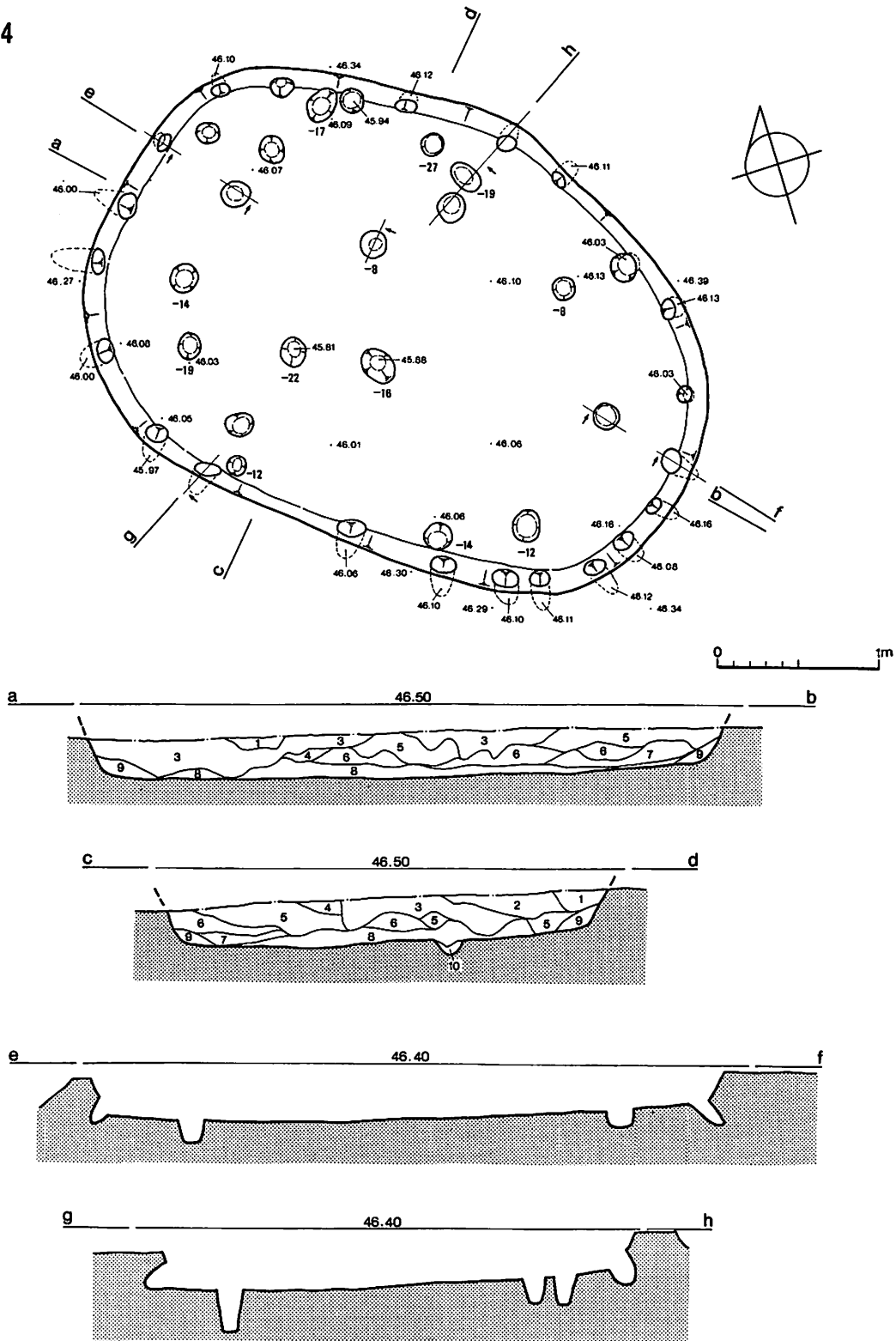
土器 (図Ⅲ-190 図版179-4)

1は覆土1層から出土した無文小破片である。Ⅰ群と思われるが細分類は判別できない(森)。

図Ⅲ-190  
H-254出土土器



H-254

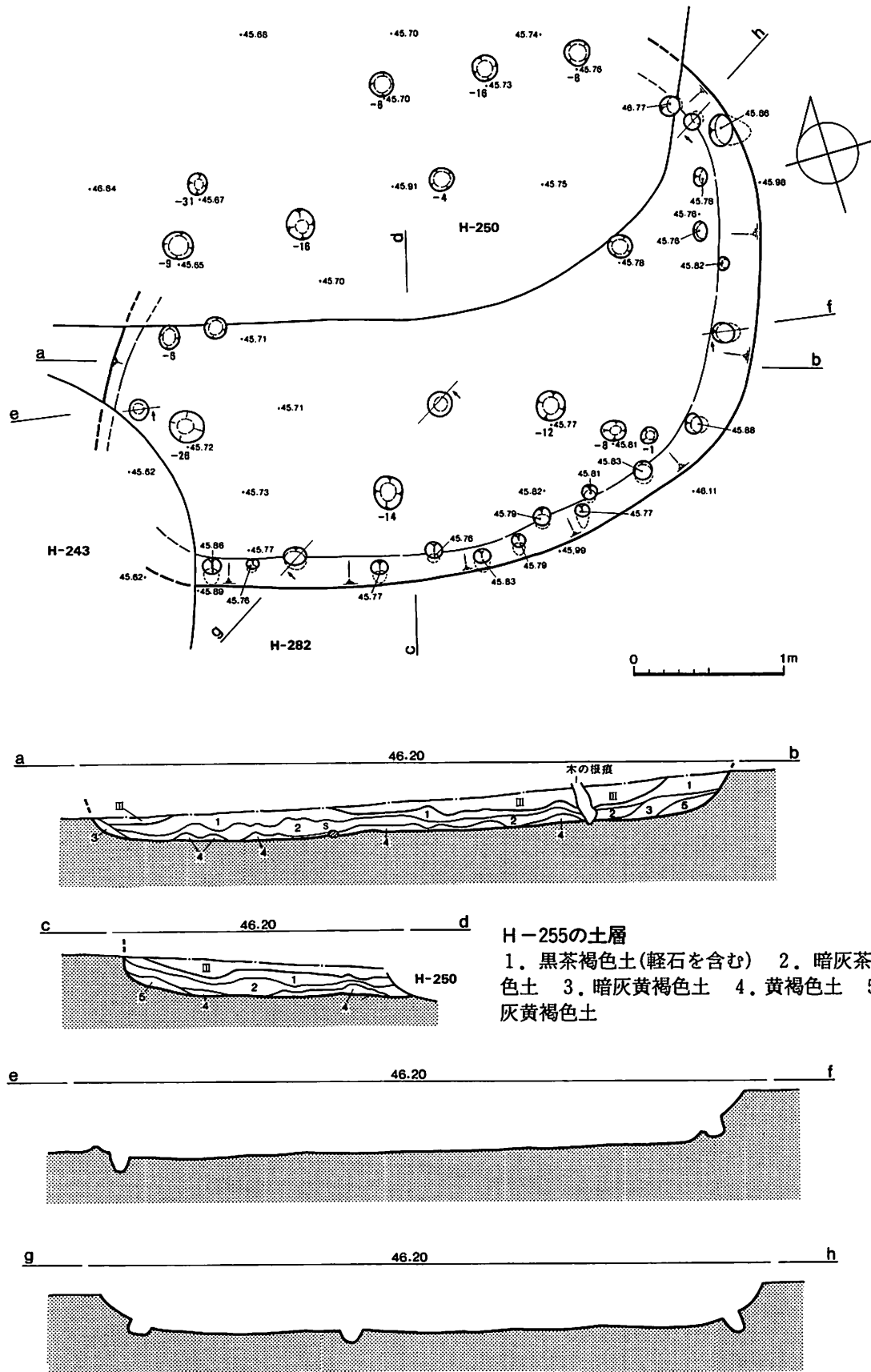


H-254の土層

1. 明茶褐色土(軽石を含む) 2. 暗灰褐色土 3. 暗褐色土(多量の軽石を含む) 4. 暗黄灰褐色土(軽石を多く含む) 5. 暗灰褐色土(大粒の軽石を含む) 6. 黒茶褐色土(多量の軽石を含む) 7. 茶褐色土(多量の軽石を含む) 8. 灰黄褐色粘質土 9. 明褐色土 10. 暗灰黄色土(柱穴)

図III-191 H-254実測図

H-255



図Ⅲ-192 H-255実測図

H-255 (図III-192 図版53-4・5)

位置: 45-44・45 46-44・45 規模: 4.50m/4.10m×——/——×0.25m

床面積: (10.41m<sup>2</sup>) 平面形: 長円形状 長軸方向: N-85°-E

検出・掘り込み面: III b層で検出されている。覆土の上半にIII層が堆積していることから、掘り込み面はIII b層中と考えられる。重複関係: H-250・243・282・294と重複しており、H-250・243より古く、他より新しい住居跡である。

時期: 周辺包含層出土の遺物などから、縄文時代早期中葉の時期のものと思われる。

床面: V層を10cmほど掘り込んで構築されている。西側が低く、ゆるやかに傾斜するが、堅くしまっている。

壁: 検出面からの壁高は20cmで、床面からの立ち上がりは丸味があり、傾斜はゆるやかである。

炉跡: 焼土などは検出されていない。

付属ピット: 柱穴状小ピットは29個検出されている。17個は壁面にあり内傾する。6個は壁際から50cmの範囲内にある。H-250から本住居跡に伴うと考えられる柱穴状小ピットが7個検出されている。

遺物出土状況: 遺物はHP埋土から礫が1点出土しただけである(谷島)。

H-256 (図III-194 図版54-3・4)

位置: 44-43・44 45-43・44 規模: ——/——×3.50m/3.30m×0.35m

床面積: (13.19m<sup>2</sup>) 平面形: 長円形状? 長軸方向: N-40°-W

検出・掘り込み面: III b層中で検出されている。覆土の上半にIII層が堆積することから、掘り込み面はIII b層中と考えられる。重複関係: H-243・218・245・294・282・285・159と重複しており、H-243・218・245より古く、他より新しい住居跡である。

時期: I群D1類土器を伴う縄文時代早期中葉の時期のものと思われる。

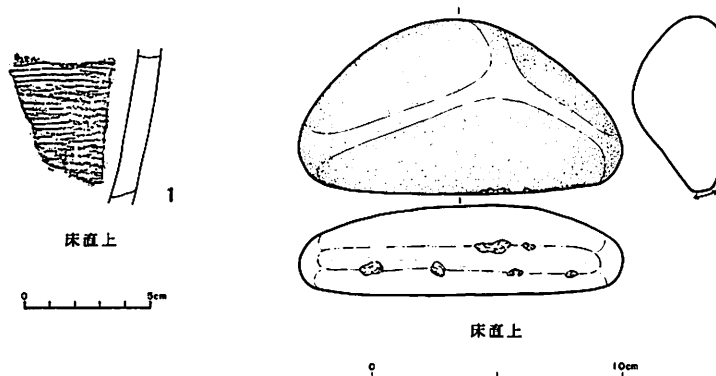
床面: V層を10cmほど掘り込んで構築されている。ほぼ平坦で、堅くしまっている。

壁: 検出面からの壁高は、15cm~30cmで、床面からの立ち上がりは丸味があり、傾斜はゆるやかである。

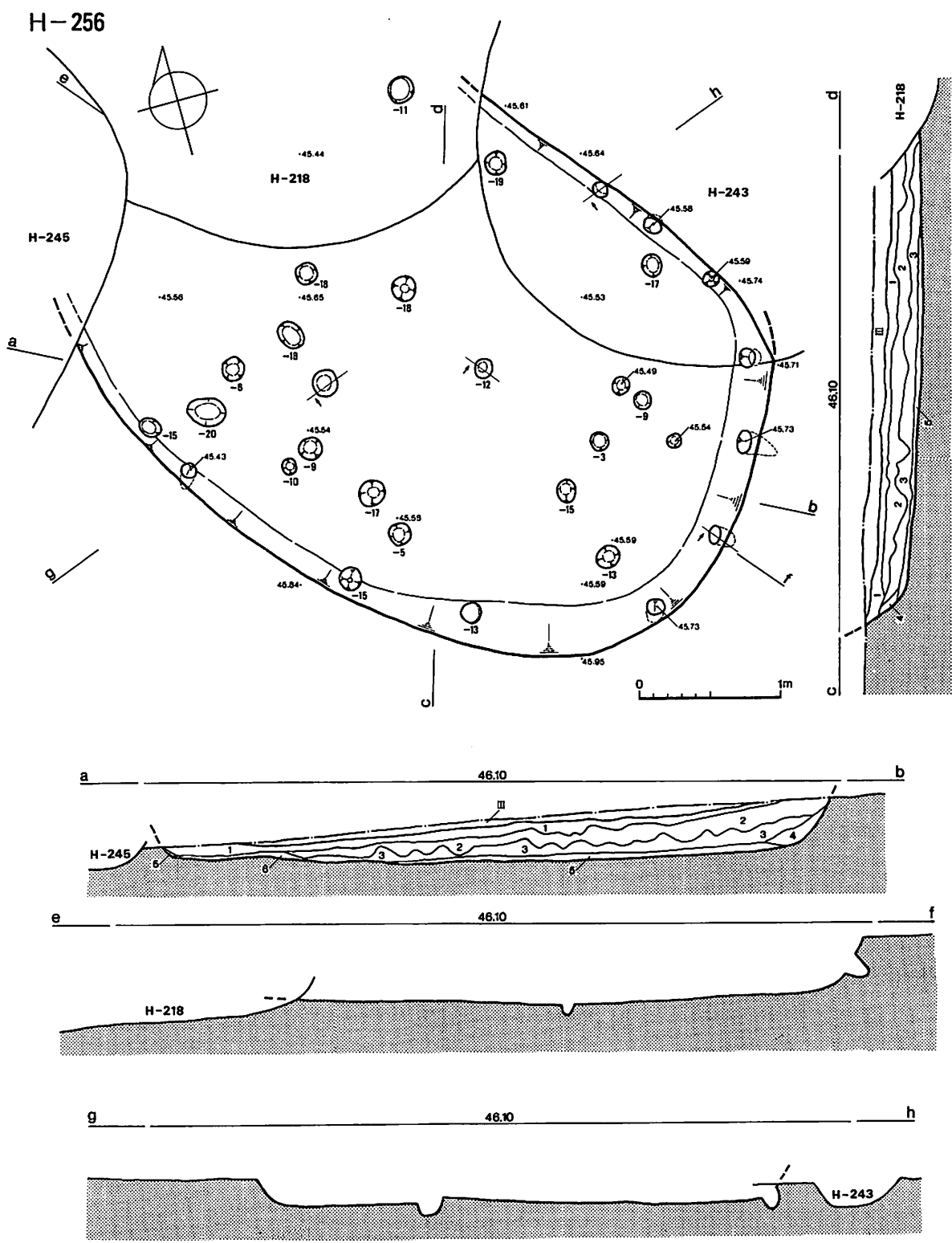
炉跡: 焼土などは検出されていない。

付属ピット: 柱穴状小ピットは30個検出されている。9個は壁面にあり内傾する。7個は壁際から50cmの範囲内にある。H-218から本住居跡に伴うと考えられる柱穴状小ピットが1個検出されている。

遺物出土状況: 出土遺物総数は22点で、このうち土器は17点、石器は5点である。床直上からはI群D1類土器5点、同D2類土器が1点、石器ではすり石、剥片が各1点ずつ出土している(谷島)。



図III-193 H-256出土遺物



H-256の土層  
1. 黒褐色土(軽石を含む) 2. 黒茶褐色土(軽石を多く含む) 3. 暗茶褐色土(軽石を含む)  
4. 暗灰茶褐色土 5. 暗黄褐色土 6. 灰黒色土

図Ⅲ-194 H-256実測図

土器(図III-193 図版180-1)

1は床直上から出土したI群D2類の体部破片である(森)。

石器(図III-193 図版180-2)

1はすり石である(宗像)。

H-257(図III-196 図版55-1)

位置: 43-42・44 44-42・43 規模: 3.65m/3.35m×3.40m/3.10m×0.25m

床面積: 9.71m<sup>2</sup> 平面形: 円形状 長軸方向: N-5°-W

検出・掘り込み面: III b層中で検出された。覆土の上半にIII層が堆積していることから、掘り込み面はIII b層中と考えられる。重複関係: H-247・253・281・286と重複しており、H-247・253より古く、他よりは新しい住居跡である。

時期: 周辺包含層出土の遺物などから、縄文時代早期中葉の時期のものと思われる。

床面: V層を5cmほど掘り込んで構築されている。南側がやや低く、ゆるやかに傾斜するが、ほぼ平坦である。堅くしまっている。

壁: 検出面からの壁高は20cmで、床面からの立ち上がりは丸味があり、傾斜はゆるやかである。

炉跡: 焼土などは検出されていない。

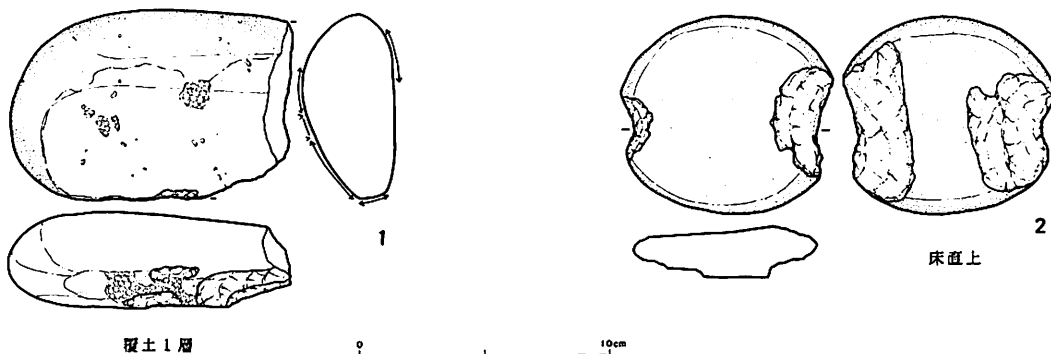
付属ピット: 柱穴状小ピットは13個検出されている。4個は壁面にあり内傾する。4個は壁際から50cmの範囲内にある。H-247から本住居跡に伴うと考えられる柱穴状小ピットが1個検出されている。

遺物出土状況: 遺物は覆土1層ですり石1点、床直上ですり石1点、石錘2点が出土しただけである(谷島)。

石器(図III-195 図版180-3)

1はすり石。綾部・平坦面のすり面には、たたき痕が複合する。平坦面のすり面は目がこまかい。

2は石錘である(宗像)。



図III-195 H-257出土石器

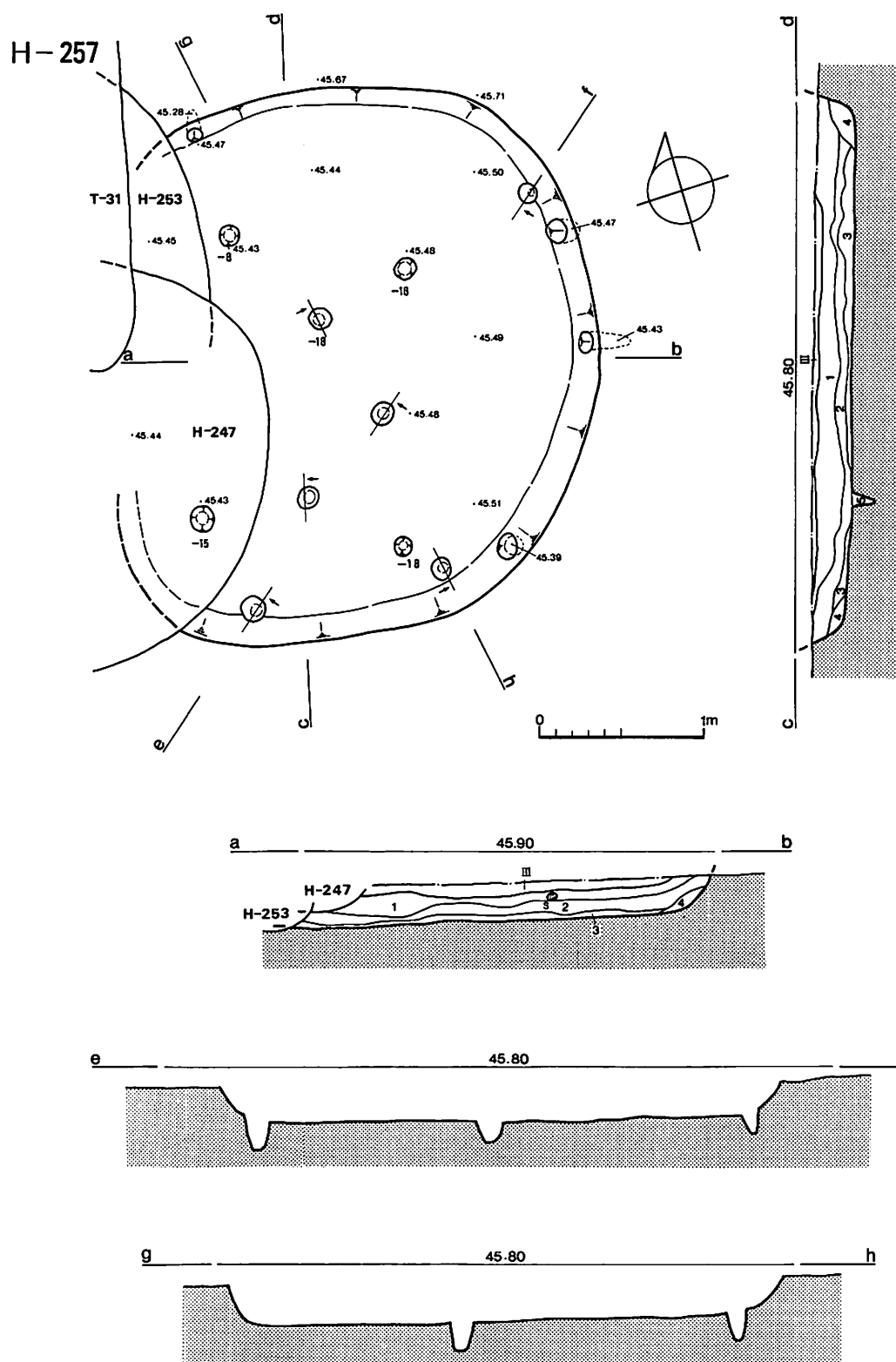
H-258(図III-197 図版55-2 図版56-1)

位置: 44-41・42 45-41・42 規模: —/—×4.15m/3.75m×0.25m 床面積: (14.30m<sup>2</sup>)

平面形: 隅丸長形状 長軸方向: N-20°-W

検出・掘り込み面: III b層中で検出し、掘り込み面もIII b層中と考えられる。

重複関係: T-22、H-195・298と重複しており、T-22より古く、他より新しい住居跡である。



H-257の土層

1. 黑茶褐色土 2. 暗灰褐色土 3. 灰黄褐色土 4. 暗灰黄褐色土 5. 暗褐色土(柱穴)

図III-196 H-257実測図





時期：I群D1類土器を伴う縄文時代早期中葉の時期のものと思われる。

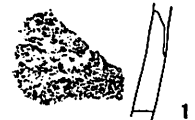
床面：V層を10cmほど掘り込んで構築されている。中央部が若干低く、堅くしまっている。

壁：検出面からの壁高は20cmで、床面からの立ち上がりは丸味があり、傾斜はゆるやかである。

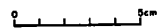
炉跡：焼土などは検出されていない。

付属ピット：柱穴状小ピットは30個検出されている。10個は壁面にあり内傾する。6個は壁際から50cmの範囲内にある。

遺物出土状況：遺物は15点出土している。覆土1層でI群D1類土器10点、同D2類土器1点、石器ではRフレイク2点、剥片1点、石錘1点出土した(谷島)。



覆土1層



図III-198

H-258出土土器

土器(図III-198 図版180-4)

1は覆土1層から出土した無文小破片である。内面のナデ調整からI群D1類と判定した(森)。

H-259(図III-199 図版55-3 図版56-2)

位置：47-42・43 規模：4.45m/4.07m×4.05m/3.80m×0.30m 床面積：13.05㎡

平面形：隅丸方形状 長軸方向：N-20°-W

検出・掘り込み面：IIIb層中で検出された。覆土の上半にIII層が堆積していることから、掘り込み面はIIIb層中と考えられる。重複関係：H-248・252・284と重複しており、H-284より新しく、他より古い住居跡である。

時期：周辺包含層出土の遺物などから、縄文時代早期中葉の時期のものと思われる。

床面：V層を10cmほど掘り込んで構築されている。中央部が若干低く、堅くしまっている。

壁：検出面からの壁高は20cmで、床面からの立ち上がりは丸味があり、傾斜はゆるやかである。

炉跡：焼土などは検出されていない。

付属ピット：柱穴状小ピットは38個検出されている。24個は壁面にあり内傾する。12個は壁際から50cmの範囲内にある。

遺物出土状況：遺物は覆土1層で石錘が1点出土した以外は礫が21点出土しただけである(谷島)。

H-260(図III-200 図版56-3・4)

位置：47-41・42 規模：——/——×3.05m/2.75m×0.30m 床面積：(10.97㎡)

平面形：長円形状 長軸方向：N-15°-E

検出・掘り込み面：IIIb層中で検出した。掘り込み面もIIIb層中と考えられる。

重複関係：H-289と重複しており、これより新しい住居跡である。

時期：周辺包含層出土の遺物などから、縄文時代早期中葉の時期のものと思われる。

床面：V層を10cmほど掘り込んで構築されている。南側が若干低いいためゆるやかに傾斜している。ほぼ平坦で、堅くしまっている。

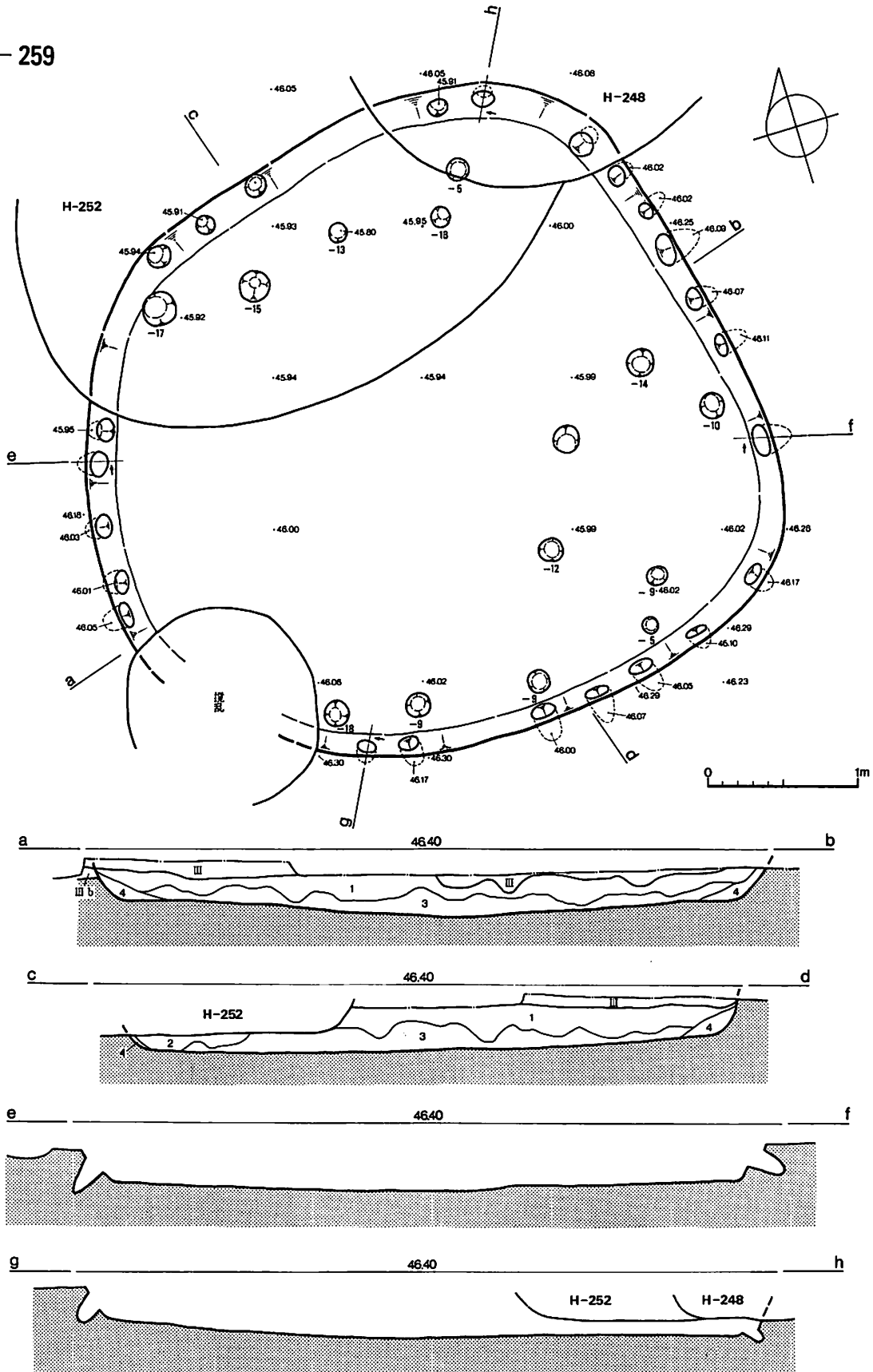
壁：検出面からの壁高は25cmで、床面からの立ち上がりは丸味があり、傾斜はゆるやかである。

炉跡：焼土などは検出されていない。

付属ピット：柱穴状小ピットは19個検出されている。11個は壁面にあり内傾する。6個は壁際から50cmの範囲内にある。

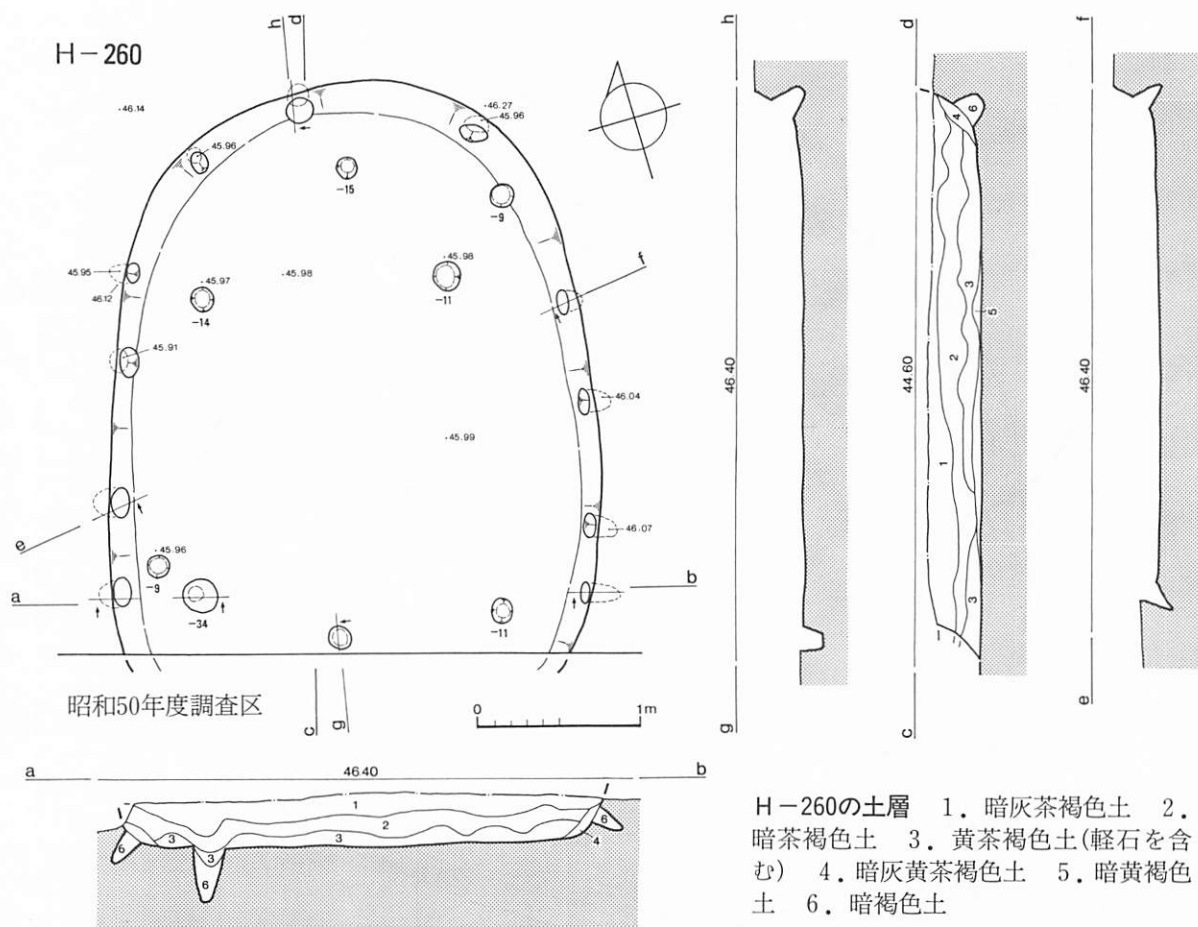
遺物出土状況：遺物は土器7点、石器6点が出土し、床面からは礫が1点だけ出土し、他は覆土中か

H-259



H-259の土層 1. 暗黄茶褐色土 2. 暗灰黄褐色粘質土 3. 黄茶褐色土 4. 暗灰黄茶褐色土

図Ⅲ-199 H-259実測図



図Ⅲ-200 H-260実測図

らの出土である。土器はⅠ群D1類6点、同D2類1点、石器ではスクレイパー、石錘などが出土している。出土土器には、覆土とH-252覆土と47-42(I)、という接合関係が見られる(谷島)。

土器 (図Ⅲ-201 図版180-5)

いずれも覆土から出土したもので、1はⅠ群D1類、無文の体部破片。2はⅠ群D2類の体部破片。貝殻条痕が内外面に認められる(森)。

石器 (図Ⅲ-201 図版180-6)

1はスクレイパー。刃部には刃つぶれ条の使用痕が見られる(宗像)。



図Ⅲ-201 H-260出土遺物



H-261 (図Ⅲ-202 図版56-5 図版57-1)

位置：45-45・46 46-45・46 規模：6.40m/6.04m×5.60m/5.30m×0.30m

床面積：14.57㎡ 平面形：楕円形状 長軸方向：N-77°-W

検出・掘り込み面：45-45・46 46-45・46の包含層調査中、黒褐色土の広がりを確認し、IV層にV層のローム粒を多量に含む土の落ち込みを検出した。 重複関係：H-244・250・262・265・287・295・319・325と重複しており、H-244より古い、他よりは新しい住居跡である。

時期：周辺包含層出土の遺物などから、縄文時代早期中葉の時期のものと思われる。

床面：ほぼ平坦である。

壁：検出面からの壁高は約30cmである。比較的ゆるやかに立ち上がる。

炉跡：焼土などは検出されていない。

付属ピット：ピットは24個検出された。このうちHP-23・24を除く22個が柱穴状小ピットである。柱穴状小ピットの配列などから、HP-2・11・17・20が主柱穴と考えられる。

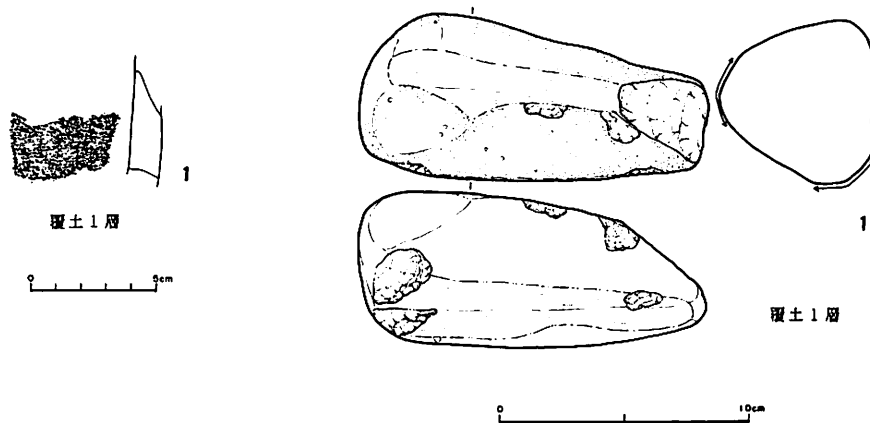
遺物出土状況：遺物は覆土中から出土した。土器はI群D1類1点、石器ではすり石、砥石、石錘、礫が各1点ずつ出土した(倉橋)。

土器 (図Ⅲ-203 図版180-7)

1は覆土1層から出土した無小破片である。I群D1類土器である(森)。

石器 (図Ⅲ-203 図版180-8)

1はすり石。綾部のすり面は段差をもつ(宗像)。



図Ⅲ-203 H-261出土遺物

H-262 (図Ⅲ-204 図版56-6 図版57-2)

位置：46-45・46 47-45・46 規模：6.28m/5.74m×5.40m/4.96m×0.26m

床面積：13.53㎡ 平面形：不整五角形 長軸方向：N-65°-E

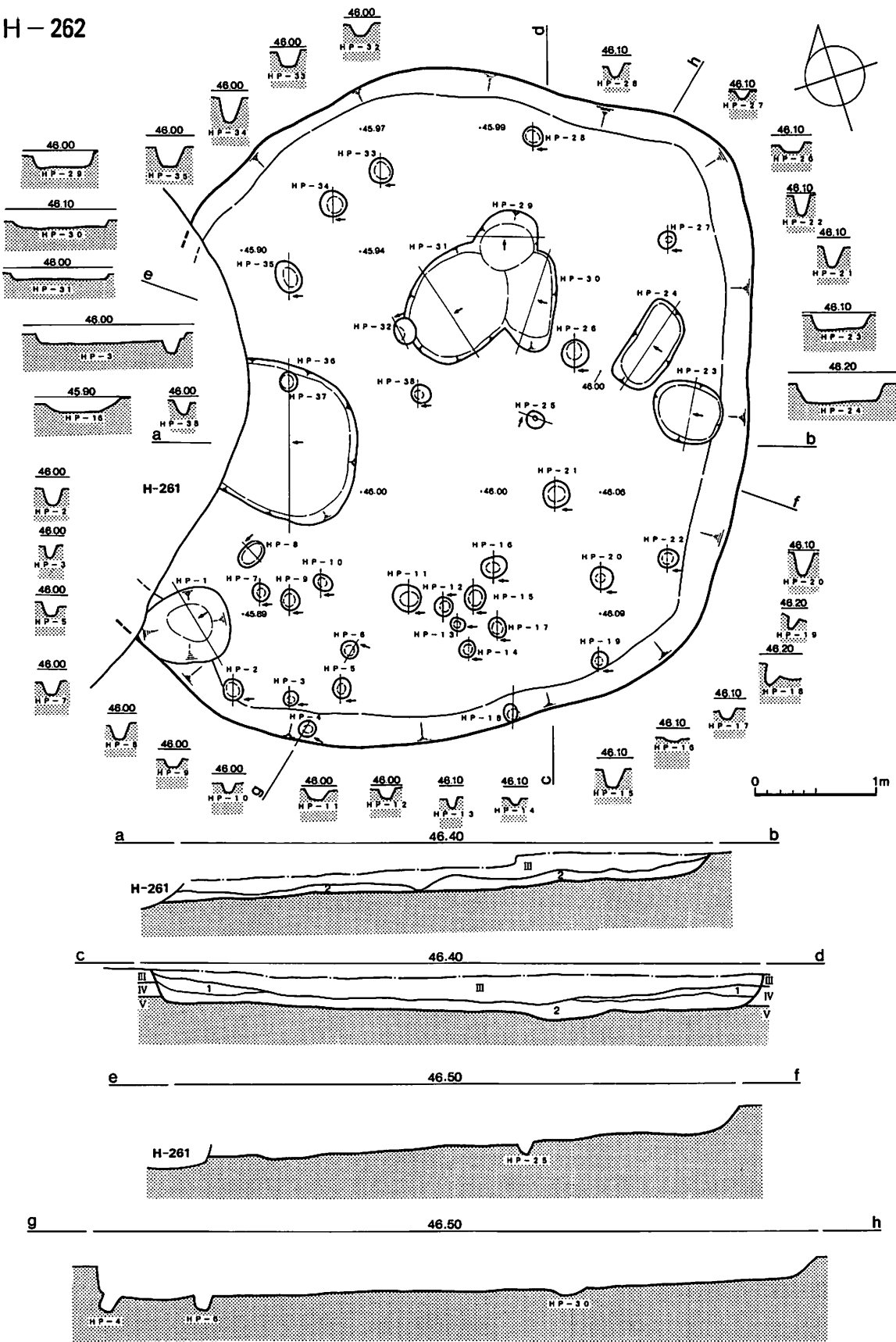
検出・掘り込み面：H-261の調査中、東壁面に黒褐色土の落ち込みが見られた。IV層にV層のローム粒を多量に含む土の落ち込みを検出した。 重複関係：H-250・261・263・265と重複しており、H-250・261より古く、他より新しい住居跡である。

時期：周辺包含層出土の遺物などから、縄文時代早期中葉の時期のものと思われる。

床面：ほぼ平坦である。



H-262



H-262の土層  
1. 黒褐色土(Ⅲ>Ⅳ しまっている) 2. 暗褐色土(Ⅳ+Ⅲ 堅くしまっている。軽石混入)

図Ⅲ-204 H-262実測図

壁：検出面からの壁高は約20cmである。比較的ゆるやかに立ち上がる。

炉跡：焼土などは検出されていない。

付属ピット：ピットは38個検出された。そのうちHP-1・23・24・29・30・31・36を除く31個が柱穴状小ピットである。柱穴状小ピットの配列などからHP-9・20・27・35が主柱穴と考えられる。

遺物出土状況：遺物は覆土1層で剥片、礫が各1点ずつ出土しただけである(倉橋)。

H-263 (図Ⅲ-206 図版57-3 図版58-1)

位置：46-46・47 47-46・47 規模：6.60m/6.40m×(4.50m)/(4.30m)×0.30m

床面積：(16.07m<sup>2</sup>) 平面形：隅丸長方形 長軸方向：N-55°-W

検出・掘り込み面：H-262の調査中にその北東側で黒褐色土の落ち込みが見られた。IV層にV層のローム粒を多量に含む土の落ち込みを検出した。重複関係：H-262・265・267・268・269・273と重複しており、H-262より古く、他より新しい住居跡である。

時期：周辺包含層出土の遺物などから、縄文時代早期中葉の時期のものと思われる。

床面：ほぼ平坦である。

壁：検出面からの壁高は20cmである。比較的急に立ち上がる。

炉跡：焼土などは検出されていない。

付属ピット：ピットは22個検出された。そのうちHP-9・10を除く20個が柱穴状小ピットである。HP-3・7・13・19が主柱穴と考えられる。

遺物出土状況：覆土、床面付近から遺物は出していない(倉橋)。

H-264 (図Ⅲ-207 図版58-2・3)

位置：48-46・47 49-46・47 規模：5.35m/4.88m×4.20m/3.83m×0.29m

床面積：12.97m<sup>2</sup> 平面形：隅丸長方形 長軸方向：N-72°-W

検出・掘り込み面：48-46・47 49-46・47の包含層調査中、暗褐色の広がりを確認した。IV層にV層のローム粒を多量に含む土の落ち込みを検出した。重複関係：H-270・271・272・278と重複しており、これらより新しい住居跡である。

時期：周辺包含層出土の遺物などから、縄文時代早期中葉の時期のものと思われる。

床面：ほぼ平坦である。

壁：検出面からの壁高は約20cmである。比較的急に立ち上がる。

炉跡：焼土などは検出されていない。

付属ピット：ピットは27個検出された。すべて柱穴状小ピットである。HP-3・9・21が主柱穴と考えられる。

遺物出土状況：遺物は覆土1層でI群D1類土器が1点出土しただけである(倉橋)。



覆土1層

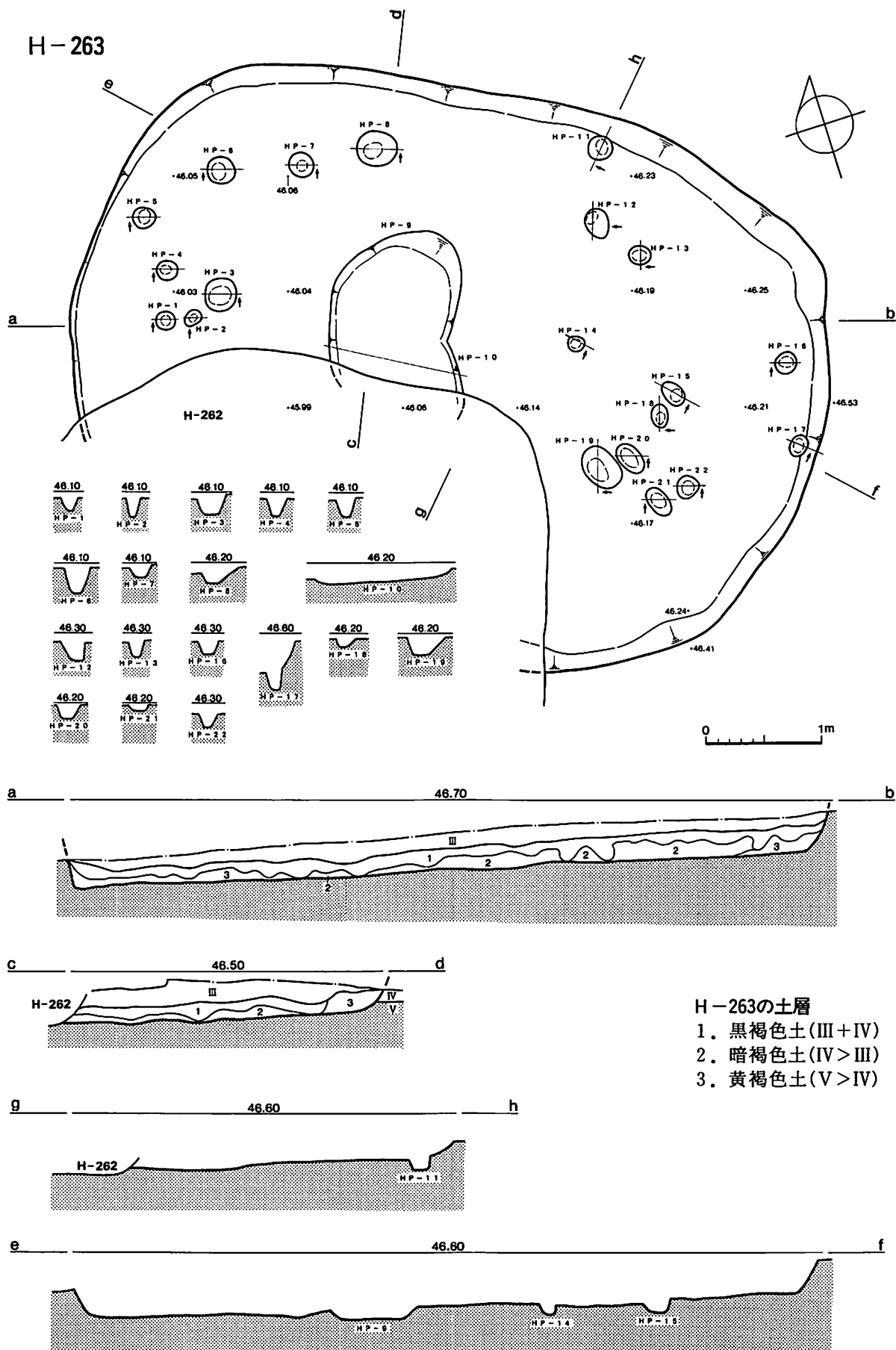


土器 (図Ⅲ-205 図版180-9)

1は覆土1層から出土した体部小破片で、僅かに押引文が認められる。I群D1類である(森)。

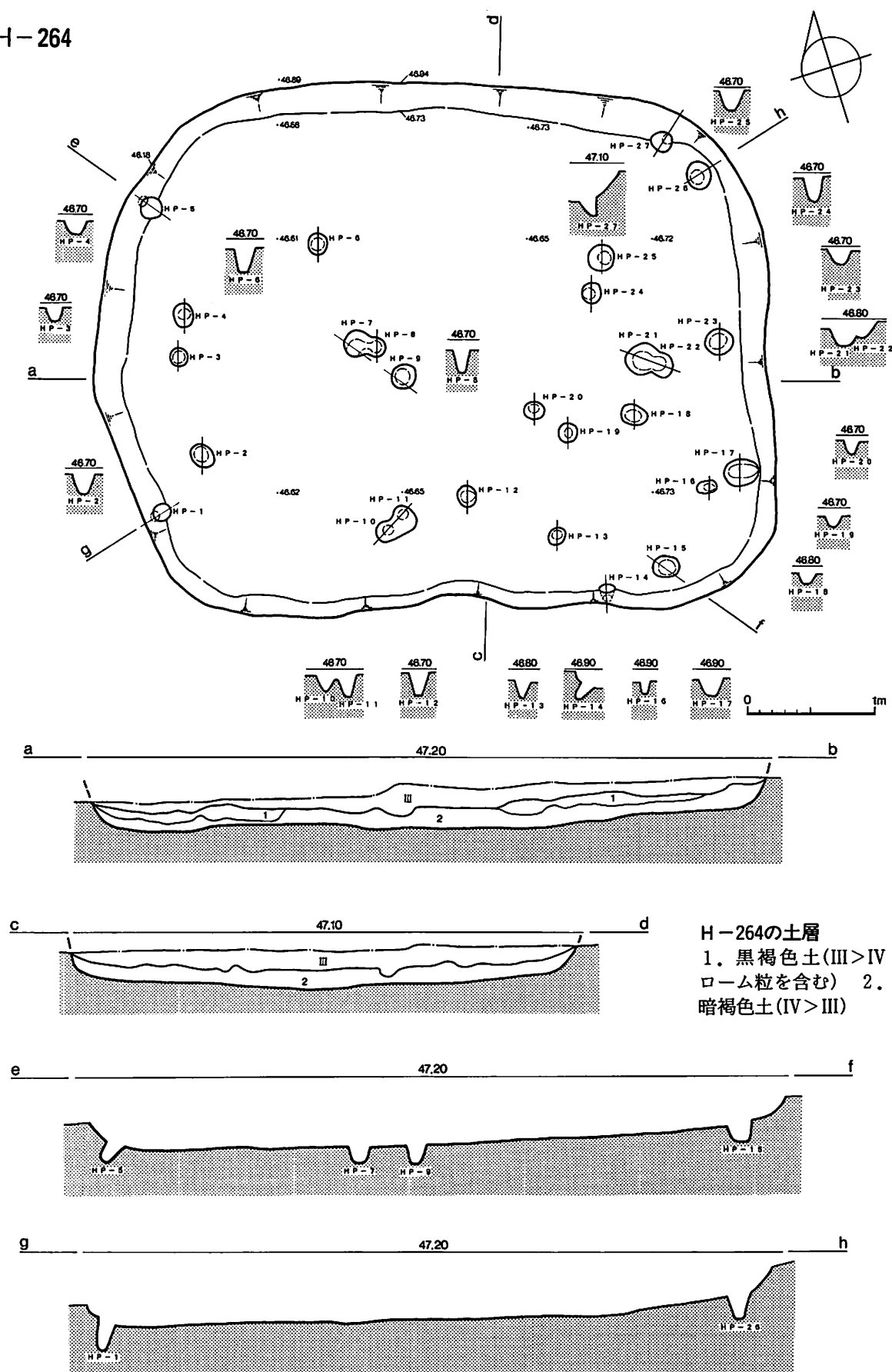
図Ⅲ-205

H-264出土土器



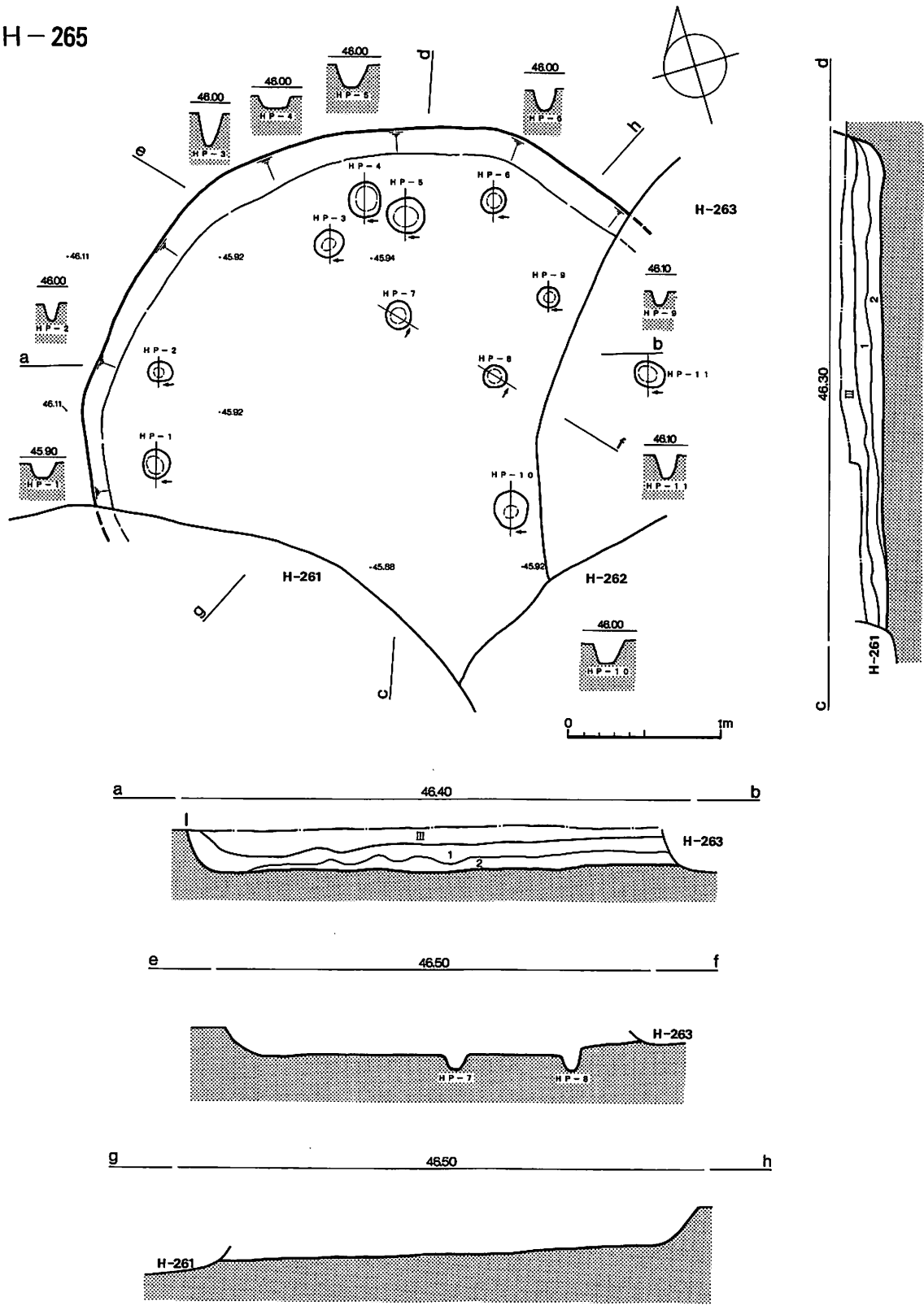
図Ⅲ-206 H-263実測図

H-264



図III-207 H-264実測図

H-265



H-265の土層  
1. 暗褐色土(Ⅳ+Ⅲ) 2. 暗褐色土(Ⅳ>Ⅲ)

図Ⅲ-208 H-265実測図

H-265 (図Ⅲ-208 図版58-4・5)

位置: 45-46・47 46-46・47 規模: ———×———×(0.30m)

床面積・平面形・長軸方向: 不明

検出・掘り込み面: H-261・262の北側に暗褐色土の落ち込みを確認し、Ⅳ層にⅤ層のローム粒を多量に含む土の落ち込みを検出した。重複関係: H-261・262・263・273・274と重複しており、H-261・262・263より古く、他より新しい住居跡である。

時期: 周辺包含層出土の遺物などから、縄文時代早期中葉の時期のものと思われる。

床面: ほぼ平坦である。

壁: 比較的ゆるやかな立ち上がりである。

炉跡: 焼土などは検出されていない。

付属ピット: ピットは11個検出された。すべて柱穴状小ピットである。HP-2・6・11は主柱穴と考えられる。

遺物出土状況: 覆土、床面付近から遺物は出土していない(倉橋)。

H-266 (図Ⅲ-209 図版58-6 図版59-1)

位置: 45-47・48 46-47・48 規模: 3.57m/3.24m×3.10m/2.86m×0.12m

床面積: 7.25㎡ 平面形: 不整円形 長軸方向: N-78°-E

検出・掘り込み面: 45-47・48、46-47・48の包含層調査中、Ⅳ層上面で暗褐色土の落ち込みを検出した。

重複関係: H-225より古く、H-274より新しい住居跡である。

時期: 周辺包含層出土の遺物などから、縄文時代早期中葉の時期のものと思われる。

床面: ほぼ平坦である。

壁: 急に立ち上がる。

炉跡: 焼土などは検出されていない。

付属ピット: 柱穴状小ピットは12個検出された。HP-2・5は主柱穴と考えられる。

遺物出土状況: 覆土、床面付近から遺物は出土していない(倉橋)。

H-267 (図Ⅲ-210 図版59-2・3)

位置: 47-45・46 48-45・46 規模: (5.10m)/(4.73m)×(4.10m)/(3.74m)×0.26m

床面積: (13.77㎡) 平面形: 長円形 長軸方向: N-44°-W

検出・掘り込み面: 47-45・46、48-45・46の包含層調査中、Ⅳ層上面で暗褐色土の落ち込みを検出した。重複関係: H-263・269・272・275と重複しており、H-236より古く、他より新しい住居跡である。

時期: 周辺包含層出土の遺物などから、縄文時代早期中葉の時期のものと思われる。

床面: 北東が高く、南西側に僅かに傾斜している。ほぼ平坦である。

壁: 検出面からの壁高は約20cmである。急に立ち上がる。

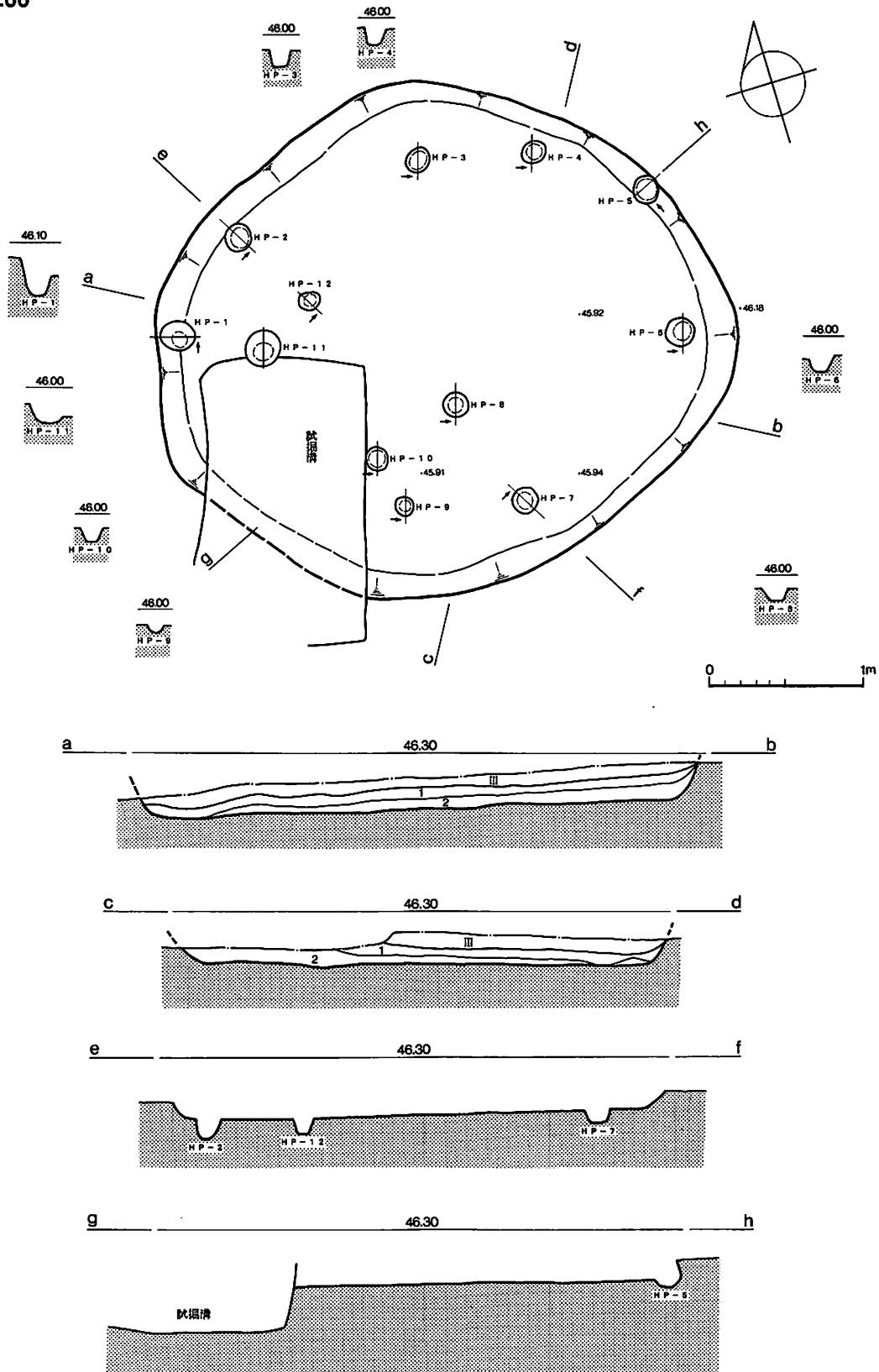
炉跡: 焼土などは検出されていない。

付属ピット: 柱穴状小ピットは26個検出されている。北東の壁際に柱穴状小ピットがめぐる。HP-2・5・16・25は主柱穴と考えられる。

遺物出土状況: 覆土、床面付近から遺物は出土していない(倉橋)。



H-266



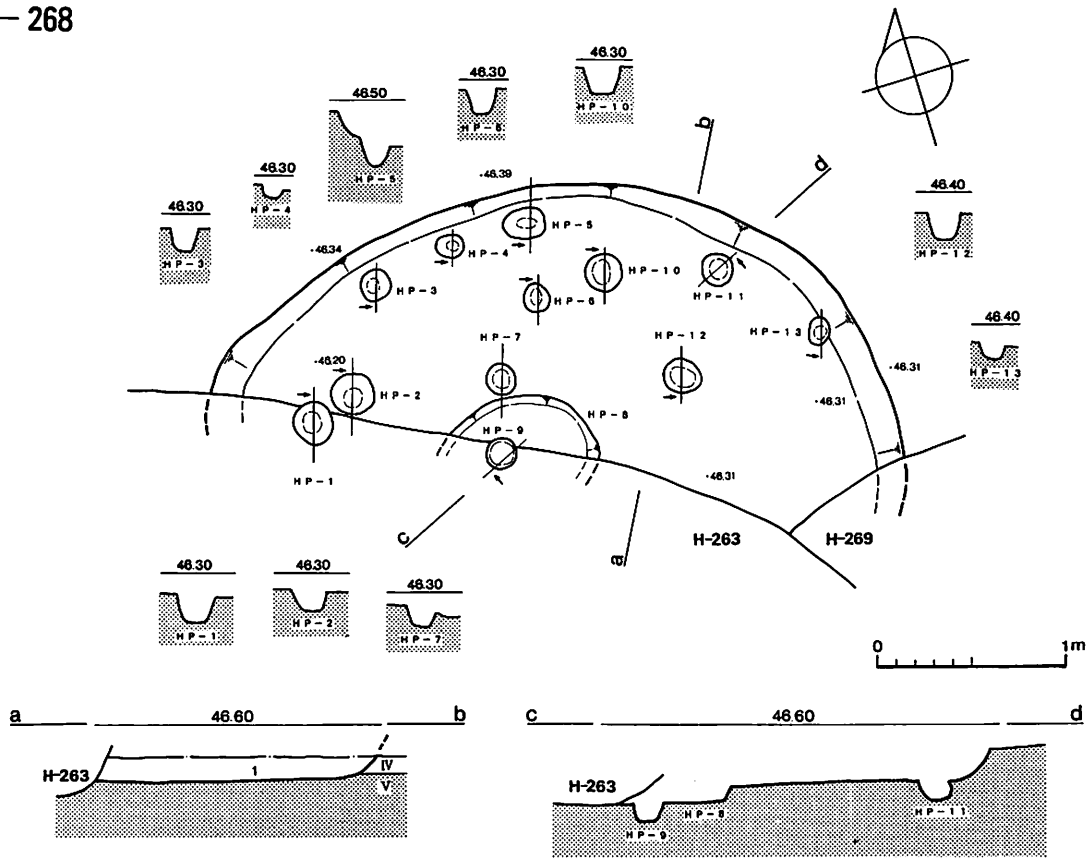
H-266の土層

1. 暗褐色土(IV+III) 2. 暗褐色土(IV>III)

図III-209 H-266実測図



H-268



H-268の土層 1. 暗黄褐色土(IV>Ⅲ・V)

図Ⅲ-211 H-268実測図

H-268 (図Ⅲ-211)

位置：46-47 47-47 規模・床面積・平面形・長軸方向：不明

検出・掘り込み面：47-47の包含層調査中、暗褐色土の広がりが見られ、IV層にV層のローム粒を多量に含む土の落ち込みが検出された。

重複関係：H-263・269・273、P-118と重複しており、H-263・269より古い住居跡であるが、H-273、P-118との新旧関係は明瞭でない。

時期：周辺包含層出土の遺物などから、縄文時代早期中葉の時期のものと思われる。

床面：V層を僅かに掘り込んで構築されている。ほぼ平坦である。

壁：検出面からの壁高は約20cmである。比較的急に立ち上がる。

炉跡：焼土などは検出されていない。

付属ピット：ピットは13個検出された。HP-8を除く12個が柱穴状小ピットである。HP-2・12は主柱穴と考えられる。

遺物出土状況：覆土、床面付近から遺物は出土していない(倉橋)。

H-269 (図III-212 図版59-4 図版60-1)

位置: 47-46・47 48-46・47 規模: ———/———×———/———×(0.26m)

床面積・平面形・長軸方向: 不明

検出・掘り込み面: H-263の調査中、その北東側で暗褐色土の広がりが見られ、IV層にV層のローム粒を多量に含む落ち込みを検出した。 重複関係: H-263・267・268、P-117・118と重複しており、H-263・267より古く、他より新しい住居跡である。ただH-272との新旧関係は明瞭でない。

時期: 周辺包含層出土の遺物などから、縄文時代早期中葉の時期のものと思われる。

床面: ほぼ平坦である。

壁: 比較的ゆるやかに立ち上がる。

炉跡: 焼土などは検出されていない。

付属ピット: 柱穴状小ピットは9個検出された。柱穴状小ピットの配列からHP-1・5は支柱穴と考えられる。

遺物出土状況: 覆土、床面付近から遺物は出土していない。

H-270 (図III-213 図版60-2・3 図版105-2)

位置: 49-47・48 規模: 7.40m/7.20m×———/———×0.30m 床面積: (24.86m<sup>2</sup>)

平面形: 不明 長軸方向: N-71°-W

検出・掘り込み面: H-264の北側に黒褐色土の広がりが見られ、IV層にV層のローム粒を多量に含む土の落ち込みが検出された。 重複関係: H-264・271より古い住居跡である。

時期: 周辺包含層出土の遺物などから、縄文時代早期中葉の時期のものと思われる。

床面: ほぼ平坦である。

壁: 比較的ゆるやかな立ち上がりである。

炉跡: 焼土などは検出されていない。

付属ピット: 柱穴状小ピットは16個検出された。HP-2・5・15は支柱穴と考えられる。

遺物出土状況: 覆土・床面付近から遺物は出土していない(倉橋)。

H-271 (図III-214 図版60-4 図版61-1 図版105-3)

位置: 49-46・47 50-46・47 規模: 6.32m/5.84m×(5.38m)/(4.87m)×0.32m

床面積: (17.83m<sup>2</sup>) 平面形: 不整五角形 長軸方向: N-20°-E

検出・掘り込み面: 49-46・47の包含層調査中、黒褐色土の広がりが確認され、IV層にV層のローム粒を多量に含む土の落ち込みが検出された。 重複関係: H-264・270と重複しており、H-264より古く、H-270より新しい住居跡である。

時期: 周辺包含層出土の遺物などから、縄文時代早期中葉の時期のものと思われる。

床面: ほぼ平坦である。

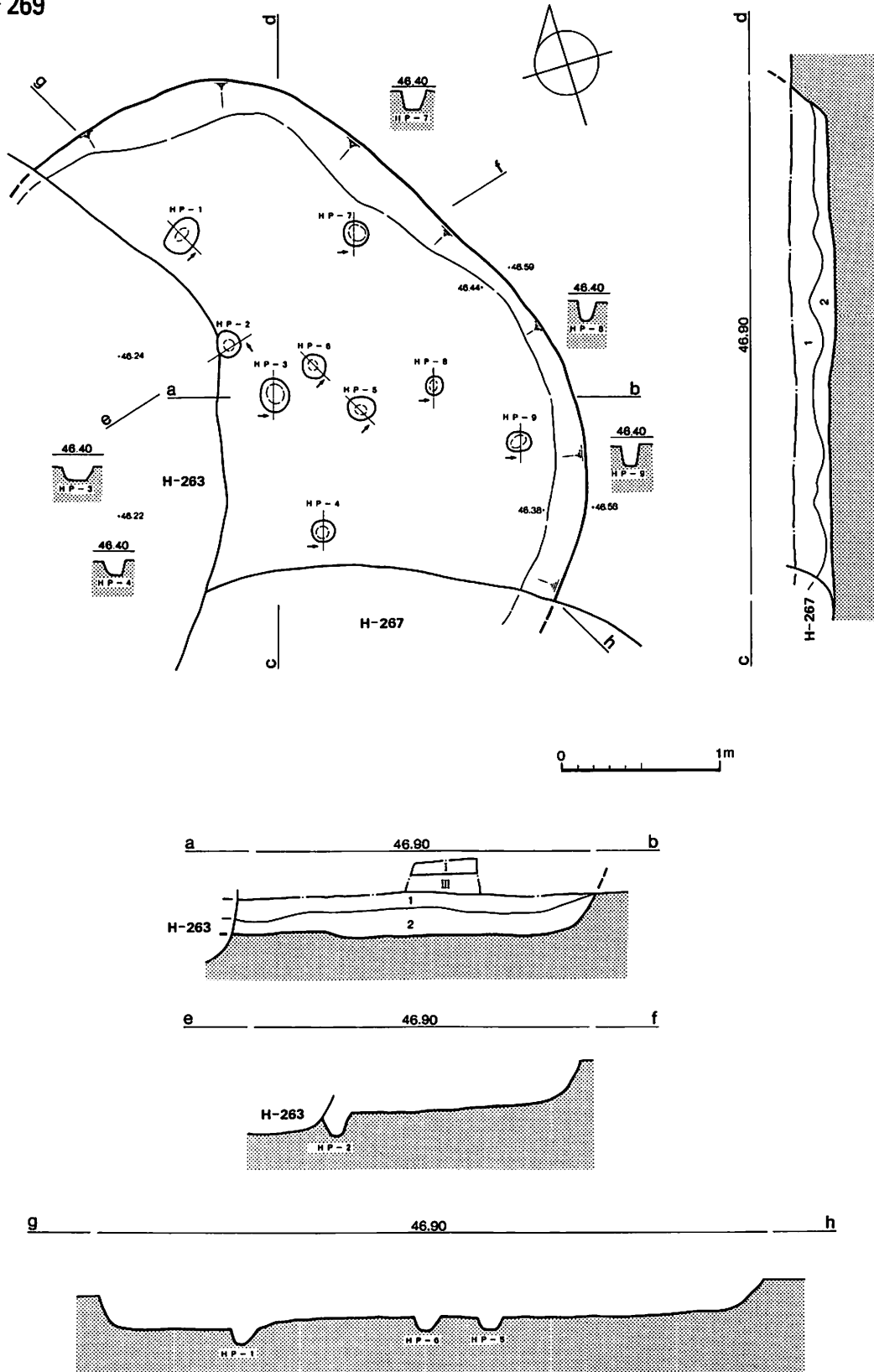
壁: 比較的ゆるやかに立ち上がる。

炉跡: 焼土などは検出されていない。

付属ピット: HP-2・11・20は支柱穴と考えられる。

遺物出土状況: 覆土、床面付近から遺物は出土していない(倉橋)。

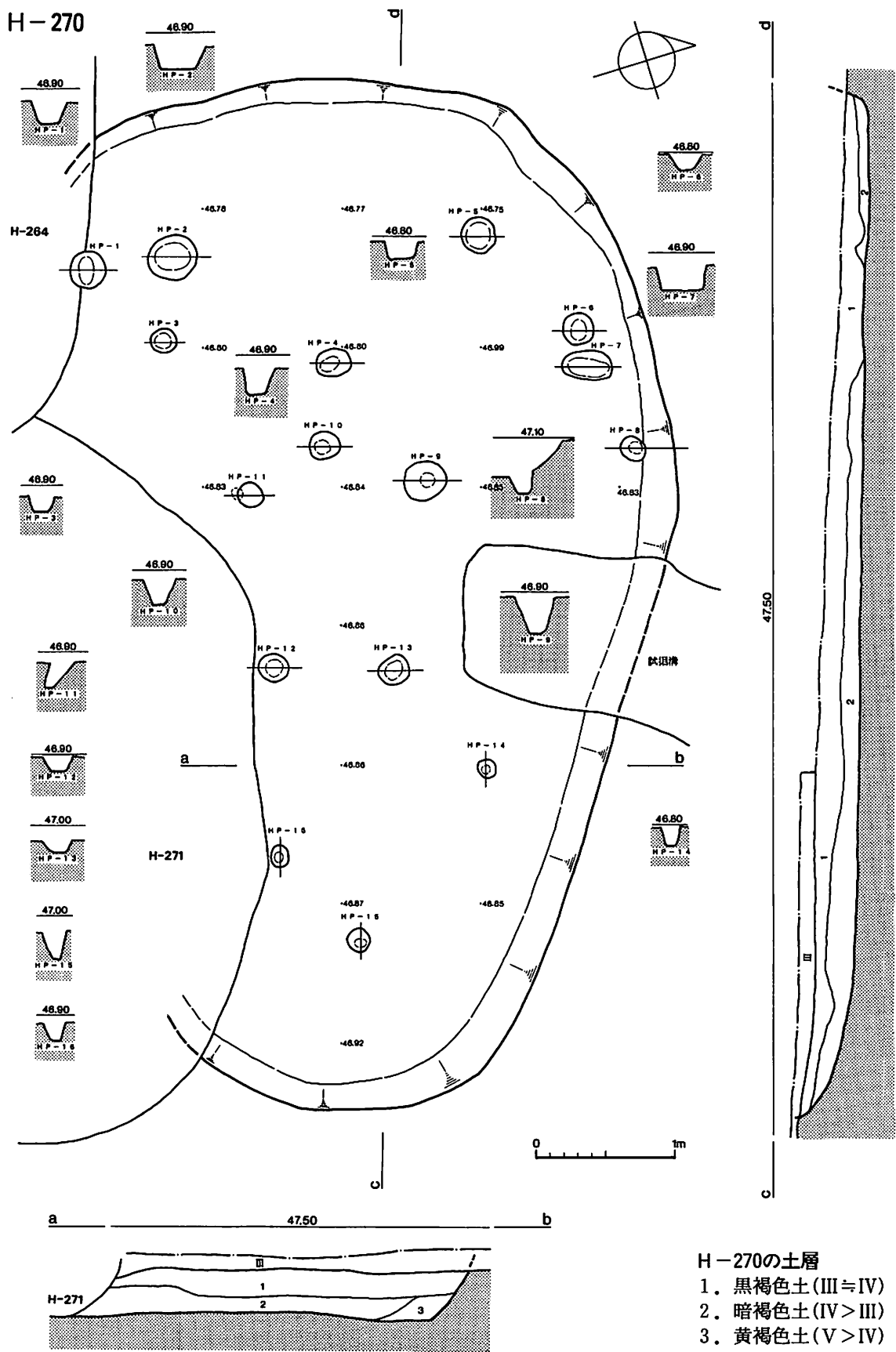
H-269



H-269の土層

1. 黒褐色土(IV+III) 2. 暗褐色土(IV>III)

図Ⅲ-212 H-269実測図



図Ⅲ-213 H-270実測図





H-273 (図III-215 図版61-3 図版61-1)

位置: 46-47 規模: ———/———×———/———×(0.22m) 床面積・平面形・長軸方向: 不明

検出・掘り込み面: 46-47の包含層調査中、暗褐色の広がりを確認し、IV層にV層のローム粒を多量に含む土の落ち込みを検出した。 重複関係: H-263・265・268と重複してこれらより古い住居跡である。

時期: 周辺包含層出土の遺物などから、縄文時代早期中葉の時期のものと思われる。

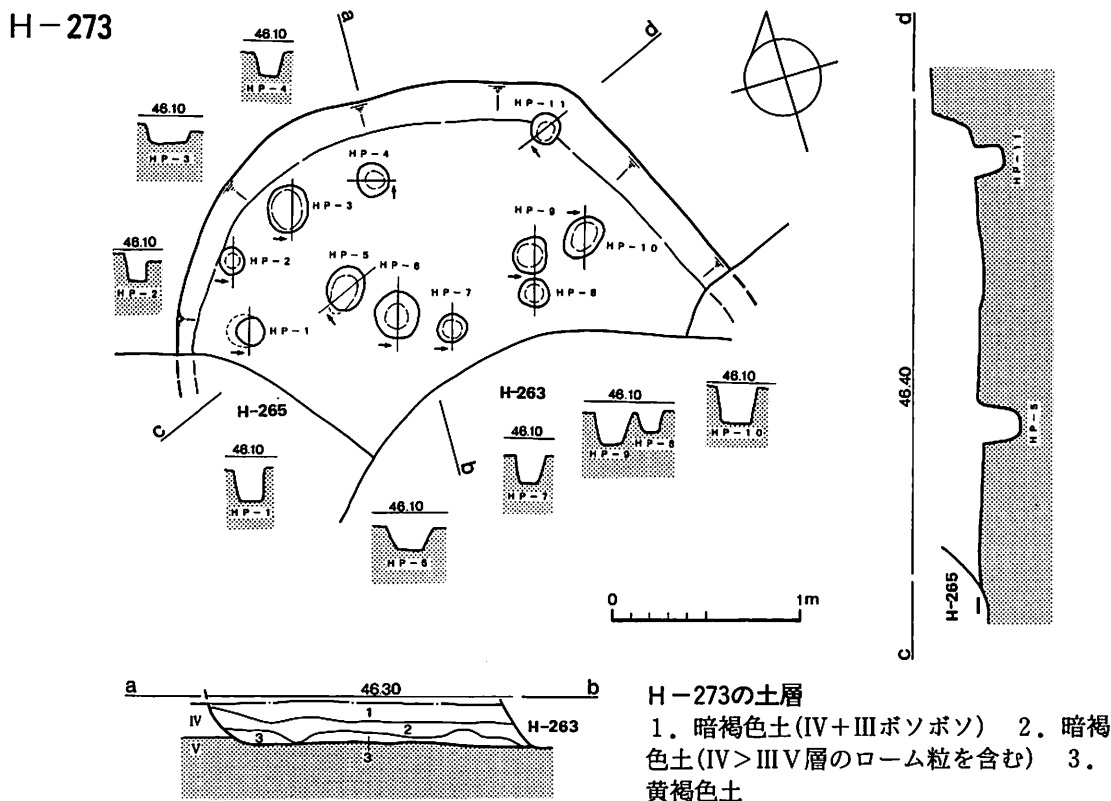
床面: V層を僅かに掘り込んで構築されている。ほぼ平坦である。

壁: 比較的ゆるやかに立ち上がる。

炉跡: 焼土などは検出されていない。

付属ピット: 柱穴状小ピットは11個検出された。HP-2・11は支柱穴と考えられる。

遺物出土状況: 覆土、床面付近から遺物は出土していない(倉橋)。



図III-215 H-273実測図

H-274 (図III-216)

位置: 45-46・47 46-47 規模: ———/———×3.86m/3.35m×0.23m 床面積: 不明

平面形: 不明 長軸方向: N-11°-W

検出・掘り込み面: H-265の調査中、暗褐色土の落ち込みを確認し、IV層にV層のローム粒を多量に含む土の落ち込みを検出した。 重複関係: H-265より古い住居跡であるが、H-266との新旧関係は明瞭でない。

時期: 周辺包含層出土の遺物などから、縄文時代早期中葉の時期のものと思われる。

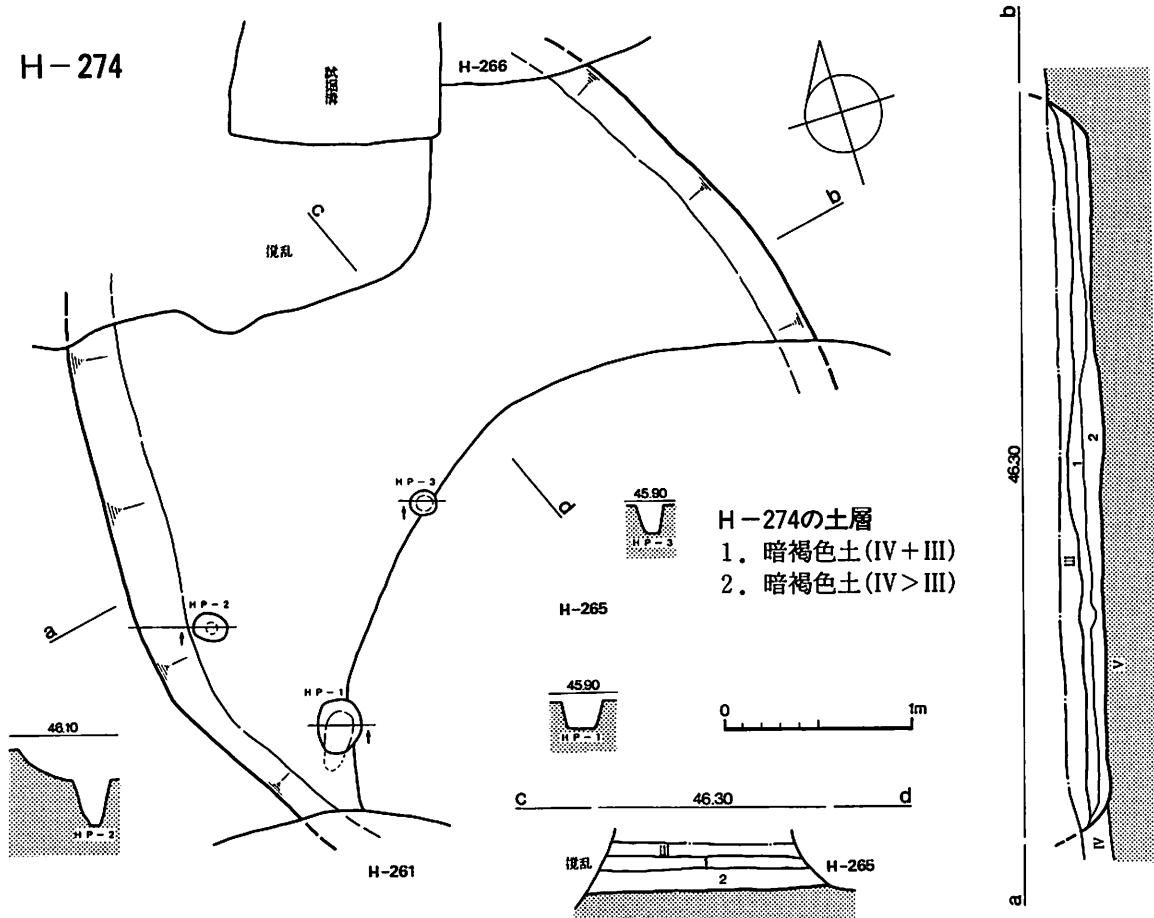
床面: ほぼ平坦である。

壁：比較的ゆるやかに立ち上がる。

炉跡：焼土などは検出されていない。

付属ピット：柱穴状小ピットは3個検出されている。

遺物出土状況：覆土、床面付近から遺物は出土していない(倉橋)。



図Ⅲ-216 H-274実測図

H-272 (図Ⅲ-217 図版61-2)

位置：48-46 規模：——/——×——/——×(0.24m) 床面積・平面形・長軸方向：不明

検出・掘り込み面：48-46の包含層調査中、暗褐色土の広がりを確認し、IV層にV層のローム粒を多量に含む土の落ち込みを検出した。 重複関係：H-264・267・269・257・275と重複しており、これらより古い住居跡である。

時期：周辺包含層出土の遺物などから、縄文時代早期中葉の時期のものと思われる。

床面：ほぼ平坦である。

壁：比較的ゆるやかに立ち上がる。

炉跡：焼土などは検出されていない。

付属ピット：H-272の床面では検出されなかった。柱穴状小ピットの配列からH-264のHP-2・11が本住居跡の主柱穴と考えられる。

遺物出土状況：覆土・床面付近から遺物は出土していない(倉橋)。

H-275 (図Ⅲ-217 図版61-4 図版62-2)

位置: 48-46 規模・床面積・平面形・長軸方向: 不明

検出・掘り込み面: H-267の調査中、その東側に暗褐色土の落ち込みが検出された。

重複関係: H-267より古く、H-272より新しい住居跡である。

時期: 周辺包含層出土の遺物などから、縄文時代早期中葉の時期のものと思われる。

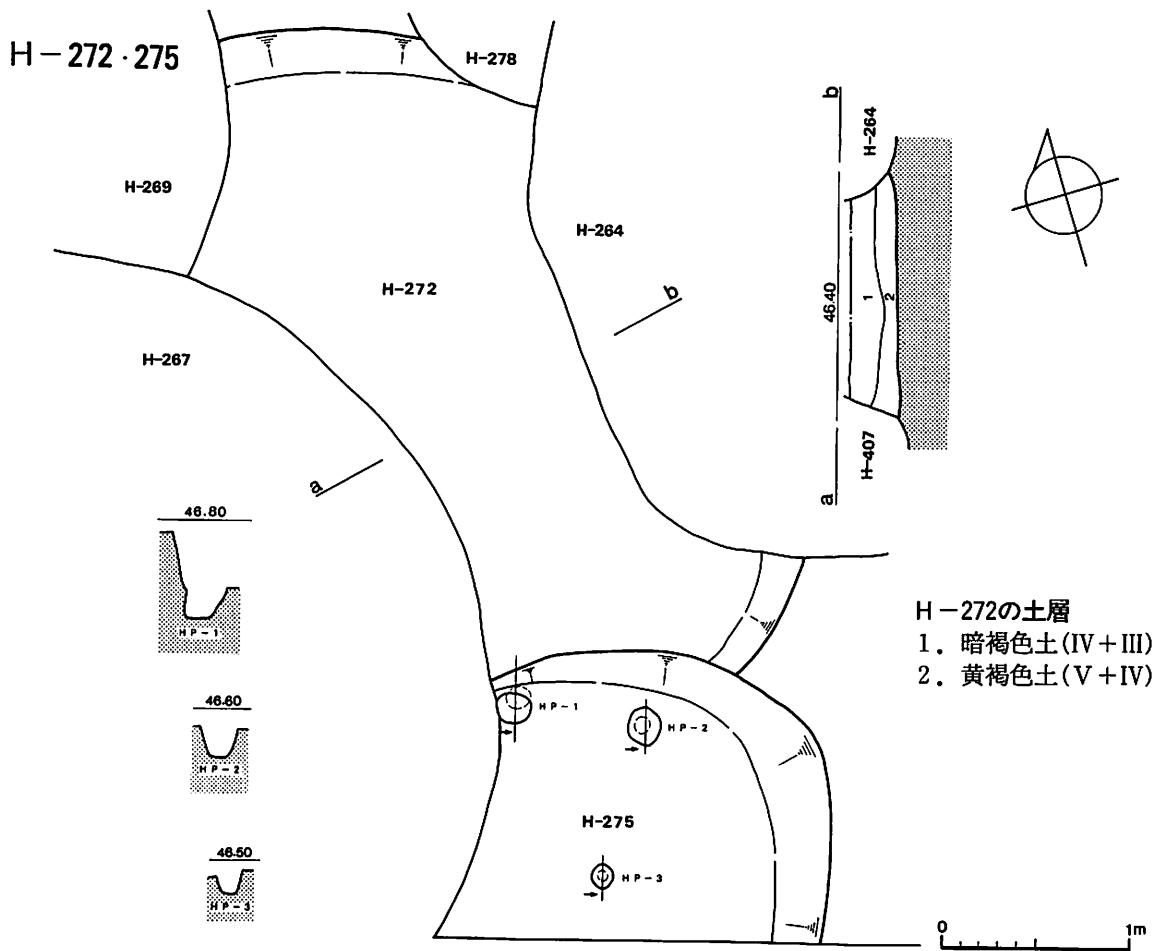
床面: ほぼ平坦である。

壁: 比較的ゆるやかに立ち上がる。

炉跡: 焼土などは検出されていない。

付属ピット: 柱穴状小ピットは3個検出されている。

遺物出土状況: 覆土、床面付近から遺物は出土していない(倉橋)。



図Ⅲ-217 H-272・275実測図

H-276 (図Ⅲ-218 図版62-3)

位置: 51-56・57 52-56・57 規模: 5.72m/5.24m×4.98m/4.70m×0.25m

床面積: (14.44m<sup>2</sup>) 平面形: 長円形状 長軸方向: N-82°-E

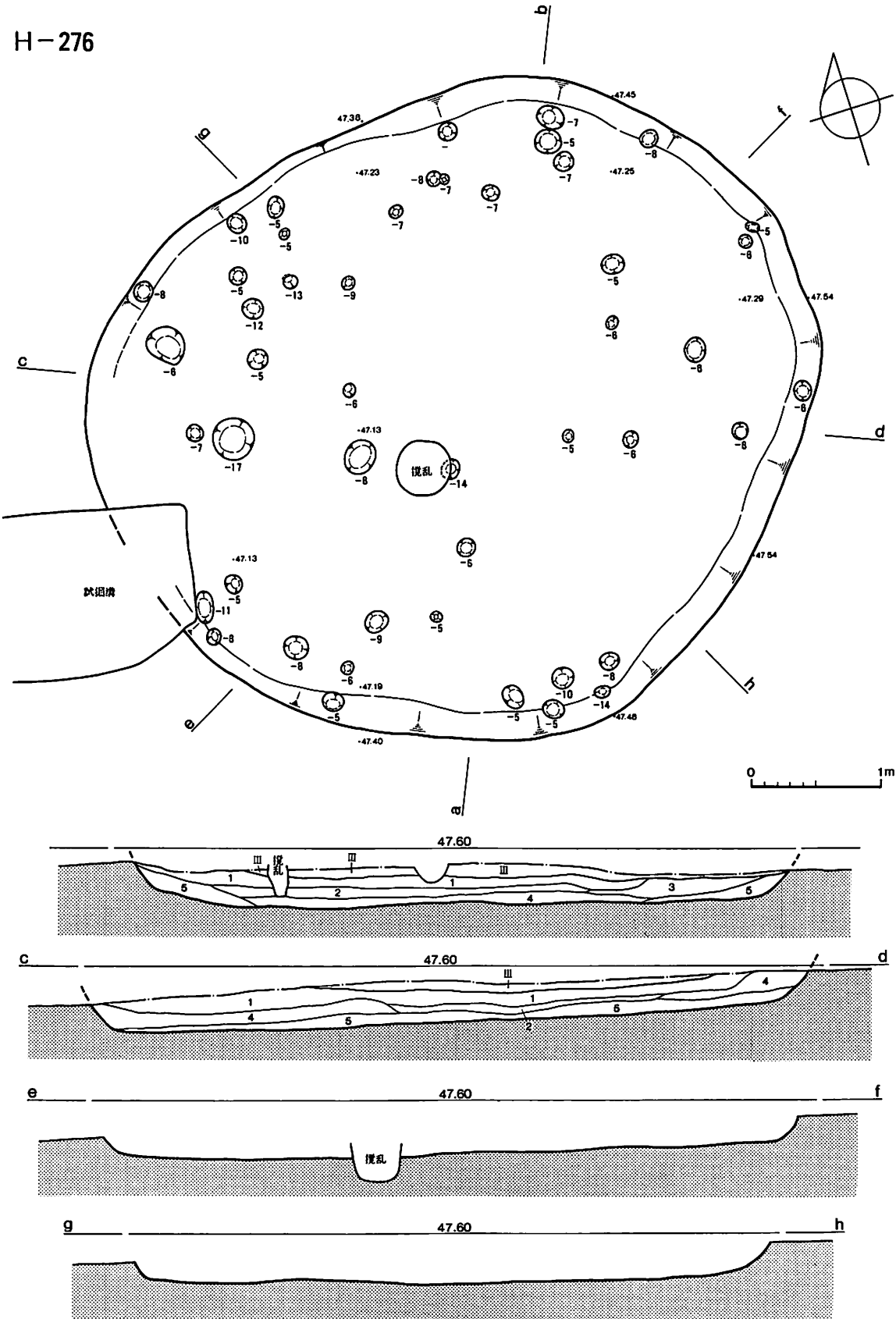
検出・掘り込み面: IV層上面でIII層の落ち込みを確認した。

重複関係: H-279より新しい住居跡である。

時期: 周辺包含層出土の遺物などから、縄文時代早期中葉の時期のものと思われる。

床面: IV層中に構築されている。中央部は若干くぼみ、中央部から東側にかけてやや傾斜する。

H-276



H-276の土層 1. 暗黄褐色土(しまりが良く、黒味、粘性が強い) 2. 暗黄褐色土(しまりが良く、黄味がやや強い) 3. 暗黄褐色土(②と同質) 4. 暗黄褐色土(黄色味、粘性が強い) 5. 暗黄褐色砂質土(やや黒味がある)

図Ⅲ-218 H-276実測図

壁：全体にゆるやかに立ち上がる。

炉跡：焼土などは検出されていない。

付属ピット：柱穴状小ピットは47個検出された。いずれも深さ5cm～13cmほどの浅いものである。明瞭な配列は認められなかったが、壁際から多く検出されている。

遺物出土状況：南西の壁際の覆土1層中からⅠ群D1類土器が1点出土しただけである(熊谷)。



図Ⅲ-219

H-276出土土器

土器 (図Ⅲ-219 図版180-10)

1は覆土1層から出土した底部に近い体部の破片で、Ⅰ群D1類のものである(森)。

H-278 (図Ⅲ-220)

位置：48-46・47 規模：(2.82m)／(2.60m)×(2.70m)／(2.60m)×0.18m

床面積：(5.60㎡) 平面形：不整形円形状 長軸方向：N-69°-W

検出・掘り込み面：H-264の調査中、その北西側に暗褐色土の落ち込みを検出した。

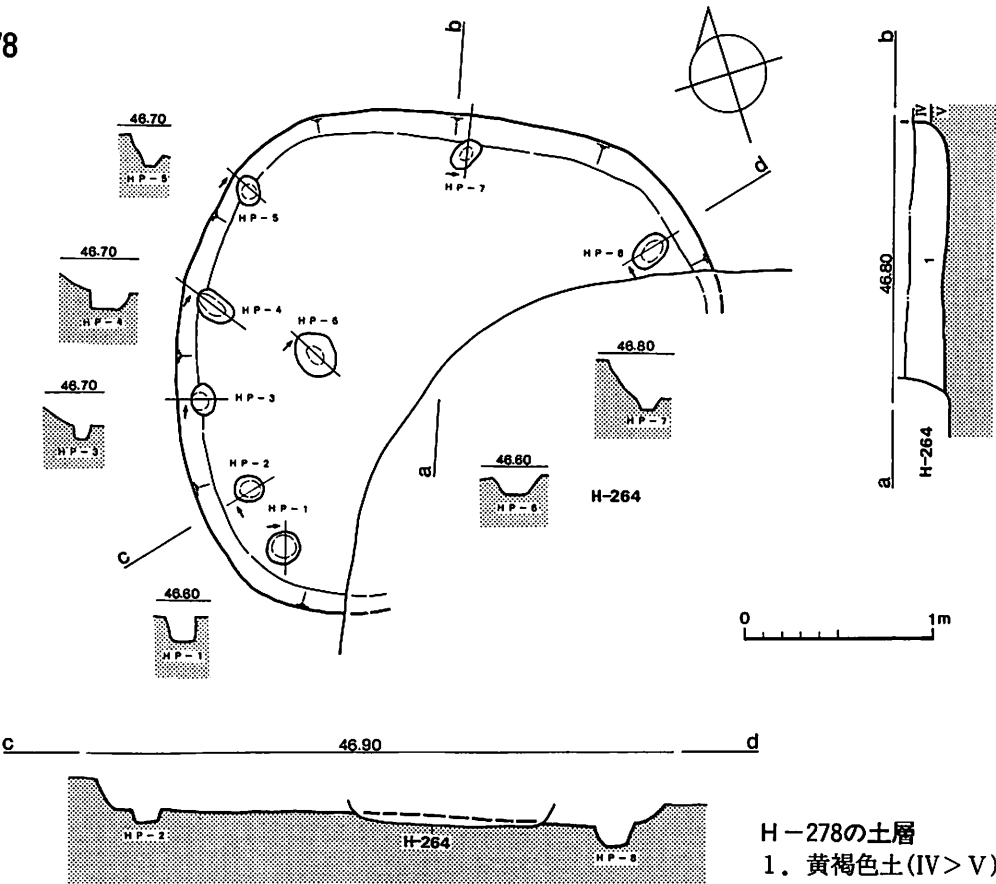
重複関係：H-264、P-117と重複しており、H-264より古く、P-117より新しい住居跡である。

時期：周辺包含層出土の遺物などから、縄文時代早期中葉の時期のものと思われる。

床面：ほぼ平坦である。

壁：急に立ち上がる。

H-278

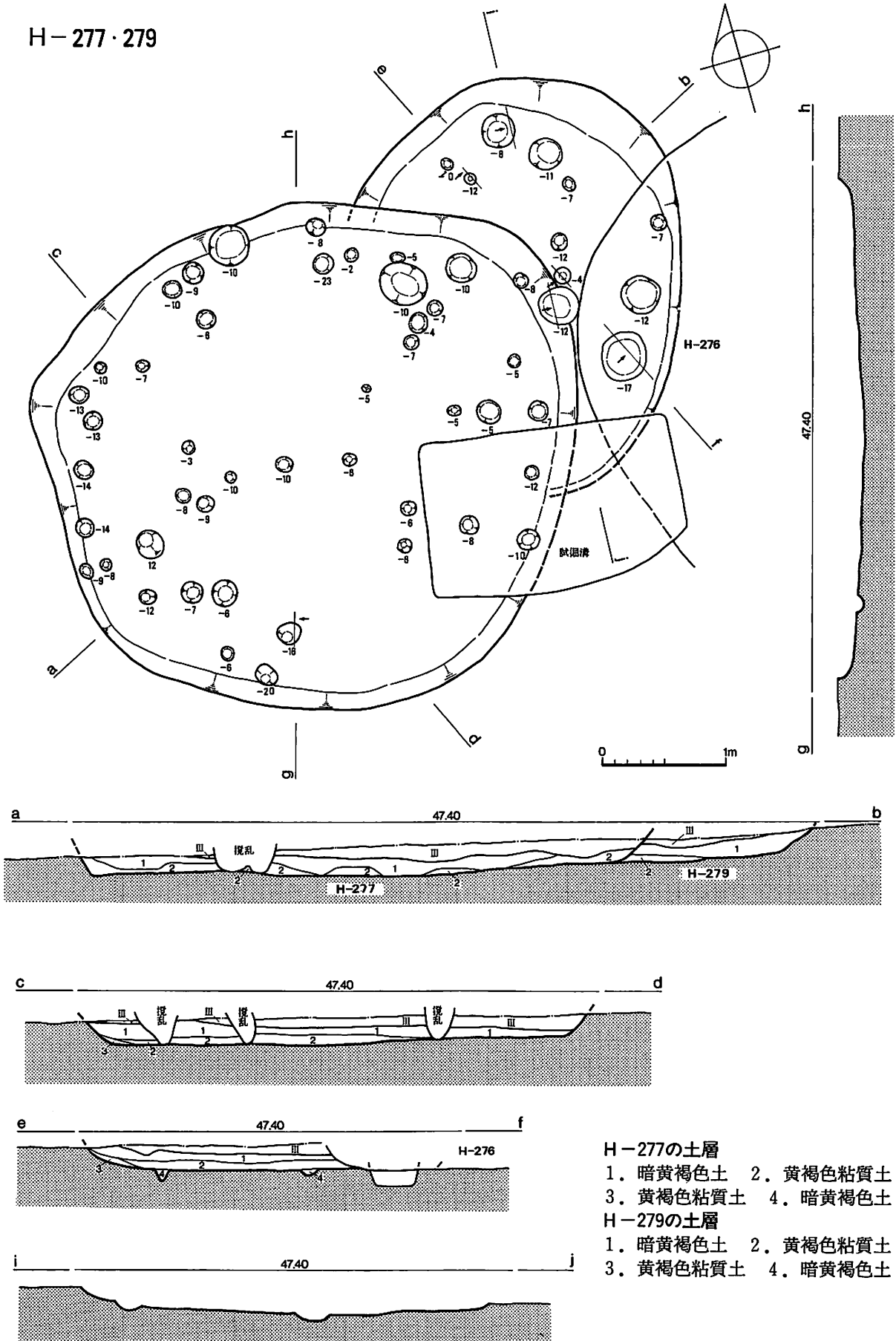


H-278の土層  
1. 黄褐色土(Ⅳ>Ⅴ)

図Ⅲ-220 H-278実測図



H-277・279



図Ⅲ-221 H-277・279実測図

炉跡：焼土などは検出されていない。

付属ピット：柱穴状小ピットは8個検出されている。HP-2・7・8は主柱穴と考えられる。

遺物出土状況：覆土、床面付近から遺物は出土していない(倉橋)。

H-277 (図Ⅲ-221 図版63-1)

位置：50-56・57 51-56・57 規模：4.20m/3.92m×4.13m/3.80m×0.22m

床面積：9.41㎡ 平面形：円形状

検出・掘り込み面：Ⅳ層上面でⅢ層の落ち込みを確認した。 重複関係：H-279より新しい住居跡である。

時期：周辺包含層出土の遺物などから、縄文時代早期中葉の時期のものと思われる。

床面：Ⅳ層中に構築されている。中央部は若干くぼむ。

壁：全体にゆるやかに立ち上がる。

炉跡：焼土などは検出されていない。

付属ピット：柱穴状小ピットは45個検出された。明瞭な配列は認められなかったが、壁際から多く検出されている。

遺物出土状況：覆土、床面付近から遺物は出土していない(熊谷)。

H-279 (図Ⅲ-221 図版63-2・3)

位置：51-56・57 規模：3.32m/3.10m×(2.76m)/(2.40m)×0.20m 床面積：不明

平面形：楕円形状 長軸方向：N-S

検出・掘り込み面：H-276・277の調査中に確認した。 重複関係：H-276、277と重複しており、これらより古い住居跡である。

時期：周辺包含層出土の遺物などから、縄文時代早期中葉の時期のものと思われる。

床面：Ⅳ層中に構築されている。ほぼ平坦である。

壁：北壁はゆるやかに立ち上がる。

炉跡：焼土などは検出されていない。

付属ピット：柱穴状小ピットは10個検出されたが、明瞭な配列は認められなかった。

遺物出土状況：覆土、床面付近から遺物は出土していない(熊谷)。

H-280 (図Ⅲ-222 図版63-4 図版64-1)

位置：41-51・52 規模：3.45m/3.07m×——/——×0.15m 床面積：(7.81㎡)

平面形：円形状 長軸方向：不明

検出・掘り込み面：H-183の調査中、北壁面に暗褐色土の落ち込みを検出した。

重複関係：H-183、T-21と重複しており、これらより古い住居跡である。

時期：周辺包含層出土の遺物などから、縄文時代早期中葉の時期のものと思われる。

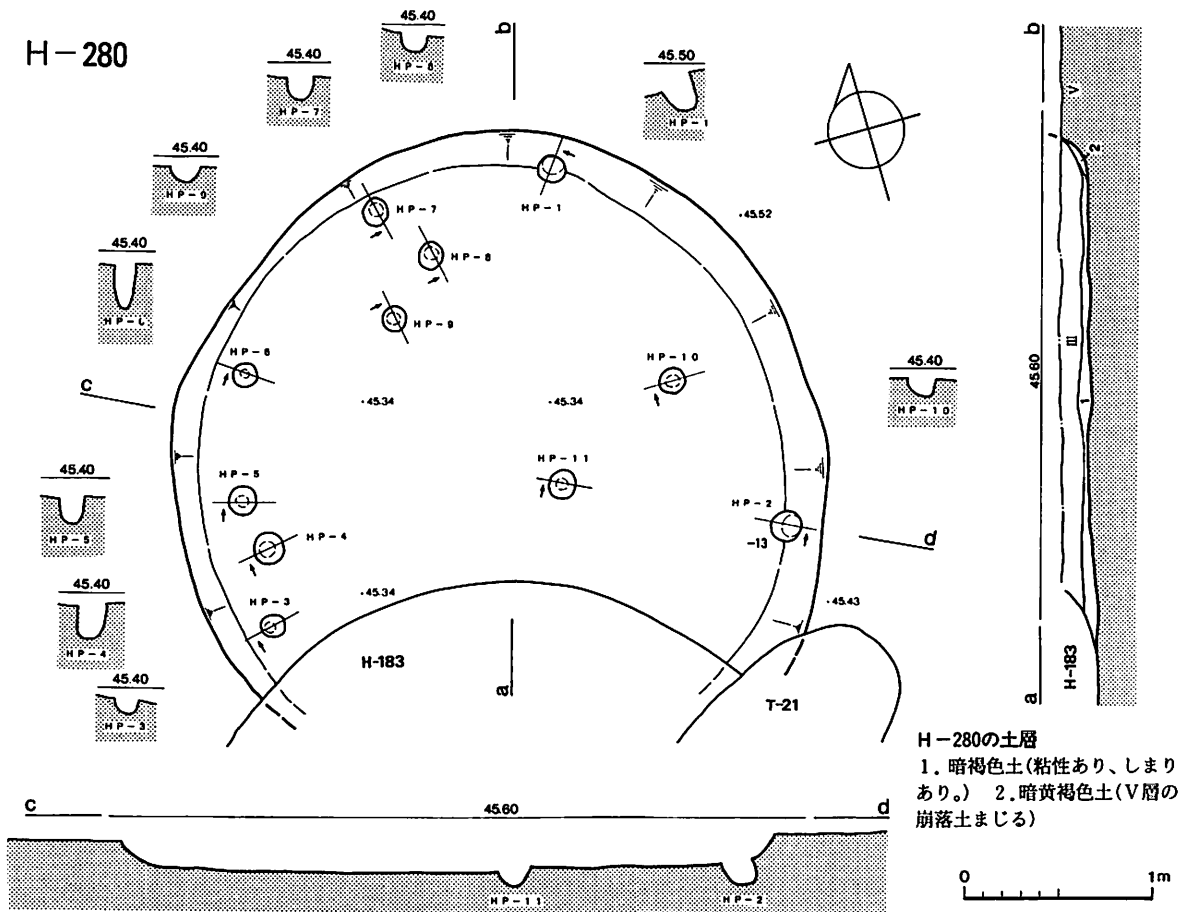
床面：Ⅴ層を掘り込んで構築されている。ほぼ平坦。

壁：全体に急に立ち上がる。検出面からの壁高は約10cmである。

炉跡：焼土などは検出されていない。

付属ピット：柱穴状小ピットは11個検出された。概して浅く、壁際のは内傾している。

遺物出土状況：覆土、床面付近から遺物は出土していない(村田)。



図III-222 H-280実測図

H-281 (図III-224 図版64-2 図版65-1)

位置: 44-42・43 45-42・43 規模: (4.90m)/(4.55m) × (3.20m)/(2.90m) × 0.28m

床面積: (11.94m<sup>2</sup>) 平面形: 長円形? 長軸方向: N-90°-E

検出・掘り込み面: IV層上面で検出する。掘り込み面はIII b層下位と考えられる。

重複関係: H-251・241・257と重複しており、これらより古い住居跡である。H-283との新旧関係は明瞭でない。

時期: 周辺包含層出土の遺物などから、縄文時代早期中葉の時期のものと思われる。

床面: V層を20cmほど掘り込んで構築されている。ゆるやかな凸凹があり、堅くしまっている。

壁: 検出面からの壁高は25cmで、床面からの立ち上がりは丸味があり、傾斜はゆるやかである。

炉跡: 焼土などは検出されていない。

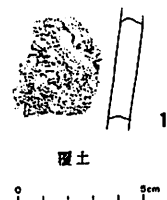
付属ピット: 柱穴状小ピットは17個検出されている。9個は壁面にあり内傾する。

4個は壁際から50cmの範囲内にある。H-241・251・257の床面から本住居跡に伴うと考えられる柱穴状小ピットだが8個検出されている。

遺物出土状況: 覆土中でI群D1類土器が2点出土しているだけである(谷島)。

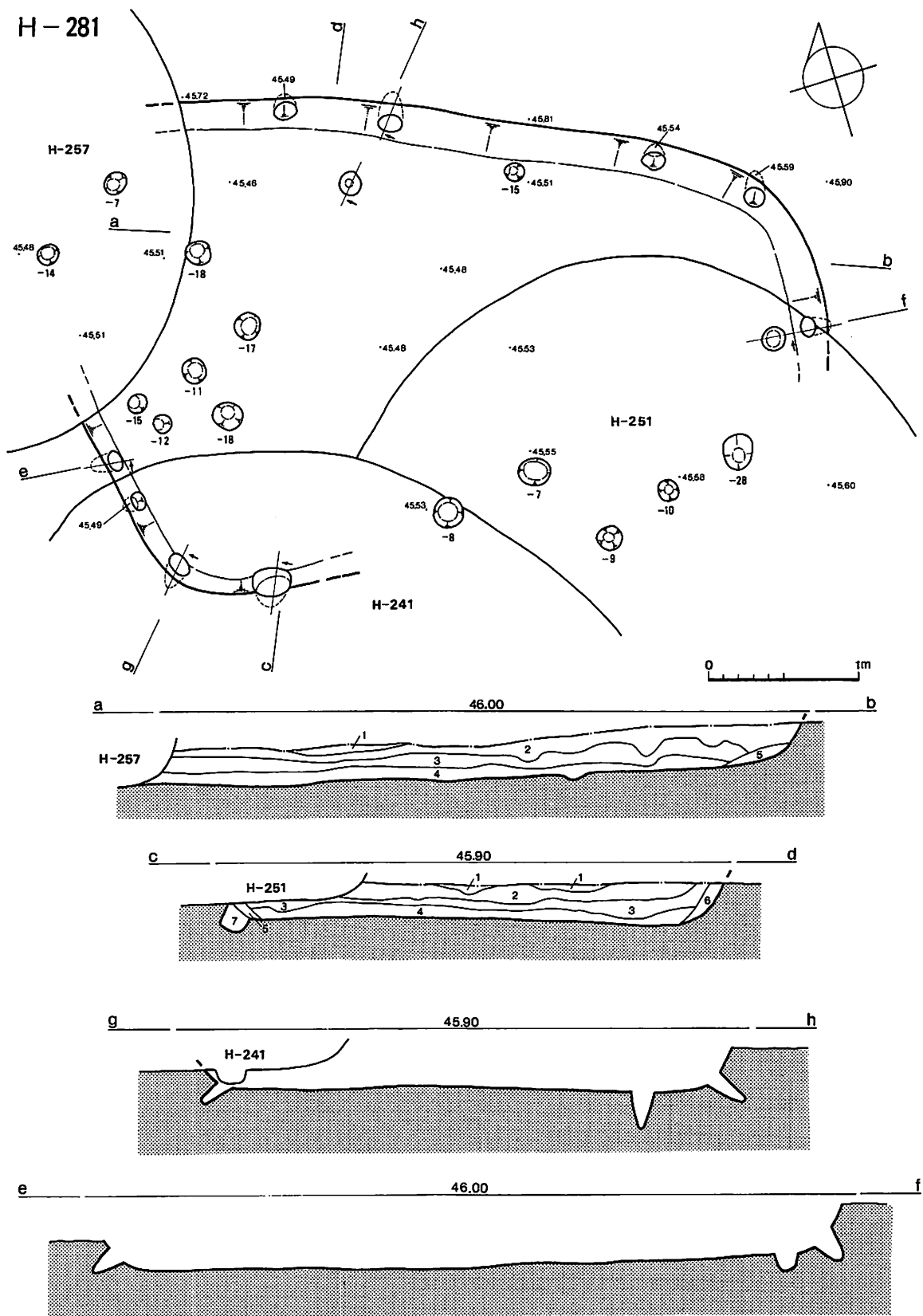
土器 (図III-223 図版180-11)

1は覆土1層から出土した無文小破片である。



図III-223

H-281出土土器



H-281の土層  
1. 黒褐色土 2. 黒茶褐色土 3. 暗褐色土 4. 褐色土 5. 暗黄褐色土  
6. 暗灰褐色土 7. 暗茶褐色土(柱穴)

図Ⅲ-224 H-281実測図



H-282 (図Ⅲ-225 図版64-3 図版65-2)

位置：45-43・44 規模：——／——×——／——×(0.35m) 床面積・平面形：不明

長軸方向：N-30°-E

検出・掘り込み面：Ⅳ層上面で検出された。覆土の上半にⅢ層が堆積していることから、掘り込み面はⅢb層下位と考えられる。重複関係：H-255・243・256と重複しており、これらより古い住居跡である。H-294とは僅かに接し、壁の上部を壊している。

時期：周辺包含層出土の遺物などから、縄文時代早期中葉の時期のものと思われる。

床面：Ⅴ層を20cmほど掘り込んで構築されている。ほぼ平坦で、堅くしまっている。

壁：検出面からの壁高は30cmで、床面からの立ち上がりは丸味があり、傾斜はゆるやかである。

炉跡：焼土などは検出されていない。

付属ピット：柱穴状小ピットは26個検出されている。8個は壁にあり内傾する。8個は壁際から50cmの範囲内にある。H-243、H-255、H-256の床面から本住居跡に伴うと考えられる柱穴状小ピットが18個検出されている。

遺物出土状況：覆土中で礫が9個出土しただけである(谷島)。

H-283 (図Ⅲ-226・229 図版65-3・4)

位置：45-41・42 46-41・42 規模：——／——×6.90m／6.30m×0.35m 床面積：不明

平面形：不明 長軸方向：N-8°-W

検出・掘り込み面：Ⅳ層上面で検出した。覆土の上部にⅢ層が堆積していることから、掘り込み面はⅢb層下位と考えられる。重複関係：H-242・251、T-34・35と重複しており、これらより古い住居跡である。H-281との新旧関係は明瞭でない。

時期：Ⅰ群D1類土器を伴う縄文時代早期中葉の時期のものと思われる。

床面：Ⅴ層を25cmほど掘り込んで構築されている。ほぼ平坦で、堅くしまっている。

壁：検出面からの壁高は30cmで、床面からの立ち上がりは丸味があり、傾斜はゆるやかである。

炉跡：焼土などは検出されていない。

付属ピット：柱穴状小ピットは32個検出されている。11個は壁面にあり内傾する。8個は壁際から50cmの範囲内にある。H-251の床面から本住居跡に伴うと考えられる柱穴状小ピットが4個検出されている。

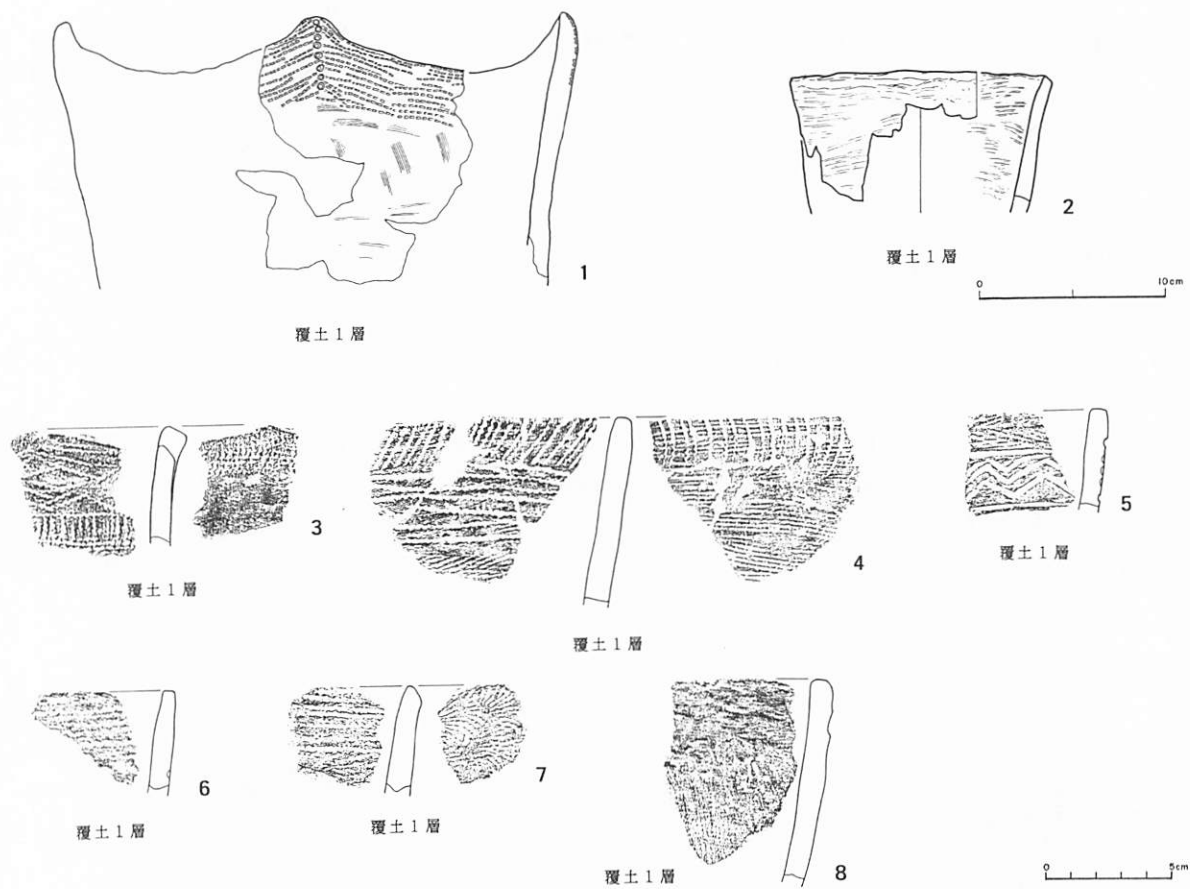
遺物出土状況：出土遺物総数は347点である。この内訳は土器273点、石器74点である。床直上から礫が17点出土したのみで、他はすべて覆土中から出土したものである。覆土上層から多く出土している。土器はⅠ群D1類のものが出土し、石器ではスクレイパー、Uフレイク、石錘(12点)などが出土した。出土土器には、覆土1層どうし(図Ⅲ-227-1・2)、という接合関係が見られる(谷島)。

土器 (図Ⅲ-227 図版180-13 図版181-1)

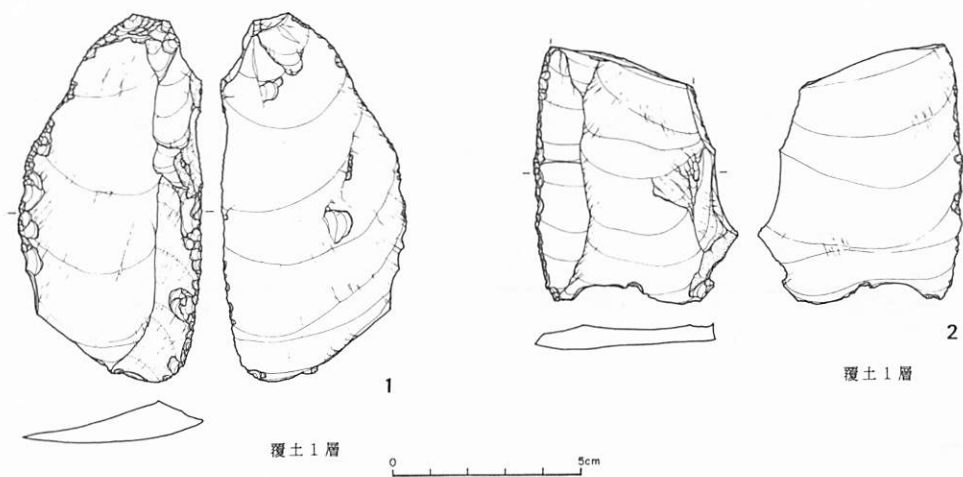
図示した土器はすべて覆土1層から出土したⅠ群D1類のものである。1は口縁部の大破片で、器形をある程度推定できたものである。波頂部口唇から竹管様施文具を押圧した刺突を垂下させ、口唇部には波状口縁に対応した腹縁文をめぐらせる。2は無文平縁の土器で、小型の個体である。3・4は口唇部の内外面に縦位の貝殻腹縁文を施文するもので、3はその下に菱形の構成をとる腹縁文を、4には横走る腹縁文を配している。5は平行沈線と波状沈線が口縁部をめぐる。6・7は単に貝殻腹縁文を横走させるもの。7の内面には貝殻背面圧痕文が認められる。8は無文土器で、口唇部を指頭







図Ⅲ-227 H-283出土土器

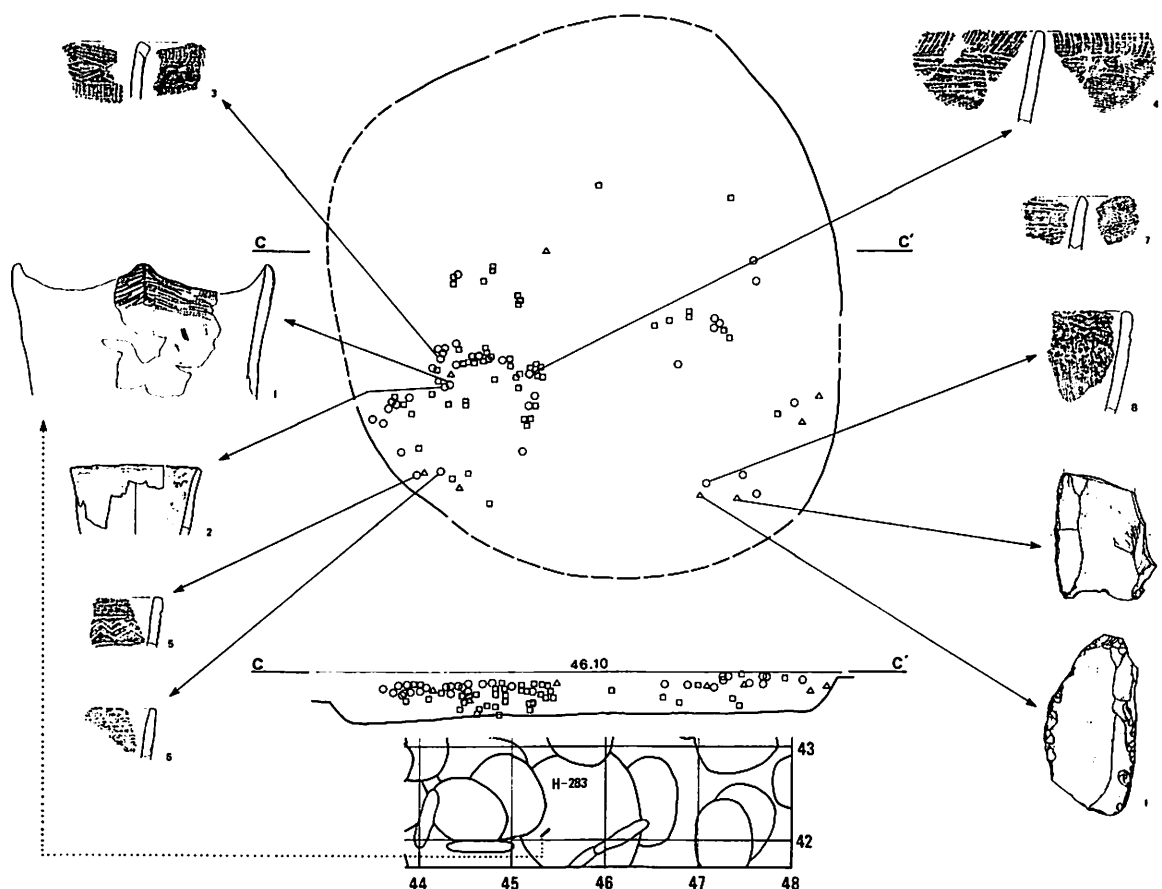


図Ⅲ-228 H-283出土石器

で押さえることによってくびれを与えている(森)。

石器 (図Ⅲ-228 図版180-12)

1・2はスクレイパー。2の刃部には刃つぶれ状の使用痕が見られる(宗像)。



図III-229 H-283出土遺物分布・接合図

H-284 (図III-230・233 図版65-5 図版66-1・2・3)

位置: 46-43・44 規模: 5.40m/5.10m×3.45m/3.05m×0.20m 床面積: 13.82m<sup>2</sup>

平面形: 隅丸長方形 長軸方向: N-25°-W

検出・掘り込み面: IV層上面で検出した。掘り込み面はIII b層下位と考えられる。重複関係: H-252・259、P-103と重複しており、これらより古い住居跡である。

時期: I群D1類土器を伴う縄文時代早期中葉の時期のものと思われる。

床面: V層を15cmほど掘り込んで構築されている。ほぼ平坦で、堅くしまっている。

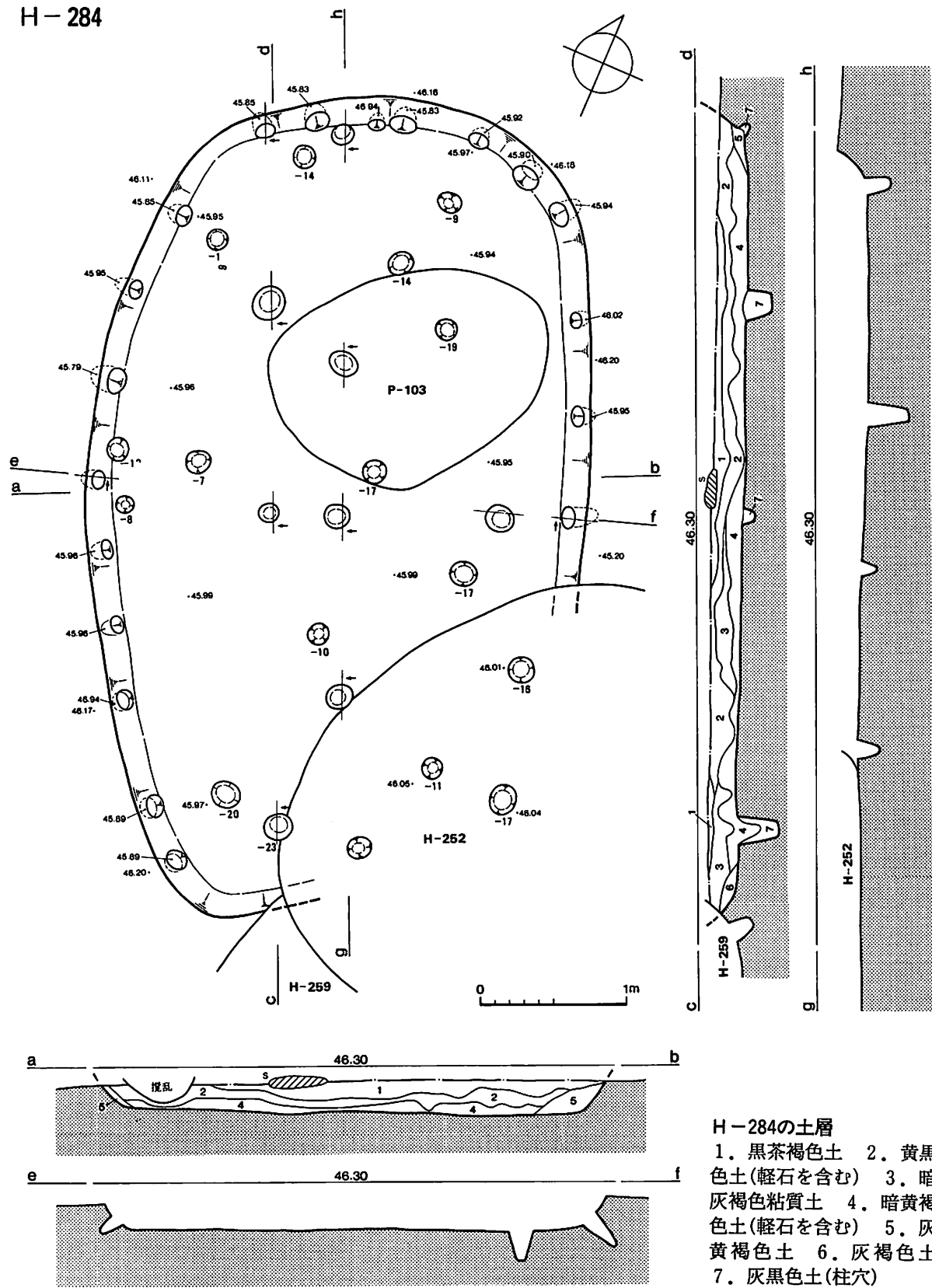
壁: 検出面からの壁高は15cmで、床面からの立ち上がりは丸味があり、傾斜はゆるやかである。

炉跡: 焼土などは検出されていない。

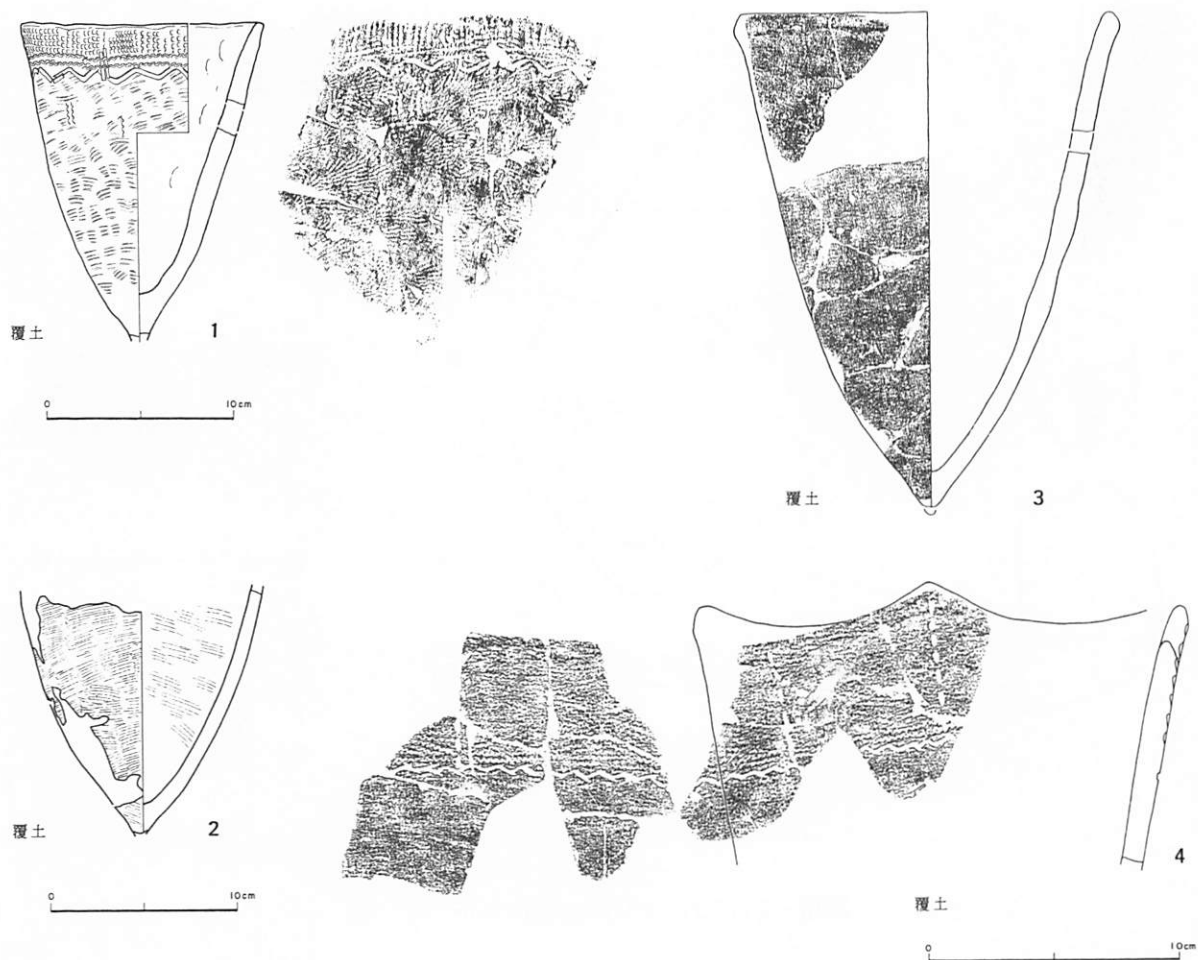
付属ピット: 柱穴状小ピットは39個検出されている。19個は壁面にあり内傾する。9個は壁際から50cmの範囲内にある。H-252の床面から本住居跡に伴うと考えられる柱穴状小ピットが4個検出されている。

遺物出土状況: 出土遺物総数は246点である。この内訳は土器236点、石器10点である。すべて覆土中から出土したものである。中央部の覆土上部から石皿が出土し、中央部南側の覆土中層からI群D1類の尖底部が出土している。土器はI群D1類のもの、石器ではすり石、石皿などが出土している。出土土器には、覆土と46-43(III) (図III-231-1・4)、覆土1層どうし(図III-231-2)、覆土どうし(図III-231-3)、という接合関係が見られる(谷島)。

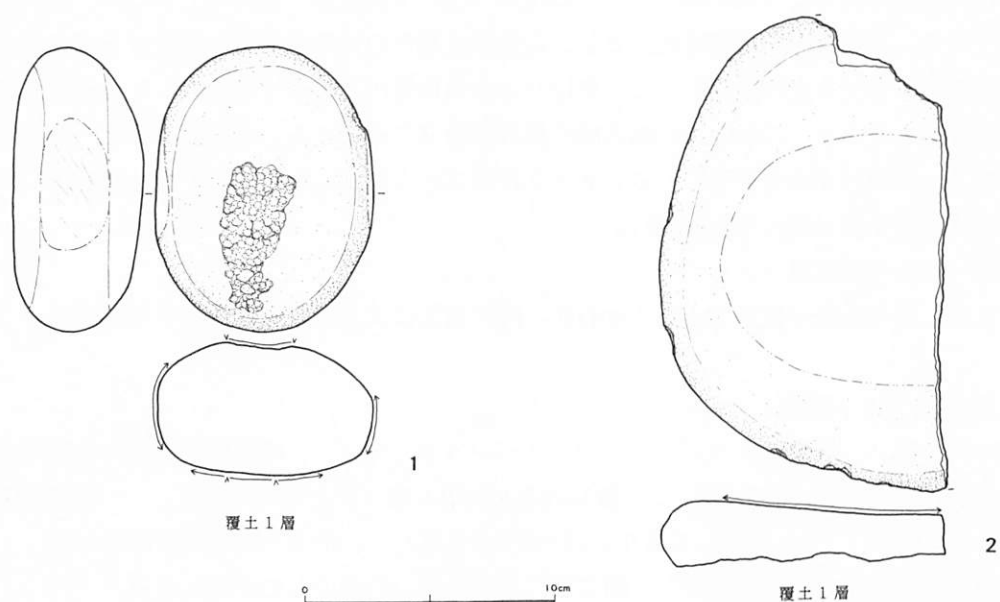
H-284



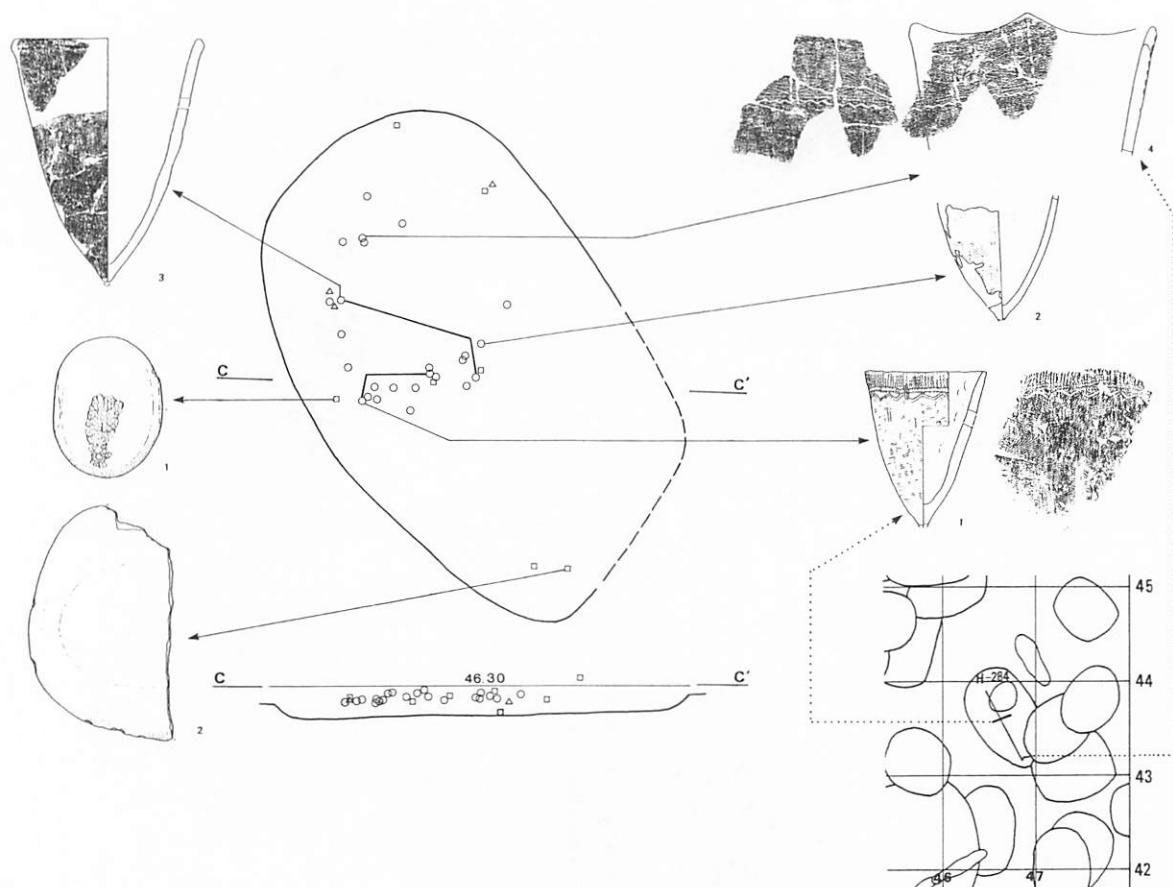
図Ⅲ-230 H-284実測図



図Ⅲ-231 H-284出土土器



図Ⅲ-232 H-284出土石器



図Ⅲ-233 H-284出土遺物分布・接合図

#### 土器 (図Ⅲ-231 図版181-2)

図示した土器はすべて覆土から出土したⅠ群D1類のものである。1は包含層Ⅲ層出土の破片と接合して、ほぼ完形まで復元できた個体である。口径16.8cm、尖底部を一部欠いているが、現状の器高16cmと小型である。貝殻背面圧痕文を地文とし、口唇部に縦位の貝殻腹縁文と横走る腹縁文、そして鋸歯状沈線をめぐらせる文様構成となる。やはり包含層Ⅲ層出土の破片と接合した口縁部大破片の4も鋸歯状沈線をめぐらせ、これと口唇部の間を貝殻腹縁文で充填する。また波頂部とその中間から鋸歯状沈線まで、刺突列を垂下させている。2・3は無文の土器で、1と同じく大きな個体ではない。2には僅かに貝殻条痕が認められる(森)。

#### 石器 (図Ⅲ-232 図版181-3)

1はすり石。たたき石が複合する。2は石皿。図の裏面は大きく粗割されている(宗像)。

#### H-285 (図Ⅲ-234 図版66-4・5)

位置：44-43・44 規模：——/——×——/——×(0.25m) 床面積・平面形・長軸方向：不明

検出・掘り込み面：Ⅳ層上面で検出した。掘り込み面はⅢb層下位と考えられる。重複関係：H-256・245・159・246・293と重複しており、H-293より新しく、他より古い住居跡である。

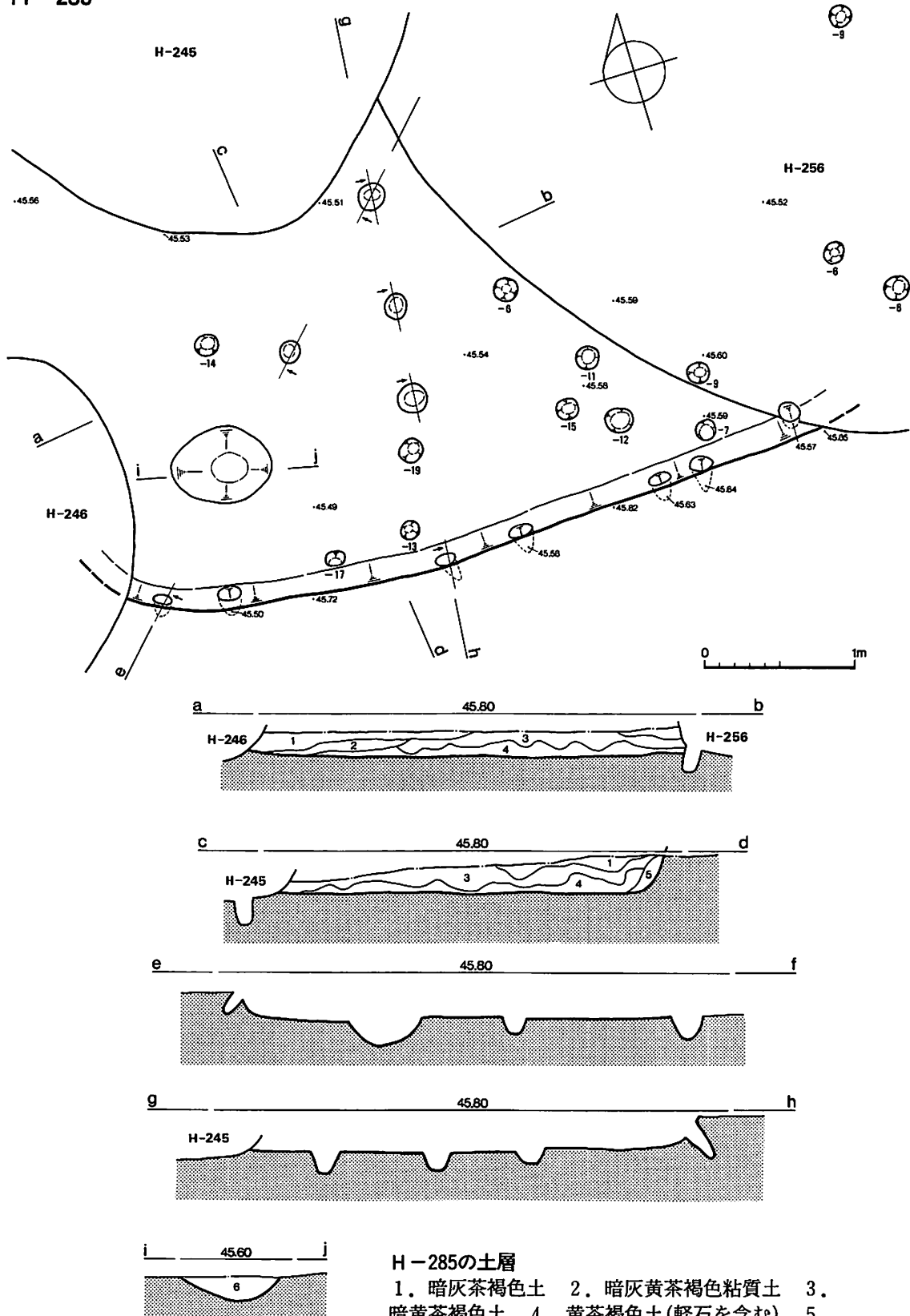
時期：周辺包含層出土の遺物などから、縄文時代早期中葉の時期のものと思われる。

床面：南側のみ残存し、Ⅴ層を20cmほど掘り込んで構築されている。ほぼ平坦で、堅くしまっている。

壁：南側の壁のみ残存する。検出面からの壁高は20cmで、床面からの立ち上がりは丸味があり、傾斜



H-285



図Ⅲ-234 H-285実測図

はゆるやかである。

炉跡：焼土などは検出されていない。

付属ピット：床面西側で、0.65m×0.50m、深さ0.18mの長円形状のピットが検出された。柱穴状小ピットは19個検出されている。7個は壁面にあり内傾する。4個は壁際から50cmの範囲内にある。H-256の床面から本住居跡に伴うと考えられる柱穴状小ピットが3個検出されている。

遺物出土状況：覆土中から礫が1点出土しただけである(谷島)。

H-286 (図Ⅲ-236 図版67-1)

位置：43-42 44-42 規模：——/——×2.85m/2.55m×0.27m 床面積：不明

平面形：不明 長軸方向：N-15°-W

検出・掘り込み面：Ⅳ層上面で検出された。掘り込み面はⅢb層下位と考えられる。重複関係：H-257・253・195・247、T-32と重複しており、H-195より新しく、他より古い住居跡である。

時期：周辺包含層出土の遺物などから、縄文時代早期中葉の時期のものと思われる。

床面：Ⅴ層を20cmほど掘り込んで構築されている。ほぼ平坦で、堅くしまっている。

壁：検出面からの壁高は25cmで、床面からの立ち上がりは丸味があり、傾斜は急角度である。

炉跡：焼土などは検出されていない。

付属ピット：柱穴状小ピットは11個検出されている。8個は壁面にあり内傾する。H-257とH-253の床面から本住居跡に伴うと考えられる柱穴状小ピットが4個検出されている。

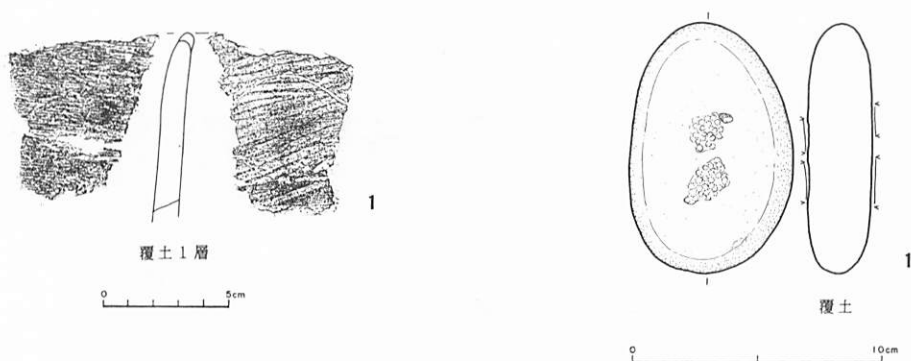
遺物出土状況：遺物は覆土中から出土している。Ⅰ群D1類土器3点、たたき石1点、石錐5点、剥片2点出土した(谷島)。

土器 (図Ⅲ-235 図版182-1)

1は覆土1層から出土した口縁部の破片で、Ⅰ群D1類のものである(森)。

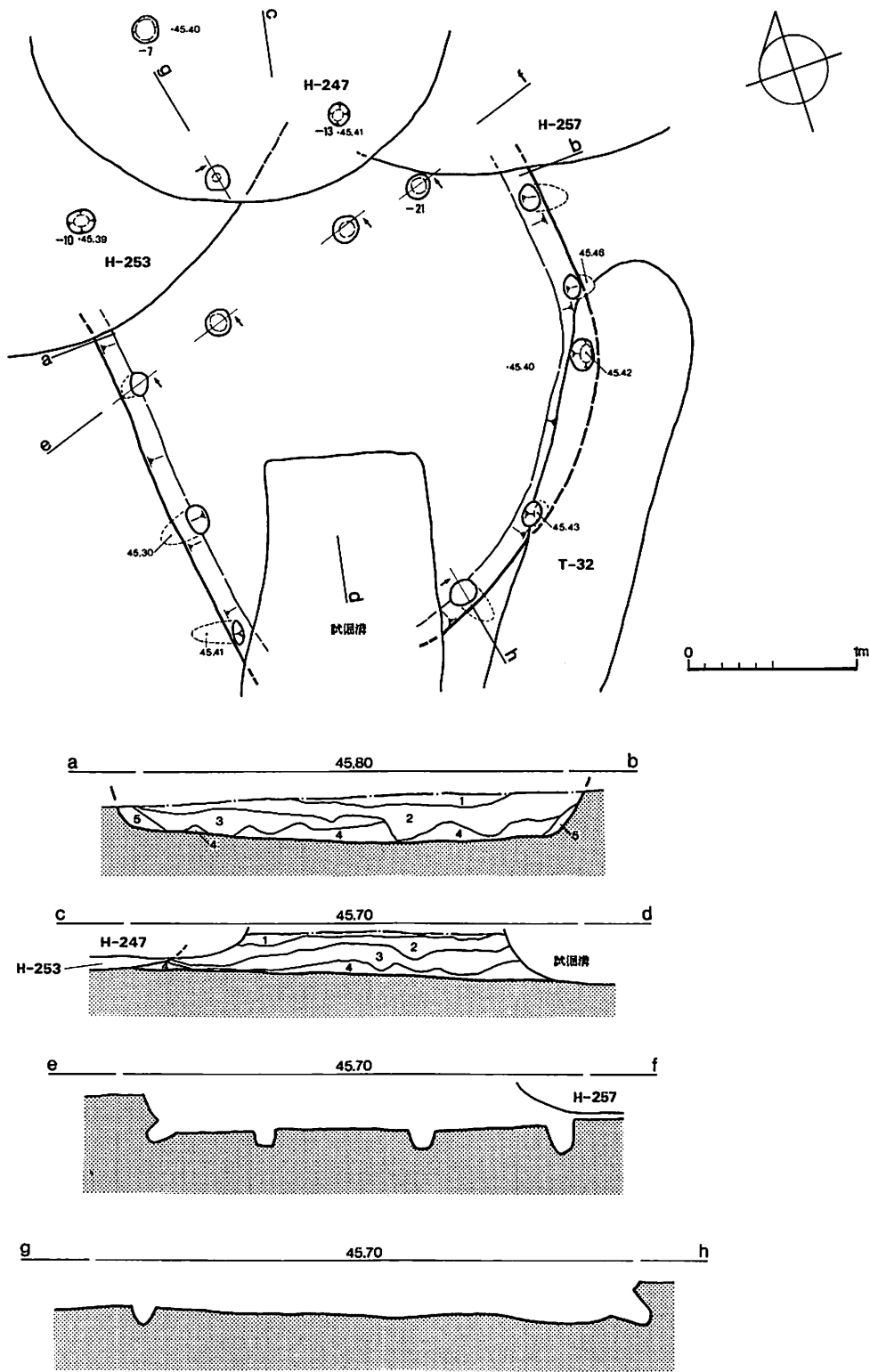
石器 (図Ⅲ-235 図版182-2)

1はたたき石。両面の向い合う位置に、2ヵ所ずつ、班状のたたき痕をもつ(宗像)。



図Ⅲ-235 H-286出土遺物

H-286



H-286の土層  
1. 灰黒褐色土 2. 暗茶褐色土 3. 暗黄褐色土 4. 明黄褐色粘質土  
5. 灰黄褐色土

図Ⅲ-236 H-286実測図

H-287 (図Ⅲ-238 図版67-2)

位置: 45-45 46-45 規模: 5.35m/5.10m×4.35m/4.00m×0.25m 床面積: 15.35m<sup>2</sup>

平面形: 長円形 長軸方向: N-80°-E

検出・掘り込み面: H-250の床面で検出した。掘り込み面はⅢb層下位と考えられる。 重複関係: H-244・261・250・218・294、P-115と重複しており、H-294より新しく、他より古い住居跡である。

時期: 周辺包含層出土の遺物などから、縄文時代早期中葉の時期のものと思われる。

床面: V層を15cmほど掘り込んで構築されている。ほぼ平坦で、堅くしまっている。

壁: 検出面からの壁高は20cmで、床面からの立ち上がりは丸味があり、傾斜はゆるやかである。

炉跡: 焼土などは検出されていない。

付属ピット: 柱穴状小ピットは47個検出されている。8個は壁面にあり内傾する。27個は壁際から50cmの範囲内にある。

遺物出土状況: 覆土、床面付近から遺物は出土していない(谷島)。

H-288 (図Ⅲ-239 図版66-6 図版67-3)

位置: 46-41・42 規模: 4.80m/4.45m×——/——×0.30m 床面積: 不明

平面形: 不明 長軸方向: N-20°-E

検出・掘り込み面: Ⅳ層上面で検出された。覆土上部にⅢ層が堆積していることから、掘り込み面はⅢb層下位と考えられる。 重複関係: H-283、T-34と重複しており、これらより古い住居跡である。

時期: 周辺包含層出土の遺物などから、縄文時代早期中葉の時期のものと思われる。

床面: V層を20cmほど掘り込んで構築されている。やや凸凹があり、堅くしまっている。

壁: 検出面からの壁高は25cmで、床面からの立ち上がりは丸味があり、傾斜はやや急角度である。

炉跡: 焼土などは検出されていない。

付属ピット: 柱穴状小ピットは21個検出されている。17個は壁面にあり内傾する。H-283の床面から本住居に伴うと考えられる柱穴状小ピットが3個検出されている。

遺物出土状況: 覆土中で礫が1点出土しただけである(谷島)。

H-289 (図Ⅲ-240 図版68-1・2)

位置: 47-41・42 規模: ——/——×3.55m/3.20m×0.23m 床面積・平面形: 不明

長軸方向: N-45°-E

検出・掘り込み面: Ⅳ層上面で検出された。掘り込み面はⅢb層下位と考えられる。

重複関係: H-260と重複しており、これより古い住居跡である。

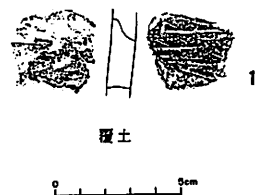
時期: 周辺包含層出土の遺物などから、縄文時代早期中葉の時期のものと思われる。

床面: V層を15cmほど掘り込んで構築されている。ほぼ平坦で、堅くしまっている。

壁: 検出面からの壁高は20cmで、床面からの立ち上がりは丸味があり、傾斜はやや急角度である。

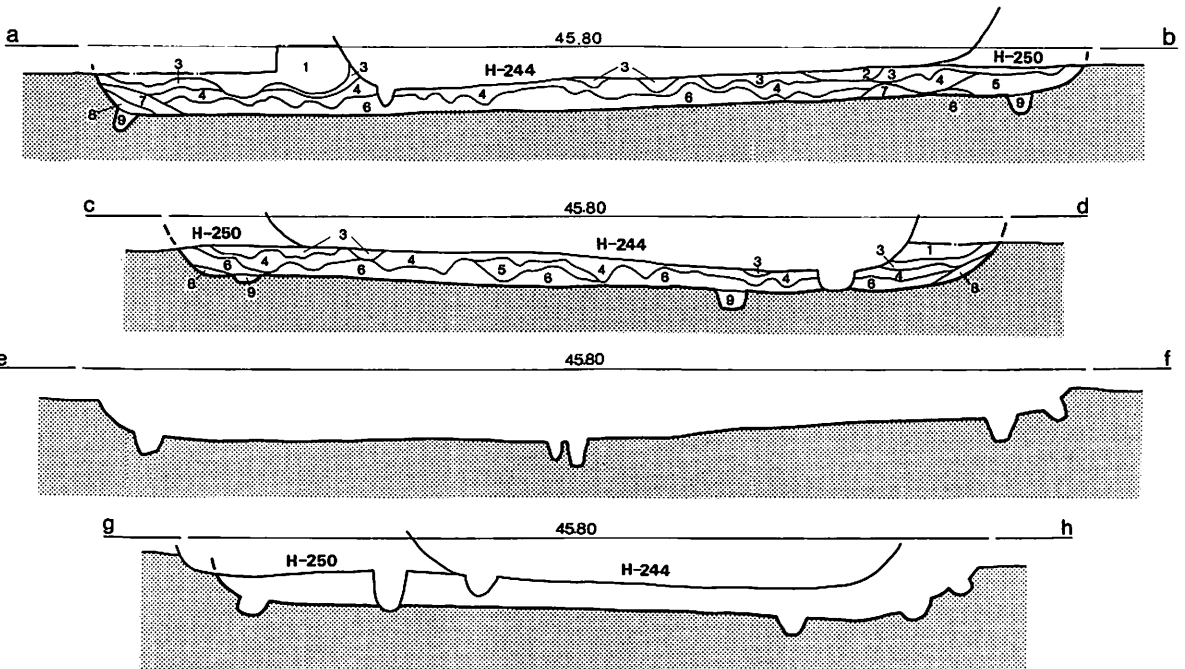
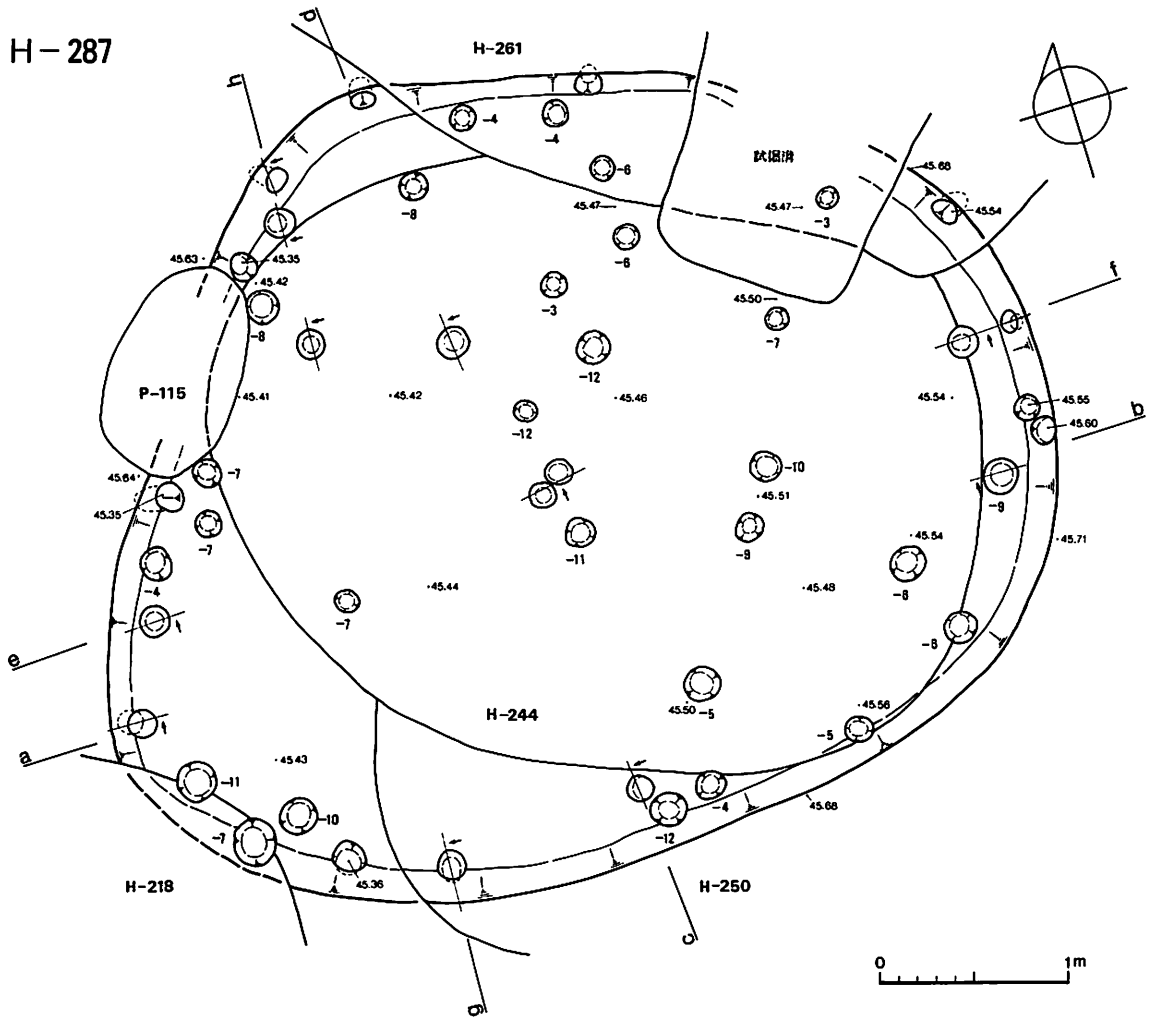
炉跡: 焼土などは検出されていない。

付属ピット: 柱穴状小ピットは14個検出されている。9個は壁面にあり内傾する。H-260の床面から本住居跡に伴うと考えられる柱穴状小ピットが7個検出されている。



図Ⅲ-237 H-289出土土器

H-287

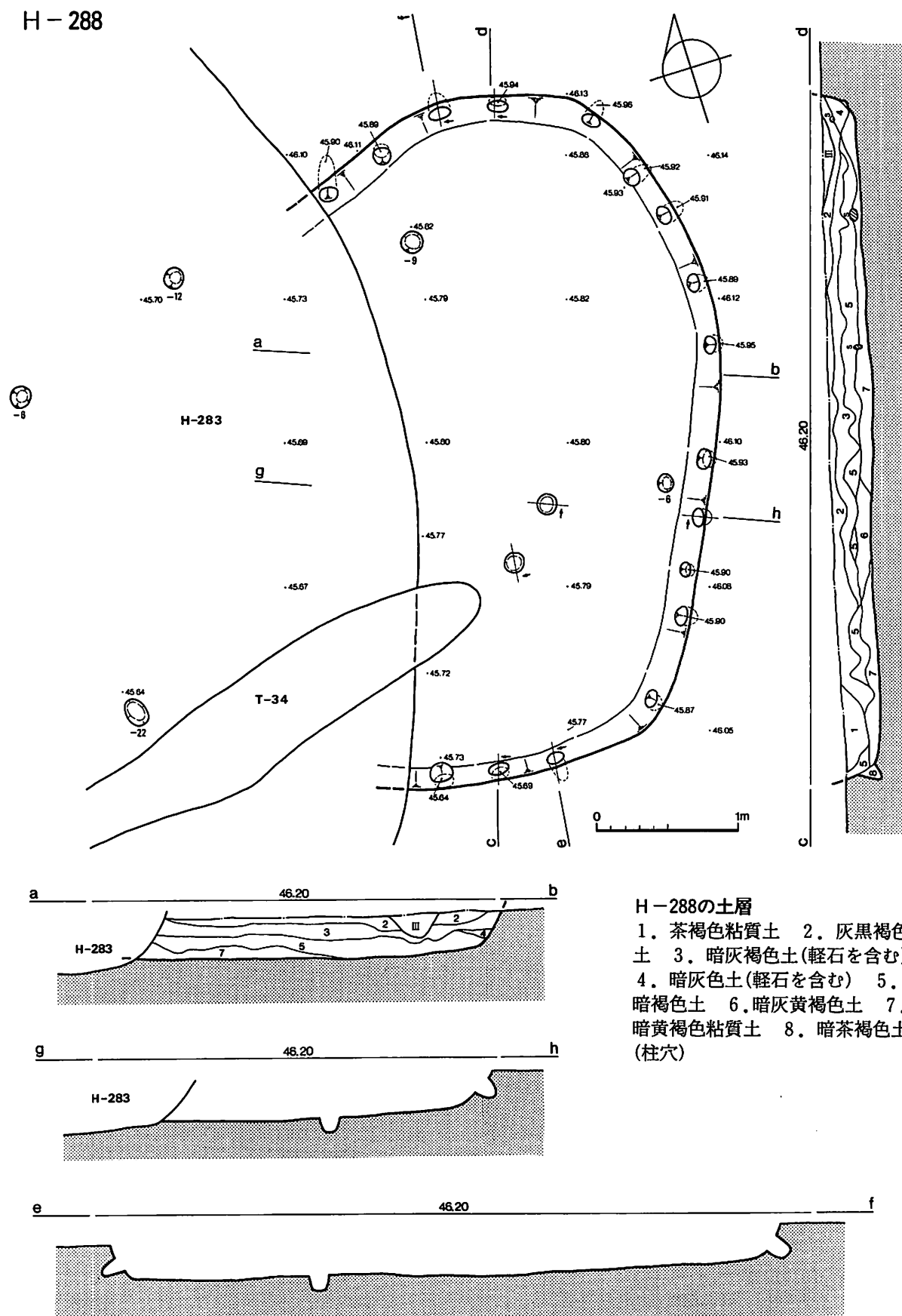


H-287の土層

1. 黒褐色土 2. 暗灰茶褐色粘質土 3. 黒茶褐色土 4. 暗茶褐色土(軽石を含む) 5. 灰黄褐色土(軽石を含む) 6. 灰黄色粘質土(軽石を含む) 7. 暗灰褐色土 8. 黄褐色土 9. 暗黄褐色土

図Ⅲ-238 H-287実測図

H - 288







遺物出土状況：遺物は覆土中でⅠ群D1類土器が1点出土しているだけである(谷島)。

土器(図Ⅲ-237 図版182-3)

1は覆土から出土した体部破片で、表面が剝落している。Ⅰ群D1類土器である(森)。

H-290(図Ⅲ-241 図版69-1)

位置：47-42 規模：2.68m/2.45m×——/——×0.23m 床面積・平面形・長軸方向：不明

検出・掘り込み面：Ⅳ層上面で検出した。覆土上部には他遺構の掘り揚げ土の堆積が見られた。掘り込み面はⅢb層下位と考えられる。 重複関係：ない

時期：周辺包含層出土の遺物などから、縄文時代早期中葉の時期のものと思われる。

床面：Ⅴ層を15cmほど掘り込んで構築されている。ほぼ平坦で、堅くしまっている。

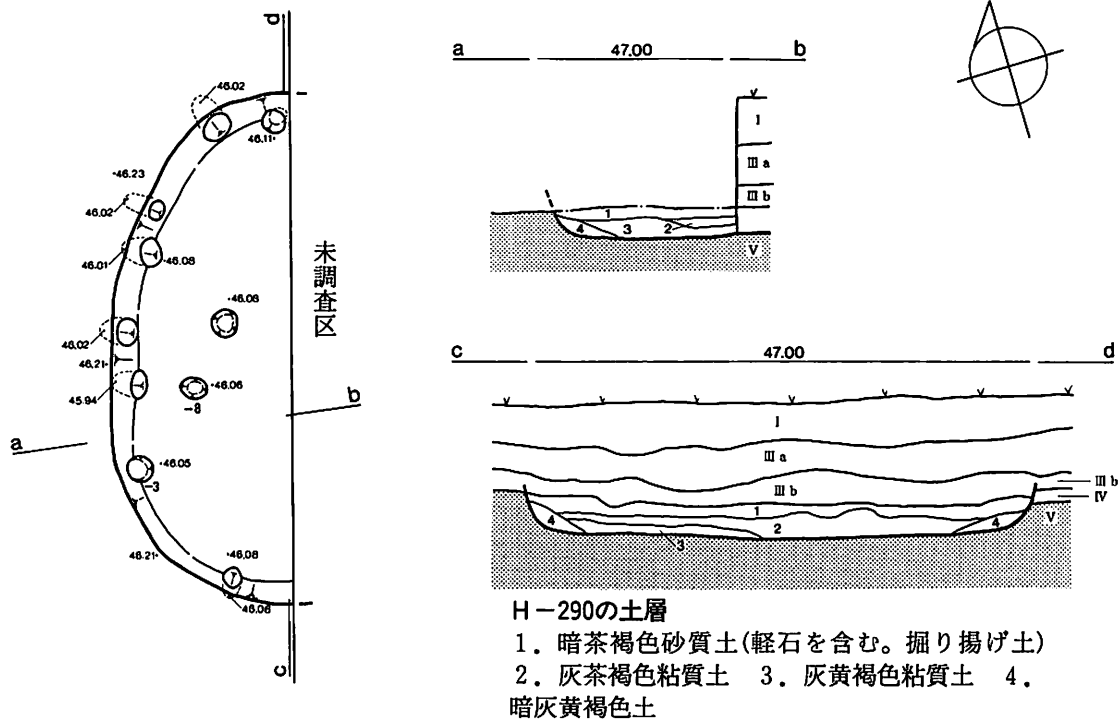
壁：検出面からの壁高は20cmで、床面からの立ち上がりは丸味があり、傾斜はやや急角度である。

炉跡：焼土などは検出されていない。

付属ピット：柱穴状小ピットは10個検出されている。8個は壁面にあり内傾する。他の2個は壁際から50cmの範囲内にある。

遺物出土状況：覆土、床面付近から遺物は出土していない(谷島)。

H-290



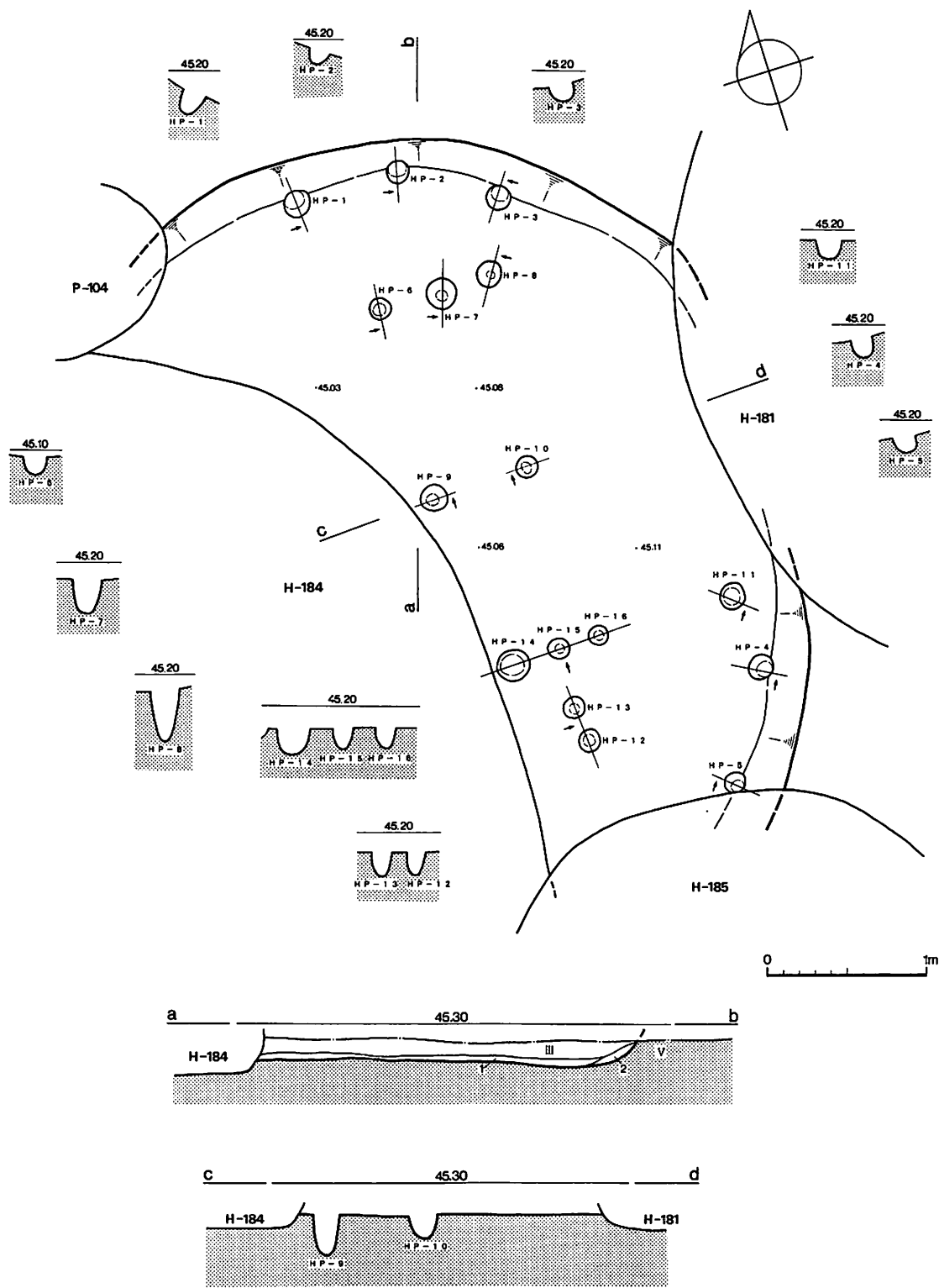
図Ⅲ-241 H-290実測図

H-291(図Ⅲ-242 図版68-3)

位置：41-48・49 規模：——/——×——/——×(0.15m) 床面積・平面形・長軸方向：不明

検出・掘り込み面：H-184の調査中、北東側の壁で暗褐色土の落ち込みを検出した。 重複関係：H-181・184・185、P-104と重複しており、これらより古い住居跡である。

H-291

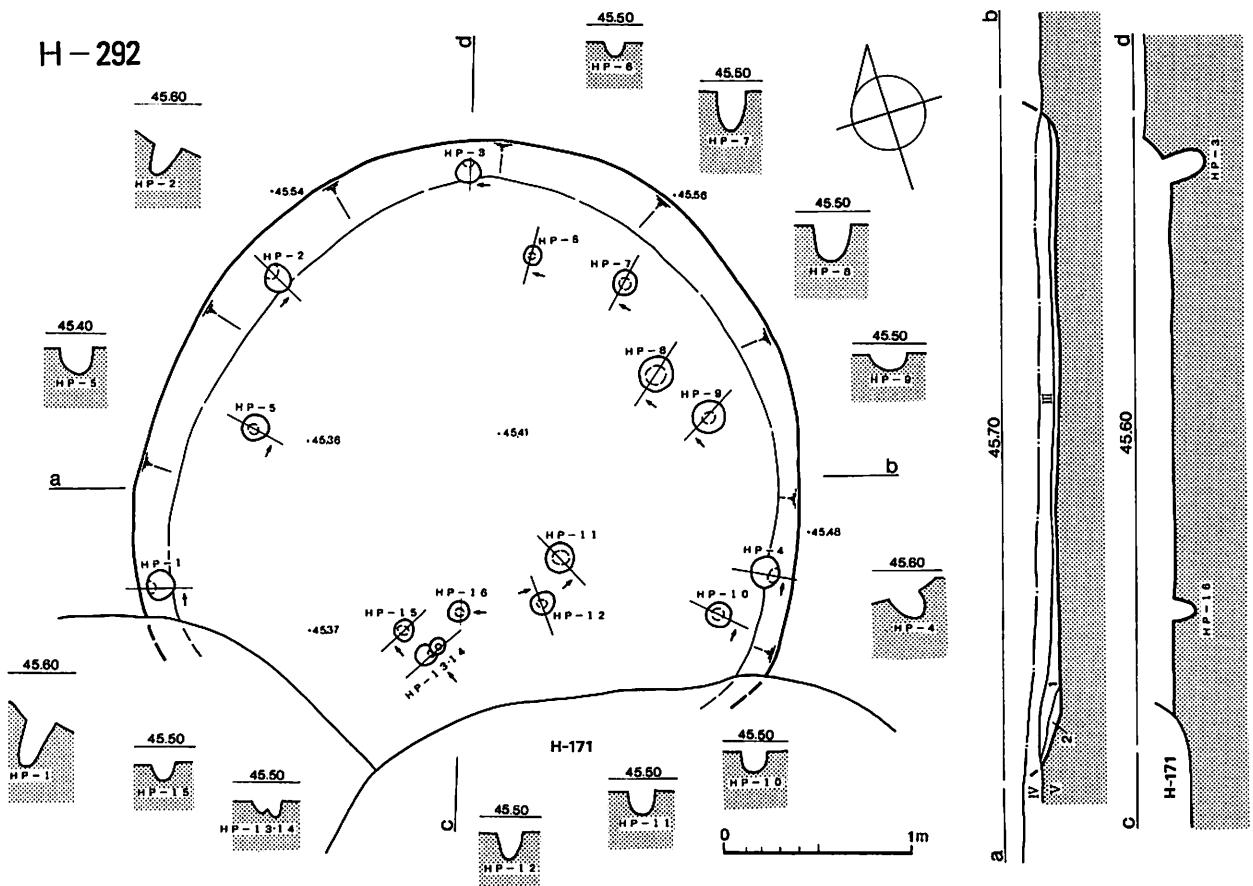


H-291の土層  
1. 暗褐色土(粘性で、しまりあり) 2. 暗黄褐色土(黄色土がブロック状にまじる)

図Ⅲ-242 H-291実測図

時期：周辺包含層出土の遺物などから、縄文時代早期中葉の時期のものと思われる。  
床面：Ⅴ層を掘り込んで構築されている。ほぼ平坦である。  
壁：全体に急に立ち上がる。検出面からの壁高は約12cmである。  
炉跡：焼土などは検出されていない。  
付属ピット：柱穴状小ピットは16個検出された。概して浅く、壁際のはやや内傾している。  
遺物出土状況：覆土、床面付近から遺物は出土していない(村田)。

H-292 (図Ⅲ-243)  
位置：43-48 規模：——/——×3.50m/3.12m×0.14m 床面積：(8.25㎡) 平面形：不明  
長軸方向：N-13°-W  
検出・掘り込み面：Ⅳ層上面で暗褐色土の落ち込みを検出した。  
重複関係：H-171・190と重複しており、これらより古い住居跡である。  
時期：周辺包含層出土の遺物などから、縄文時代早期中葉の時期のものと思われる。  
床面：Ⅴ層を掘り込んで構築されている。ほぼ平坦である。  
壁：全体に急に立ち上がる。検出面からの壁高は約12cmである。  
炉跡：焼土などは検出されていない。  
付属ピット：柱穴状小ピットは15個検出されている。概して浅く、壁際のは内傾している。  
遺物出土状況：覆土、床面付近から遺物は出土していない(村田)。



H-292の土層 1. 暗褐色土(粘性で、しまりあり) 2. 暗黄褐色土(黄色土がブロック状にまじる)

図Ⅲ-243 H-292実測図

H-293 (図Ⅲ-244 図版69-2・3)

位置: 43-43・44 44-43・44 規模: ———×3.45m/3.10m×0.30m

床面積・平面形・長軸方向: 不明

検出・掘り込み面: 他遺構の床面で検出した。掘り込み面はⅢb層下位と考えられる。

重複関係: H-159・285・246と重複しており、これらより古い住居痕である。

時期: 周辺包含層出土の遺物などから、縄文時代早期中葉の時期のものと思われる。

床面: V層を30cmほど掘り込んで構築されている。ほぼ平坦で、堅くしまっている。

壁: 検出面からの壁高は22cmで、床面からの立ち上がりは丸味があり、傾斜はゆるやかである。

炉跡: 焼土などは検出されていない。

付属ピット: 柱穴状小ピットは23個検出されている。12個は壁面にあり内傾する。5個は壁際から50cmの範囲内にある。

遺物出土状況: 覆土、床面付近から遺物は出土していない(谷島)。

H-294 (図Ⅲ-245 図版69-4 図版70-1)

位置: 45-44・45 規模: ———×4.00m/3.75m×0.30m

床面積・平面形・長軸方向: 不明

検出・掘り込み面: 他遺構の床面で検出した。掘り込み面はⅢb層下位と考えられる。

重複関係: H-287・250・255・243・256・218と重複しており、これらより古い住居跡である。

時期: 周辺包含層出土の遺物などから、縄文時代早期中葉の時期のものと思われる。

床面: V層を30cmほど掘り込んで構築されている。南東側に若干傾斜しており、堅くしまっている。

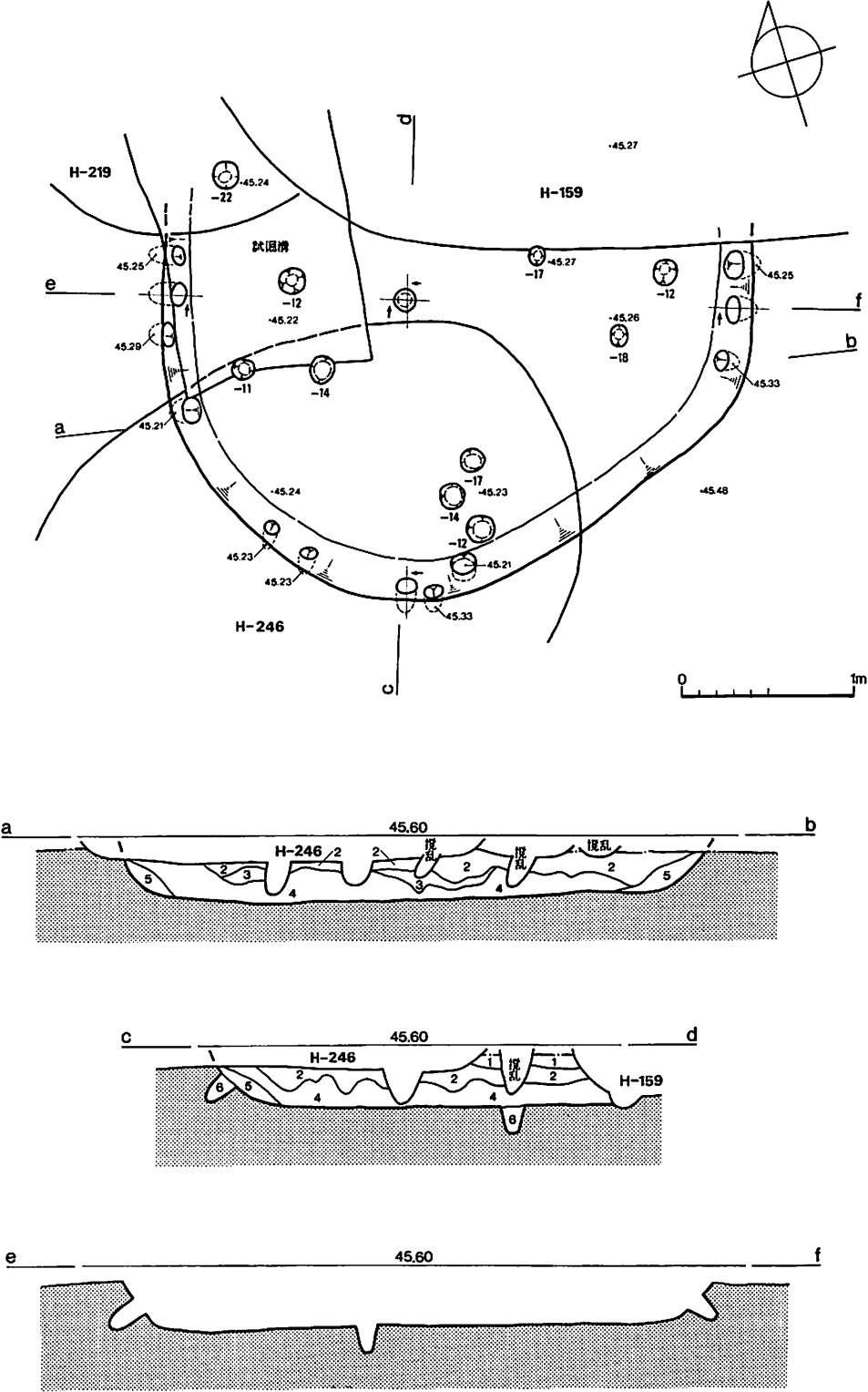
壁: 検出面からの壁高は最大22cmで、床面からの立ち上がりは丸味があり、傾斜はゆるやかである。

炉跡: 焼土などは検出されていない。

付属ピット: 柱穴状小ピットは23個検出されている。1個は壁面にあり内傾する。11個は壁際から50cmの範囲内にある。H-218とH-287の床面から本住居跡に伴うと考えられる柱穴状小ピットが9個検出されている。

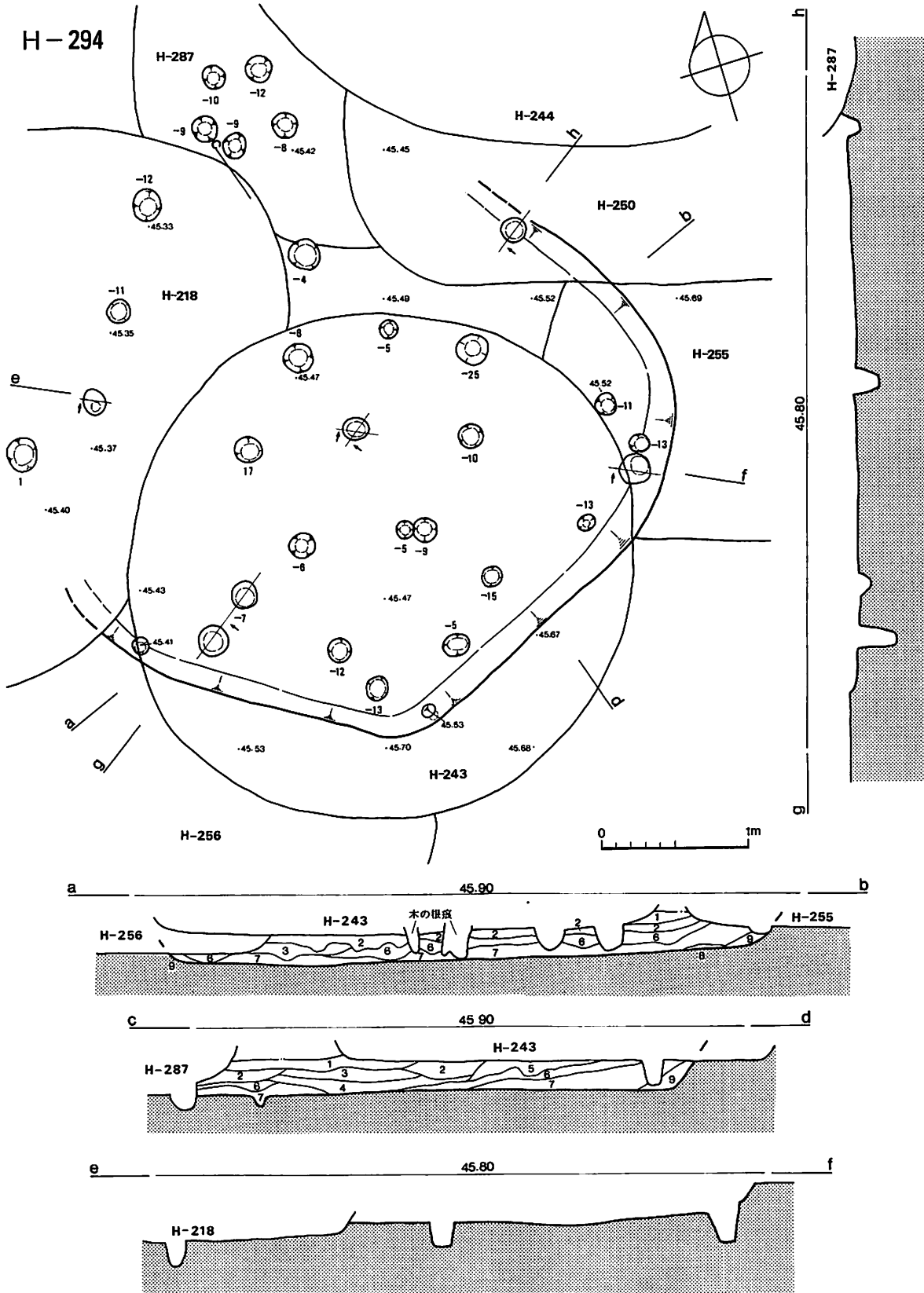
遺物出土状況: 覆土、床面付近から遺物は出土していない(谷島)。

H-293



H-293の土層  
1. 黒茶色土 2. 暗黄灰褐色土 3. 暗灰茶褐色土(軽石を含む) 4. 明黄褐色土  
5. 灰黄褐色土 6. 褐色土(柱穴)

図Ⅲ-244 H-293実測図



H-294の土層 1. 黒褐色土 2. 暗灰茶褐色土(軽石を多量に含む) 3. 暗黄茶褐色土(軽石を多量に含む) 4. 暗橙褐色土(軽石を含む) 5. 灰暗褐色土 6. 褐色粘質土 7. 灰黄褐色粘質土 8. 灰褐色粘質土 9. 黄褐色土(軽石を含む)

図Ⅲ-245 H-294実測図

H-295 (図III-246 図版70-2)

位置：44-46 45-46 標高45.58m～45.73mのほぼ平坦地。

規模・床面積・平面形・長軸方向：不明

検出・掘り込み面：Ⅲb層中で軽石まじりの暗灰褐色土の広がりが見られ、Ⅳ層直上でⅢb>黄色土の落ち込みを検出した。掘り込み面はⅢb層中と思われる。重複関係：H-189・261・310・319・325と重複しており、H-325より新しく、他より古い住居跡である。

時期：周辺包含層出土の遺物などから、縄文時代早期中葉の時期のものと思われる。

床面：Ⅴ層を浅く掘り込んで構築されている。平坦で、やや堅い。

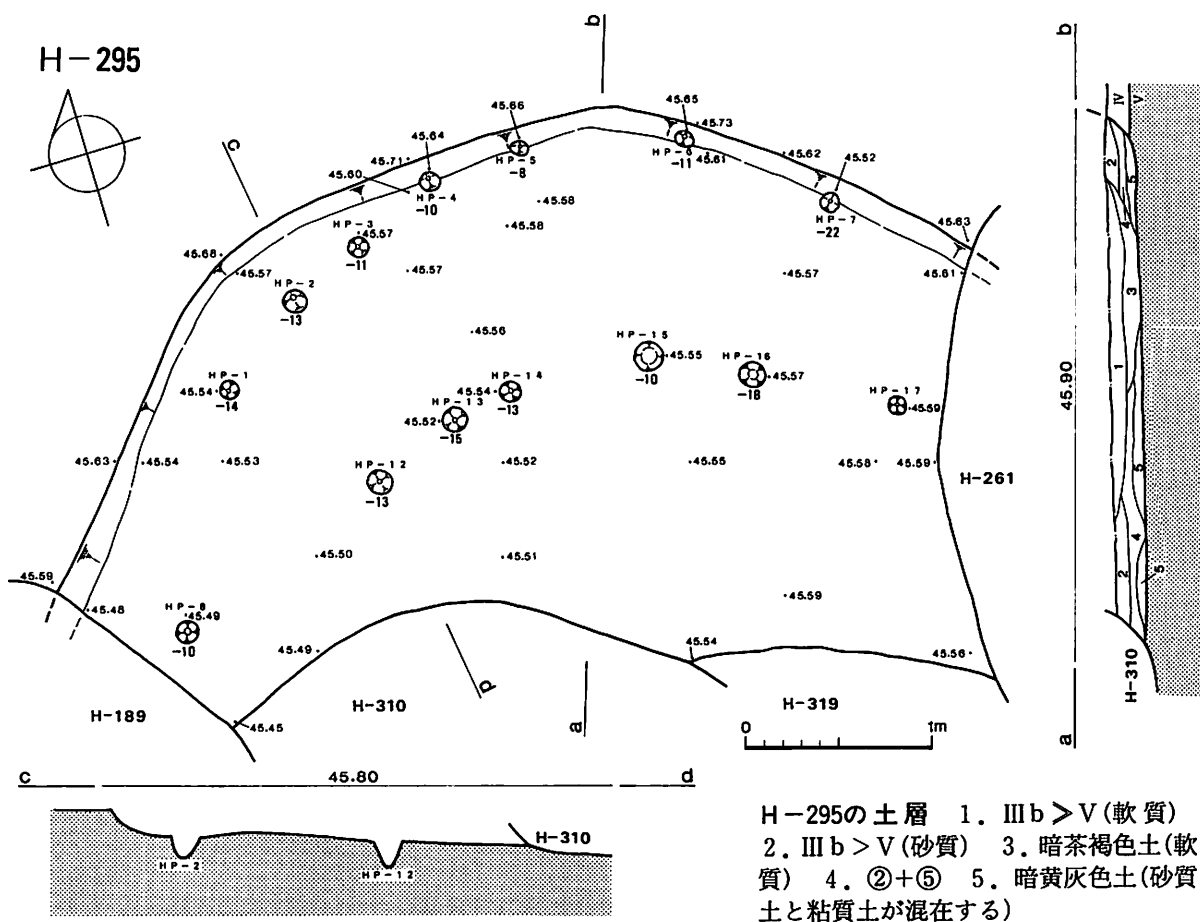
壁：残存部分の立ち上がりはゆるやかな傾斜である。検出面からの壁高は、8cm～13cmである。

炉跡：焼土などは検出されていない。

付属ピット：柱穴状小ピットは17個検出されている。HP-1～8は壁際をめぐるものと思われる。直立している。HP-12～17は弧状に並んでおり、本遺構とは別の遺構が存在していたことも考えられる。

遺物出土状況：覆土、床面付近から遺物は出土していない。

覆土はⅢb層と黄色土がまじり合った土である。覆土上には軽石まじりの掘り揚げ土状の土が見られた(和泉田)。



図III-246 H-295実測図



H-296 (図III-247 図版70-3・4)

位置：43-45 標高45.37m～45.48mの平坦地。

規模・床面積・平面形・長軸方向：不明

検出・掘り込み面：IV層直上でIII b>黄色土の落ち込みを検出した。掘り込み面はIII b層中と思われる。

重複関係：H-189・207・326と重複しており、H-326より新しく、他より古い住居跡である。

時期：周辺包含層出土の遺物などから、縄文時代早期中葉の時期のものと思われる。

床面：V層中に構築されている。やや凹凸があるが、ほぼ平坦で、やや軟質。

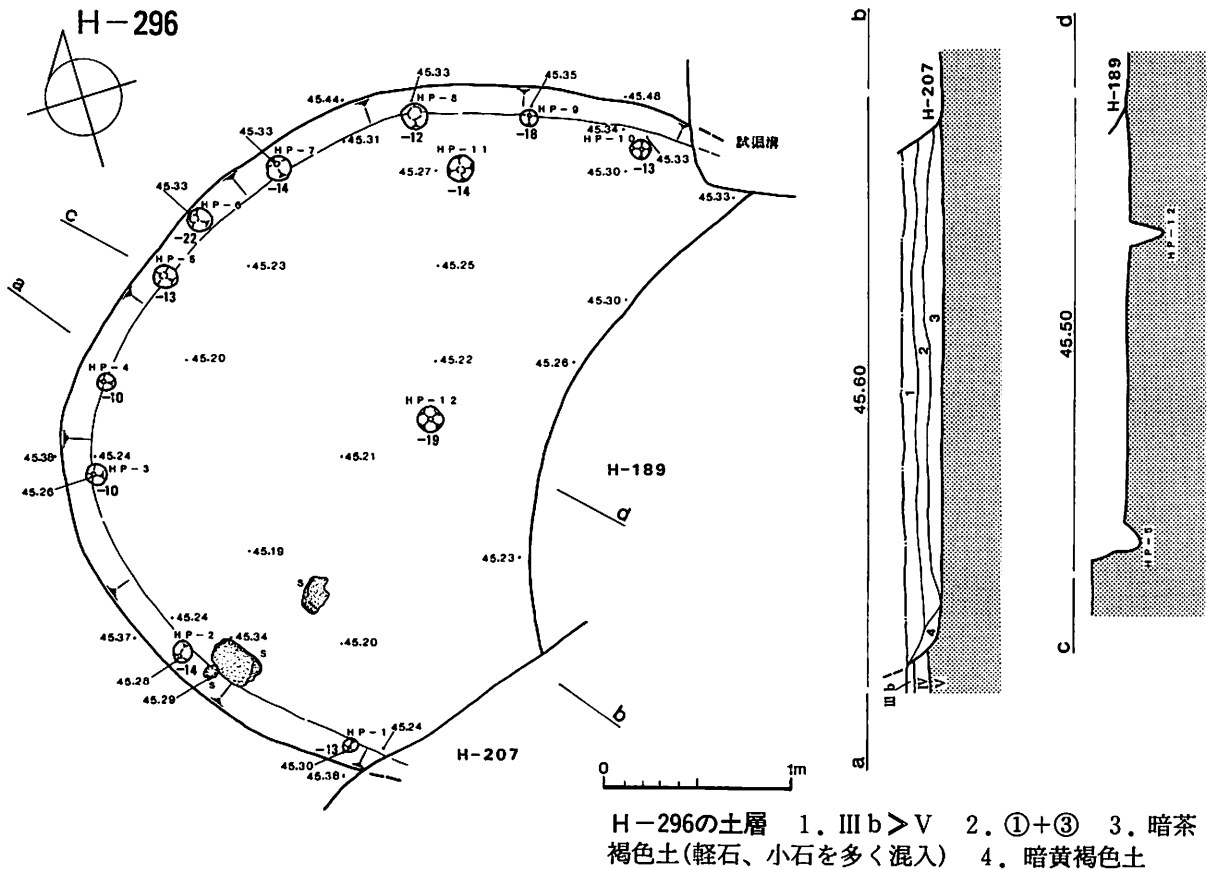
壁：立ち上がりは急傾斜である。検出面からの壁高は、13cm～16cmである。

炉跡：焼土などは検出されていない。

付属ピット：柱穴状小ピットは12個検出されている。HP-1～10は壁際をめぐるもので、全体にやや内傾している。HP-12は主柱穴と考えられ、1本柱が想定される。

遺物出土状況：覆土、床面付近から遺物は出土していない。ただ南西壁付近の床直上で礫が3点出土している。

覆土はIII b層と黄色土のまじり合った土であるが、全体に砂質で、覆土中～下層には軽石や小石が多く混入している(和泉田)。



図III-247 H-296実測図

H-297 (図III-248)

位置：42-44 標高45.32m前後の平坦地。

規模・床面積・平面形・長軸方向：不明

検出・掘り込み面：Ⅳ層直上でⅢ b＞黄色土の落ち込みを検出した。掘り込み面はⅢ b層中と思われる。

重複関係：H-179・180・212・340と重複しており、H-340より新しく、他より古い住居跡である。

時期：周辺包含層出土の遺物などから、縄文時代早期中葉の時期のものと思われる。

床面：V層中に構築されている。平坦で、やや軟質。

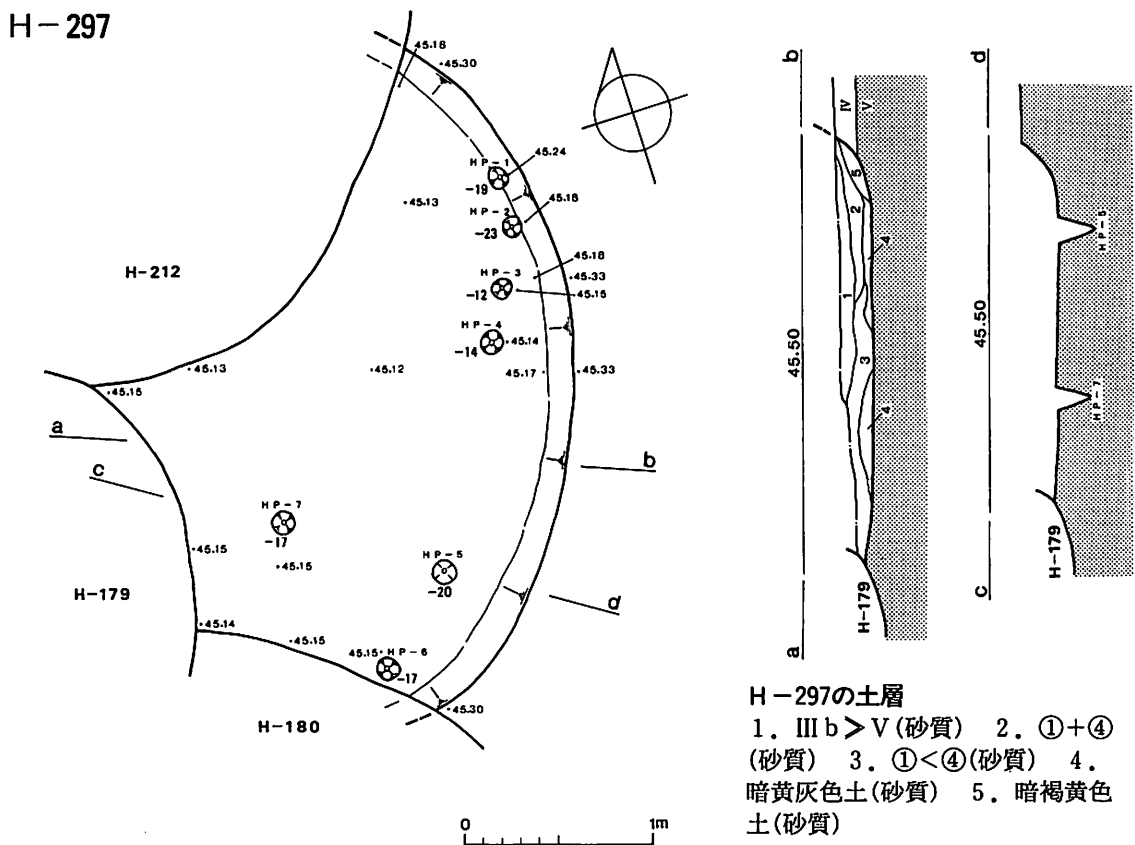
壁：残存部分の立ち上がりは急傾斜である。検出面から壁高は、12cm～16cmである。

炉跡：焼土などは検出されていない。

付属ピット：柱穴状小ピットは7個検出されている。HP-1～6は壁際をめぐるもので、直立し、杭状である。HP-7は主柱穴と思われる。

遺物出土状況：覆土、床面付近から遺物は出土していない。

覆土はIII b層と黄色土がまじり合った土であるが、全体に砂質である。軽石、微小の小石が多く混入している。覆土中層は混合土である(和泉田)。



図III-248 H-297実測図

H-298 (図Ⅲ-249 図版71-1)

位置: 42-41・42 標高45.48m前後の平坦地。

規模・床面積・平面形・長軸方向: 不明

検出・掘り込み面: IV層直上でIII b層黄色土の落ち込みを検出した。掘り込み面はIII b層中と思われる。

重複関係: T-22、P-131、H-258と重複しており、これらより古い住居跡である。

時期: 周辺包含層出土の遺物などから、縄文時代早期中葉の時期のものと思われる。

床面: V層中に構築されている。平坦で、堅い。

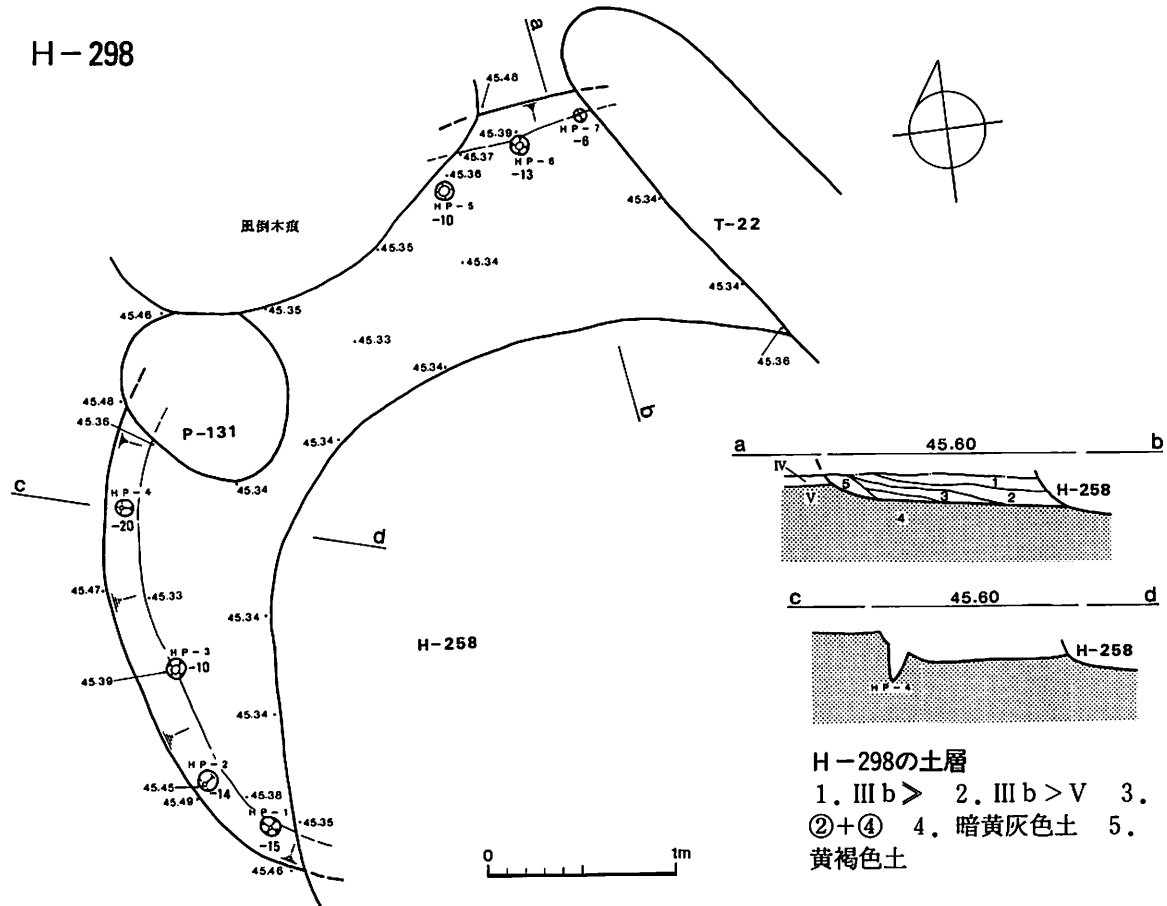
壁: 残存部分の立ち上がりはゆるやかな傾斜である。検出面からの壁高は、10cm~15cmである。

炉跡: 焼土などは検出されていない。

付属ピット: 柱穴状小ピットは7個検出されている。壁際をめぐるもので、直立し、杭状である。

遺物出土状況: 覆土、床面付近から遺物は出土していない。

覆土はIII b層と黄色土がまじり合った土である(和泉田)。



H-299 (図Ⅲ-250 図版71-2・3)

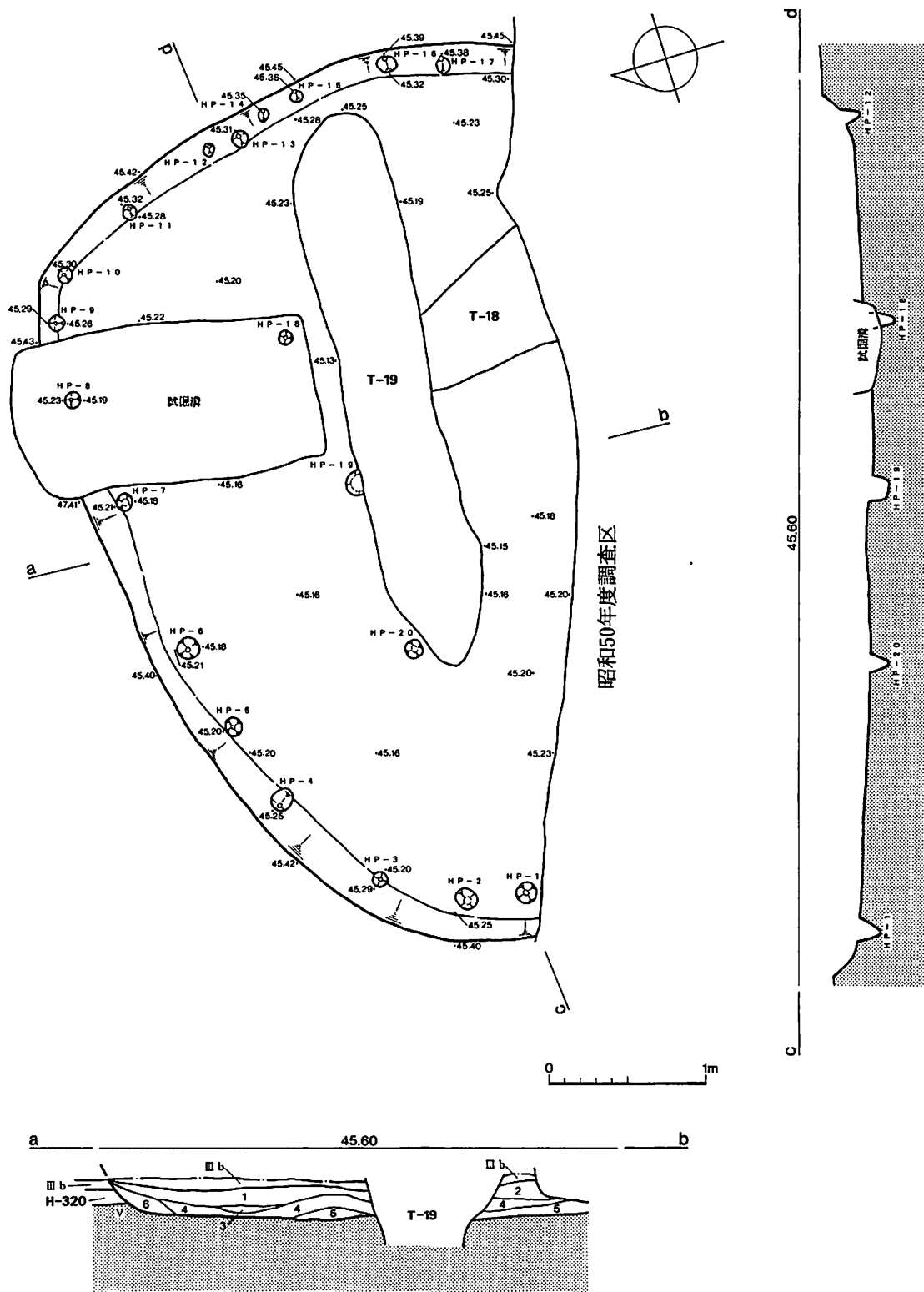
位置: 41-41・42 42-41・42 標高45.39m~45.46mの平坦地。

規模・床面積・平面形・長軸方向: 不明

検出・掘り込み面: III b層中で黒味をもつ暗褐色土の広がりが見られ、IV層直上でIII b層の落ち込みが検出された。掘り込み面はIII b層中と思われる。

重複関係: T-18・19、P-125、H-320・338と重複しており、T-18・19より古い、H-320・338より新しい。P-125との新旧関係は明瞭でない。

H-299



H-299の土層  
1. III b > V 2. III b > V (軟質。①より黄色土が多い) 3. ①+黄色土  
4. ①<③ (軟質。暗茶黄色土) 5. 暗黄色土(粘質) 6. 暗褐色土(軟質)

図Ⅲ-250 H-299実測図

時期：周辺包含層出土の遺物などから、縄文時代早期中葉の時期のものと思われる。

床面：Ⅴ層中に構築されている。ほぼ平坦で、軟質である。

壁：立ち上がりは急傾斜である。検出面からの壁高は、北壁が15cm～21cm、東壁が14cm～18cmである。

炉跡：焼土などは検出されていない。

付属ピット：柱穴状小ピットは19個検出されている。HP-1～16は壁高をめぐるもので、直立している。HP-17・19は支柱穴と思われる。

遺物出土状況：遺物は覆土2層から剥片が1点出土しただけである。

覆土はⅢb層と黄色土がまじり合った土である。床面直上には汚れの目立つ暗茶黄色土が薄く堆積していた(和泉田)。

H-300 (図Ⅲ-251 図版72-1)

位置：53-63・64 54-63・64 標高47.70m前後の平坦地。西側は沢地形の斜面となっており、本遺構の西側部分は消失している。

規模・床面積・平面形・長軸方向：不明

検出・掘り込み面：Ⅳ層直上でⅢb>黄色土の落ち込みを検出した。 重複関係：ない

時期：不明

床面：Ⅴ層上に構築されている。東→西へ傾斜しており、ほぼ平坦で、堅い。

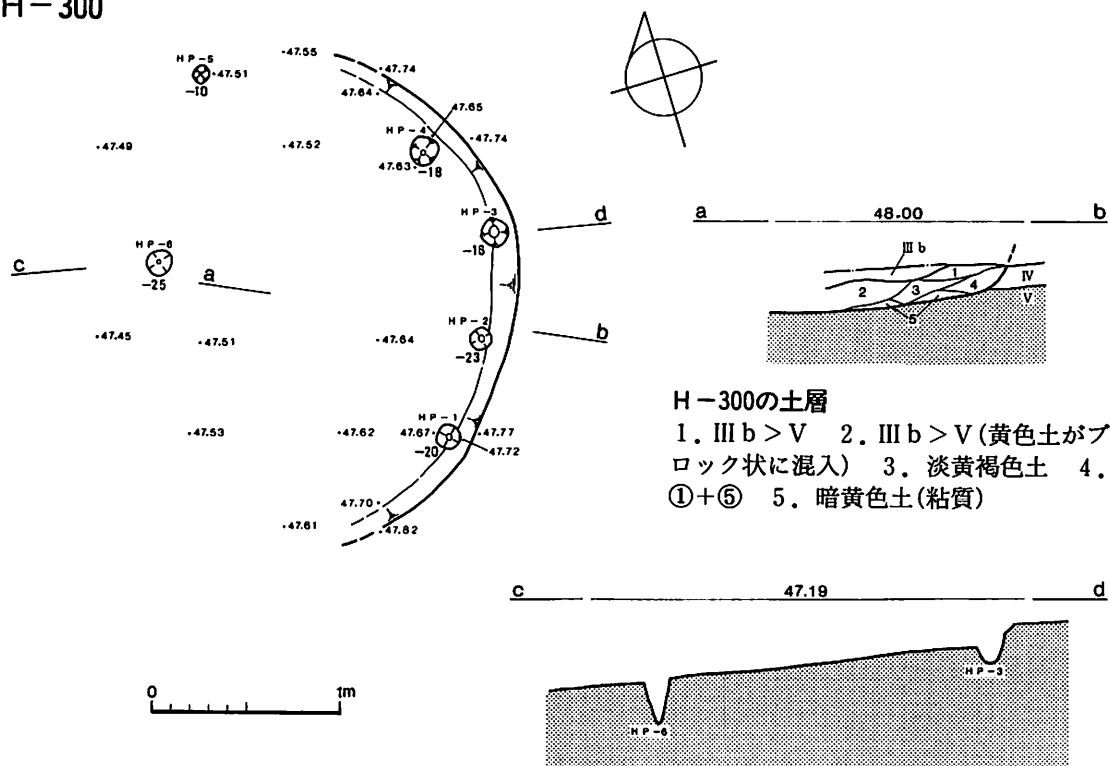
壁：残存部分の立ち上がりは、ゆるやかな傾斜である。検出面からの壁高は9cm～13cmである。

炉跡：焼土などは検出されていない。

付属ピット：柱穴状小ピットは6個検出された。HP1～5は壁際にあり、杭状で直立している。

遺物出土状況：覆土、床面付近から遺物は出土していない(和泉田)。

H-300



図Ⅲ-251 H-300実測図

H-301 (図Ⅲ-252 図版71-4 図版72-2)

位置: 54-63 標高47.62m~47.80mのほぼ平坦地であるが、耕作によって深く攪乱、削平されている。

規模: 3.20m/3.00m×2.80m/2.70m×0.16m 床面積: 6.25㎡ 平面形: 隅丸長方形

長軸方向: N-30°-W

検出・掘り込み面: IV層直上で黒味のある暗褐色土>黄色土の落ち込みを検出した。掘り込み面はIII b層中と思われるが、定かでない。 重複関係: H-330・336と重複しており、これらより新しい。

時期: 不明

床面: V層中に構築されている。北西→南東へ若干傾斜している。ほぼ平坦で、やや堅い。

壁: 立ち上がりはゆるやかな傾斜である。検出面からの壁高は、北壁が2cm~8cm、東壁が5cm~14cm、南壁が4cm~12cm、西壁が8cm~13cmである。

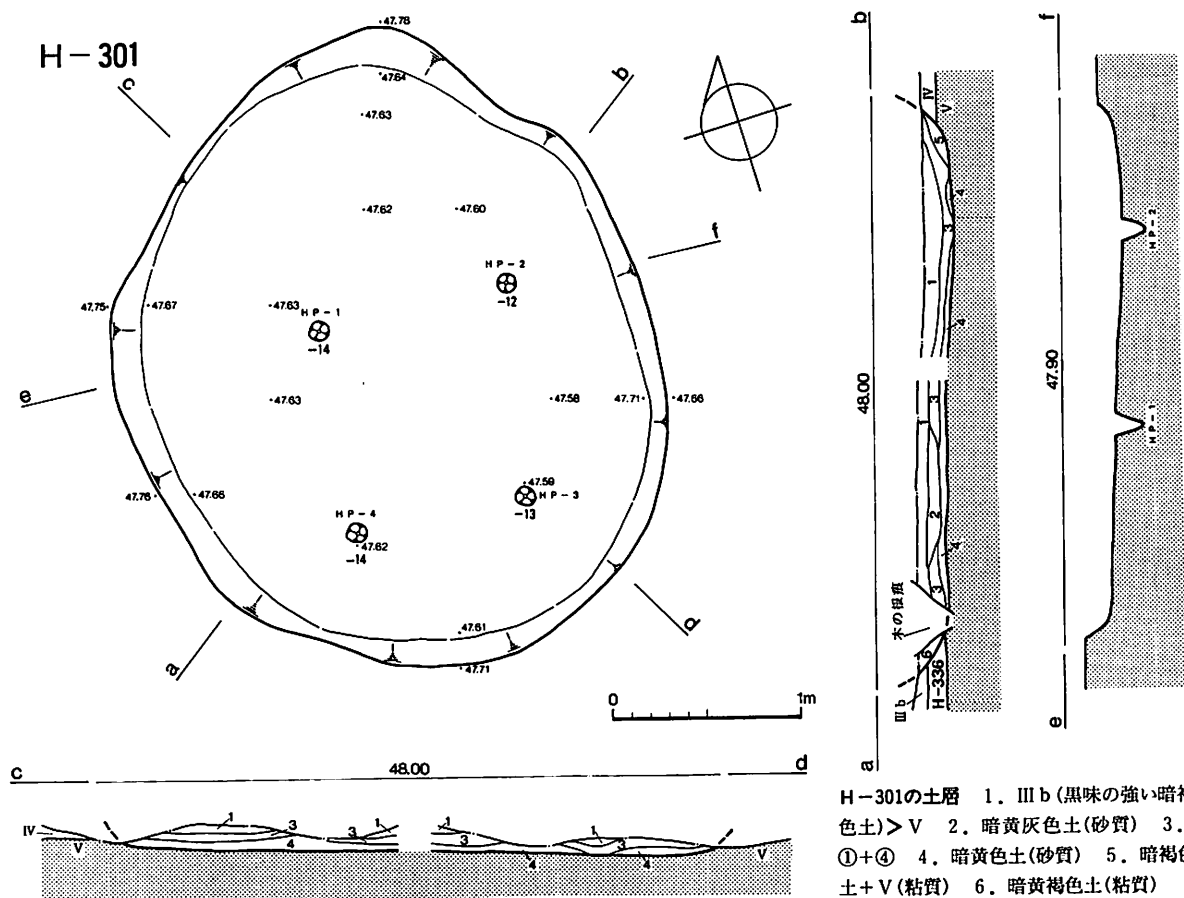
炉跡: 焼土などは検出されていない。

付属ピット: 柱穴状小ピットは4個検出されている。杭状で、直立している。これらは主柱穴で、4本柱である。

遺物出土状況: 覆土、床面付近から遺物は出土していない。

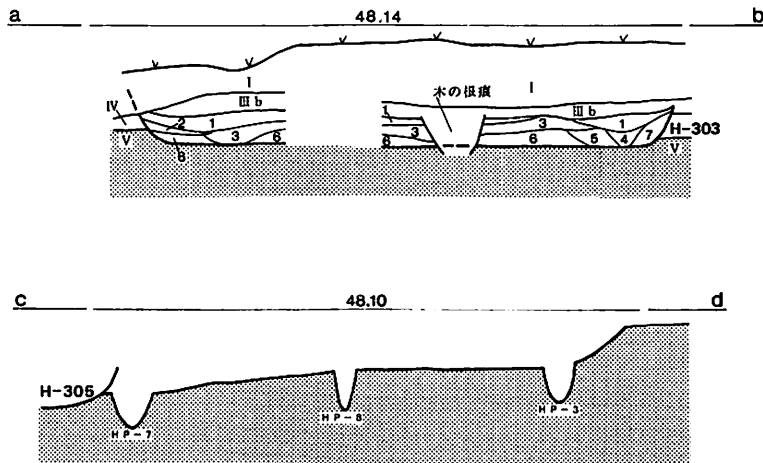
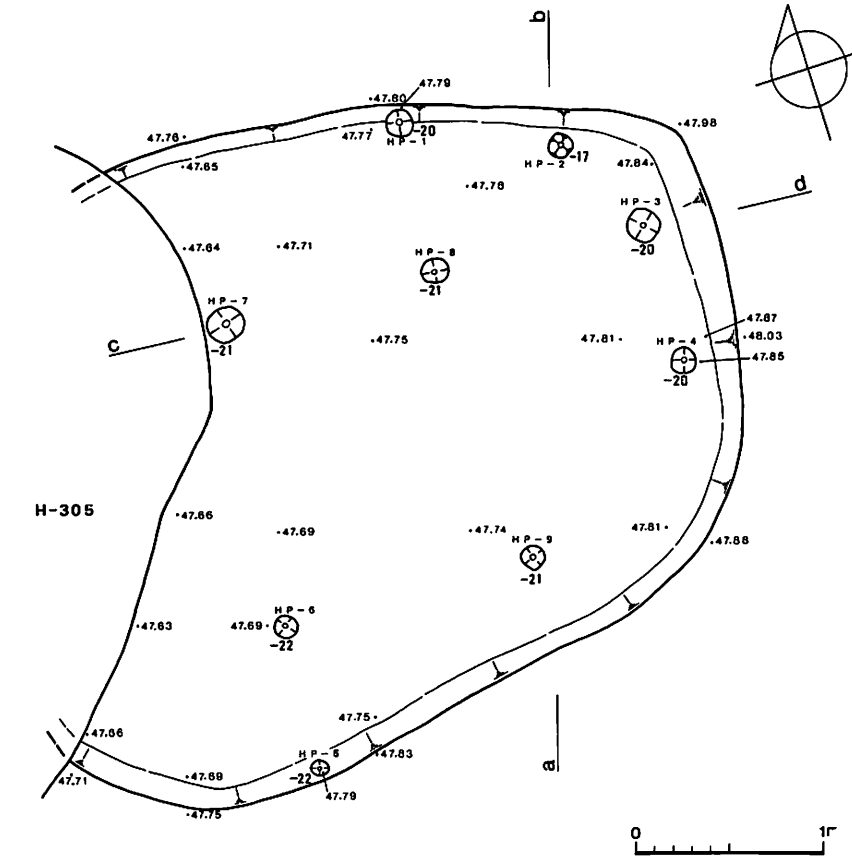
覆土はIII b層と黄色土がまじり合った土である。軽石を少量混入している。

柱穴状小ピットの配列などから 本来は2.80m×2.60m、長軸方向N-30°-W、平面形が隅丸長方形の住居跡だったのではないかとと思われる(和泉田)。



図Ⅲ-252 H-301実測図

H-302



H-302の土層

1. III b (黒味が強い暗褐色土) > V 2. 灰褐色土 3. ① + ⑥ 4. III b > V 5. ① < V 6. 暗黄色土(粘質) 7. 暗褐色土

図Ⅲ-253 H-302実測図



H-302 (図Ⅲ253 図版73-1)

位置：54-64・65 55-64・65 標高47.71m～47.98mのほぼ平坦地。

規模：——／——×3.50m／3.30m×0.18m 床面積：(10.75㎡) 平面形：隅丸長方形か？

長軸方向：N-85°-W

検出・掘り込み面：Ⅳ層直上で黒味の強い暗褐色土>黄色土の落ち込みを検出した。掘り込み面はⅢb層中と思われる。重複関係：H-303・305・327と重複しており、これらより古い住居跡である。

時期：不明

床面：Ⅴ層中に構築されている。東→西へ若干傾斜している。ほぼ平坦で、やや軟質である。

壁：立ち上がりはゆるやかな傾斜である。検出面からの壁高は、北壁が3cm～11cm、東壁が5cm～16cm、南壁が5cm～8cmである。

炉跡：焼土などは検出されていない。

付属ピット：柱穴状小ピットは9個検出されている。HP-1～5は壁際にあり、直立している。HP-6～9は支柱穴と考えられ、4本柱が想定される。

遺物出土状況：遺物は床面で剥片が1点出土しただけである。

覆土はⅢb層と黄色土がまじり合った土である。

柱穴状小ピットの配列などから、4.10m×3.50m、平面形が隅丸長方形の住居跡が想定される(和泉田)。

H-303 (図Ⅲ-254 図版72-3 図版73-2)

位置：54-65 55-65・66 標高47.87m～48.06mのほぼ平坦地。北西側の大半は沢地形によって崩落、削平されている。

規模・床面積・平面形・長軸方向：不明

検出・掘り込み面：Ⅳ層直上でⅢb>黄色土粒の半円状の落ち込みを検出した。掘り込み面はⅢb層中と思われるが、明瞭ではない。

重複関係：H-302・304・327と重複しており、H-302より古く、他より新しい住居跡である。

時期：不明

床面：Ⅴ層を浅く掘り込んで構築されている。南東→北西へ若干傾斜している。やや凹凸があるが、ほぼ平坦である。

壁：残存部分の立ち上がりはやや急傾斜である。検出面からの壁高は、12cm～20cmである。

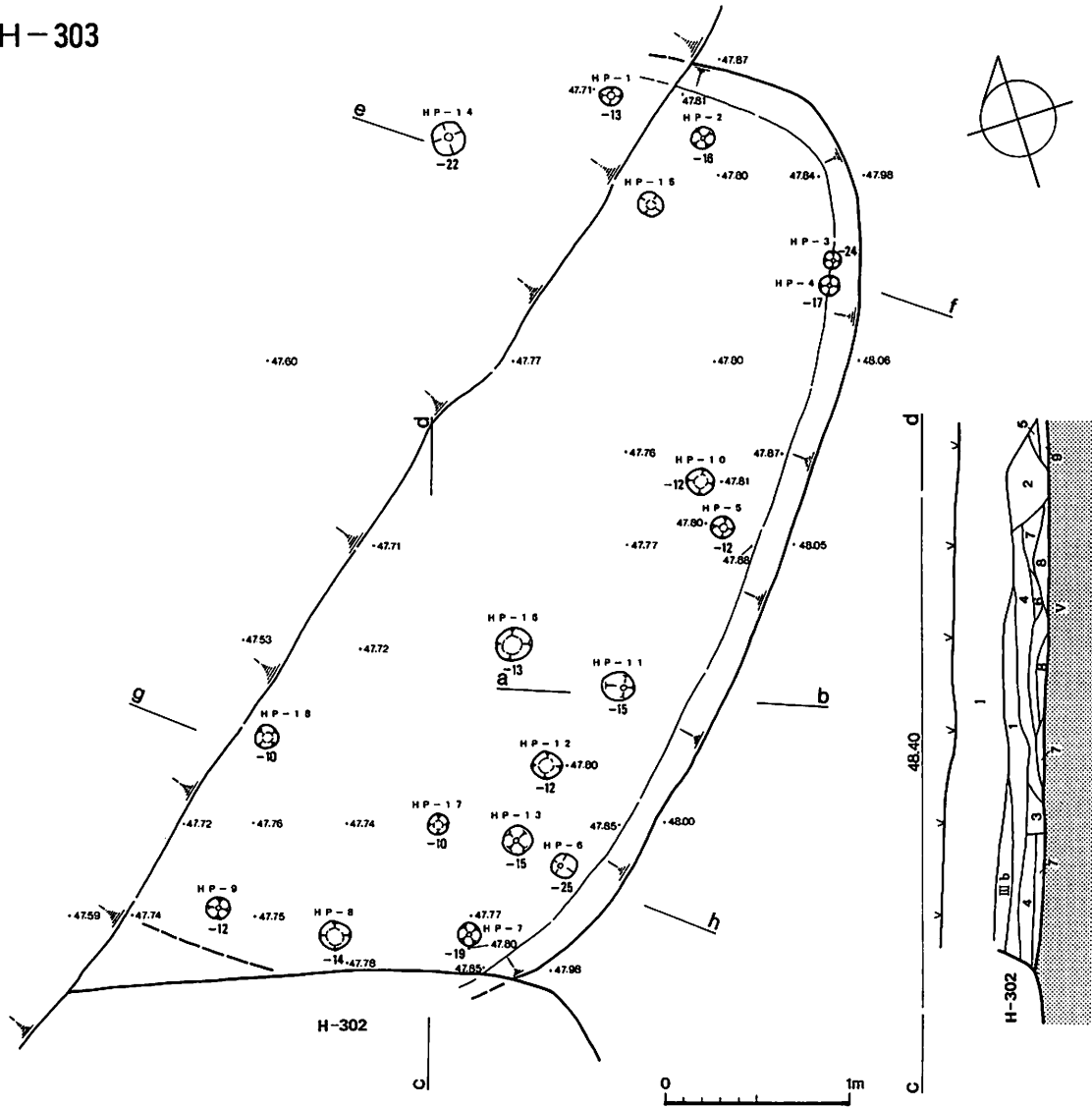
炉跡：焼土などは検出されていない。

付属ピット：柱穴状小ピットは18個検出されている。HP-1～13は壁際をめぐるもので、直立している。HP-14～18は支柱穴と思われる。

遺物出土状況：覆土、床面付近から遺物は出土していない。

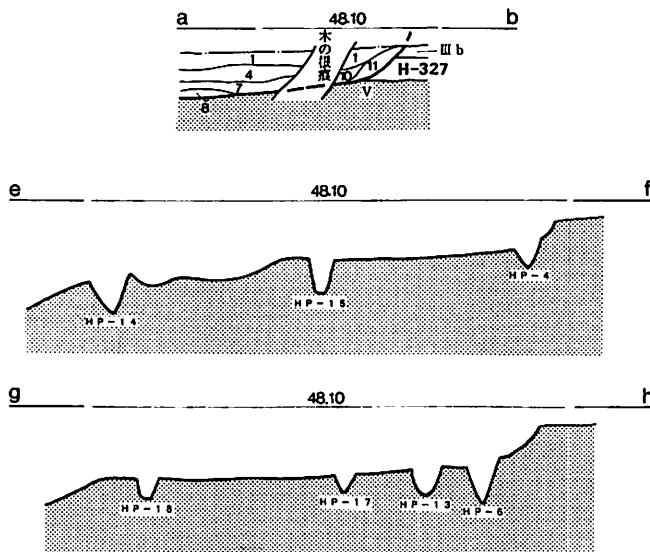
覆土はⅢb層と黄色土がまじり合った土である。ただ覆土中層は、全体に砂質で、軽石、小石などが混入し、汚れた混合土である(和泉田)。

H-303



H-303の土層

1. III b > V
2. 黒褐色土 > V (砂質)
3. 茶褐色土 (粘質)
4. ① + V (軽石、小石を多量に含む)
5. III b + V (褐黄色土)
6. ④ + ⑦ (砂質)
7. ④ + ⑧ (砂質)
8. 灰褐色土 (砂質)
9. 暗黄色土 (粘質)
10. 黒茶色土 (粘質)
11. 暗黄褐色土



図Ⅲ-254 H-303実測図

H-304 (図Ⅲ-255 図版73-3 図版74-1)

位置：55-66 標高48.08m～48.15mの平坦地であるが、北西側の大半は、沢地形によって崩落、削平されている。

規模・床面積・平面形・長軸方向：不明

検出・掘り込み面：Ⅳ層直上で黒味のある暗褐色土の広がりが見られ、Ⅲb＞黄色土の落ち込みを検出した。掘り込み面はⅢb層中と思われるが、明瞭でない。 重複関係：H-303・327と重複しており、H-303より古いが、H-327より新しい住居跡である。

時期：不明

床面：Ⅴ層中に構築されている。東→西へ若干傾斜している。平坦で、堅い。

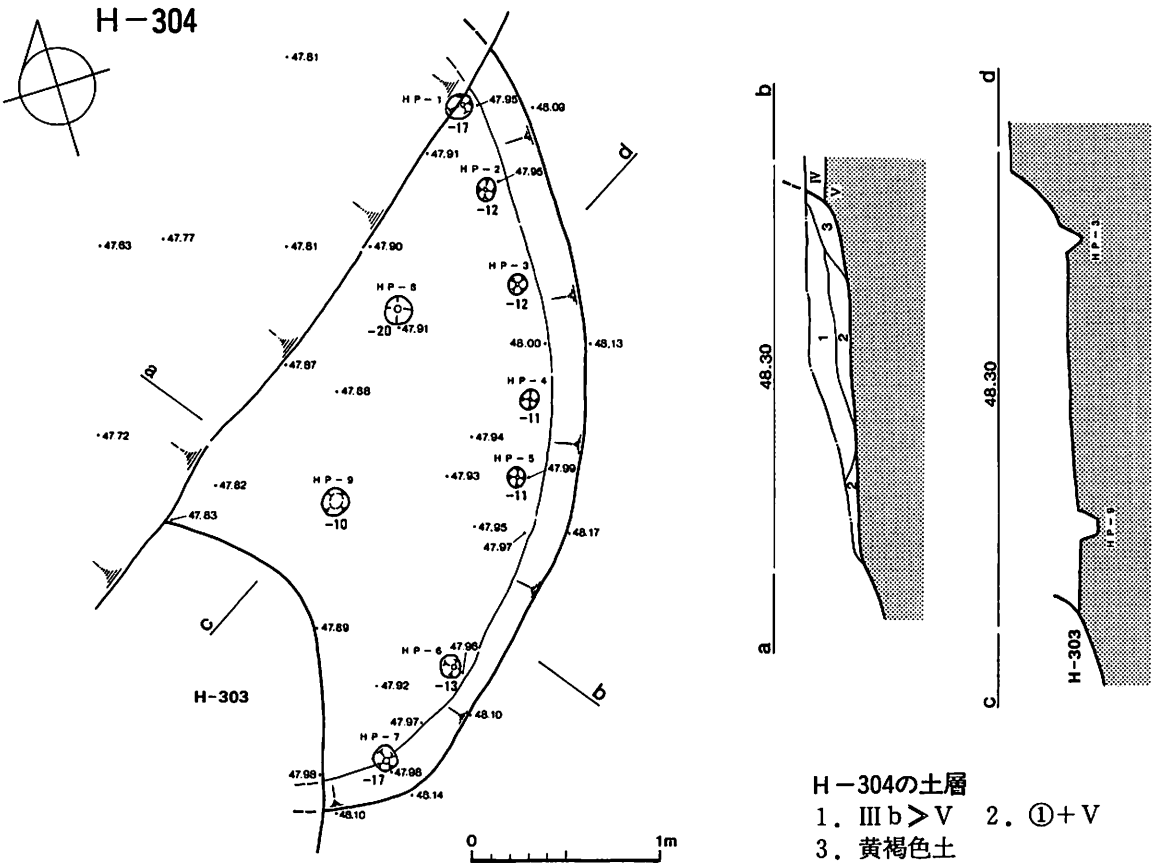
壁：残存部分の立ち上がりはゆるやかな傾斜である。検出面からの壁高は、12cm～17cmである。

炉跡：焼土などは検出されていない。

付属ピット：柱穴状小ピットは8個検出されている。HP-1～7は壁際にあり、杭状で直立している。

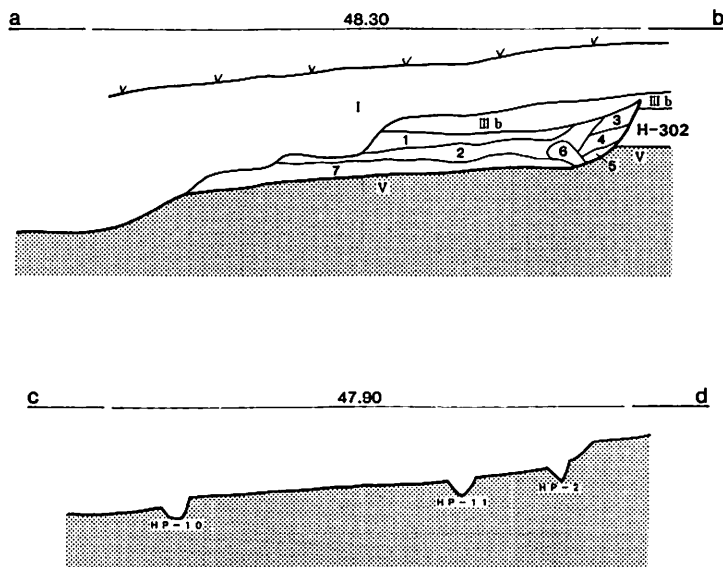
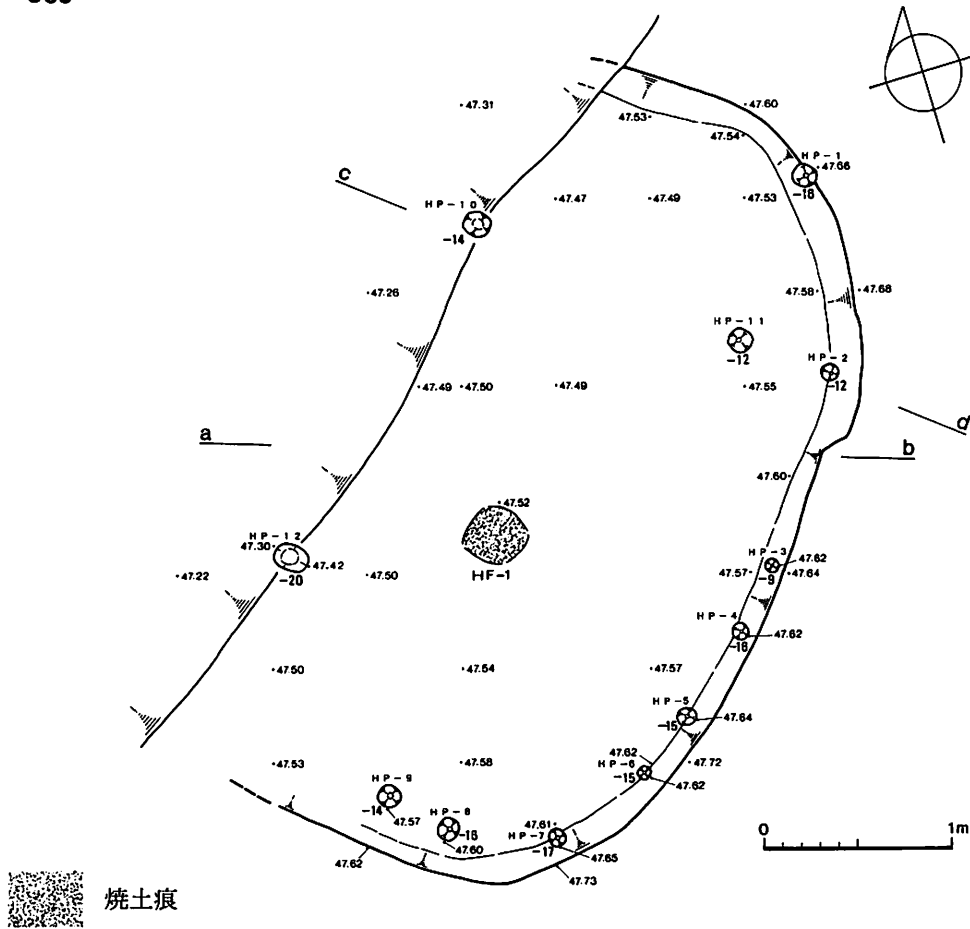
遺物出土状況：覆土、床面付近から遺物は出土していない。

覆土はⅢb層と黄色土がまじり合った土であるが、全体に砂質で、軽石、小石などが混入している(和泉田)。



図Ⅲ-255 H-304実測図

H-305



H-305の土層

1. III b > V 2. ①+⑦ 3. III b > V 4. ③+⑤ 5. 暗黄色土(砂質) 6. III b > V(ブロック状) 7. 暗黄灰色土(粘質)

図Ⅲ-256 H-305実測図

H-305 (図Ⅲ-256 図版74-2・3)

位置：54-64・65 標高47.55m～47.73mのほぼ平坦地。北西側は沢地形によって崩落、削平されている。

規模：4.35m／4.08m×——／——×0.30m 床面積：(10.68㎡) 平面形：隅丸長方形か？  
長軸方向：N-46°-E

検出・掘り込み面：H-302の床面西側でⅢb + 暗黄灰色土(粘質)の落ち込みを検出した。掘り込み面はⅢb層中と思われる。 重複関係：H-302と重複しており、これより新しい住居跡である。

時期：不明

床面：V層中に構築されている。南→北へ若干傾斜している。やや凹凸があり、軟質である。

壁：残存部分の立ち上がりはゆるやかな傾斜である。検出面からの壁高は、北東壁が6cm～10cm、南東壁が5cm～13cm、南西壁が5cm～13cmである。

炉跡：床面中央部やや南寄り、0.30m×0.30mの広がりをもつ、火を受けた跡と思われる部分が検出されている。

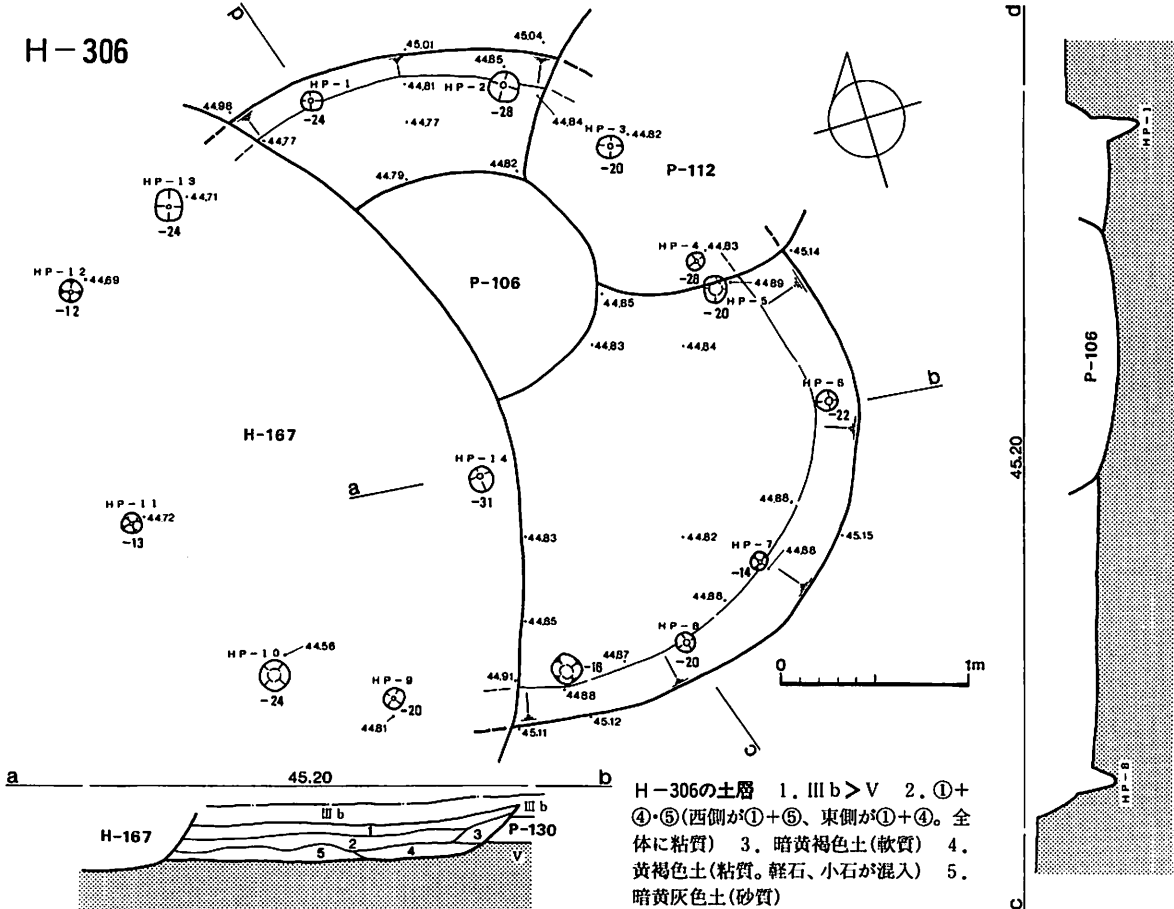
付属ピット：柱穴状小ピットは12個検出されている。HP-1～9は壁際をめぐるもので、杭状で、直立している。HP-10～12は主柱穴と考えられ、4本柱が想定される。

遺物出土状況：覆土、床面付近から遺物は出土していない。

覆土はⅢb層と黄色土がまじり合った土である(和泉田)。

H-306 (図Ⅲ-257 図版74-4 図版75-1)

位置：39-43 標高44.98m～45.17mのほぼ平坦地。



図Ⅲ-257 H-306実測図

規模・床面積・平面形・長軸方向：不明

検出・掘り込み：H-167の北東壁面で覆土状の土の落ち込みが見られ、IV層直上でⅢb黄色土の落ち込みを検出した。掘り込み面はⅢb層中と思われる。重複関係：P-106・112・130・137、H-167・322・335と重複しており、P-106・112、H-167より古く、他より新しい住居跡である。

時期：I群D1類土器を伴う縄文時代早期中葉の時期のものと思われる。

床面：V層中に構築されている。平坦で、堅い。

壁：立ち上がりは急傾斜である。検出面からの壁高は、北壁が22cm前後、東壁が25cm～30cm、南壁が20cm～27cmである。

炉跡：焼土などは検出されていない。

付属ピット：柱穴状小ピットは14個検出されている。HP-1～13は壁際をめぐるもので、直立している。HP-14は支柱穴と思われる。

遺物出土状況：遺物は覆土1層でI群D1類土器が2点出土している。

覆土はⅢb層と黄色土がまじり合った土である。壁側の覆土下層には軽石などが混入している。

柱穴状小ピットの配列などから、4.40m×3.70m、長軸方向N-50°-W、平面形が楕円形状の住居跡が想定される(和泉田)。

H-307 (図Ⅲ-258 図版75-2・3)

位置：35-41・42 36-41・42 標高44.58m～44.71mのほぼ平坦地。

規模・床面積・平面形・長軸方向：不明

検出・掘り込み面：IV層直上で黒味のある暗褐色土の広がりが見られ、Ⅲb黄色土の落ち込みを検出した。掘り込み面はⅢb層中と思われる。重複関係：H-177・311・342と重複しており、H-177より古く、H-342より新しいが、H-311との新旧関係は不明である。

時期：周辺包含層出土の遺物などから、縄文時代早期中葉の時期のものと思われる。

床面：V層中に構築されている。東→西へ若干傾斜している。ほぼ平坦で、軟質。

壁：立ち上がりはやや急傾斜である。検出面からの壁高は、21cm前後である。

炉跡：焼土などは検出されていない。

付属ピット：柱穴状小ピットは8個検出されている。HP-1～7は壁際をめぐるもので、杭状で、直立している。

遺物出土状況：遺物は壁で剥片が1点出土しただけである。

覆土はⅢb層と黄色土がまじり合った土である。覆土中・下層は砂質土で、軽石、小石などが混入し、汚れた土で、不安定な堆積状態である(和泉田)。

H-311 (図Ⅲ-258 図版75-2・3)

位置：35-41 36-42

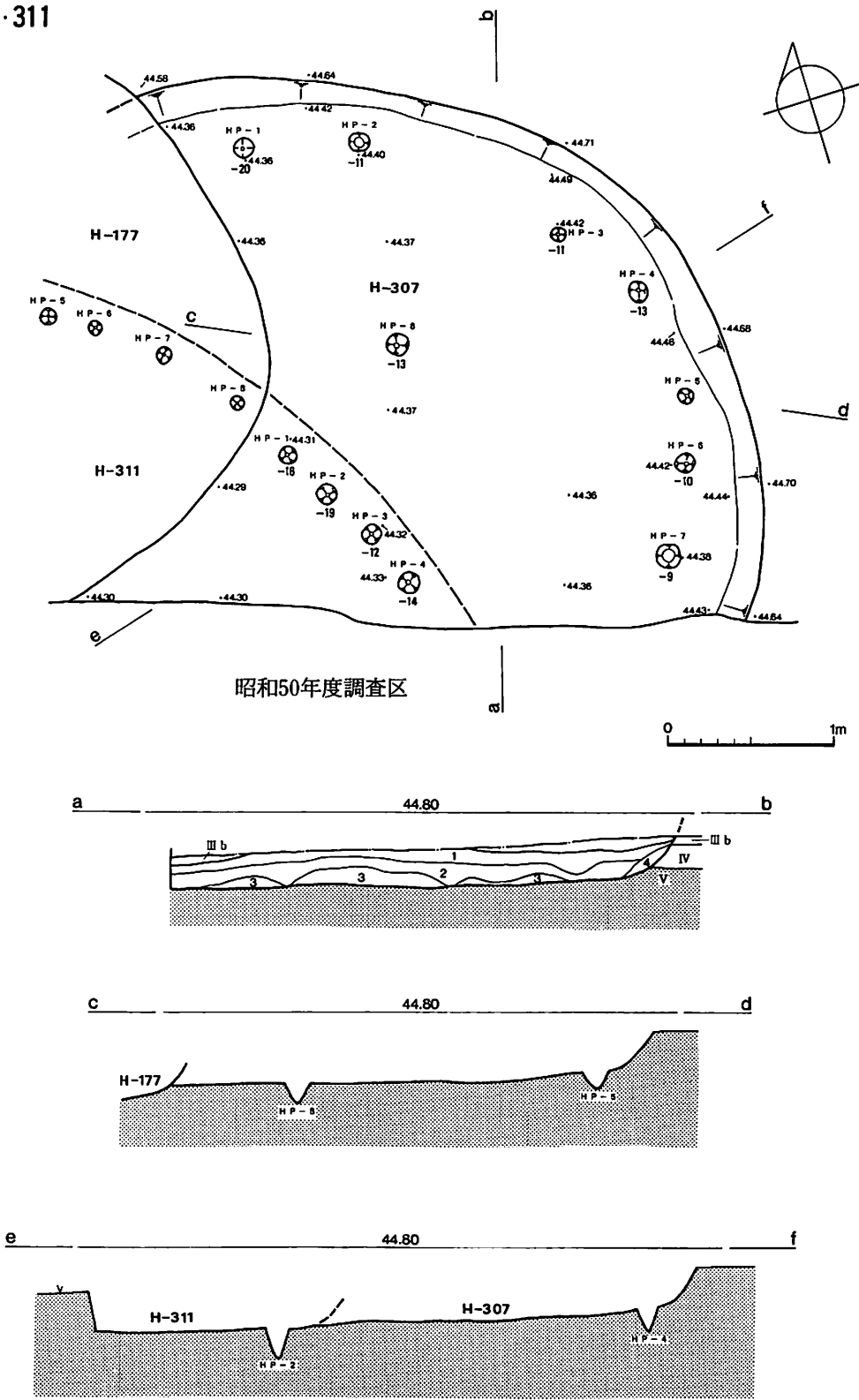
規模・床面積・平面形・長軸方向：不明

検出・掘り込み面：H-307の床面上で弧状に並ぶ柱穴状小ピットが検出されたことから、H-307とは別遺構とした。

重複関係：H-176・177と重複しており、これらより古い住居跡である。なおH-307とH-311との新旧関係は不明である。

時期：周辺包含層出土の遺物などから、縄文時代早期中葉の時期のものと思われる。

H-307・311



H-307の土層  
1. Ⅲ b>V(軽石混入) 2. ①+③(砂質。軽石、小石混入) 3. 暗灰黄色土(砂質) 4. 暗黄灰色土(砂質)

図Ⅲ-258 H-307・311実測図



床面：V層中に構築されている。ほぼ平坦で、軟質。

壁：不明

炉跡：焼土などは検出されていない。

付属ピット：柱穴状小ピットは8個検出されている。これらは壁際をめぐるものと思われ、全体に浅く、杭状で直立している。ただHP-5～8はH-177の構築面で検出されたもので、径5cm～10cmの浅い小ピットである。

遺物出土状況：覆土、床面付近から覆物は出土していない。

覆土は不明である(和泉田)。

H-308 (図III-260 図版76-1)

位置：37-43 38-42・43・44 標高44.86m～44.93mの平坦地。

規模・床面積・平面形・長軸方向：不明

検出・掘り込み面：H-165の東壁面、H-174の西壁面、H-167の北壁面で覆土状の土の落ち込みが確認された。IV層直上で黒味のある暗褐色土の広がりが見られ、III b > 黄色土の落ち込みを検出した。掘り込み面はIII b 層中と思われる。重複関係：P-107・108・109・111、H-165・167・174・206・322・343と重複しており、P-107・108・109・111、H-165・167・174より古く、他より新しい住居跡である。

時期：周辺包含層出土の遺物などから、縄文時代早期中葉の時期のものと思われる。

床面：V層中に構築されており、ほぼ平坦である。

壁：残存部分の立ち上がりは急傾斜である。検出面からの壁高は、北壁が17cm～21cm、西壁が13cm～21cmである。

炉跡：焼土などは検出されていない。

付属ピット：柱穴状小ピットは21個検出されている。HP-1～14は壁をめぐるもので、直立している。HP-9～14はH-167の構築面で検出されたものである。HP-15～21は支柱穴と考えられ、8本柱が想定される。

遺物出土状況：遺物は覆土1層でI群土器が2点、礫が3点出土しただけである。

覆土はIII b 層と黄色土がまじり合った土である。覆土は全体に砂質土で、軽石、小石などが多く混入している。

柱穴状小ピットの配列などから、7.20m×5.20m、長軸方向N-25°-W、平面形が隅丸長方形の住居跡が想定される(和泉田)。



覆土1層



土器 (図III-259 図版182-4)

1は覆土1層から出土した無文小破片である。I群と思われるが細分類の判別はできない(森)。

図III-259

H-308出土土器

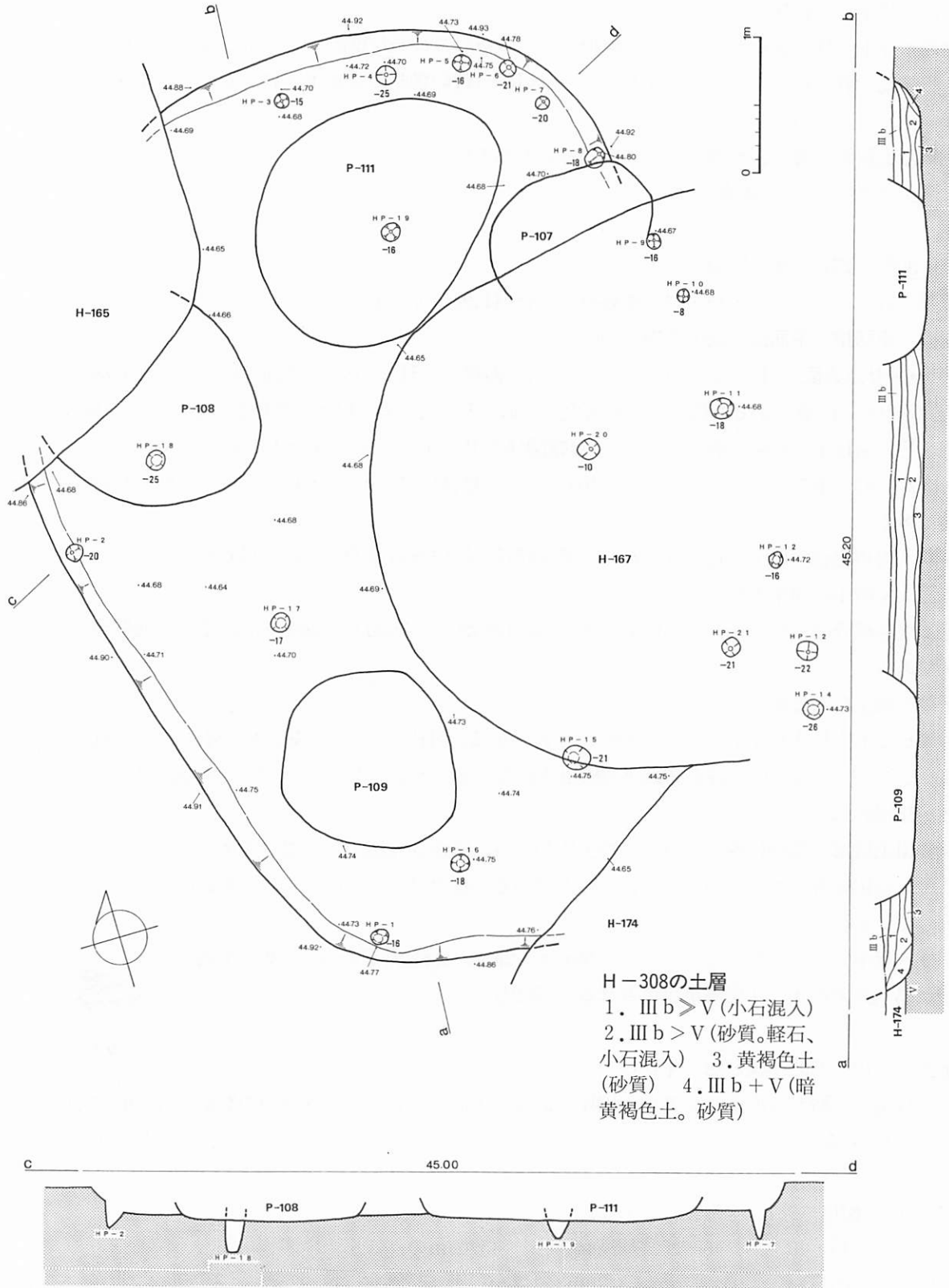
H-309 (図III-261 図版76-2・3)

位置：37-45・46 38-45・46 標高44.84m～45.00mのほぼ平坦地。

規模：(5.00m)／——×3.45m／3.20m×0.22m 床面積：(13.93m<sup>2</sup>) 平面形：隅丸長方形  
長軸方向：N-75°-E

検出・掘り込み面：H-237の東北壁面、H-168の東壁面、T-37の壁面で覆土状の土の落ち込みが

H-308



図Ⅲ-260 H-308実測図



確認された。Ⅳ層直上で黒味のある暗褐色土の広がりが見られ、Ⅲb＞黄色土の落ち込みを検出した。掘り込み面はⅢb層中と思われる。重複関係：T-37、H-168・187・237と重複しており、これより古い住居跡である。

時期：周辺包含層出土の遺物などから、縄文時代早期中葉の時期のものと思われる。

床面：Ⅴ層中に構築されている。東→西へ若干傾斜している。ほぼ平坦で堅い。

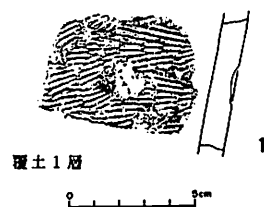
壁：立ち上がりは急傾斜である。検出面からの壁高は北壁が13cm前後、東壁が15cm前後、南壁が14cm～18cmである。

炉跡：焼土などは検出されていない。

付属ピット：柱穴状小ピットは11個検出されている。HP-1～6は壁際をめぐるもので、直立している。HP-7～11は主柱穴と考えられる。6本柱が想定される。

遺物出土状況：遺物は覆土1層からⅠ群D2類土器が3点出土している。

覆土はⅢb層と黄色土がまじり合った土である(和泉田)。



図Ⅲ-262  
H-309出土土器

土器(図Ⅲ-262 図版182-5)

1は覆土1層から出土した体部破片で、Ⅰ群D2類土器である(森)。

H-310(図Ⅲ-264 図版77-1)

位置：44-45・46 45-45 標高45.53m～45.68mの平坦地。

規模：4.00m/3.60m×3.90m/3.67m×0.25m 床面積：10.39㎡ 平面形：ほぼ円形状

検出・掘り込み面：Ⅲb層中でⅢa層の広がりが見られ、Ⅳ層直上でⅢb＞黄色土の落ち込みを検出した。掘り込み面はⅢb層中と思われる。重複関係：H-189・295・319と重複しており、H-189より古く、H-295・319より新しい住居跡である。

時期：周辺包含層出土の遺物などから、縄文時代早期中葉の時期のものと思われる。

床面：Ⅴ層中に構築されている。ほぼ平坦で、やや軟質である。

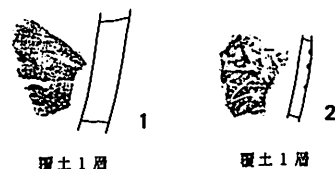
壁：立ち上がりはほぼ急傾斜である。検出面からの壁高は、北壁が14cm～19cm、東壁が14cm～19cm、南壁が16cm～20cm、西壁が11cm～17cmである。

炉跡：焼土などは検出されていない。

付属ピット：柱穴状小ピットは21個検出されている。HP-1～16・20・21は壁際をめぐるもので、杭状で、直立している。HP-20・21はH-189の構築面で検出されたものである。HP-17～19は主柱穴と考えられ、4本柱が想定される。

遺物出土状況：遺物は覆土1層からⅠ群D1類土器2点、同E類土器3点出土しただけである。

覆土はⅢb層と黄色土がまじり合った土である。壁際の覆土下層は軽石を多く混入する掘り揚げ土状の流入土である(和泉田)。

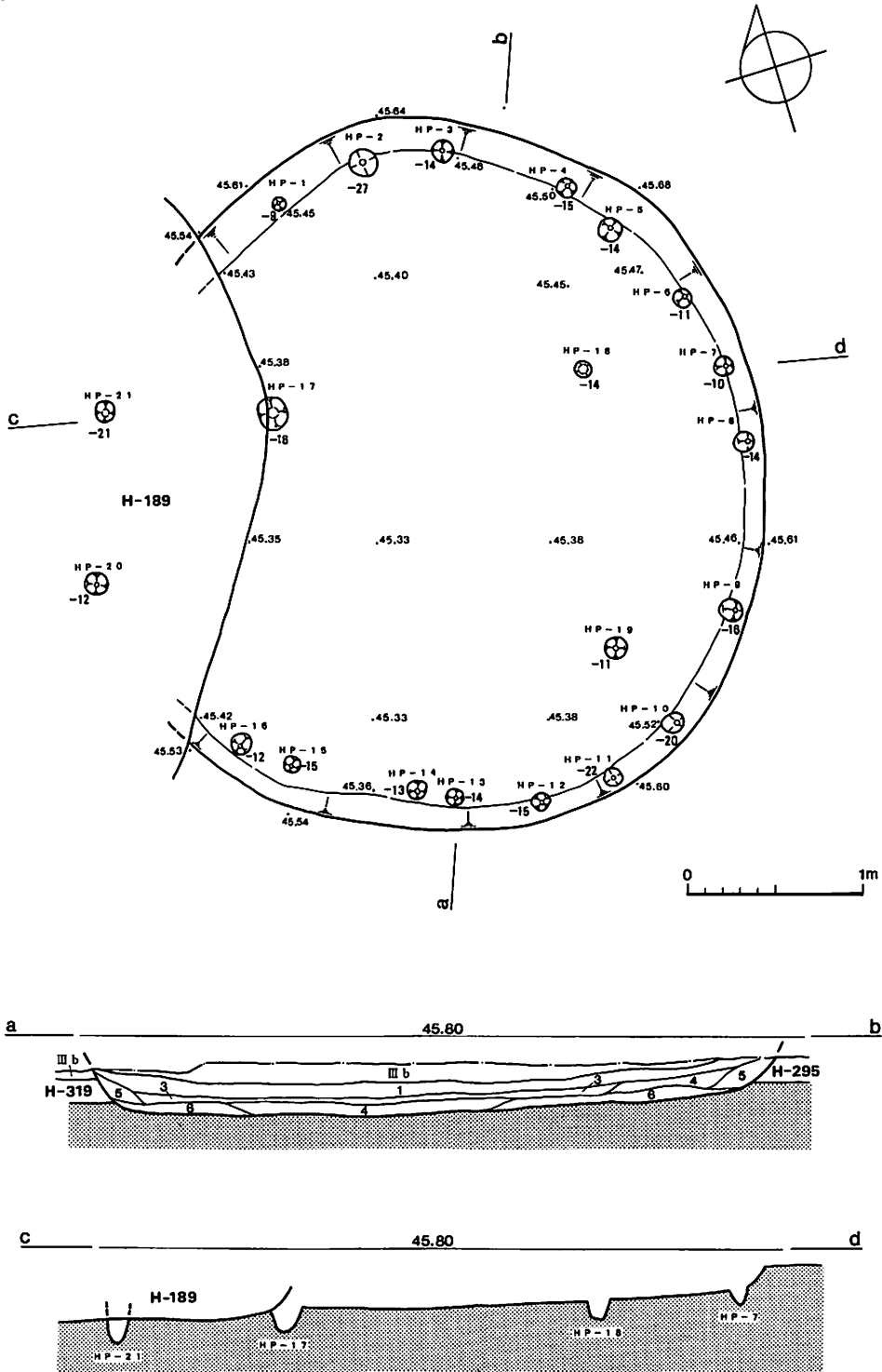


図Ⅲ-263  
H-310出土土器

土器(図Ⅲ-263 図版182-6)

いずれも覆土1層から出土した体部破片で、1はⅠ群D1類、2はⅠ群E類土器である(森)。

H-310



H-310の土層

1. Ⅲb>V 2. ①+④ 3. ②に軽石が混入している。 4. 暗黄色土(粘質) 5. 暗黄灰色土 6. ④に軽石が混入(砂質)

図Ⅲ-264 H-310実測図

H-312 (図Ⅲ-266 図版76-4 図版77-2)

位置: 55-67・68 56-67 南東→北西へゆるやかに傾斜する標高47.86m~48.11mの緩斜面。北西側は耕作により深く削平されている。

規模・床面積・平面形・長軸方向: 不明

検出・掘り込み面: Ⅲb層中でP.D.3、Ⅲa層の広がりが見られ、Ⅲb>黄色土の落ち込みを検出した。掘り込み面はⅢb層中と思われる。重複関係: P-121・124、H-314・323と重複しており、P-121・124より古く、H-314・323より新しい住居跡である。

時期: 不明

床面: V層中に構築されている。南東→北西へ傾斜している。ほぼ平坦で、やや軟質。

壁: 残存部分の立ち上がりは急傾斜である。検出面からの壁高は、11cm~20cmである。

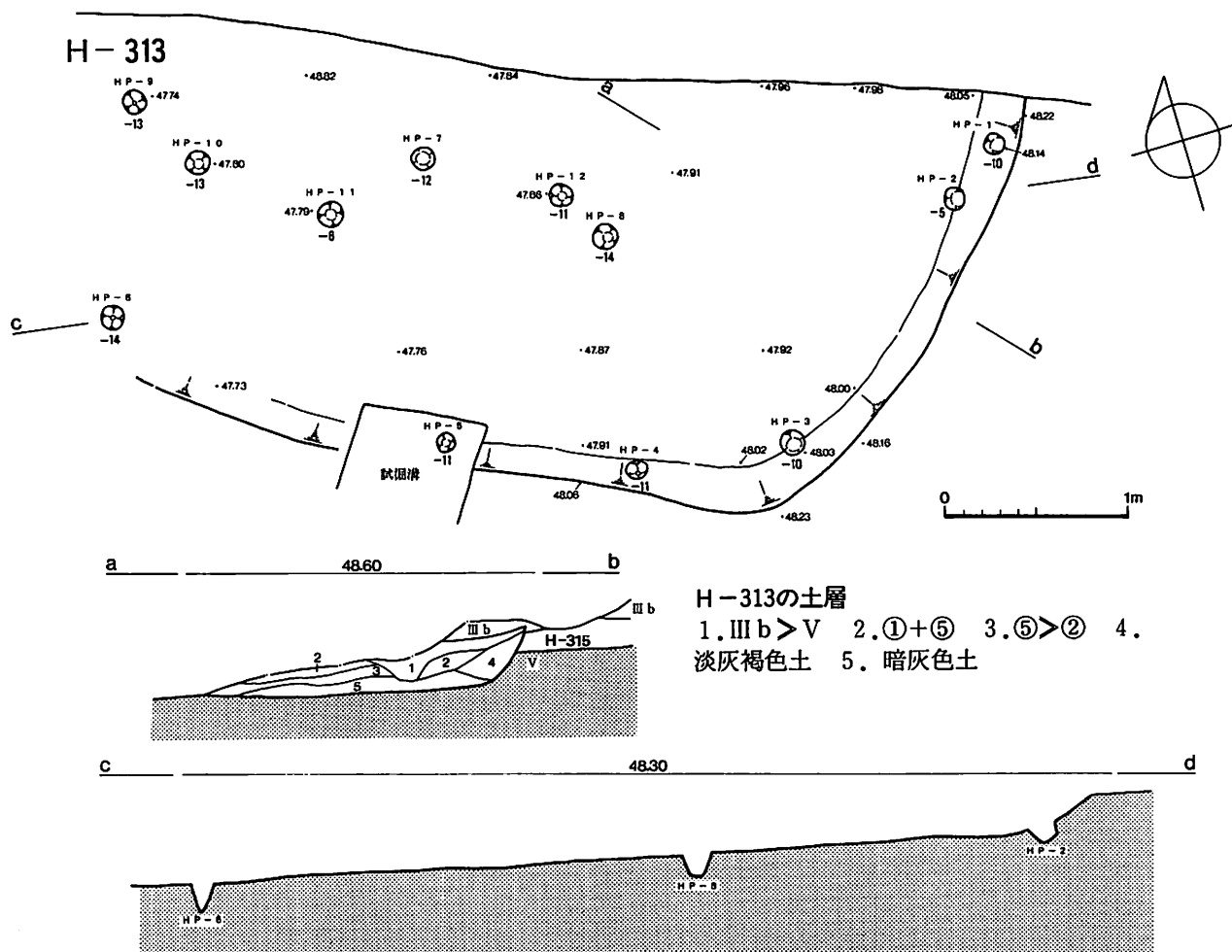
炉跡: 焼土などは検出されていない。

付属ピット: 柱穴状小ピットは16個検出されている。HP-1~10は壁際をめぐるものであるが、HP-1~7はほぼ壁面にあり、やや内傾している。HP-11~16は主柱穴と考えられる。6本柱か?

遺物出土状況: 覆土、床面付近から遺物は出土していない。

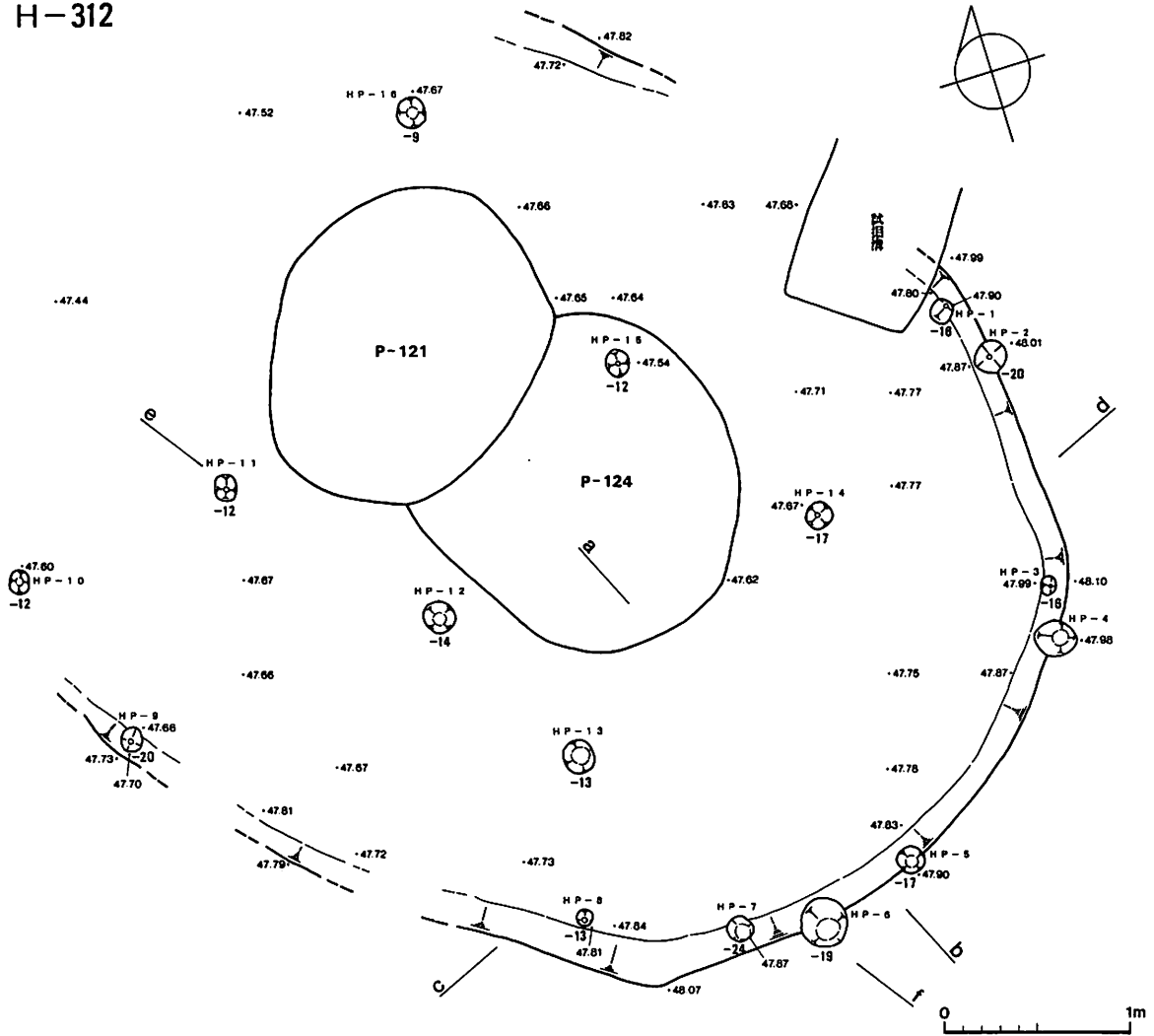
覆土はⅢb層と黄色土がまじり合った土であるが、Ⅲa・Ⅲb層が深く落ち込み、粘質の黒色土がⅢb層の下に厚く堆積していた。

柱穴状小ピットの配列などから、6.40m×4.70m、長軸方向N-32°-W、平面形が隅丸長方形の住居跡が想定される(和泉田)。

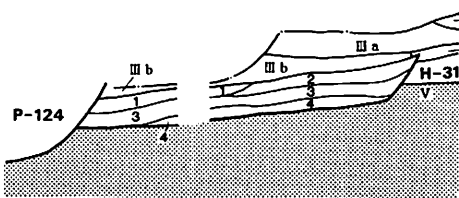


図Ⅲ-265 H-313実測図

H-312



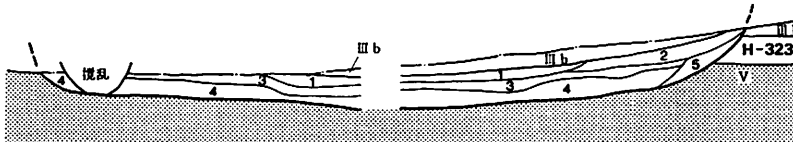
a 48.40 b



H-312の土層

1. 黒色土(粘質) 2. III b > V 3. ②+  
④ 4. V > III b (粘質) 5. 暗黄褐色土

c 48.30 d



e 48.00 f



図Ⅲ-266 H-312実測図



H-313 (図Ⅲ-265 図版78-1・2)

位置：55-68 56-67・68 東→西へ傾斜する標高48.06m～48.23mの緩斜面。

規模・床面積・平面形・長軸方向：不明

検出・掘り込み面：H-315の覆土上層中でⅢb層の落ち込みを検出した。掘り込み面はⅢb層中と思われる。重複関係：H-315・323と重複しており、これらより新しい住居跡である。

時期：不明

床面：Ⅴ層中に構築されている。東→西へ傾斜し、ほぼ平坦であるが、軟質である。

壁：残存部分の立ち上がりはやや急傾斜である。検出面からの壁高は、10cm～21cmである。

炉跡：焼土などは検出されていない。

付属ピット：柱穴状小ピットは12個検出されている。HP-1～6は壁際をめぐるもので、HP-1～4はやや内傾している。HP-7・8は主柱穴と思われる。HP-9～12は弧状に並んでおり、他遺構の柱穴状小ピットかとも思われる。

遺物出土状況：覆土、床面付近から遺物は出土していない。

覆土はⅢb層と黄色土がまじり合った土であるが、覆土中・下層は、全体に粘質で、軽石もまじり汚れた混合土である(和泉田)。

H-314 (図Ⅲ-267 図版78-3 図版79-1)

位置：55-66・67 56-66・67 標高48.08m～48.25mのほぼ平坦地。

規模：(4.20m)／——×3.60m／3.27m×0.32m 床面積：(10.00m<sup>2</sup>) 平面形：楕円形状

長軸方向：N-8°-W

検出・掘り込み面：Ⅲb層中でP.D.3、Ⅲa層の広がりが見られ、遺構が想定された。Ⅳ層直上でⅢb>黄色土の落ち込みを検出した。掘り込み面はⅢb層中と思われる。

重複関係：H-312・316・323と重複しており、H-312より古く、他より新しい住居跡である。

時期：不明

床面：Ⅴ層中に構築されている。南東→北西へ若干傾斜しており、中央部が少しくぼんでいる。軟質。

壁：立ち上がりは急傾斜である。検出面からの壁高は、北東壁が10cm～15cm、南東壁が13cm～22cm、南西壁が8cm～15cmである。

炉跡：焼土などは検出されていない。

付属ピット：柱穴状小ピットは10個検出されている。HP-1～9は壁際をめぐるもので、杭状で直立している。HP-10は主柱穴と思われる。

遺物出土状況：覆土、床面付近から遺物は出土していない。

覆土はⅢb層と黄色土がまじり合った土であるが、Ⅲa・Ⅲb層が厚く、深く堆積している。全体に粘質土である(和泉田)。

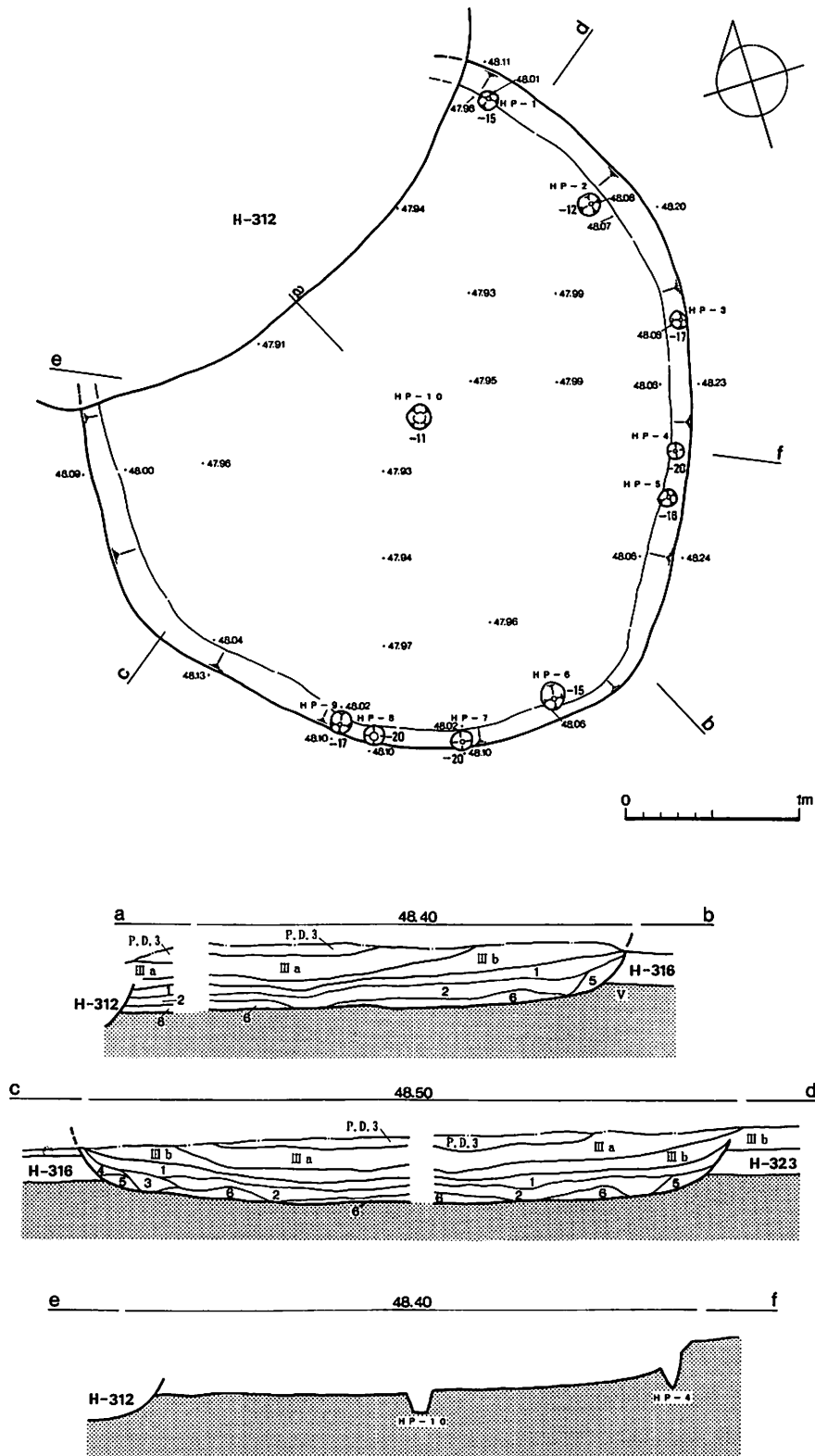
H-315 (図Ⅲ-268 図版79-2・3)

位置：56-67・68 57-67・68 東→西へゆるやかに傾斜する標高48.23m～48.53mの緩斜面。

規模・床面積・平面形・長軸方向：不明

検出・掘り込み面：Ⅳ層直上でⅢa層、Ⅲb>黄色土の落ち込みを検出した。掘り込み面はⅢb層中と思われる。重複関係：H-313・323・324と重複しており、H-313より古く、他より新しい住居跡である。

H-314



H-314の土層

1. III b > V 2. ①+⑥ 3. 暗灰褐色土 4. III b > V 5.  
暗褐色土(粘質) 6. 暗黄色土(> III b)

図Ⅲ-267 H-314実測図

時期：不明

床面：Ⅴ層中に構築されている。東→西へゆるやかに傾斜している。ほぼ平坦で、堅い。

壁：残存部分の立ち上がりは急傾斜である。検出面からの壁高は、16cm～21cmである。

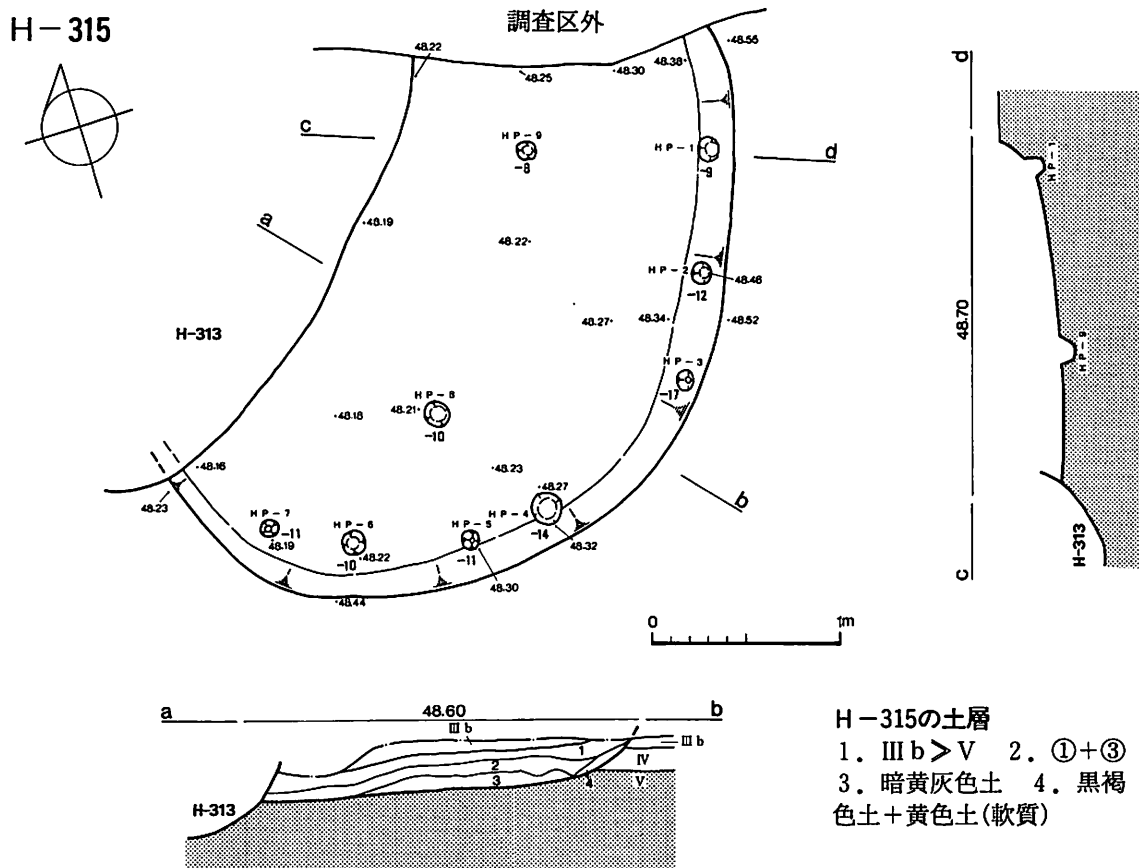
炉跡：焼土などは検出されていない。

付属ピット：柱穴状小ピットは9個検出されている。HP-1～7は壁際をめぐるもので、HP-1～3は壁面にあり、若干内傾している。他は直立している。HP-8・9は主柱穴と思われる。

遺物出土状況：覆土、床面付近から遺物は出土していない。

覆土はⅢbと黄色土がまじり合った土である。東壁側の覆土下層には、黄色土、軽石などが混入し、汚れた混合土が見られた。

柱穴状小ピットの配列などから、3.60m×3.00m、長軸方向N-30°-E、平面形が隅丸長方形の住居跡が想定される(和泉田)。



図Ⅲ-268 H-315実測図

H-316 (図Ⅲ-269 図版79-4)

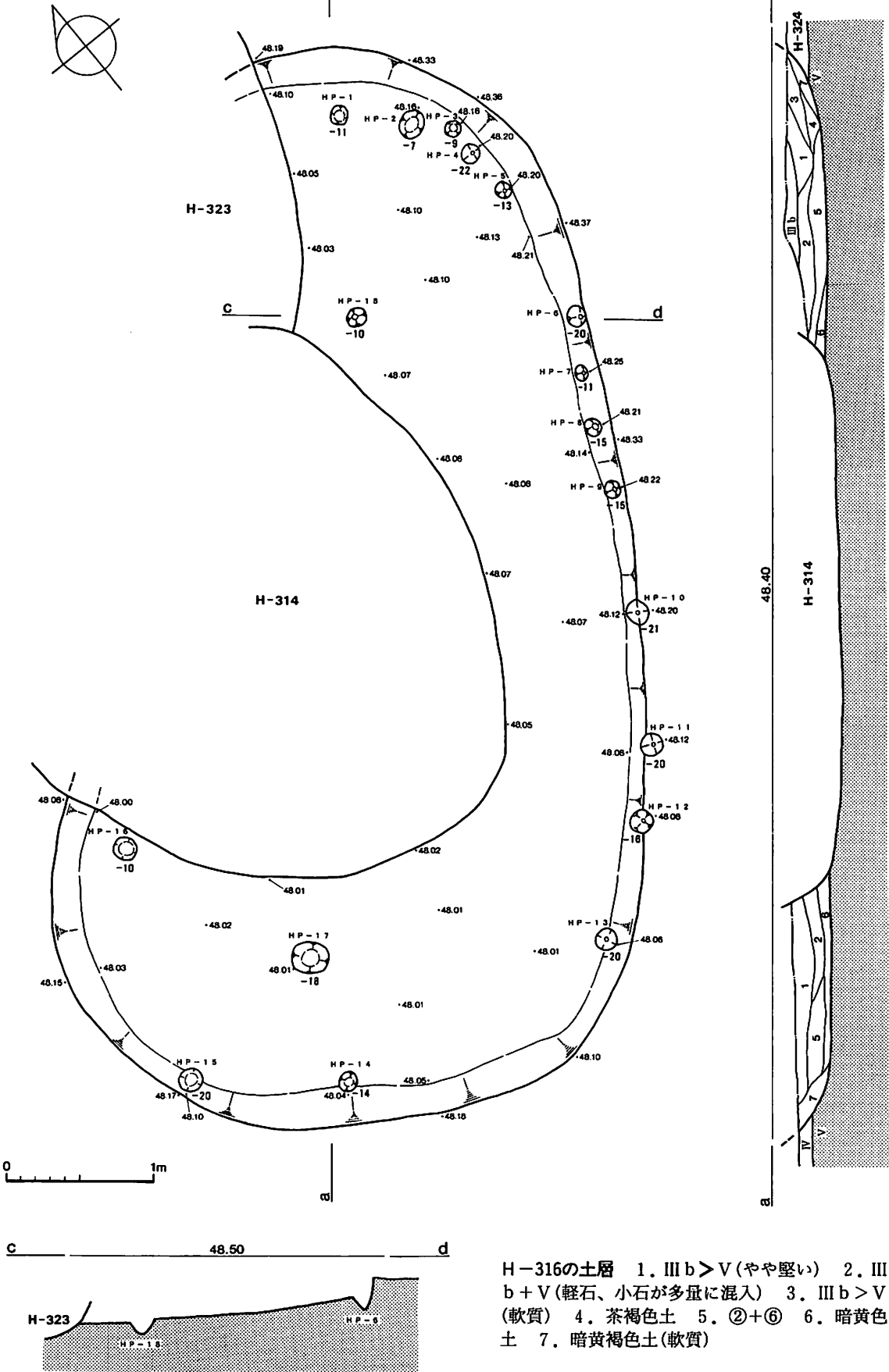
位置：55-66 56-66・67 東→西へゆるやかに傾斜する標高48.10m～48.37mの緩斜面。

規模：7.30m/6.80m×(4.05m)/—×0.22m 床面積：(21.21m<sup>2</sup>) 平面形：隅丸長方形か？ 長軸方向：N-40°-E

検出・掘り込み面：Ⅳ層直上でⅢa層、Ⅲb>黄色土の落ち込みを検出した。掘り込み面はⅢb層中と思われる。重複関係：H-312・314・323・324・345と重複しており、H-324・345より新しく、他より古い。

時期：不明

H-316



図Ⅲ-269 H-316実測図

床面：V層中に構築されている。北東→南西へ若干傾斜している。ほぼ平坦で、やや軟質。

壁：立ち上がりはゆるやかな傾斜である。検出面からの壁高は、北東壁が9 cm～17cm、南東壁が8 cm～19cm、南西壁が6 cm～20cm、北西壁が8 cm～12cmである。

炉跡：焼土などは検出されていない。

付属ピット：柱穴状小ピットは18個検出されている。HP-1～15は壁際をめぐるものであるが、HP-6～12は壁面にあり、若干内傾している。HP-17・18は支柱穴と思われる。

遺物出土状況：覆土、床面付近から遺物は出土していない。

覆土はⅢb層と黄色土がまじり合った土であるが、覆土中～下層には軽石などが混入し、汚れた混合土である(和泉田)。

## H-317 (図III-270)

位置：39-44・45 標高45.04mの平坦地。

規模・床面積・平面形・長軸方向：不明

検出・掘り込み面：IV層直上でIII b＞黄色土の落ち込みを検出した。掘り込み面はIII b層中と思われる。

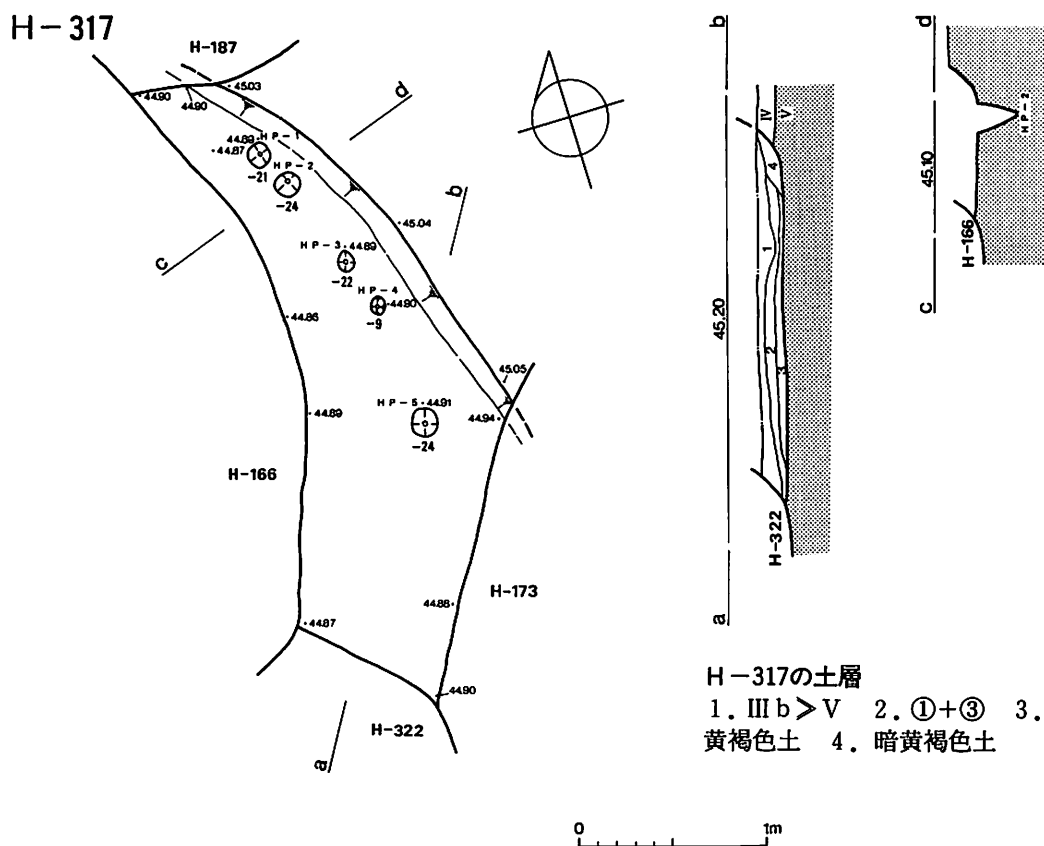
重複関係：H-166・173・187・322と重複しており、これらより古い住居跡である。

時期：周辺包含層出土の遺物などから、縄文時代早期中葉の時期のものと思われる。

床面：V層中に構築されている。平坦で、やや堅い。

壁：残存部分の立ち上がりは急傾斜である。検出面からの壁高は、11cm～14cmである。

炉跡：焼土などは検出されていない。



図III-270 H-317実測図

付属ピット：柱穴状小ピットは5個検出されている。HP-1～5は壁際をめぐるもので、杭状で、直立している。

遺物出土状況：覆土、床面付近から遺物は出土していない。

覆土はⅢb層と黄色土がまじり合った土である(和泉田)。

H-318 (図Ⅲ-271 図版79-5 図版80-1)

位置：35-43 36-43 標高44.65m前後の平坦地。

規模・床面積・平面形・長軸方向：不明

検出・掘り込み面：Ⅳ層直上でⅢb>黄色土の落ち込みを検出した。掘り込み面はⅢb層中と思われる。

重複関係：H-175・211・238と重複しており、これらより古い住居跡である。

時期：周辺包含層出土の遺物などから、縄文時代早期中葉の時期のものと思われる。

床面：Ⅴ層中に構築されている。南東→北西へ若干傾斜しており、平坦である。

壁：残存部分の立ち上がりはゆるやかな傾斜である。検出面からの壁高は、10cm前後である。

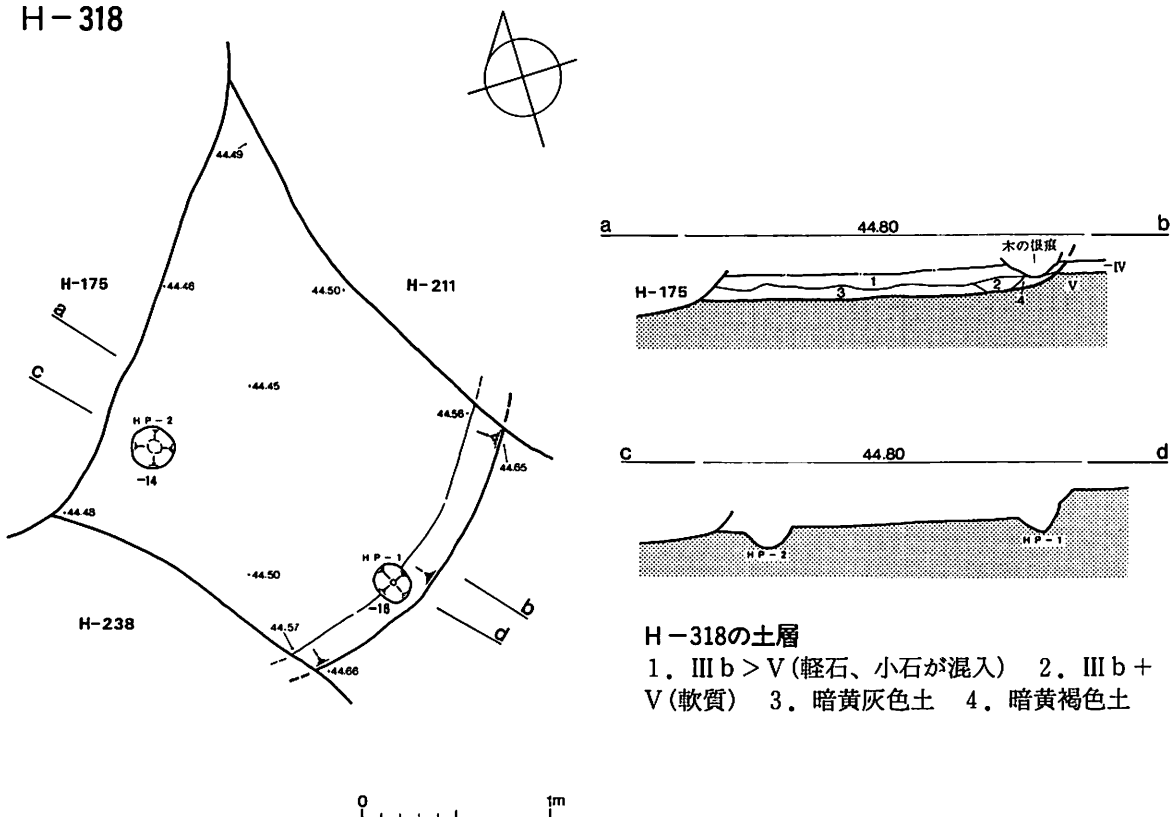
炉跡：焼土などは検出されていない。

付属ピット：柱穴状小ピットは2個検出されている。HP-1は壁際にあり、直立している。HP-2も直立している。

遺物出土状況：覆土、床面付近から遺物は出土していない。

覆土はⅢb層と黄色土がまじり合った土であるが、全体に軽石、小石が混入し、汚れた混合土である。堆積状態は不安定である(和泉田)。

## H-318

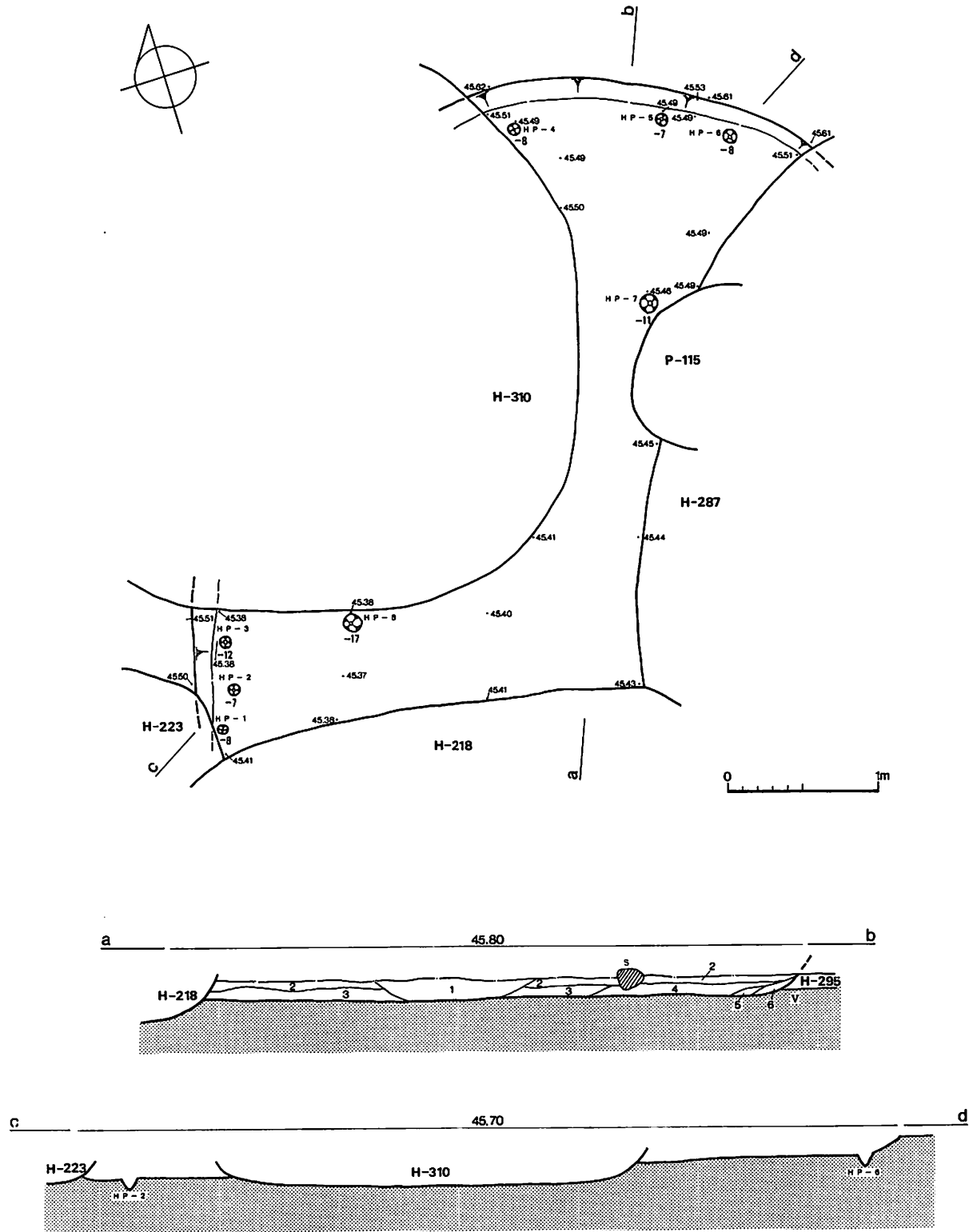


### H-318の土層

1. Ⅲb>Ⅴ(軽石、小石が混入) 2. Ⅲb+Ⅴ(軟質) 3. 暗黄灰色土 4. 暗黄褐色土

図Ⅲ-271 H-318実測図

H-319



H-319の土層  
1. 黒褐色土> V (軟質。軽石が多く混入) 2. III b > V (軟質。軽石が多く混入) 3. 暗黄灰色土(軽石が多く混入) 4. 暗黄灰色土(③より軽石の混入が少ない) 5. 暗黄灰色土 6. 黄褐色土

図Ⅲ-272 H-319実測図



H-319 (図Ⅲ-272 図版80-2・3)

位置：44-45 45-45 標高45.50m～45.61mのほぼ平坦地。

規模・床面積・平面形・長軸方向：不明

検出・掘り込み面：H-295の南側覆土中で軽石が混入した黒褐色土の落ち込みを検出した。また南西側ではIV層直上でIII b > 黄色土の落ち込みを検出した。掘り込み面はIII b 層中と思われる。重複

関係：P-115、H-218・223・261・287・295・310と重複しており、これらより古い住居跡である。

時期：周辺包含層出土の遺物などから、縄文時代早期中葉の時期のものと思われる。

床面：V層中に構築されている。北東→南西へ若干傾斜している。ほぼ平坦で、軟質。

壁：残存部分の立ち上がりはゆるやかな傾斜である。検出面からの壁高は、10cm～13cmである。

炉跡：焼土などは検出されていない。

付属ピット：柱穴状小ピットは8個検出されている。HP-1～6は壁際をめぐるものである。浅い杭状で、直立している。

遺物出土状況：覆土上のIII b 層で遺物は出土しているが、覆土、床面付近から出土していない。

覆土はIII b 層と黄色土がまじり合った土であるが、軽石、小石を多く混入し、軟質の黒褐色土も見られ、全体に堆積状態は不安定である(和泉田)。

H-320 (図Ⅲ-273 図版80-4)

位置：41-42 標高45.39m～45.43mの平坦地。

規模・床面積・平面形・長軸方向：不明

検出・掘り込み面：H-169の南東壁面で覆土状の土の落ち込みが見られ、IV層直上でIII b > 黄色土の落ち込みを検出した。掘り込み面はIII b 層中と思われる。重複関係：H-169・299・338と重複しており、H-338より新しく、H-169・229より古い住居跡である。

時期：周辺包含層出土の遺物などから、縄文時代早期中葉の時期のものと思われる。

床面：V層中に構築されている。平坦で、やや堅い。

壁：残存部分の立ち上がりは急傾斜である。検出面からの壁高は、北東壁が14cm～19cm、南西壁が17cm～20cmである。

炉跡：焼土などは検出されていない。

付属ピット：柱穴状小ピットは12個検出されている。HP-1～5は壁際をめぐるものである。HP-3は若干内傾しているが、HP-5は直立している。HP-6～11は壁際から40cm～50cm内側にあり、直立している。

遺物出土状況：覆土上のIII b 層で遺物は出土しているが、覆土、床面付近からは出土していない。ただHP-5の覆土中からすり石が1点出土した。

覆土はIII b 層と黄色土がまじり合った土である。覆土下層は粘質土であるが、他は砂質土である(和泉田)。

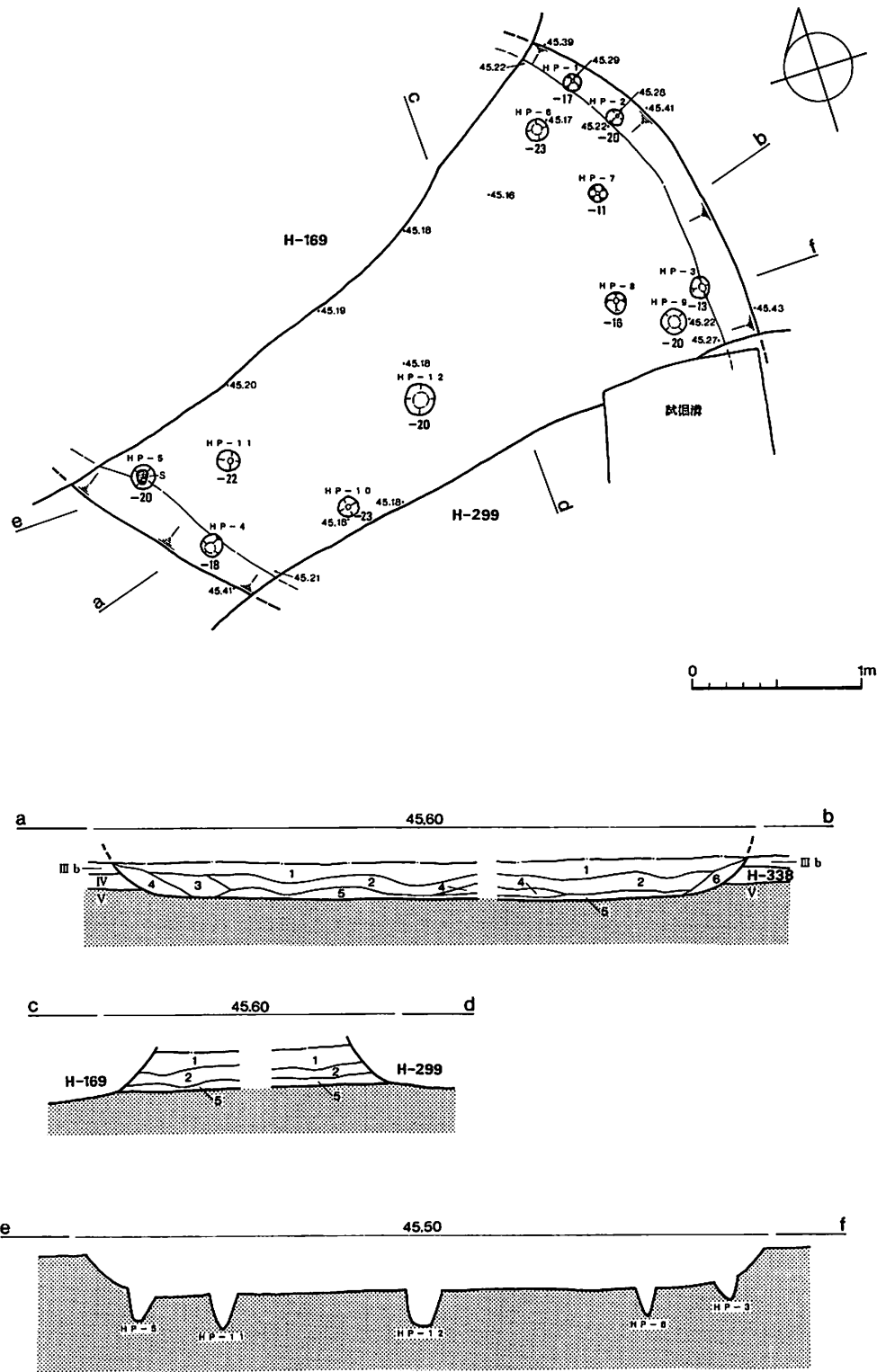
H-321 (図Ⅲ-274 図版81-1)

位置：41-45・46 標高45.26m前後の平坦地。

規模・床面積・平面形・長軸方向：不明

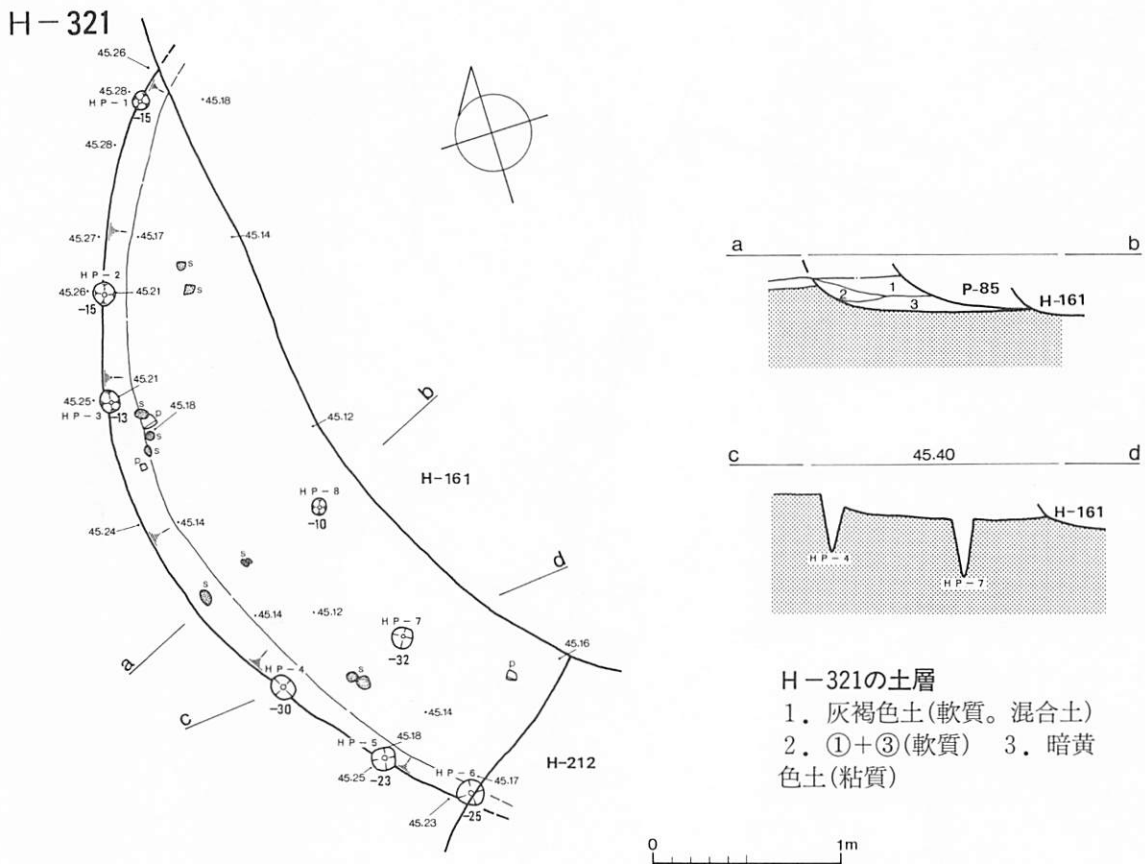
検出・掘り込み面：III b 層中で半円状に並んだ石錘が出土し、遺構が想定された。IV層中で半円状に広がる灰褐色土の落ち込みを検出した。掘り込み面はIII b 層中と思われる。重複関係：P-85、

H-320



H-320の土層  
1. III b>V 2. ①+④ 3. 暗茶褐色土(砂質) 4. 暗黄褐色土(砂質) 5. 暗灰黄色土(砂質) 6. 暗黄褐色土(やや粘質)

図Ⅲ-273 H-320実測図



図Ⅲ-274 H-321実測図

H-161・212と重複しており、これらより古い住居跡である。

時期：周辺包含層出土の遺物などから、縄文時代早期中葉の時期のものと思われる。

床面：V層中に構築されている。ほぼ平坦で、堅い。

壁：残存部分の立ち上がりはゆるやかな傾斜である。検出面からの壁高は、6cm～11cmである。

炉跡：焼土などは検出されていない。

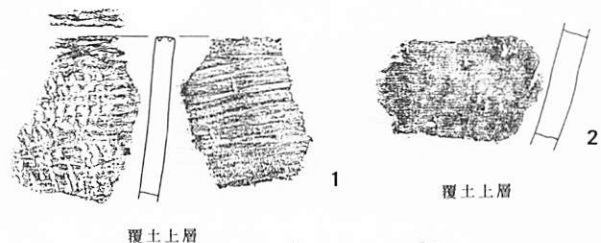
付属ピット：柱穴状小ピットは8個検出されている。HP-1～6はほぼ壁面にあり、杭状で深く、直立している。

遺物出土状況：壁際には流れ込みの状態でI群DI類土器1点、同D2類土器2点、石錘6点が出土した。出土土器には、覆土上層と39-42(Ⅲ)(図Ⅲ-275-1)、覆土上層と41-44(Ⅲ)、という接合関係が見られる。

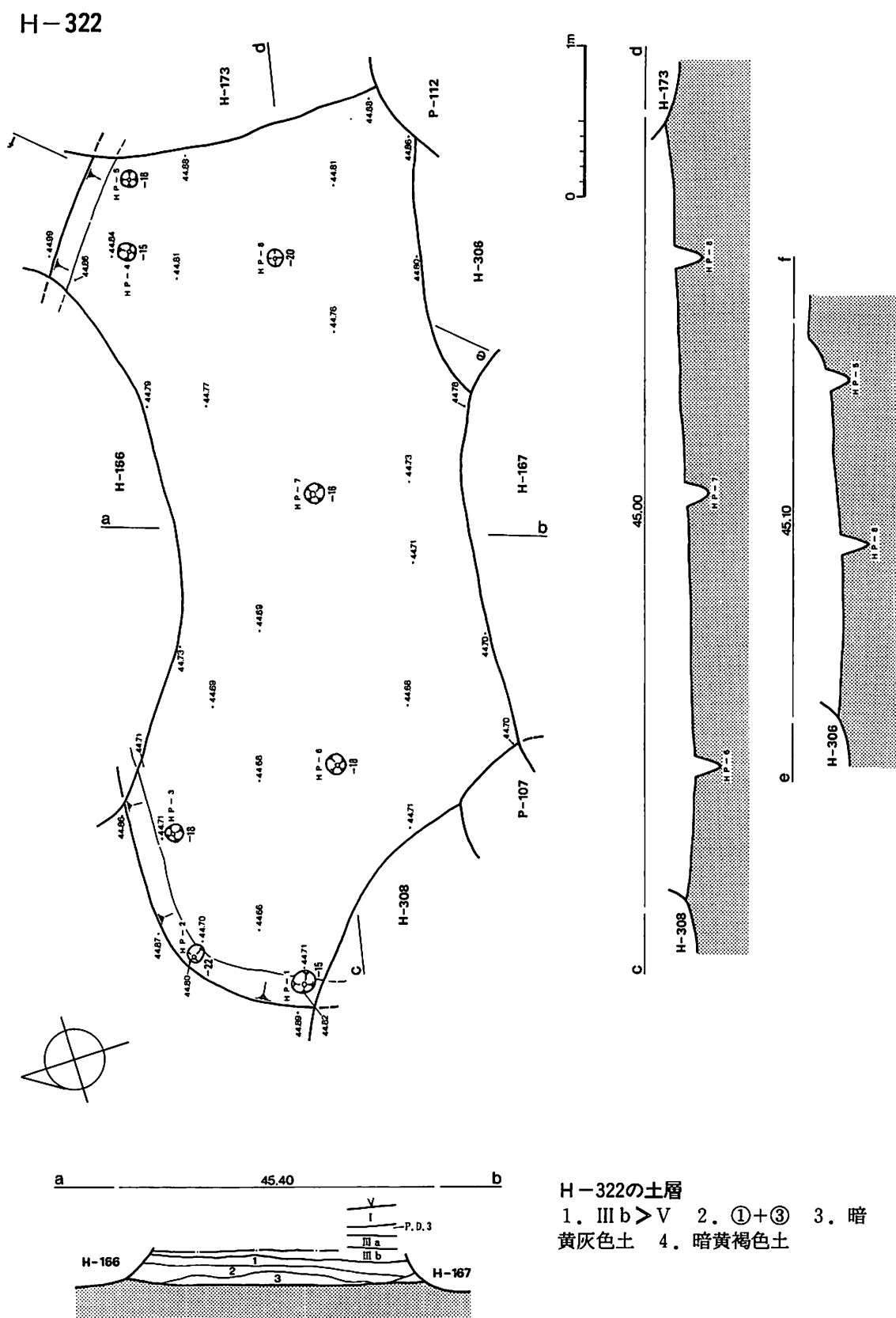
覆土は灰褐色土の混合土で、床直上まで堆積している(和泉田)。

#### 土器(図Ⅲ-275 図版182-7)

いずれも覆土1層から出土したもので、1は貝殻条痕文の上に腹縁文が施文された口縁部破片、I群D2類土器。2は無文の体部。I群と思われるが細分類の判別はできない(森)。



図Ⅲ-275 H-321出土土器



図III-276 H-322実測図

H-322 (図Ⅲ-276 図版81-2)

位置：38-43・44 39-43・44 標高44.85m～45.00mの平坦地。

規模・床面積・平面形・長軸方向：不明

検出・掘り込み面：Ⅳ層直上でⅢb層の広がりが見られ、Ⅲb>黄色土の落ち込みを検出した。掘り込み面はⅢb層中と思われる。重複関係：P-107・112、H-166・167・306・308・317と重複しており、H-317より新しく、他より古い住居跡である。

時期：周辺包含層出土の遺物などから、縄文時代早期中葉の時期のものと思われる。

床面：Ⅴ層中に構築されている。やや凹凸があり、軟質。東→西へ若干傾斜している。

壁：残存部分の立ち上がりはゆるやかな傾斜である。検出面からの壁高は、12cm～17cmである。

炉跡：焼土などは検出されていない。

付属ピット：柱穴状小ピットは8個検出されている。HP-1～5は壁際をめぐるもので、直立している。HP-6～8は支柱穴と思われる。

遺物出土状況：遺物は覆土上層でⅠ群D1類土器が1点出土しただけである。

覆土はⅢbと黄色土がまじり合った土であるが、覆土上層には混合土状の汚れた土があり、軽石が混入している。全体に砂質土である(和泉田)。



覆土上層

0 5cm

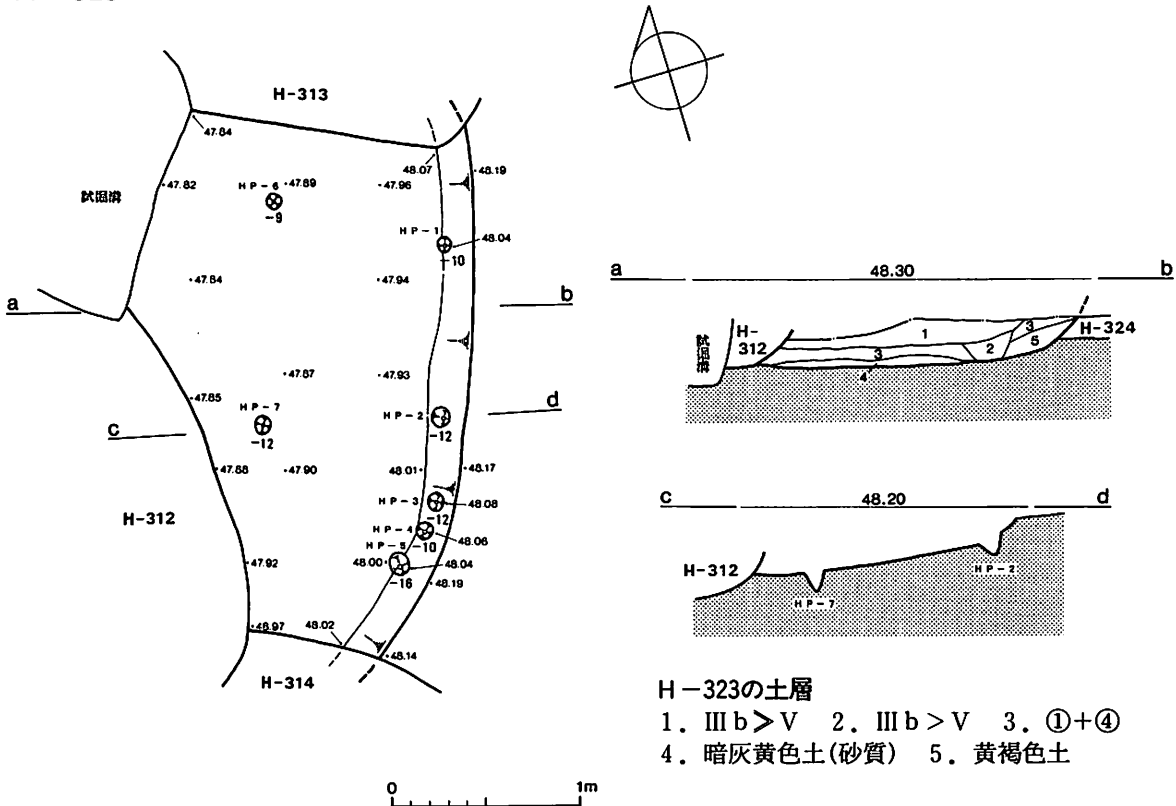
土器 (図Ⅲ-277 図版182-8)

1は覆土から出土した体部の小破片で、Ⅰ群D1類土器である(森)。

図Ⅲ-277

H-322出土土器

H-323



H-323の土層

1. Ⅲb>Ⅴ 2. Ⅲb>Ⅴ 3. ①+④  
4. 暗灰黄色土(砂質) 5. 黄褐色土

図Ⅲ-278 H-323実測図

# H-323 (図Ⅲ-278 図版81-3・4)

位置：56-67 標高48.14m～48.19mの平坦地。北西側は耕作によって深く攪乱されている。

規模・床面積・平面形・長軸方向：不明

検出・掘り込み面：H-313の南壁面、H-314の北壁面で覆土状の土の落ち込みを確認した。IV層直上でⅢb層の広がりが見られ、Ⅲb＞黄色土の落ち込みを検出した。掘り込み面はⅢb層中と思われる。

重複関係：H-312・313・314・316・324と重複しており、H-316・324より新しく、他より古い。

時期：不明

床面：V層中に構築されている。東→西へ傾斜している。平坦で、やや軟質。

壁：残存部分の立ち上がりはゆるやかな傾斜である。検出面からの壁高は、12cm～16cmである。

炉跡：焼土などは検出されていない。

付属ピット：柱穴状小ピットは7個検出されている。HP-1～5は壁面にあり、浅い杭状のもので、内傾している。

遺物出土状況：覆土、床面付近から遺物は出土していない。

覆土はⅢb層と黄色土がまじり合った土である。覆土上層には軽石が混入している(和泉田)。

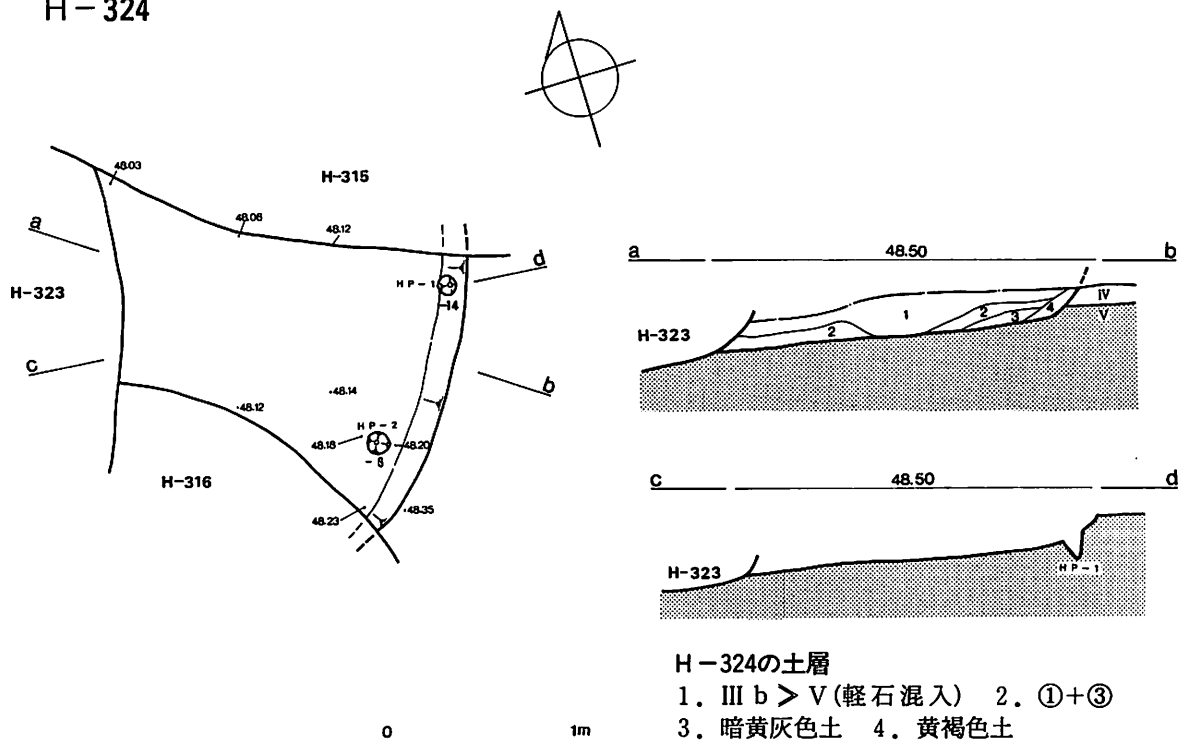
# H-324 (図Ⅲ-279)

位置：56-67 標高48.35m前後の平坦地。

規模・床面積・平面形・長軸方向：不明

検出・掘り込み面：H-315の南壁面、H-316の北東壁面で覆土状の土の落ち込みを確認した。IV層直上でⅢb＞黄色土の落ち込みを検出した。掘り込み面はⅢb層中と思われる。

## H-324



図Ⅲ-279 H-324実測図

重複関係：H-315・316・323と重複関係と重複しており、これらより古い住居跡である。

時期：不明

床面：V層中に構築されている。東→西へ傾斜している。平坦で、やや軟質。

壁：残存部分の立ち上がりはゆるやかな傾斜である。検出面からの壁高は、12cm前後である。

炉跡：焼土などは検出されていない。

付属ピット：柱穴状小ピットは2個検出されている。HP-1・2は壁際にあり、HP-1は若干内傾している。

遺物出土状況：覆土、床面付近から遺物は出土していない。

覆土はⅢb層と黄色土がまじり合った土である。覆土上層には軽石が混入している(和泉田)。

H-325 (図Ⅲ-280 図版82-1)

位置：44-46 45-46 標高45.67m前後の平坦地。

規模・床面積・平面形・長軸方向：不明

検出・掘り込み面：Ⅳ層直上でⅢb>黄色土の落ち込みを検出した。掘り込み面はⅢb層中と思われる。

重複関係：H-261・295と重複しており、これらより古い住居跡である。

時期：周辺包含層出土の遺物などから、縄文時代早期中葉の時期のものと思われる。

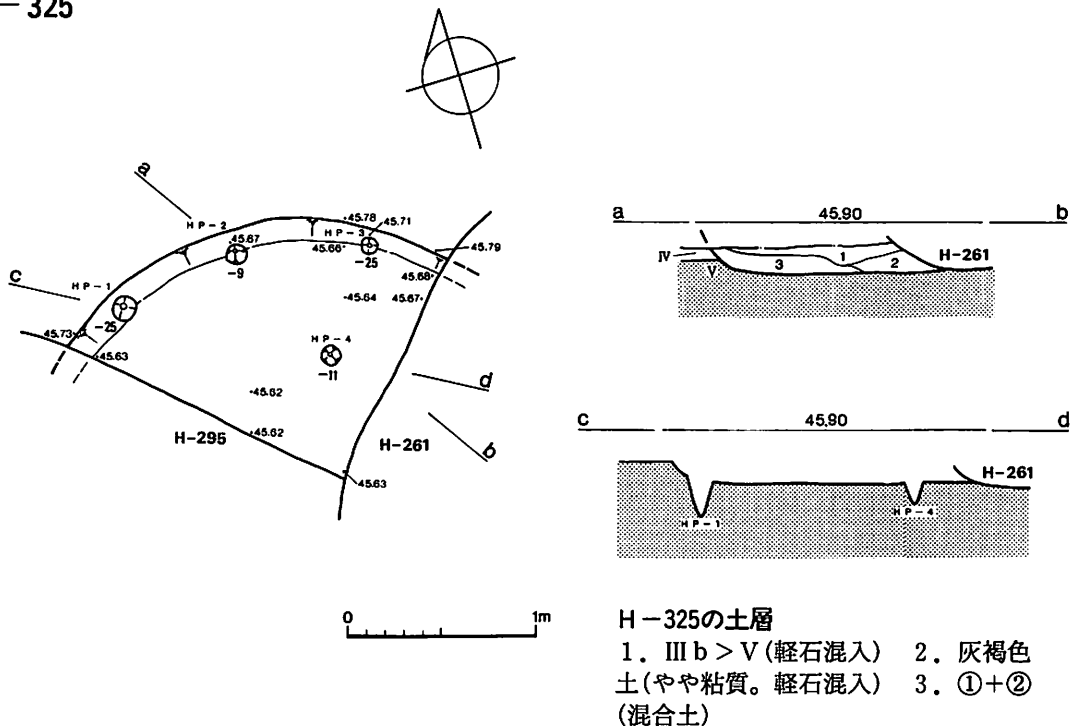
床面：V層中に構築されている。平坦で、堅い。

壁：残存部分の立ち上がりはゆるやかな傾斜である。検出面からの壁高は、11cm前後である。

炉跡：焼土などは検出されていない。

付属ピット：柱穴状小ピットは4個検出されている。HP-1～3は壁際にあり、杭状で直立している。

H-325



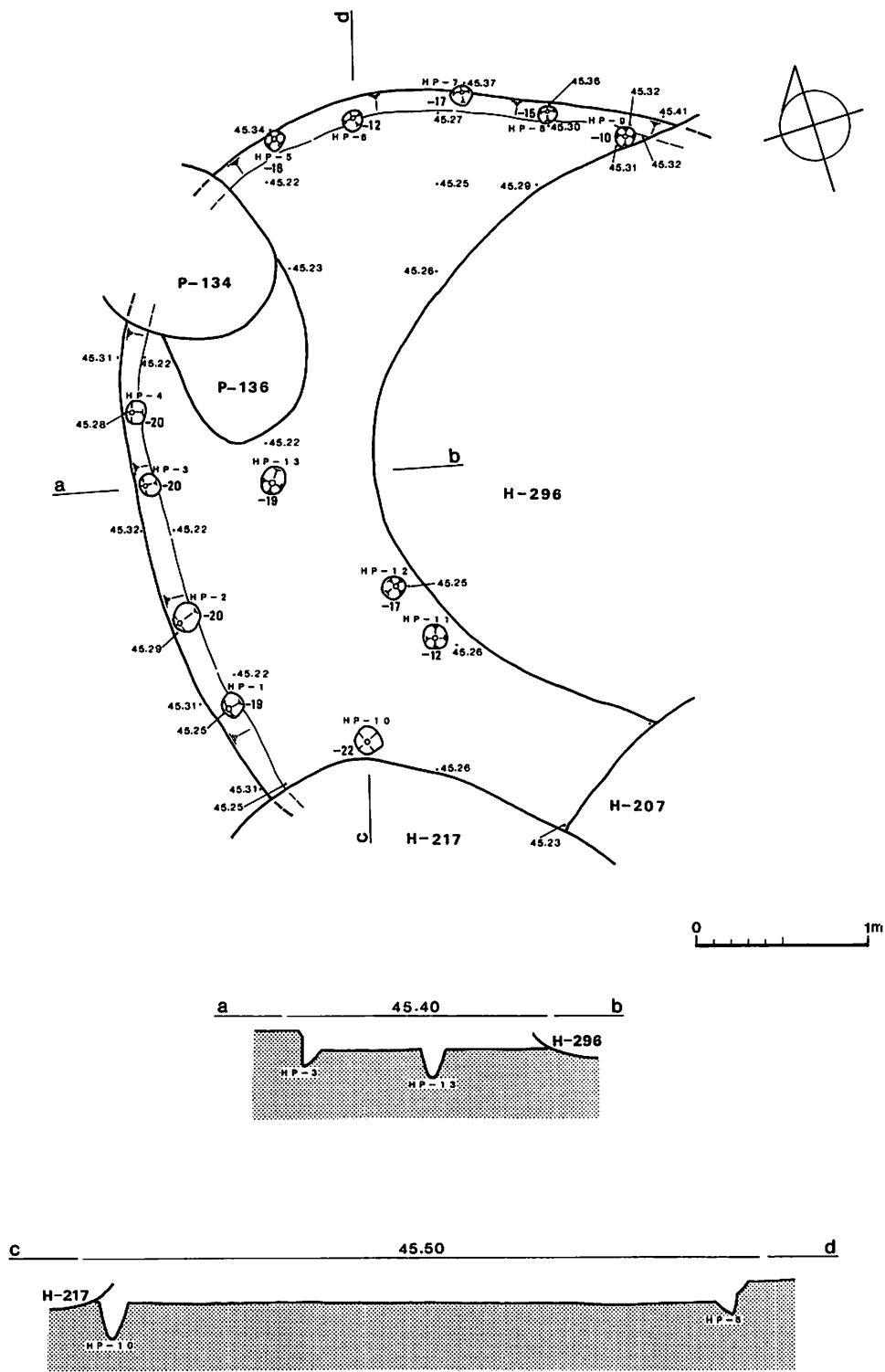
図Ⅲ-280 H-325実測図



遺物出土状況：覆土、床面付近から遺物は出土していない。

覆土はⅢb層と黄色土がまじり合った土である。全体に軽石が混入し、覆土下層は汚れた混合土である(和泉田)。

H-326



図Ⅲ-281 H-326実測図

H-326 (図Ⅲ-281 図版82-2)

位置: 42-45 43-45 標高45.31m~45.41mの平坦地。

規模・床面積・平面形・長軸方向: 不明

検出・掘り込み面: H-217・296の北壁面で覆土状の土の落ち込みが確認された。IV層直上でⅢb + 黄色土の落ち込みを検出した。掘り込み面はⅢb層中と思われる。重複関係: P-134・136、H-207・217・296・340と重複しており、H-340より新しく、他より古い住居跡である。

時期: 周辺包含層出土の遺物などから、縄文時代早期中葉の時期のものと思われる。

床面: V層中に構築されている。平坦で、堅い。

壁: 残存部分の立ち上がりはゆるやかな傾斜である。検出面からの壁高は、6cm~11cmである。

炉跡: 焼土などは検出されていない。

遺物出土状況: 覆土上のⅢb層で遺物は出土しているが、覆土、床面付近からは出土していない。

覆土はⅢb層と黄色土がまじり合った土である。軽石を多く混入した灰褐色土で、床直上は暗黄色土である(和泉田)。

H-327 (図Ⅲ-282 図版82-3 図版83-1)

位置: 55-65 標高47.92m~48.09mの平坦地。 規模・床面積・平面形・長軸方向: 不明

検出・掘り込み面: IV層直上でⅢa層の広がりが見られ、Ⅲb > 黄色土の落ち込みを検出した。掘り込み面はⅢb層中と思われる。重複関係: H-302・303・304と重複しており、これらより古い住居跡である。

時期: 不明

床面: V層中に構築されている。平坦で、堅い。

壁: 残存部分の立ち上がりはゆるやかな傾斜である。検出面からの壁高は、14cm~19cmである。

炉跡: 焼土などは検出されていない。

付属ピット: 柱穴状小ピットは10個検出されている。HP-1~9は壁際をめぐるもので、杭状で、直立している。

遺物出土状況: 覆土、床面付近から遺物は出土していない。

覆土はⅢb層と黄色土がまじり合った土である(和泉田)。

H-328 (図Ⅲ-283 図版83-2・3)

位置: 50-54 51-54 規模: 4.12m/3.90m×3.60m/3.23m×0.24m 床面積: 10.48m<sup>2</sup>

平面形: 隅丸長方形 長軸方向: N-14°-E

検出・掘り込み面: 50-54、51-54の包含層調査中、暗褐色土の落ち込みを検出した。

重複関係: ない

時期: 周辺包含層出土の遺物などから、縄文時代早期中葉の時期のものと思われる。

床面: ほぼ平坦である。

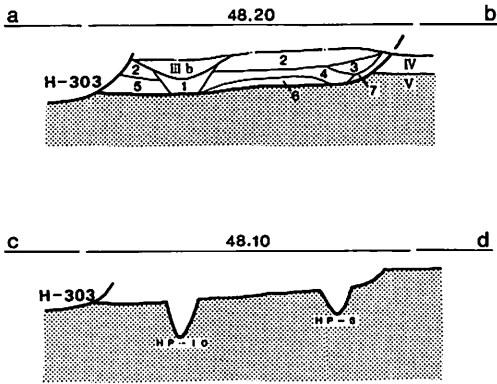
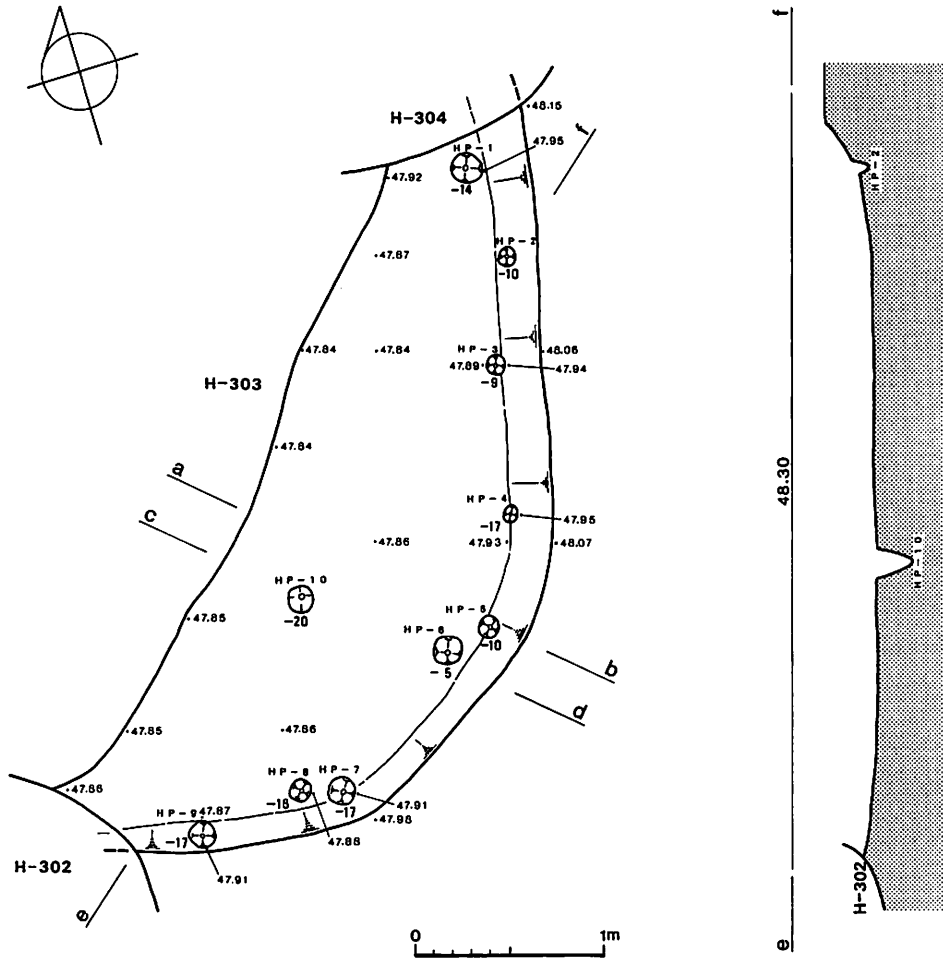
壁: 比較的急に立ち上がる。

炉跡: 焼土などは検出されていない。

付属ピット: 柱穴状小ピットは10個検出されている。HP-7・10は主柱穴と考えられる。

遺物出土状況: 覆土、床面付近から遺物は出土していない(倉橋)。

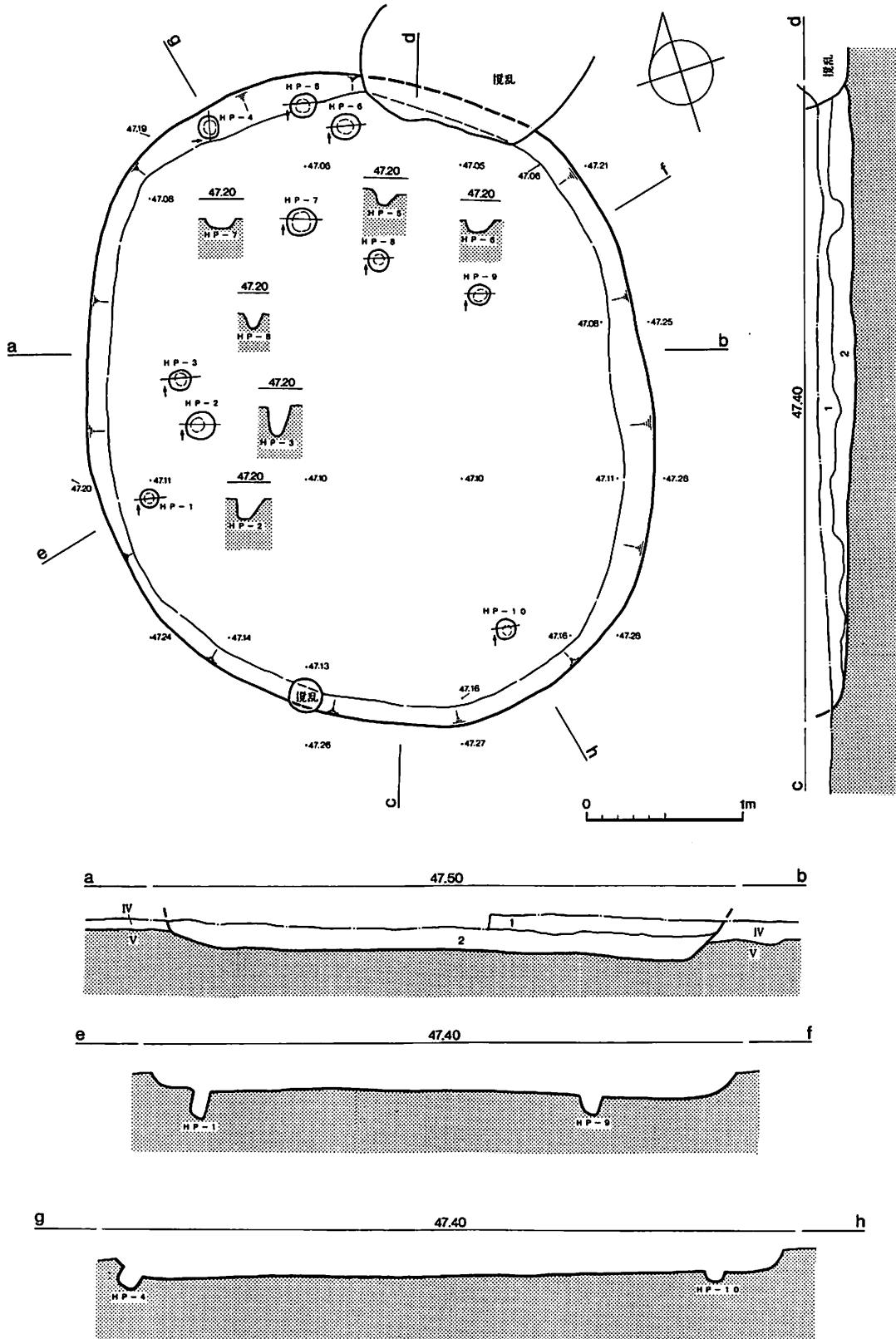
H-327



H-327の土層  
1. III b>V 2. III b>V 3. ≒①(①より黄色土が少 ない) 4. ②+⑥  
5. III b+V 6. 暗黄色土(粘質) 7. 暗黄褐色土(軟質)

図Ⅲ-282 H-327実測図

H-328



H-328の土層

1. 黒褐色土(Ⅲ>Ⅳ) 2. 暗褐色土(Ⅳ+Ⅲ)

図Ⅲ-283 H-328実測図

H-329 (図Ⅲ-284 図版84-1)

位置：55-61 規模：3.00m/2.70m×——/——×0.20m 床面積：不明 平面形：円形？  
長軸方向：N-5°-W

検出・掘り込み面：V層中で検出された。掘り込み面はⅢb層下位と考えられる。

重複関係：H-333・349と重複しており、これらより新しい住居跡である。

時期：不明

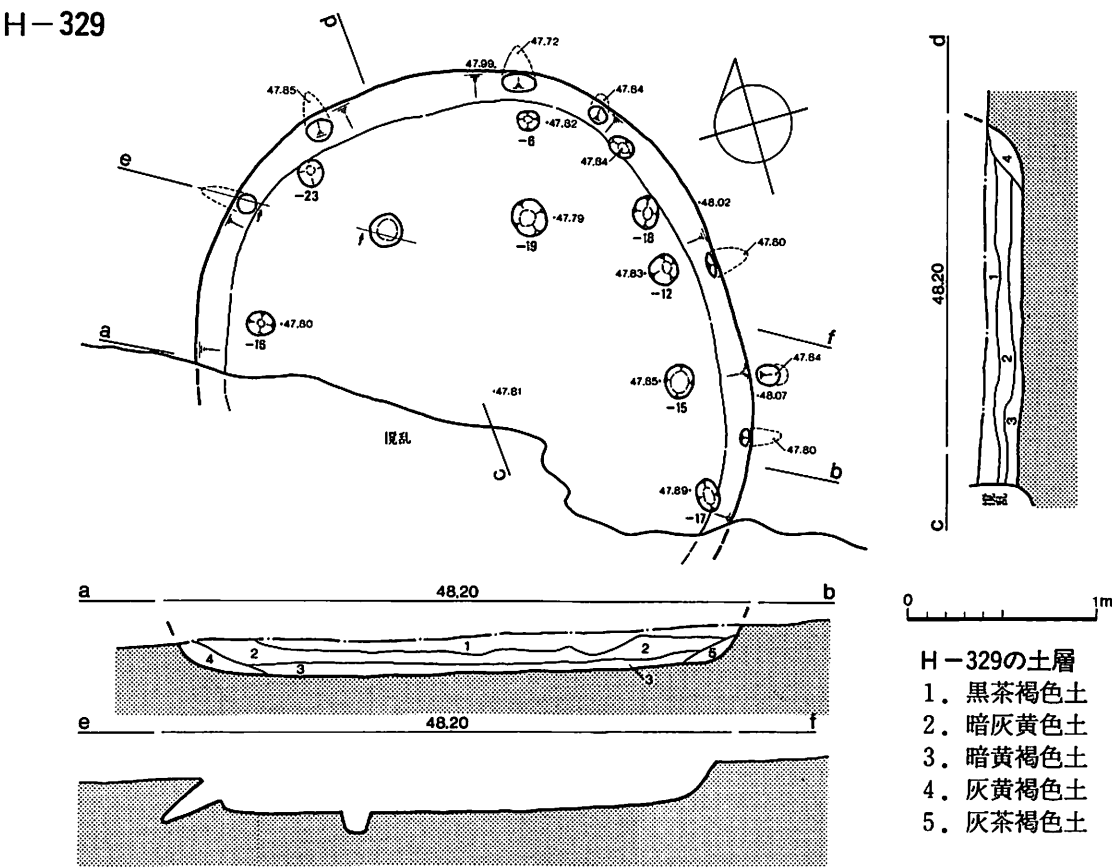
床面：検出面からV層を20cmほど掘り込んで構築されている。南東側へゆるやかに傾斜し、堅くしまっている。

壁：検出面から壁高は最大22cmで、床面からの立ち上がりは丸味があり、傾斜はゆるやかである。

炉跡：焼土などは検出されていない。

付属ピット：柱穴状小ピットは16個検出されている。6個は壁面にあり内傾する。8個は壁際から50cmの範囲内にある。本住居跡の東側の壁外で、住居側に内傾する柱穴状小ピットが1個検出されている。

遺物出土状況：覆土、床面付近から遺物は出土していない(谷島)。



H-330 (図Ⅲ-285 図版84-2・3)

位置：54-62・63 55-62・63 規模：2.65m/2.47m×2.45m/2.20m×0.22m

床面積：4.15㎡ 平面形：円形状 長軸方向：N-30°-W

検出・掘り込み面：V層中で検出された。掘り込み面はⅢb層下位と考えられる。

重複関係：H-310・334と重複しており、H-310より古く、H-334より新しい住居跡である。

時期：不明

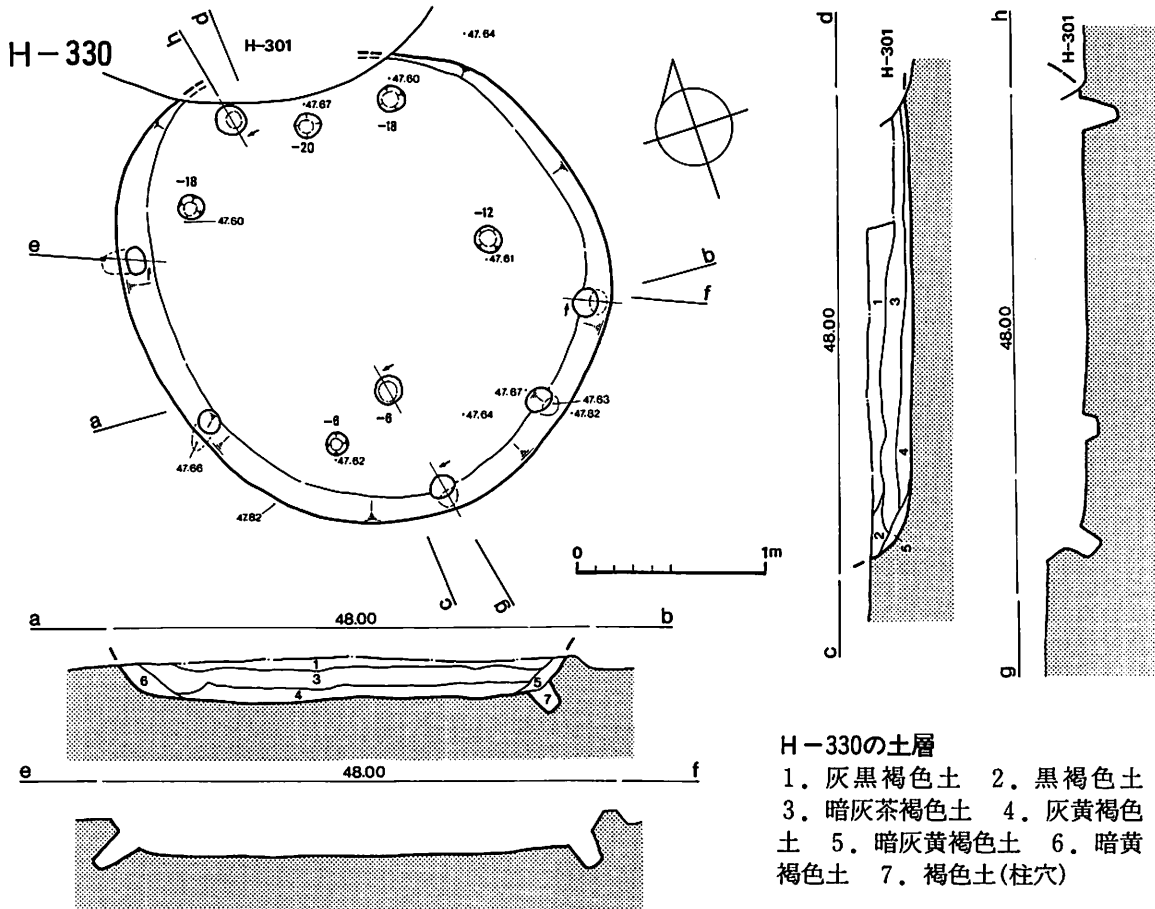
床面：検出面からV層を20cmほど掘り込んで構築されている。ほぼ平坦で、堅くしまっている。

壁：検出面からの壁高は18cmで、床面からの立ち上がりは丸味があり、傾斜はゆるやかである。

炉跡：焼土などは検出されていない。

付属ピット：柱穴状小ピットは12個検出されている。5個は壁面にあり内傾する。6個は壁際から50cmの範囲内にある。

遺物出土状況：覆土、床面付近から遺物は出土していない(谷島)。



図Ⅲ-285 H-330実測図

H-331 (図Ⅲ-286 図版85-1)

位置：54-61・62 55-61・62 規模：——/——×3.50m/3.25m×0.18m 床面積：(10.60㎡)

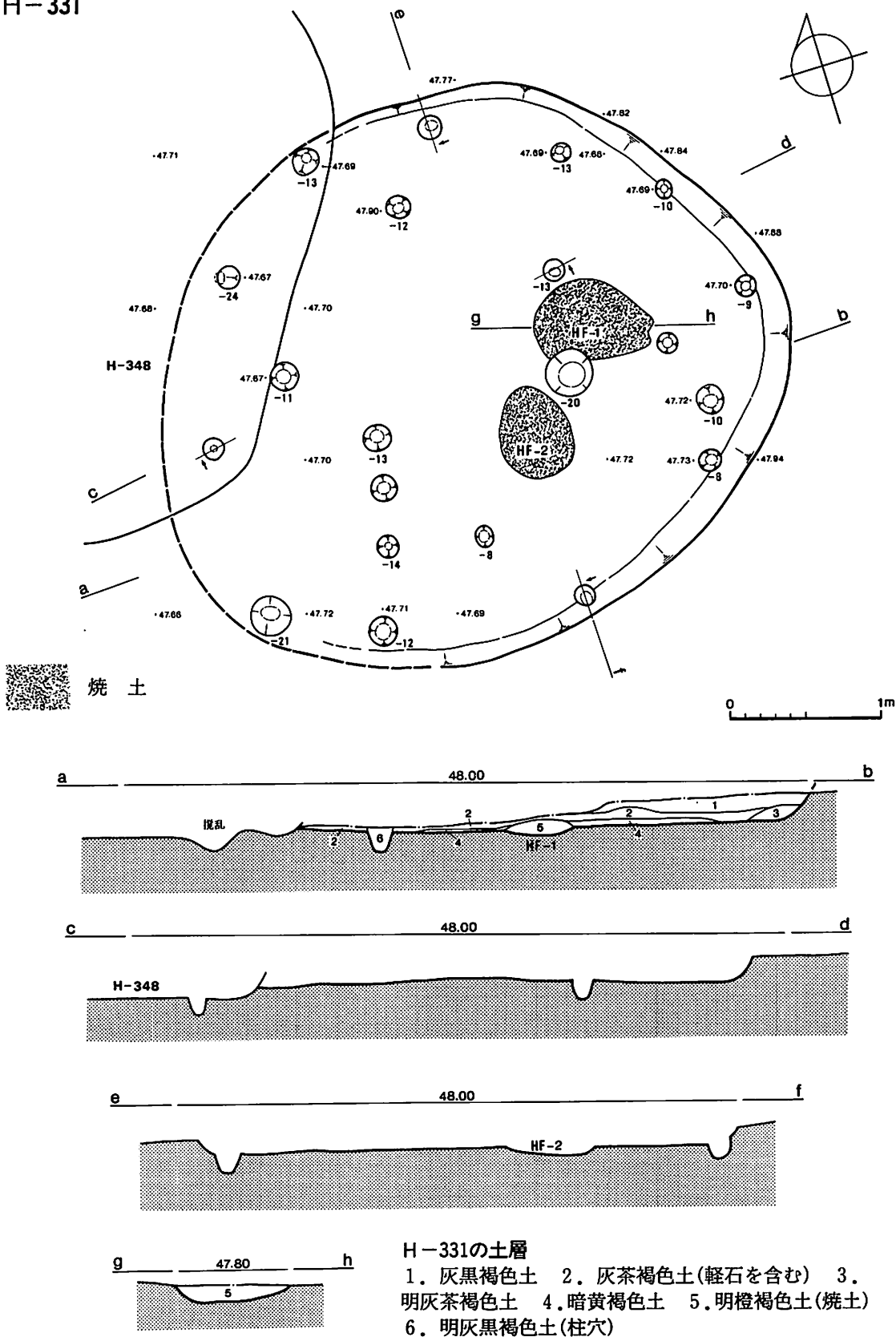
平面形：円形状 長軸方向：N-60°-E

検出・掘り込み面：V層上面で検出された。掘り込み面はⅢb層下位と考えられる。

重複関係：H-334・349・348と重複しており、これらより新しい住居跡である。

時期：不明

H-331



図Ⅲ-286 H-331実測図



床面：西側の床面は不明である。検出面からV層を18cmほど掘り込んで構築されている。西側へゆるやかに傾斜し、堅くしまっている。

壁：検出面からの壁高は18cmで、床面からの立ち上がりは丸味があり、傾斜はゆるやかである。

炉跡：床面中央部東寄りと南東寄り二カ所に焼土が検出された。地床炉と思われる。前者は0.80m×0.53m、厚さ0.12mの長円形の範囲で、後者は0.60m×0.48m、厚さ0.08mの長円形の範囲で赤くなっている。

付属ピット：柱穴状小ピットは20個検出されている。11個は壁際から50cmの範囲内にある。

遺物出土状況：覆土、床面付近から遺物は出土していない(谷島)。

### H-333 (図III-287)

位置：55-61 56-61 規模：——/——×——/——×(0.12m) 床面積：不明

平面形：円形？ 長軸方向：N-35°-W

検出・掘り込み面：V層中で検出された。掘り込み面はIII b層下位と考えられる。

重複関係：H-329・347と重複しており、H-329より古く、H-347より新しい住居跡である。

時期：不明

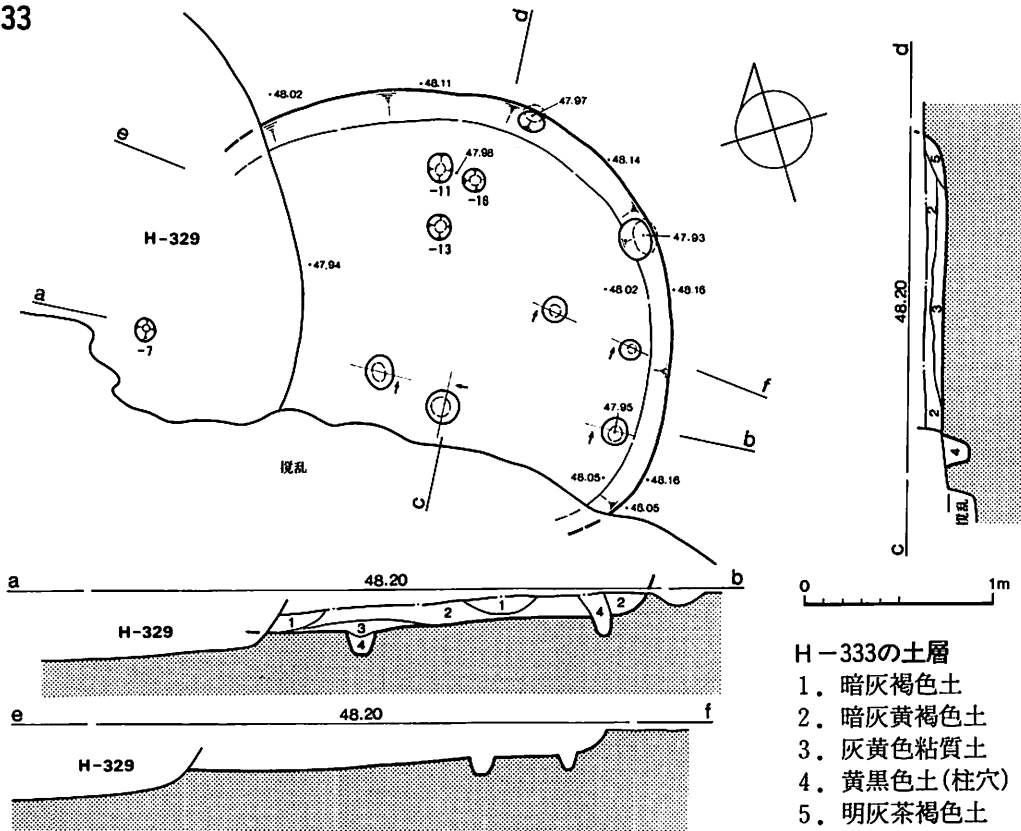
床面：検出面からV層を12cmほど掘り込んで構築されている。西側へゆるやかに傾斜している。ほぼ平坦で、堅くしまっている。

壁：検出面からの壁高は10cmで、床面からの立ち上がりは丸味があり、傾斜はゆるやかである。

付属ピット：柱穴状小ピットは10個検出されている。2個は壁面にあり内傾する。4個は壁際から50cmの範囲内にある。

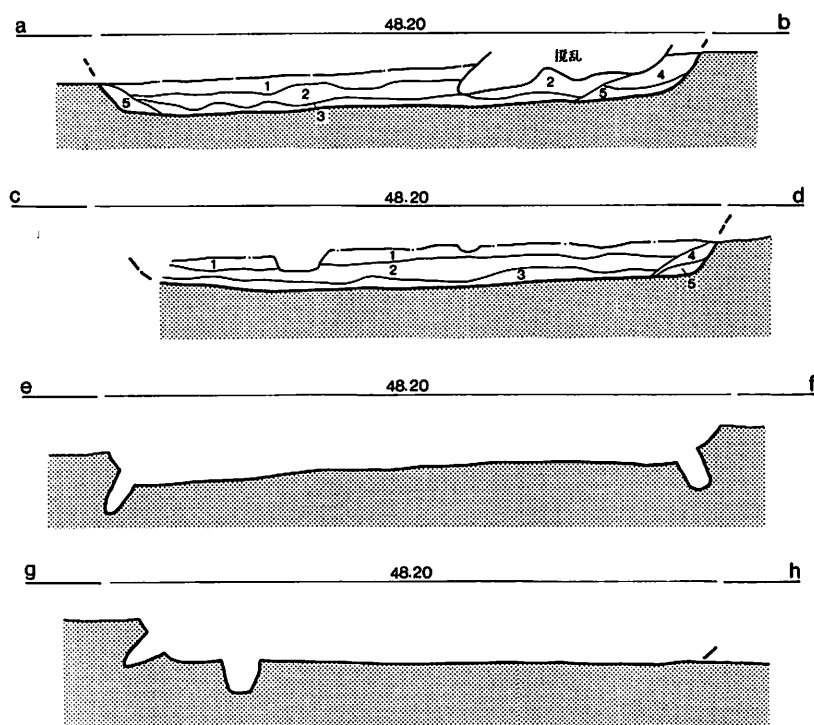
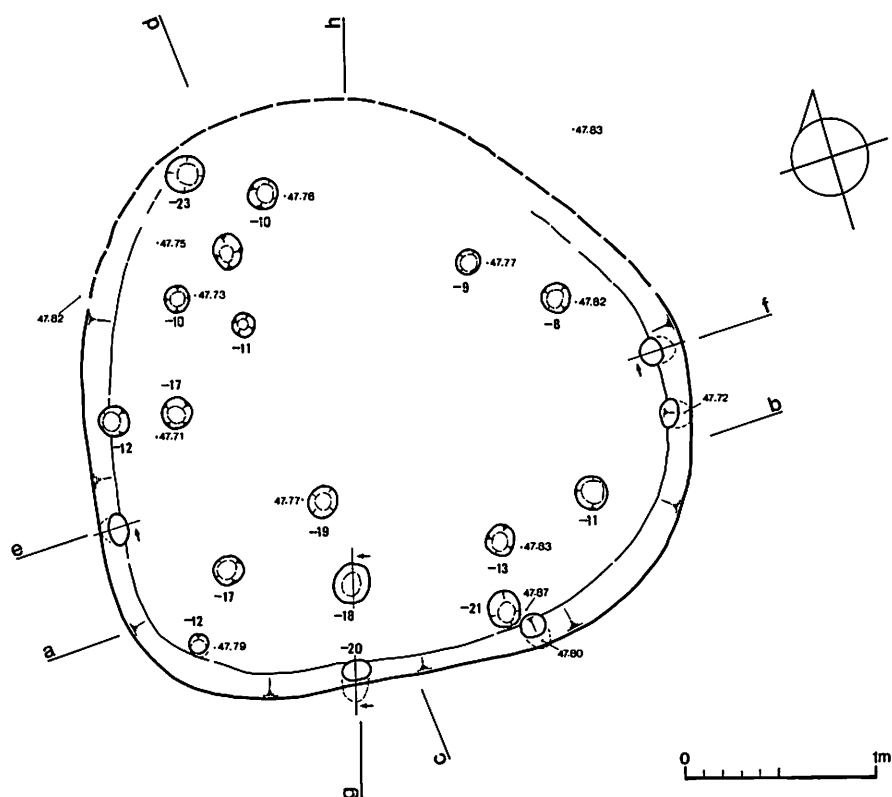
遺物出土状況：覆土、床面付近から遺物は出土していない(谷島)。

### H-333



図III-287 H-333実測図

H-332



H-332の土層

1. 灰黑褐色土 2. 暗灰茶褐色土 3. 暗灰黄褐色土 4. 灰茶褐色土 5. 灰黄褐色土

図III-288 H-332実測図

H-332 (図Ⅲ-288 図版85-2)

位置: 55-62 規模: 3.20m/2.95m×——/——×0.23m 床面積: (6.75m<sup>2</sup>) 平面形: 隅丸形状 長軸方向: N-80°-W

検出・掘り込み面: V層中で検出された。掘り込み面はⅢb層下位と考えられる。

重複関係: H-337・334と重複しており、これらより新しい住居跡である。

時期: 不明

床面: 検出面からV層を23cmほど掘り込んで構築されている。ほぼ平坦で、堅くしまっている。

壁: 検出面からの壁高は20cmで、床面からの立ち上がりは丸味があり、傾斜はゆるやかである。

炉跡: 焼土などは検出されていない。

付属ピット: 柱穴状小ピットは21個検出されている。5個は壁面にあり内傾する。10個は壁際から50cmの範囲内にある。

遺物出土状況: 覆土、床面付近から遺物は出土していない(谷島)。

H-334 (図Ⅲ-289 図版85-3)

位置: 55-62 規模: 3.65m/3.45m×——/——×0.17m 床面積: 不明 平面形: 円形? 長軸方向: 不明

検出・掘り込み面: V層中で検出された。掘り込み面はⅢb層下位と考えられる。

重複関係: H-329・332・331・349と重複しており、H-349より新しく、他より古い住居跡である。

時期: 不明

床面: 検出面からV層を17cmほど掘り込んで構築されている。北東側へゆるやかに傾斜している。ほぼ平坦で、堅くしまっている。

壁: 検出面からの壁高は13cmで、床面からの立ち上がりは丸味があり、傾斜はゆるやかである。

炉跡: 床面中央部南東寄りに焼土が検出された。地床炉であろう。1.15m×0.90m、厚さ0.25mの不整形の範囲で赤変している。

付属ピット: 柱穴状小ピットは11個検出されている。6個は壁面にあり、内傾する。3個は壁際から50cmの範囲内にある。H-331とH-332の床面から本住居跡に伴うと考えられる柱穴状小ピットが8個検出されている。

遺物出土状況: 覆土、床面付近から遺物は出土していない(谷島)。

H-335 (図Ⅲ-290)

位置: 39-43 標高45.04m前後の平坦地。

規模・床面積・平面形・長軸方向: 不明

検出・掘り込み面: H-306の南東壁面、H-170の北壁面で覆土状の土の落ち込みを確認した。IV層直上で軽石、小石を多く混入した混合土の落ち込みを検出した。掘り込み面はⅢb層中と思われる。

重複関係: H-167・170・209・306と重複しており、これらより古い住居跡である。

時期: 周辺包含層出土の遺物などから、縄文時代早期中葉の時期のものと思われる。

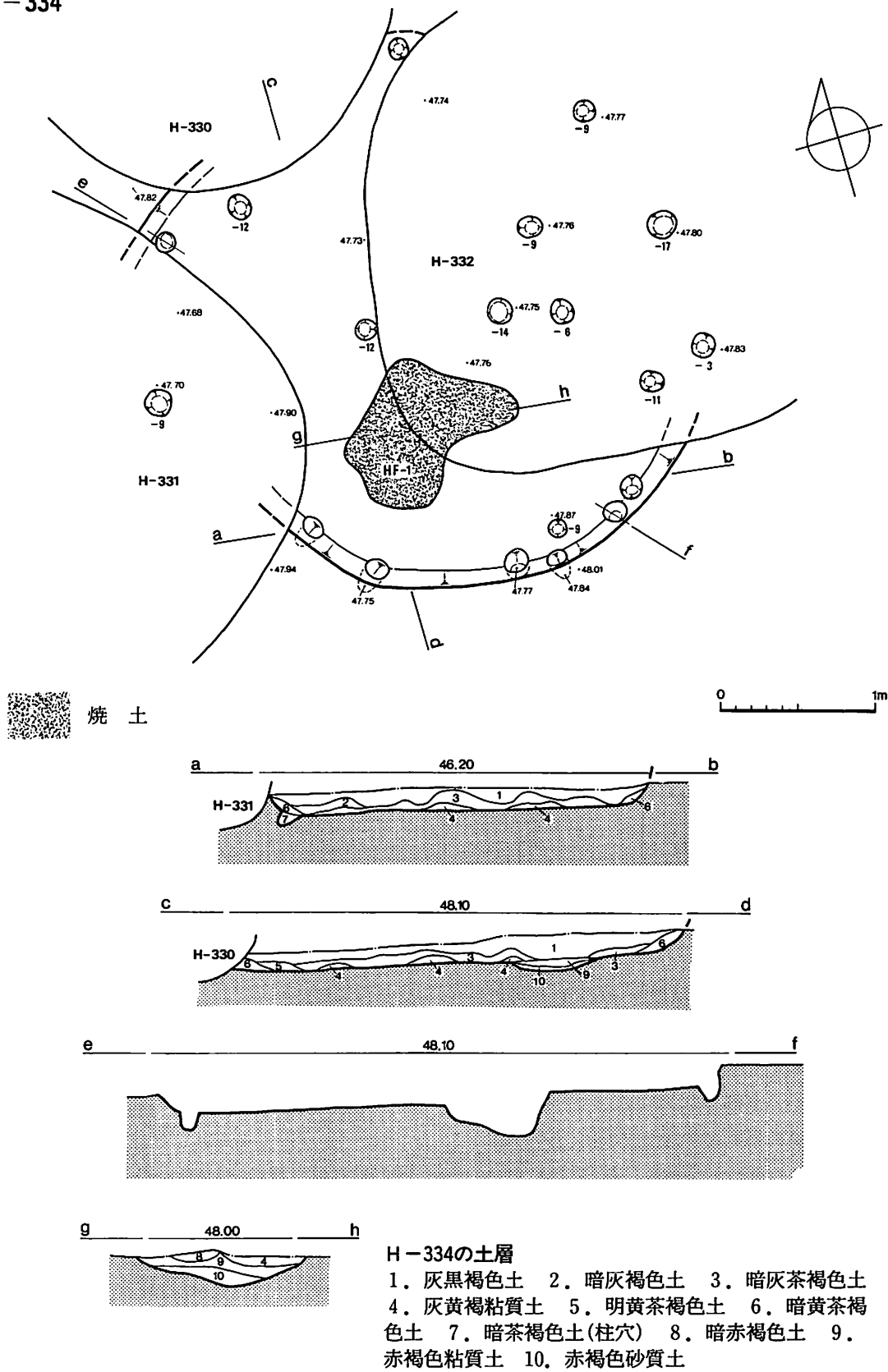
床面: V層中に構築されている。平坦で、堅い。

壁: 残存部分の立ち上がりはゆるやかな傾斜である。検出面からの壁高は、9cm前後である。

炉跡: 焼土などは検出されていない。

付属ピット: 柱穴状小ピットは5個検出されている。HP-1～4は壁際にあり、浅いが杭状で、直立

H-334



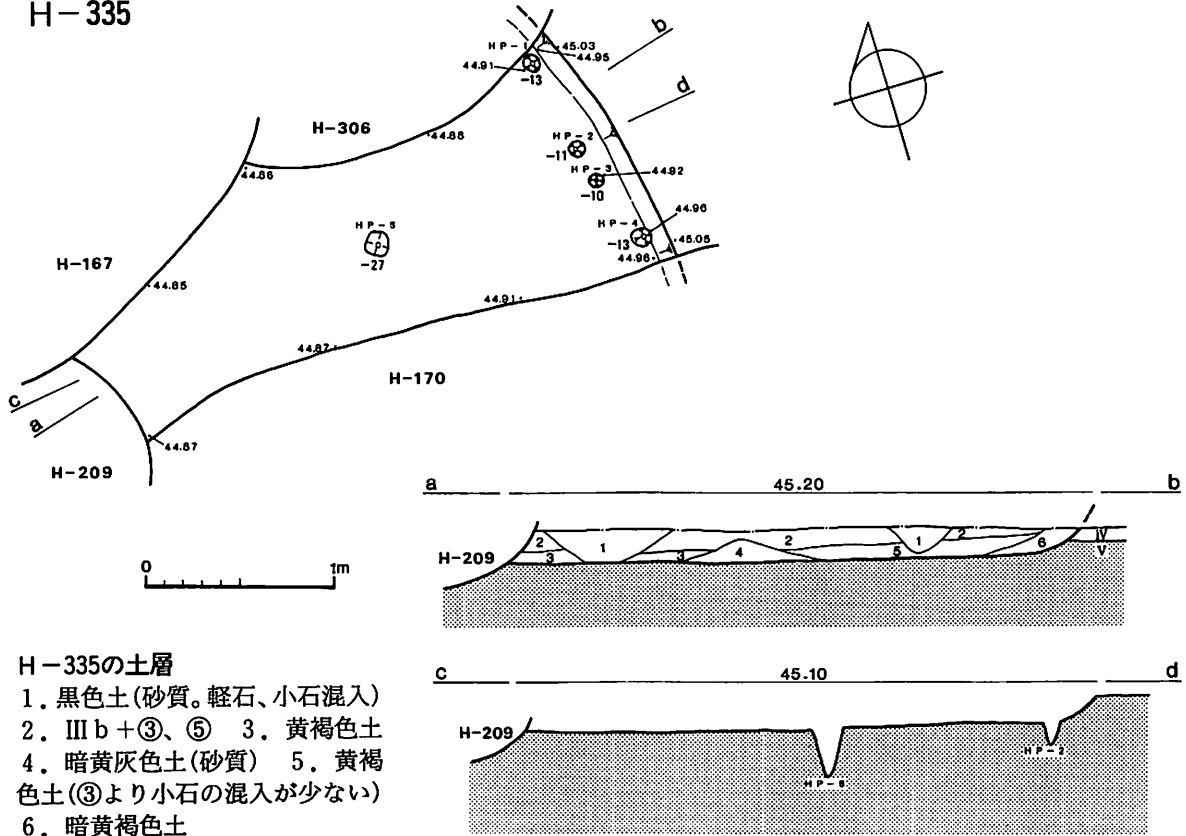
図Ⅲ-289 H-334実測図

している。

遺物出土状況：覆土、床面付近から遺物は出土していない。

覆土はⅢb層と黄色土がまじり合った土であるが、覆土上層には軽石や小石が多く混入し、汚れた混合土である(和泉田)。

## H-335



図Ⅲ-290 H-335実測図

## H-336 (図Ⅲ-291 図版86-1)

位置：54-62・63 規模：3.15m/2.80m×2.60m/2.20m×0.19m 床面積：5.19㎡

平面形：長円形 長軸方向：N-15°-E

検出・掘り込み面：V層中で検出された。掘り込み面はⅢb層下位と考えられる。

重複関係：H-310・348と重複しており、H-310より古く、H-348より新しい住居跡である。

時期：不明

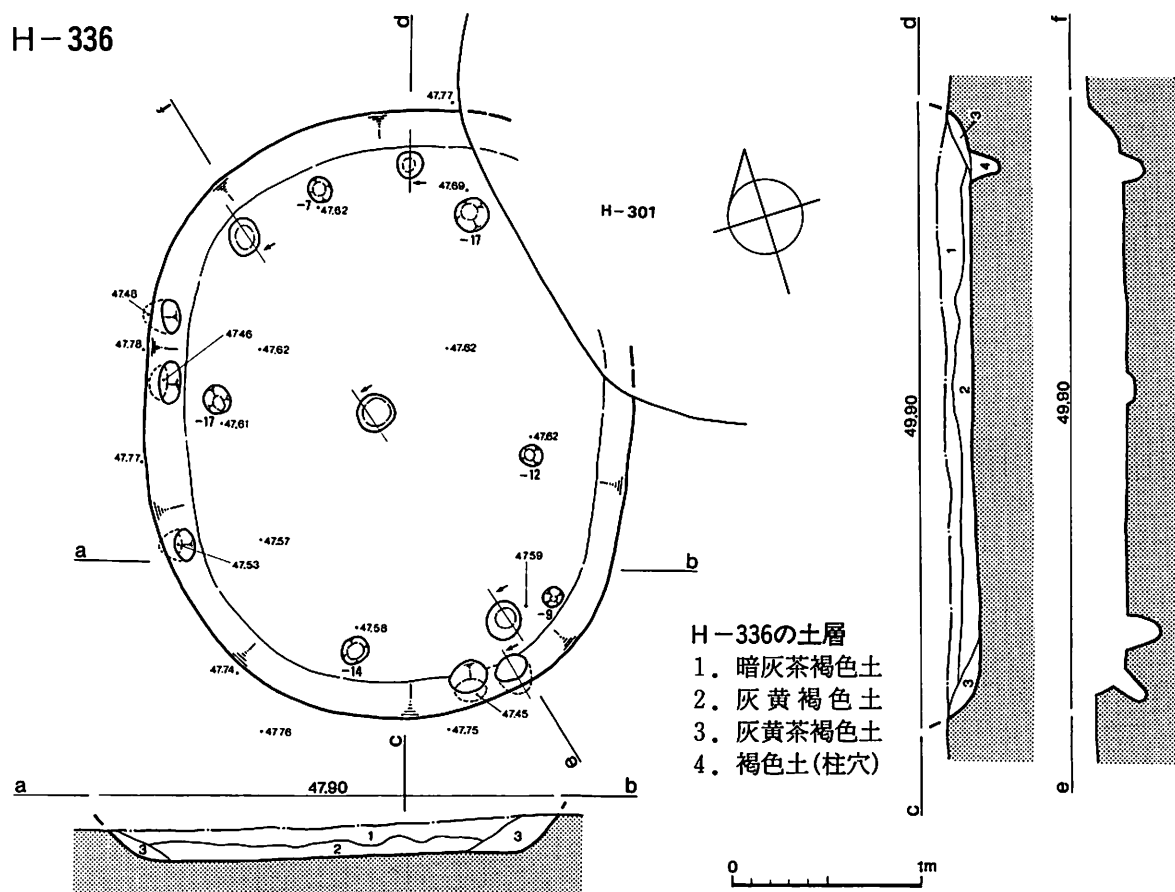
床面：検出面からV層を19cmほど掘り込んで構築されている。ほぼ平坦で、堅くしまっている。

壁：検出面からの壁高は17cmで、床面からの立ち上がりは丸味があり、傾斜はゆるやかである。

炉跡：焼土などは検出されていない。

付属ピット：柱穴状小ピットは15個検出されている。5個は壁面にあり内傾する。8個は壁際から50cmの範囲内にある。

遺物出土状況：覆土、床面付近から遺物は出土していない(谷島)。



図III-291 H-336実測図

H-337 (图III-292 图版86-2)

位置：55-63 規模：——/——×——/——×(0.12m) 床面積・平面形・長軸方向：不明

検出・掘り込み面：V層中で検出された。掘り込み面はIII b層下位と考えられる。

重複関係：H-310より古い住居跡である。

時期：不明

床面：検出面からV層を12cmほど掘り込んで構築されている。北側へゆるやかに傾斜している。ほぼ平坦で、堅くしまっている。

壁：検出面からの壁高は10cmで、床面からの立ち上がりは丸味があり、傾斜はゆるやかである。

炉跡：焼土などは検出されていない。

付属ピット：柱穴状小ピットは17個検出されている。9個は壁際から50cmの範囲内にある。H-332の床面から本住居跡に伴うと考えられる柱穴状小ピットが2個検出されている。

遺物出土状況：覆土、床面付近から遺物は出土していない(谷島)。

H-338 (图III-293 图版86-3)

位置：41-42 標高45.25m～45.32mの平坦地。

規模・床面積・平面形・長軸方向：不明

検出・掘り込み面：H-169の北東壁面で覆土状の土の落ち込みが見られた。IV層直上で軽石や小石が混入したIII b + 黄色土の落ち込みを検出した。掘り込み面はIII b 層中と思われる。

重複関係：H-169・299・320と重複しており、これらより古い住居跡である。





時期：周辺包含層出土の遺物などから、縄文時代早期中葉の時期のものと思われる。

床面：Ⅴ層中に構築されている。平坦で、堅い。

壁：残存部分の立ち上がりはゆるやかな傾斜である。検出面からの壁高は、6 cm～9 cmである。

炉跡：焼土などは検出されていない。

付属ピット：柱穴状小ピットは9個検出されている。HP- 1～8は壁際にある。浅い杭状で、直立している。

遺物出土状況：覆土、床面付近から遺物は出土していない。

覆土はⅢb層と黄色土がまじり合った土であるが、全体に砂質で、軽石、小石が多量に混入した混合土である(和泉田)。

H-339 (図Ⅲ-294 図版87-1)

位置：39-42 40-42 標高45.03m前後の平坦地。

規模・床面積・平面形・長軸方向：不明

検出・掘り込み面：H-170の南壁面、H-229の東壁面で覆土状の土の落ち込みが見られ、Ⅴ層直上でⅢb + 黄色土の混合土の落ち込みを検出した。掘り込み面はⅢb層中と思われる。

重複関係：H-170・229と重複しており、これらより古い住居跡である。

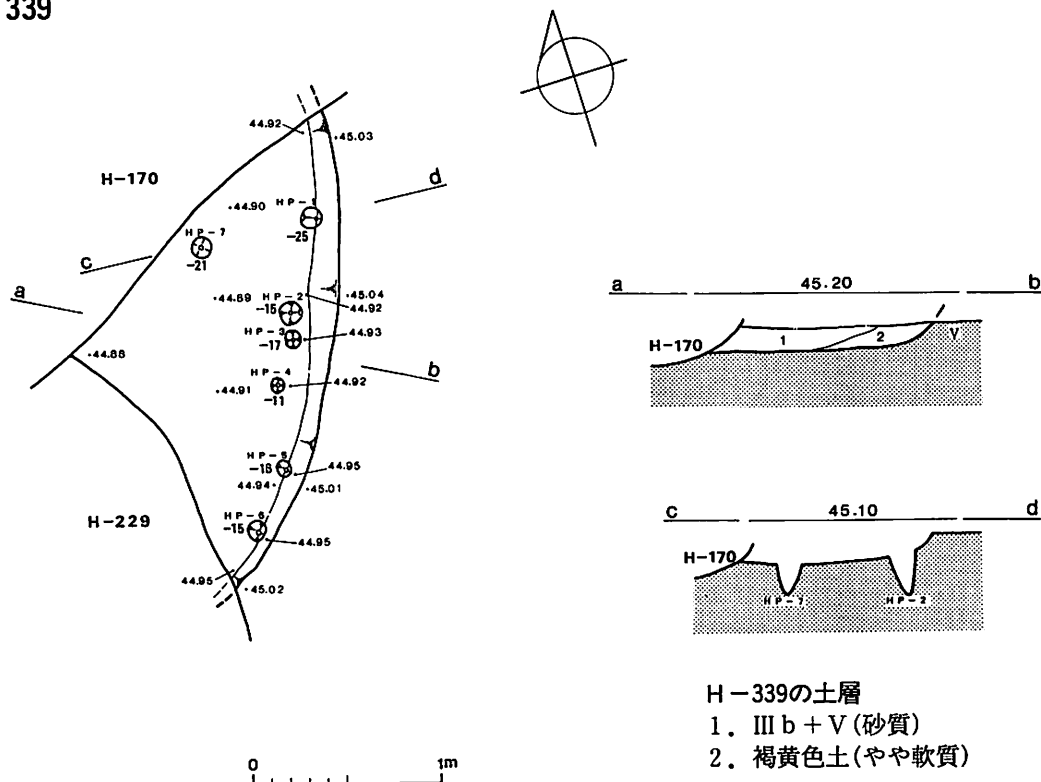
時期：周辺包含層出土の遺物などから、縄文時代早期中葉の時期のものと思われる。

床面：Ⅴ層中に構築されている。平坦で、やや軟質である。

壁：残存部分の立ち上がりはゆるやかな傾斜である。検出面からの壁高は、7 cm～12cmである。

炉跡：焼土などは検出されていない。

H-339



図Ⅲ-294 H-339実測図

付属ピット：柱穴状小ピットは7個検出されている。HP-1～6は壁際をめぐるもので、杭状で、直立している。

遺物出土状況：覆土、床面付近から遺物は出土していない。

覆土はⅢb層と黄色土がまじり合った土であるが、全体に砂質で、軽石、小石が多量に混入している(和泉田)。

H-341(図Ⅲ-295 図版87-3)

位置：42-44 43-44 標高45.31m～45.38mの平坦地。

規模・床面積・平面形・長軸方向：不明

検出・掘り込み面：V層直上でⅢb+黄色土の落ち込みを検出した。掘り込み面はⅢb層中と思われる。

重複関係：H-217・219と重複しており、これらより古い住居跡である。

時期：周辺包含層出土の遺物などから、縄文時代早期中葉の時期のものと思われる。

床面：V層中に構築されている。南→北へ若干傾斜している。平坦で、やや軟質。

壁：残存部分の立ち上がりはゆるやかな傾斜である。検出面からの壁高は、3cm～6cmである。

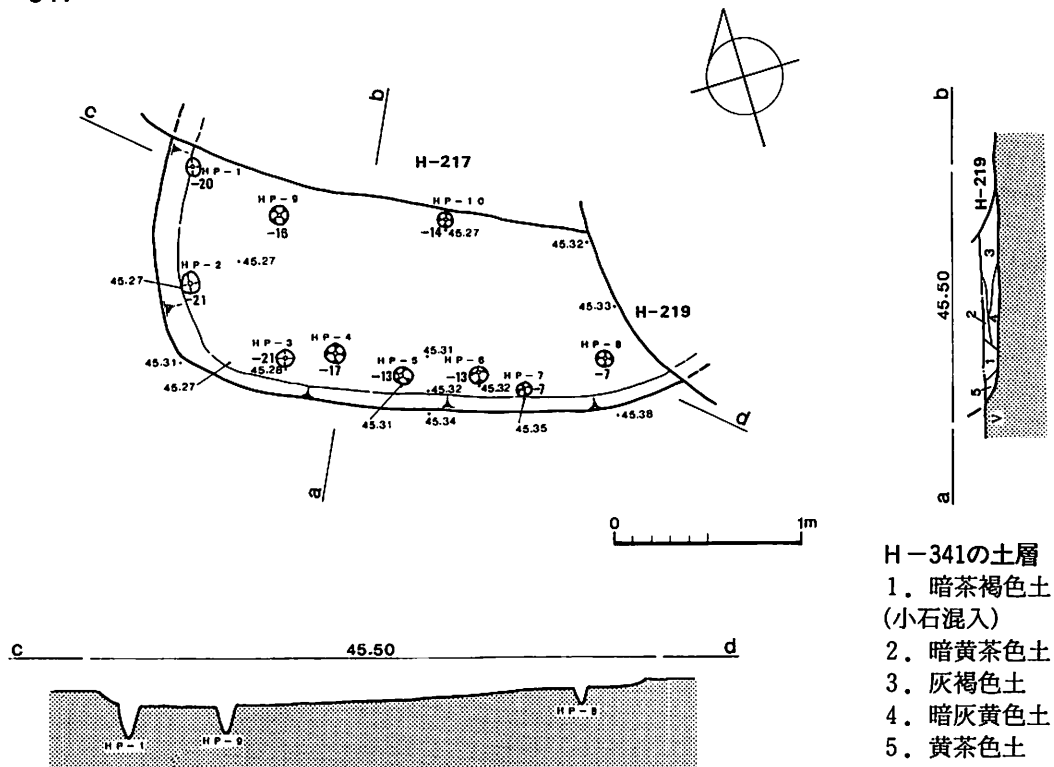
炉跡：焼土などは検出されていない。

付属ピット：柱穴状小ピットは10個検出されている。HP-1～8は壁にあり、浅い杭状で、直立している。

遺物出土状況：覆土、床面付近から遺物は出土していない。

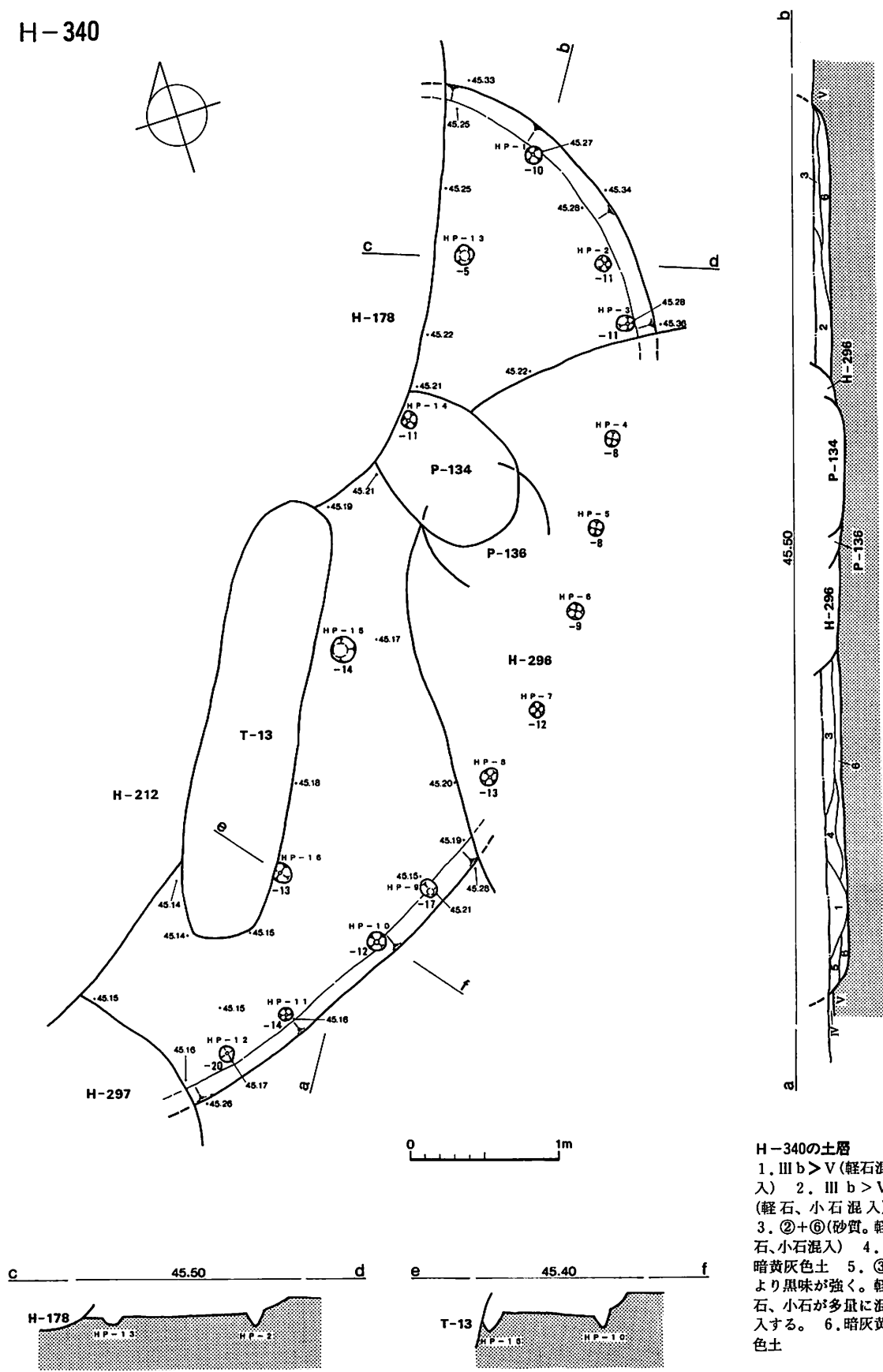
覆土はⅢb層と黄色土がまじり合った土である。全体に砂質で、汚れた混合土で、小石が多量に混入している(和泉田)。

## H-341



図Ⅲ-295 H-341実測図

H-340



図Ⅲ-296 H-340実測図

H-340 (図III-296 図版87-2)

位置: 42-44・45・46 標高45.26m~45.36mの平坦地。

規模・床面積・平面形・長軸方向: 不明

検出・掘り込み面: V層直上でIII b + 黄色土の落ち込みを検出した。掘り込み面はIII b層中と思われる。

重複関係: T-13、P-134・136、H-178・212・296・297と重複しており、これより古い住居跡である。

時期: 周辺包含層出土の遺物などから、縄文時代早期中葉の時期のものと思われる。

床面: V層中に構築されている。北東→南西へ若干傾斜している。やや凹凸があり、やや軟質である。

壁: 残存部分の立ち上がりはゆるやかな傾斜である。検出面からの壁高は、北東壁が6 cm~9 cm、南東壁が9 cm~11cmである。

炉跡: 焼土などは検出されていない。

付属ピット: 柱穴状小ピットは16個検出されている。HP-1~12は壁際をめぐるもので、浅い杭状で、直立している。HP-4~8はH-296の構築面で検出されたものである。HP-13~16は支柱穴と思われる。

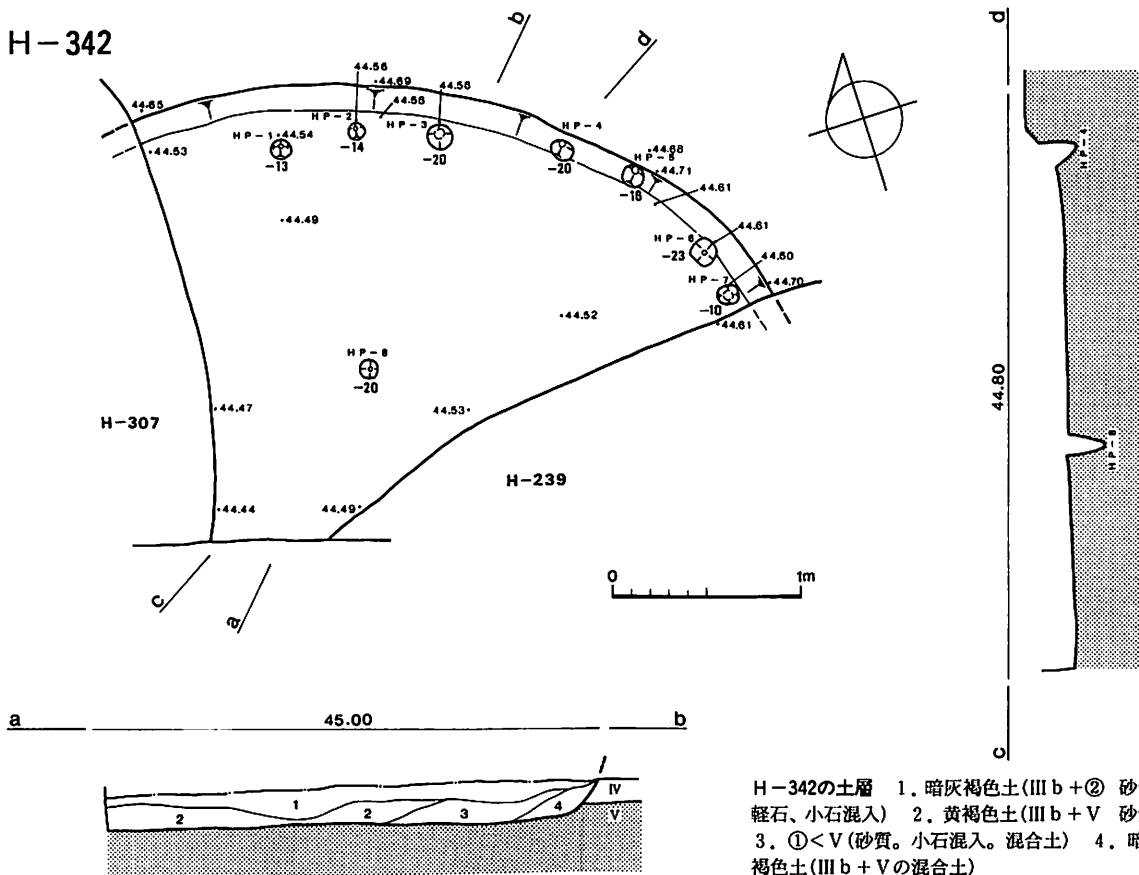
遺物出土状況: 覆土、床面付近から遺物は出土していない。

覆土はIII b層と黄色土がまじり合った土であるが、全体に砂質で、軽石、小石が多く混入している(和泉田)。

H-342 (図III-297 図版88-1)

位置: 36-41・42 標高44.65m~44.71mの平坦地。

規模・床面積・平面形・長軸方向: 不明



図III-297 H-342実測図

検出・掘り込み面：V層直上でⅢb＋黄色土の混合土の落ち込みを検出した。掘り込み面はⅢb層中と思われる。 重複関係：H-239・307と重複しており、これらより古い住居跡である。

時期：周辺包含層出土の遺物などから、縄文時代早期中葉の時期のものと思われる。

床面：V層中に構築されている。北東→南西へ傾斜している。凹凸があり、やや堅い。

壁：残存部分の立ち上がりはやや急傾斜である。検出面からの壁高は、9cm～15cmである。

炉跡：焼土などは検出されていない。

付属ピット：柱穴状小ピットは8個検出されている。HP-1～7は壁際をめぐるものである。HP-3～5は若干内傾しているが、他は直立している。

遺物出土状況：覆土、床面付近から遺物は出土していない。

覆土はⅢb層と黄色土がまじり合った土である。全体に砂質土で、軽石、小石が多く混入している(和泉田)。

H-343 (図Ⅲ-298 図版88-2 図版89-1)

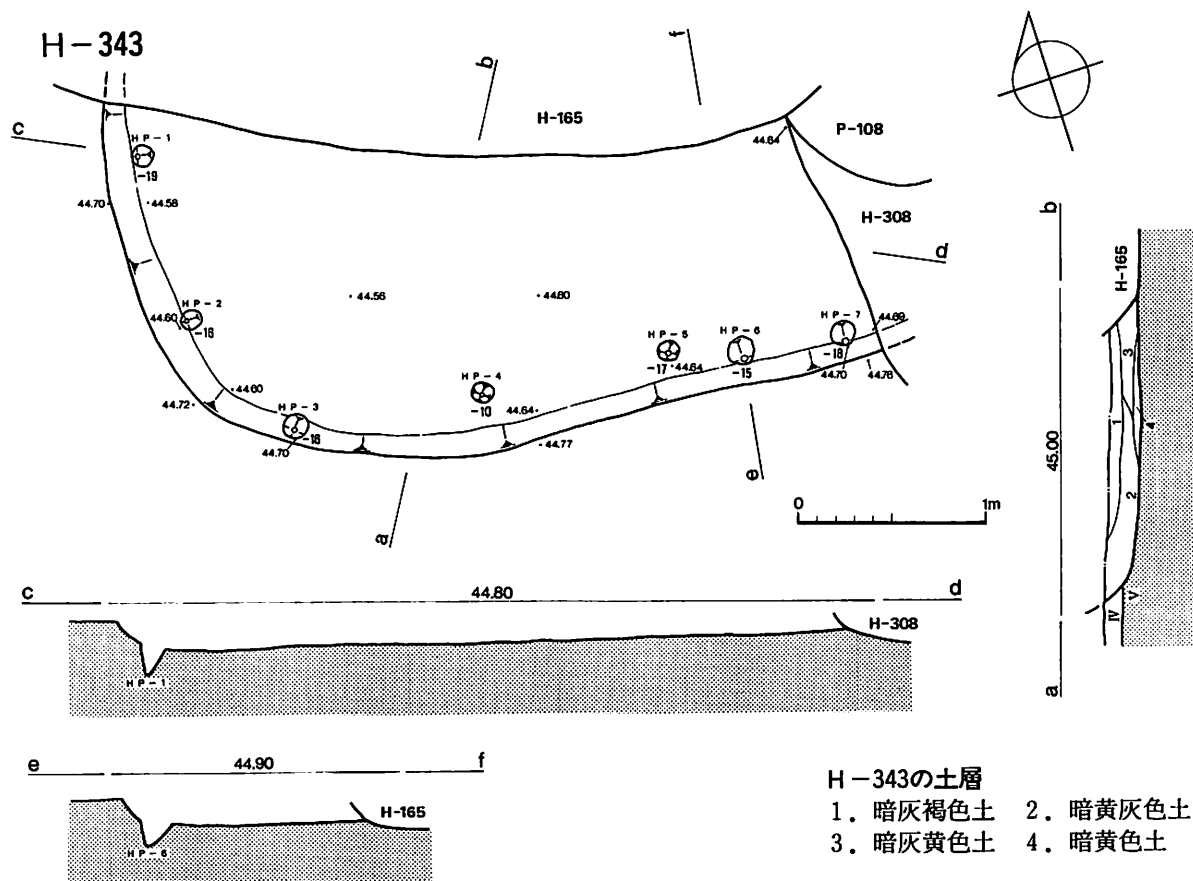
位置：37-43 標高44.70m～44.76mの平坦地。

規模・床面積・平面形・長軸方向：不明

検出掘り込み面：V層直上でⅢb＋黄色土の混合土の落ち込みを検出した。掘り込み面はⅢb層中と思われる。 重複関係：H-165・308・344と重複しており、H-344より新しいが、他より古い。

時期：周辺包含層出土の遺物などから、縄文時代早期中葉の時期のものと思われる。

床面：V層中に構築されている。やや凹凸があり、軟質である。



図Ⅲ-298 H-343実測図

壁：残存部分の立ち上がりはやや急傾斜である。検出面からの壁高は、7 cm～15cmである。

炉跡：焼土などは検出されていない。

付属ピット：柱穴状小ピットは7個検出されている。HP-1～7は壁際をめぐるもので、杭状で、やや内傾している。

遺物出土状況：覆土、床面付近から遺物は出土していない。

覆土はⅢb層と黄色土がまじり合った土である。全体に砂質の混合土で、軽石、小石を多量に混入している。堆積状態は不安定である(和泉田)。

H-344 (図Ⅲ-299 図版88-2 図版89-2)

位置：36-43 37-43 標高44.66m～44.73mの平坦地。

規模・床面積・平面形・長軸方向：不明

検出・掘り込み面：V層直上でⅢb+黄色土の混合土の落ち込みを検出した。掘り込み面はⅢb層中と思われる。重複関係：H-165・211・343と重複しており、これらより古い住居跡である。

時期：周辺包含層出土の遺物などから、縄文時代早期中葉の時期のものと思われる。

床面：V層中に構築されている。平坦で、軟質である。

壁：残存部分の立ち上がりは急傾斜である。検出面からの壁高は、9 cm～17cmである。

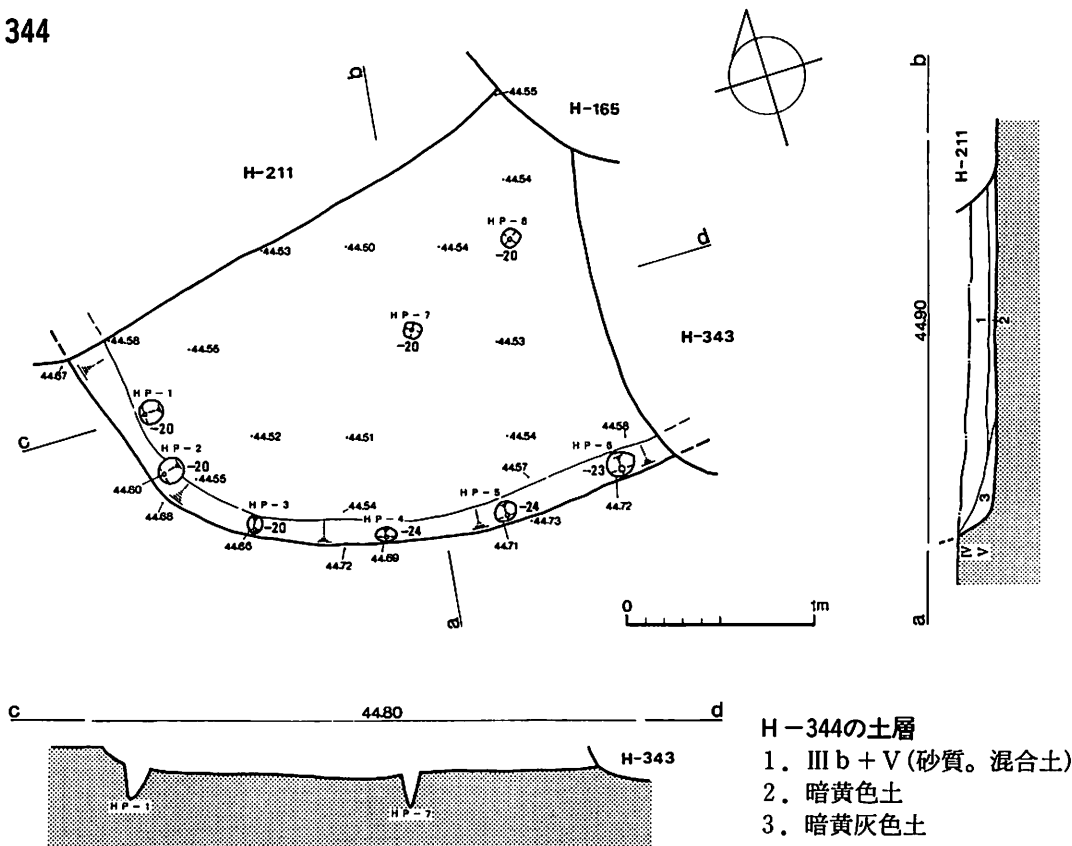
炉跡：焼土などは検出されていない。

付属ピット：柱穴状小ピットは8個検出されている。HP-1～6は壁面にあり、杭状で、内傾している。

遺物出土状況：覆土、床面付近から遺物は出土していない。

覆土はⅢb層と黄色土がまじり合った土である。全体に砂質土で、汚れた混合土である(和泉田)。

## H-344



図Ⅲ-299 H-344実測図

H-345 (図Ⅲ-300 図版89-3)

位置：56-65 57-66 標高48.02m～48.13mのほぼ平坦地。

規模：2.16m/1.90m×2.16m/1.88m×0.22m 床面積：3.20㎡ 平面形：隅丸方形状

検出・掘り込み面：V層上面で暗灰褐色土の落ち込みを検出した。掘り込み面は不明である。

重複関係：H-316と重複しており、これより古い住居跡である。

時期：不明

床面：V層中に構築されている。凹凸があり、中央やや北寄りには0.80m×0.80mほどの浅いくぼみが見られる。堅い。

壁：立ち上がりはゆるやかな傾斜である。検出面からの壁高は、北壁が7cm～10cm、東壁が9cm～12cm、南壁が9cm～13cm、西壁が8cm前後である。

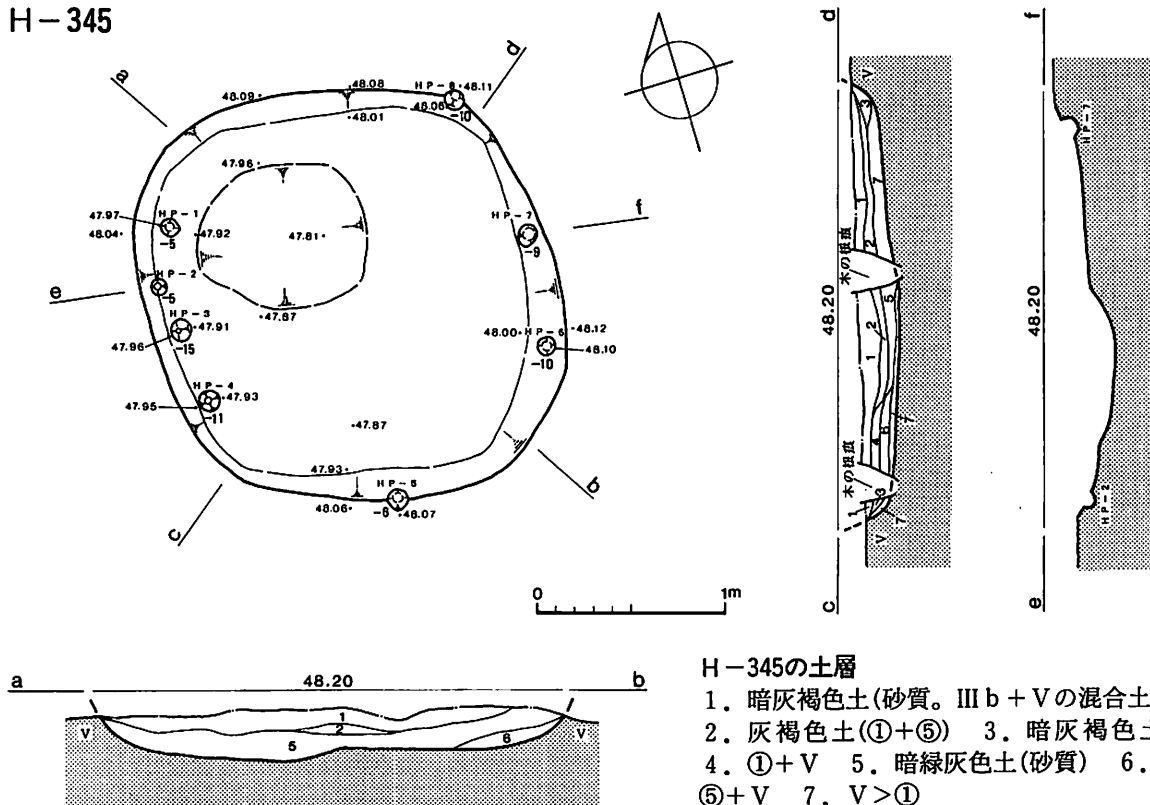
炉跡：焼土などは検出されていない。

付属ピット：柱穴状小ピットは8個検出されている。すべて壁際～壁面にあり、浅く、内傾している。

遺物出土状況：覆土、床面付近から遺物は出土していない。

覆土はⅢb層と黄色土がまじり合った土であるが、覆土上層は砂質土で、炭化物が混入している。覆土下層は砂質の暗緑灰色土である。これは周辺に点在するピットの覆土に酷似しており、柱穴状の小ピットが検出されたことから住居跡としたが、ピットの可能性もある(和泉田)。

H-345



図Ⅲ-300 H-345実測図



H-346 (図Ⅲ-301 図版89-4 図版90-1)

位置: 54-63 54-64 標高47.71m~47.79mの平坦地。

規模: 2.60m/2.40m×2.00m/1.80m×0.18m 床面積: 3.64m<sup>2</sup> 平面形: 隅丸長方形状

長軸方向: N-50°-W

検出・掘り込み面: V層上で暗褐色土の落ち込みを検出した。掘り込み面は不明である。

時期: 不明

床面: V層中に構築されている。中央部がくぼんでいる。やや凹凸があり、堅い。

壁: 立ち上がりはゆるやかな傾斜である。検出面からの壁高は、北東壁が7cm前後、南東壁が4cm~8cm、南西壁が7cm前後、北西壁が9cm前後である。

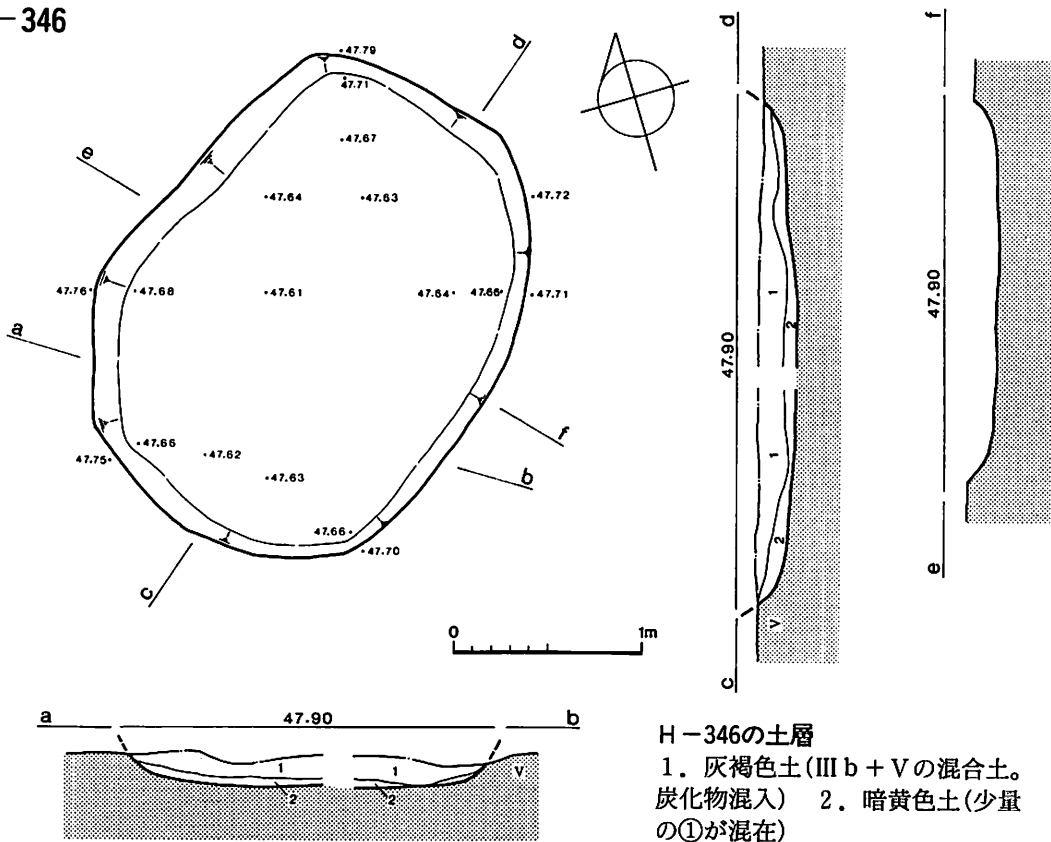
炉跡: 焼土などは検出されていない。

付属ピット: 柱穴状小ピットは検出されていない。

遺物出土状況: 覆土、床面付近から遺物は出土していない。

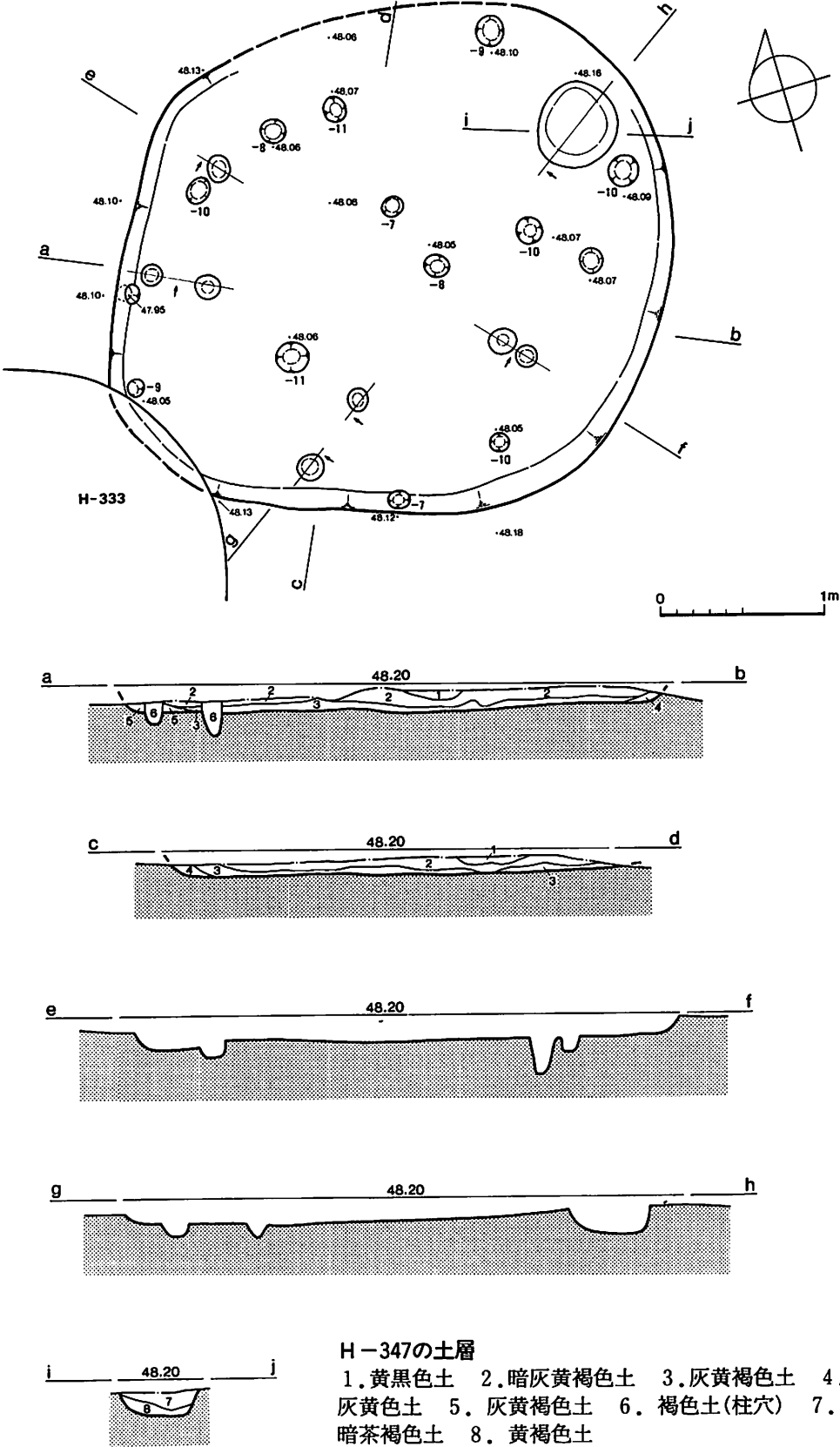
覆土はⅢb層と黄色土がまじり合った土である。全体に砂質土で、ほぼ床直上まで混合土が堆積しており、炭化物が混入していた(和泉田)。

H-346



図Ⅲ-301 H-346実測図

H-347



図Ⅲ-302 H-347実測図

H-347 (図III-302 図版90-2)

位置: 55-61・62 56-61・62 規模: 3.30m/3.10m×——/——×0.10m

床面積: (7.73m<sup>2</sup>) 平面形: 隅丸方形 長軸方向: N-70°-W

検出・掘り込み面: V層中で検出された。掘り込み面はIII b層下位と考えられる。

重複関係: H-333より古い住居跡である。

時期: 不明

床面: 検出面からV層を10cmほど掘り込んで構築されている。ほぼ平坦で、堅くしまっている。

壁: 検出面からの壁高は8cmで、床面からの立ち上がりは丸味があり、傾斜はゆるやかである。

炉跡: 焼土などは検出されていない。

付属ピット: 北東壁際で、0.53m×0.48m、深さ0.12mの円形状のピットが検出されている。柱穴状小ピットは21個検出されている。1個は壁面にあり、内傾する。12個は壁際から50cmの範囲内にある。

遺物出土状況: 覆土、床面付近から遺物は出土していない(谷島)。

H-348 (図III-303 図版90-3)

位置: 53-62 54-62 規模: 4.20m/4.10m×3.25m/3.15m×0.10m 床面積: 10.79m<sup>2</sup>

平面形: 長円形 長軸方向: N-30°-E

検出・掘り込み面: V層中で検出された。掘り込み面はIII b層下位と考えられる。

重複関係: H-336より古い住居跡であるが、H-331との新旧関係は明瞭でない。

時期: 不明

床面: 検出面からV層を10cmほど掘り込んで構築されている。ほぼ平坦で、堅くしまっている。

壁: 検出面からの壁高は8cmで、床面からの立ち上がりは丸味があり、傾斜は急角度である。

炉跡: 焼土などは検出されていない。

付属ピット: 柱穴状小ピットは24個検出されている。16個は壁から50cmの範囲内にある。H-336の床面から本住居跡に伴うと考えられる柱穴状小ピットが1個検出されている。

遺物出土状況: 覆土、床面付近から遺物は出土していない(谷島)。

H-349 (図III-304 図版90-40)

位置: 54-61・62 55-61・62 規模: 3.80m/3.65m×——/——×0.12m 床面積: 不明

平面形: 円形? 長軸方向: N-65°-E

検出・掘り込み面: V層中で検出された。掘り込み面はIII b層下位と考えられる。

重複関係: H-331・334・329と重複しており、これらより古い住居跡である。

時期: 不明

床面: 検出面からV層を12cmほど掘り込んで構築されている。西側へゆるやかに傾斜している。ほぼ、平坦で、堅くしまっている。

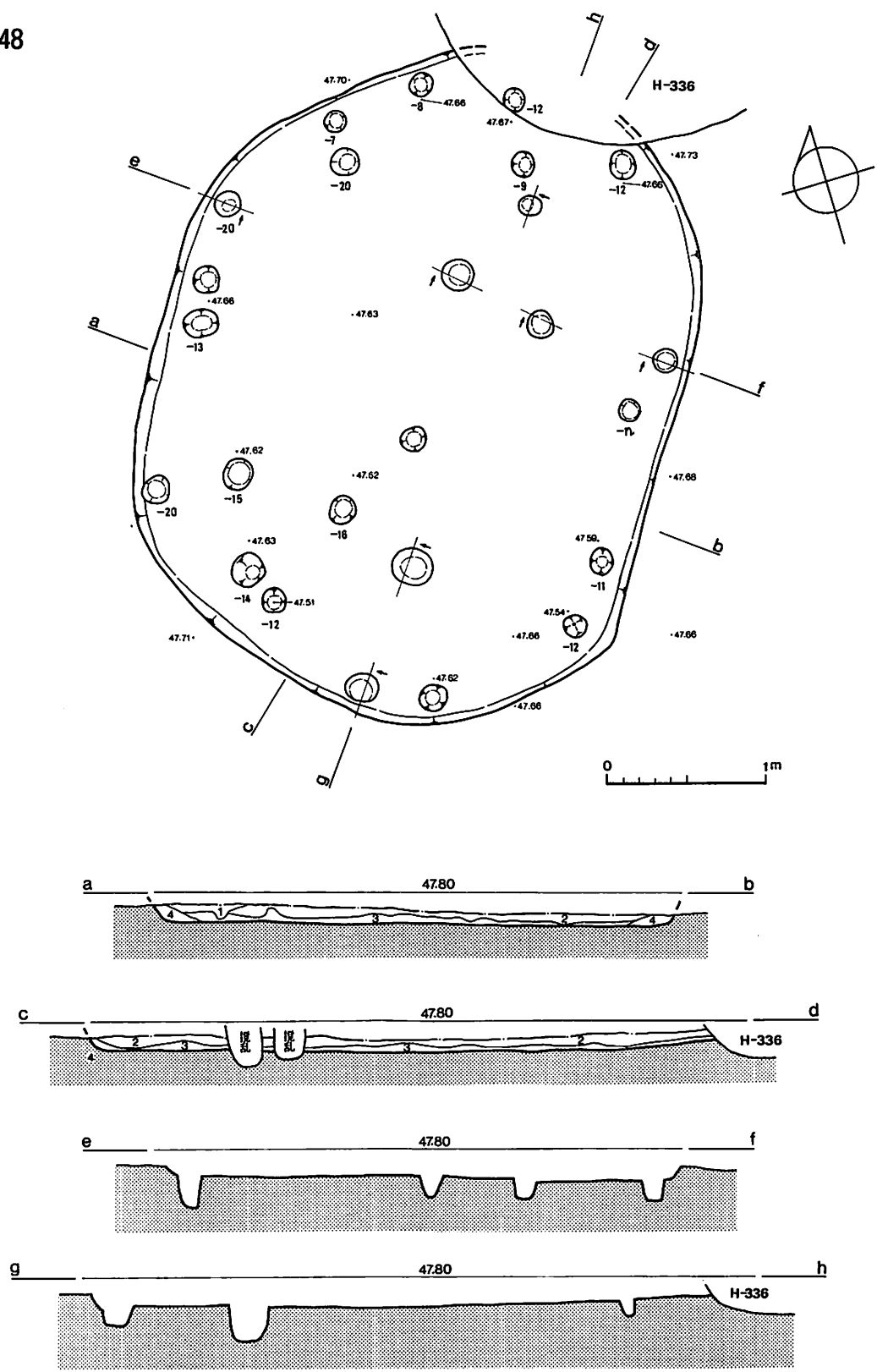
壁: 検出面からの壁高は7cmで、床面からの立ち上がりは丸味があり、傾斜はやや急角度である。

炉跡: 焼土などは検出されていない。

付属ピット: 柱穴状小ピットは12個検出されている。4個は壁際から50cmの範囲内にある。H-331とH-334の床面から本住居跡に伴うと考えられる柱穴状小ピットが3個検出されている。

遺物出土状況: 覆土、床面付近から遺物は出土していない(谷島)。

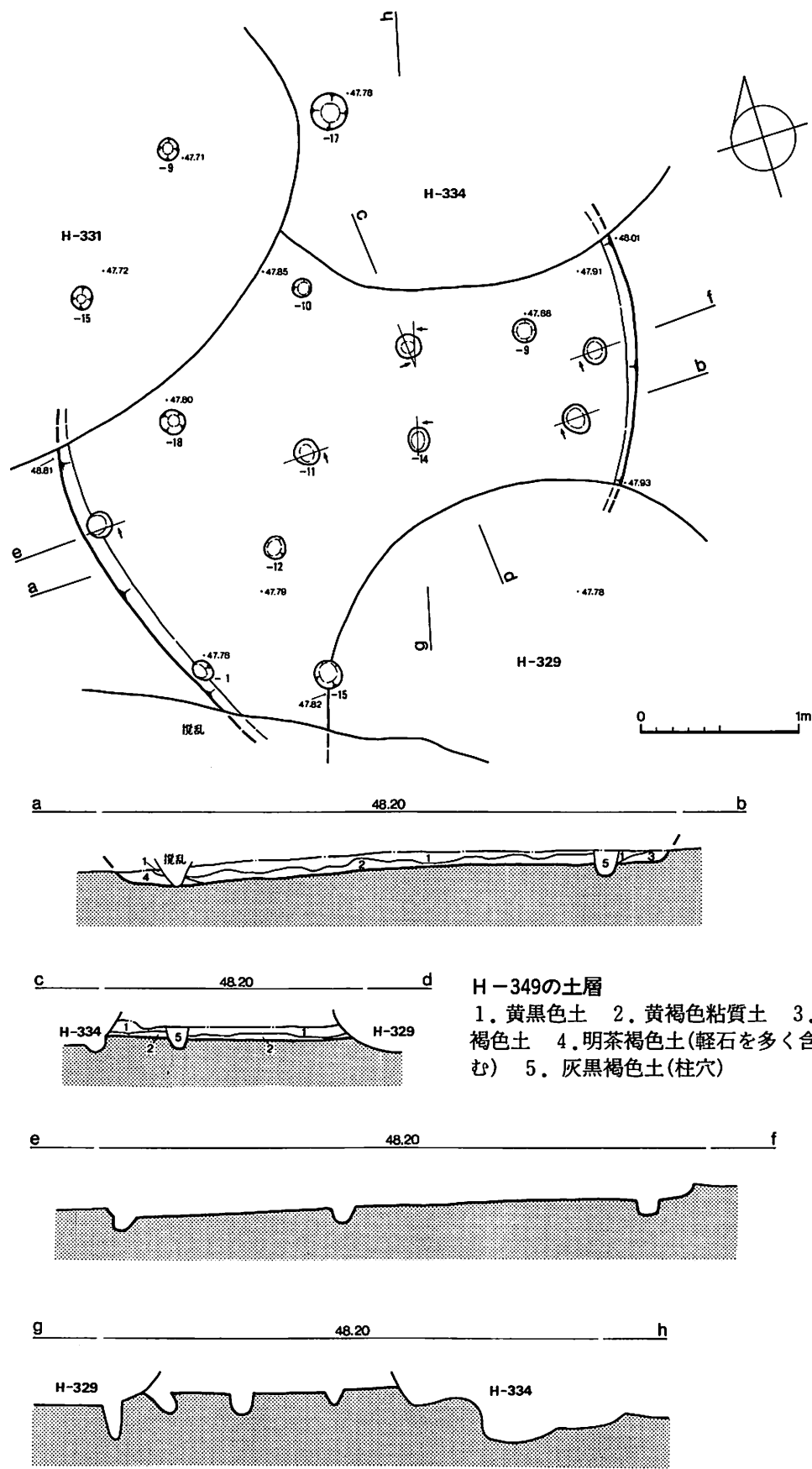
H-348



H-348の土層  
1. 灰黒褐色土 2. 暗灰黄褐色土 3. 灰黄褐色粘質土 4. 明灰茶褐色土

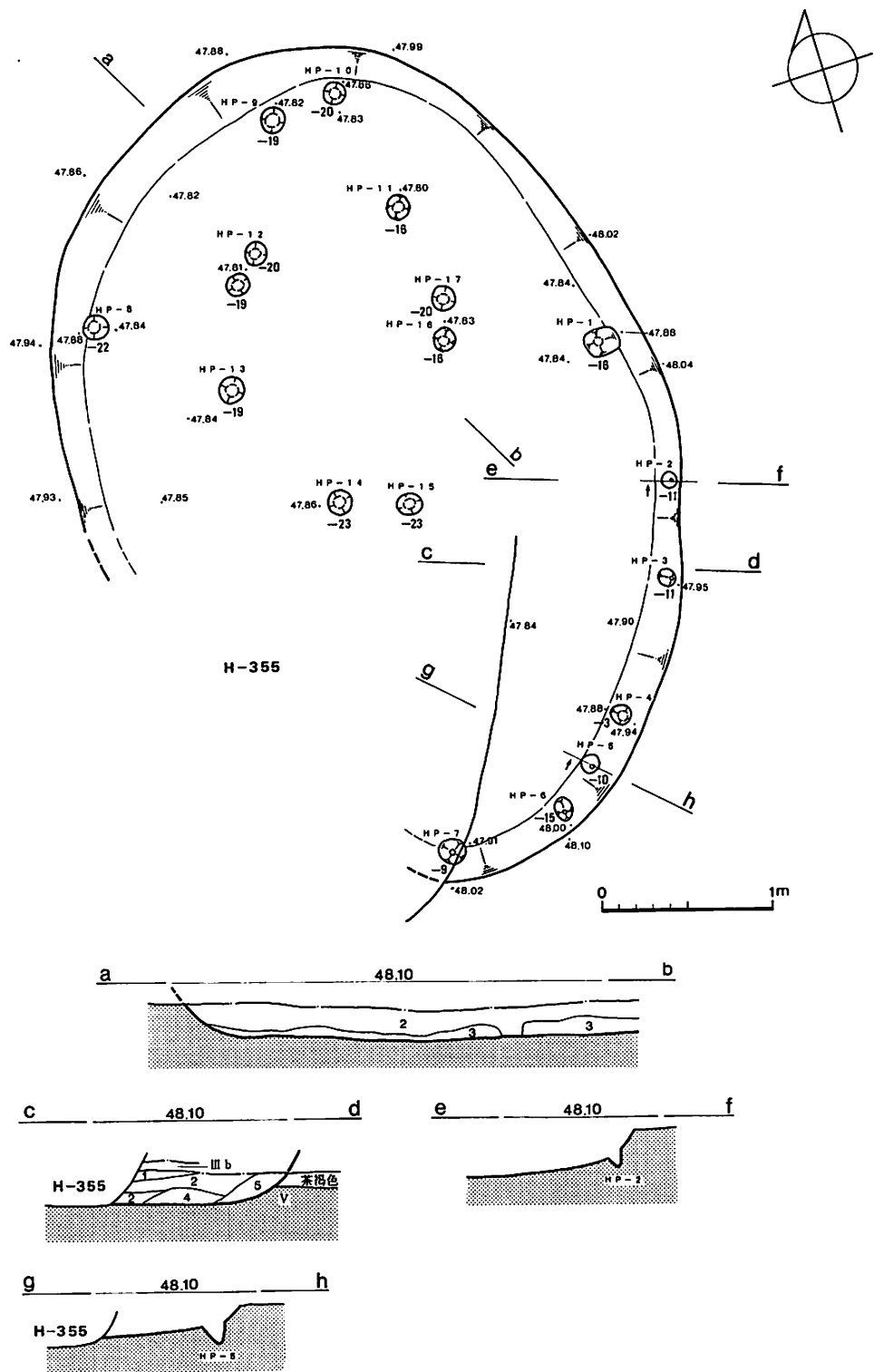
図Ⅲ-303 H-348実測図

H-349



図Ⅲ-304 H-349実測図

H-350



H-350の土層  
1. III b>V 2. 暗茶褐色土(①+③) 3. 暗茶灰色土 4. 茶灰色土(砂質。軽石混入) 5. 茶褐色土(砂質。軽石混入)

図Ⅲ-305 H-350実測図

H-350 (図Ⅲ-305 図版91-1 図版105-4)

位置: 54-54・55 55-54・55 標高48.02m~48.10mのほぼ平坦地。

規模: (4.88m)/(4.40m)×(3.40m)/(3.20m)×0.12m 床面積: (12.14m<sup>2</sup>) 平面形: 楕円

形状 長軸方向: N-S

検出・掘り込み面: IV層直上でIII b + 黄色土の広がりが見られ、弧状に広がる暗茶褐色土の落ち込みを検出した。掘り込み面はIII b層中と思われる。重複関係: H-355・378と重複しており、H-355より古く、H-378より新しい住居跡である。

時期: 不明

床面: V層中に構築されている。僅かに東→西へ傾斜している。ほぼ平坦で、堅い。

壁: 立ち上がりはゆるやかな傾斜である。検出面からの壁高は、9 cm~19cmである。

炉跡: 焼土などは検出されていない。

付属ピット: 柱穴状小ピットは17個検出されている。HP-1~10は壁際から壁面にあり、やや内傾している。HP-11~17は直立し、HP-12・15は主柱穴と思われる。

遺物出土状況: 覆土、床面付近から遺物は出土していない。

覆土はIII b層と黄色土がまじり合った土である。全体に砂質で、覆土中・下層には軽石が多く混入している(和泉田)。

## 2 土 墳

P-75 (図Ⅲ-332 図版91-2)

位置: 37-44 標高44.83m前後の平坦地。 規模: 1.00m/0.78m×0.84m/0.74m×0.37m

平面形: 隅丸長方形 長軸方向: N-70°-E

検出面: H-172の覆土中で茶褐色土の落ち込みを検出した。 掘り込み面: III b層上層付近か?

重複関係: H-172と重複しており、これより新しい。

覆土: 墳底直上まで軟質で、汚れた茶褐色土が厚く堆積している。全体に埋め戻し状の汚れた混合土である。

墳底: V層を深く掘り込んで構築されている。皿状である。 壁: ほぼ垂直的に立上がっている。

遺物出土状況: 遺物は出土していない。

性格: 覆土は埋め戻し状の汚れた混合土であり、土墳墓かとも考えられるが、明瞭でない。

時期: 不明(縄文時代早期中葉)(和泉田)。

P-81 (図Ⅲ-332 図版91-3)

位置: 39-42 標高44.85m前後の平坦地。 規模: 1.20m/0.99m×1.07m/0.88m×0.40m

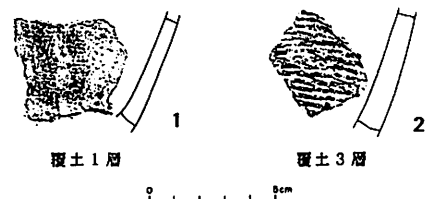
平面形: 隅丸長方形 長軸方向: N-63°-E

検出面: H-174の覆土中で暗茶黄色土の落ち込みを検出した。 掘り込み面: III b層中と思われる。

重複関係: P-82、H-209と重複しており、これらより新しい。

覆土: 覆土上層はIII b層と黄色土がまじり合った土である。

覆土下層は褐色土と黄色土と軽石がまじり合った埋め戻し状



図Ⅲ-306 P-81出土土器



の混合土である。墳底直上の暗黄茶色土（土層図④）には炭化物が混入している。

墳底：V層中に構築されている。中央部は若干皿状になっているが、ほぼ平坦で、堅い。

壁：立ち上がりはほぼ急傾斜である。

遺物出土状況：遺物は覆土中からI群D1類土器1点、石錘1点が出土した。

性格：覆土下層は軽石、黄色土などが混入する埋め戻し状の土であるが、性格などは明瞭でない。

時期：不明(縄文時代早期中葉)(和泉田)。

#### 土器(図Ⅲ-306 図版194-5)

いずれもI群D1類の体部小破片である。1は覆土1層から出土した無文土器、2は覆土上のⅢ層から出土した貝殻条痕があるものである(森)。

#### P-82(図Ⅲ-332 図版91-4)

位置：38-42・43 39-42・43 標高44.78m～44.88mのほぼ平坦地。 規模：2.33m/1.96m×(2.04m)/(1.75m)×0.32m 平面形：長円形状 長軸方向：N-70°-E

検出面：H-167の南北セクションの南側でH-167に切られている遺構の落ち込みを確認した。またH-174の覆土中で暗茶褐色土の落ち込みを検出した。 掘り込み面：Ⅲb層中と思われる。

重複関係：P-81、H-167・174・209と重複しており、P-81、H-167より古く、他より新しい。

覆土：覆土上層は暗茶褐色土(混合土)、覆土中～下層は暗茶褐色土に黄色土が混入する埋め戻し状の土である。

墳底：V層中に構築されており、ほぼ平坦で、堅い。 壁：立ち上がりはほぼ急傾斜である。

遺物出土状況：東壁で流れ込み状の土器片(I群D1類土器)1点、覆土1層でI群E類土器3点、南西側の覆土下層ですり石、礫が各1点ずつ出土している。

性格：覆土は埋め戻し状の汚れた混合土が墳底まで堆積しているが、性格などは明瞭でない。

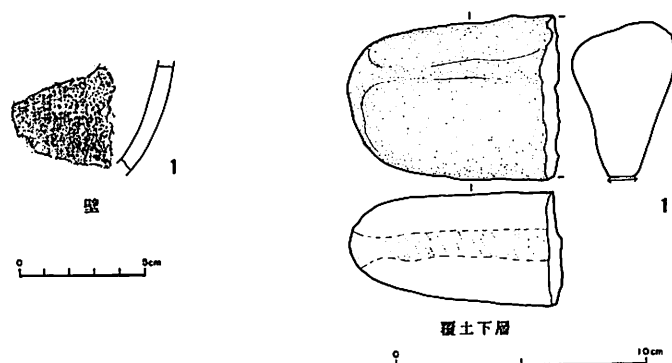
時期：不明(縄文時代早期中葉)(和泉田)。

#### 土器(図Ⅲ-307 図版194-6)

1は壁面から出土したI群D1類土器である(森)。

#### 石器(図Ⅲ-307 図版194-7)

1はすり石の破損品である。



図Ⅲ-307 P-82出土遺物

P-85 (図III-333 図版91-5)

位置：41-45 標高45.33m前後の平坦地。 規模：1.51m/1.28m×——/——×0.23m

平面形：隅丸方形形状か？

検出面：H-321の覆土中で黒褐色土の落ち込みを検出した。 重複関係：H-161・321と重複しており、H-321より新しいが、H-161との新旧関係は明瞭ではない。

覆土：黒褐色土と黄色土がまじり合った土である。

墳底：V層中に構築されている。中央部が若干くぼんでいるが、ほぼ平坦で堅い。

壁：立ち上がりはゆるやかな傾斜である。

遺物出土状況：土層図④・⑤上面でI群D1類土器が水平の状態では16点出土した。また北壁では流れ込み状にI群D1類土器が2点、同D2類土器が9点出土した。墳底から石錘が1点出土している。出土土器には、壁と墳底直上という接合関係が見られる。

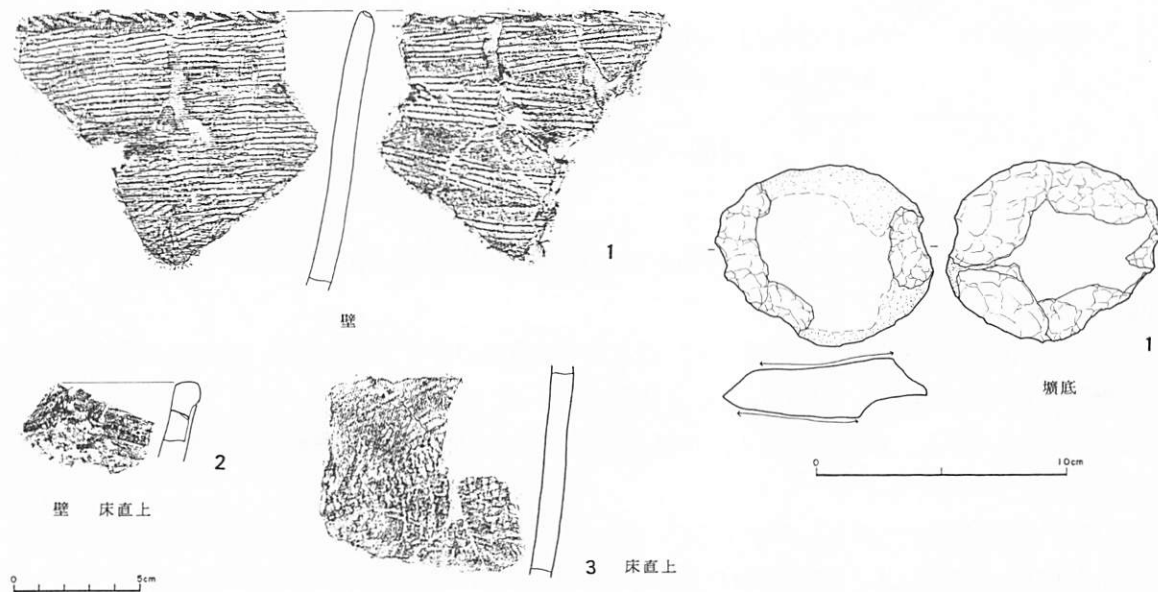
性格：不明 時期：I群D1類土器を伴う縄文時代早期中葉の時期のものと思われる(和泉田)。

土器 (図III-308 図版194-8)

2は壁面出土の土器片と墳底直上の土器片が接合したもの。器表面が剥落しており文様は定かでないが、I群D1類か。1は壁から出土したI群D2類の口縁部破片。内外両面に貝殻条痕が施されている。3は墳底直上出土の体部破片。腹縁文を条痕で擦り消している。胎土に小礫をいくつか含む(森)。

石器 (図III-308 図版194-9)

1は石錘。両面にすり面をもつ。砥石からの転用時に、縁部を打ち欠いたと思われる(宗像)。



図III-308 P-85出土遺物

P-86 (図III-333 図版92-1)

位置：42-43 標高45.50m前後の平坦地。 規模：——/——×1.04m/0.70m×0.32m

平面形：楕円形状？ 長軸方向：N-42°-W

検出面：IV層直上で黒褐色土の落ち込みを検出した。

重複関係：H-232・236と重複しており、これらより新しい。

覆土：黒褐色土と黄色土がまじり合った土で、ほぼ墳底直上まで堆積している。

墳底：北側は明瞭ではないが、他はV層を浅く掘り込んで構築されている。ほぼ平坦で、堅い。

壁：立ち上がりは急傾斜である。

遺物出土状況：遺物は26点出土し、この内訳は土器19点、石器7点である。墳底・墳底直上からはI群D1類土器が1点、石錘1点が出土した。覆土中からはI群D1類土器が18点出土している。覆土1層と覆土2層出土の土器が接合している。

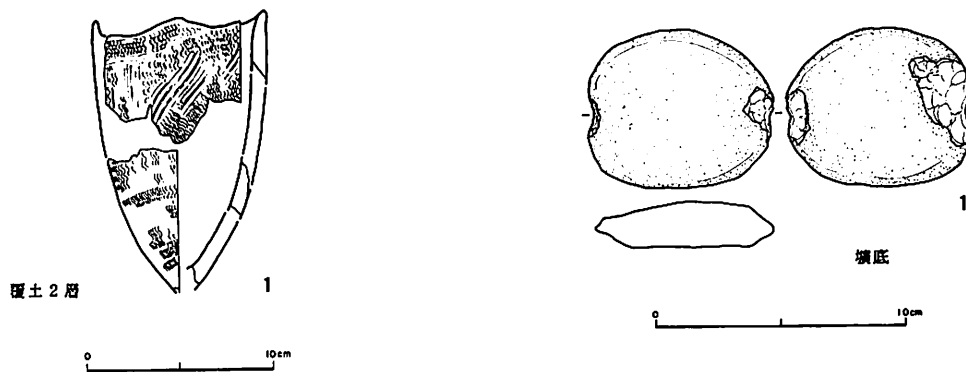
性格：不明 時期：I群D1類土器を伴う縄文時代早期中葉の時期のものと思われる(和泉田)。

#### 土器(図Ⅲ-309 図版194-10)

1は覆土2層と包含層Ⅲ層出土の土器片が接合し、体部の一部を欠くが、ほぼ全体の器形を復元できた個体である。口径10cmに満たない小型の土器で、4つの波頂部を有する。文様は図正面から見て、右上がりの連続した腹縁文が2ないし3段にわたった施文される(森)。

#### 石器(図Ⅲ-309 図版194-11)

1は石錘である(宗像)。



図Ⅲ-309 P-86出土遺物

#### P-88(図Ⅲ-333)

位置：40-42 規模：(2.13m)/(1.60m)×(1.66m)/(1.20m)×0.32m

平面形・長軸方向：不明

検出面：H-163の東西・南北のセクションによって本遺構の存在を確認した。全体は不明である。

重複関係：H-163と重複しており、これより新しい。

覆土：黒褐色土(軽石、黄色土粒混入)が墳底直上付近まで堆積し、墳底直上には堅い混合土が薄く見られる。

墳底：H-163の床面上である。ほぼ平坦で、堅い。 壁：立ち上がりはやや急傾斜である。

遺物出土状況：本遺構として遺物は取り上げておらず、H-163に混入している。

性格：不明 時期：不明(縄文時代早期中葉)(和泉田)。

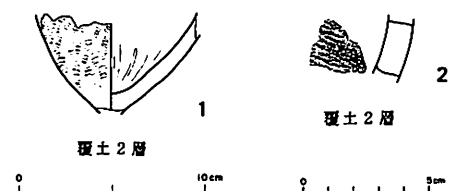
#### P-89(図Ⅲ-333 図版92-2・3)

位置：41-54 標高45.57m前後の平坦地。

規模：1.93m/1.30m×(1.90m)/1.30m×0.32m

平面形：円形状

検出面：Ⅳ層直上で黒褐色土と、その周囲をめぐる円形状



図Ⅲ-310 P-89出土土器

の暗黄灰色土の落ち込みを検出した。

重複関係：なし

覆土：黒褐色土が深く落ち込んでおり、その下には混合土が薄く見られた。全体に軽石を多く混入している。

墳底：V層中深く掘り込まれており、若干凹凸はあるが、全体的に平坦で、軟質である。

壁：立ち上がりは急傾斜である。

遺物出土状況：覆土上のⅢb層で遺物は散らばった状態で少量出土している。覆土2層でI群D1類土器が5点、礫が1点出土した。覆土2層出土の土器片とF-14直上出土の土器片が接合している。

性格：不明

時期：I群D1類土器を伴う縄文時代早期中葉の時期のものと思われる(和泉田)。

土器(図Ⅲ-310 図版195-1)

1・2は覆土2層から出土したI群の底部と体部の小破片で、細分類の判別はできない(森)。

P-99(図Ⅲ-334 図版92-4・5)

位置：39-47 標高44.85m前後の平坦地。 規模：1.17m/0.83m×1.12m/0.68m×0.58m

平面形：長円形 長軸方向：N-50°-W

検出面：H-158の覆土中で茶褐色土の落ち込みを検出した。

重複関係：H-158と重複しており、これより新しい。

覆土：上層は軽石が混入する茶褐色土、中層はⅢb層と黄色土がまじり合った土、下層は軽石が混入する汚れた黒褐色土(混合土)である。全体に埋め戻し状の土である。

墳底：V層を深く掘り込んで構築されている。平坦で、堅い。 壁：立ち上がりはオーバーハングし、中程からラップ状に開口している。

遺物出土状況：覆土中層(土層図⑤)で遺物が多く出土した。覆土中～下層でI群D1類土器が19点出土し、石錘が1点出土している。出土土器には、覆土上・中層とF-14(Ⅱ)と39-46(Ⅱ)・41-44(Ⅱ)(図Ⅲ-311-1)、覆土中層と40-48(Ⅱ)、覆土中層と39-46(Ⅱ)、という接合関係が見られる。

性格：構造的には所謂フラスコ状ピットで、貯蔵穴の可能性はあるが、確証はない。

時期：I群D1類土器を伴う縄文時代早期中葉の時期のものと思われる(和泉田)。

土器(図Ⅲ-311 図版195-2)

1は覆土中層とF-14、T-14などの遺構や、包含層Ⅲ層から出土した土器片が接合したもので、



図Ⅲ-311 P-99出土土器

底部は欠くが口径16cmほどのⅠ群D1類土器である。平縁であり器高のない個体である。口唇部には沈線に貝殻腹縁文を重ねて横走させ、それに3個単位の円形刺突を配する。2は同じく覆土中層から出土したⅠ群D1類土器で、無文である。3は覆土中層から出土したⅠ群D2類土器。4はⅠ群E類に相当する体部破片で、覆土中層から出土した(森)。

P-100 (図Ⅲ-334)

位置：42-42 43-42 標高44.48m前後の平坦地。 規模・平面形・長軸方向：不明

検出面：Ⅳ層直上でⅢb>黄色土の落ち込みを検出した。ただ東側の大半はⅤ層中まで掘り下げられているため、全体は不明である。

重複関係：なし

覆土：残存部分の覆土はⅢb層と黄色土がまじり合った土である。

墳底：Ⅴ層を浅く掘り込んで構築されている。残存部分の墳底は平坦で、軟質。

壁：立ち上がりはゆるやかな傾斜である。

遺物出土状況：覆土、墳底付近から遺物は出土していない。

性格：不明 時期：不明(縄文時代早期中葉)(和泉田)。

P-101 (図Ⅲ-335 図版92-6・7・8)

位置：37-42 標高44.8m~44.89mのほぼ平坦地。

規模：(2.50m)/(2.10m)×2.10m/1.68m×0.30m 平面形：長円形 長軸方向：N-23°-W

検出面：H-213の北壁面で覆土状の土の落ち込みが見られ、Ⅲb層中で乾燥のはなだしい暗褐色土>黄色土の落ち込みを検出した。

重複関係：H-213、P-105・117と重複しており、H-213より古い、P-105・117との新旧関係は明瞭でない。

覆土：覆土上層は暗褐色土>黄色土で軽石を多く含む。覆土下層は黄色土が混入する汚れた混合土である。

墳底：Ⅴ層中に構築され、ほぼ平坦で、堅い。 壁：立ち上がりはゆるやかな傾斜である。

遺物出土状況：覆土上層(土層図①)で遺物が多く出土した。石錘が9点出土している。覆土下層(土層図②)上面でⅠ群D1類土器が内面を上にして一括出土(183点)した。ただ全体に放棄された状態で、散らばっている。出土土器には、覆土1層どうし(図Ⅲ-312-1)、覆土1層と37-42(Ⅲ)(図Ⅲ-312-4)、という接合関係が見られる。

性格：覆土下層は埋め戻し状の混合土であるが、性格・用途などは不明である。

時期：Ⅰ群D1類土器を伴う縄文時代早期中葉の時期のものと思われる(和泉田)。

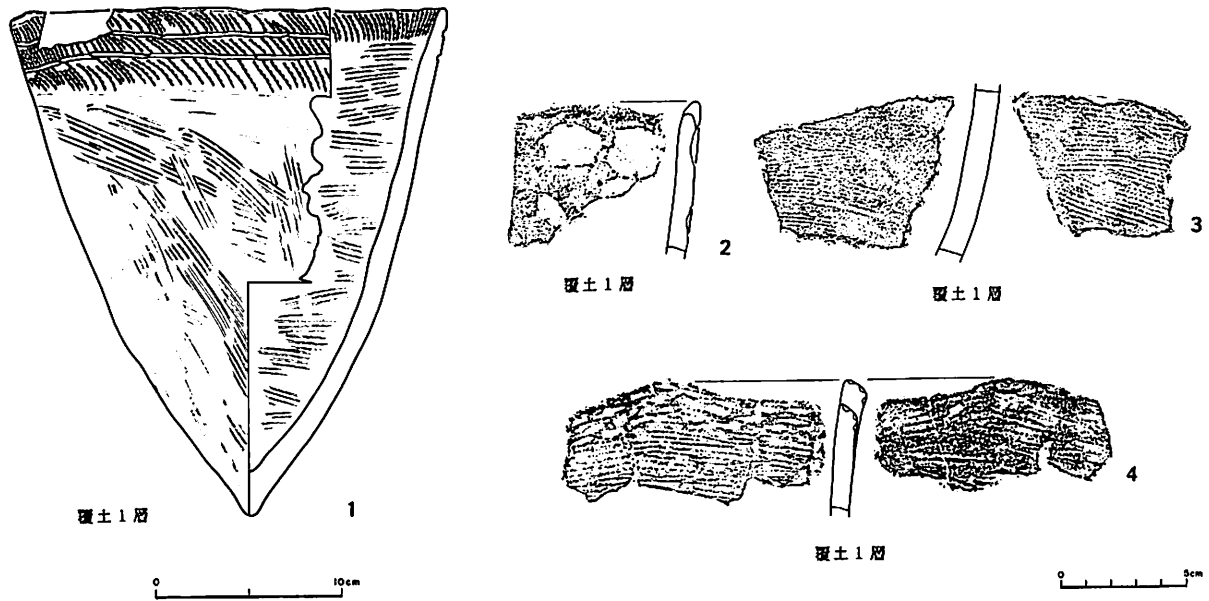
土器(図Ⅲ-312 図版195-3)

図示した土器はすべて覆土1層からの出土である。1は体部の一部を欠くが、ほぼ全体の器形を復元できた個体で、口径24cm、器高23cmをはかる。文様は口唇に2条の平行沈線をめぐらし、その間と上下に3段の貝殻腹縁文を斜位に施文する。口唇部内面にも同様の腹縁文がある。2・3とあわせⅠ群D1類土器である。4はⅠ群D2類土器で、口唇端部に3列の刺突文がある(森)。

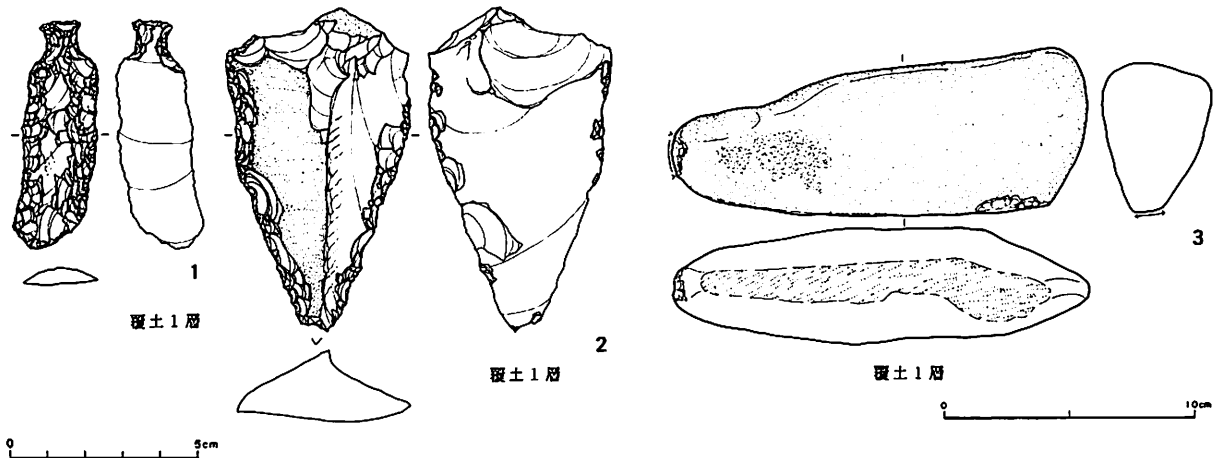
石器(図Ⅲ-313 図版195-4)

1は石匙。2はスクレイパー。刃部には刃潰れが見られる。3はすり石。長軸一端にはたたき痕が

見られる(宗像)。



図Ⅲ-312 P-101出土土器



図Ⅲ-313 P-101出土石器

P-102 (図Ⅲ-334 図版92-9・10)

位置：40-41・42 標高45.23m～45.35mのほぼ平坦地。 規模：1.57m/0.92m×1.24m/0.78m×0.46m

平面形：楕円形 長軸方向：N-30°-W

検出面：Ⅲb層中でⅢa層の落ち込みを検出した。

重複関係：なし

覆土：Ⅲa・Ⅲb層が深く落ち込んでいる。覆土は暗茶褐色土で汚れた混合土である。

墳底：V層を深く掘り込んで構築されている。中央部がくぼみ、半円状である。

壁：立ち上がりはやや急傾斜である。

遺物出土状況：土層図②の上層で石皿が横倒しの状態で出土した。墳底直上で石錘、すり石も出土している。墳底付近からⅠ群D2類土器が2点出土した。出土土器には、覆土上層どうし(図Ⅲ-314-

1)、覆土2層とP-127覆土上層と40-42(Ⅲ)、という接合関係が見られる。

性格：覆土は埋め戻し状の汚れた土で、出土遺物などから考えると、土墳墓の可能性もある。

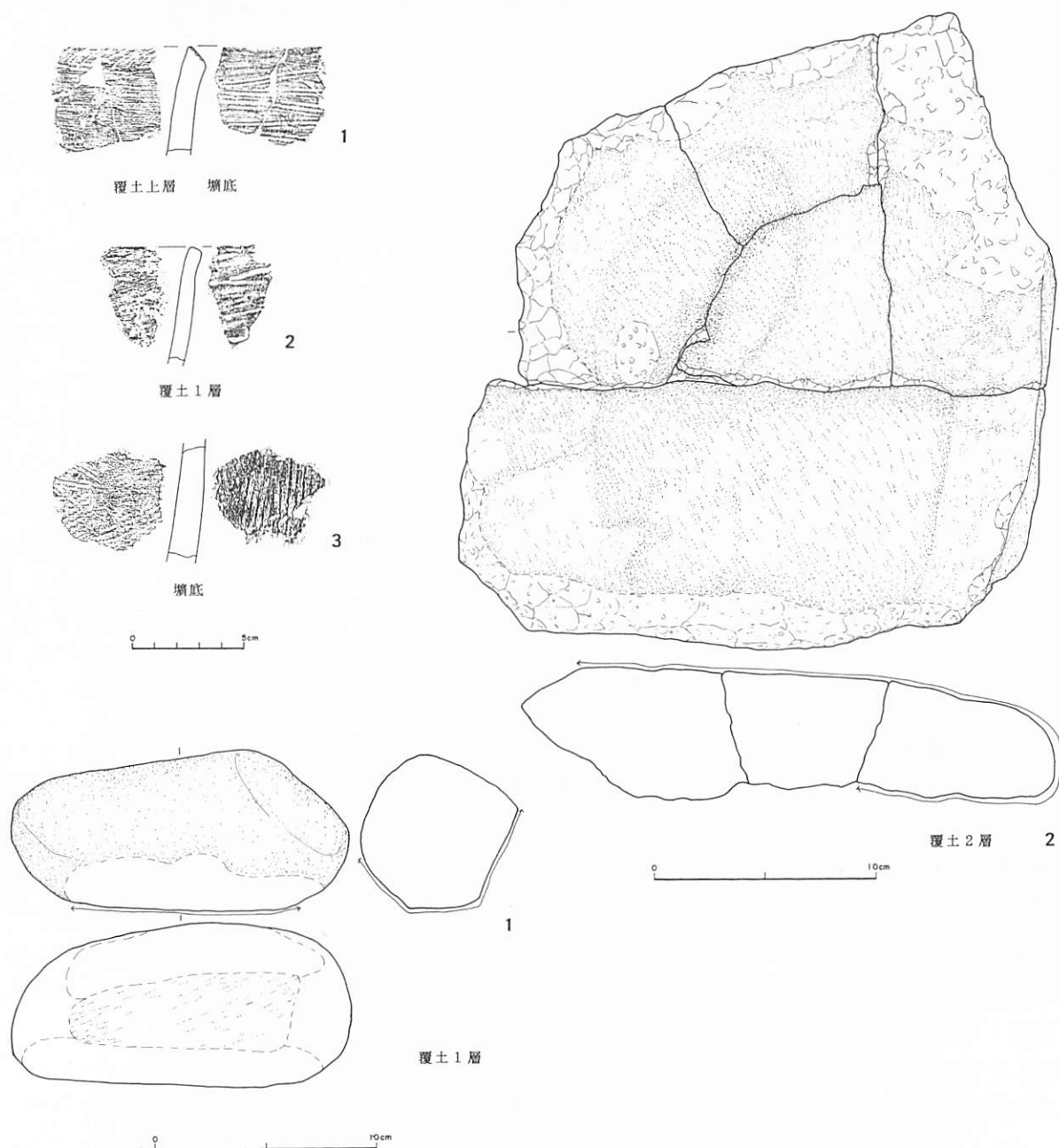
時期：不明(縄文時代早期中葉)(和泉田)。

#### 土器(図Ⅲ-314 図版196-1)

図示した3点はすべてI群D2類土器である。1・2は口縁部の破片で、1には内外面に貝殻条痕、口唇端部に腹縁文が施される。胎土には繊維を含んでいる。覆土上層の破片と墳底部から出土した破片が接合した。2は薄手の無文土器。覆土1層の出土。3は体部破片で、墳底部の出土(森)。

#### 石器(図Ⅲ-314 図版196-2)

1はすり石。幅が広く、目のこまかなすり面をもつ。2は5点に方割した石皿片が接合したもの。各片の使用頻度に差は見られず、方割後の利用がされないまま破棄されたものと思われる(宗像)。



図Ⅲ-314 P-102出土遺物



P-103 (図III-334 図版93-1)

位置: 46-43・44 規模: 1.95m/1.73m×1.40m/1.15m×0.23m

平面形: 長円形 長軸方向: N-50°-E

検出面: III b層中で検出された。

重複関係: H-284より新しい。

覆土: 自然堆積状である。

墳底: H-284の覆土中に構築されている。ほぼ平坦。

壁: 立ち上がりはゆるやかな傾斜である。

遺物出土状況: 覆土中からI群D1類土器が26点出土している。また石鏃も1点出土している。

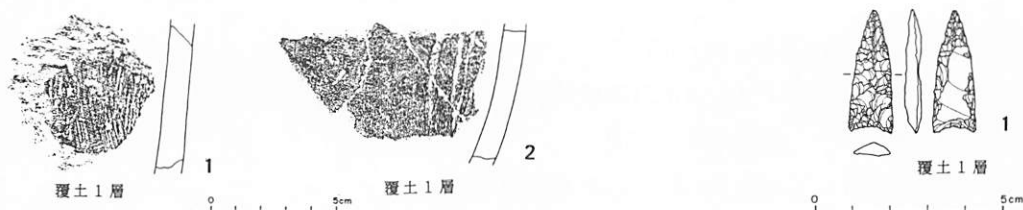
性格: 不明 時期: I群D1類土器を伴う縄文時代早期中葉の時期のものと思われる(谷島)。

土器(図III-315 図版-1)

1・2とも覆土1層から出土した体部破片で、無文のため特徴に乏しいが、I群D1類土器と思われる(森)。

石器(図III-315 図版-2)

1は石鏃。素材の打点側に先端部が作出される(宗像)。



図III-315 P-103出土遺物

P-104 (図III-334 図版93-2)

位置: 40-49 41-49 規模: 1.26m/0.94m×1.13m/0.82m×0.24m

平面形: 円形状 長軸方向: N-65°-E

検出面: III層下部で暗褐色土の落ち込みを検出した。

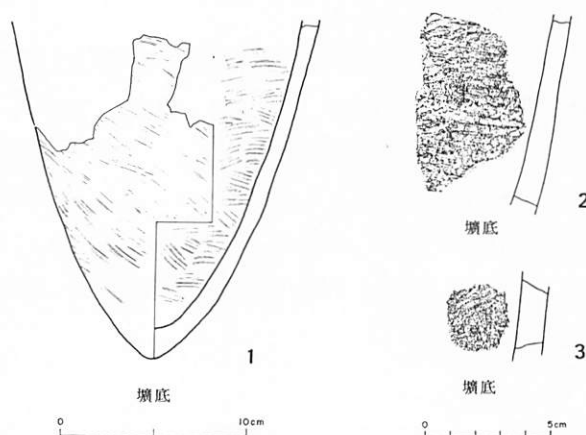
重複関係: H-184より新しい。 覆土: III層が流れ込み、墳底近くに暗褐色土が堆積する。

遺物出土状況: 遺物は土器24点、石器2点が出土している。土器はI群D1類のものが墳底から破片が17点出土した。石器では剥片のみの出土である。

性格: 不明 時期: I群D1類土器を伴う縄文時代早期中葉の時期のものと思われる(村田)。

土器(図III-316 図版197-4)

図示した3点はすべて墳底出土のI群D1類土器である。1は包含層III層出土の土器片と接合した底部で、尖底部まで内外面両面に貝殻条痕が認められ二次焼成により表面が風



図III-316 P-104出土土器

化、磨滅している。2・3は体部破片で、2には押引文がある(森)。

P-105 (図Ⅲ-335 図版93-3)

位置：37-42 標高44.80mの平坦地。

規模：(1.00m)／(0.68m)×(0.96m)／(0.60m)×0.32m

平面形：隅丸長方形か？ 長軸方向：N-71°-W

検出面：P-101の墳底で暗茶灰色土の落ち込みを検出した。

重複関係：P-101と重複しており、これより古い。

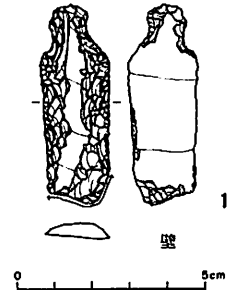
覆土：全体に軽石を多く含んだ汚れた混合土である。

墳底：V層中に構築されている。ほぼ平坦で、堅い。

壁：立ち上がりはゆるやかな傾斜である。

遺物出土状況：南東壁で流れ込んだ状態で石匙が1点出土している。

性格：不明 時期：不明(縄文時代早期中葉)(和泉田)。



図Ⅲ-317

P-105出土石器

石器(図Ⅲ-317 図版197-3)

1は石匙。両側縁には刃潰れが見られる。端部は摩耗している(宗像)。

P-106 (図Ⅲ-335 図版93-4・5)

位置：39-43 標高44.98m～45.04mの平坦地。 規模：1.33m／1.14m×——／——×0.23m

平面形：長円形状か？ 長軸方向：不明

検出面：IV層直上がⅢb黄色土の落ち込みを検出した。

重複関係：H-167・306、P-112と重複しており、H-167より古く、他より新しい。

覆土：Ⅲb層と黄色土がまじり合った土である。

墳底：V層中に構築されている。平坦で、やや軟質。 壁：立ち上がりは急傾斜である。

遺物出土状況：覆土、墳底付近から遺物は出土していない。

性格：不明 時期：不明(縄文時代早期中葉)(和泉田)。

P-107 (図Ⅲ-336 図版93-6・7)

位置：38-43 標高44.89m前後の平坦地。 規模：——／——×(1.40m)／(1.23m)×0.23m

平面形・長軸方向：不明

検出面：H-308の覆土中で黒味のある暗褐色土の落ち込みを検出した。

重複関係：H-167・308、P-111と重複しており、H-167より古く、他より新しい。

覆土：Ⅲb層と黄色土のまじり合った土である。全体に粘質である。

墳底：V層を浅く掘り込んで構築している。ほぼ平坦で、堅い。 壁：立ち上がりは急傾斜。

遺物出土状況：覆土、墳底付近から遺物は出土していない。

性格：不明 時期：不明(縄文時代早期中葉)(和泉田)。

P-108 (図Ⅲ-336 図版93-8・9)

位置: 37-43 38-43 標高44.88m前後の平坦地。 規模: ———/———×1.92m/1.60m×0.22m

平面形・長軸方向: 不明

検出面: H-308の覆土中で黒味のある暗褐色土の落ち込みを検出した。

重複関係: H-165・308と重複しており、H-165より古く、H-308より新しい。

覆土: Ⅲb層と黄色土がまじり合った土である。

墳底: V層を浅く掘り込んで構築されている。平坦で、堅い。 壁: 立ち上がりは急傾斜である。

遺物出土状況: 覆土、墳底付近から遺物は出土していない。

性格: 不明 時期: 不明(縄文時代早期中葉)(和泉田)。

P-109 (図Ⅲ-336 図版93-10 図版94-1)

位置: 38-42・43 標高44.89m前後の平坦地。

規模: 1.74m/1.52m×1.63m/1.36m×0.23m

平面形: 長円形 長軸方向: N-25°-W

検出面: H-308の覆土中で黒味のある暗褐色土の落ち込みを検出した。

重複関係: H-308と重複しており、これより新しい。

覆土: 覆土上層には汚れた暗茶灰色土が薄く見られた。他はⅢb層と黄色土がまじり合った土である。

墳底: V層を浅く掘り込んで構築されている。平坦で、軟質。 壁: 立ち上がりはやや急傾斜。

遺物出土状況: 覆土2層からI群D1類土器が1点、礫が1点出土している。

性格: 不明 時期: I群D1類を伴う縄文時代早期中葉の時期のものと思われる(和泉田)。



図Ⅲ-318

P-109出土土器

土器(図Ⅲ-318 図版197-5)

1は覆土2層から出土した体部の小破片である。I群D1類のものと思われる(森)。

P-110 (図Ⅲ-336 図版94-2・3)

位置: 37-41・42 標高44.78mの平坦地。 規模: (1.20m)/(1.00m)×0.96m/0.78m×0.24m

平面形: 隅丸長形状? 長軸方向: N-58°-E

検出面: P-101の墳底でⅢb+黄色土の混合土の落ち込みを検出した。

重複関係: H-239、P-101と重複しており、P-101より古く、H-239より新しい。

覆土: Ⅲb層と黄色土がまじり合った土である。

墳底: V層中に構築されている。ほぼ平坦で、堅い。 壁: 立ち上がりは急傾斜である。

遺物出土状況: 覆土、墳底から遺物は出土していない。

性格: 不明 時期: 不明(縄文時代早期中葉)(和泉田)。

P-111 (図Ⅲ-337 図版94-4・5)

位置: 38-43・44 標高44.80m前後の平坦地。 規模: 2.34m/2.08m×(2.15m)/(1.85m)×

0.24m 平面形: 楕円形状 長軸方向: N-48°-E

検出面: H-308の覆土中でⅢb>黄色土の落ち込みを検出した。

重複関係: H-167・308、P-107と重複しており、H-167、P-107より古く、H-308より新しい。

覆土: Ⅲb層と黄色土がまじり合った土である。

墳底：Ⅴ層を浅く掘り込んで構築されている。ほぼ平坦で、やや軟質。

壁：立ち上がりはやや急傾斜である。

遺物出土状況：覆土から剝片が1点出土しただけである。

性格：不明 時期：不明(縄文時代早期中葉)(和泉田)。

P-112(図Ⅲ-337 図版94-6・7)

位置：39-43・44 標高45.01m~45.14mのほぼ平坦地。

規模：(1.92m)/(1.70m)×1.74m/1.27m×0.29m

平面形：楕円形状 長軸方向：N-49°-E

検出面：H-306の覆土中でⅢb層の落ち込みを検出した。

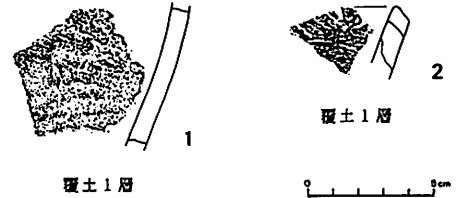
重複関係：H-173・306、P-106・130と重複しており、  
H-173、P-106より古く、他より新しい。

覆土：Ⅲb層と黄色土がまじり合った土である。南壁際の墳底直上には黒褐色土の堆積が見られた。

墳底：Ⅴ層上にあり、平坦である。 壁：立ち上がりは急傾斜である。

遺物出土状況：覆土1層からⅠ群D1類土器8点、同D2類土器1点、石器では石核1点、石錘1点が出土している。

性格：不明 時期：Ⅰ群D1類土器を伴う縄文時代早期中葉の時期のものと思われる(和泉田)。



図Ⅲ-319 P-112出土土器

土器(図Ⅲ-319 図版197-6)

いずれも覆土1層から出土したもので、1は無文の体部破片。Ⅰ群D1類のものと思われる。2は波頂部の先端部の破片で、外側に傾斜した切り出し状の口唇端部に貝殻腹縁文が、口唇部には貝殻条痕がわずかに認められる(森)。

P-113(図Ⅲ-337 図版94-8)

位置：55-65・66 標高48.10m~48.24mのほぼ平坦地。

規模：1.95m/1.63m×1.53m/1.19m×0.25m

平面形：隅丸長方形 長軸方向：N-40°-E

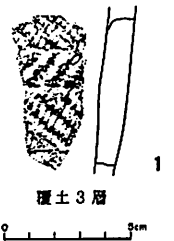
検出面：Ⅳ層直上でⅢb層の落ち込みを検出した。 重複関係：なし

覆土：上層は粘質の黒褐色土、下層は汚れた混合土である。全体に埋め戻し状の土である。Ⅲb層上にP.D.4が薄く見られた。

墳底：Ⅴ層中に構築されている。平坦で、堅い。 壁：立ち上がりは急傾斜である。

遺物出土状況：覆土3層で縄文時代前期に相当する土器片が1点出土している。

性格：不明 時期：不明(和泉田)。



図Ⅲ-320  
P-113出土土器

土器(図Ⅲ-320 図版197-7)

1は覆土3層から出土したⅡ群の破片である(森)。

P-114(図Ⅲ-337 図版94-9)

位置：54-63・64 標高47.83m前後の平坦地。

規模：1.10m/0.98m×(0.87m)/(0.70m)×0.18m

平面形：楕円形状 長軸方向：N-45°-E

検出面：Ⅳ層直上でⅢb層、Ⅲb>黄色土の落ち込みを検出した。 重複関係：なし

覆土：上層はⅢb層と黄色土がまじり合った土で、墳底直上には軽石、黄色土が混入した汚れた土が堆積していた。

墳底：Ⅴ層を浅く掘り込んで構築されており、平坦で、堅い。 壁：立ち上がりはやや急傾斜である。

遺物出土状況：覆土、墳底付近から遺物は出土していない。

性格：不明 時期：不明(和泉田)。

P-115 (図Ⅲ-338 図版94-10・11)

位置：45-45 標高45.63m前後の平坦地。 規模：1.28m/1.08m×(1.04m)/(0.96m)×0.22m

平面形：楕円形状 長軸方向：N-57°-E

検出面：H-244・287の床面、H-319の覆土上で黒褐色土の落ち込みを検出した。

重複関係：H-244・287・319と重複しており、H-319より新しいが、他との新旧関係は明瞭でない。

覆土：上層は黒褐色土で、下層は軽石、黄色土などが混入する汚れた混合土である。

墳底：Ⅴ層を浅く掘り込んで構築されている。ほぼ平坦で、堅い。 壁：立ち上がりはやや急傾斜。

遺物出土状況：覆土、墳底付近から遺物は出土していない。

性格：不明 時期：不明(縄文時代早期中葉)(和泉田)。

P-116 (図Ⅲ-338 図版95-1・2)

位置：42-49・50 43-49・50 規模：——/——×1.66m/1.33m×0.22m

平面形：楕円形 長軸方法：N-67°-W

検出面：Ⅳ層上面で暗褐色土の落ち込みを検出した。

覆土：Ⅲ層が流れ込み、墳底近くに暗褐色土が堆積する。

遺物出土状況：遺物は剝片16点出土している。

性格：不明 時期：不明(村田)。

P-117 (図Ⅲ-338)

位置：48-47 規模・平面形・長軸方向：不明

検出面：遺構調査後のⅤ層上面で検出した。

重複関係：H-269・272・278と重複しており、これらより古い。

覆土：Ⅳ>Ⅴの暗黄褐色土が墳底付近まで堆積している。

墳底：ほぼ平坦。

遺物出土状況：覆土、墳底付近から遺物は出土していない。

性格：不明 時期：不明(縄文時代早期中葉)(倉橋)。

P-118 (図Ⅲ-338 図版95-3)

位置：47-47 規模・平面形・長軸方向：不明

検出面：遺構調査後のⅣ層上面で検出した。

重複関係：H-268・269と重複しており、これらより古い。

覆土：覆土上層はⅢ>Ⅳの暗褐色土、覆土下層はⅣ>Ⅴの暗黄褐色土である。

墳底：ほぼ平坦であるが、一部に凹凸がある。V層を10cmほど掘り込んで構築されている。

遺物出土状況：覆土、墳底付近から遺物は出土していない。

性格：不明 時期：不明(縄文時代早期中葉)(倉橋)。

P-119 (図Ⅲ-338 図版95-4・5)

位置：38-50・51 規模：1.00m/0.92m×(0.76m)/(0.74m)×0.26m

平面形：楕円形 長軸方向：N-2°-E

検出面：IV層上面で暗褐色土の落ち込みを検出した。

覆土：1層はⅢ層の流れ込み。2層はやや堅い暗褐色土。3層はV層の崩落土。4層は強くしまった灰褐色土。

遺物出土状況：遺物はすべて覆土1層から出土した。土器はI群D1類5点、石器はすり石1点、剥片8点が出土した。

性格：壁の大半が崩落しているが、その形態からフラスコ状ピットと考えられる。

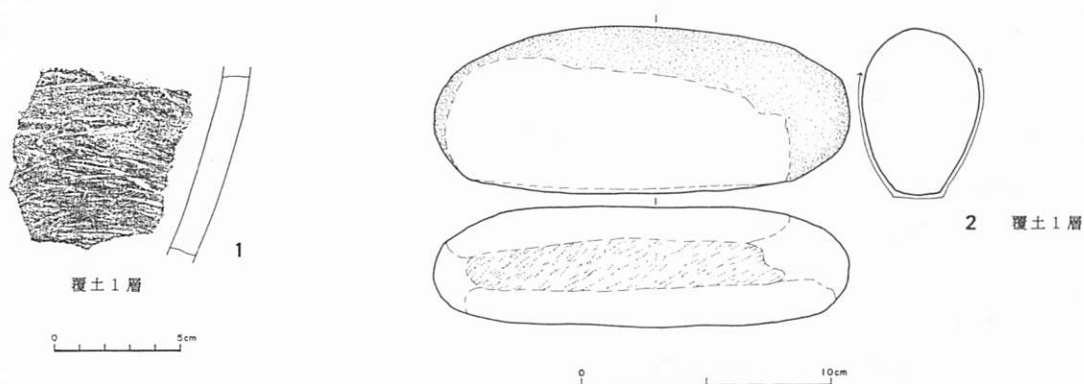
時期：不明(縄文時代早期中葉)(村田)。

土器(図Ⅲ-351 図版197-8)

1は覆土1層から出土したI群D1類の体部破片である(森)。

石器(図Ⅲ-351 図版497-9)

1はすり石である(宗像)。



図Ⅲ-321 P-119出土遺物

P-120 (図Ⅲ-339 図版95-6・7)

位置：57-67 標高48.34m前後のほぼ平坦地。 規模：1.70m/1.29m×0.86m/0.66m×0.22m

平面形：不整楕円形 長軸方向：N-9°-E

検出面：V層中で黒褐色土の落ち込みを検出した。

重複関係：P-123と重複しており、これより新しい。

覆土：微小の軽石や黄色土が混入した黒褐色土で、全体に砂質土である。

墳底：V層中に構築されており、北西→南東へ若干傾斜している。ほぼ平坦で、やや軟質である。

壁：立ち上がりはゆるやかな傾斜である。

遺物出土状況：覆土、墳底付近から遺物は出土していない。

性格：不明 時期：不明(和泉田)。

P-121 (図III-339 図版95-8・9)

位置: 56-67 標高47.58m~47.85mの斜面上。 規模: (1.70m)/(1.40m)×1.54m/1.28m×0.26m

平面形: 隅丸長方形 長軸方向: N-23°-E

検出面: V層上面で黒色土の落ち込みを検出した。 掘り込み面: III b層中か?

重複関係: H-312、P-124と重複しており、これらより新しい。

覆土: III a層が深く落ち込んでおり、覆土は粘質の暗灰色である。部分的に砂質の暗灰色土も見られた。

墳底: V層中に構築されており、皿状で、堅い。 壁: 立ち上がりはゆるやかな傾斜である。

遺物出土状況: 覆土、墳底付近から遺物は出土していない。

性格: 不明 時期: 不明(和泉田)。

P-122 (図III-339)

位置: 39-52 規模: 0.51m/0.32m×0.36m/0.28m×0.34m

平面形: 円形状

長軸方向: N-63°-W

検出面: IV層上面で研磨石材が一点出土し、その下に黒色土の落ち込みを検出した。

覆土: III層が流れ込み、墳底にはややしまった暗褐色土が堆積している。

遺物出土状況: 覆土中でI群D1類土器4点、研磨石材が1点出土している。

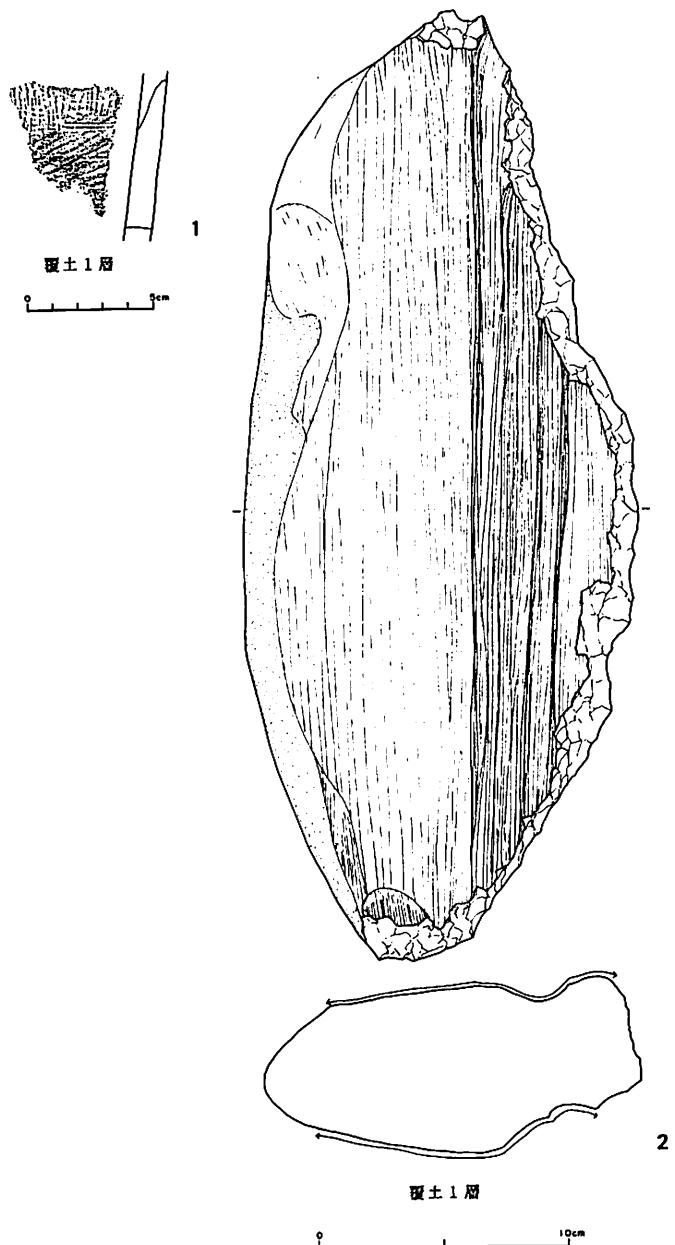
性格: 不明 時期: I群D1類土器を伴う縄文時代早期中葉の時期のものと思われる(村田)。

土器 (図III-322 図版197-10)

1は覆土1層から出土した、I群D1類の体部破片である(森)。

石器 (図III-322 図版197-11)

1は蛇紋岩製の研磨石材。両面を平坦に研磨調整後、粗割された片縁付近の両面が、溝状に研磨される(宗像)。



図III-322 P-122出土遺物



P-123 (図Ⅲ-339 図版95-6)

位置：56-67 57-67 標高48.34m付近のほぼ平坦地。 規模：1.14m/1.02m×(0.66m)/  
(0.52m)×0.08m

平面形：楕円形状 長軸方向：N-23°-E

検出面：V層中でⅢb>黄色土の落ち込みを検出した。 重複関係：P-120より新しい。

覆土：Ⅲb層と黄色土がまじり合った土で、全体に砂質土である。

墳底：V層中に構築されており、北西→南東へやや傾斜している。凹凸があり、軟質。

壁：立ち上がりはゆるやかな傾斜である。

遺物出土状況：覆土、墳底付近から遺物は出土していない。

性格：不明 時期：不明(和泉田)。

P-124 (図Ⅲ-339 図版95-8・10)

位置：55-67 東→西へ傾斜する標高47.71m~47.87mの斜面。 規模：(1.82m)/(1.74m)×  
1.80m/1.45m×0.25m

平面形：卵形? 長軸方向：N-27°-W

検出面：V層上面でⅢa層の落ち込みを検出した。 掘り込み面：Ⅲb層中か?

重複関係：H-312、P-121と重複しており、H-312より新しく、P-121より古い。

覆土：Ⅲa層が深く落ち込んでおり、覆土上層は黒色土に暗灰色土が混入する土で、下層は粘質の暗灰色土である。全体に粘質である。

墳底：V層中に構築されており、やや凹凸があり、軟質。 壁：立ち上がりは急傾斜である。

遺物出土状況：覆土、墳底付近から遺物は出土していない。

性格：不明 時期：不明(和泉田)。

P-125 (図Ⅲ-340 図版95-11)

位置：40-41 41-41 標高45.37m前後の平坦地。 規模：——/——×1.10m/0.83m×0.14m

平面形：隅丸長方形 長軸方向：N-18°-W

検出面：包含層調査中、石皿が出土した。周辺を精査し、Ⅳ層直上で軽石が混入するⅢb>黄色土の落ち込みを検出した。 重複関係：H-299と相接しているが、新旧関係は明瞭ではない。

覆土：Ⅲb層と黄色土がまじり合った土である。全体に汚れた混合土である。

墳底：V層直上に構築されている。平坦であるが、やや軟質。

壁：立ち上がりはゆるやかな傾斜。

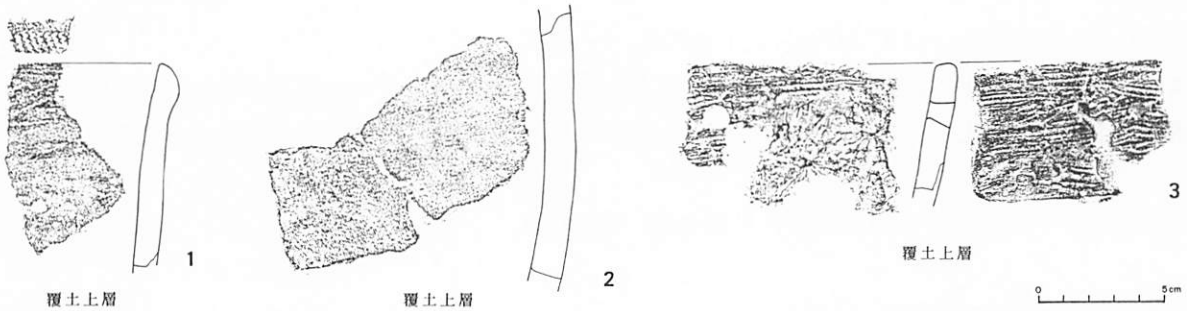
遺物出土状況：覆土上のⅢb層で遺物が多く出土した。出土遺物総数は51点である。この内訳は土器41点、石器10点である。墳底直上では散らばった状態であるが、Ⅰ群D1類土器が2点、剥片1点が出土し、覆土上層でⅠ群D1類土器22点、同D2類17点、石錘3点、石皿1点が出土している。出土土器には、覆土上層と40-41(Ⅱ) (図Ⅲ-323-2)、覆土上層どうし (図Ⅲ-323-1・2) という接合関係が見られる。

性格：石皿が出土し、P-102と良く似た遺物の出土状態であるが、性格・用途などは不明である。

時期：Ⅰ群D1類土器を伴う縄文時代早期中葉の時期のものと思われる(和泉田)。

土器(図Ⅲ-323 図版198-1)

いずれも覆土1層から出土してのものである。1はI群D1類の口縁部破片で、口唇部は肥厚しており、貝殻腹縁文が施文される。口唇部内面にも腹縁文がある。2はI群D1類の無文の体部破片である。3はI群D2類土器と見られる口縁部破片で、器表面が剥落している(森)。



図Ⅲ-323 P-125出土土器

P-126(図Ⅲ-340 図版96-1)

位置: 38-44 標高44.90mの平坦地。 規模: 0.86m/0.64m×0.83m/0.62m×0.17m

平面形: 隅丸形状 長軸方向: N-17°-W 検出面: 包含層調査中に石皿が出土し、周辺を精査したところ、IV層直上で暗茶褐色土の落ち込みを検出した。 重複関係: なし

覆土: IIIb層と黄色土がまじり合った土であるが、全体に軽石が混入し、砂質の汚れた土である。

墳底: V層を浅く掘り込んで構築されている。ほぼ平坦で、堅い。 壁: 立ち上がりはやや急傾斜。

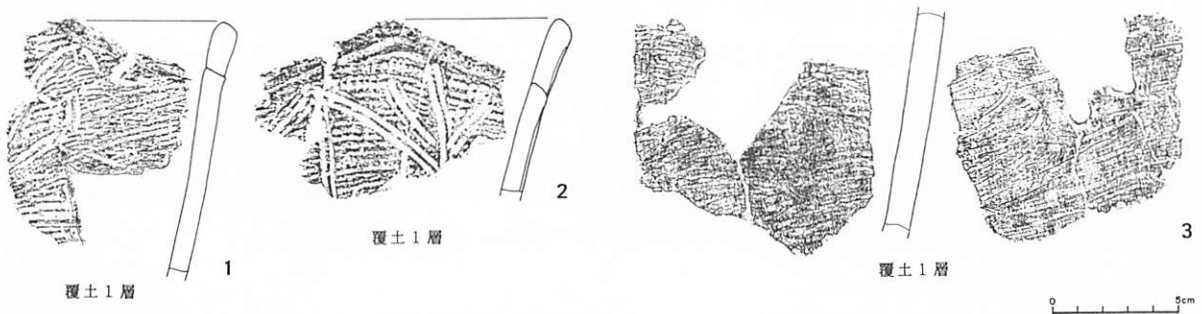
遺物出土状況: 覆土上で石皿が出土し、その下から内面を上にし、押しつぶされた状態で、I群D1類土器が一括出土(14点)した。覆土1層出土の土器と38-40(Ⅲ)出土の土器が接合している(図Ⅲ-324-2)。

性格: 覆土、遺物の出土状況などから、土墳墓の可能性もあるが、明瞭ではない。

時期: I群D1類土器を伴う縄文時代早期中葉の時期のものと思われる(和泉田)。

土器(図Ⅲ-334 図版198-2)

1・3ともに覆土1層から出土したI群D2類土器である。2は包含層Ⅲ層の出土であるが、1と同一個体であることからここに図示した。1・2は波頂部の破片で、地文の押引文の上に半截竹管様の施文具の内面で、縦位と斜行する沈線を描いている。胎土には小礫や風化した岩片を含んでいる。3は体部破片で、内外両面に貝殻条痕がある(森)。



図Ⅲ-324 P-126出土土器

P-127(図Ⅲ-340 図版96-2)

位置: 40-43 標高45.10m前後の平坦地。 規模: —/—×0.97m/0.68m×0.15m

平面形：長円形状か？ 長軸方向：N-18°-W

検出面：包含層調査中石皿が出土した。周辺を精査し、Ⅳ層直上でⅢb>黄色土の落ち込みを検出した。

重複関係：H-163と重複しており、これより古い。H-228との新旧関係は不明である。

覆土：Ⅲb層と黄色土がまじり合った土である。

墳底：Ⅴ層上に構築されており、ほぼ平坦で、堅い。 壁：立ち上がりはゆるやかな傾斜である。

遺物出土状況：覆土上で石皿が1点出土した。これはP-102覆土2層と40-42m出土の石皿破片と接合している。

性格：不明 時期：不明(縄文時代早期中葉)(和泉田)。



覆土上層

図Ⅲ-325

P-127出土土器

土器(図Ⅲ-325 図版198-3)

1は覆土上層から出土したⅠ群の体部小破片である。細分類の判別はできない(森)。

P-128(図Ⅲ-340 図版96-3・4)

位置：38-46 標高44.66m~44.78mのほぼ平坦地。 規模：1.83m/1.60m×1.51m/1.23m×0.40m

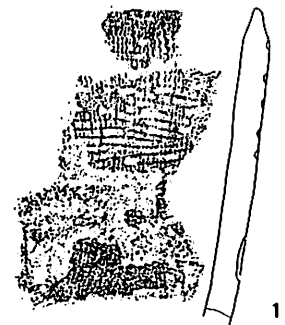
平面形：隅丸長方形 長軸方向：N-21°-E

検出面：Ⅳ層直上でⅢb層、Ⅲb>黄色土の落ち込みを検出した。 重

複関係：なし

覆土：上層はⅢb>黄色土、中~下層は汚れた混合土で、土層図②の上面は非常に堅い。

墳底：Ⅴ層中に構築されており、ほぼ平坦で、堅い。 壁：立ち上がりは急傾斜である。



覆土2層

図Ⅲ-326 P-128出土土器

遺物出土状況：覆土中層中(土層図②)で流れ込み状にⅠ群D1類土器が4点出土している。また覆土中からすり石が1点出土した。

性格：不明 時期：Ⅰ群D1類土器を伴う縄文時代早期中葉の時期のものと思われる(和泉田)。

土器(図Ⅲ-326 図版198-4)

1は覆土上層から出土したⅠ群D1類土器で、口縁部に連続腹縁文を施文し、その上に刺突を加えている。内面は平滑でしっかりしているが、器表面は風化して剥落が著しい(森)。

P-129(図Ⅲ-340 図版96-5)

位置：42-42 標高：45.45mの平坦地。 規模：0.47m/0.15m×0.46m/0.15m×0.30m

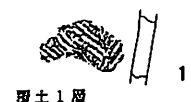
平面形：円形状 検出面：Ⅳ層直上で暗赤紫色土+Ⅲbの落ち込みを検出した。

重複関係：なし

覆土：覆土はほぼ一層で、暗赤紫色土である。ただ土層図④は特に鮮やかな赤紫色土で、土層図⑤には黄色土が混入している。

墳底：Ⅴ層中に構築されており、断面は砲弾形である。

遺物出土状況：墳底直下からⅠ群D1類土器が1点出土した。



覆土1層

図Ⅲ-327

P-129出土土器

性格：不明。土壌を採取し、科学的分析を行った結果、赤紫色土はベンガラと断定できなかった。

時期：Ⅰ群D1類土器を伴う縄文時代早期中葉の時期のものと思われる(和泉田)。

土器(図Ⅲ-327 図版198-5)

1は墳底直下から出土したⅠ群D1類の体部小破片である。薄手で小型の個体と見られ、押引文が認められる(森)。

P-130(図Ⅲ-341 図版96-6・7)

位置：39-43 標高45.10mの平坦地。 規模： $(1.66\text{m}) / (1.22\text{m}) \times (1.60\text{m}) / (1.28\text{m}) \times 0.25\text{m}$

平面形：円形状? 検出面：Ⅳ層中でⅢb>黄色土の落ち込みを検出した。

重複関係：H-173・306、P-112・137と重複しており、P-137より新しく、他より古い。

覆土：Ⅲb層と黄色土がまじり合った土である。

墳底：Ⅴ層中に構築されており、ほぼ平坦で、軟質。 壁：立ち上がりはゆるやかな傾斜である。

遺物出土状況：覆土、墳底付近から遺物は出土していない。

性格：不明 時期：不明(縄文時代早期中葉)(和泉田)。

P-131(図Ⅲ-341 図版96-8)

位置：42-42 標高45.48m前後の平坦地。 規模： $(1.06\text{m}) / 0.84\text{m} \times 0.92\text{m} / 0.70\text{m} \times 0.22\text{m}$

平面形：長円形状 長軸方向：N-5 検出面：Ⅳ層直上でⅢb>黄色土の落ち込みを検出した。

重複関係：H-258・298と重複しており、H-258より古く、H-298より新しい。

覆土：Ⅲb層と黄色土がまじり合った土である。全体に砂質で、軽石が少量混入している。

墳底：Ⅴ層中に構築されている。わずかに中央部がくぼみ、皿状である。

壁：立ち上がりはやや急傾斜である。

遺物出土状況：覆土、墳底付近から遺物は出土していない。

性格：不明 時期：不明(縄文時代早期中葉)(和泉田)。

P-132(図Ⅲ-341 図版96-9・10)

位置：41-42・43 標高45.34m~45.42mのほぼ平坦地。 規模： $(1.29\text{m}) / (0.98\text{m}) \times 1.00\text{m} / 0.72\text{m} \times 0.28\text{m}$

平面形：楕円形状 長軸方向：N-15°-E

検出面：Ⅳ層直上でⅢb>黄色土の落ち込みを検出した。

重複関係：H-230と重複しており、これより古いものを思われる。

覆土：Ⅲb層と黄色土がまじりあった土であるが、墳底直上には汚れた暗黄茶色土が見られ、全体に砂土で、堆積状態は不安定である。

墳底：Ⅴ層中に構築されている。皿状で、軟質。 壁：立ち上がりはやや急傾斜である。

遺物出土状況：覆土、墳底付近から遺物は出土していない。

性格：不明 時期：不明(縄文時代早期中葉)(和泉田)。

P-133(図Ⅲ-341 図版97-1・2)

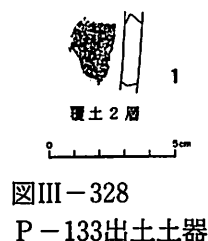
位置：38-47 標高45.74m前後の平坦地。 規模： $1.00\text{m} / 0.76\text{m} \times (1.00\text{m}) / 0.68\text{m} \times 0.18\text{m}$

平面形：隅丸方形形状か？ 検出面：Ⅳ層直上でⅢb＞黄色土の落ち込みを検出した。

重複関係：H-86と重複しており、これより新しい。

覆土：Ⅲb＞黄色土が墳底直上まで深く、厚く堆積している。

墳底：Ⅴ層中に構築されている。皿状で、軟質。 壁：立ち上がりは緩やかな傾斜である。



遺物出土状況：覆土2層(土層図②)中からⅠ群D1類土器が2点出土した。

性格：不明 時期：Ⅰ群D1類土器を伴う縄文時代早期中葉の時期のものと思われる(和泉田)。

土器(図Ⅲ-328 図版198-6)

1は覆土2層から出土Ⅰ群D1類の体部小破片である(森)。

P-134(図Ⅲ-341 図版97-3・4)

位置：42-45 標高45.38m前後の平坦地。 規模：(1.60m)/(1.24m)×1.16m/0.76m×0.23m

平面形：隅丸長方形形状か？ 長軸方向：11-30°-W

検出面：Ⅳ層直上で黒色土の落ち込みを検出した。

重複関係：H-178・326・340 P-136と重複しており、H-178より古く、他より新しい。

覆土：黒色土が墳底直上まで堆積している。

墳底：Ⅴ層上にあり、平坦で、堅い。 壁：立ち上がりはゆるやかな傾斜である。

遺物出土状況：覆土、墳底付近から遺物は出土していない。

性格：不明 時期：不明(縄文時代早期中葉)(和泉田)。

P-135(図Ⅲ-342 図版97-5・6)

位置：46-47 47-47 規模：不明 平面形：楕円形状 長軸方向：不明

検出：Ⅲ層下面。 重複関係：H-163と重複しており、これより新しい。

覆土：上層は暗褐色土、下層は暗黄色褐色土。

墳底：ほぼ平坦で、Ⅴ層を僅かに掘り込んで構築されている。

遺物出土状況：覆土、墳底付近から遺物は出土していない。

性格：不明 時期：不明(縄文時代早期中葉)(和泉田)。

P-136(図Ⅲ-342 図版97-7)

位置：42-45 標高45.25m前後の平坦地。 規模：1.25m/1.08m×0.85m/0.64m×0.13m

平面形：楕円形状 長軸方向：N-S

検出面：P-134の墳底面で暗黄灰色土の落ち込みを検出した。

重複関係：H-326、P-134と重複しており、P-134より古く、H-326より新しい。

覆土：Ⅲb層と黄色土がまじり合った土である。

墳底：Ⅴ層を浅く掘り込んで構築されている。ほぼ平坦で、堅い。 壁：立ち上がりはゆるやかな傾斜である。

遺物出土状況：覆土、墳底付近から遺物は出土していない。

性格：不明 時期：不明(縄文時代早期中葉)(和泉田)。

P-137 (図Ⅲ-342 図版97-8・9)

位置: 39-43 40-43 標高45.05m前後の平坦地。 規模・平面形・長軸方向: 不明

検出面: IV層直上でIII b > 黄色土の落ち込みを検出した。

重複関係: H-306 P-130と重複しており、これらより古い。

覆土: III b 層と黄色土がまじり合った土である。

墳底: V層直上に構築されている。平坦。 壁: 立ち上がりは急傾斜である。

遺物出土状況: 覆土、墳底付近から遺物は出土していない。

性格: 不明 時期: 不明(縄文時代早期中葉)(和泉田)。

P-140 (図Ⅲ-343 図版98-3)

位置: 40-41・42 標高45.02m前後の平坦地。 規模: 0.49m/0.10m×0.44m/0.11m×0.19m

平面形: 円形状 検出面: V層直上でIII b > 黄色土の落ち込みを検出した。 重複関係: なし

覆土: 軽石が混入したIII b 層と黄色土がまじり合った土である。

墳底: V層中に構築されている。断面形は逆三角形状である。

遺物出土状況: 覆土、墳底付近から遺物は出土していない。

性格: 不明 時期: 不明(縄文時代早期中葉)(和泉田)。

P-141 (図Ⅲ-343 図版98-4)

位置: 35-44 標高44.26m前後の平坦地。 規模: 0.56m/0.22m×0.56m/0.25m×0.19m

平面形: 円形状 検出面: V層直上で黒褐色土の落ち込みを検出した。 重複関係: なし

覆土: 上層は小石が混入している黒褐色土、下層はIII b + 黄色土(軽石混入)の土である。

墳底: V層中に構築されており、断面形は半円状である。堅い。

遺物出土状況: 覆土中から礫片が1点、剝片が2点出土した。

性格: 不明 時期: 不明(縄文時代早期中葉)(和泉田)。

P-142 (図Ⅲ-343 図版98-5・6)

位置: 35-44 標高44.17m前後の平坦地。 規模: 0.94m/0.49m×0.97m/0.53m×0.32m

平面形: 円形状 検出面: V層直上でIII b > 黄色土の落ち込みを検出した。

重複関係: なし

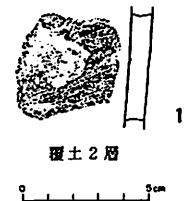
覆土: 上層はIII b 層と黄色土がまじり合った土であるが、小石を多く混入する。

下層は軽石など混入する砂質の混合土である。

墳底: V層中に構築されており、断面形は半円状である。堅い。

遺物出土状況: 覆土中からI群D1類土器1点、剝片1点が出土した。

性格: 不明 時期: 不明(縄文時代早期中葉)(和泉田)。



図Ⅲ-329  
P-142出土土器

土器(図Ⅲ-329 図版198-7)

1は覆土2層から出土したI群D1類と見られる無文の体部破片である。表面が一部剝落している(森)。

P-143 (図III-343 図版98-7)

位置: 35-42 標高: 44.22m前後の平坦地。

規模: 1.18m/0.87m×0.90m/0.63m×0.21m

平面形: 楕円形状 長軸方向: N-74°-E

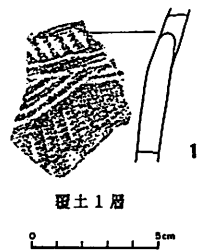
検出面: V層直上で黒褐色土の落ち込みを検出した。

重複関係: なし 覆土: 全体に黒褐色土と黄色土がまじり合った、汚れた混合土である。

墳底: V層中に構築されており、平坦で、堅い。 壁: 立ち上がりはゆるやかな傾斜である。

遺物出土状況: 覆土上層でI群D1類土器1点、剝片2点が出土した。

性格: 不明 時期: I群D1類土器を伴う縄文時代早期中葉の時期のものと思われる(和泉田)。



図III-330  
P-143出土土器

土器 (図III-330 図版198-8)

1は覆土1層から出土したI群D1類の口縁部破片である。口唇は外反し、波状をなすものと見られる。文様は口唇部に縦位の貝殻腹縁文が、その下部にもやはり腹縁文があり、菱形の構成になるものと推定される(森)。

P-154 (図III-345 図版99-6・7)

位置: 54-56 規模: 0.62m/0.46m×0.51m/0.36m×0.18m

平面形: 円形状 長軸方向: N-63°-W

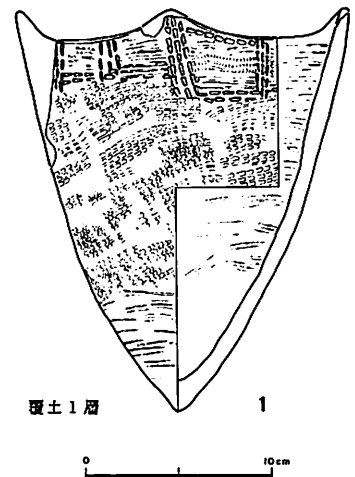
検出面: IV層上面で暗褐色土の落ち込みを検出した。

重複関係: なし 覆土: V層の黄色土がまじる暗褐色土。

遺物出土状況: 遺物は土器41点、石器2点出土している。覆土1層からはI群D2類土器が41点で、同一個体である。石器はすり石と石皿が各1点出土している。

性格: 覆土は埋め戻しと思われ、遺物の出土状況などから土墳墓の可能性が高い。

時期: I群D2類土器を伴う縄文時代早期中葉の時期のものと思われる(村田)。



図III-331 P-154出土土器

土器 (図III-331 図版198-9)

1は覆土1・2層から出土した破片が接合したもので、I群D2類に相当するものと思われる。4つの頂部がある大波状口縁で、底部に向かって急激にすぼまる器形となる。貝殻腹縁を用いた押引文を尖底部を除く全面に施文し、口唇部を垂下する3列の刺突列と口縁部をめぐる2列の刺突列からなる口縁文様帯がある。通常のI群D2類とは異なり、口唇端部は狭く、磨かれて無文となる。胎土には石英と見られる透明な鉱物や長石と見られる乳白色の鉱物粒を含む。繊維の含有はない(森)。

P-155 (図III-345 図版99-8)

位置: 54-56 規模: 0.74m/0.41m×0.72m/0.47m×0.20m 平面形: 円形状

長軸方向: N-30°-W

検出面：Ⅳ層上面で暗褐色の落ち込みを検出した。 重複関係：なし

覆土：Ⅴ層の黄色土がまじる暗褐色土。

遺物出土状況：覆土、墳底付近から遺物は出土していない。

性格：出土遺物はないが、覆土、規模、形態など隣接するP-154と酷似しており、土墳墓の可能性が高い。

時期：Ⅰ群D2類を伴う縄文時代早期中葉の時期のものと思われる(村田)。

P-156 (図Ⅲ-345 図版100-1)

位置：36-44 標高44.36m~44.43mの平坦地。 規模：0.60m/0.33m×0.50m/0.30m×0.20m

平面形：楕円形 長軸方向：N-S

検出面：Ⅴ層直上で黒褐色土の落ち込みを検出した。

重複関係：H-211と重複しているが、新旧関係は不明である。

覆土：黒褐色土とⅤ層がまじり合った土である。

墳底：Ⅴ層中に構築されており、ほぼ平坦で堅い。壁の立ち上がりは急傾斜である。

遺物出土状況：検出面ですり石が2点出土した。これは重なり合い、ほぼ水平の状態である。

性格：不明 時期：不明(縄文時代早期中葉)(和泉田)。

P-138・139・144~153・157~166 (図Ⅲ-342・344・345・346・347 図版97-10・11、図版98-1・2、図版98-8・9・10、図版99-1~5、図版100-1~4)

位置：調査区の最北端部分に点在している。Ⅴ層中まで耕作によって畝状に削平されている。

検出面：すべてⅤ層中で、淡褐色土あるいは褐色土の落ち込みを検出した。

覆土：上層は淡褐色土または褐色土で、下層はほぼ淡青灰色砂質土である。全体に堅く、しまっている。この淡青灰色土は、濁川火山起源のもので、約12,000年前の降下火山灰であることが判明している。

遺物出土状況：遺物は全く出土していない。

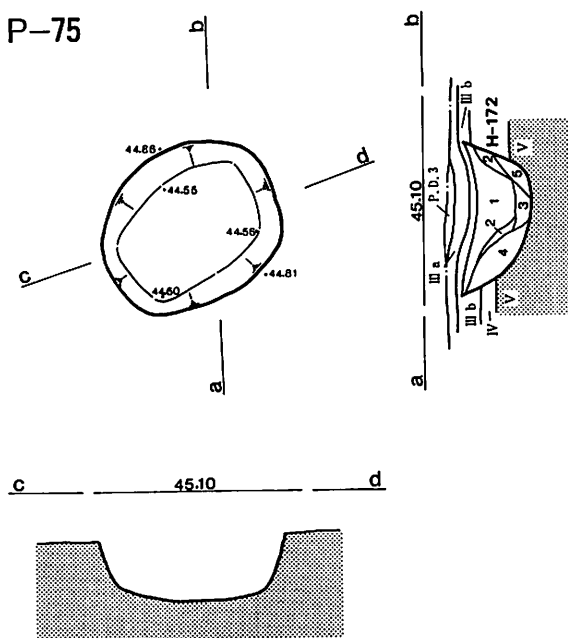
性格：平面形は一定せず、また断面形も明瞭でない。ただ長軸方向は概して北東-南西のものが多い。古い時期の風倒木痕の可能性も考えられるが、平面形、墳底、壁などは堅く、しっかりしていることから遺構として調査した。

時期：不明

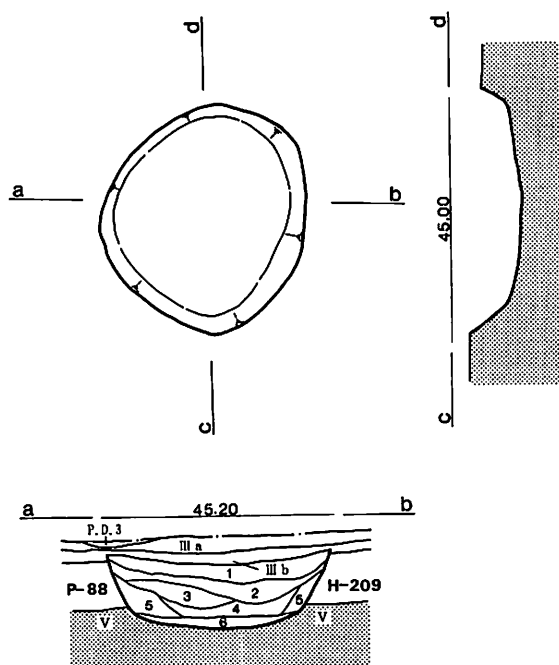
淡青灰色砂質土は流れ込んだ堆積状態ではなく、降下時にくぼ地に堆積したものかあるいは何らかの自然的営為によって入ったものかは判断しかねる(和泉田)。



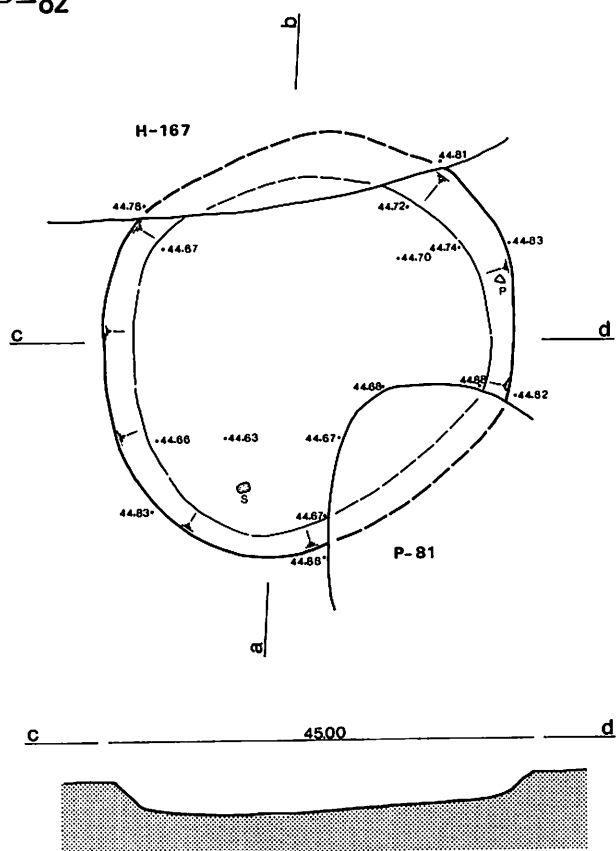
P-75



P-81



P-82



P-75の土層

1. 茶褐色土(軟質) 2. 暗茶黄色土(軟質) 3. 暗茶黄色土(粘質) 4. 茶黄色土(軟質) 5. 茶黄色土(砂質。④より明るい)

P-81の土層

1. III b > V 2. ①+④(暗黄灰色土) 3. ④<黄色土(暗灰黄色土) 4. 暗黄茶色土(炭化物混入) 5. 暗茶黄色土 6. V > ⑤

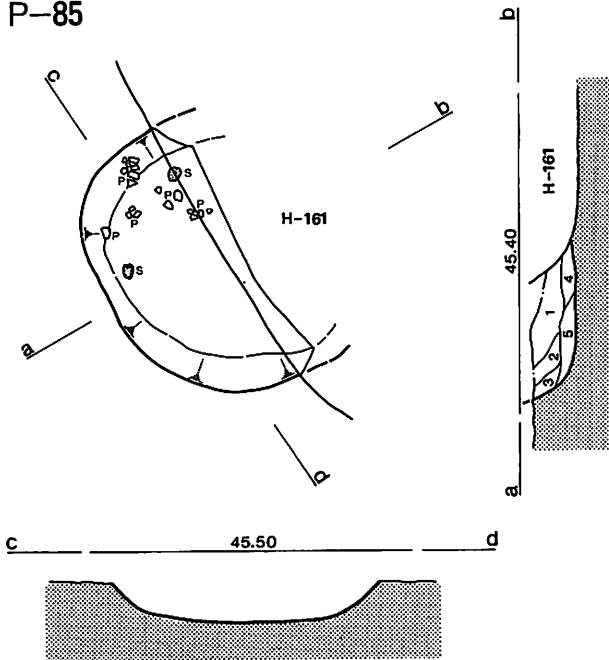
P-82の土層

1. 暗茶褐色土 2. ①+V(暗褐黄色土) 3. ①>V(黄茶色土) 4. ①>V(暗灰茶色土) 5. 暗黄茶色土 6. V > ①

0 1m

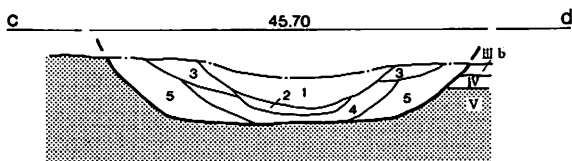
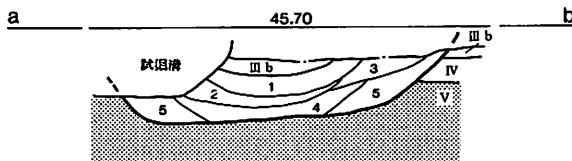
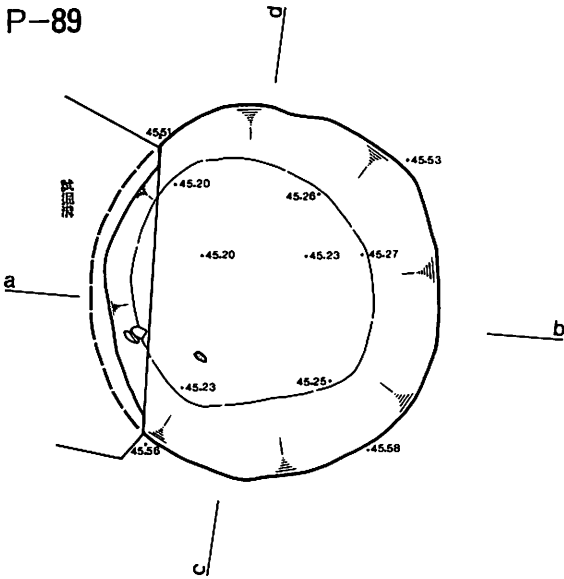
図Ⅲ-332 土壌実測図(1)

P-85

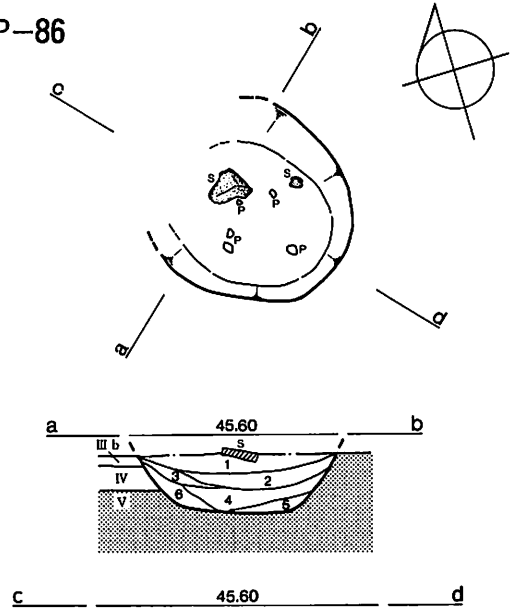


P-85の土層 1. 黒褐色土>黄色土(軽石混入)  
2. 黒褐色土>黄色土 3. 暗褐色土+黄色土 4.  
暗黄褐色土 5. 暗褐黄色土

P-89

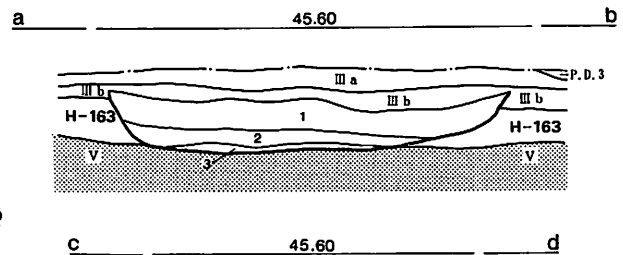


P-86



P-86の土層 1. 黒褐色土>黄色土粒 2. 黒褐色土>黄色土 3. 黒褐色土(砂質) 4. 黒褐色土(粘質) 5. 黒褐色土に黄色土がブロック状に混入(ガラガラしている。砂質) 6. 暗褐黄色土

P-88



P-88の土層

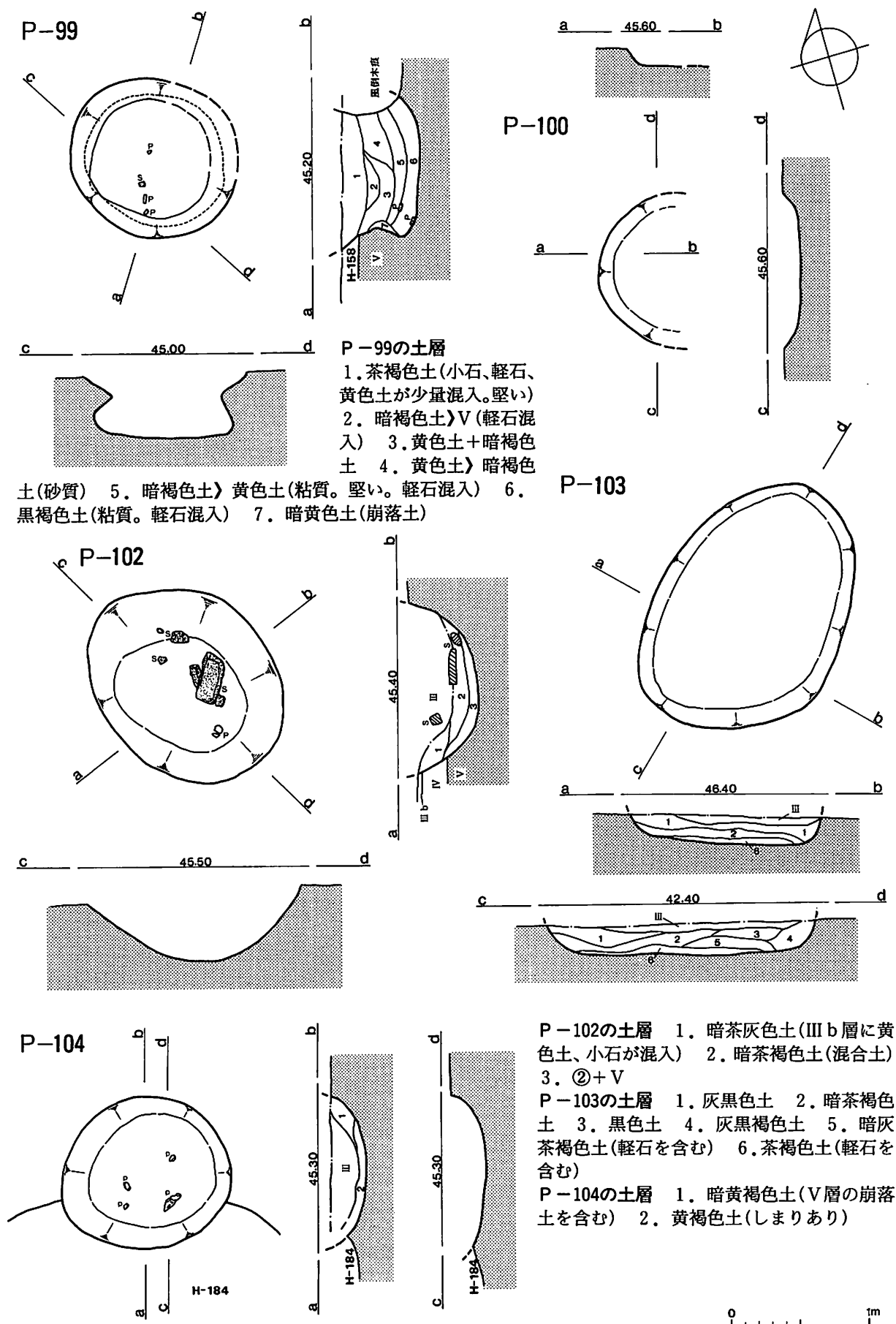
1. 黒褐色土(軟質。軽石、黄色土粒が混入) 2. 暗茶褐色土(堅い。混合土) 3. 暗黄褐色土(②+V。堅い。砂質)

P-89の土層

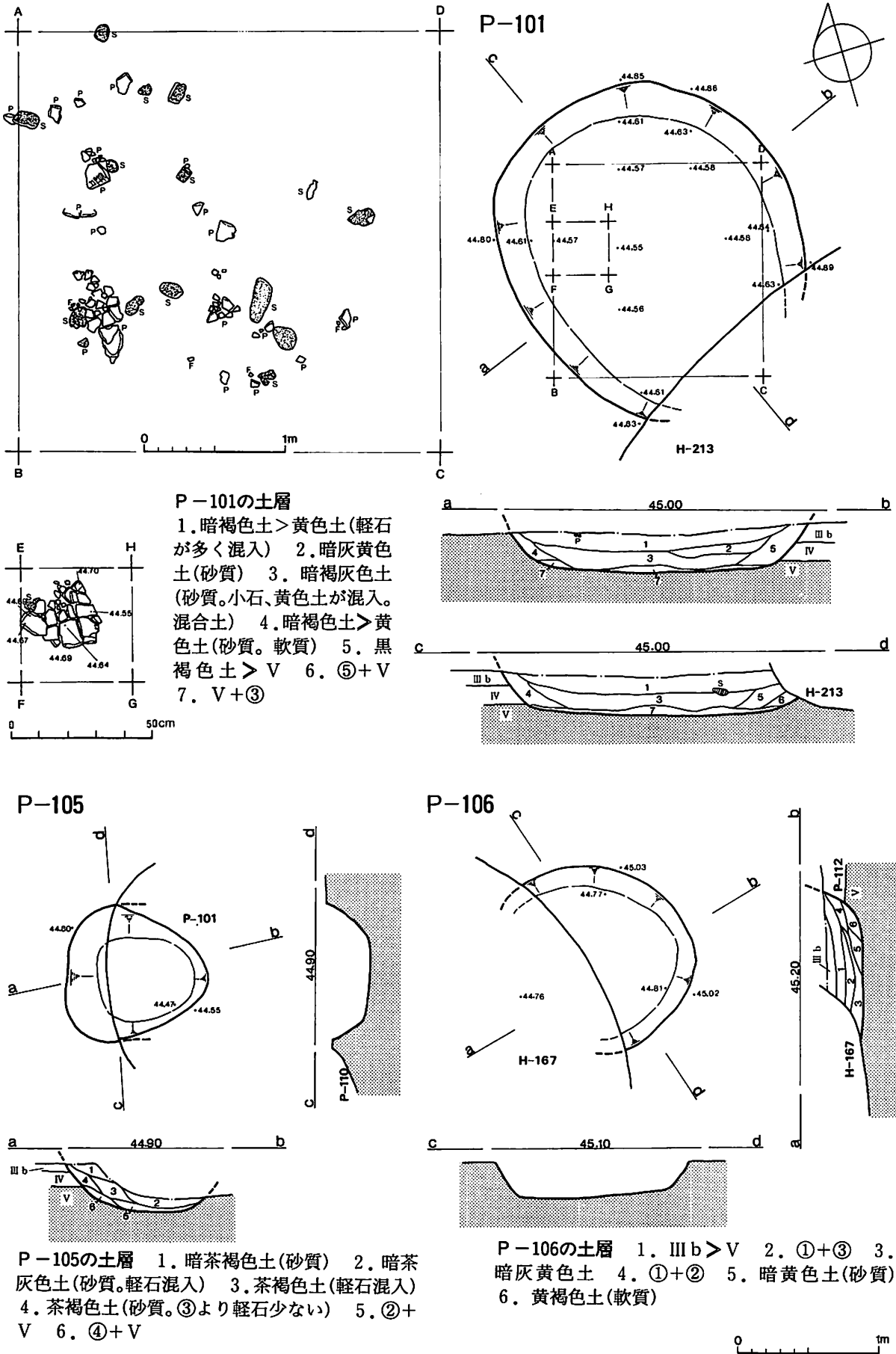
1. 黒褐色土>黄色土(軽石混入) 2. ①に軽石が多量に混入 3. III b>V 4. 暗黄茶色土(軽石が多量に混入) 5. 暗黄茶色土(④より軽石の量が少ない)

0 1m

図Ⅲ-333 土壌実測図(2)

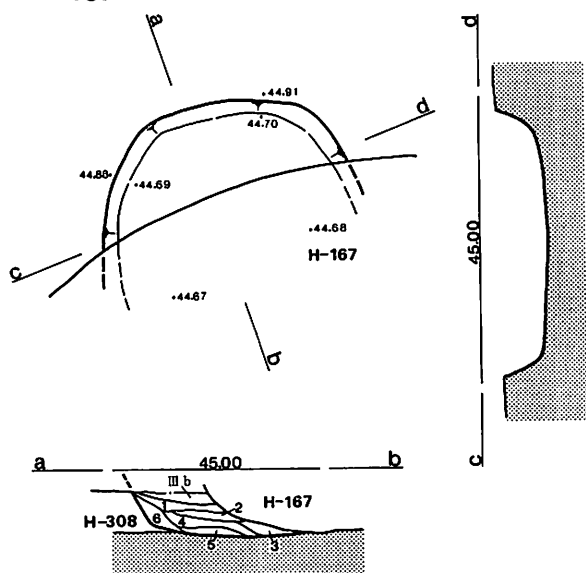


図III-334 土壌実測図(3)



図Ⅲ-335 土壌実測図(4)

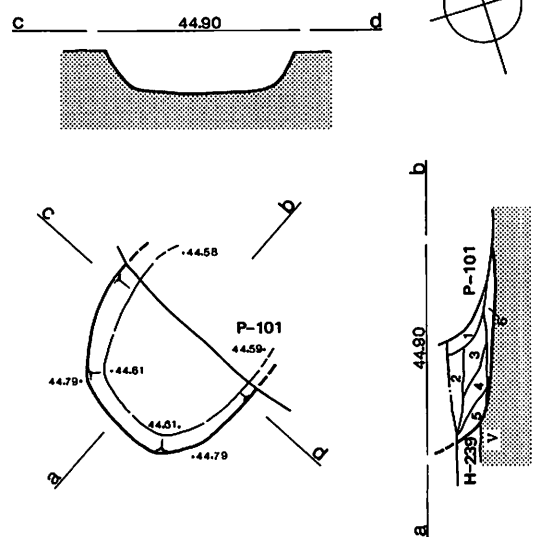
P-107



P-107の土層

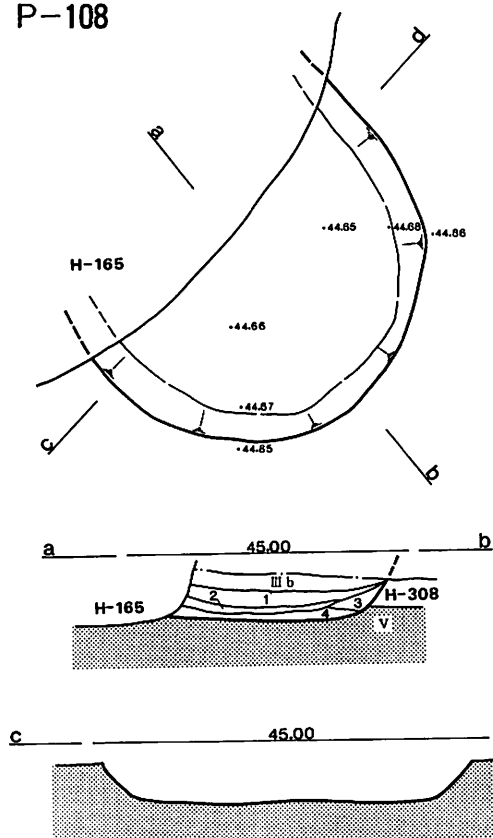
1. III b > V 2. ①+④ 3. 灰褐色土(混合土) 4. 暗黄褐色土(粘質) 5. 暗黄色土(粘質) 6. V > ⑤(軟質)

P-110



P-110の土層 1. 暗褐色土>黄色土(P-101の堀り残しか?) 2. III b > V 3. III b + V(暗黄褐色土。やや粘質。混合土) 4. 黄色土>③(軟質) 5. 暗黄灰色土(軟質) 6. ③+V(混合土)

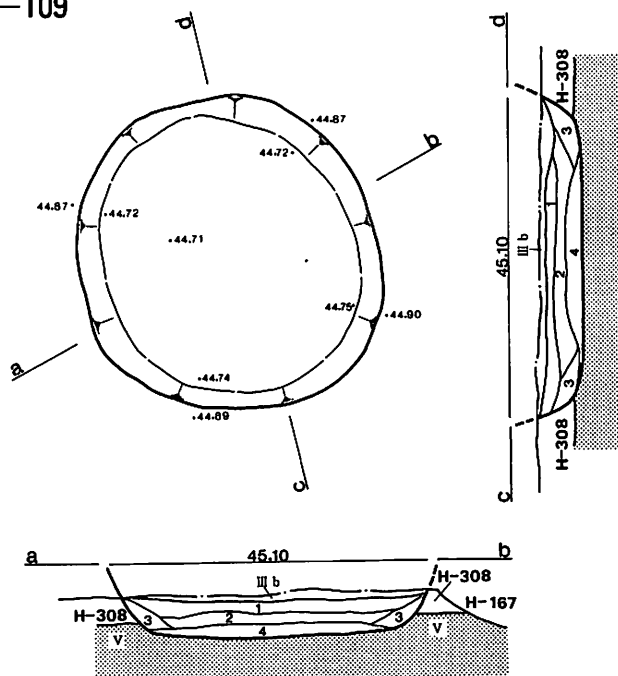
P-108



P-108の土層

1. III b > V 2. ①+④ 3. 黄褐色土(軟質) 4. 暗黄色土(軟質)

P-109

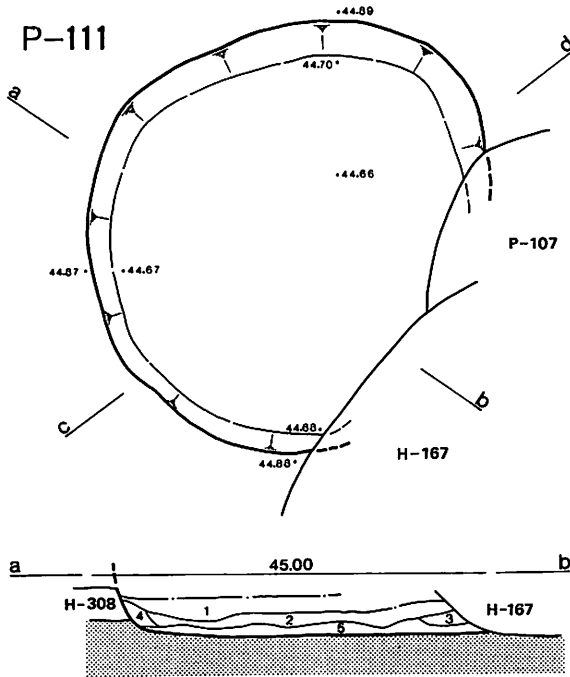


P-109の土層

1. 暗茶灰色土 2. ①+④ 3. 暗黄褐色土(軟質) 4. 暗黄色土(軟質)

0 1m

図III-336 土壌実測図(5)

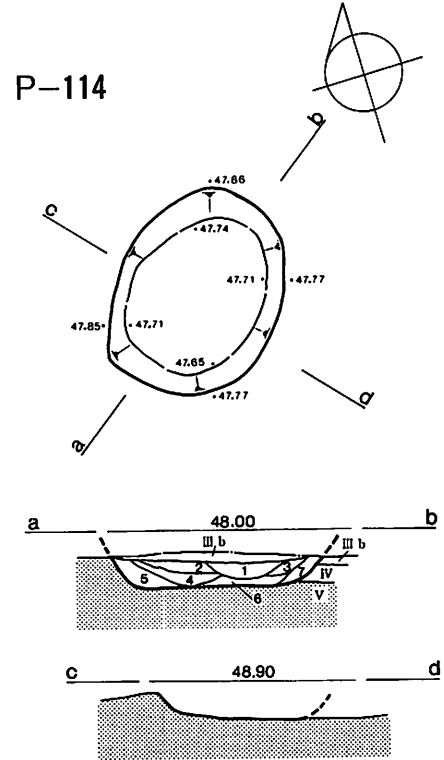


P-111の土層

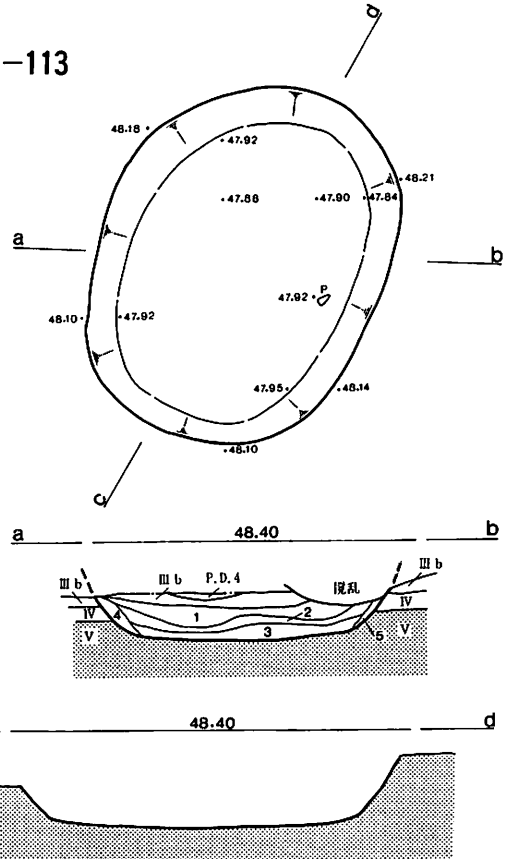
1. III b > V 2. ①+⑤(砂質) 3. 暗茶灰色土(軟質) 4. 褐色土(軟質) 5. 暗黄色土(粘質)

P-114の土層

1. III b > V(強い) 2. III b > V(微小の石を混入する) 3. ②と同質でややIII b層が少ない。4. 暗茶褐色土(黄色土、軽石が混入する混合土) 5. 暗黄褐色土(軟質) 6. 暗黄灰色土(砂質) 7. ⑤と同質だが軽石を含む。

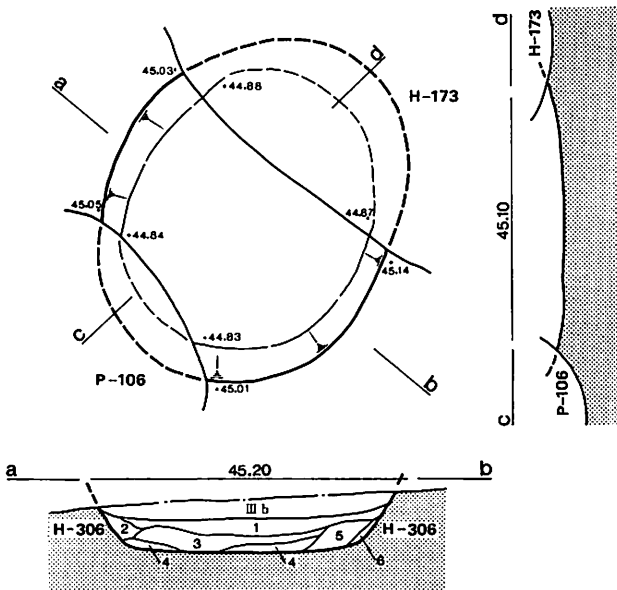


P-113



P-113の土層 1. 黒褐色土(粘質) 2. ①+③ 3. 暗茶褐色土(やや粘質。黄色土混入の混合土) 4. 暗黄色土(軟質) 5. 暗黄褐色土(軟質)

P-112

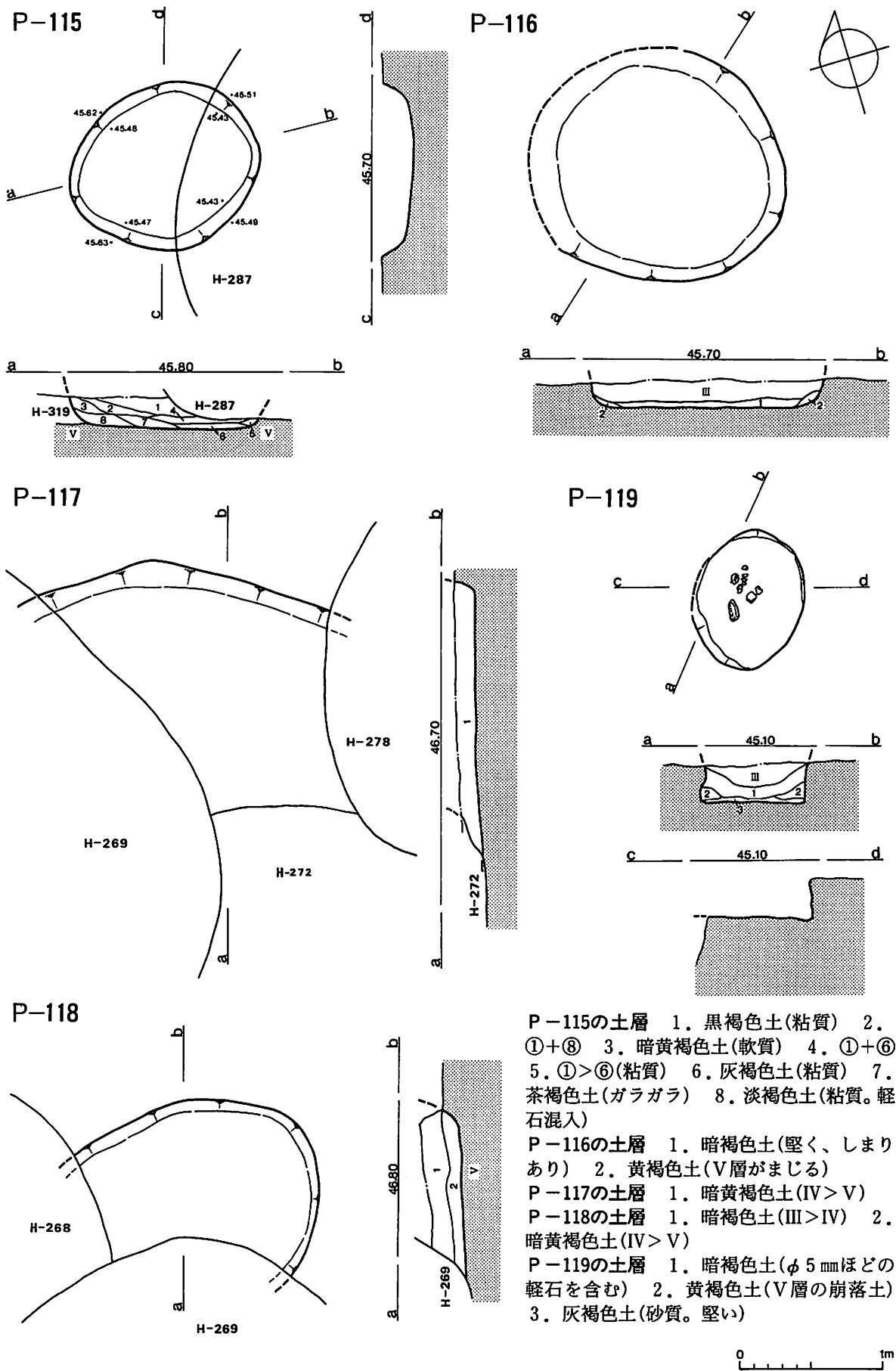


P-112の土層

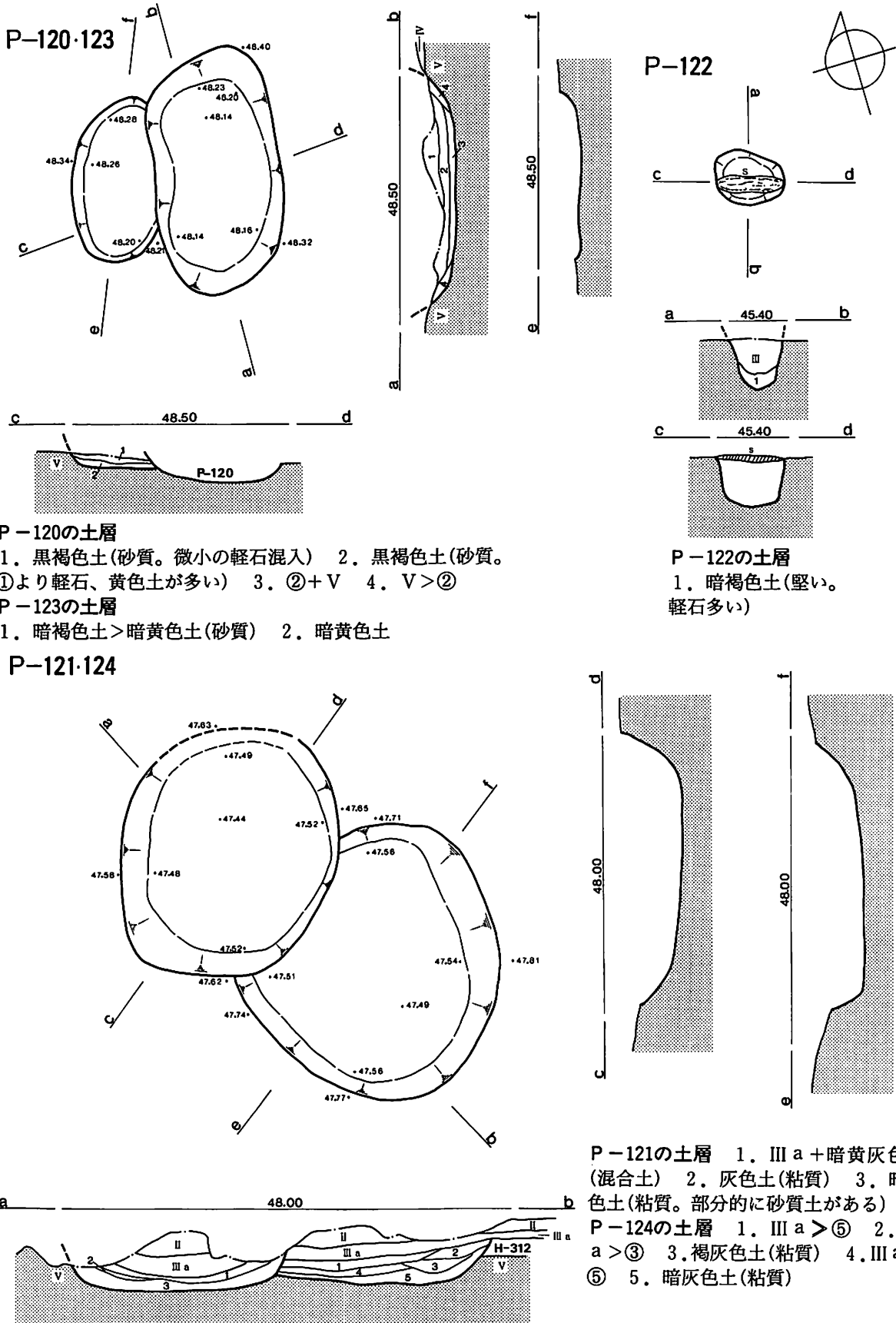
1. III b > V 2. III b > V 3. ①+④ 4. 暗黄灰色土(砂質) 5. 黒褐色土+④ 6. 暗黄褐色土(軟質)

0 1m

図Ⅲ-337 土壌実測図(6)

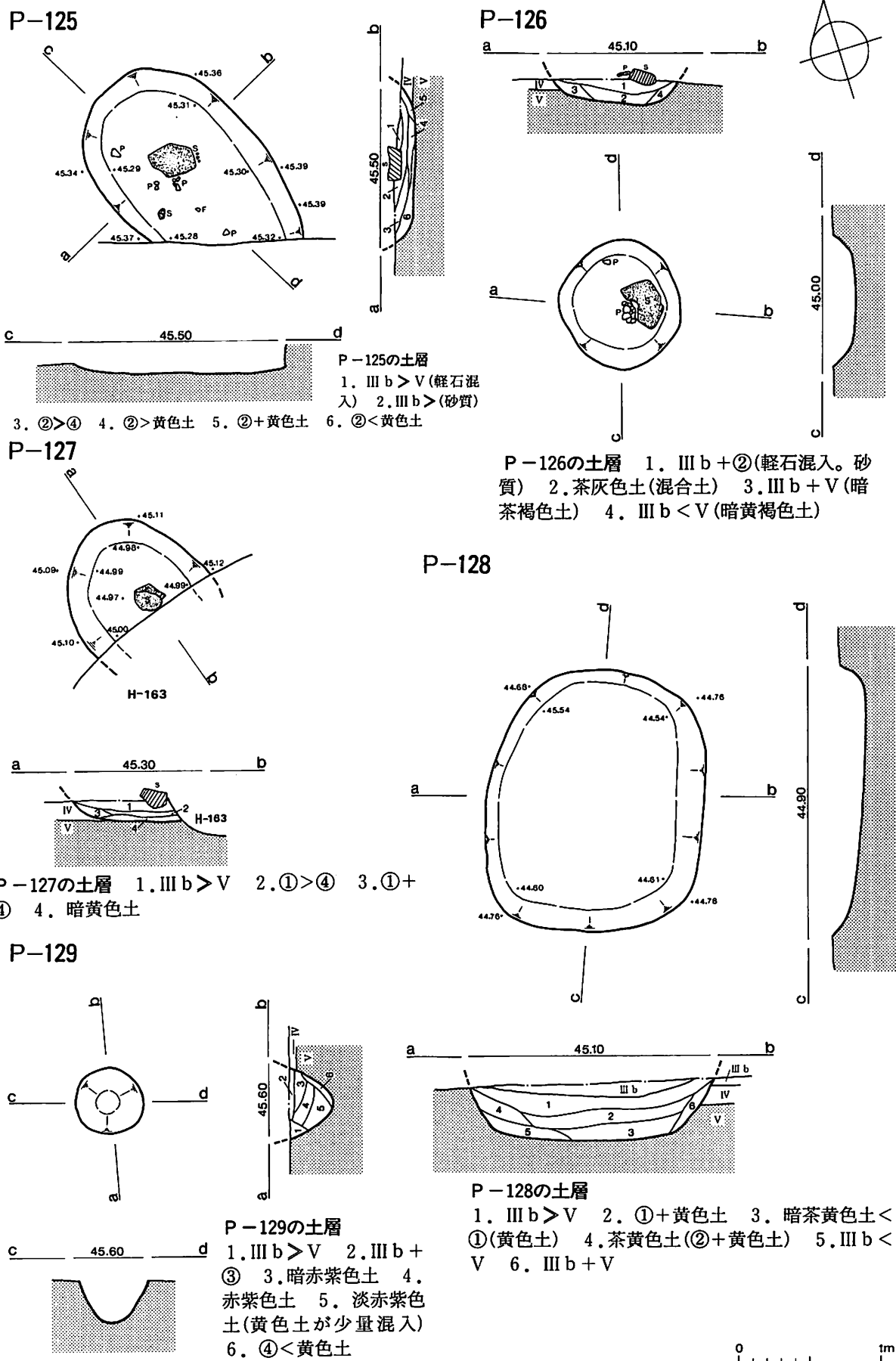


図Ⅲ-338 土壌実測図(7)

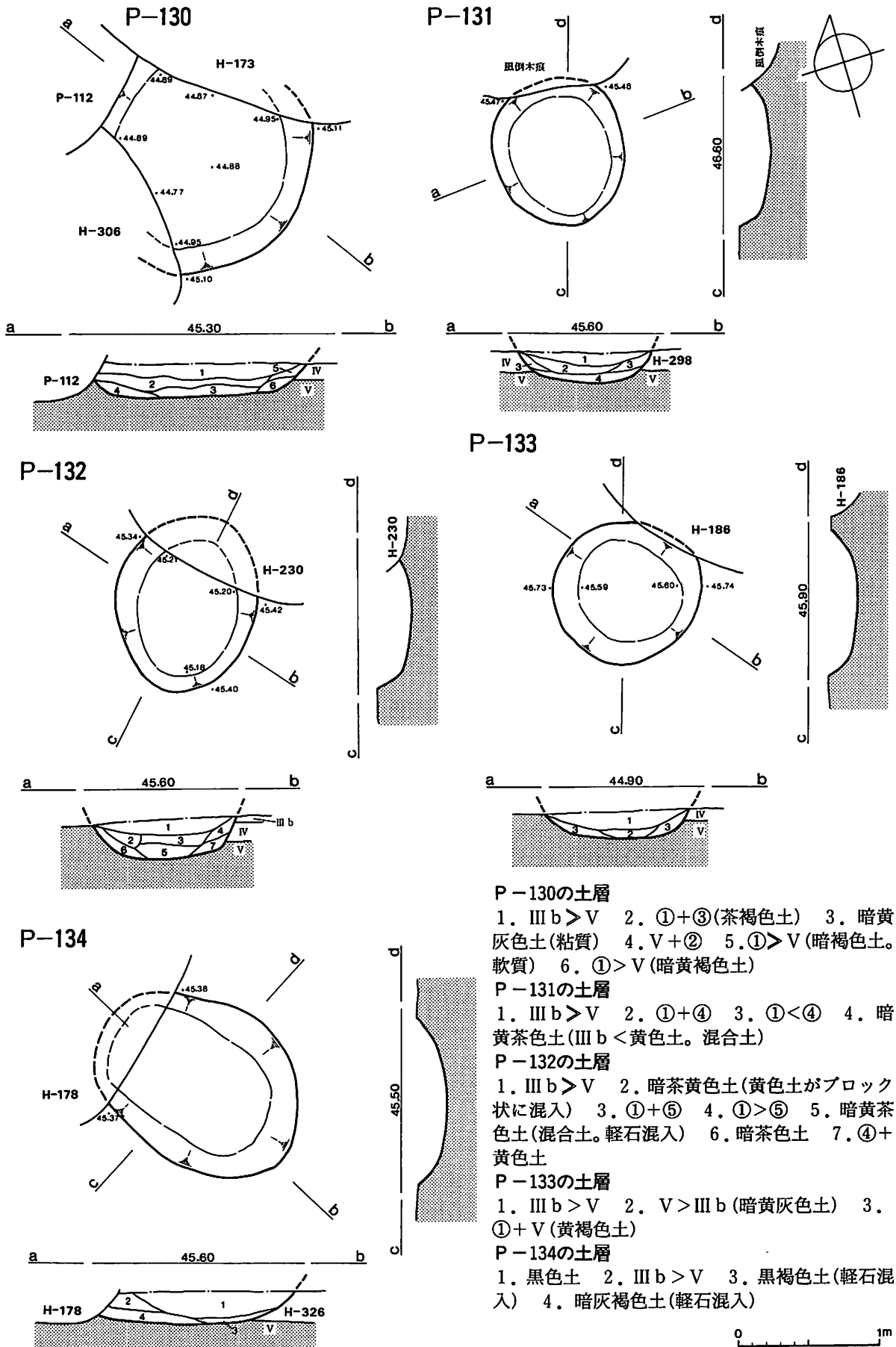


図Ⅲ-339 土壌実測図(8)

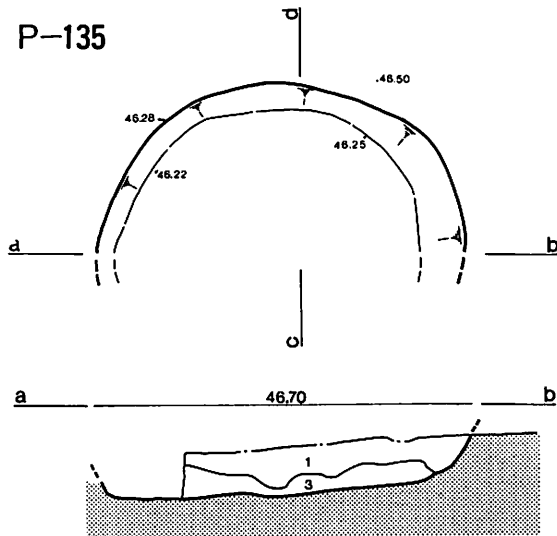




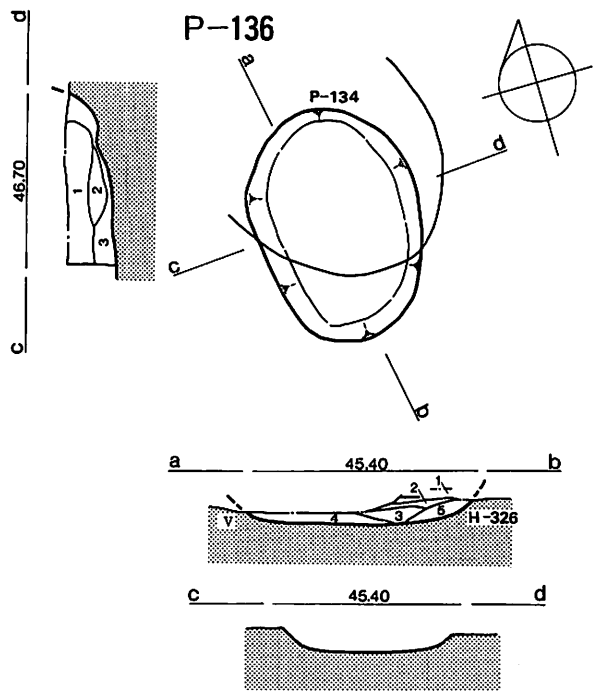
図Ⅲ-340 土壌実測図(9)



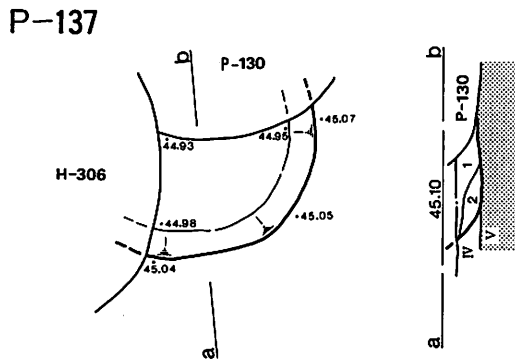
図III-341 土壌実測図(10)



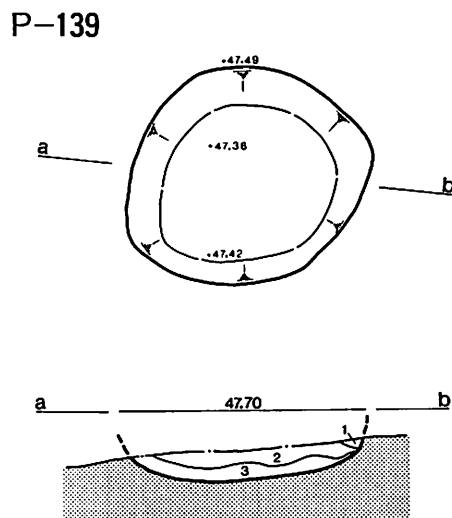
P-135の土層  
1. 暗褐色土 2. 暗黄褐色土



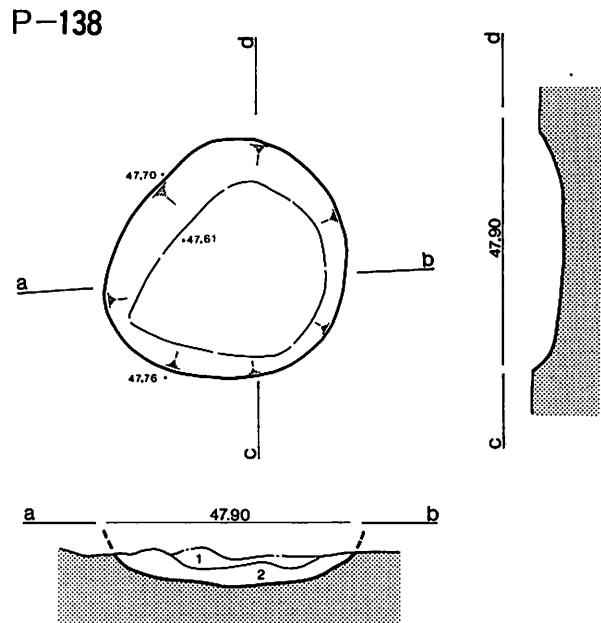
P-136の土層  
1. III b > V 2. III b > V 3. ② < ④(暗灰黄色土) 4. 暗黄灰色土 5. ②+④(砂質)



P-137の土層  
1. III b > V (小石混入) 2. 暗黄褐色土



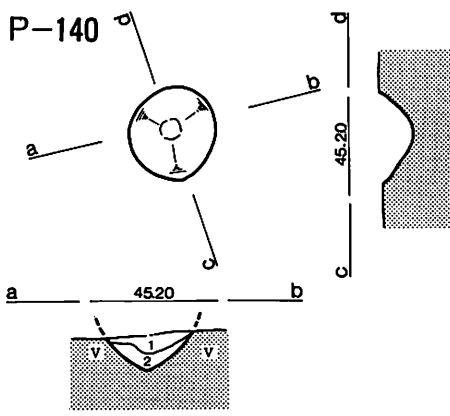
P-139の土層 1. 明灰褐色土 2. 暗灰褐色土 3. 灰黄褐色土



P-138の土層  
1. 暗茶褐色土(多量の炭化物を含む) 2. 暗灰黄褐色土

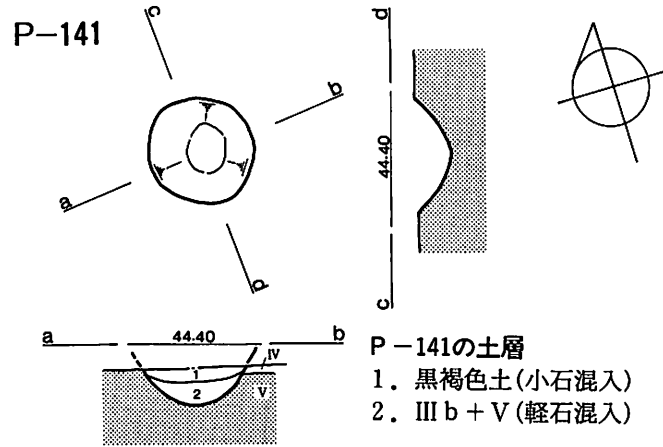
0 1m

図Ⅲ-342 土壌実測図(Ⅱ)



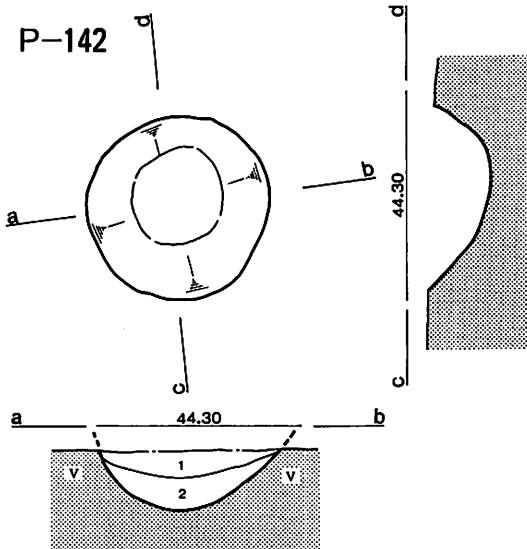
P-140の土層

1. III b > V (軽石混入) 2. 暗黄灰色土

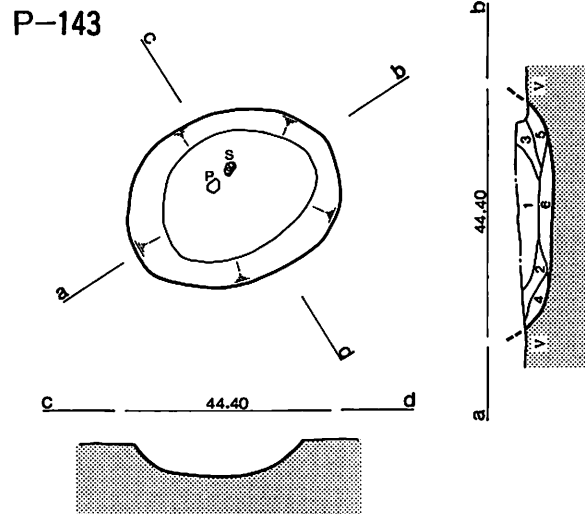


P-141の土層

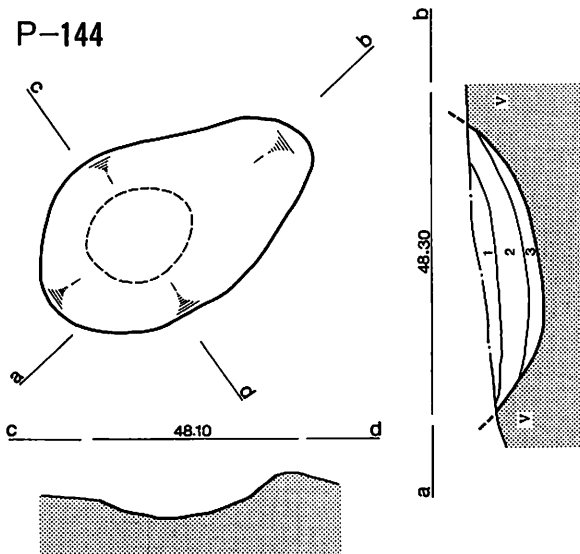
1. 黒褐色土(小石混入)  
2. III b + V (軽石混入)



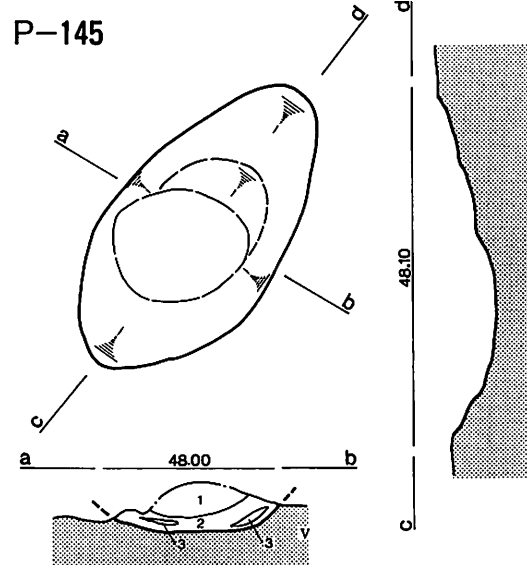
P-142の土層 1. III b > V (小石混入) 2. 茶褐色土(砂質。小石、軽石を多く含む)



P-143の土層 1. 黒褐色土 > V 2. 暗黄茶色土(軟質) 3. ① > V 4. 暗黄灰色土 5. 暗黄褐色土 6. ①にV層がブロック状に混入

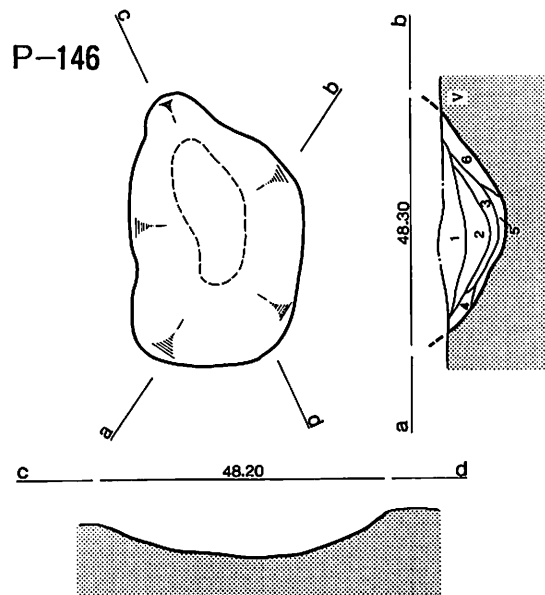


P-144の土層 1. 淡褐色土(褐色土 > ②。砂質で堅い) 2. 淡褐色土(砂質。堅い) 3. 淡青灰色砂(堅い)

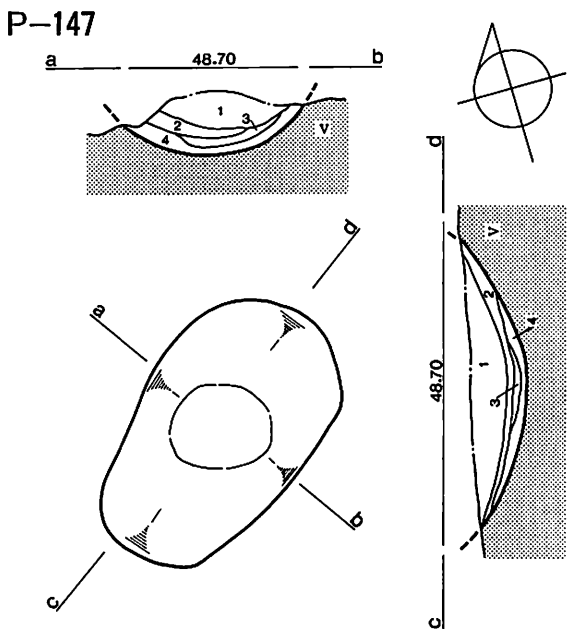


P-145の土層 1. 淡褐色土(褐色土 > ②。砂質で堅い) 2. 淡褐灰色土(砂質。堅い) 3. 淡青灰色砂(堅い)

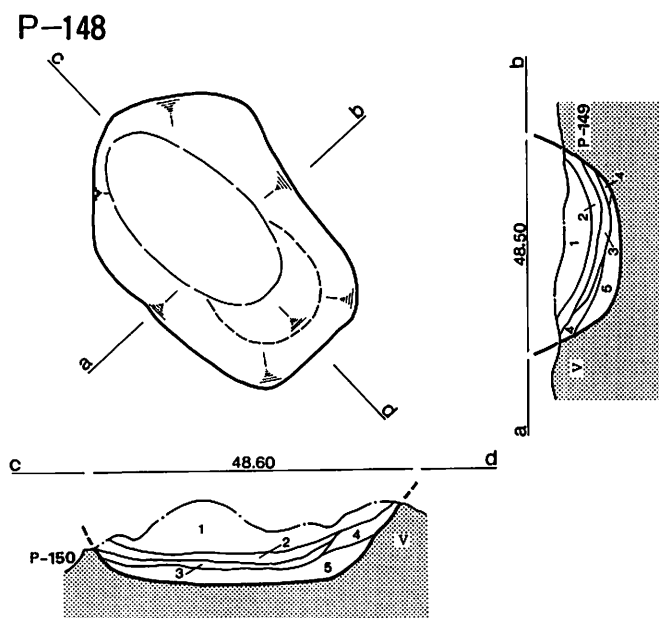
図Ⅲ-343 土壌実測図(12)



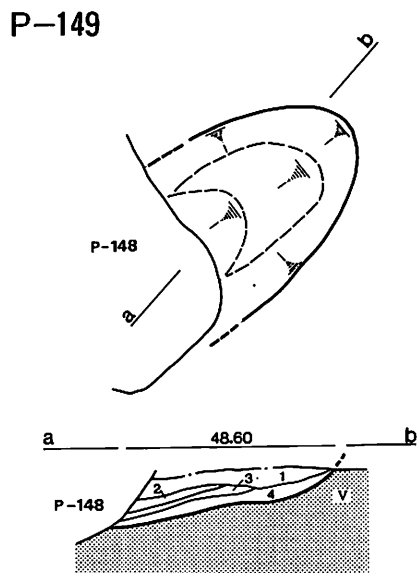
P-146の土層 1. 淡褐色土(褐色土>②。砂質で堅い) 2. 淡褐灰色土(砂質。堅い) 3. 淡青灰色土(堅い) 4. 淡黄灰色粘質土 5. 淡灰白色粘質土 6. 褐灰色土(堅い)



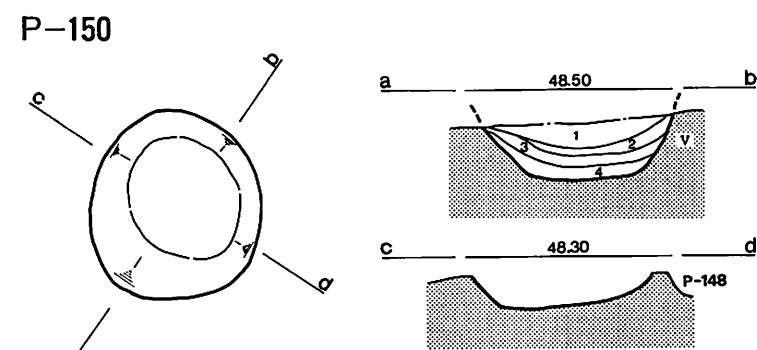
P-147の土層 1. 淡褐色土(褐色土>②。砂質で堅い) 2. 淡褐灰色土(砂質。堅い) 3. 淡青灰色土(堅い) 4. 淡青灰色粘質土



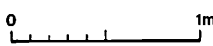
P-148の土層 1. 淡褐色土(褐色土>②。砂質で堅い) 2. 淡褐灰色土(砂質。堅い) 3. 淡青灰色土(堅い) 4. 淡青灰色粘質土 5. 淡灰白色粘質土



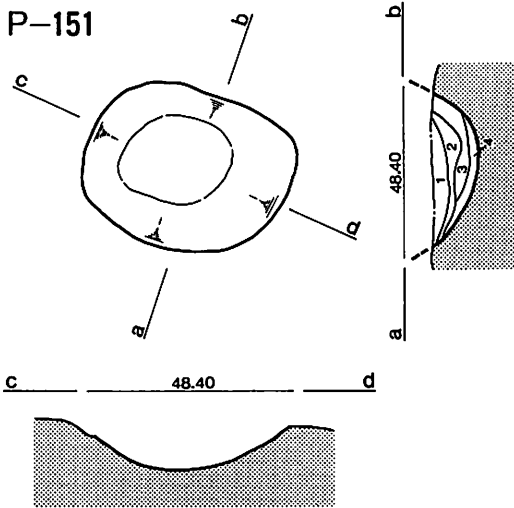
P-149の土層 1. 淡褐色土(褐色土>②。砂質で堅い) 2. 淡褐灰色土(砂質。堅い) 3. 淡青灰色砂(堅い) 4. ②+褐色土 5. 褐色土に黄色土がブロック状に混入



P-150の土層 1. 淡褐色土(褐色土>②。砂質で堅い) 2. 淡褐灰色土(砂質。堅い) 3. 淡青灰色砂(堅い) 4. 淡黄灰色粘質土+淡灰白色粘質土

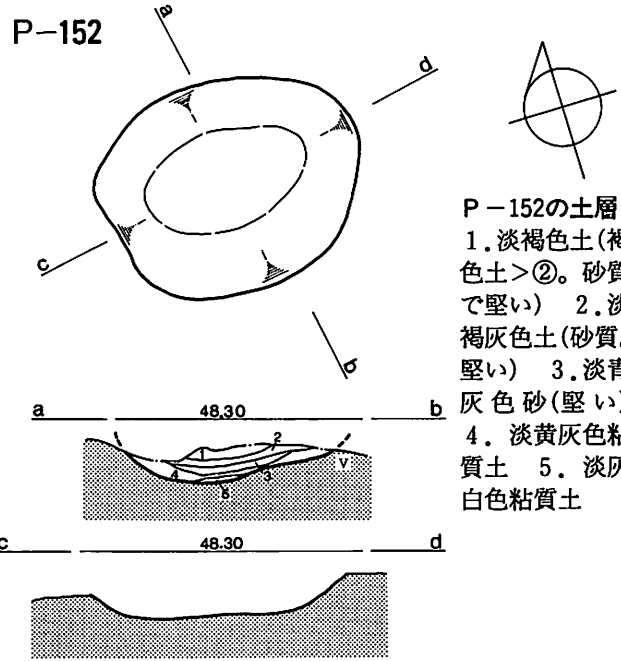


図Ⅲ-344 土壌実測図(13)



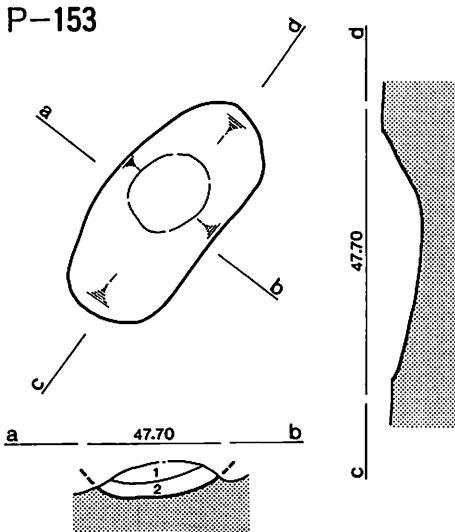
P-151の土層

1. 淡褐色土(褐色土>②。砂質で堅い) 2. 淡褐灰色土(砂質。堅い) 3. ②に淡青灰色砂が混入 4. 淡黄灰色粘質土



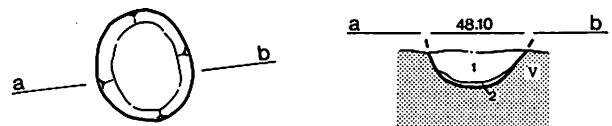
P-152の土層

1. 淡褐色土(褐色土>②。砂質で堅い) 2. 淡褐灰色土(砂質。堅い) 3. 淡青灰色砂(堅い) 4. 淡黄灰色粘質土 5. 淡灰白色粘質土

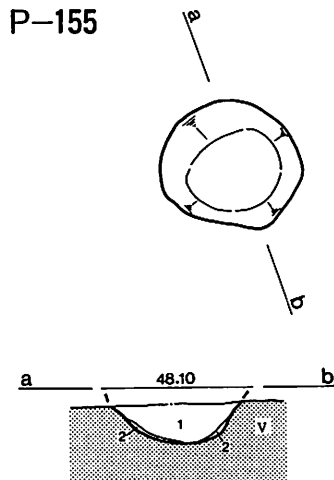


P-153の土層 1. 淡褐色土(褐色土>淡褐灰色土。砂質で堅い) 2. 淡褐灰色土に淡青灰色砂が混入

P-154



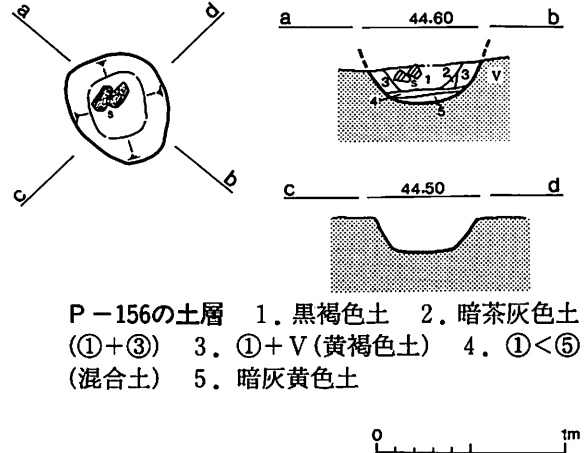
P-154の土層 1. 暗褐色土(黒色土にV層の黄色土が少量まじる。埋土) 2. 黄褐色土(①とV層の混合土)



P-155の土層

1. 暗褐色土(黒色土にV層の黄色土が少量まじる。埋土) 2. 黄褐色土(①とV層の混合土)

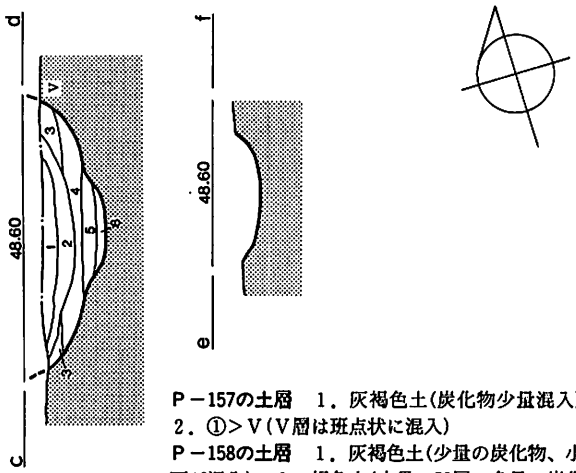
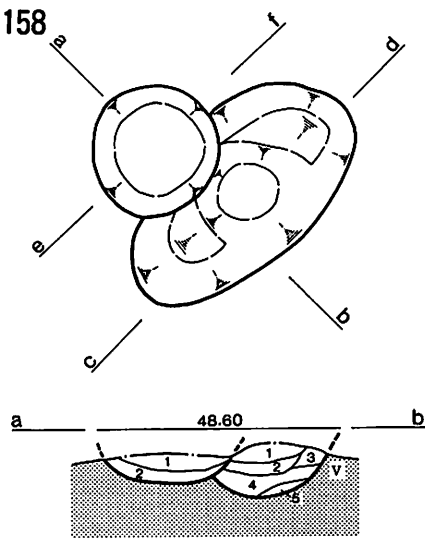
P-156



P-156の土層 1. 黒褐色土 2. 暗茶灰色土(①+③) 3. ①+V(黄褐色土) 4. ①<⑤(混合土) 5. 暗灰黄色土

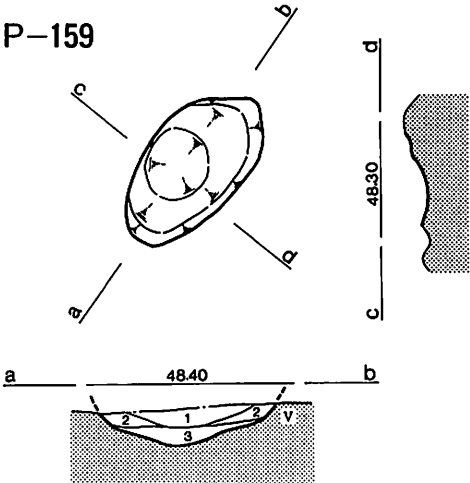
図III-345 土壌実測図(14)

P-157・158



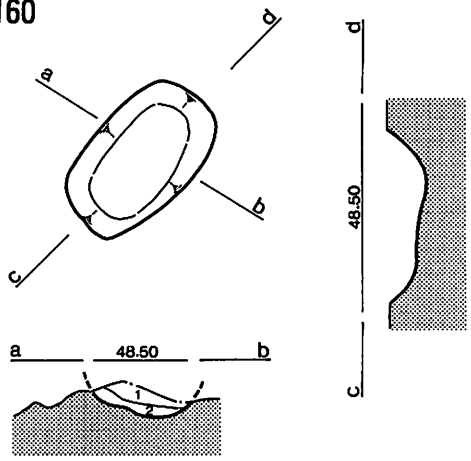
P-157の土層 1. 灰褐色土(炭化物少量混入)  
2. ①>V(V層は斑点状に混入)  
P-158の土層 1. 灰褐色土(少量の炭化物、小石が混入) 2. 褐色土(少量のV層、多量の炭化物が混入) 3. ①<V(砂質) 4. 暗黄灰色土(砂質) 5. 淡青灰色砂(少量のV層が混入) 6. 灰白色粘質土

P-159



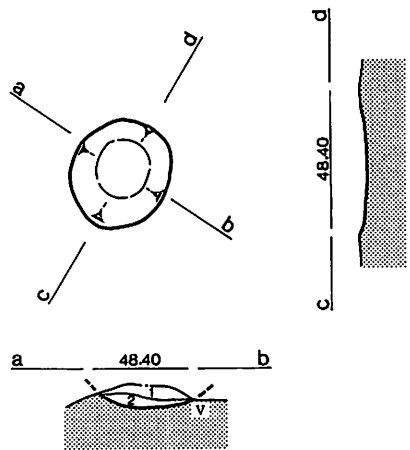
P-159の土層  
1. 褐色土>V 2. ①+V 3. 暗黄灰色土

P-160



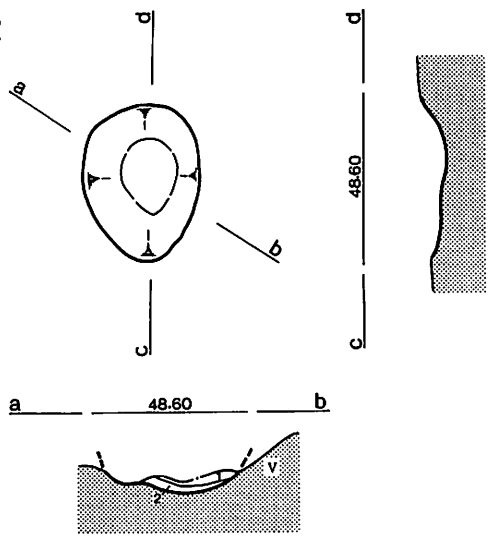
P-160の土層  
1. 暗灰色砂(緑色気味) 2. 灰色土(粘質。堅い)

P-161

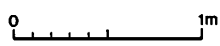


P-161の土層  
1. 淡青灰色砂 2. 明灰色土(粘質)

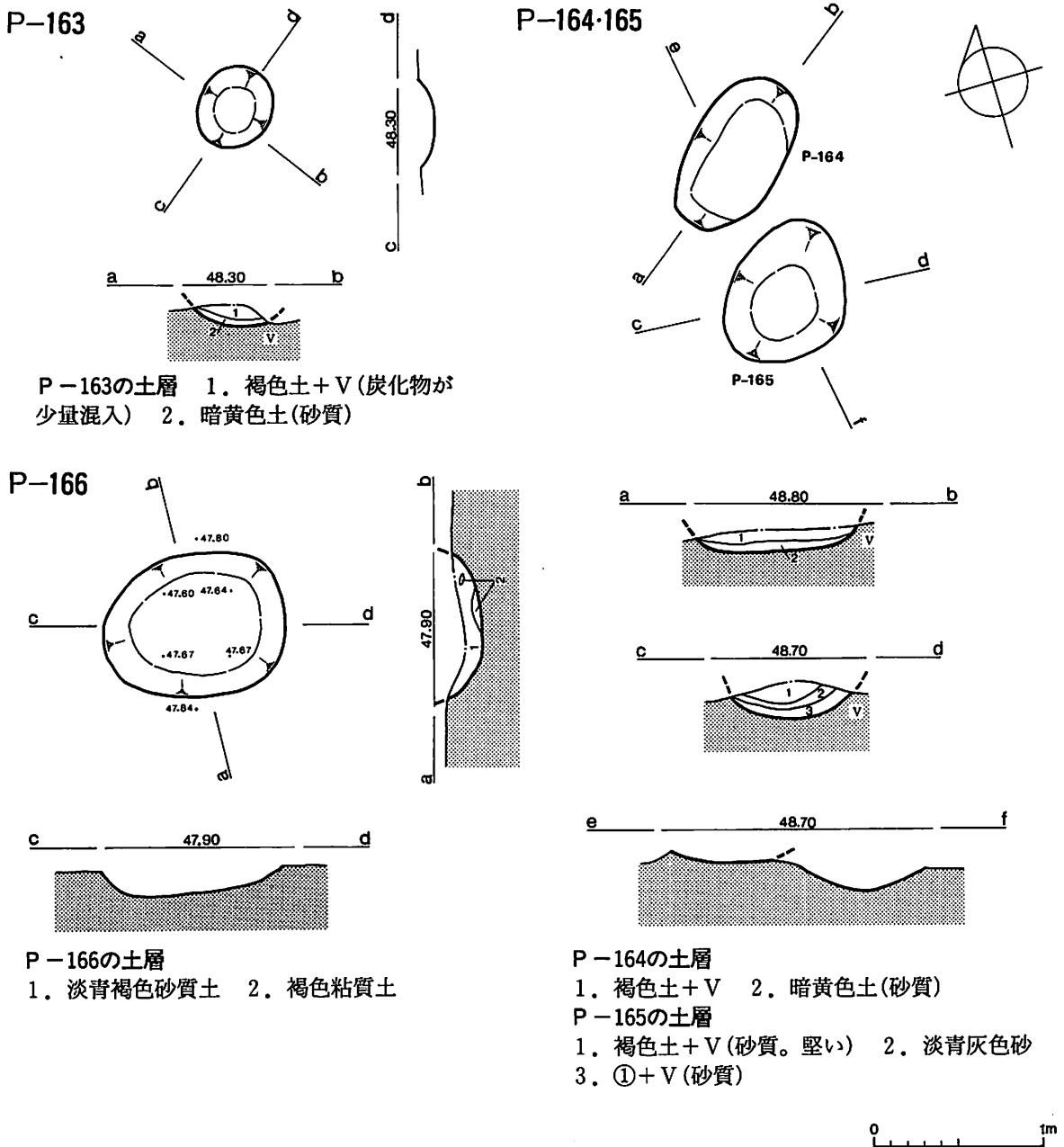
P-162



P-162の土層 1. 淡青灰色砂  
2. 明灰色粘質土



図III-346 土壌実測図(15)

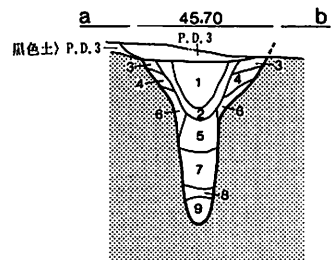
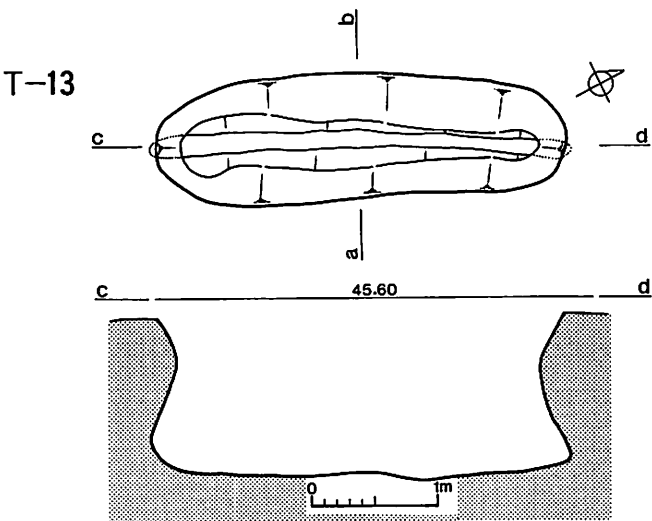


図Ⅲ-347 土壌実測図(16)

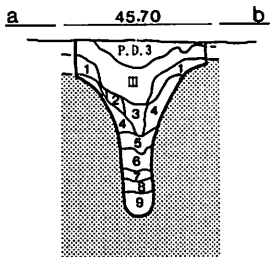
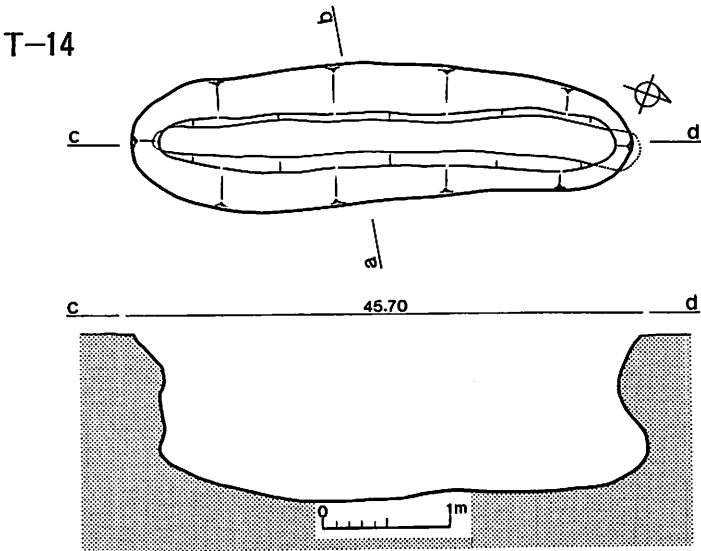
### 3 Tピット (図Ⅲ-348～354 図版100-5～15、図版101-1～15)

Tピットは28基検出されている。T-20・24・25・41・15は調査区の中央部で遺構のない処に分布しているが、他は南側の住居跡などの密集地に分布している。規模は墳底面の長軸で見ると2.70m～4.00mに収まり、とくに大型のものや小型のものは見られない。長軸方向は一定しないが、等高線を基準にして見ると、それにほぼ平行するものと直交するものに分けられる。T-24・25・14・17・37・18・22・29・13・23・31・32・33・36・39・34・35はほぼ等高線に平行するもので、他は直交している。とくにT-23・13・29・22・36・34・35は等高線に平行し、半円状に並んでいる。形状は溝状で、墳底直上には黒色、あるいは黒褐色の粘質(軟質)の土が堆積している。掘り込み面は確認できなかったが、住居跡をこわして構築されていることや覆土上にP.D.3が見られることなどから見て、住居跡より若干新しい時期のものと考えられる。

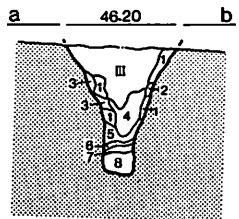
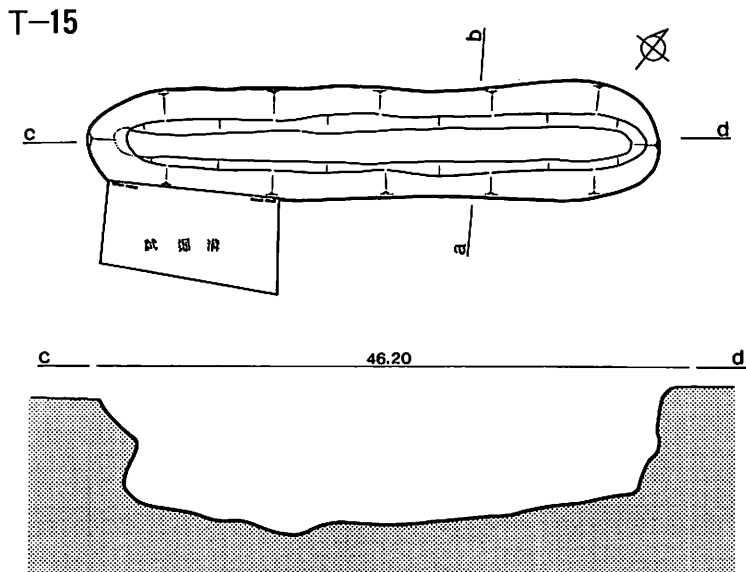




T-13の土層 1. 黒色土 2. 褐色土 3. 暗褐色土(Ⅲb) 4. 黒色土>暗褐色土 5. 黒色土>黄色土 6. 黒色土+黄色土 7. 淡橙黄色土(V。粘質) 8. 暗白灰色土(V。ボソボソ) 9. 暗茶褐色土(粘質)



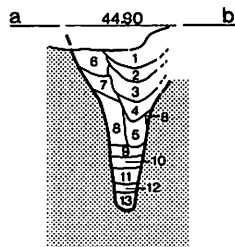
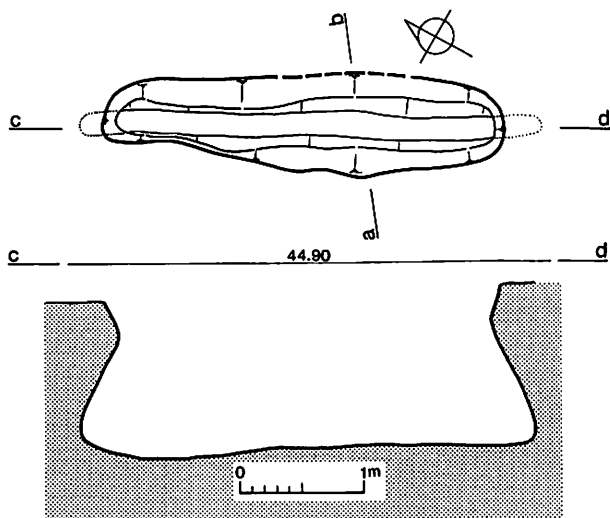
T-14の土層 1. 暗黄褐色土(Ⅲ+Ⅳ) 2. 暗黄色土(Ⅲ<Ⅳ) 3. 暗黄褐色土(④がブロック状に混入) 4. 赤褐色土(P.D. 3の崩落土) 5. 赤褐色土 6. 黒色土 7. 褐色土 8. 黄褐色土 9. 黒色土(小礫が多い)



T-15の土層 1. 暗褐色土(Ⅲ>Ⅳ) 2. 暗褐色土(Ⅲ>Ⅳ。粒子こまかい) 3. 黄褐色土(Ⅳ) 4. 暗褐色土 5. 黄色土 6. 暗褐色土(≒④) 7. 黄色土(堅い) 8. 黒色土(軟質)

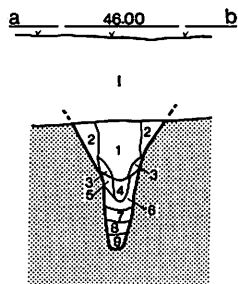
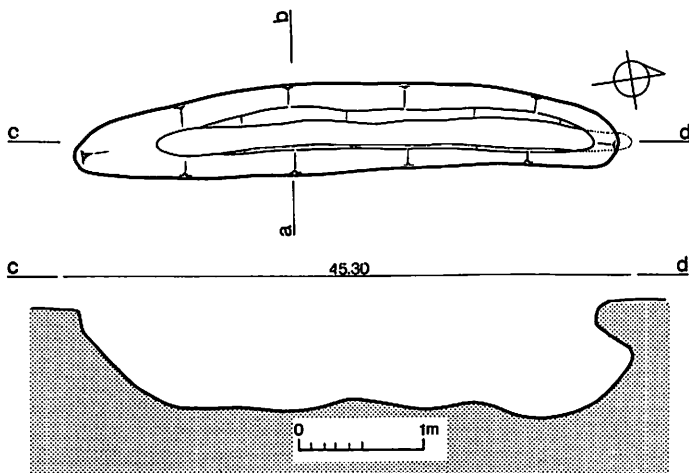
図Ⅲ-348 Tピット実測図(1)

T-16



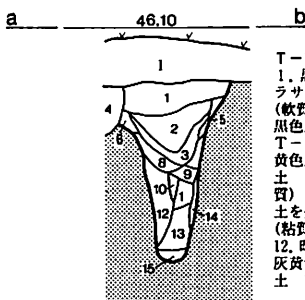
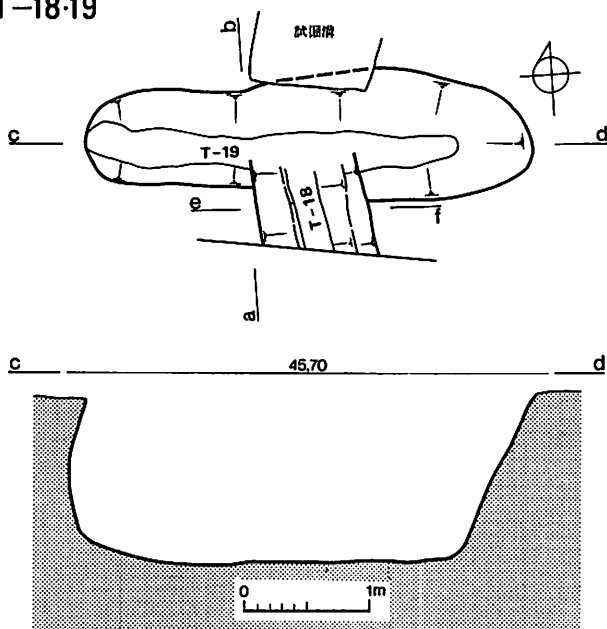
T-16の土層 1. 黒色土 2. 黒色土<暗褐色土 3. 黒色土>黄色土(粘質。堅い) 4. 黒色土>黄色土(軟質) 5. 黒色土+黄色土 6. 暗褐色土>黄褐色土 7. 暗黄色土(粘質) 8. 黒色土<黄色土(軟質) 9. 黒色土+黄色土 10. 黒色土>黄色土(軟質) 11. 黒色土+黄色土(軟質) 12. 黒色土<黄色土(軟質) 13. 黒褐色土(粘質)

T-17

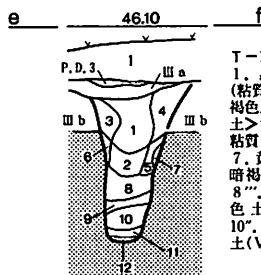


T-17の土層 1. 黒色土(粘質) 2. 暗灰褐色土 3. 黒色土>黄色土(粘質) 4. 黒色土に黄色土がブロック状に混入 5. 黒色土+黄色土 6. 明灰色土(V. ボンボン) 7. 黒色土+暗褐色土(粘質) 8. = 6 9. 黒色土

T-18・19

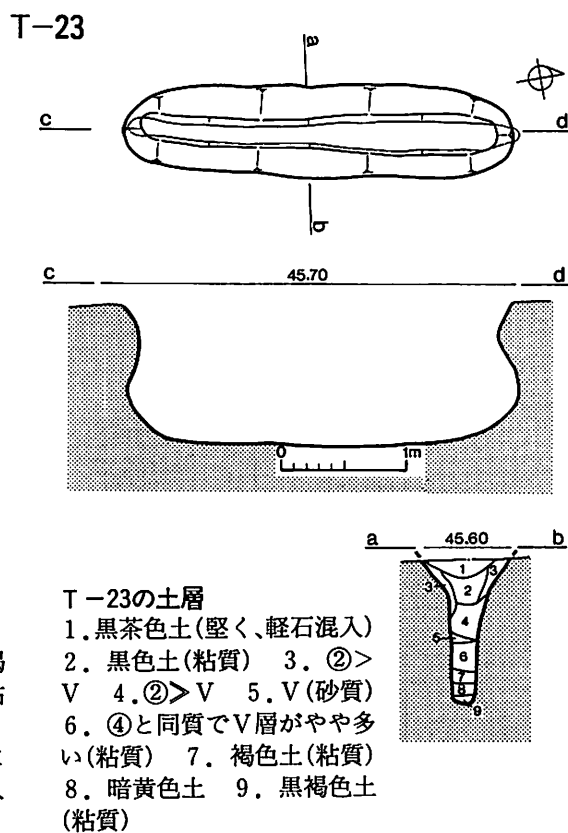
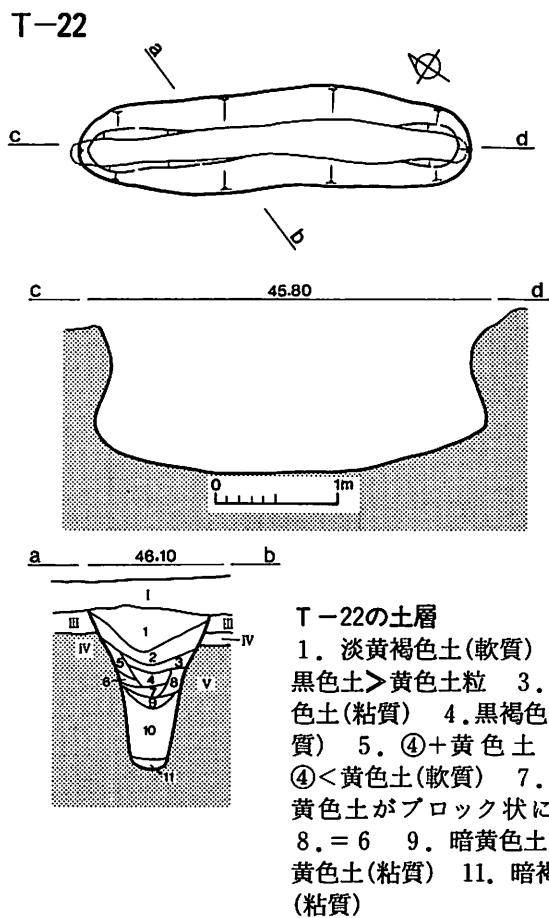
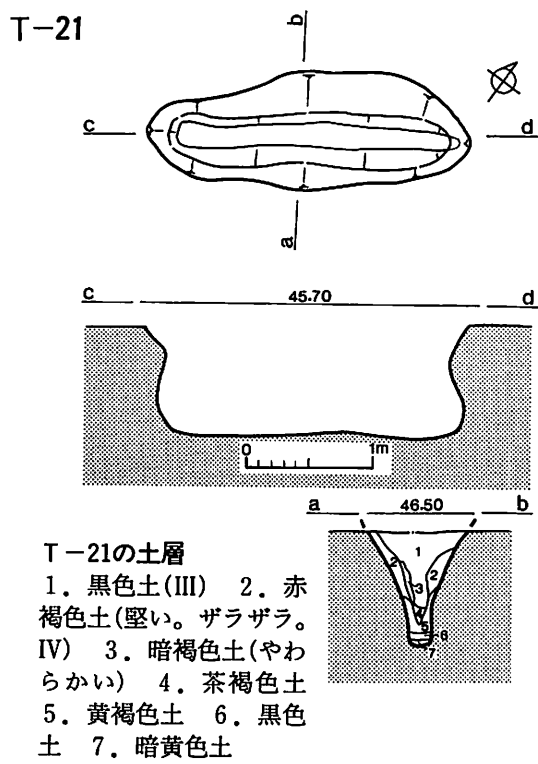
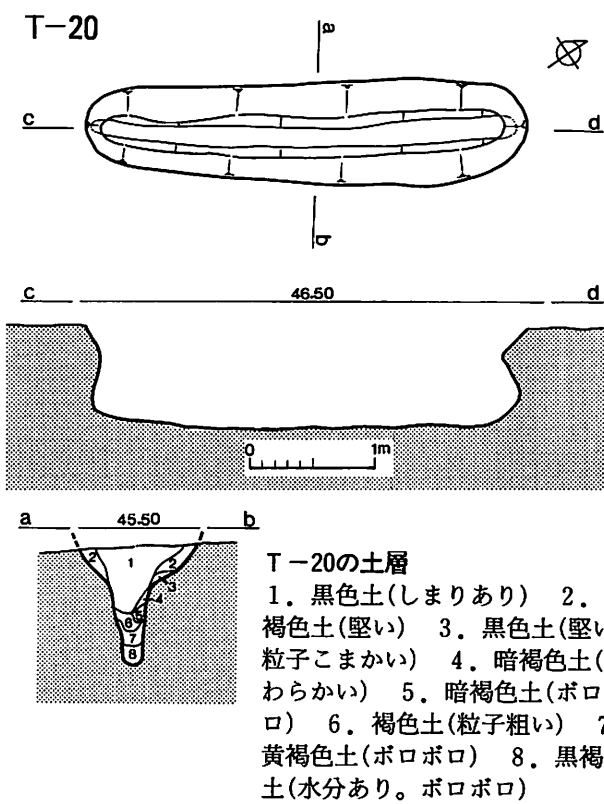


T-19の土層 1. 黒色土>黄色土粒(軟質。サラサラしている) 2. 黒色土(軟質。サラサラしている) 3. 黒色土>黄色土(粘質) 4. T-18の覆土 5. 暗褐色土>黄色土 6. = 5 7. V>黒色土 8. 暗褐色土>黄色土(粘質) 9. 暗褐色土(粘質。黄色土を少量混入) 10. 暗黄褐色土(粘質) 11. 暗黄褐色土(粘質) 12. 暗黄褐色土(粘質) 13. V(明灰黄色土。ボンボン) 14. 黒色土 15. 黒色土



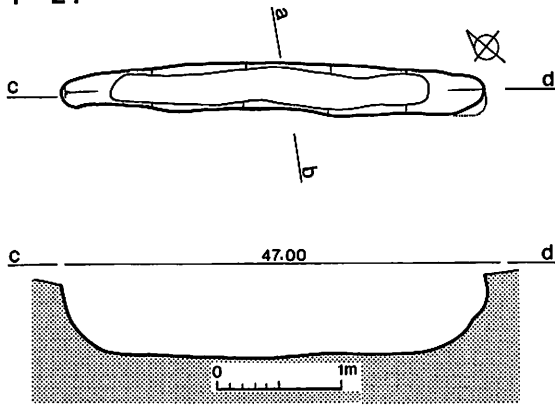
T-18の土層 1. 黒褐色土(粘質) 2. 黒褐色土(粘質。少量の黄色が混入) 3. 黒褐色土>黄色土(堅い) 4. 黒褐色土>黄色土(軟質) 5. = ④より粘質 6. 黒褐色土>黄色土(軟質) 7. 黄色土(砂質でボンボン) 8. 暗褐色土>黄色土 8'. V(粘質) 8''. 暗褐色土>黄色土 9. V+黒色土(ボンボン) 10. = 8''' 10'. = ⑨ 10''. = 8''' 11. 明灰色土(V) 12. 黒色土

図Ⅲ-349 Tピット実測図(2)



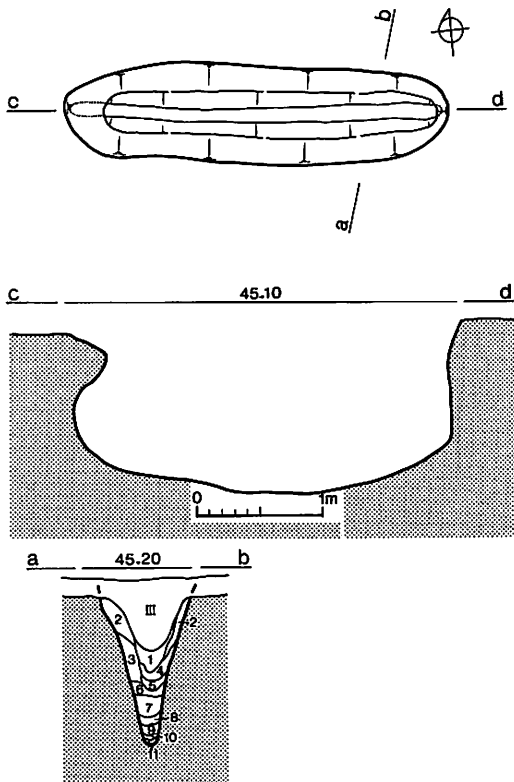
図Ⅲ-350 Tピット実測図(3)

T-24



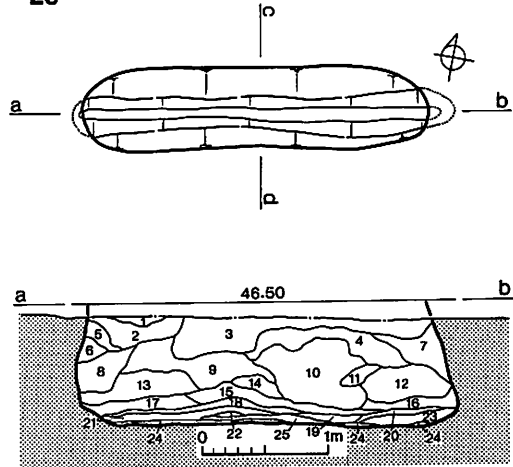
T-24の土層 1. 黒色土(III a) 2. 暗黄褐色土(V>III a) 3. 黒褐色土(III a>V>P.D. 3) 4. 暗黄褐色土(V>III a) 5. 黒褐色土(III a>V) 6. 黒褐色土(III a>V) 7. 黒色土(III a) 8. 黒褐色土(III a>V) 9. 黄白色土(V>III a) 10. 黒褐色土(III a>VとV>III aの互層)

T-26



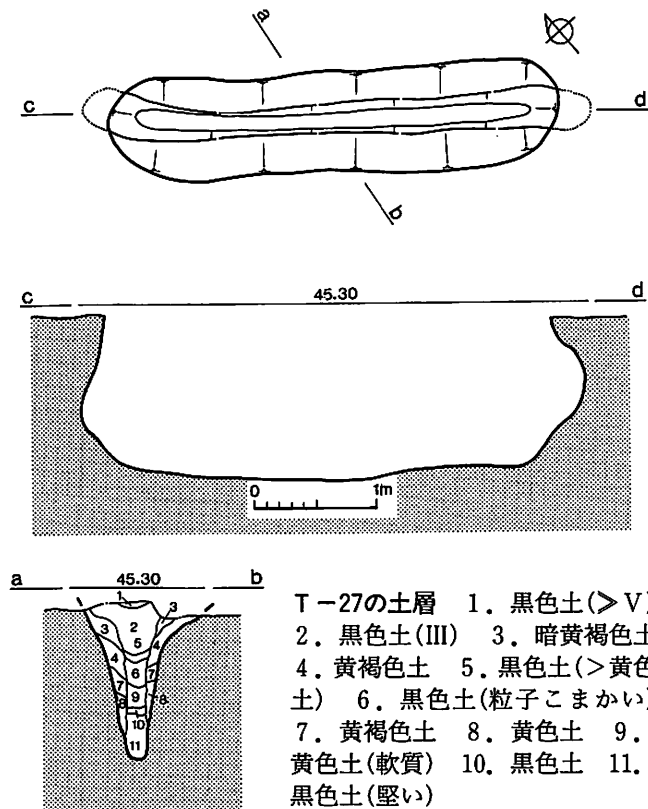
T-26の土層 1. 黒色土(III) 2. 暗褐色土 3. 黄色土(IV) 4. 黄色土 5. 黒色土(やわらかい) 6. 黄色土 7. 黒色土(ポロポロ) 8. 黄色土 9. 黒色土 10. 黄色土 11. 黒色土

T-25



T-25の土層 1. 暗黄褐色土(しまりあり。堅い) 2. 暗褐色土(しまりあり。堅い) 3. 暗褐色土(2に比べ小さい軽石が多い。V層に由来するものか?) 4. 暗黄色土 5. 暗黄褐色土(≒①) 6. 褐色土 7. 暗褐色土(軟質) 8. 暗褐色土(≒⑦) 9. 暗黄褐色土 10. IV層 11. 暗褐色土 12. 暗黄色土 13. ≒⑫ 14. 暗褐色土 15. 暗黄褐色土(≒⑨) 16. 暗黄褐色土(砂質) 17. 暗黄褐色土(ポロポロ) 18. 黒色土 19. 黒色土(粒子こまかい) 20. ≒⑩ 21. 灰褐色土 22. 黄褐色土(ザラザラ) 23. ≒⑪ 24. 黒色土(粒子こまかい) 25. 暗褐色土(堅い)

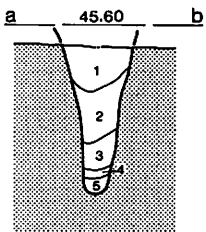
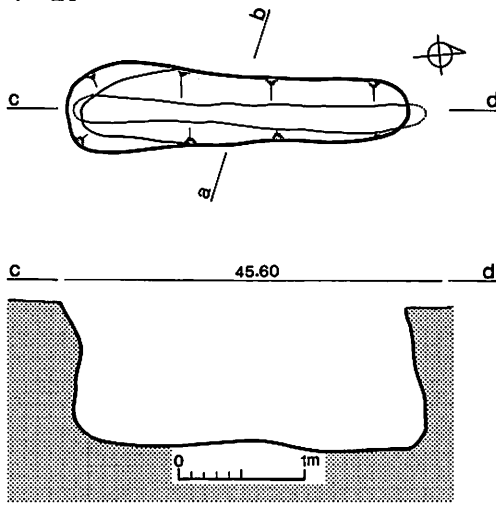
T-27



T-27の土層 1. 黒色土(>V) 2. 黒色土(III) 3. 暗黄褐色土 4. 黄褐色土 5. 黒色土(>黄色土) 6. 黒色土(粒子こまかい) 7. 黄褐色土 8. 黄色土 9. 黄色土(軟質) 10. 黒色土 11. 黒色土(堅い)

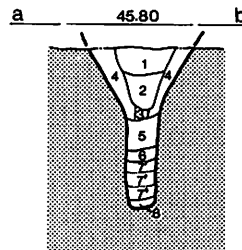
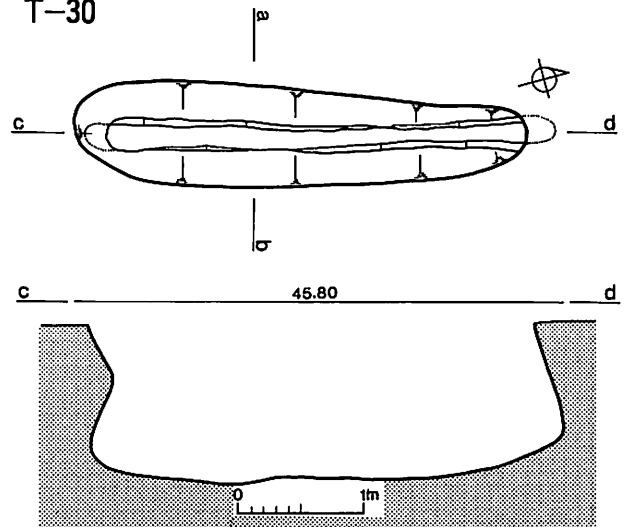
図III-351 Tピット実測図(4)

T-29



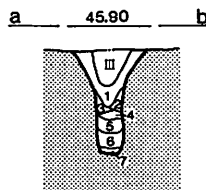
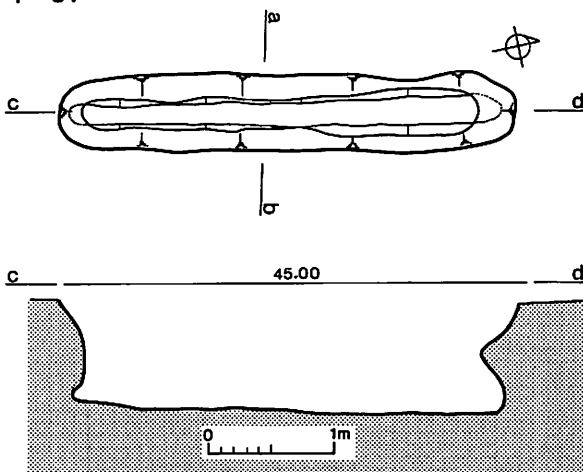
T-29の土層 1. 黒褐色土(砂質。かすかに黄色土粒混入) 2. 黒褐色土>黄色土(軟質) 3. 黒色土>黄色土粒(粘質) 4. 黒色土+褐色土(明るい色の土が混入) 5. 黒色土(粘質)

T-30



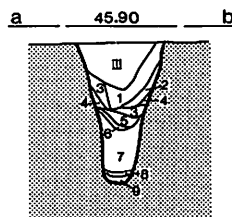
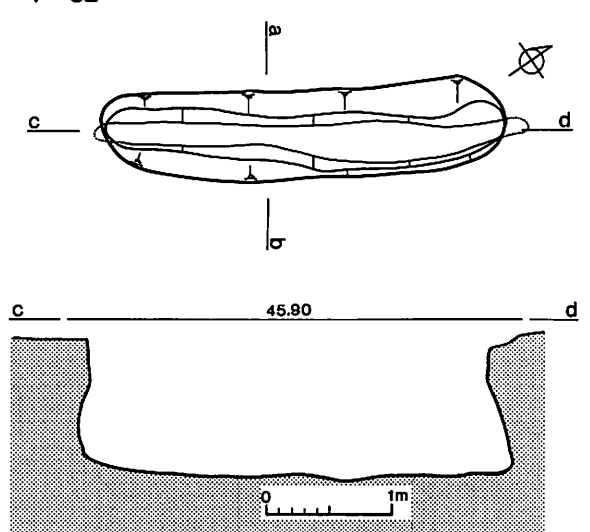
T-30の土層 1. 黒色土 2. 黒褐色土(粘質) 3. ②>黄色土(軟質) 4. H-189の覆土+①+V 5. V>①(軟質) 6. 暗黄色土(=V。粘質) 7'. 褐色土(粘質) 7''. 褐色土+V 7''' = 7(褐色土。粘質) 8. 黒褐色土

T-31



T-31の土層 1. 黒茶褐色土 2. 黄褐色土(暗褐色がまじる) 3. 黄茶褐色土 4. 暗茶褐色土 5. 黒褐色土(III層に少量の黄褐色土を含む) 6. 黄褐色土(黒褐色土粒を含む) 7. 黒褐色土(III)

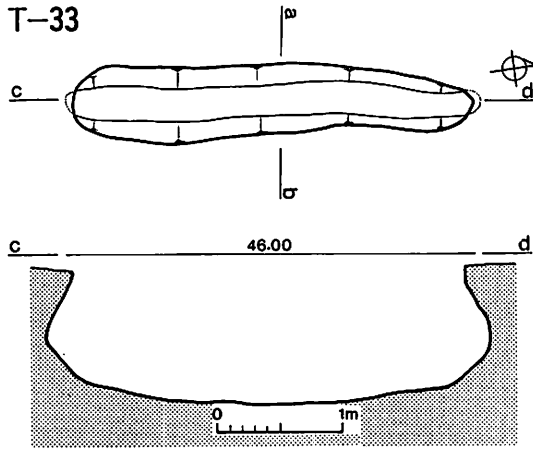
T-32



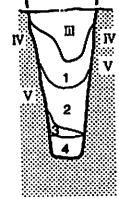
T-32の土層 1. 黒褐色土 2. 茶褐色土 3. 暗茶褐色土 4. 黄褐色土(黒色土がまじる) 5. 黒茶褐色土 6. 黒色土+黄色土 7. 黄褐色土 8. 黒褐色土 9. 灰黄褐色土

図III-352 Tピット実測図(5)

T-33



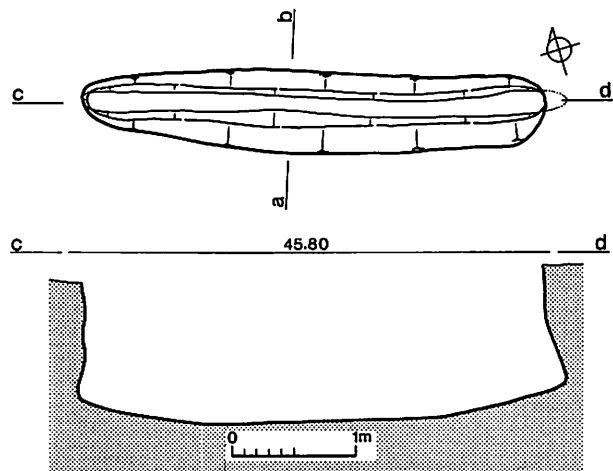
a 46.00 b



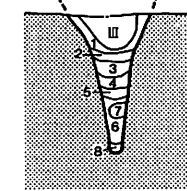
T-33の土層

1. 黒褐色土層(III+IV>V)
2. 赤褐色土 3. 暗褐色土 (III>V) 4. 黒褐色土

T-36



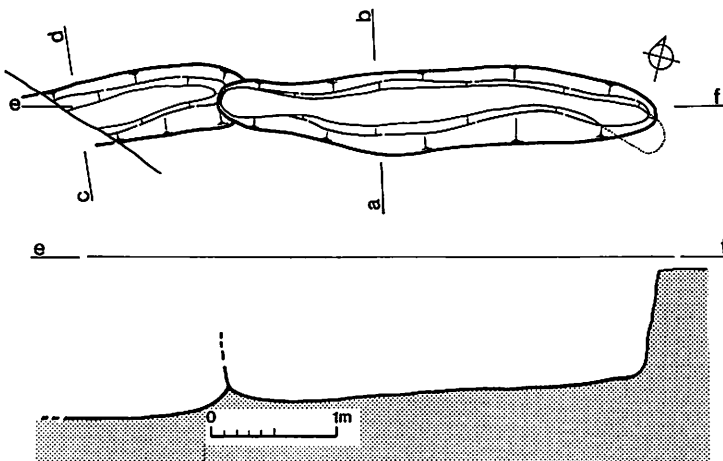
a 45.80 b



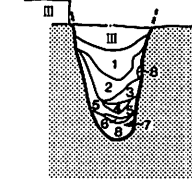
T-36の土層

1. 黒茶褐色土 2. 黒褐色土
3. 暗茶褐色土 4. 黄茶褐色土
5. 黒茶褐色土 6. 灰黄茶褐色土
7. 暗黒褐色土 8. 暗褐色土

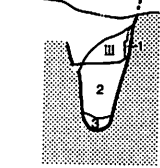
T-34・35



a 46.30 b



c 46.00 d



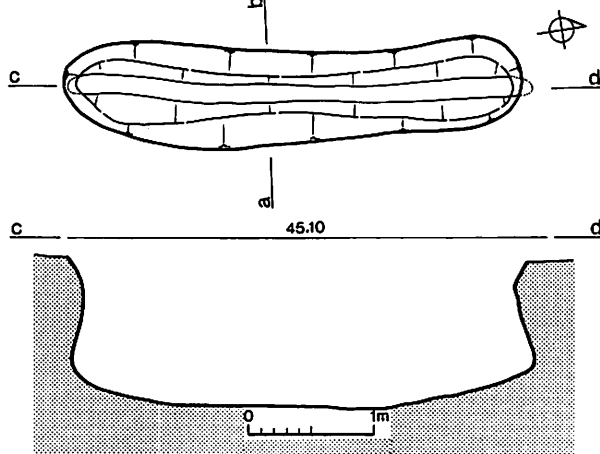
T-34の土層

1. 黒色土 2. 黒褐色土>黄褐色土 3. 黄褐色土
4. 黒褐色土 5. 黄褐色土 6. 暗灰黄褐色土 7. 黄褐色土 8. 灰黄褐色土

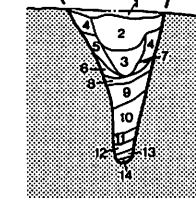
T-35の土層

1. 暗茶褐色土 2. 黄褐色土 3. 灰黄褐色土

T-37



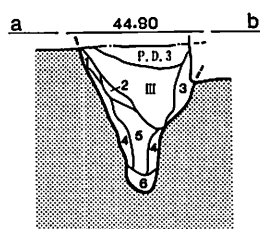
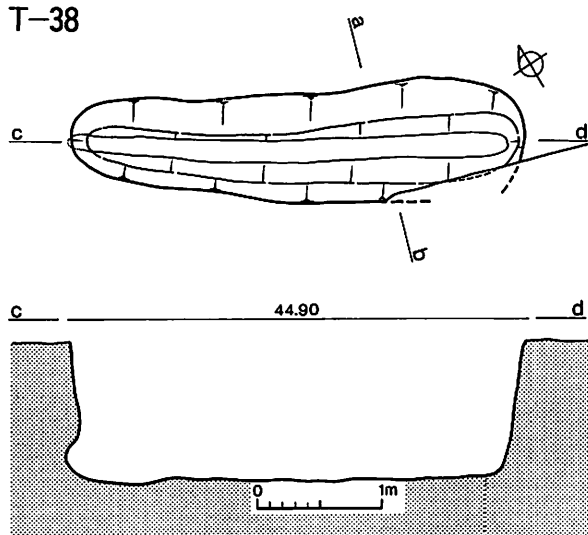
a 45.10 b



- T-37の土層 1. 黒褐色土>P.D. 3 2. 黒褐色土(軟質) 3. ②に黄色土がブロック状に混入 4. 暗褐色土<黄色土 5. 黒褐色土>黄色土(砂質) 6. 黄色土>黒褐色土 7. 黒色土>黄色土(粘質) 8. 黒色土+黄色土(軟質。ボソボソ) 9. 黄色土(粘質。やや堅い) 10. 黄色土(粘質) 11. 黒色土+黄色土(軟質) 12. 黒色土>黄色土(軟質) 13. 暗黄色土(軟質) 14. 黒褐色土(軟質)

図Ⅲ-353 Tピット実測図(6)

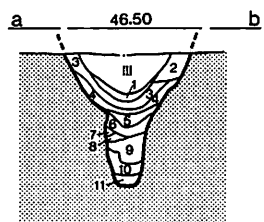
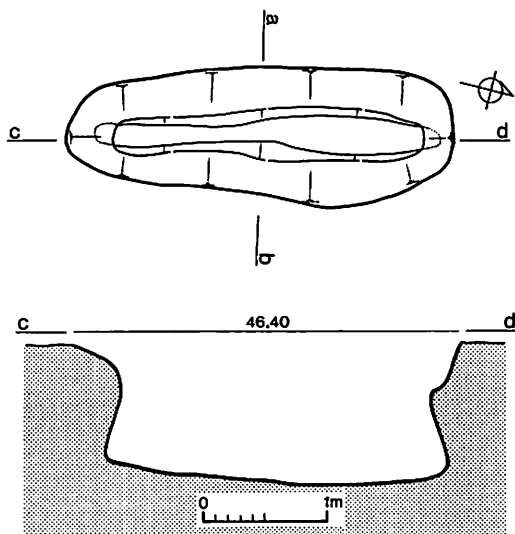
T-38



T-38の土層

1. 暗褐色土 2. 暗褐色土  
(①より黄色土ない) 3. 黄  
褐色土 4. 黄灰色土 5.  
黄黒色土 6. 黒色土

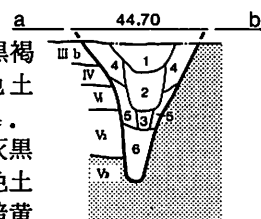
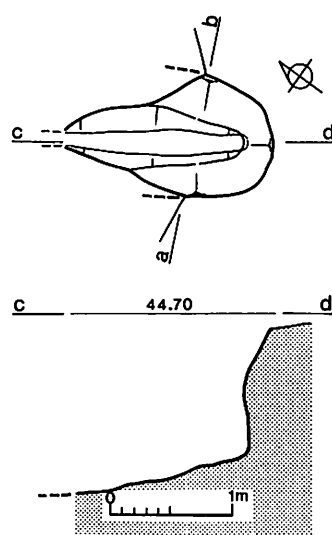
T-39



T-40の土層

1. 黒  
色土 2. ①+④ 3.  
黒色土 < V 4. III  
b + V 5. V<sub>1</sub> > ②  
6. 黒褐色土(V層が斑  
点状に混入。粘質)  
V<sub>1</sub>: 明黄色土 V<sub>2</sub>:  
灰黄色土 V<sub>3</sub>: 淡緑  
灰色土(砂質)

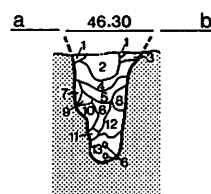
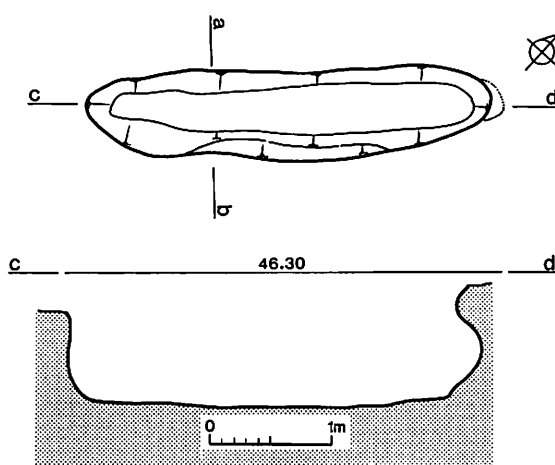
T-40



T-39の土層

1. 灰黒褐  
色土 2. 暗赤黄褐色土  
3. 暗灰黒茶褐色土 4.  
暗黄茶褐色土 5. 暗灰黒  
褐色土 6. 暗黄茶褐色土  
7. 灰黒褐色土 8. 暗黄  
褐色土 9. 暗灰黄茶褐色  
土 10. 黄茶褐色土 11.  
黒褐色土

T-41



T-41の土層

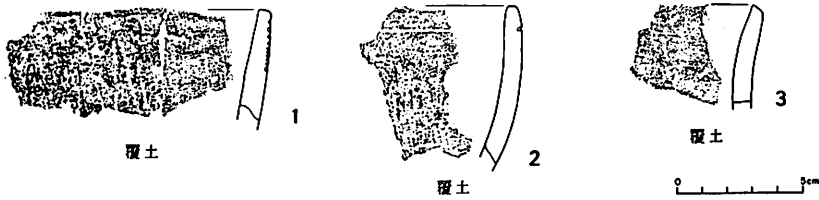
1. 黒褐色土(堅い) 2. 明  
褐色土 3. 褐色土 4. 褐  
色土(堅い) 5. 灰褐色土  
6. 黒褐色土 7. 灰黄褐色  
土 8. 暗灰色土 9. 暗黄  
褐色土 10. 黄褐色土 11.  
淡黄褐色土 12. 暗黄褐色土  
13. 灰黄褐色土

図III-354 Tピット実測図(7)

T-14

土器(図III-355 図版221-2)

図示したものは、いずれも覆土1層から出土したI群E類である。1・2は手搗ねの小型土器で、1には不揃いな刺突列が、2には刺突が加えられた沈線文が口唇にめぐっている。3は無文の口縁部破片である(森)。

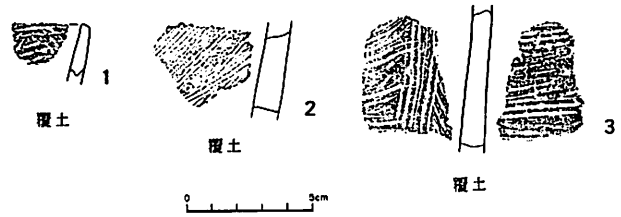


図III-355 T-14出土土器

T-16

土器(図III-356 図版211-3)

すべて覆土1層から出土したI群D2類である。1は口唇部の小破片で、わずかに押引文が認められる。2・3は体部破片で、貝殻条痕文があるものである。3は口縁部とみられ、4状の垂下する沈線を中心にして斜交する条痕を左右に配置し、矢羽根状の文様構成としている(森)。



図III-356 T-16出土土器

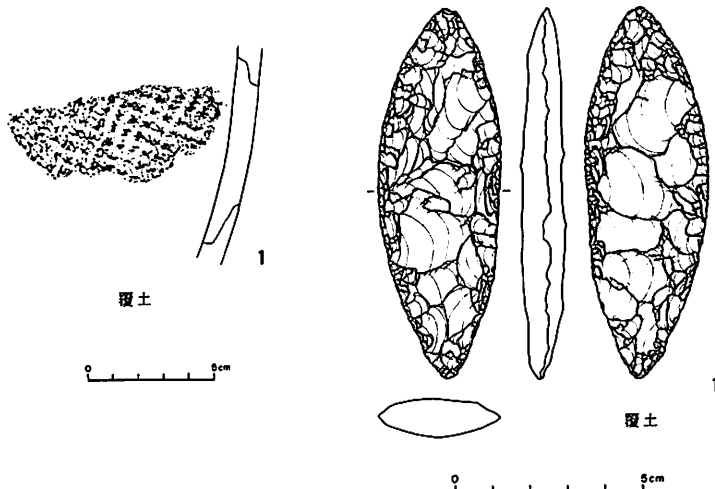
T-17

土器(図III-357 図版221-4)

1は覆土1層から出土した、II群の体部破片である。粘土帯の接合部の箇所斜めに割れている(森)。

石器(図III-357 図版211-5)

1は石槍。断面形がレンズ形に近い、丁寧な加工を受ける(宗像)。



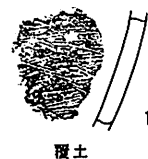
図III-357 T-17出土遺物



T-19

土器(図Ⅲ-358 図版211-6)

1は覆土1層から出土した、I群の体部破片である。細分類の判別はできない(森)。



図Ⅲ-358  
T-19出土土器

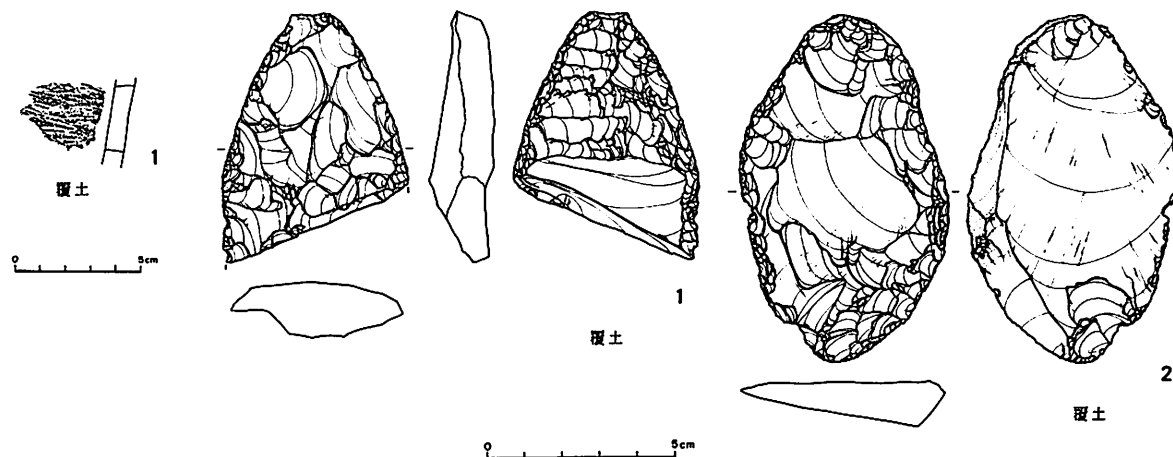
T-20

土器(図Ⅲ-359 図版211-7)

1は覆土1層から出土した、I群D1類の体部破片である(森)。

石器(図Ⅲ-359 図版211-8)

1は篋状石器。腹面側縁部に、高角度の加工が施される。2はスクレイパー(宗像)。

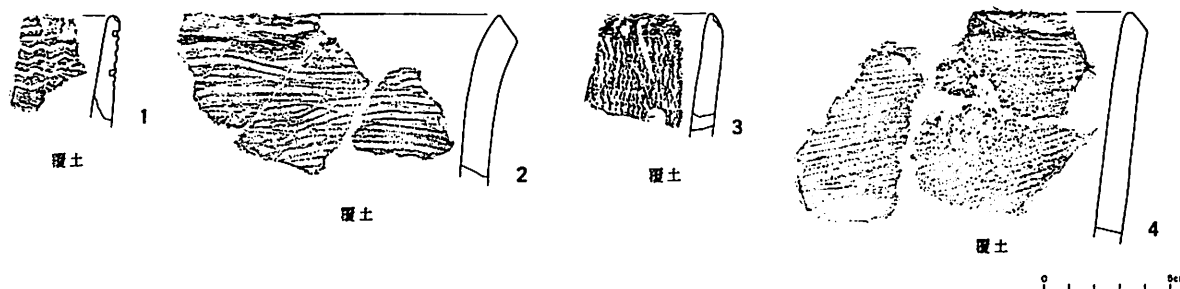


図Ⅲ-359 T-20出土遺物

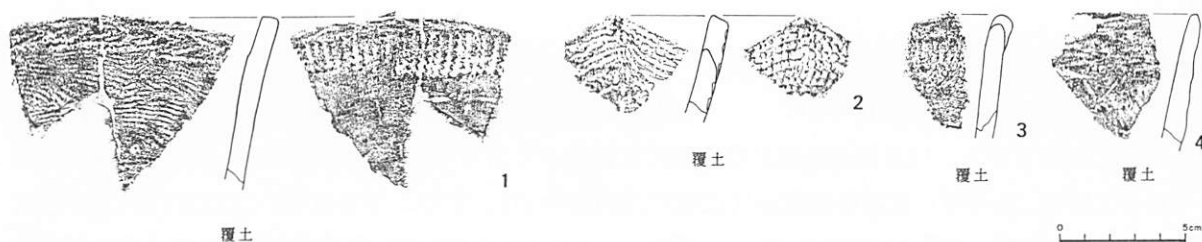
T-21

土器(図Ⅲ-360 図版211-9)

図示した土器片はすべて覆土から出土した口縁部破片である。1はI群D1類で、平行沈線と鋸歯状沈線の上に刺突が加えられている。2～4はI群D2類で、2と4は貝殻条痕が、3は腹縁文が施文されるものである。3の胎土には繊維が含まれている(森)。



図Ⅲ-360 T-21出土土器

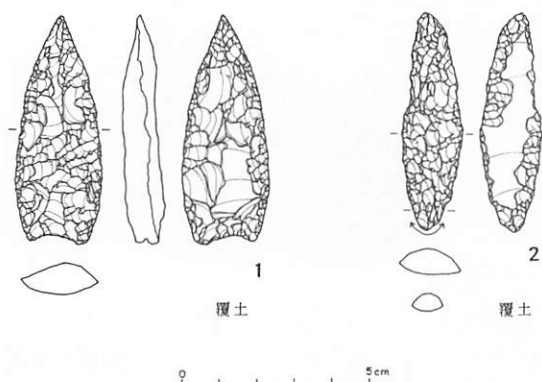


図III-361 T-22出土土器

T-22

土器(図III-361 図版211-11)

図示した土器片はすべて覆土から出土したI群D1類の口縁部破片である。1は貝殻条痕上に腹縁文を口唇部内外面に施文するもの、2は波頂部の頂点部分で、口唇端部と内面に腹縁文を、口唇部には3条の沈線文をめぐらし、波頂部下の口唇部には列点文を垂下させている。3・4は無文のものである(森)。



図III-362 T-22出土石器

石器(図III-362 図版211-10)

1は石鏃。完形だが、加工時に打角が高くなり、器厚を減らすための打角が得られなくなっている。2は石鏃。両端に機能部が作出され、片方は回転作業による摩耗痕が見られる。機能部の加工に先行して、打角の異なる加工が片面に施されており、他の器種から転用された可能性もある(宗像)。

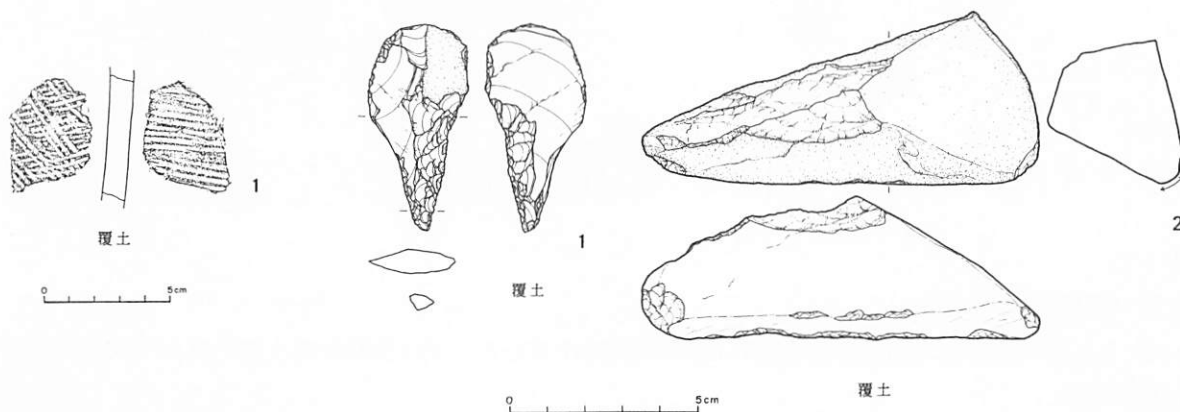
T-26

土器(図III-363 図版212-1)

1はI群D2類の体部破片。貝殻条痕文が襷状になるもので、H-163の図III-16-14と同一個体と見られる(森)。

石器(図III-363 図版212-2)

1は石鏃。折れ面を利用して機能部を作出する。2はすり石(宗像)。

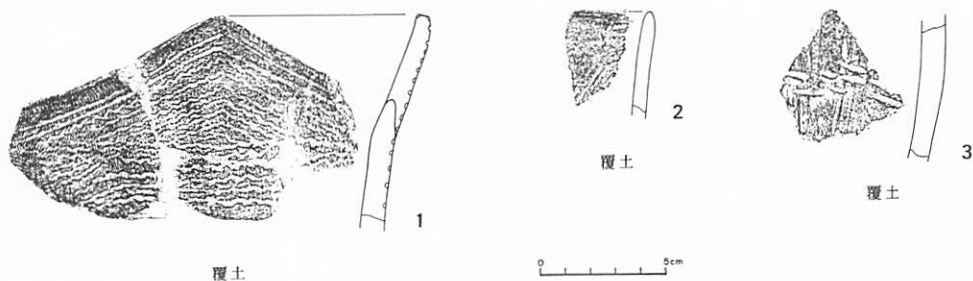


図III-363 T-26出土遺物

T-27

土器 (図Ⅲ-364 図版212-3)

いずれも覆土から出土したもので、1はI群D1類の波頂部の破片。外反する大波状の口縁形態をとるものと推定される。口唇部内外面には貝殻による細かく密な刻み目を、口唇部には2条の沈線をめぐらせている。その下には数本の鋸歯状沈線で、波頂部に対応するような三角形の文様を描いている。2は口唇部小破片。器厚は薄手で、ほとんど無文。3はI群D2類の口縁下部の破片とみられ、横位の刺突列と縦位の刺突がわずかに認められる(森)。

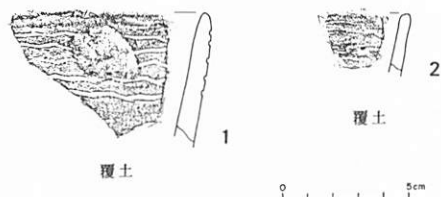


図Ⅲ-364 T-27出土土器

T-29

土器 (図Ⅲ-365 図版212-4)

1・2は覆土から出土した、I群D1類の口縁部破片である。1は表面が一部剥落しているが、口唇部に沈線文がめぐるものである。2は無文の小破片(森)。



図Ⅲ-365 T-29出土土器

T-30

土器 (図Ⅲ-366 図版212-5)

1・2は覆土から出土したI群D2類とみられる体部破片である。内外両面に貝殻条痕がある(森)。

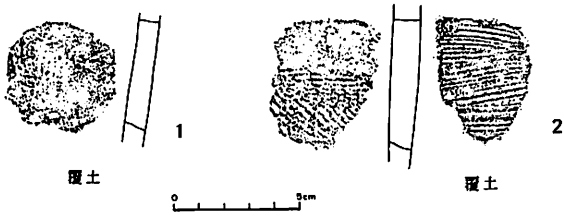


図Ⅲ-366 T-30出土土器

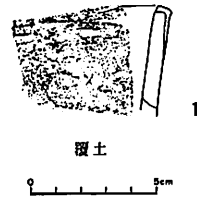
T-31

土器 (図Ⅲ-367 図版212-6)

1・2ともに覆土から出土したI群D1類の体部破片である。1は穿孔前の土製円盤の未成品かもしれない(森)。



図Ⅲ-367 T-31出土土器



図Ⅲ-368  
T-32出土土器

T-32

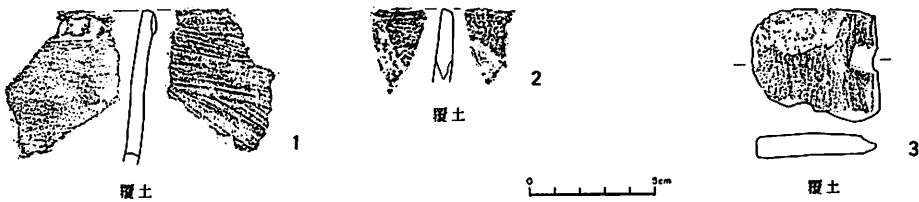
土器 (図Ⅲ-368 図版212-7)

1は覆土から出土したⅠ群D1類、無文の口縁部破片である(森)。

T-34

土器 (図Ⅲ-369 図版212-8)

1・2は覆土から出土したⅠ群D1類口縁部破片で、1は口唇端部に摘みあげによる爪形文とその下に腹縁文が、2には口唇部内外両面に腹縁文が認められる(森)。



図Ⅲ-369 T-34出土土器

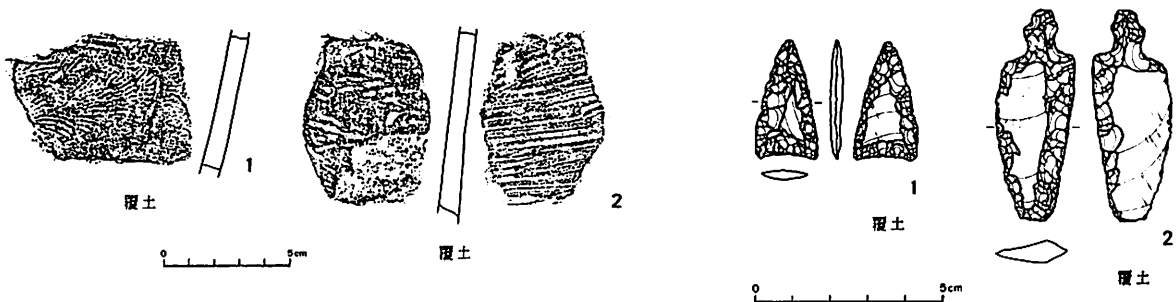
T-36

土器 (図Ⅲ-370 図版212-9)

1・2ともに覆土から出土したⅠ群D1類の体部破片である。1は口縁下部の部位とみられ、貝背面圧痕が認められる。2は内外両面に条痕がある(森)。

石器 (図Ⅲ-370 図版212-10)

1は石鏃。2は石匙。背面右側縁は腹面の加工が先行する。縁部は摩耗している(宗像)。



図Ⅲ-370 T-36出土遺物

T-37

土器 (図Ⅲ-371 図版212-11)

1はI群D2類の体部破片。内外両面に条痕があり、胎土には繊維を含んでいる(森)。

T-38

土器 (図Ⅲ-372 図版212-12)

1は覆土から出土したI群D1類の体部破片である(森)。

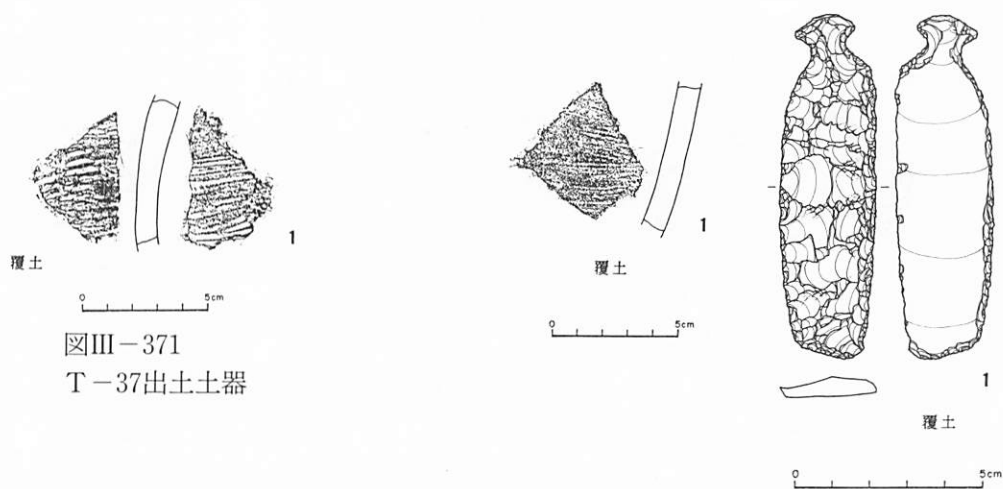
石器 (図Ⅲ-372 図版212-13)

1は石匙。早期末～前期初頭に見られる、背面の片縁に調整が加えられる(宗像)。

T-41

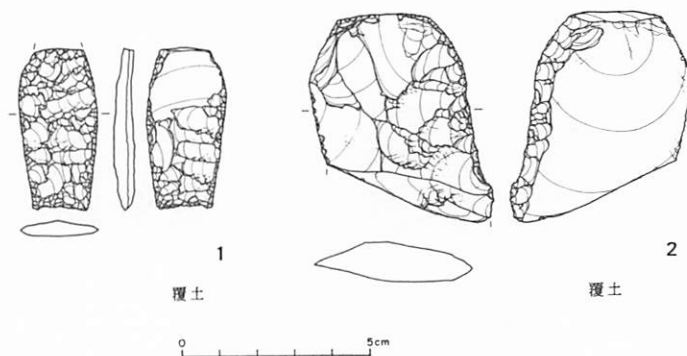
石器 (図Ⅲ-373 図版212-14)

1は石鏃。先端を欠くが、本来は五角形鏃と思われる。2は筥状石器。腹面の加工に先行して腹面の片縁に高角度の調整が加えられる(宗像)。



図Ⅲ-371  
T-37出土土器

図Ⅲ-372 T-38出土遺物



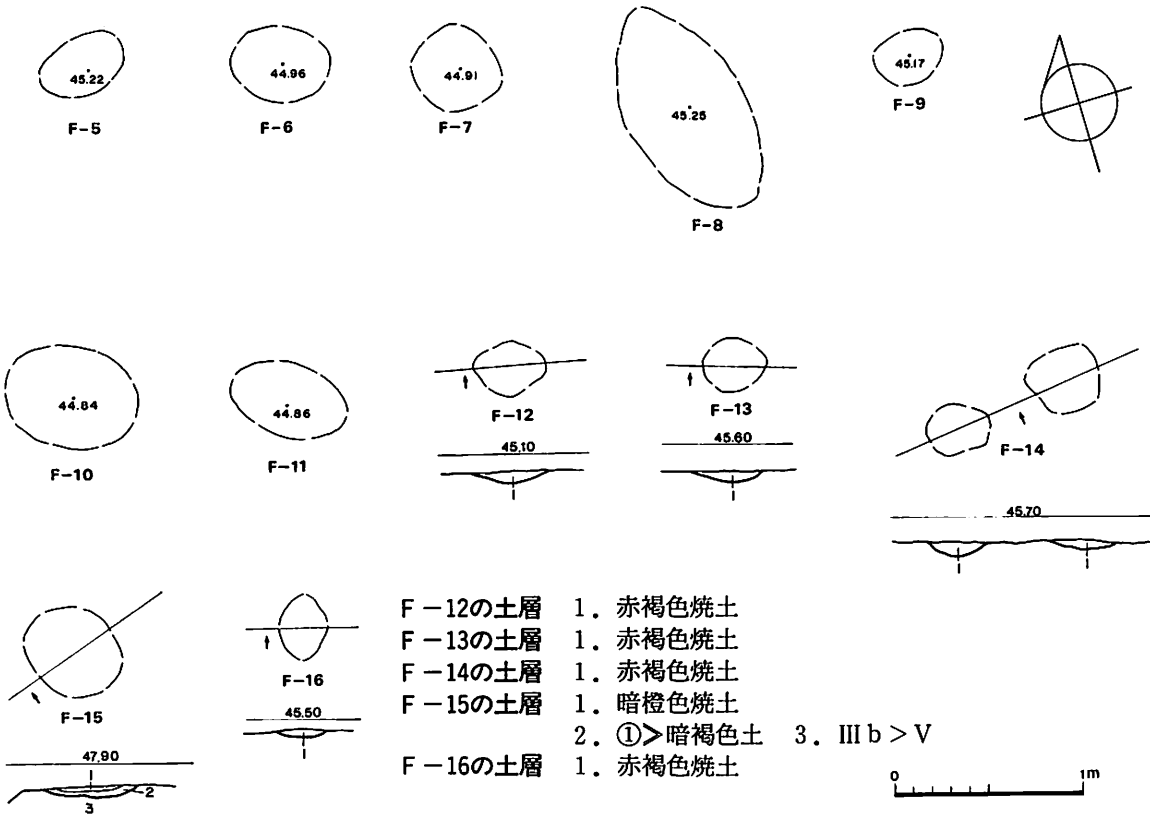
図Ⅲ-373 T-41出土石器

4 焼 土 (図Ⅲ-374)

焼土は12ヵ所検出されている。F-15は調査区の北端部標高47.78m付近のH-302覆土中で検出された。他は南側の川沿い、標高44.60m～45.60mの段丘縁辺に分布している。これらはⅢb層下層中や遺構の覆土中で検出されたもので、明瞭な掘り込みは認められなかった。原位置を保っているようであるが、長期間使用した屋外炉とは言えない。一時的、臨時的に使用されたものと思われる。検出面やF-14の焼土上から出土した土器などから判断すると、使用された時期は縄文時代早期中葉のものと思われる。なお焼土の位置、規模、平面形、検出面などについては表化し、表Ⅲ-1に示している。

表Ⅲ-1 焼土の規模等一覧

遺構番号	位 置	長径(m)×短径(m)×層厚(m)	平 面 形	長軸方向	色 調	検 出 面	標 高(m)
下-5	40-45	0.45×0.30×0.05	楕円形状	N-76°-E	暗橙色	H-188の覆土直上	45.22
6	39-45	0.52×0.38×—	〃	N-64°-W	〃	H-187の覆土中(覆土3層上面)	44.96
7	38-46	0.50×0.40×0.08	台形状	N-S	〃	Ⅲb層下層付近	44.91
8	40-46	1.20×0.60× $\begin{smallmatrix} 0.01 \\ \sim 0.02 \end{smallmatrix}$	楕円形状	〃	明橙色	H-188の覆土中(壁際)	45.26
9	40-46	0.36×0.30×0.05	不整楕円形状	W-E	暗橙色	H-164の覆土直上	45.17
10	37-43	0.70×0.52×—	楕円形状	N-59°-W	〃	Ⅲb層下層中	44.84
11	37-42・43	0.60×0.36×—	〃	N-51°-W	〃	〃	44.86
12	38-49	0.39×0.28×0.06	丸味のある菱形	N-75°-W	赤褐色	〃	45.00
13	40-51	0.36×0.29×0.05	楕円形	〃	〃	〃	45.46
14	42-54	$\begin{smallmatrix} 0.34 \times 0.26 \times 0.08 \\ 0.36 \times 0.34 \times 0.05 \end{smallmatrix}$	不整形	N-65°-W	〃	〃	45.57
15	54-65	0.50×0.46×0.06	長円形状	N-17°-W	暗橙色	H-302の覆土直上	47.78
16	40-52	0.35×0.26×0.04	丸味のある菱形	N-20°-E	赤褐色	〃	45.44



図Ⅲ-374 焼土実測図

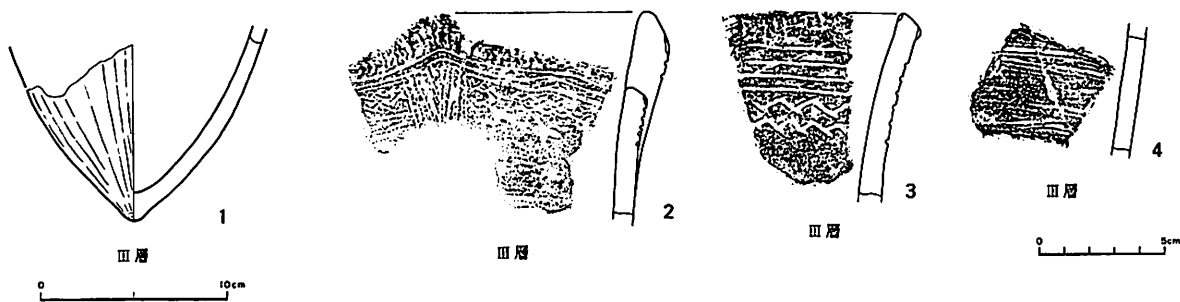
F-14

土器 (図Ⅲ-375 図版213-1)

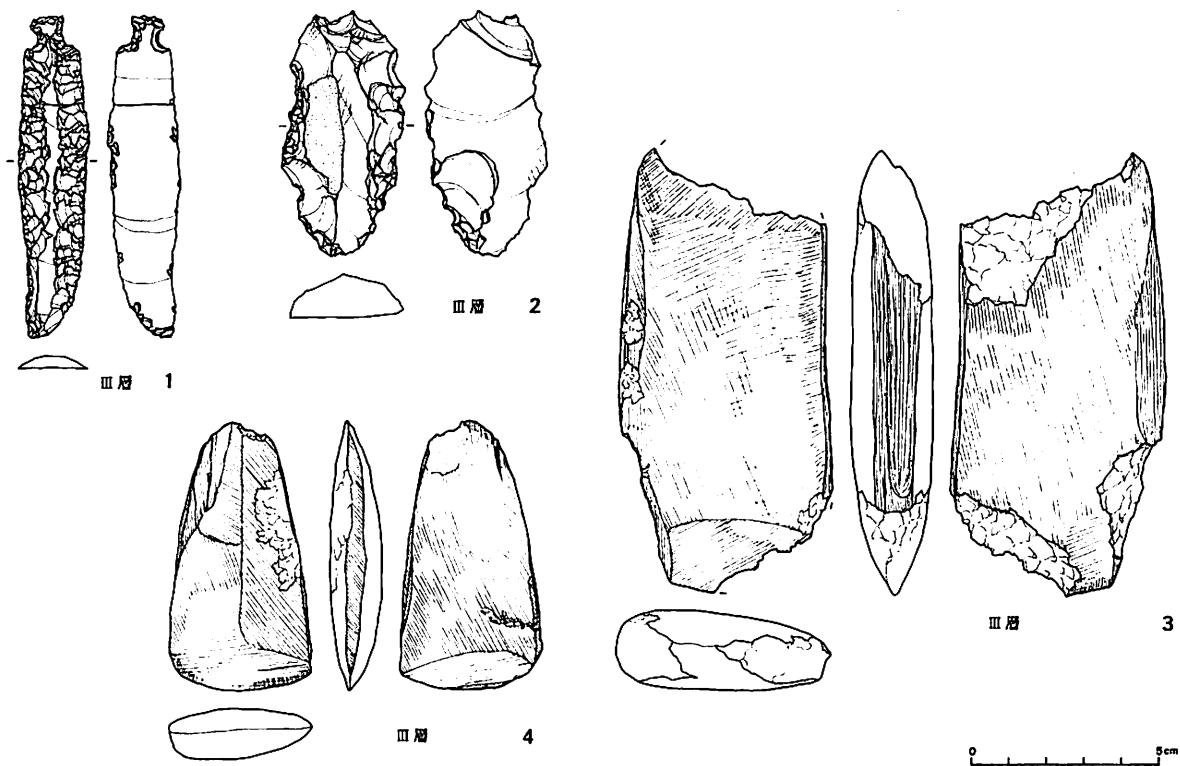
図示した土器はすべてⅠ群D1類である。1は乳房状突起のある尖底部で、縦位の調整痕が認められる。2・3は口唇部に貝殻腹縁による刻み目と、その下に平行沈線と鋸歯状の沈線が施文される口縁部破片。4は条痕のある体部破片である(森)。

石器 (図Ⅲ-376 図版213-2)

1は石匙。素材打面を残す。2はスクレイパー。刃部は鋸歯状を呈する。3・4は石斧。3は、図右の、刃部右端の破損面が研磨を受ける(宗像)。



図Ⅲ-375 F-14出土土器



図Ⅲ-376 F-14出土石器

（財）北海道埋蔵文化財センター調査報告書 第108集

函館市

**中 野 B 遺 跡(II)**

－函館空港拡張工事用地内埋蔵文化財発掘調査報告書－

第1分冊

I 調査の概要

II 遺跡の位置と環境

III 遺構と遺構出土の遺物  
(平成5年度北調査区)

平成8年10月31日発行

編 集 財団法人 北海道埋蔵文化財センター

〒064 札幌市中央区南26条西11丁目

☎011 (561) 3131

印 刷 岩橋印刷㈱

〒063 札幌市西区西町南18丁目1番34号